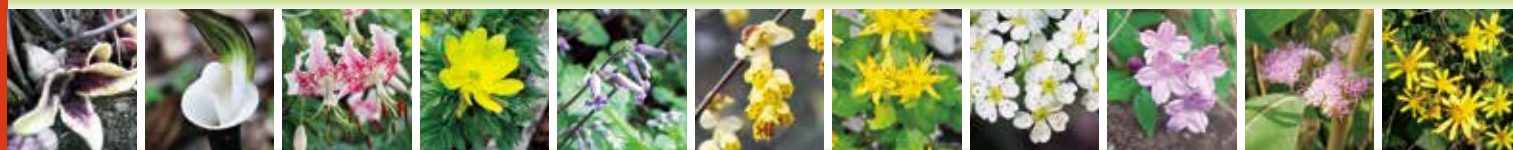


高知県レッドデータブック 2022

植物編



高知県注目種ガイド 2022 植物編



高 知 県

高知県レッドデータブック 2022

植物編



高知県注目種ガイド 2022 植物編



高 知 県

RED DATA BOOK

高知県レッドデータブック 2022 植物編

発刊にあたって

高知県は、県土の84パーセントを森林が占める森林率日本一の森林県であり、雄大な山々や、四万十川、仁淀川、物部川に代表される清流、黒潮躍る太平洋など豊かな自然に恵まれ、多くの野生の動植物が生息・生育し、多種多様な生態系を育んでいます。

しかしながら、これまで私たちが行ってきた開発行為の影響に加え、過疎化や高齢化に伴う里地里山の荒廃、侵略的外来種の増加や地球温暖化による気候変動など、本県の自然環境を取り巻く様々な要因も変化してきています。そうした中で、多くの野生動植物が絶滅の危機に直面し、生態系への影響が懸念されています。

生物の多様性が失われることは、自然と共生する私たちの生活の基盤を失うことにもつながります。貴重な財産である高知県の豊かな自然を私たちの暮らしと調和を図りながら次世代につなぎ、生物多様性を保全していくことは、私たちに課せられた責務です。

このため、県では、平成26年3月に策定した「ふるさとのいのちをつなぐこうちプラン～生物多様性こうち戦略～」をその後の変化に対応した内容とするとともに、新たな目標値を設定して平成31年3月に改訂しました。この「生物多様性こうち戦略(改訂版)」に掲げた目標達成に向けて、県民の皆さま、NPOや事業者、教育機関などと協働して、生物多様性の保全及び生態系の多様性をはじめとする、生物多様性の構成要素の持続可能な利用に関する取り組みを進めています。

こうしたなか、発刊から長い年月が経過した「高知県レッドデータブック〔植物編〕」(平成12年2月発刊)について、その内容を環境の変化に応じて見直し、希少野生動植物の保護を推進するため、平成28年度に高知県レッドデータブック(植物編)改訂委員会を設置し、改訂作業に着手しました。その後、委員会での検討を経て、令和2年3月に「高知県レッドリスト(植物編)2020年改訂版」を先行して公表し、その後の新たな知見を加えながら、今回「高知県レッドデータブック2022植物編」として取りまとめました。

本書が、各種事業における生物多様性の保全の基礎資料として活用され、県民の皆さまが野生動植物や環境への理解を深めていただくきっかけになれば幸いです。

最後になりましたが、高知県レッドデータブック(植物編)改訂委員会の皆さま、また調査にご協力いただいた調査員の皆さま、本書の刊行にあたりご協力・ご指導をいただきました関係者の皆さまに心よりお礼を申し上げます。

令和4年3月

高知県知事

濱田省司





EN 2 **オオバシナミズニラ** 撮影：(公財)高知県牧野記念財団 (2015)



CR 4 **オニクラマゴケ** 撮影：鴻上泰 (2005)



CR 6 **エソフユノハナワラビ** 撮影：宇賀裕生 (2017)



NT 2 **ヒロハハナヤスリ** 撮影：松本満夫 (2007)



CR 10 **リュウキュウコケシノブ** 撮影：鴻上泰 (2019)



NT 3 **リュウビンタイ** 撮影：稲垣典年 (2018)



CR 12 **デンジソウ** 撮影：(公財)高知県牧野記念財団 (2019)



CR 13 **ヘゴ** 撮影：鴻上泰 (2011)



VU 2 **クサマルハチ** 撮影：稲垣典年 (2016)



EN 5 **ウチワホングウシダ** 撮影：佐治まゆみ (2018)



EN 6 **クジャクシダ** 撮影：鴻上泰 (2015)



VU 5 **ハチジョウシダ** 撮影：高家和彦 (2018)



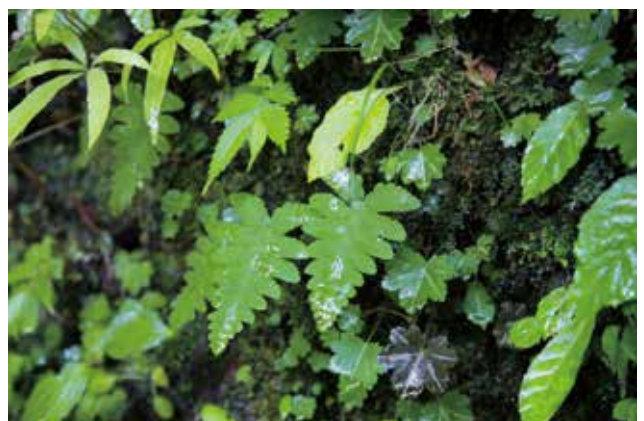
CR 17 **ユノミネシダ** 撮影：黒岩宣仁 (2017)



CR 19 **ヒメムカゴシダ** 撮影：鴻上泰 (2011)



CR 22 **ウスヒメワラビモドキ** 撮影：(公財)高知県牧野記念財団 (2019)



EN 9 **エビラシダ** 撮影：高家和彦 (2016)



VU 9 クロガネシダ 撮影：(公財)高知県牧野記念財団(2016)



CR 24 カミガモシダ 撮影：(公財)高知県牧野記念財団(2017)



VU 10 イチョウシダ 撮影：鴻上泰(2018)



VU 12 テバコワラビ 撮影：楠瀬雄三(2017)



CR 29 サカバサトメシダ 撮影：(公財)高知県牧野記念財団(2020)



EN 13 サカバイヌワラビ 撮影：楠瀬雄三(2017)



CR 31 シマイヌワラビ 撮影：黒岩宣仁(2017)



EN 17 ヒメノコギリシダ 撮影：江口秋美(2018)



CR 38 **オオハシゴシダ** 撮影：(公財)高知県牧野記念財団(2020)



VU 18 **トサノミゾシダモドキ** 撮影：鴻上泰(2015)



EN 18 **ヒメミゾシダ** 撮影：(公財)高知県牧野記念財団(2020)



EN 19 **テツホシダ** 撮影：江口秋美(2020)



CR 46 **ヨゴレイタチシダ** 撮影：江口秋美(2020)



EN 23 **タニヘゴ** 撮影：(公財)高知県牧野記念財団(2011)



CR 47 **マルバヌカイトチシダモドキ** 撮影：鴻上泰(2015)



CR 52 シコクシラベ 撮影：(公財)高知県牧野記念財団(2020)



VU 32 トガサワラ 撮影：酒井敦(2017)



CR 53 ベニオグラコウホネ 撮影：藤井聖子(2018)



EN 30 サダソウ 撮影：(公財)高知県牧野記念財団(2019)



VU 40 ホシザキカンアオイ 撮影：(公財)高知県牧野記念財団(2019)



CR 56 スナヅル 撮影：(公財)高知県牧野記念財団(2016)



VU 42 クワズイモ 撮影：浅川幸子(2012)



VU 43 マイヅルテンナンショウ 撮影：山崎憲男(2021)



CR 58 イシツチテンナンショウ 撮影：鴻上泰 (2019)



EN 32 オモゴウテンナンショウ 撮影：鴻上泰 (2014)



VU 44 シコクテンナンショウ 撮影：山中直秋 (2019)



EN 34 ウラシマソウ 撮影：浅川幸子 (2012)



EN 36 オオウミヒルモ 撮影：岩瀬文人 (2019)



EN 37 ヤマトウミヒルモ 撮影：山ノ内崇志 (2018)



CR 62 ムサシモ 撮影：山ノ内崇志 (2016)



VU 48 シバナ 撮影：(公財)高知県牧野記念財団 (2011)



CR 65 オヒルムシロ 撮影：山ノ内崇志 (2011)



CR 66 ヒロハノエビモ 撮影：山ノ内崇志 (2010)



VU 50 リュウノヒゲモ (水中のパッチ状の植物) 撮影：山ノ内崇志 (2016)



EN 43 キリシマシャクジョウ 撮影：(公財)高知県牧野記念財団 (2015)



CR 67 タカクマソウ 撮影：(公財)高知県牧野記念財団 (2018)



CR 69 タチシオデ 撮影：鴻上泰 (2020)



VU 53 トサコバイモ 撮影：(公財)高知県牧野記念財団(2013)



CR 71 キバナノアマナ 撮影：(公財)高知県牧野記念財団(2020)



EN 48 ジョウロウホトトギス 撮影：鴻上泰(2018)



VU 56 キンラン 撮影：松本忠博(2018)



EN 52 マヤラン 撮影：竹内久宜(2016)



CR 83 コアツモリソウ 撮影：(公財)高知県牧野記念財団(2011)



CR 85 イチヨウラン 撮影：鴻上泰(2018)



CR 86 **コイチヨウラン** 撮影：浅岡賢一 (2016)



EN 54 **タシロラン** 撮影：(公財)高知県牧野記念財団 (2017)



EN 57 **ミズトンボ** 撮影：横山美穂 (2019)



CR 89 **イモネヤガラ** 撮影：江口秋美 (2020)



EN 59 **ホクリクムヨウラン** 撮影：江口秋美 (2007)



CR 99 **ムロトムヨウラン** 撮影：竹内久宜 (2010)



CR 100 **ギボウシラン** 撮影：(公財)高知県牧野記念財団 (2014)



CR 101 **アキタスズムシソウ** 撮影：竹内久宣 (2007)



CR 103 **シテックモキリ** 撮影：(公財) 高知県牧野記念財団 (2015)



EN 62 **ヒメフタバラン** 撮影：佐田博子 (2021)



NT 27 **ムカゴサイシン** 撮影：(公財) 高知県牧野記念財団 (2014)



CR 109 **オオバヨウラクラン** 撮影：藤岡ユカ (2017)



VU 61 **ヤクシマヒメアリドオシラン** 撮影：鴻上泰 (2013)



CR 110 **ダケトンボ** 撮影：(公財)高知県牧野記念財団 (2015)



CR 114 **ハシナガヤマサギソウ** 撮影：横山美穂 (2018)



VU 62 **コオロギラン** 撮影：(公財)高知県牧野記念財団 (2018)



CR 123 **キヌラン** 撮影：鴻上泰 (2020)



CR 121 **キバナショウキラン** 撮影：依光忠宏 (2006)



EN 74 **ユウスゲ** 撮影：大野美香 (2021)



EN 75 **ヒメニラ** 撮影：中平勝也 (2010)



CR 125 サイコクイワギボウシ 撮影：藤井聖子 (2018)



VU 67 ヒロウ 撮影：(公財)高知県牧野記念財団 (2018)



VU 69 オオミクリ 撮影：池田十三生 (2018)



EN 79 ヤマトミクリ 撮影：佐田博子 (2018)



CR 131 ウキヤガラ 撮影：佐田博子 (2018)



EN 86 ワンドスゲ 撮影：坂本彰 (2018)



CR 133 ウマスゲ 撮影：坂本彰 (2018)



VU 80 トサノハマスゲ 撮影：坂本彰 (2016)



CR 141 スジヌマハリイ 撮影：坂本彰 (2018)



NT 35 チャボイ 撮影：山ノ内崇志 (2017)



CR 143 ハタケテンツキ 撮影：坂本彰 (2020)



EN 98 ノテンツキ 撮影：坂本彰 (2017)



CR 142 ノハラテンツキ 撮影：坂本彰 (2017)



CR 144 クロタマガヤツリ 撮影：鴻上泰 (2015)



EN 102 マツカサススキ 撮影：坂本彰 (2019)



EN 104 ミズタカモジグサ
撮影：(公財)高知県牧野記念財団 (2018)



CR 151 タキキビ 撮影：坂本彰 (2016)



CR 152 ホソバヤマブキソウ 撮影：中平勝也 (2017)



VU 93 ルイヨウボタン 撮影：中平勝也 (2017)



CR 154 シオミイカリソウ 撮影：(公財)高知県牧野記念財団 (2020)



NT 48 バイカイカリソウ 撮影：高橋真起 (2017)



EN 109 サンヨウブシ 撮影：押岡茂紀 (2015)



NT 51 ヒメイチゲ 撮影：(公財)高知県牧野記念財団(2020)



EN 111 シコクハンショウヅル 撮影：鴻上泰(2019)



EN 110 ヤマハンショウヅル 撮影：竹内清治(2011)



VU 96 シコクバイカオウレン 撮影：坂本彰(2016)



CR 155 ミスミソウ 撮影：廣岡エリカ(2021)



CR 157 コゴメカラマツ 撮影：鴻上泰(2011)



VU 98 タマカラマツ 撮影：押岡茂紀(2014)



VU 100 **キリシマミズキ** 撮影：中平勝也 (2017)



EN 116 **マルバノキ** 撮影：宮本恵子 (2021)



EN 120 **トサノチャルメルソウ** 撮影：鴻上泰 (2012)



CR 163 **マキエハギ** 撮影：鴻上泰 (2017)



CR 165 **シバネム** 撮影：(公財)高知県牧野記念財団 (2010)



CR 167 **スナジマメ** 撮影：依光忠宏 (撮影年不詳)



VU 106 **ヒナノキンチャク** 撮影：榎弘實 (2017)



CR 168 オオヤマザクラ 撮影：鴻上泰 (2016)



VU 110 イシツチザクラ 撮影：宇田英一 (2016)



CR 169 オオウラジロノキ 撮影：(公財)高知県牧野記念財団 (2020)



CR 170 ミツモトソウ 撮影：(公財)高知県牧野記念財団 (2020)



CR 171 ゴシヨイチゴ 撮影：比嘉基紀 (2017)



CR 174 クマヤマグミ 撮影：鴻上泰 (2010)



NT 61 ヨコグラノキ 撮影：(公財)高知県牧野記念財団 (2010)



CR 176 ネコノチチ 撮影：宇田英一 (2018)



CR 177 **クロイゲ** 撮影：(公財)高知県牧野記念財団 (2009)



EN 136 **オヒヨウ** 撮影：鴻上泰 (2017)



EN 137 **コバノチョウセンエノキ** 撮影：(公財)高知県牧野記念財団 (2018)



CR 179 **カツガユ** 撮影：江口秋美 (2007)



EN 139 **イワガネ** 撮影：(公財)高知県牧野記念財団 (2020)



EN 141 **ハナガガシ** 撮影：中平勝也 (2018)



CR 181 **オオカラスウリ** 撮影：木村宏 (2015)



CR 182 **トサトギリ** 撮影：鴻上泰 (1980)



EN 148 ヒゴスミレ 撮影：細川公子(2014)



CR 184 サクラスミレ 撮影：細川公子(2014)



VU 119 ミヤマスミレ 撮影：細川公子(2014)



VU 120 ヒナスミレ 撮影：細川公子(2014)



CR 187 タカトウダイ 撮影：鴻上泰(2020)



VU 121 ヒメフウロ 撮影：(公財)高知県牧野記念財団(2020)



VU 124 トダイアカバナ 撮影：(公財)高知県牧野記念財団(2020)



VU 125 ヒメノボタン 撮影：矢野啓介 (2018)



EN 154 ハマボウ 撮影：坂本彰 (2017)



VU 127 チョウセンナニワズ 撮影：中平勝也 (2017)



CR 190 タチスズシロソウ 撮影：(公財)高知県牧野記念財団 (2015)



VU 130 スズシロソウ 撮影：中平勝也 (2017)



VU 132 コイヌガラシ 撮影：竹内久宜 (2017)



VU 133 キレツチトリモチ 撮影：伴ノ内珠喜 (2018)



CR 193 マダイオウ 撮影：(公財)高知県牧野記念財団(2012)



EN 160 ニセコガネギシギシ 撮影：(公財)高知県牧野記念財団(2019)



EN 161 テバコマンテマ 撮影：(公財)高知県牧野記念財団(2019)



VU 142 ハマツナ 撮影：坂本彰(2017)



VU 145 ヒロハノミズバイ 撮影：(公財)高知県牧野記念財団(2019)



VU 144 イワザクラ 撮影：鴻上泰(2013)



EN 165 シャクジョウソウ 撮影：中平勝也 (2011)



CR 197 サクラツツジ 撮影：藤井聖子 (2017)



CR 196 ツガザクラ 撮影：山中直秋 (2020)



EN 167 ヤッコソウ 撮影：浅川幸子 (2020)



VU 154 イヌセンブリ 撮影：横山美穂 (2018)



CR 200 アオカモメヅル 撮影：(公財)高知県牧野記念財団 (2018)



NT74 スズサイコ 撮影：大野美香 (2021)



VU 156 **イシダテクサタチバナ** 撮影：(公財)高知県牧野記念財団 (2010)



VU 157 **タチカモメヅル** 撮影：(公財)高知県牧野記念財団 (2010)



VU 159 **ホタルカズラ** 撮影：川村恒介 (撮影年不詳)



CR 202 **ムラサキ** 撮影：中平勝也 (2010)



EN 177 **ハマネナシカズラ** 撮影：(公財)高知県牧野記念財団 (2019)



EN 179 **ゲンバイヒルガオ** 撮影：池田十三生 (2018)



EN 181 **ヤマホロシ** 撮影：(公財)高知県牧野記念財団 (2013)



EN 183 **シシラン** 撮影：藤井聖子 (2018)



CR 205 **カミガモソウ** 撮影：(公財)高知県牧野記念財団 (2018)



CR 206 **オオアブノメ** 撮影：福原宏 (2004)



CR 207 **ハマクワガタ** 撮影：関田泰子 (2018)



CR 209 **ヒメトラノオ** 撮影：鴻上泰 (2015)



VU 164 **イヌアフリ** 撮影：川村恒介 (撮影年不詳)



VU 166 **シソバウリクサ** 撮影：鴻上泰 (2011)



VU 167 **スズムシバナ** 撮影：(公財)高知県牧野記念財団(2018)



EN 184 **ムシノスミレ** 撮影：押岡茂紀(2017)



CR 211 **カワミドリ** 撮影：坂本彰(2010)



CR 214 **キセワタ** 撮影：坂本彰(2008)



NT 81 **ミソコウジュ** 撮影：山崎憲男(2017)



EN 186 **トサムラサキ** 撮影：(公財)高知県牧野記念財団(2015)



EN 187 **ヤマクルマバナ** 撮影：中平勝也(2019)



EN 188 **マネキグサ** 撮影：石川慎吾(2010)



NT 80 **ミズネコノ** 撮影：(公財)高知県牧野記念財団(2017)



CR 217 オカタツナミソウ 撮影：坂本彰 (2020)



EN 192 ホクリカタツナミソウ 撮影：坂本彰 (2020)



CR 219 ヤマタツナミソウ 撮影：竹内久宜 (2014)



VU 172 ゴマクサ 撮影：細川公子 (2017)



EN 194 ナヨナヨコゴメグサ 撮影：(公財)高知県牧野記念財団 (2015)



VU 173 ハマウツボ 撮影：竹内久宜 (2012)



VU 174 ツゲモチ 撮影：(公財)高知県牧野記念財団 (2018)



EN 201 キキョウ 撮影：(公財)高知県牧野記念財団 (2019)



CR 224 マルバテイショウソウ 撮影：鴻上泰 (2016)



CR 225 カワラハハコ 撮影：竹内清治 (2020)



VU 181 イワギク 撮影：鴻上泰 (2016)



CR 230 ヤナギアザミ 撮影：横山美穂 (2018)



EN 210 キダチハマグルマ 撮影：藤岡ユカ (2020)



VU 184 ヒメコウモリソウ 撮影：(公財)高知県牧野記念財団 (2011)



VU 186 **ホクチアザミ** 撮影：中平勝也（2015）



EN 214 **キシマヒゴタイ** 撮影：中平勝也（2010）



CR 234 **ミヤコアザミ** 撮影：坂本彰（2013）



NT 87 **ヒメヒゴタイ** 撮影：（公財）高知県牧野記念財団（2019）



CR 235 **ヤブレガサモドキ** 撮影：（公財）高知県牧野記念財団（2008）



CR 237 **オヤマボクチ** 撮影：鴻上泰（2018）



EN 219 ヤマザトタンポポ 撮影：坂本彰 (2014)



VU 190 クシバタンポポ 撮影：坂本彰 (2016)



EN 220 サワオグルマ 撮影：松本忠博 (2018)



VU 188 キビシロタンポポ 撮影：(公財)高知県牧野記念財団 (2019)



CR 238 ツクシタンポポ 撮影：坂本彰 (2015)



VU 191 ウラギク 撮影：(公財)高知県牧野記念財団 (2011)



CR 239 オニツクバネウツギ 撮影：竹内清治 (2020)



CR 240 タカネマツムシソウ 撮影：鴻上泰 (2013)



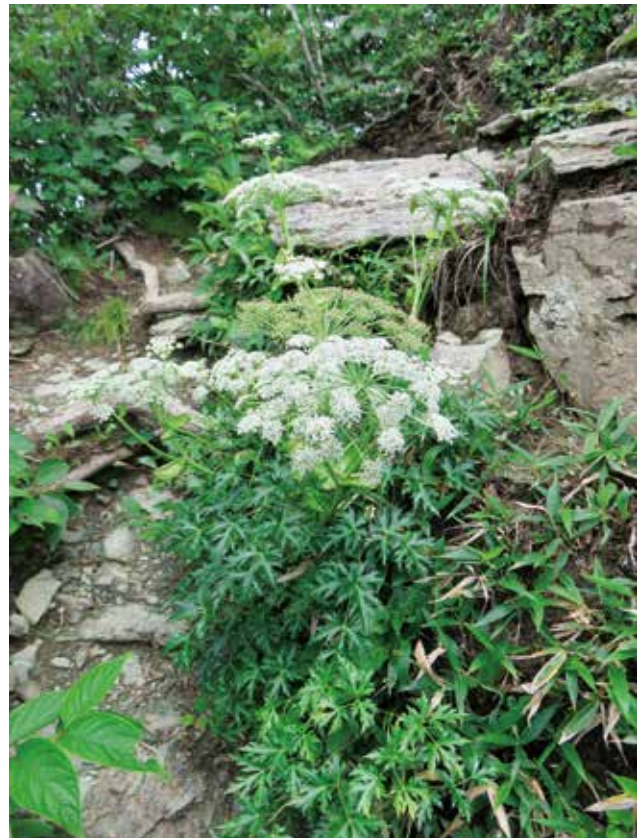
CR 241 マツムシソウ 撮影：比嘉基紀 (2020)



NT 90 イワツクバネウツギ 撮影：石川慎吾 (2014)



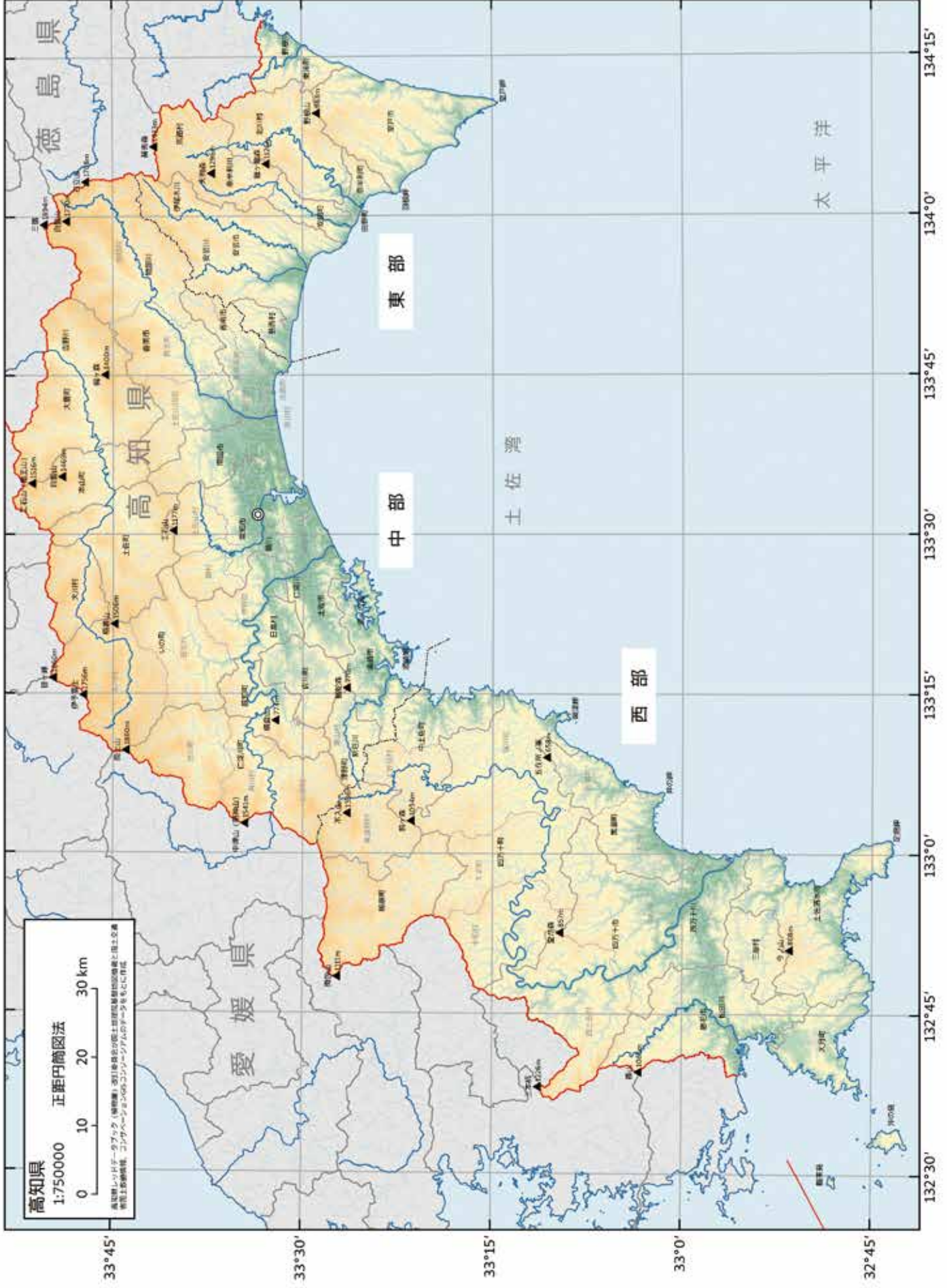
VU 198 ヒュウガセンキュウ 撮影：(公財)高知県牧野記念財団 (2018)



VU 199 イシツチボウフウ 撮影：浅岡賢一 (2019)



EN 228 ツルギハナウド 撮影：石川慎吾 (2009)



高知県

1:750000 正距円筒図法

0 10 20 30 km

本図は、国土院の「デジタル地形図」(地形図)を基に、国土院の「デジタル地形図」(地形図)を基に作成した。また、国土院の「デジタル地形図」(地形図)を基に作成した。また、国土院の「デジタル地形図」(地形図)を基に作成した。

東部

中部

西部

土佐湾

太平洋

徳島県

高知県

愛媛県

高知県レッドデータブック 2022植物編

目 次

レッドデータブック概説	1
1. 高知県レッドデータブック植物編改訂の背景	
1.1 背景	2
1.2 目的	2
2. 調査と評価の概要	
2.1 調査対象種について	
2.1.1 調査対象種選定基準	3
2.1.2 調査の優先順位	4
2.2 調査・検討体制	
2.2.1 体制	5
2.2.2 委員会による検討	6
3. カテゴリー定義と判定基準	7
4. 調査結果と危機の状況	
4.1 過去のレッドリスト, レッドデータブックとの比較	10
4.2 調査結果	10
4.3 危機の状況	11
4.4 情報の集積と高知県の植物の保全について	12
5. 各種の解説項目と内容	
5.1 構成	14
5.2 解説項目と内容	14
5.3 原稿の依頼と執筆について	14
選定種のリスト	15
選定種の解説	35
除外種のリストと除外理由	216
文献一覧	220
和名索引	222

RED DATA BOOK

レッドデータブック概説

1. 高知県レッドデータブック植物編改訂の背景

1.1 背景

高知県では、平成8（1996）年6月に植物版レッドデータブックの作成と保護施策の検討を目的とした「高知県野生植物保護対策検討委員会」を設置し、生育・分布調査、検討を経て、平成11（1999）年3月に「高知県版植物レッドリスト」を取りまとめ、平成12（2000）年2月に「高知県レッドデータブック〔植物編〕」を刊行した。その後、平成13（2001）年度から平成20（2008）年度にかけて高知県植物誌編纂事業が行われ、300余名の調査ボランティアの方々によって県内各地で10万点を超す標本が採集され、高知県の植物の分布状況が証拠となる標本とともに明らかとなった。レッドリストの第二次改訂では、植物誌編纂事業で集められた標本の情報と調査ボランティアや有識者への聞き取りによって掲載種の選定と評価が行われ、現地調査は実施しなかった。「レッドリスト（植物編）2010年改訂版」は、「高知県植物誌」発刊1年後の平成22（2010）年3月に公表された。

野生生物の生息・生育状況は常に変化しているため、レッドリスト・レッドデータブックにおける評価は、定期的に見直すことが不可欠である。県内の植物に関しては、年々新しい知見が蓄積し、分類学的研究の進捗による認識の変更も生じてきており、評価と生育状況や危機要因などの現状が合わなくなってきていた。第三次レッドリスト改訂に当たっては、平成29（2017）年から令和元（2019）年までの約2年半をかけて現地調査を実施し、その結果を受けて掲載種を検討、評価したのち、令和2（2020）年3月に「高知県レッドリスト（植物編）2020年改訂版」として公表した。本レッドデータブックは、第三次改訂レッドリストに掲載された種類および本レッドデータブック作成時に追加された4種類について、生育状況と危機要因などをとりまとめたものである。

高知県の植物調査は、各地域で長年継続して活動していただいている調査ボランティアに支えられている。しかし、近年では、植物についての知識が蓄積される一方でボランティアの高齢化が進行しつつあり、このまま何の対策も施さなければ将来のレッドリスト改訂時に評価に必要な情報が集まらないことが想定された。これは全国各地の多くの自治体も直面している問題である。絶滅危惧の評価には、過去と現在を比較したときの成熟個体数の変動、あるいは生育地点数の変動を把握しておく必要がある。そのためには各個人が経験的に持つ貴重な情報が消失してしまう前に、後世に引き継ぐ形にして集約し、整理しておくことが最大の課題であった。

1.2 目的

高知県は、黒潮の影響を受ける一方で標高1800mを越える四国山地が連なり、亜熱帯性から亜高山帯までの幅広い気候帯を有する。加えて、特異な地質や急峻で変化に富んだ地形も相まって多くの野生動植物が生息・生育し、さまざまな生態系の中で命を育んでいる。多くの生き物の関係によって作られる生態系は、私たちに自然の恵みをもたらす、暮らしを支えてくれている。しかし、近年、人間活動による自然環境の改変が急速に進行するとともに、中山間地の少子高齢化に伴う人間活動の縮小、外来種の増加、気候変動による気象災害の頻発が、多くの野生動植物の生存基盤を脅かしている。また、ニホンジカなどの野生動物の極端な増加が生態系のバランスを崩し、ほかの生物が絶滅する要因の一つになってきている。

絶滅危惧種は自然植生だけでなく、年月を経て成熟したスギ人工林や人が暮らし利用する里地里山にも生育している。高知県では中山間地から都市部への人口流出に歯止めがかからず、里地里山の荒廃が深刻な状況であり、古くから人とともに暮らしてきた生き物が絶滅の危機に追いやられている。開発や園芸採取は、既に数が少なくなってしまった種の減少に追い打ちをかけている。また、人が意図的、非意図的に持ち込んだ外来種は、近縁の在来種と交雑することで、将来にわたって消すことができない遺伝子レベルでの多様性の劣化を招いている。こうした状況を受け、動植物への保護対策を適切に推進していくためには、それぞれの種がおかれている状況を把握し、どのように変化しているかを見極めることが不可欠である。

レッドデータブックは、「高知県希少野生動植物保護条例」に基づく県指定希少野生動植物の選定、各種事業の計画作成時及び事業実施時において、守るべき種の保護・保全へ配慮するための基礎資料として、環境アセスメントなどに活用されることを目的としたものである。さらに、ふるさとの自然を知り、守るための指標としてこれを広く普及し、高知県の自然や絶滅のおそれのある野生植物の保存への理解を、多くの県民に深めていただくことを期待する。

2. 調査と評価の概要

2.1 調査対象種について

2.1.1 調査対象種選定基準

高知県に自生する維管束植物で、以下の条件に該当する種類を調査対象種とした。ただし、原則として栽培種、野生化した栽培種は除くこととした。

(1) 学術的条件

- ① 高知県植物誌調査で確認された種類及び高知県レッドリスト（植物編）2010年改訂版でEX, EW, CR, EN, VU, NT, DDに指定されている種類で、種、亜種または変種（分類学上亜種または変種に細分される場合は、原則として亜種、変種）を対象とする（例：変種のシコクトリアシヨウマ *Astilbe thunbergii* var. *shikokiana* と基本変種のアカシヨウマ *A. thunbergii* var. *thunbergii* は個別に扱う）。
- ② 品種及び雑種を除く。ただし、次の条件に当てはまるものは調査対象種とする。
 - a) 県内に品種に分類される分類群のみが分布しているもの（例：ホソバヤマブキソウ）。
 - b) 雑種については、次の条件に1つ以上当てはまるもの（例：クロガネシダモドキ、ヒメムカゴシダ）。
 - ア) 推定片親が絶滅危惧種である。
 - イ) 推定片親が日本から絶滅している。
- ③ 今後の分類学的研究が必要であると考えられる種類。
- ④ 植物誌調査以降の野外調査、標本調査で新たに確認された日本在来の高知県新産種。
- ⑤ 新種。

(2) 生物学的条件

- ① 近縁種との交雑が懸念される種類。
- ② 現在は減少していないが、外来種の侵入などによって少なくなることが予測される種類。
- ③ 生活史の一部または全部で特殊な環境条件を必要とする種類。
- ④ 県内の主な生育地が、石灰岩地、蛇紋岩地、湿地、湖沼、河川、水路、塩湿地、海、草地といった特殊な立地に限られる種類。
- ⑤ 生育立地が脆弱、あるいは環境条件が極めて限定される種類（例：着生、菌従属栄養の植物）。
- ⑥ 確認可能時期が極端に短い、あるいは生育環境の特殊性のため、確認が極めて困難である種類。
- ⑦ シカの被食、あるいは食害による環境条件の変化により減少のおそれのある種類。

(3) 分布域の条件

- ① 県内における生育地面積あるいは分布地点が極めて限定される種類。
- ② 過度の乱獲や採取、開発といった人為の影響によって、極端に少なくなるおそれがある種類。
- ③ かつては普通にみられたが、近年著しく減少している種類。
- ④ IUCN(国際自然保護連合)のVUのB基準^{*1}に基づき、県内(面積7,105km²)における高知県植物誌調査で判明している生育地点数(市町村数ではない)が10地点以下の種類。
- ⑤ 帰化、栽培、植栽の逸出でない種類。

(4) 個体数の条件

- ① IUCNのVUのD基準^{*2}に基づき、県内に生育する開花個体(雌雄異株の場合、雄性株は含まない)が少なくとも1,000個体未満であると推定される種類。

※1・・・出現範囲が20,000 km²未満もしくは生育地面積が2,000 km²未満であると推定され、また次のうち2つ以上の兆候がみられる場合。

- (i) 生育地が過度に分断されているか、10以下の地点でしか生育が確認されていない。
- (ii) 出現範囲、生育地面積、成熟個体数などについて、継続的な減少が予測される。
- (iii) 出現範囲、生育地面積、成熟個体数などに極度の減少がみられる。

※2・・・個体群が極めて小さく、成熟個体数が1,000未満と推定されるか、生育地面積あるいは分布地点が極めて限定されている場合。

2.1.2 調査の優先順位

調査対象種選定基準に従い、初回のレッドデータブック作成時にまとめられた情報に、新たに得られた情報を追加して調査対象種リストを作成した。追加した情報は、高知県立牧野植物園の標本庫(MBK)に所蔵され、かつデータベース化されていた標本情報、徳島県立博物館標本庫(TKPM)の高知県産の標本情報(未配架分は含まない)、東京都立大学牧野標本館(MAK)の標本情報(一部)、東北大学標本館(TUS)の標本情報(一部)、図鑑・論文などの知見である。

これらのデータを取りまとめたところ、条件を満たす情報は約2万件にものぼり、2年間では全ての地点で確認調査を行うことや情報そのものを全て精査することは不可能であると考えられた。そこで、絶滅危惧種及び準絶滅危惧種、新種、新産種を対象に、種類ごとに調査の優先順位をつけることにした。

次の条件、①直近の絶滅危惧評価(高知県 RL2010, 環境省 RDB2014)、②生活型による種の脆弱性、③生活環境の不安定度、④個体と集団の数、⑤加味すべき要因(環境に因らない事項)として採取圧とニホンジカの食害、について点数化し、種ごとに点数をつけた(表2.1)。基本的には点数の高い順で調査を行うこととしたが、調査員に配布するリストを大字程度の地域でまとめ、確認適期ごとにリストを作成することによって、点数の低い種類であっても同じ地域、時期に確認できるよう、調査の効率化を図った。

表2.1 調査優先順位点数表

① 直近の絶滅危惧評価

	高知県 RL2010	環境省 RDB2014
EX (再発見種)	20	—
CR	8	6
EN	6	4
VU	4	2
NT	1	1
新産・新種	20	

② 生活型による種の脆弱性

1	地上生の木本・低木
2	地上生の多年生草本, 常緑のシダ植物
3	地上生の多年生季節性シダ植物, 水生の木本・低木, 寄生生の木本・低木
4	地上生の一回繁殖生の多年生草本, 地上生の一年生草本, 水生の多年生草本, 菌従属栄養の多年生草本, 寄生生の多年生草本
5	水生の一年生草本, 菌従属栄養の一年生草本, 寄生生の一年生草本

③ 生育環境の不安定度

1	高標高域の森林, 崖地, 無人の離島など
2	低標高域の山地の常緑樹林の林内, 林縁
3	二次林, 人工林, 竹林の林内, 林縁
4	水田, 法面(農地, 山地)
5	水湿地, 海岸, 草地, 開放地

④ 個体と集団の数

1	地域は限られるが, 集団に含まれる個体数が非常に多い(100以上), 面積が広い
2	点々とある: 一地域あたりの個体数が50~100
3	点々とある: 一地域あたりの個体数が10~50
4	点々とある: 一地域あたりの個体数が10未満
5	1か所のみ(個体数の多少は考慮しない)

⑤ 加味すべき要因(環境に因らない事項)

採取圧

1	中
3	大
5	特大

ニホンジカの食害

1	シカ食害のある地域に生育する(影響は不明)
3	シカの食害を受けないが, 環境の変化で影響を受ける
5	食害される

2.2 調査・検討体制

2.2.1 体制

改訂に当たっては、平成28(2016)年度に「高知県レッドデータブック(植物編)改訂委員会(以下「委員会」という)」（事務局：高知県立牧野植物園）を設置した。委員は、野生植物について専門的知識を有する者の中から、平成28年9月6日に知事が委嘱した。また、維管束植物についてはDNAの塩基配列による系統解析によって分類大系が大きく変わり、同定が難しい分類群もあるため、アドバイザーを委嘱して必要な助言や協力をいただくこととした。

高知県レッドデータブック(植物編)改訂委員会(敬称略 50音順)

石川 慎吾(委員長)	国立大学法人高知大学 名誉教授
鴻上 泰(副委員長)	土佐植物研究会 会長
坂本 彰	高知県自然観察指導員連絡会 代表世話人
比嘉 基紀(平成30(2018)年11月委嘱)	国立大学法人高知大学教育研究部自然科学系理工学部 講師
細川 公子	土佐植物研究会 副会長
前田 綾子	公益財団法人高知県牧野記念財団 研究員

高知県レッドデータブック(植物編)アドバイザー(敬称略 50音順)

茨木 靖	徳島県立博物館 学芸員
海老原 淳	独立行政法人国立科学博物館植物研究部 研究主幹
矢野 興一	岡山理科大学生物地球学部生物地球学科 講師
米倉 浩司	一般財団法人沖縄美ら島財団総合研究センター 研究員

調査員(敬称略 50音順)

浅岡 賢一, 浅川 幸子, 池田 十三生, 石川 慎吾, 稲垣 典年, 岩瀬 文人, 魚澤 伊佐子, 宇賀 裕生, 宇田 英一, 江口 秋美, 榎 弘實, 大野 清志, 大野 美香, 押岡 茂紀, 川村 恒介, 木村 宏, 楠瀬 雄三, 黒岩 宣仁, 鴻上 泰, 酒井 恵子, 酒井 泰一, 坂本 彰, 佐治 まゆみ, 佐田 博子, 瀬尾 明弘, 関田 泰子, 高家 和彦, 高橋 眞起, 竹内 清治, 竹内 久宜, 武田 茂男, 田城 松幸, 田城 光子, 田邊 由紀, 寺峰 孜, 中平 勝也, 中平 謙一, 成田 愛治, 橋本 季正, 伴ノ内 珠喜, 比嘉 基紀, 兵頭 正治, 福原 宏, 藤井 聖子, 藤岡 ユカ, 藤川 和美, 藤森 祥平, 細川 公子, 前田 綾子, 松本 忠博, 松本 満夫, 宮本 恵子, 森 幸子, 矢野 愛子, 矢野 啓介, 矢部 幸太, 山崎 憲男, 山中 直秋, 山ノ内 崇志, 横山 美穂, 依光 忠宏

調査協力者及び団体(敬称略 50音順)

青木 佳子, 秋山 裕美, 新城 颯太, 安藤 暁子, 池内 由美子, 井鷲 裕司, 市川 寿賀子, 市村 聖子, 伊東 拓朗, 猪野 修, 猪野 律, 岩崎 朝生, 海地 勲, 梅本 巴菜, 海老川 綾香, 海老原 淳, 大石 泰資, 大石 真紀, 奥宮 鈴子, 大崎 豊明, 大崎 益子, 大下 宗亮, 太田 啓祐, 大平 豊, 大川 卓海, 小笠原 彰子, 岡村 志保, 岡本 明久, 貝川 陽一, 片岡 奈々, 川越 佳太, 川島 尚子, 川田 規美代, 川村 近子, 北川 誠純, 北添 理恵, 久保 慶子, 倉口 雅子, 栗原 妙子, 黒瀬 修平, 幸田 将平, 小松 冨, 酒井 敦, 坂本 正彬, 阪本 匡祥, 笹岡 宗生, 佐々木 英男, 佐々木 康子, 佐藤 功, 澤近 安紀, 重光 通子, 下村 憲一郎, 下村 公水, 白土 晃一, 新谷 直子, 瀬戸 美文, 芹沢 俊介, 高井 幹夫, 高野 恵子, 高野 健一郎, 高橋 敏朗, 高橋 裕子, 田辺 猛, 田邊 博朗, 谷 サダ子, 谷 種子, 谷本 隆司, 谷吉 萌, 田村 満香, 恒石 真帆, 手嶋 美聡, 土居 秀朗, 中川 洋光, 長嶋 麻美, 中島 大, 中田 麻祐子, 中野 善廣, 中町 小以登, 中山 健, 西河 誠司, 西峯 弘子, 野崎 誠, 萩野 鈴子, 萩野 善久, 橋詰 辰男, 橋本 美代, 長谷川 匡弘, 濱吉 八重, 濱田 妙子, 濱田 紀子, 林 鈴以, 原田 竜輔, 稗田 真也, 久武 美由紀, 平島 雄大, 平山 貴久, 廣岡 エリカ, 弘田 真哉, 藤岡 鶴子, 藤岡 俊文, 藤田 淳一, 藤田 孝子, 藤田 保志, 古沢 政光, 別役 光重, Ben Jones, 細川 敏水, 堀内 和美, 堀 清鷹, 堀口 賢三, 前田 賢次, 正木 千也, 松野 倫代, 松丸 教男, 松本 英豊, 三村 昌史, 三宅 三賀, 宮地 克也, 三好 貴志子, 森野 高明, 矢野 興一, 山岡 和興, 山岡 重隆, 山下 淳一, 山下 幸利, 山中心音, 山中 まゆみ, 山中 愛依, 山本 和彦, 山本 貴美子, 山本 君恵, 山本 幸憲, 山本 聡, 吉本 昌弘, 米岡 大樹, 米澤 慶一, 和田 義直, 渡部 雄貴, 和田 美佐子, 和田 美津子
公益財団法人高知県牧野記念財団, 土佐植物研究会

2.2.2 委員会による検討

表2.2 委員会の開催日と内容

開催日等	内容
第1回 平成28(2016)年 9月13日	(1) 改訂方針について(①調査対象種の確認 ②カテゴリー定義の検討 ③調査対象種の選定 ④レッドデータブックの仕上がりイメージ) (2) 調査体制・方法について(①調査対象リスト作成 ②委託調査 ③種の評価) (3) スケジュールについて(①レッドリストの公表 ②レッドデータブックの公表)
第2回 平成29(2017)年 3月22日	(1) 調査対象種の選定について (2) 高知県レッドデータブック(植物編)の改訂について(①レッドデータブックの形式等 ②絶滅危惧種評価カテゴリー ③調査方法) (3) スケジュールについて
第3回 平成29(2017)年 9月8日	(1) 調査の開始と体制について(①4月～7月の活動報告 ②調査マニュアルと調査票の変更 ③調査ボランティアと担当地域・種類) (2) 調査の進捗について (3) 春・初夏調査からわかった今後の課題について (4) スケジュールについて
第4回 平成30(2018)年 3月13日	(1) 平成29年度調査報告 (2) 評価方法について(①IUCNの評価と基準 ②評価方法の検討(変更箇所について) ③調査できなかった種の評価 ④調査対象として検討を要する種) (3) 平成30年度調査について(①執筆者と調査員の確定 ②執筆フォーマット) (4) スケジュールについて (5) その他(①アドバイザーの選出と依頼 ②注目種)
中間報告会 平成30(2018)年 8月1日	(1) 調査報告(6月末まで) (2) 追加検討種について (3) カルテの様式確認 (4) 高知県版カテゴリー定義について (5) アドバイザーの追加について
第5回 平成31(2019)年 3月25日	(1) 平成30年度調査報告 (2) 平成31年度計画 (3) 執筆担当者について (4) その他(①県指定希少種 ②注目種 ③情報の取り扱い)
第6回 令和元(2019)年 11月21日	(1) 令和元年度調査報告(最終報告) (2) リスト公表について (3) 注目種について
第7回 令和2(2020)年 2月5日	(1) 高知県レッドリスト(植物編)2020年改訂版(案)について (2) 意見募集について
第8回 令和2(2020)年 3月23日	(1) 高知県レッドリスト(植物編)2020年改訂版(案)の意見公募結果と回答について (2) 高知県レッドリスト(植物編)2020年改訂版の最終版について (3) スケジュールについて
第9回 令和2(2020)年 6月19日	(1) 高知県レッドデータブック(植物編)の執筆要領と組見本・レイアウト案について (2) 原稿の執筆項目・担当について (3) 追加調査について (4) スケジュールについて
第10回 令和2(2020)年 11月6日	(1) 高知県レッドデータブック2021植物編の編集進捗状況について (2) 注目種の編集進捗状況について (3) スケジュールについて
第11回 令和3(2021)年 3月25日	(1) 高知県レッドデータブック2021植物編について (2) 追加検討種について (3) スケジュールについて

- ・令和2(2020)年2月14日～3月14日：高知県レッドリスト(植物編)2020年改訂版(案)に関する意見公募
- ・令和2年3月31日：高知県レッドリスト(植物編)2020年改訂版の公表

3. カテゴリー定義と判定基準

判定基準については、基本的に IUCN（国際自然保護連合）が発表している Red List でも使用されている「IUCN レッドリストカテゴリーと基準 (IUCN Red List Categories and Criteria: Version 3.1.)」(2001) を使用することとした。しかし、数値基準による評価が可能となるようなデータが得られない種も多いことから、絶滅危惧種及び準絶滅危惧種に関しては環境省レッドリストのカテゴリー基準と同様に、「定性的要件」と「定量的要件（数値基準）」を併用した。数値基準に基づいて評価が可能な種については原則「定量的要件」を適用することにした。詳細を表 3.1 に示す。なお、「定性的要件」と「定量的要件」は、必ずしも厳密な対応関係にあるわけではない。

表 3.1 カテゴリー区分及び基本概念と判定基準

区分及び基本概念		判定基準	
Extinct (EX) 絶滅		① 最後の個体が枯死したことに疑いの余地がない。 ② 分類群の生活史と生活型に合った時間とその範囲を超えた期間、適切な時期（日、季節、年）に、既知の生育地と予想される生育地の両方あるいはどちらか一方で行われた徹底的な調査によって、個体が記録できなかった場合。 ③ 信頼できる生育の情報が得られなくなって 50 年が経過した場合。	
Wild Extinct (EW) 野生絶滅		分類群の生活史と生活型に合った時間とその範囲を超えた期間、適切な時期（日、季節、年）に、既知の生育地と予想される生育地の両方あるいはどちらか一方で行われた徹底的な調査によって、個体が記録できなかった場合で、栽培下あるいは過去の分布域の明らかに外側のみで生存している場合。	
絶滅危惧	Critically Endangered + Endangered (絶滅危惧 I 類)	定性的要件	次のいずれかに該当する種 ① 既知のすべての個体群で、危機的水準にまで減少している。 ② 既知のすべての生育地で、生育条件が著しく悪化している。 ③ 既知のすべての個体群がその再生産能力を上回る採取圧にさらされている。 ④ ほとんどの分布域に交雑のおそれのある別種が侵入している。 ⑤ 過去 30～50 年の生育記録以後確認情報がなく、その後の信頼すべき調査が行われていないため、絶滅したかどうかの判断が困難なもの。
	Critically Endangered (CR) 深刻な危機	定量的要件	A. 以下のいずれかに基づく個体群サイズの「縮小」 A1. (a)～(e)のいずれか（特定できること）に基づき、過去 10 年間あるいは 3 世代（そのどちらか長い方）の間に、個体群サイズが 90% 以上縮小していることが観察、推定、推量、あるいは推論され、縮小の原因が明らかに可逆的で、かつ理解されており、かつなくなっている場合。 A2. (a)～(e)のいずれか（特定できること）に基づき、過去 10 年間あるいは 3 世代（そのどちらか長い方）の間に、個体群サイズが 80% 以上縮小していることが観察、推定、推量、あるいは推論され、縮小やその原因がなくなっていない、理解されていない、あるいは可逆的でないような場合。 A3. (b)～(e)のいずれか（特定できること）に基づき、次の 10 年間あるいは 3 世代（そのどちらか長い方で、最長 100 年まで）の間に、個体群サイズが 80% 以上縮小することが予期、あるいは推論された場合。 A4. (a)～(e)のいずれか（特定できること）に基づき、過去と未来の両方を含む、10 年間あるいは 3 世代（そのどちらか長い方で、将来最長 100 年まで）の間に、個体群サイズが 80% 以上縮小していることが観察、推定、推量、あるいは推論され、縮小やその原因がなくなっていない、理解されていない、あるいは可逆的でないような場合。
	野生での絶滅の危険性が極めて高いもの (A 類)		(a) 直接の観察 (A3 を除く) (b) 当該分類群にとって適切な個体数レベルを表す指数 (c) 出現範囲、占有面積、あるいは生育環境の質のいずれか（あるいはすべての）減少 (d) 実際の、あるいは想定される採取のレベル (e) 導入分類群、雑種形成、病原体、汚染物質、競争者あるいは寄生者の影響
			B. 出現範囲もしくは占有面積のいずれか、あるいは両方の形で表される地理的範囲 B1. 出現範囲が 100km ² 未満と推定され、かつ下記の a～c のうち少なくとも 2 つに該当する。 B2. 占有面積が 10km ² 未満と推定され、かつ下記の a～c のうち少なくとも 2 つに該当する場合。 a. 個体群が強度に分断されている場合、あるいは知られている生育地が 1 地点のみの場合。 b. (i)～(v) のいずれかにおいて連続的減少が観察、推量、あるいは予期された場合。 c. (i)～(iv) のいずれかにおいて極度の変動がある場合。 (i) 出現範囲 (ii) 占有面積 (iii) 生育環境の面積、大きさ、質 (iv) 分布地点あるいは下位個体群の数 (v) 成熟個体の数
			C. 成熟個体が 250 未満と推定され、かつ以下のいずれかに該当する場合 C1. 連続的に減少していると推定され、3 年間あるいは 1 世代（そのどちらか長い方で、将来最長 100 年まで）の減少率が少なくとも 25% である。 C2. 成熟個体の数の連続的減少が観察、予期、あるいは推論されており、かつ以下の a～b の少なくとも 1 つに該当する場合。 a. 個体群構造が (i) あるいは (ii) に該当する。 (i) 50 以上の成熟個体を含んでいると推定される下位個体群はない。 (ii) 1 つの下位個体群中に 90% 以上の成熟個体が含まれる。 b. 成熟個体数の極度の変動。
	D. 成熟個体が 50 未満と推定される場合 E. 野外における絶滅確率の定量的予測値が、10 年間あるいは 3 世代（そのどちらか長い方で、最長 100 年まで）において 50% 以上の場合		

区分及び基本概念		判定基準		
絶滅危惧 THREATENED	Endangered (EN) 危機 野生での絶滅の危険性が非常に高いもの (B類)	定量的要件	A. 以下のいずれかに基づく個体群サイズの「縮小」 A1. (a)～(e)のいずれか(特定できること)に基づき、過去10年間あるいは3世代(そのどちらか長い方)の間に、個体群サイズが70%以上縮小していることが観察、推定、推量、あるいは推論され、縮小の原因が明らかに可逆的で、かつ理解されており、かつなくなっている場合。 A2. (a)～(e)のいずれか(特定できること)に基づき、過去10年間あるいは3世代(そのどちらか長い方)の間に、個体群サイズが50%以上縮小していることが観察、推定、推量、あるいは推論され、縮小やその原因がなくなっていない、理解されていない、あるいは可逆的でないような場合。 A3. (b)～(e)のいずれか(特定できること)に基づき、次の10年間あるいは3世代(そのどちらか長い方で、最長100年まで)の間に、個体群サイズが50%以上縮小することが予期、あるいは推論された場合。 A4. (a)～(e)のいずれか(特定できること)に基づき、過去と未来の両方を含む、10年間あるいは3世代(そのどちらか長い方で、将来最長100年まで)の間に、個体群サイズが50%以上縮小していることが観察、推定、推量、あるいは推論され、縮小やその原因がなくなっていない、理解されていない、あるいは可逆的でないような場合。	(a) 直接の観察(A3を除く) (b) 当該分類群にとって適切な個体数レベルを表す指数 (c) 出現範囲、占有面積、あるいは生育環境の質のいずれか(あるいはすべて)の減少 (d) 実際の、あるいは想定される採取のレベル (e) 導入分類群、雑種形成、病原体、汚染物質、競争者あるいは寄生者の影響
			B. 出現範囲もしくは占有面積のいずれか、あるいは両方の形で表される地理的範囲 B1. 出現範囲が5,000km ² 未満と推定され、かつ下記のa～cのうち少なくとも2つに該当する。 B2. 占有面積が500km ² 未満と推定され、かつ下記のa～cのうち少なくとも2つに該当する場合。 a. 個体群が強度に分断されている場合、あるいは知られている生育地が5地点のみの場合。 b. (i)～(v)のいずれかにおいて連続的減少が観察、推量、あるいは予期された場合。 c. (i)～(iv)のいずれかにおいて極度の変動がある場合。 (i) 出現範囲 (ii) 占有面積 (iii) 生育環境の面積、大きさ、質 (iv) 分布地点あるいは下位個体群の数 (v) 成熟個体の数	
			C. 成熟個体が2,500未満と推定され、かつ以下のいずれかに該当する場合 C1. 連続的に減少していると推定され、5年間あるいは2世代(そのどちらか長い方で、将来最長100年まで)の減少率が少なくとも20%である。 C2. 成熟個体の数の連続的減少が観察、予期、あるいは推論されており、かつ以下のa～bの少なくとも1つに該当する場合。 a. 個体群構造が(i)あるいは(ii)に該当する。 (i) 250以上の成熟個体を含んでいると推定される下位個体群はない。 (ii) 1つの下位個体群中に95%以上の成熟個体が含まれる。 b. 成熟個体数の極度の変動。	
			D. 成熟個体が250未満と推定される場合	
			E. 野外における絶滅確率の定量的予測値が、20年間あるいは5世代(そのどちらか長い方で、最長100年まで)において20%以上の場合	
	Vulnerable (VU) 危急 野生での絶滅の危険性が高いもの (II類)	定量的要件	次のいずれかに該当する種 ① 大部分の個体群で個体数が大幅に減少している場合。 ② 大部分の生育地で生育条件が明らかに悪化しつつある。 ③ 大部分の個体群がその再生産能力を上回る採取圧にさらされている。 ④ 分布域の相当部分に交雑可能な別種が侵入している。	
			A. 以下のいずれかに基づく個体群サイズの「縮小」 A1. (a)～(e)のいずれか(特定できること)に基づき、過去10年間あるいは3世代(そのどちらか長い方)の間に、個体群サイズが50%以上縮小していることが観察、推定、推量、あるいは推論され、縮小の原因が明らかに可逆的で、かつ理解されており、かつなくなっている場合。 A2. (a)～(e)のいずれか(特定できること)に基づき、過去10年間あるいは3世代(そのどちらか長い方)の間に、個体群サイズが30%以上縮小していることが観察、推定、推量、あるいは推論され、縮小やその原因がなくなっていない、理解されていない、あるいは可逆的でないような場合。 A3. (b)～(e)のいずれか(特定できること)に基づき、次の10年間あるいは3世代(そのどちらか長い方で、最長100年まで)の間に、個体群サイズが30%以上縮小することが予期、あるいは推論された場合。 A4. (a)～(e)のいずれか(特定できること)に基づき、過去と未来の両方を含む、10年間あるいは3世代(そのどちらか長い方で、将来最長100年まで)の間に、個体群サイズが30%以上縮小していることが観察、推定、推量、あるいは推論され、縮小やその原因がなくなっていない、理解されていない、あるいは可逆的でないような場合。	(a) 直接の観察(A3を除く) (b) 当該分類群にとって適切な個体数レベルを表す指数 (c) 出現範囲、占有面積、あるいは生育環境の質のいずれか(あるいはすべて)の減少 (d) 実際の、あるいは想定される採取のレベル (e) 導入分類群、雑種形成、病原体、汚染物質、競争者あるいは寄生者の影響
			B. 出現範囲もしくは占有面積のいずれか、あるいは両方の形で表される地理的範囲 B1. 出現範囲が5,000km ² 未満と推定され、かつ下記のa～cのうち少なくとも2つに該当する。 B2. 占有面積が500km ² 未満と推定され、かつ下記のa～cのうち少なくとも2つに該当する場合。 a. 個体群が強度に分断されている場合、あるいは知られている生育地が5地点のみの場合。 b. (i)～(v)のいずれかにおいて連続的減少が観察、推量、あるいは予期された場合。 c. (i)～(iv)のいずれかにおいて極度の変動がある場合。 (i) 出現範囲 (ii) 占有面積 (iii) 生育環境の面積、大きさ、質 (iv) 分布地点あるいは下位個体群の数 (v) 成熟個体の数	

区分及び基本概念		判定基準
絶滅危惧 (VU) 危急 野生での絶滅の危険性が高いもの (II類) T H R E A T E N E D	定量的要件	C. 成熟個体が 10,000 未満と推定され、かつ以下のいずれかに該当する場合 C1. 連続的に減少していると推定され、10 年間あるいは 3 世代（そのどちらか長い方で、将来最長 100 年まで）の減少率が少なくとも 10% である。 C2. 成熟個体の数の連続的減少が観察、予期、あるいは推論されており、かつ以下の a～b の少なくとも 1 つに該当する場合。 a. 個体群構造が (i) あるいは (ii) に該当する。 (i) 1,000 以上の成熟個体を含んでいると推定される下位個体群はない。 (ii) 1 つの下位個体群中にすべての成熟個体が含まれる。 b. 成熟個体数の極度の変動。
		D. 個体群が非常に小さく、あるいは限定されており、以下のどれかに合致する D1. 個体群サイズが成熟個体 1,000 未満と推定される場合。 D2. 危急 (VU) カテゴリのみに適用。個体群が非常に限定された占有面積（典型的には 20km ² 以下）がある、もしくは少ない地点の数（典型的には 5 以下）。このカテゴリの種類の個体群は、非常に短い期間に人間活動や偶発的な出来事の影響を受けやすいため、非常に短い期間で「深刻な危機 CR」や「絶滅 EX」になりうる。 E. 野外における絶滅確率の定量的予測値が、20 年間あるいは 5 世代（そのどちらか長い方で、最長 100 年まで）において 20% 以上の場合
Near Threatened (NT) 準絶滅危惧	定性的要件	生育状況の推移から見て、種の存続への圧迫が強まっていると判断されるもの。具体的には、分布域の一部において、次のいずれかの傾向が顕著であり、今後さらに進行するおそれがあるもの。 ① 個体数が減少している。 ② 生育条件が悪化している。 ③ 過度の採取圧による圧迫を受けている。 ④ 交雑可能な別種が侵入している。
	定量的要件	適用要件 <ul style="list-style-type: none"> 個体群が過去 3 世代で推定 20～25% 減少した。 VU の（出現範囲 <20,000 km² と占有範囲 <2,000 km² の両方あるいは一方）基準 B の面積要件を満たし、減少しているが、個体群は極端に断片化されておらず、10 以上の場所で発生し、極端な変動はない。 VU（出現範囲 <20,000 km² と占有範囲 <2,000 km² の両方あるいは一方）基準 B の面積要件を満たし、ひどく断片化されているが、個体群が減少しておらず、10 以上の場所で発生し、極端な変動はない。 分類群は減少しており、10 か所で発生するが、出現範囲は 30,000km²、占有範囲は 3,000 km² で、不確実な推定値である。 分類群は減少しており、断片化しているが、出現範囲は 30,000km²、占有範囲は 3,000 km² で、不確実な推定値である。 分類群は減少しており、断片化しているが、出現範囲は 22,000 km²、占有範囲は 3,000 km² で、非常に高い推定値である。 個体群は過去 3 世代で推定 10% 減少し、減少を続けており、成熟個体は約 15,000 である。 分類群は、約 15,000 が単一の下位個体群に存在し、減少している。 個体群は約 1,500 の成熟個体を含む。 成熟個体数の推定値は最高で 2,000 であるが、この推定値は非常に不確実であり、少なくとも 1,000 の成熟個体を除外することはできない。 分類群は 3 つの場所に存在し、12km² の面積を占めている。個体群は収穫されているが、減少していない。現在の脅威はないが、種の減少を引き起こす可能性のある出来事があるものの、短期間に絶滅危惧種になる可能性は低い。 最近 3 世代で個体群は 40% 減少したが、減少は止まっており、その減少の原因は理解されている。
	除外要件	<ul style="list-style-type: none"> 個体群は過去 3 世代で推定 10% 減少し、成熟個体数は 20,000 を超えている。 個体群は変動の一部として推定 30% 減少した。 CR（出現範囲 <100km² と占有範囲 <10km² の両方あるいは一方）の基準 B の要件を満たしているが、減少しておらず、断片化が深刻ではなく、極端な変動もなく、明らかな脅威もない。 分類群は長生きで成長が遅いが、基準 A～E を満たしていない。 個体群は 2,000 以上の成熟個体を含む。 分類群は 3 つの場所に存在し、30km² の面積を占めている。個体群は減少していない。現在の脅威はなく、短期間に絶滅危惧種になる可能性は非常に低い。
Data Deficient (DD) 情報不足	適用要件	<ul style="list-style-type: none"> 全ての評価が実施されており、5 つの基準のそれぞれが適用できない理由がある。 地点名がない、あるいは非常に不確かな地域の情報を持つ、1 つあるいはそれ以上の標本が知られてはいるが、置かれている状態についてさらなる推論ができない。 種のレベルとして認めることができる複数の分類群を含むと広く受け入れられており、レッドリスト種別及び基準を適用するには（直接的または間接的な）情報が不十分。 データが非常に不確かで CR～NT には当てはまらないか CR となるかわからない場合。 その分布と個体群の状態の両方あるいはどちらか一方に基づいて、絶滅のリスクを直接的または間接的に評価するための情報が不十分。
	除外要件	<ul style="list-style-type: none"> よく知られていない分類群（その生育地やその他の原因因子の悪化の情報に基づいてカテゴリを割り当てなければならない）。 分類学的に不確実性のある分類群。

4. 調査結果と危機の状況

4.1 過去のレッドリスト、レッドデータブックとの比較

今回のレッドデータブックの見直しにより選定した種と、過去のリストおよびブックの内訳は次のとおりである。

表 4.1 レッドリストカテゴリー別集計表

		絶滅 EX	野生絶滅 EW	絶滅危惧			準絶滅危惧 NT	情報不足 DD	合計
				CR	EN	VU			
高知県 レッドデータブック 〔植物編〕2000	シダ植物	3	1	51	34	13	8	8	118
	裸子植物	0	0	0	0	6	0	0	6
	被子植物	36	0	240	164	118	62	31	651
	小計	39	1	291	198	137	70	39	775
高知県レッドリスト (植物編) 2010年改訂版	シダ植物	4	1	59	25	31	16	14	150
	裸子植物	0	0	0	0	7	0	0	7
	被子植物	42	0	224	161	176	82	104	789
	小計	46	1	283	186	214	98	118	946
高知県レッドリスト (植物編) 2020年改訂版	シダ植物	5	1	50	29	31	16	8	140
	裸子植物	0	0	1	0	5	0	0	6
	被子植物	38	1	192	201	163	77	41	713
	小計	43	2	243	230	199	93	49	859
RL2010からの RL2020の増減	シダ植物	1	0	-9	4	0	0	-6	-10
	裸子植物	0	0	1	0	-2	0	0	-1
	被子植物	-4	1	-32	40	-13	-5	-63	-76
	小計	-3	1	-40	44	-15	-5	-69	-87
高知県レッドデータ ブック2022植物編	シダ植物	5	1	51	29	31	16	8	140
	裸子植物	0	0	1	0	5	0	0	6
	被子植物	38	1	193	201	165	77	41	713
	合計	43	2	245	230	201	93	49	863

4.2 調査結果

第二次改訂レッドリスト（以降、RL2010とする）の改訂では現地調査を行わなかったが、今回の第三次改訂レッドリスト（以降、RL2020とする）では現地調査を2年半実施し、61名の調査員と約140名の協力者により延べ4,400件ほどの情報を収集することができた。現地調査では、個体数と生育環境の記録のほか、GPSデータの取得、写真（遠景、近景）の撮影、可能な場合には証拠標本の採集を行った。証拠となる標本はラベルに調査票の番号を記載し、調査データと対応させた。証拠標本は、調査対象種の確認のためだけでなく将来分類群が変更になった場合に重要な役割を果たす。分類学的な問題が明確にされているものについては、検討の上、DDを含め全てのランクから一時除外することにした。ただし、問題点がまだ発表されていない微妙な種類については含めることとした。

本改訂で、RL2010よりランクが下がった分類群の中には、調査員の努力により調査精度が上がり、確認された生育地点と個体数が増加したものがある。調査を行うに当たり優先順位はつけたものの、調査対象とした分類群の過去に確認された地点の全てを調査することはできなかった。今後、さらに多くの情報が集まれば、ランクが下がるものが増える可能性がある。

RL2010以降、絶滅種となっていた分類群で再確認されたものは、シダ植物で1種類、種子植物で6種類あった。そのうちツキヌキオトギリは、故山脇哲臣氏より高知県産の株が平成27（2015）年に牧野植物園に寄贈され、現在も栽培中であるため野生絶滅となった。RL2020で新たに絶滅種となったのは、表3.1の絶滅（EX）の要件を満たした4種類、イヌタマシダ、ヒロハヒメウラボシ、トサノコゴメグサ及びタカサゴソウである。結果として、絶滅種は46種類から43種類となった。

深刻な危機（CR：絶滅危惧ⅠA類）は、283種類から243種類（RDB2022では2種類追加）となり、全体として40種類減少した。危機（EN：絶滅危惧ⅠB類）は、186種類から230種類となり、全体として44種類増加した。危機（EN）のランクの種類が増加したのは、他のランクに変更になったものよりも、深刻な危機（CR）からランクが

下がったものと危急（VU）からランクが上がったものが多かったためである。これは、現状を把握できた地点が増えた結果である。危急（VU：絶滅危惧Ⅱ類）は、214 種類から 199 種類となり（RDB2022 では 2 種類追加）、全体として 15 種類減少した。準絶滅危惧（NT）は、98 種類から 93 種類となり、全体として 5 種類減少した。情報不足（DD）は、118 種類から 49 種類となり、全体として 69 種類減少した。情報不足（DD）種のうち、危機の状況が明らかになった 22 種類が絶滅危惧になり、シダ植物で 8 種類、種子植物で 43 種類が除外となった。除外された種類は、216 ページ以降の「除外種のリストと除外理由」に示した。さらに、本 RDB ではシダ植物 1 種類（オオハシゴシダ）、被子植物 3 種類（ヤクシマヒメアリドオシラン、シコクバイカオウレン、ミスミソウ）の合計 4 種類が追加された。

そのほか注目種として、種子植物で 11 種類を選定した。その中にはタキユリやシコクフクジュソウのように地域の保護活動が実を結んで個体数が増加し、準絶滅危惧から外れたものも含まれる。

カテゴリー順リストの科の配列は、シダ植物は PPG I 分類体系に、裸子植物は Christenhusz ら（2011）に、被子植物は APG IV 分類体系に従い、それ以下は学名のアルファベット順である。科の和名、一部の和名と学名については巻末に示す文献に従って変更した。

4.3 危機の状況

各種および各地点の危機の状況を把握するため、現地調査の際に調査員の所見で表 4.2 に示す項目を調査票 1 枚につき最大 3 つまで選択してもらった。全てのデータのうち、絶滅危惧種（CR, EN, VU）の危機要因を集計した結果を表 4.3 に示す。危機の要因は必ずしも調査票 1 枚につき 3 つ選択されてはならず、地点によっては既に保護されているため空白のことがあった。また、同じ分類群であっても地点や調査員によって選択される危機要因が異なることもあった。そのほか、同じ地点を別の調査員が調査したり、同じ調査員が時期を変えて同一地点の調査を行ったりしているが、集計に当たってはそれらを区別していない。

危機要因として最も多かったのが遷移進行で 29.02%であった（表 4.3, 図 4.1）。次いで園芸採取が 14.04%、管理放棄が 11.6%、森林伐採が 10.7%で、この上位 4 つでおおよそ 65%を占めた。前回のレッドデータブックの調査で遷移進行は 13.55%と 3 番目に高い割合であったが、今回 2 倍を超える値となった。また、前回のレッドデータブックの際の危機要因は開発行為（森林伐採、石灰採掘、道路工事、土地造成、河川開発、草地開発、海岸開発、湿地開発、池沼開発、ダム建設）が全体の 45.87%を占めていたが、今回の調査では 23.52%と減少した。それに対し、植生の変化（遷移進行、管理放棄、人の踏みつけ、帰化競合）は、26.3%から 44.74%と大幅に増加し、20 年間の間に危機の主要因が開発から植生の変化に大きく変わっていた。それについては、生活習慣の変化から非効率な農地や里山林が順次放棄され、都市部や県外へ人が移動していることも一因であると推測される。実際この 20 年間で高知県の人口は約 11.4 万人減少（平成 12（2000）年 1 月：81 万人、令和 2（2020）年 1 月：69.6 万人）し、郡部（現郡部の範囲）での人口は約 29%減少した一方、高知市（現市の範囲）と南国市では 5%の減少にとどまっている（高知県総務部統計分析課の公表データを参照）。昔ながらの里地里山での人の暮らしに伴う植生管理によって、生育地である明るい草地在が保たれていたキキョウやフジバカマなどの植物が、今では絶滅危惧種となっている。また、高知県では伐採適期を迎えつつある 40～50 年生のスギ人工林地で菌従属栄養植物やラン科の絶滅危惧種が多く確認され、中にはランクが下がったものもある。しかし、最近の木材需要の高まりと省力化のために大規模な皆伐が増加していることから、近い将来そうした植物の生育地が急速に失われる可能性がある。そのほか、近年の気温の上昇が高山の遺存種へ及ぼす影響、集中豪雨による土砂流出と氾濫が河川域の植物に与える影響も懸念される。そして、災害への対策に伴う公共工事が絶滅の原因とならないよう、情報の共有と環境へ配慮した手法の探索の継続が求められる。地球温暖化に伴う気候変動は、今後ますます激しくなることが予測されるため、その影響を特に強く受ける可能性がある植物についてはその動態の情報を残し、地域の個体群が絶滅しないよう様々な試行錯誤を重ねていく必要がある。

表 4.2 危機要因

開発	森林伐採 (11)	池沼開発 (12)	河川開発 (13)	海岸開発 (14)	湿地開発 (15)
	草地開発 (16)	石灰採掘 (17)	土地造成 (23)	道路工事 (24)	ダム建設 (25)
環境汚染	水質汚濁 (31)	農薬汚染 (32)			
採取	園芸採取 (41)	薬用採取 (42)			
植生の変化	人の踏みつけ (51)	管理放棄 (53)	遷移進行 (54)	帰化競合 (56)	
動物の食害	シカ食害 (52-1)	その他の動物食害 (52-2)			
その他	産地局限 (61)	その他 (71)	不明 (99)		

※各項目のコード番号は環境省のレッドデータブック 2014 8 植物 I（維管束植物）に従った。

※項目の名称を一部変更した。

表 4.3 絶滅危惧種 (CR,EN,VU) の危機要因の集計結果

危機の要因	RDB2000		RDB2022			
	件数	%	件数	%		
開発	森林伐採	244	16.53	433	10.7	23.52
	道路工事	148	10.03	215	5.32	
	河川開発	46	3.12	78	1.93	
	土地造成	109	7.38	71	1.76	
	その他	130	8.8	154	3.81	
環境汚染	24	1.63	73	1.81		
園芸・薬用採取	276	18.69	573	14.16		
植生の変化	遷移進行	200	13.55	1,174	29.02	44.28
	管理放棄	113	7.66	469	11.6	
	その他	35	2.37	148	3.66	
食害	シカ食害	—	—	172	4.25	5.16
	その他	—	—	37	0.91	
その他	151	10.23	448	11.07		
合計	1,476	100	4,045	100		

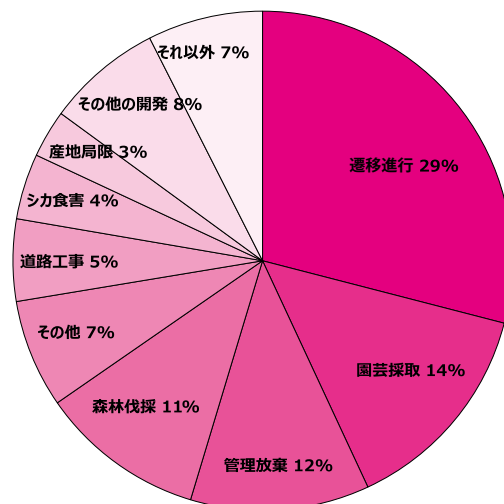


図 4.1 危機要因の内訳

4.4 情報の集積と高知県の植物の保全について

今回の調査結果と過去の標本情報などのデータを、次の世代に残すシステム構築のため、調査期間中に同時並行でデータの集積と精査等を進めた。集めていたデータの中には未同定の標本情報や高知県植物誌で疑問として残っていた問題も含まれていたため、標本の再確認とアドバイザーへの同定依頼によって問題点の解決に努めた。その結果、分類群が変更となった種があり、中には除外となったものもあった（除外した理由については除外種リストを参照）。また、過去の標本には地点情報がほとんどない（主に地域メッシュデータのみ）ため、この機会に地点情報の取得を試みた。今回調査を依頼した調査員は、高知県植物誌編纂事業の時から継続して調査ボランティアとして活動されていた方が多かったため、調査票に位置情報（緯度、経度、標高）を可能な限り記載してもらおうよう依頼した。最終的には有効データ 4,392 件中、3,983 件で緯度経度の情報を集めることができた。緯度経度情報がない場合でも、地域メッシュデータが記載されているものがあり、これについても聞き取りなどにより、緯度経度情報に置き換えていく予定である。

調査のために作成したリストには、標本、調査、文献からのデータが含まれており、これらを一元化することで各種の情報を確認できるようになったものの、項目の数も多くなり表計算ソフトでは取扱いに限界があった。そこで各種の個別記録を 1 枚にまとめた「カルテ」の作成を検討した。作成に当たってはデータベース管理システムであるファイルメーカー（クラリス・ジャパン株式会社）を使用し、1 枚のシート上に、分布や生育に関する特徴、県内の分布、標本や調査データの各市町村での件数、レッドリストの評価、標本、調査、文献が表記されるようにした。これにより、データの不足や誤認などの確認が容易になった。現段階の「カルテ」は図 4.2 に示す。今後はこれをさらに改良し、写真や地図情報、文献とのリンクなどを行い、様々な種類のデータをまとめていくことを目指している。

前回のレッドデータブックの発刊から 20 年が経過し、この間に絶滅危惧種をとりまく状況が大きく変わった。生物の多様性の保全が持続可能な社会の実現に不可欠であるとの理解が進み、それに伴って生物多様性基本法や様々な法律が施行、改正された。県内でも平成 17（2005）年に高知県希少野生動植物保護条例が施行され、現在デンジソウ、ダイサギソウ、マイヅルテンナンショウ、ヤブレガサモドキ、マルバテイショウソウ、ハシナガヤマサギソウ及びカミガモソウの 7 種が保護種として指定されている。平成 30（2018）年には「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（種の保存法）の国内希少野生植物種にイシヅチテンナンショウ、ツルギテンナンショウ及びホシザキカンアオイの 3 種が指定された。また、自然公園法の改正を受けて国立公園では指定種の見直しが行われ、絶滅危惧種が含まれるようになり、足摺宇和海国立公園の指定種は 140 種から 356 種に増加した。しかし、国立公園では指定種の見直しはまだ行われておらず、県内に 18 ある県立自然公園には指定植物がないなど、指定植物種については今後検討していく必要がある。

今回、主な危機の要因は遷移進行・管理放棄などによる植生の変化となったが、開発などによる消失がなくなったわけではない。特に公共工事においては、各工事の期間や計画が優先されるため、保全対策として移植が選択される

5. 各種の解説項目と内容

5.1 構成

本書では、カテゴリー区分順に選定種の解説を掲載した。カテゴリー区分内は、PPG I, APG IVの科順に従い、それ以下は学名のアルファベット順に掲載した。参考文献については、巻尾に一括して掲載し、特に各種の解説の中で触れない限りは、どの種でどの文献を参考としたかわかるようには掲載していない。

5.2 解説項目と内容

1 CR 1	2 ヒカゲノカズラ科 3 ナンカクラン 4 <i>Phlegmariurus hamiltonii</i>	5 高知県 RL2010: CR 6 高知県 RDB2000: EN 7 環境省 RL2020: -
8 生育状況と選定の理由】 50年ほど前は確認されていた地点は多かったが、現存は限られている。 この調査で確認できたのは2か所のみ。	11 分布 本州(伊豆諸島・伊豆半島・紀伊半島)・四国・九州・琉球・小笠原諸島、台湾・中国・タイ・インドシナ半島・南アジア	
9 危機要因と保護保全対策】 直接的な減少は園芸採取が主であるが、長期的には植林や森林伐採、シカの食害による森林の乾燥化なども減少に影響していると推測される。 生育地点の情報漏洩、拡散を防ぐことと生育地域の森林環境の保全が必要である。	12 県内分布 郡、中部、西部	
10 特記事項】	13 生育環境と特性 内や林縁の空中湿度が高く乾燥しない岩上やコケのついた樹幹につく。	

- 1 レッドデータブック 2022 カテゴリー区分と各カテゴリーでの分類群順の番号
- 2 科名：科の和名を表示
- 3 種名：和名を表示
- 4 学名：学名を表示（命名者は省略）
- 5 高知県 RL2010 カテゴリー区分
- 6 高知県 RDB2000 カテゴリー区分
- 7 環境省カテゴリー区分：令和2（2020）年3月30日に公表された環境省レッドリスト 2020のランク
- 8 選定理由と生育状況：選定評価した理由と生育状況を記述し、絶滅種および野生絶滅種では選定理由のみ記載した。
- 9 危機要因と保護保全対策：危機の要因とそれに対する効果的な対策や保護状況について記述した。現時点で情報が不足し、推定できない場合には記述していない。
- 10 特記事項：特に記すべき点があればこの項目に記載した。
- 11 分布：種の分布の状況を記載した。
- 12 県内分布：県内で記録のある市町村を記載した。採取のおそれがあると判断された種類については、東部、中部、西部と地域のみ記載にとどめた。
東部：安芸郡、室戸市、安芸市
中部：香南市、香美市、南国市、高知市、吾川郡、長岡郡、土佐郡、土佐市、須崎市、高岡郡中土佐町・佐川町・越知町・日高村・旧葉山村
西部：高岡郡旧東津野村・四万十町・梶原町、幡多郡、四万十市、宿毛市、土佐清水市
- 13 生育環境と特性：生育する環境や生態的特性、特徴などを記述した。

5.3 原稿の依頼と執筆について

原稿執筆者については、基本的には各種について調査された方、状況を把握していると思われる方に事務局から依頼し、承諾を得たのち対象種のカルテを配布した。

原稿執筆者（敬称略 50音順）

石川 慎吾、宇賀 裕生、押岡 茂紀、黒岩 宣仁、鴻上 泰、酒井 敦、酒井 泰一、坂本 彰、佐田 博子、関田 泰子、高家 和彦、田城 光子、田邊 由紀、寺峰 孜、中平 勝也、中村 俊之、中村 知道、成田 愛治、橋本 季正、稗田 真也、比嘉 基紀、福原 宏、藤井 聖子、藤川 和美、細川 公子、堀 清鷹、前田 綾子、山ノ内 崇志

RED DATA BOOK

選定種のリスト



絶滅：EX (43種類)

No.	和名	学名	科名	高知県 RL2010	高知県 RDB2000	環境省 RL2020
1	オオバシヨリマ	<i>Thelypteris quelpaertensis</i>	ヒメシダ	EX	未	
2	イヌタマシダ	<i>Dryopteris hayatae</i>	オシダ	CR	CR	
3	アスカイノデ	<i>Polystichum fibrillosopaleaceum</i>	オシダ	EX	EX	
4	クラガリシダ	<i>Lepisorus miyoshianus</i>	ウラボシ	EX	CR	EN
5	ヒロハヒメウラボシ	<i>Oreogrammitis nipponica</i>	ウラボシ	CR	DD	CR
6	マルバオモダカ	<i>Caldesia parnassiifolia</i>	オモダカ	EX	EX	VU
7	イバラモ	<i>Najas marina</i>	トチカガミ	EX	DD	
8	サギソウ	<i>Pecteilis radiata</i>	ラン	EX	EX	NT
9	ショウキズイセン	<i>Lycoris traubii</i>	ヒガンバナ	EX	EX	
10	ミズアオイ	<i>Monochoria korsakowii</i>	ミズアオイ	EX		NT
11	ヒロハノコウガイゼキショウ	<i>Juncus diastrophanthus</i>	イグサ	EX	DD	
12	クロカワズスゲ	<i>Carex arenicola</i>	カヤツリグサ	EX	EX	
13	ケヒエスゲ	<i>Carex mayebarana</i>	カヤツリグサ	EX	EN	
14	アワボスゲ	<i>Carex nipposinica</i>	カヤツリグサ	EX	EX	
15	ホウキガヤツリ	<i>Cyperus distans</i>	カヤツリグサ	EX	EX	CR
16	オノエテンツキ	<i>Fimbristylis fusca</i>	カヤツリグサ	EX	EX	VU
17	メアゼテンツキ	<i>Fimbristylis velata</i>	カヤツリグサ	EX	DD	
18	ヒナザサ	<i>Coelachne japonica</i>	イネ	EX	EX	NT
19	ヒゲシバ	<i>Sporobolus japonicus</i>	イネ	EX	EN	
20	ヒキノカサ	<i>Ranunculus ternatus</i>	キンポウゲ	EX		VU
21	ヨコグラブドウ	<i>Vitis saccharifera</i> var. <i>yokogurana</i>	ブドウ	EX	EX	
22	カワラサイコ	<i>Potentilla chinensis</i>	バラ	EX	CR	
23	ヒメキカシグサ	<i>Rotala elatinomorpha</i>	ミソハギ	EX	EX	CR
24	ボンテンカ	<i>Urena lobata</i> subsp. <i>sinuata</i>	アオイ	EX	EX	
25	ヤナギヌカボ	<i>Persicaria foliosa</i> var. <i>paludicola</i>	タデ	EX		VU
26	ヒゲネワチガイソウ	<i>Pseudostellaria palibiniana</i>	ナデシコ	EX	CR	
27	ハクウンボク	<i>Styrax obassia</i>	エゴノキ	EX	CR	
28	オオバノヨツバムグラ	<i>Galium kamtschaticum</i> var. <i>acutifolium</i>	アカネ	EX		
29	マメダオシ	<i>Cuscuta australis</i>	ヒルガオ	EX	VU	CR
30	ノタヌキモ	<i>Utricularia aurea</i>	タヌキモ	EX	EX	VU
31	ヒメシロネ	<i>Lycopus maackianus</i>	シソ	EX		
32	ヒメキセワタ	<i>Matsumurella tuberifera</i>	シソ	EX	EX	VU
33	ナミキソウ	<i>Scutellaria strigillosa</i>	シソ	EX	EX	
34	トサノゴメグサ	<i>Euphrasia insignis</i> subsp. <i>iinumae</i> var. <i>makinoi</i>	ハマウツボ	CR	CR	
35	ママコナ	<i>Melampyrum roseum</i> var. <i>japonicum</i>	ハマウツボ	EX		
36	ヒメシオン	<i>Aster fastigiatus</i>	キク	EX	CR	
37	モリアザミ	<i>Cirsium dipsacolepis</i>	キク	EX	CR	
38	ブクリョウサイ	<i>Dichrocephala integrifolia</i>	キク	EX	EX	
39	タカサゴソウ	<i>Ixeris chinensis</i> subsp. <i>strigosa</i>	キク	CR	CR	VU
40	オナモミ	<i>Xanthium strumarium</i> subsp. <i>sibiricum</i>	キク	EX		VU
41	ホタルサイコ	<i>Bupleurum longiradiatum</i> var. <i>elatus</i>	セリ	EX	CR	
42	ヒロハヌマゼリ	<i>Sium suave</i> var. <i>ovatum</i>	セリ	EX		
43	カノツメソウ	<i>Spuriopimpinella calycina</i>	セリ	EX	CR	

野生絶滅：EW (2種類)

No.	和名	学名	科名	高知県 RL2010	高知県 RDB2000	環境省 RL2020
1	オオタニワタリ	<i>Asplenium antiquum</i>	チャセンシダ	EW	EW	VU
2	ツキヌキオトギリ	<i>Hypericum sampsonii</i>	オトギリソウ	EX	EX	EN

深刻な危機（絶滅危惧 IA 類）：CR（245 種類）

No.	和名	学名	科名	高知県 RL2010	高知県 RDB2000	環境省 RL2020
1	ナンカクラン	<i>Phlegmariurus hamiltonii</i>	ヒカゲノカズラ	CR	EN	
2	ヒモラン	<i>Phlegmariurus sieboldii</i>	ヒカゲノカズラ	CR	CR	EN
3	ミズニラ	<i>Isoetes japonica</i>	ミズニラ	CR		NT
4	オニクラマゴケ	<i>Selaginella doederleinii</i>	イワヒバ	CR	CR	
5	ヤマクラマゴケ	<i>Selaginella tamamontana</i>	イワヒバ	CR		
6	エゾフユノハナワラビ	<i>Botrychium multifidum</i> var. <i>robustum</i>	ハナヤスリ			
7	ナガホノナツノハナワラビ	<i>Botrychium strictum</i>	ハナヤスリ	CR	CR	
8	ハマハナヤスリ	<i>Ophioglossum thermale</i>	ハナヤスリ	CR	CR	
9	チチブホラゴケ	<i>Crepidomanes schmidtianum</i> var. <i>schmidtianum</i>	コケシノブ	EN	EN	
10	リュウキュウコケシノブ	<i>Hymenophyllum riukiense</i>	コケシノブ	EX	EX	
11	サンショウモ	<i>Salvinia natans</i>	サンショウモ	CR	CR	VU
12	デンジソウ	<i>Marsilea quadrifolia</i>	デンジソウ	CR	CR	VU
13	ヘゴ	<i>Cyathea spinulosa</i>	ヘゴ	CR	EX	
14	シンエダウチホングウシダ	<i>Lindsaea orbiculata</i> var. <i>commixta</i>	ホングウシダ	EN	EN	
15	サイゴクホングウシダ	<i>Osmolindsaea japonica</i>	ホングウシダ	CR	EN	
16	ホングウシダ	<i>Osmolindsaea odorata</i>	ホングウシダ	CR		
17	ユノミネシダ	<i>Histiopteris incisa</i>	コバノイシカグマ	CR		
18	ウスバイシカグマ	<i>Microlepia substrigosa</i>	コバノイシカグマ	CR	CR	NT
19	ヒメムカゴシダ	<i>Monachosorum</i> × <i>arakii</i>	コバノイシカグマ	CR	CR	EN
20	キドイノモトソウ	<i>Pteris kidoi</i>	イノモトソウ	CR	CR	VU
21	ヒカゲアマクサシダ	<i>Pteris tokioi</i>	イノモトソウ	CR		EN
22	ウスヒメワラビモドキ	<i>Acystopteris taiwaniana</i>	ナヨシダ			
23	イワウサギシダ	<i>Gymnocarpium robertianum</i>	ナヨシダ	CR	EN	
24	カミガモシダ	<i>Asplenium oligophlebium</i> var. <i>oligophlebium</i>	チャセンシダ	CR	CR	
25	コタニワタリ	<i>Asplenium scolopendrium</i>	チャセンシダ	EN	EN	
26	クロガネシダモドキ	<i>Asplenium</i> × <i>tosaense</i>	チャセンシダ	CR	CR	
27	シイバサトメシダ	<i>Athyrium neglectum</i> subsp. <i>australe</i>	メシダ	CR		CR
28	イワイヌワラビ	<i>Athyrium nikkoense</i>	メシダ	CR	DD	
29	サカバサトメシダ	<i>Athyrium palustre</i>	メシダ	CR	CR	VU
30	トゲカラクサイヌワラビ	<i>Athyrium setuligerum</i>	メシダ	CR	CR	
31	シマイヌワラビ	<i>Athyrium tozanense</i>	メシダ	CR	CR	CR
32	コウライイヌワラビ	<i>Deparia coreana</i>	メシダ	CR	CR	VU
33	ミドリワラビ	<i>Deparia viridifrons</i>	メシダ	CR	CR	
34	ヒロハノコギリシダ	<i>Diplazium dilatatum</i> var. <i>dilatatum</i>	メシダ	CR	CR	
35	ニセヒロハノコギリシダ	<i>Diplazium dilatatum</i> var. <i>heterolepis</i>	メシダ	CR		
36	イヨクジャク	<i>Diplazium okudairae</i>	メシダ	CR	CR	EN
37	タチヒメワラビ	<i>Phegopteris bukoensis</i>	ヒメシダ	CR	CR	
38	オオハシゴシダ	<i>Thelypteris angulariloba</i>	ヒメシダ			
39	キンモウワラビ	<i>Hypodematum crenatum</i> subsp. <i>fauriei</i>	キンモウワラビ	CR	CR	VU
40	オトコシダ	<i>Arachniodes yoshinagae</i>	オシダ	CR	CR	
41	サツマシダ	<i>Ctenitis sinii</i>	オシダ	CR		EN
42	ツクシオオクジャク	<i>Dryopteris handeliana</i>	オシダ	EN	EN	
43	ミヤマベニシダ	<i>Dryopteris monticola</i>	オシダ	CR		
44	アツギノヌカイタチシダマガイ	<i>Dryopteris paomowanensis</i>	オシダ	CR		
45	ムラサキベニシダ	<i>Dryopteris purpurella</i>	オシダ	CR	CR	CR
46	ヨゴレイタチシダ	<i>Dryopteris sordidipes</i>	オシダ	CR	EN	
47	マルバナヌカイタチシダモドキ	<i>Dryopteris tsugiwoi</i>	オシダ	CR	CR	CR
48	アツイタ	<i>Elaphoglossum yoshinagae</i>	オシダ	CR	CR	VU
49	オニイノデ	<i>Polystichum rigens</i>	オシダ	CR	CR	VU
50	ミヨウギシダ	<i>Goniophlebium someyae</i>	ウラボシ	CR		EN

No.	和名	学名	科名	高知県 RL2010	高知県 RDB2000	環境省 RL2020
51	ヤクシマウラボシ	<i>Selliguea yakuinsularis</i>	ウラボシ	CR	CR	EN
52	シコクシラベ	<i>Abies veitchii</i> var. <i>reflexa</i>	マツ	VU	VU	
53	ベニオグラコウホネ	<i>Nuphar oguraensis</i> var. <i>akiensis</i>	スイレン	CR		
54	オグラコウホネ	<i>Nuphar oguraensis</i> var. <i>oguraensis</i>	スイレン			VU
55	サイコクヒメコウホネ	<i>Nuphar saikokuensis</i>	スイレン	CR	CR	
56	スナヅル	<i>Cassytha filiformis</i>	クスノキ			
57	ツルギテンナンショウ	<i>Arisaema abei</i>	サトイモ	CR	CR	EN
58	イシツチテンナンショウ	<i>Arisaema ishizuchiense</i>	サトイモ	CR	CR	CR
59	シコクヒロハテンナンショウ	<i>Arisaema longipedunculatum</i>	サトイモ	CR	CR	EN
60	ハコネハナゼキショウ	<i>Tofieldia coccinea</i> var. <i>gracilis</i>	チシマゼキショウ	CR		
61	マルミスブタ	<i>Blyxa aubertii</i>	トチカガミ	CR	EX	VU
62	ムサシモ	<i>Najas ancistrocarpa</i>	トチカガミ			EN
63	サガミトリゲモ	<i>Najas chinensis</i>	トチカガミ	CR	CR	VU
64	イトトリゲモ	<i>Najas gracillima</i>	トチカガミ	CR	CR	NT
65	オヒルムシロ	<i>Potamogeton natans</i>	ヒルムシロ	CR		
66	ヒロハノエビモ	<i>Potamogeton perfoliatus</i>	ヒルムシロ	CR	DD	
67	タカクマソウ	<i>Sciaphila tenella</i>	ホンゴウソウ			EN
68	クルマバツクバネソウ	<i>Paris verticillata</i>	シュロソウ	CR	CR	
69	タチシオデ	<i>Smilax nipponica</i>	サルトリイバラ	CR	CR	
70	カタクリ	<i>Erythronium japonicum</i>	ユリ	CR	CR	
71	キバナノアマナ	<i>Gagea nakaiana</i>	ユリ	CR	CR	
72	ヒメユリ	<i>Lilium concolor</i>	ユリ	CR	CR	EN
73	イワチドリ	<i>Amitostigma keiskei</i>	ラン	CR	CR	EN
74	キリシマエビネ	<i>Calanthe aristulifera</i>	ラン	EX	CR	EN
75	キンセイラン	<i>Calanthe nipponica</i>	ラン	EN	CR	VU
76	サルメンエビネ	<i>Calanthe tricarinata</i>	ラン	CR	CR	VU
77	ササバギンラン	<i>Cephalanthera longibracteata</i>	ラン	CR	CR	
78	ユウシュラン	<i>Cephalanthera subaphylla</i>	ラン	EN	EN	VU
79	モイワラン (トクシマサイハイランを含む)	<i>Cremastra aphylla</i>	ラン			
80	トケンラン	<i>Cremastra unguiculata</i>	ラン	CR	CR	VU
81	アキザキナギラン	<i>Cymbidium aspidistrifolium</i>	ラン	CR	CR	EN
82	カンラン	<i>Cymbidium kanran</i>	ラン	CR	CR	EN
83	コアツモリソウ	<i>Cypripedium debile</i>	ラン	CR	CR	NT
84	アオチドリ	<i>Dactylorhiza viridis</i>	ラン	CR	EN	
85	イチヨウラン	<i>Dactylostalix ringens</i>	ラン	EN	CR	
86	コイチヨウラン	<i>Ephippianthus schmidtii</i>	ラン	CR	CR	
87	エゾスズラン	<i>Epipactis helleborine</i>	ラン	EN	CR	
88	オサラン	<i>Eria japonica</i>	ラン	CR	CR	VU
89	イモネヤガラ	<i>Eulophia zollingeri</i>	ラン			EN
90	カモメラン	<i>Galearis cyclochila</i>	ラン	CR	CR	NT
91	モミラン	<i>Gastrochilus toramanus</i>	ラン	CR	EN	VU
92	オニノヤガラ	<i>Gastrodia elata</i> var. <i>elata</i>	ラン	CR	CR	
93	シロテンマ	<i>Gastrodia elata</i> var. <i>pallens</i>	ラン		CR	CR
94	ナヨテンマ	<i>Gastrodia gracilis</i>	ラン	CR	CR	EN
95	ツリシュスラン	<i>Goodyera pendula</i>	ラン	CR	CR	
96	ダイサギソウ	<i>Habenaria dentata</i>	ラン	CR	CR	EN
97	ムカゴソウ	<i>Herminium lanceum</i>	ラン	CR	CR	EN
98	トサノクロムヨウラン	<i>Lecanorchis nigricans</i> var. <i>patipetala</i>	ラン	DD	DD	
99	ムロトムヨウラン	<i>Lecanorchis taiwaniana</i>	ラン	DD		
100	ギボウシラン	<i>Liparis auriculata</i>	ラン	CR	EN	EN

No.	和名	学名	科名	高知県 RL2010	高知県 RDB2000	環境省 RL2020
101	アキタズムシソウ	<i>Liparis longiracemosa</i>	ラン	VU	EN	
102	ササバラン	<i>Liparis odorata</i>	ラン	CR	EN	EN
103	シテンクモキリ	<i>Liparis purpureovittata</i>	ラン			
104	ズムシソウ	<i>Liparis suzumushi</i>	ラン	CR	EN	
105	ボウラン	<i>Luisia teres</i>	ラン	CR	EN	NT
106	ホザキイチヨウラン	<i>Malaxis monophyllus</i>	ラン	EN	EN	
107	ノビネチドリ	<i>Neolindleya camtschatica</i>	ラン	EN	EN	
108	コフタバラン	<i>Neottia cordata</i>	ラン	EN	EN	
109	オオバヨウラクラン	<i>Oberonia makinoi</i>	ラン	CR	CR	CR
110	ダケトンボ	<i>Peristylus hatusimanus</i>	ラン			
111	ジンバイソウ	<i>Platanthera florentii</i>	ラン	CR	CR	
112	イヌマムカゴ	<i>Platanthera iinumae</i>	ラン	CR	CR	EN
113	ツレサギソウ	<i>Platanthera japonica</i>	ラン	CR	CR	
114	ハシナガヤマサギソウ	<i>Platanthera mandarinorum</i> subsp. <i>mandarinorum</i> var. <i>mandarinorum</i>	ラン	CR	CR	
115	キソチドリ (広義)	<i>Platanthera ophrydioides</i>	ラン	DD	EN	
116	トキソウ	<i>Pogonia japonica</i>	ラン	CR	CR	NT
117	ヒナチドリ	<i>Ponerorchis chidori</i>	ラン	CR	CR	VU
118	ナゴラン	<i>Sedirea japonica</i>	ラン	CR	CR	EN
119	ヒメケンラン	<i>Tainia laxiflora</i>	ラン	CR	EX	VU
120	ヤクシマネツタイラン	<i>Tropidia nipponica</i> var. <i>nipponica</i>	ラン	CR	CR	EN
121	キバナノショウキラン	<i>Yuania amagiensis</i>	ラン	EN	CR	EN
122	ショウキラン	<i>Yuania japonica</i>	ラン	CR	CR	
123	キヌラン	<i>Zeuxine strateumatica</i>	ラン			
124	ノハナショウブ	<i>Iris ensata</i> var. <i>spontanea</i>	アヤメ	CR	CR	
125	サイコクイワギボウシ	<i>Hosta longipes</i> var. <i>caduca</i>	クサスギカズラ	EN		
126	ミズギボウシ	<i>Hosta longissima</i>	クサスギカズラ	CR	CR	
127	オオバギボウシ	<i>Hosta sieboldiana</i>	クサスギカズラ	CR	CR	
128	ヒメミクリ	<i>Sparganium subglobosum</i>	ガマ	CR		VU
129	オオホシクサ	<i>Eriocaulon buergerianum</i>	ホシクサ	CR	CR	
130	アオコウガイゼキショウ	<i>Juncus papillosus</i>	イグサ	CR	CR	
131	ウキヤガラ	<i>Bolboschoenus fluviatilis</i> subsp. <i>yagara</i>	カヤツリグサ	EN		
132	オオナキリスゲ	<i>Carex autumnalis</i>	カヤツリグサ	VU	VU	
133	ウマスゲ	<i>Carex idzuroei</i>	カヤツリグサ	CR	EX	
134	サワヒメスゲ	<i>Carex mira</i>	カヤツリグサ	EX	EX	
135	ササノハスゲ	<i>Carex pachygyna</i>	カヤツリグサ	CR	CR	
136	クサスゲ	<i>Carex rugata</i>	カヤツリグサ	CR	CR	
137	アゼスゲ	<i>Carex thunbergii</i> var. <i>thunbergii</i>	カヤツリグサ	CR	EN	
138	ムギガラガヤツリ	<i>Cyperus unioides</i>	カヤツリグサ	CR	EX	CR
139	ヤリハリイ	<i>Eleocharis congesta</i> var. <i>subvivipara</i>	カヤツリグサ	CR	CR	
140	イヌクログワイ	<i>Eleocharis dulcis</i>	カヤツリグサ	CR	CR	
141	スジヌマハリイ	<i>Eleocharis equisetiformis</i>	カヤツリグサ	CR	CR	VU
142	ノハラテンツキ	<i>Fimbristylis pierotii</i>	カヤツリグサ	EX		VU
143	ハタケテンツキ	<i>Fimbristylis stauntonii</i> var. <i>stauntonii</i>	カヤツリグサ	DD		EN
144	クロタマガヤツリ	<i>Fuirena ciliaris</i>	カヤツリグサ	CR	CR	
145	イヌノハナヒゲ	<i>Rhynchospora japonica</i>	カヤツリグサ	CR	CR	
146	ツクシカンガレイ	<i>Schoenoplectiella multisetata</i>	カヤツリグサ	VU		
147	シコクノガリヤス	<i>Calamagrostis tashiroi</i> subsp. <i>sikokiana</i>	イネ	EN		
148	ミノボロ	<i>Koeleria macrantha</i>	イネ	CR	CR	
149	カリヤスモドキ	<i>Miscanthus oligostachyus</i>	イネ	CR	CR	
150	ヌマガヤ	<i>Moliniopsis japonica</i>	イネ	CR	EX	

No.	和名	学名	科名	高知県 RL2010	高知県 RDB2000	環境省 RL2020
151	タキキビ	<i>Phaenosperma globosum</i>	イネ	DD	DD	
152	ホソバヤマブキソウ	<i>Hylomecon japonica</i> f. <i>lanceolata</i>	ケシ	CR		
153	イソヤマアオキ	<i>Cocculus laurifolius</i>	ツツラフジ	CR	CR	
154	シオミイカリソウ	<i>Epimedium trifoliatobinatum</i> subsp. <i>maritimum</i>	メギ	NT		NT
155	ミスミソウ	<i>Hepatica nobilis</i> var. <i>japonica</i>	キンポウゲ			NT
156	オキナグサ	<i>Pulsatilla cernua</i>	キンポウゲ	CR	CR	VU
157	ゴゴメカラマツ	<i>Thalictrum microspermum</i>	キンポウゲ	CR	CR	VU
158	モミジカラマツ	<i>Trautvetteria caroliniensis</i> var. <i>japonica</i>	キンポウゲ	CR	CR	
159	ベニバナヤマシャクヤク	<i>Paeonia obovata</i>	ポタン	CR	CR	VU
160	ヤブサンザシ	<i>Ribes fasciculatum</i>	スグリ	CR	CR	
161	ザリコミ	<i>Ribes maximowiczianum</i>	スグリ	CR	CR	
162	イヌハギ	<i>Lespedeza tomentosa</i>	マメ	CR	CR	VU
163	マキエハギ	<i>Lespedeza virgata</i>	マメ	CR	CR	
164	ハカマカズラ	<i>Phanera japonica</i>	マメ	CR	CR	
165	シバネム	<i>Smithia ciliata</i>	マメ	CR	EX	DD
166	ハマアズキ	<i>Vigna marina</i>	マメ	CR		
167	スナジマメ	<i>Zornia cantoniensis</i>	マメ	CR	CR	CR
168	オオヤマザクラ	<i>Cerasus sargentii</i> var. <i>sargentii</i>	バラ	DD		
169	オオウラジロノキ	<i>Malus tschonoskii</i>	バラ	CR	CR	
170	ミツモトソウ	<i>Potentilla cryptotaeniae</i>	バラ	CR	CR	
171	ゴショイチゴ	<i>Rubus chingii</i>	バラ	CR	CR	EN
172	ピロードイチゴ	<i>Rubus corchorifolius</i>	バラ	CR	CR	
173	サナギイチゴ	<i>Rubus pungens</i>	バラ	CR	CR	VU
174	クヤマグミ	<i>Elaeagnus epitricha</i>	グミ	CR	CR	CR
175	ハマナツメ	<i>Paliurus ramosissimus</i>	クロウメモドキ	CR	CR	VU
176	ネコノチチ	<i>Rhamnella franguloides</i> var. <i>franguloides</i>	クロウメモドキ	CR	CR	
177	クロイゲ	<i>Sageretia thea</i>	クロウメモドキ	CR	EX	
178	カラハナソウ	<i>Humulus lupulus</i> var. <i>cordifolius</i>	アサ	CR	CR	
179	カカツガユ	<i>Maclura cochinchinensis</i>	クワ	CR	CR	
180	コバノイラクサ	<i>Urtica laetevirens</i>	イラクサ	EN		
181	オオカラスウリ	<i>Trichosanthes laceribractea</i>	ウリ	CR	DD	
182	トサオトギリ	<i>Hypericum tosaense</i>	オトギリソウ	CR	CR	CR
183	ヒトツバエゾスミレ	<i>Viola eizanensis</i> var. <i>simplicifolia</i>	スミレ	DD		
184	サクラスミレ	<i>Viola hirtipes</i>	スミレ	EN	EN	
185	キスミレ	<i>Viola orientalis</i>	スミレ	EN	EN	
186	ノヤナギ	<i>Salix subopposita</i>	ヤナギ	CR	CR	
187	タカトウダイ	<i>Euphorbia lasiocaula</i> var. <i>lasiocaula</i>	トウダイグサ	NT		
188	ヒメビシ	<i>Trapa incisa</i>	ミソハギ	EN	EN	VU
189	ショウベンノキ	<i>Turpinia ternata</i>	ミツバウツギ	CR	CR	
190	タチスズシロソウ	<i>Arabidopsis kamchatica</i> subsp. <i>kawasakiana</i>	アブラナ	CR	CR	EN
191	ミヤマツチトリモチ	<i>Balanophora nipponica</i>	ツチトリモチ	CR	CR	VU
192	ヒメタデ	<i>Persicaria erectominor</i>	タデ	CR	CR	VU
193	マダイオウ	<i>Rumex madaio</i>	タデ	DD	DD	
194	タチハコベ	<i>Arenaria trinervia</i>	ナデシコ	CR	CR	VU
195	ヤナギイノコツチ	<i>Achyranthes longifolia</i>	ヒユ	CR	CR	
196	ツガザクラ	<i>Phyllodoce nipponica</i>	ツツジ	CR		
197	サクラツツジ	<i>Rhododendron tashiroi</i>	ツツジ	CR	CR	
198	コバンムグラ	<i>Exallage chrysotricha</i>	アカネ	CR		EN
199	ハナイカリ	<i>Halenia corniculata</i>	リンドウ	CR	CR	
200	アオカモメヅル	<i>Vincetoxicum ambiguum</i>	キョウチクトウ	EN	EN	

No.	和名	学名	科名	高知県 RL2010	高知県 RDB2000	環境省 RL2020
201	マルバチシャノキ	<i>Ehretia dicksonii</i>	ムラサキ	CR	CR	
202	ムラサキ	<i>Lithospermum murasaki</i>	ムラサキ	CR	CR	EN
203	ヤマホオズキ	<i>Archiphysalis chamaesarachoides</i>	ナス	CR	CR	EN
204	アオホオズキ	<i>Physalistrum japonicum</i>	ナス	CR	CR	VU
205	カミガモソウ	<i>Gratiola fluviatilis</i>	オオバコ	CR		EN
206	オオアブノメ	<i>Gratiola japonica</i>	オオバコ	CR	DD	VU
207	ハマクワガタ	<i>Veronica javanica</i>	オオバコ	CR	DD	VU
208	ホソバヒメトラノオ	<i>Veronica linariifolia</i> var. <i>linariifolia</i>	オオバコ	EN	EN	EN
209	ヒメトラノオ	<i>Veronica rotunda</i> var. <i>petiolata</i>	オオバコ	CR	CR	
210	イワダレソウ	<i>Phyla nodiflora</i>	クマツヅラ	CR	CR	
211	カワミドリ	<i>Agastache rugosa</i>	シソ	CR	CR	
212	ヤクシマトウバナ	<i>Clinopodium multicaule</i> var. <i>yakusimense</i>	シソ			NT
213	フトボナギナタコウジュ	<i>Elsholtzia nipponica</i>	シソ	CR	CR	
214	キセワタ	<i>Leonurus macranthus</i>	シソ	CR	CR	VU
215	ナツノタムラソウ	<i>Salvia lutescens</i> var. <i>intermedia</i>	シソ	CR		
216	ミツデコトジソウ	<i>Salvia nipponica</i> var. <i>trisecta</i>	シソ	CR	CR	
217	オカタツナミソウ	<i>Scutellaria brachyspica</i>	シソ	CR	CR	
218	ハナタツナミソウ	<i>Scutellaria iyoensis</i>	シソ	CR		
219	ヤマタツナミソウ	<i>Scutellaria pekinensis</i> var. <i>transitra</i>	シソ	EX	CR	
220	イヌゴマ	<i>Stachys aspera</i> var. <i>hispidula</i>	シソ	CR	CR	
221	バアソブ	<i>Codonopsis ussuriensis</i>	キキョウ	CR	CR	VU
222	サワギキョウ	<i>Lobelia sessilifolia</i>	キキョウ	CR	CR	
223	ガガブタ	<i>Nymphoides indica</i>	ミツガシワ	CR	CR	NT
224	マルバテイショウソウ	<i>Ainsliaea fragrans</i>	キク	CR	CR	VU
225	カワラハハコ	<i>Anaphalis margaritacea</i> var. <i>yedoensis</i>	キク	CR		
226	ワタヨモギ	<i>Artemisia gilvescens</i>	キク	DD		EN
227	ヒロハヤマヨモギ	<i>Artemisia stolonifera</i>	キク	DD	CR	NT
228	コモノギク	<i>Aster komonoensis</i>	キク	CR	CR	
229	オケラ	<i>Atractylodes ovata</i>	キク	CR	CR	
230	ヤナギアザミ	<i>Cirsium lineare</i>	キク	CR	CR	
231	ヤナギタンポポ	<i>Hieracium umbellatum</i>	キク	CR	CR	
232	カセンソウ	<i>Inula salicina</i> var. <i>asiatica</i>	キク	CR	CR	
233	アキノハハコグサ	<i>Pseudognaphalium hypoleucum</i>	キク	CR	CR	EN
234	ミヤコアザミ	<i>Saussurea maximowiczii</i>	キク	EX	EX	
235	ヤブレガサモドキ	<i>Syneilesis tagawae</i>	キク	CR	CR	EN
236	キクバヤマボクチ	<i>Synurus palmatopinnatifidus</i> var. <i>palmatopinnatifidus</i>	キク	CR	CR	
237	オヤマボクチ	<i>Synurus pungens</i> var. <i>pungens</i>	キク	CR	CR	
238	ツクシタンポポ	<i>Taraxacum kiushianum</i>	キク	EN	EN	VU
239	オニツクバネウツギ	<i>Abelia serrata</i> var. <i>tomentosa</i>	スイカズラ	CR	CR	CR
240	タカネマツムシソウ	<i>Scabiosa japonica</i> var. <i>alpina</i>	スイカズラ	CR	EN	
241	マツムシソウ	<i>Scabiosa japonica</i> var. <i>japonica</i>	スイカズラ	CR	CR	
242	カノコソウ	<i>Valeriana fauriei</i>	スイカズラ	EN		
243	トウキ	<i>Angelica acutiloba</i>	セリ	CR	CR	
244	フキヤミツバ	<i>Sanicula tuberculata</i>	セリ	CR	EX	VU
245	ヌマゼリ	<i>Sium suave</i> var. <i>nipponicum</i>	セリ	CR	CR	VU

深刻な危機（絶滅危惧IB類）：EN（230種類）

No.	和名	学名	科名	高知県 RL2010	高知県 RDB2000	環境省 RL2020
1	スギラン	<i>Phlegmariurus cryptomerinus</i>	ヒカゲノカズラ	VU	EN	VU
2	オオバシナミズニラ	<i>Isoëtes sinensis</i> var. <i>coreana</i>	ミズニラ	EN		EN
3	コケホラゴケ	<i>Crepidomanes makinoi</i>	コケシノブ	EN	EN	NT
4	コケシノブ	<i>Hymenophyllum wrightii</i>	コケシノブ	EN	EN	
5	ウチワホングウシダ	<i>Lindsaea simulans</i> nom. nud.	ホングウシダ	CR	CR	EN
6	クジャクシダ	<i>Adiantum pedatum</i>	イノモトソウ	EN	EN	
7	タキミシダ	<i>Antrophyum obovatum</i>	イノモトソウ	CR	CR	EN
8	ニシニコハチジョウシダ	<i>Pteris kiuschiuensis</i>	イノモトソウ	EN	EN	
9	エビラシダ	<i>Gymnocarpium oyamense</i>	ナヨシダ	EN	EN	
10	ヒメイトラノオ	<i>Asplenium capillipes</i>	チャセンシダ	EN	EN	
11	オクタマシダ	<i>Asplenium pseudowilfordii</i>	チャセンシダ	CR	CR	VU
12	ナンゴクホウビシダ	<i>Hymenasplenium murakami-hatanakae</i>	チャセンシダ	EN		
13	サカバイヌワラビ	<i>Athyrium reflexipinnum</i>	メシダ	CR	EN	EN
14	シマシロヤマシダ	<i>Diplazium doederleinii</i>	メシダ	CR	CR	
15	オキナワコクモウクジャク	<i>Diplazium okinawaense</i>	メシダ	CR	CR	NT
16	ヒュウガシダ	<i>Diplazium takii</i>	メシダ	EN		
17	ヒメノコギリシダ	<i>Diplazium wichurae</i> var. <i>amabile</i>	メシダ	CR	CR	NT
18	ヒメミゾシダ	<i>Thelypteris gymnocarpa</i> subsp. <i>amabilis</i>	ヒメシダ	EN		NT
19	テツホシダ	<i>Thelypteris interrupta</i>	ヒメシダ	CR	CR	
20	ケホシダ	<i>Thelypteris parasitica</i>	ヒメシダ	EN	EN	
21	ケキンモウワラビ	<i>Hypodematum glandulosopilosum</i>	キンモウワラビ	EN	EN	
22	イズヤブソテツ	<i>Cyrtomium atropunctatum</i>	オンダ	EN		
23	タニヘゴ	<i>Dryopteris tokyoensis</i>	オンダ	CR	CR	
24	ヒロハアツイタ	<i>Elaphoglossum tosaense</i>	オンダ	CR	CR	VU
25	タチデンダ	<i>Polystichum deltodon</i>	オンダ	EN	EN	
26	アイアスカイノデ	<i>Polystichum longifrons</i>	オンダ	VU	VU	
27	ククシノブ	<i>Davallia repens</i>	シノブ	EN	EN	VU
28	オオクボシダ	<i>Micropolypodium okuboii</i>	ウラボシ	EN	EN	
29	ミヤマウラボシ	<i>Selliguea veitchii</i>	ウラボシ	CR	CR	
30	サダソウ	<i>Peperomia japonica</i>	コショウ	CR	CR	
31	ツチグリカンアオイ	<i>Asarum asperum</i> var. <i>geaster</i>	ウマノスズクサ	VU	VU	
32	オモゴウテンナンショウ	<i>Arisaema iyoanum</i> subsp. <i>iyoanum</i>	サトイモ	CR	CR	EN
33	ミミガタテンナンショウ	<i>Arisaema limbatum</i>	サトイモ	EN		
34	ウラシマソウ	<i>Arisaema thunbergii</i> subsp. <i>urashima</i>	サトイモ	EN	EN	
35	スブタ	<i>Blyxa echinosperma</i>	トチカガミ	EN	CR	VU
36	オオウミヒルモ	<i>Halophila major</i>	トチカガミ	CR		
37	ヤマトウミヒルモ	<i>Halophila nipponica</i>	トチカガミ	EN		
38	ホッスモ	<i>Najas graminea</i>	トチカガミ	EN	EN	
39	トリゲモ	<i>Najas minor</i>	トチカガミ	DD		VU
40	センニンモ	<i>Potamogeton maackianus</i>	ヒルムシロ	EN	EN	
41	カワツルモ	<i>Ruppia maritima</i>	カワツルモ	CR	CR	NT
42	ネバリノギラン	<i>Aletris foliata</i>	キンコウカ	EN	EN	
43	キリシマシヤクジョウ	<i>Burmannia nepalensis</i>	ヒナノシヤクジョウ	CR	EX	VU
44	ホンゴウソウ	<i>Sciaphila nana</i>	ホンゴウソウ	CR	CR	VU
45	ウエマツソウ	<i>Sciaphila secundiflora</i>	ホンゴウソウ	CR	CR	VU
46	アワコバイモ	<i>Fritillaria muraiana</i>	ユリ	CR	CR	VU
47	ササユリ	<i>Lilium japonicum</i>	ユリ	EN	CR	
48	ジョウロウホトギス	<i>Tricyrtis macrantha</i>	ユリ	CR	CR	VU
49	ヒナラン	<i>Amitostigma gracile</i>	ラン	VU	EN	EN
50	ミヤマムギラン	<i>Bulbophyllum japonicum</i>	ラン	VU	VU	NT

No.	和名	学名	科名	高知県 RL2010	高知県 RDB2000	環境省 RL2020
51	キエビネ	<i>Calanthe citrina</i>	ラン	CR	CR	EN
52	マヤラン	<i>Cymbidium macrorhizon</i>	ラン	EN	CR	VU
53	キバナノセッコク	<i>Dendrobium catenatum</i>	ラン	EN	CR	EN
54	タシロラン	<i>Epipogium roseum</i>	ラン	CR	CR	NT
55	カシノキラン	<i>Gastrochilus japonicus</i>	ラン	EN	EN	VU
56	イヨトンボ	<i>Habenaria iyoensis</i>	ラン	EN	CR	EN
57	ミズトンボ	<i>Habenaria sagittifera</i>	ラン	EN	CR	VU
58	ヒメノヤガラ	<i>Hetaeria sikokiana</i>	ラン	VU	CR	VU
59	ホクリクムヨウラン	<i>Lecanorchis japonica</i> var. <i>hokurikuensis</i>	ラン	CR	CR	
60	エンシュウムヨウラン	<i>Lecanorchis suginoana</i>	ラン	CR	DD	
61	フガクスズムシソウ	<i>Liparis fujisanensis</i>	ラン	EN	CR	VU
62	ヒメフタバラン	<i>Neottia japonica</i>	ラン	VU	EN	
63	ミヤマモジズリ	<i>Neottianthe cucullata</i>	ラン	EN	EN	
64	ムカデラン	<i>Pelatanthera scolopendrifolia</i>	ラン	EN	EN	VU
65	ムカゴトンボ	<i>Peristylus flagellifer</i>	ラン	EN	EN	EN
66	ガンゼキラン	<i>Phaius flavus</i>	ラン	CR	CR	VU
67	ミズチドリ	<i>Platanthera hologlottis</i>	ラン	CR	CR	
68	マイサギソウ	<i>Platanthera mandarinorum</i> subsp. <i>mandarinorum</i> var. <i>macrocentron</i>	ラン	EN	EN	
69	ヤマサギソウ	<i>Platanthera mandarinorum</i> subsp. <i>mandarinorum</i> var. <i>oreades</i>	ラン	EN	EN	
70	ヤマトキシソウ	<i>Pogonia minor</i>	ラン	EN	EN	
71	ウチヨウラン	<i>Ponerorchis graminifolia</i>	ラン	EN	CR	VU
72	カゲロウラン	<i>Zeuxine agyokuana</i>	ラン	VU	CR	NT
73	コキンバイザサ	<i>Hypoxis aurea</i>	キンバイザサ	EN	EN	
74	ユウスゲ	<i>Hemerocallis citrina</i> var. <i>vespertina</i>	ワスレグサ	EN		
75	ヒメニラ	<i>Allium monanthum</i>	ヒガンバナ	EN	EX	
76	カンザシギボウシ	<i>Hosta capitata</i>	クサスギカズラ	VU		
77	ミドリヨウラク	<i>Polygonatum inflatum</i>	クサスギカズラ	CR	CR	
78	ミヤマナルコユリ	<i>Polygonatum lasianthum</i>	クサスギカズラ	EN	EN	
79	ヤマトミクリ	<i>Sparganium fallax</i>	ガマ	DD		NT
80	イトヌノヒゲ	<i>Eriocaulon decemflorum</i>	ホシクサ	EN	DD	
81	イトヌノヒゲ	<i>Eriocaulon miquelianum</i>	ホシクサ	EN	EN	
82	ゴマシオホシクサ	<i>Eriocaulon nepalense</i>	ホシクサ	CR	DD	EN
83	イトイ	<i>Juncus maximowiczii</i>	イグサ	CR	CR	
84	ハリコウガイゼキショウ	<i>Juncus wallichianus</i>	イグサ	VU		
85	イトテンツキ	<i>Bulbostylis densa</i> var. <i>capitata</i>	カヤツリグサ	EN	EN	NT
86	ワンドスゲ	<i>Carex argyi</i>	カヤツリグサ			VU
87	コイワカンスゲ	<i>Carex chrysolepis</i>	カヤツリグサ	EN		
88	ワタリスゲ	<i>Carex conicoides</i>	カヤツリグサ	CR	CR	
89	ヒメジュズスゲ	<i>Carex filipes</i> var. <i>tremula</i>	カヤツリグサ	EN	EN	
90	オクノカンスゲ	<i>Carex foliosissima</i> var. <i>foliosissima</i>	カヤツリグサ	VU	VU	
91	タイワンスゲ	<i>Carex formosensis</i>	カヤツリグサ	VU		VU
92	クロヒナスゲ	<i>Carex gifuensis</i>	カヤツリグサ	VU		
93	ホシナシゴウソ	<i>Carex maximowiczii</i> var. <i>levisaccus</i>	カヤツリグサ	DD		
94	キシユウナキリスゲ	<i>Carex nachiana</i>	カヤツリグサ	EN	EN	VU
95	ジングウスゲ	<i>Carex sacrosancta</i>	カヤツリグサ	EN	EN	NT
96	センダイスゲ	<i>Carex sendaica</i>	カヤツリグサ	EN	EN	
97	セイタカハリイ	<i>Eleocharis attenuata</i>	カヤツリグサ	VU	NT	
98	ノテンツキ	<i>Fimbristylis complanata</i>	カヤツリグサ	EN	EN	
99	コイヌノハナヒゲ	<i>Rhynchospora fujiana</i>	カヤツリグサ	CR	CR	
100	ヒメカンガレイ	<i>Schoenoplectiella mucronata</i> var. <i>mucronata</i>	カヤツリグサ	VU		VU

No.	和名	学名	科名	高知県 RL2010	高知県 RDB2000	環境省 RL2020
101	タイワンヤマイ	<i>Schoenoplectiella wallichii</i>	カヤツリグサ	EN		
102	マツカサススキ	<i>Scirpus mitsukurianus</i>	カヤツリグサ	EN	NT	
103	コウボウ	<i>Anthoxanthum nitens</i> var. <i>sachalinense</i>	イネ	VU	VU	
104	ミズタカモジグサ	<i>Elymus humidus</i>	イネ	DD	DD	VU
105	イワタケソウ	<i>Hystrix duthiei</i> subsp. <i>japonica</i>	イネ	EN	EN	
106	チシマカニツリ	<i>Trisetum sibiricum</i>	イネ	EN	EN	
107	オオバメギ	<i>Berberis tschonoskyana</i>	メギ	VU	VU	
108	サイコクイカリソウ	<i>Epimedium diphyllum</i> subsp. <i>kitamuranum</i>	メギ	EN	EN	VU
109	サンヨウブシ	<i>Aconitum sanyoense</i>	キンポウゲ	VU	VU	
110	ヤマハンショウヅル	<i>Clematis crassifolia</i>	キンポウゲ			
111	シコクハンショウヅル	<i>Clematis obvallata</i> var. <i>sikokiana</i>	キンポウゲ	EN	EN	EN
112	カザグルマ	<i>Clematis patens</i>	キンポウゲ	EN	EN	NT
113	イシツチカラマツ	<i>Thalictrum minus</i> var. <i>yamamotoi</i>	キンポウゲ	CR		EN
114	ツゲ	<i>Buxus microphylla</i> var. <i>japonica</i>	ツゲ	EN	EN	
115	コツゲ	<i>Buxus microphylla</i> var. <i>riparia</i>	ツゲ	EN		
116	マルバノキ	<i>Disanthus cercidifolius</i>	マンサク	EN	EN	
117	チダケサシ	<i>Astilbe microphylla</i>	ユキノシタ	CR	CR	
118	イワネコノメソウ	<i>Chrysosplenium echinus</i>	ユキノシタ	EN		
119	ネコノメソウ	<i>Chrysosplenium grayanum</i>	ユキノシタ	EN		
120	トサノチャルメルソウ	<i>Mitella yoshinagae</i>	ユキノシタ	EN	EN	
121	ワタナベソウ	<i>Peltoboykinia watanabei</i>	ユキノシタ	VU	VU	VU
122	メノマンネングサ	<i>Sedum japonicum</i> subsp. <i>japonicum</i> var. <i>japonicum</i>	ベンケイソウ	CR	DD	
123	フジキ	<i>Cladrastis platycarpa</i>	マメ	CR	CR	
124	ヒメノハギ	<i>Leptodesmia microphylla</i>	マメ	CR	CR	
125	シマエンジュ	<i>Maackia tashiroi</i>	マメ	CR	CR	
126	ヨツバハギ	<i>Vicia nipponica</i>	マメ	CR	EX	
127	ザイフリボク	<i>Amelanchier asiatica</i>	バラ	EN		
128	ハクロバイ	<i>Dasiphora fruticosa</i> var. <i>mandshurica</i>	バラ	CR	CR	
129	シコクシモツケソウ	<i>Filipendula tsuguwoi</i>	バラ	EN	EN	VU
130	ツルキジムシロ	<i>Potentilla stolonifera</i>	バラ	EN	EN	
131	タカネバラ	<i>Rosa nipponensis</i>	バラ	EN	EN	
132	ハスノハイチゴ	<i>Rubus peltatus</i>	バラ			NT
133	コバナノワレモコウ	<i>Sanguisorba tenuifolia</i> var. <i>tenuifolia</i>	バラ	VU	EN	
134	イヨノミツバイワガサ	<i>Spiraea blumei</i> var. <i>pubescens</i>	バラ	DD		
135	ケンポナシ	<i>Hovenia dulcis</i>	クロウメモドキ	EN	EN	
136	オヒョウ	<i>Ulmus laciniata</i>	ニレ	VU		
137	コバノチョウセンエノキ	<i>Celtis biondii</i> var. <i>biondii</i>	アサ	EN		
138	アカソ	<i>Boehmeria silvestrii</i>	イラクサ	EN	CR	
139	イワガネ	<i>Oreocnide frutescens</i>	イラクサ	CR	CR	
140	コミヤマミズ	<i>Pilea notata</i>	イラクサ	CR		
141	ハナガガシ	<i>Quercus hondae</i>	ブナ	EN	EN	VU
142	ハンノキ	<i>Alnus japonica</i>	カバノキ	CR	CR	
143	ツノハシバミ	<i>Corylus sieboldiana</i> var. <i>sieboldiana</i>	カバノキ	CR		
144	ヒロハツリバナ	<i>Euonymus macropterus</i>	ニシキギ	EN	EN	
145	ミヤマカタバミ	<i>Oxalis griffithii</i> var. <i>griffithii</i>	カタバミ	CR		
146	アゼオトギリ	<i>Hypericum oliganthum</i>	オトギリソウ	EN	EN	EN
147	ミズオトギリ	<i>Triadenum japonicum</i>	オトギリソウ	CR	CR	
148	ヒゴスミレ	<i>Viola chaerophylloides</i> var. <i>sieboldiana</i>	スミレ	EN	CR	
149	ホソバシロスミレ	<i>Viola patrinii</i> var. <i>angustifolia</i>	スミレ	EN		VU
150	サイコクキツネヤナギ	<i>Salix vulpina</i> subsp. <i>alopochroa</i>	ヤナギ	EN		

No.	和名	学名	科名	高知県 RL2010	高知県 RDB2000	環境省 RL2020
151	イブキタイゲキ	<i>Euphorbia lasiocaula</i> var. <i>ibukiensis</i>	トウダイグサ	EN		
152	ミズキンバイ	<i>Ludwigia peploides</i> subsp. <i>stipulacea</i>	アカバナ	EN	EN	VU
153	たちバナ	<i>Citrus tachibana</i>	ミカン	VU	EN	NT
154	ハマボウ	<i>Hibiscus hamabo</i>	アオイ	EN	CR	
155	シマサクラガンピ	<i>Diplomorpha pauciflora</i> var. <i>yakushimensis</i>	ジンチョウゲ	EN	EN	
156	イヌナズナ	<i>Draba nemorosa</i>	アブラナ	CR	CR	
157	オオバヤドリギ	<i>Taxillus yadoriki</i>	オオバヤドリギ	EN	CR	
158	クリンユキフデ	<i>Bistorta suffulta</i>	タデ	EN	EN	
159	ヤマミソバ	<i>Persicaria thunbergii</i> var. <i>oreophila</i>	タデ	EN		
160	ニセコガネギシギシ	<i>Rumex trisetifer</i>	タデ	DD		DD
161	テバコマンテマ	<i>Silene yanoei</i>	ナデシコ	EN	EN	VU
162	アオコウツギ	<i>Deutzia ogatae</i>	アジサイ	DD		
163	カラタチバナ	<i>Ardisia crispa</i> var. <i>crispa</i>	サクラソウ	EN	EN	
164	ツマドリソウ	<i>Lysimachia europaea</i> var. <i>europaea</i>	サクラソウ	EN	EN	
165	シャクジョウソウ	<i>Hypopitys monotropa</i>	ツツジ	EN	CR	
166	ツリガネツツジ	<i>Rhododendron benhallii</i>	ツツジ	CR	CR	
167	ヤッコソウ	<i>Mitrastemon yamamotoi</i>	ヤッコソウ	EN	EN	
168	ヒロハコンロンカ	<i>Mussaenda shikokiana</i>	アカネ	EN	CR	
169	ヘツカニガキ	<i>Sinoadina racemosa</i>	アカネ	EN	EN	
170	ホソバナツルリンドウ	<i>Pterygocalyx volubilis</i>	リンドウ	EN	CR	VU
171	ムラサキセンブリ	<i>Swertia pseudochinensis</i>	リンドウ	VU	EN	NT
172	シノノメソウ	<i>Swertia swertopsis</i>	リンドウ	EN	EN	VU
173	クサタチバナ	<i>Vincetoxicum acuminatum</i>	キョウチクトウ	EN	EN	NT
174	フナバラソウ	<i>Vincetoxicum atratum</i>	キョウチクトウ	EN	EN	VU
175	ホウヨカモメヅル	<i>Vincetoxicum hoyoense</i>	キョウチクトウ	EN		VU
176	ツクシガシワ	<i>Vincetoxicum macrophyllum</i>	キョウチクトウ	VU	VU	
177	ハマネナシカズラ	<i>Cuscuta chinensis</i>	ヒルガオ	EN		VU
178	ノアサガオ	<i>Ipomoea indica</i>	ヒルガオ	VU	VU	
179	グンバイヒルガオ	<i>Ipomoea pes-caprae</i>	ヒルガオ	EN	CR	
180	イガホオズキ	<i>Physalium echinatum</i>	ナス	EN	CR	
181	ヤマホロシ	<i>Solanum japonense</i> var. <i>japonense</i>	ナス	EN	EN	
182	オオバイボタ	<i>Ligustrum ovalifolium</i> var. <i>ovalifolium</i>	モクセイ	EN	EN	
183	シシンラン	<i>Lysionotus pauciflorus</i>	イワタバコ	EN	EN	VU
184	ムシトリスミレ	<i>Pinguicula macroceras</i>	タヌキモ	CR	CR	
185	ホザキノミミカキグサ	<i>Utricularia caerulea</i>	タヌキモ	CR	CR	
186	トサムラサキ	<i>Callicarpa shikokiana</i>	シソ	EN	EN	VU
187	ヤマクルマバナ	<i>Clinopodium chinense</i> subsp. <i>glabrescens</i>	シソ	CR	CR	
188	マネキグサ	<i>Loxocalyx ambiguus</i>	シソ	VU	VU	NT
189	エゾシロネ	<i>Lycopus uniflorus</i>	シソ	EN	EN	
190	ヤマジソ	<i>Mosla japonica</i>	シソ	VU	VU	NT
191	ヒメナミキ	<i>Scutellaria dependens</i>	シソ	CR	CR	
192	ホクリクタツナミソウ	<i>Scutellaria indica</i> var. <i>satokoae</i>	シソ			
193	たちこごめグサ	<i>Euphrasia maximowiczii</i> var. <i>maximowiczii</i>	ハマウツボ	EN	EN	
194	ナヨナヨこごめグサ	<i>Euphrasia microphylla</i>	ハマウツボ	EN	EN	VU
195	ツクシこごめグサ	<i>Euphrasia multifolia</i> var. <i>multifolia</i>	ハマウツボ	EN	EN	EN
196	ヤマウツボ (ケヤマウツボを含む)	<i>Lathraea japonica</i>	ハマウツボ	EN	EN	
197	キヨスミウツボ	<i>Phacellanthus tubiflorus</i>	ハマウツボ	EN	EN	
198	ヒキヨモギ	<i>Siphonostegia chinensis</i>	ハマウツボ	VU		
199	ヒナシャジン	<i>Adenophora maximowicziana</i>	キキョウ	EN	EN	VU
200	ツルギキョウ	<i>Codonopsis javanica</i> subsp. <i>japonica</i>	キキョウ	EN	CR	VU

No.	和名	学名	科名	高知県 RL2010	高知県 RDB2000	環境省 RL2020
201	キキョウ	<i>Platycodon grandiflorus</i>	キキョウ	VU	NT	VU
202	テイショウソウ	<i>Ainsliaea cordifolia</i> var. <i>cordifolia</i>	キク	EN	EN	
203	ヒロハテイショウソウ	<i>Ainsliaea cordifolia</i> var. <i>maruoi</i>	キク	CR		
204	ソナレノギク	<i>Aster hispidus</i> var. <i>insularis</i>	キク	EN	EN	
205	ツルギカンギク	<i>Chrysanthemum indicum</i> var. <i>tsurugisanense</i>	キク	EN		
206	イシダテアザミ	<i>Cirsium ishidatense</i>	キク	CR		
207	フジバカマ	<i>Eupatorium japonicum</i>	キク	CR	CR	NT
208	スイラン	<i>Hololeion krameri</i>	キク	NT		
209	ホソバオグルマ	<i>Inula linariifolia</i>	キク	CR	CR	VU
210	キダチハマグルマ	<i>Melanthera biflora</i>	キク	CR		
211	オオハマグルマ	<i>Melanthera robusta</i>	キク	EN	EN	
212	ヤマタイミンガサ	<i>Parasenecio yatabei</i> var. <i>yatabei</i>	キク	VU		
213	オオダイトウヒレン	<i>Saussurea nipponica</i>	キク	VU	VU	
214	キリシマヒゴタイ	<i>Saussurea scaposa</i>	キク	CR	CR	
215	トサトウヒレン	<i>Saussurea yoshinagae</i>	キク	EN	EN	VU
216	キオン	<i>Senecio nemorensis</i>	キク	CR	CR	
217	タムラソウ	<i>Serratula coronata</i> subsp. <i>insularis</i>	キク	EN	EN	
218	ヤマボクチ	<i>Synurus palmatopinnatifidus</i> var. <i>indivisus</i>	キク	CR	CR	
219	ヤマザトタンポポ	<i>Taraxacum denudatum</i> var. <i>arakii</i>	キク	CR	CR	NT
220	サワオグルマ	<i>Tephroses pierotii</i>	キク	EN	CR	
221	ゴマギ	<i>Viburnum sieboldii</i> var. <i>sieboldii</i>	ガマズミ	EN		
222	ウスバヒョウタンボク	<i>Lonicera cerasina</i>	スイカズラ	EN	CR	VU
223	ミヤマウグイスカグラ	<i>Lonicera gracilipes</i> var. <i>glandulosa</i>	スイカズラ	EN		
224	ヤマウグイスカグラ	<i>Lonicera gracilipes</i> var. <i>gracilipes</i>	スイカズラ	EN	CR	
225	ヤマヒョウタンボク	<i>Lonicera mochidzukiana</i> var. <i>nomurana</i>	スイカズラ	EN	EN	
226	ヒメノダケ	<i>Angelica cartilaginomarginata</i> var. <i>cartilaginomarginata</i>	セリ	EN	EN	
227	ミシマサイコ	<i>Bupleurum falcatum</i>	セリ	VU	EN	VU
228	ツルギハナウド	<i>Heracleum sphondylium</i> var. <i>tsurugisanense</i>	セリ	VU	VU	EN
229	ヤマゼリ	<i>Ostericum sieboldii</i>	セリ	CR	CR	
230	ムカゴニンジン	<i>Sium ninsi</i>	セリ	VU	VU	

危急（絶滅危惧Ⅱ類）：VU（201種類）

No.	和名	学名	科名	高知県 RL2010	高知県 RDB2000	環境省 RL2020
1	ヒメスギラン	<i>Huperzia miyoshiana</i>	ヒカゲノカズラ	EN	EN	
2	クサマルハチ	<i>Cyathea hancockii</i>	ヘゴ	EN	EN	
3	ホウライシダ	<i>Adiantum capillus-veneris</i>	イノモトソウ	VU	VU	
4	ナカミシシラン	<i>Haplopteris fudzinoi</i>	イノモトソウ	VU	VU	
5	ハチジョウシダ	<i>Pteris fauriei</i>	イノモトソウ	VU	VU	
6	アイコハチジョウシダ	<i>Pteris laurisilvicola</i>	イノモトソウ	VU	EN	
7	ヤワラハチジョウシダ	<i>Pteris natiensis</i>	イノモトソウ	EN	EN	EN
8	イワヤシダ	<i>Diplaziopsis cavaleriana</i>	イワヤシダ	VU	CR	
9	クログネシダ	<i>Asplenium coenobiale</i>	チャセンシダ	EN	EN	VU
10	イチョウシダ	<i>Asplenium ruta-muraria</i>	チャセンシダ	VU	VU	NT
11	オサシダ	<i>Blechnum amabile</i>	シシガシラ	CR	CR	
12	テバコワラビ	<i>Athyrium atkinsonii</i>	メシダ	VU		VU
13	キリシマヘビノネゴザ	<i>Athyrium kirishimaense</i>	メシダ	VU		
14	ツクシイヌワラビ	<i>Athyrium kuratae</i>	メシダ	VU		
15	サキモリイヌワラビ	<i>Athyrium oblitescens</i>	メシダ	VU		
16	ニセコクモウクジャク	<i>Diplazium conterminum</i>	メシダ	VU	CR	
17	オオバミヤマノコギリシダ	<i>Diplazium hayatamae</i>	メシダ	VU		
18	トサノミゾシダモドキ	<i>Thelypteris flexilis</i>	ヒメシダ	EN	EN	VU
19	ヨコグラヒメワラビ	<i>Thelypteris hattorii</i>	ヒメシダ	VU		
20	イワハリガネワラビ	<i>Thelypteris musashiensis</i>	ヒメシダ	VU		
21	ハガクレカナワラビ	<i>Arachniodes yasui-noeii</i> var. <i>yasui-noeii</i>	オシダ	VU		VU
22	ハチジョウベニシダ	<i>Dryopteris caudipinna</i>	オシダ	VU		
23	ツクシイワヘゴ	<i>Dryopteris commixta</i>	オシダ	VU	VU	
24	ニセゴレイタチシダ	<i>Dryopteris hadanoi</i>	オシダ	VU	EN	NT
25	ワカナシダ	<i>Dryopteris kuratae</i>	オシダ	VU	VU	
26	キヨズミオオクジャク	<i>Dryopteris namegatae</i>	オシダ	VU	VU	
27	オワセベニシダ	<i>Dryopteris ryo-itoana</i>	オシダ	VU		
28	ナガサキシダ	<i>Dryopteris sieboldii</i>	オシダ	NT		
29	ヌカイタチシダマガイ	<i>Dryopteris simasakii</i>	オシダ	VU		
30	チャボイノデ	<i>Polystichum igaense</i>	オシダ	VU	VU	
31	イワオモダカ	<i>Pyrrosia hastata</i>	ウラボシ	VU		
32	トガサワラ	<i>Pseudotsuga japonica</i>	マツ	VU	VU	VU
33	コメツガ	<i>Tsuga diversifolia</i>	マツ	VU	VU	
34	ミヤマビャクシン	<i>Juniperus chinensis</i> var. <i>sargentii</i>	ヒノキ	VU	VU	
35	ネズ	<i>Juniperus rigida</i>	ヒノキ	VU	VU	
36	クロベ	<i>Thuja standishii</i>	ヒノキ	VU	VU	
37	コウホネ	<i>Nuphar japonica</i>	スイレン	EN	EN	
38	ミヤコアオイ	<i>Asarum asperum</i> var. <i>asperum</i>	ウマノスズクサ	VU	VU	
39	ヒメカンアオイ	<i>Asarum fauriei</i> var. <i>takaoi</i>	ウマノスズクサ	VU	VU	
40	ホシザキカンアオイ	<i>Asarum sakawanum</i> var. <i>stellatum</i>	ウマノスズクサ	EN	EN	EN
41	ショウブ	<i>Acorus calamus</i>	ショウブ	VU	VU	
42	クワズイモ	<i>Alocasia odora</i>	サトイモ	VU	VU	
43	マイヅルテンナンショウ	<i>Arisaema heterophyllum</i>	サトイモ	VU	EX	VU
44	シコクテンナンショウ	<i>Arisaema iyoanum</i> subsp. <i>nakaianum</i>	サトイモ	VU	EN	EN
45	ナンゴクウラシマソウ	<i>Arisaema thunbergii</i> subsp. <i>thunbergii</i>	サトイモ	VU	EN	
46	ヤナギスブタ	<i>Blyxa japonica</i>	トチカガミ	VU		
47	ミズオオバコ	<i>Ottelia alismoides</i>	トチカガミ	VU	VU	VU
48	シバナ	<i>Triglochin asiatica</i>	シバナ	VU	VU	NT
49	アマモ	<i>Zostera marina</i>	アマモ	VU		
50	リュウノヒゲモ	<i>Stuckenia pectinata</i>	ヒルムシロ	VU	VU	NT

No.	和名	学名	科名	高知県 RL2010	高知県 RDB2000	環境省 RL2020
51	シロシヤクジョウ	<i>Burmanna cryptopetala</i>	ヒナノシヤクジョウ	CR	CR	
52	チャボシライトソウ	<i>Chionographis koidzumiana</i>	シュロソウ	VU	EN	VU
53	トサコバイモ	<i>Fritillaria shikokiana</i>	ユリ	VU	EN	VU
54	エビネ	<i>Calanthe discolor</i>	ラン	VU	CR	NT
55	ナツエビネ	<i>Calanthe puberula</i>	ラン	VU	VU	VU
56	キンラン	<i>Cephalanthera falcata</i>	ラン	VU	VU	VU
57	クマガイソウ	<i>Cypripedium japonicum</i>	ラン	CR	CR	VU
58	ベニカヤラン	<i>Gastrochilus matsuran</i>	ラン	VU	VU	VU
59	アキザキヤツシロラン	<i>Gastrodia confusa</i>	ラン	VU	CR	
60	ヤクシマアカシユスラン	<i>Hetaeria yakusimensis</i>	ラン	VU	CR	VU
61	ヤクシマヒメアリドオシラン	<i>Odontochilus yakushimensis</i>	ラン			NT
62	コオロギラン	<i>Stigmatodactylus sikokianus</i>	ラン	VU	CR	VU
63	ヒトツボクロ	<i>Tipularia japonica</i>	ラン	VU	EN	
64	キンバイザサ	<i>Curculigo orchioides</i>	キンバイザサ	VU	VU	
65	ヒメイワギボウシ	<i>Hosta longipes</i> var. <i>gracillima</i>	クサスギカズラ	VU	VU	
66	ユキザサ	<i>Maianthemum japonicum</i>	クサスギカズラ	VU	VU	
67	ピロウ	<i>Livistona chinensis</i> var. <i>subglobosa</i>	ヤシ	EN	EN	
68	ミクリ	<i>Sparganium erectum</i> var. <i>erectum</i>	ガマ	CR	CR	NT
69	オオミクリ	<i>Sparganium erectum</i> var. <i>macrocarpum</i>	ガマ	VU		VU
70	ナガエミクリ	<i>Sparganium japonicum</i>	ガマ	VU	CR	NT
71	ニツポインヌノヒゲ	<i>Eriocaulon taquetii</i>	ホシクサ	VU		
72	クロボシソウ	<i>Luzula plumosa</i> subsp. <i>dilatata</i>	イグサ	VU		
73	マツバスゲ	<i>Carex biwensis</i>	カヤツリグサ	NT	NT	
74	ミヤマジュズスゲ	<i>Carex dissitiflora</i>	カヤツリグサ	VU		
75	ミセンアオスゲ	<i>Carex horikawae</i>	カヤツリグサ	VU		
76	キノクニスゲ	<i>Carex matsumurae</i>	カヤツリグサ	VU	VU	NT
77	ミヤマイワスゲ	<i>Carex odontostoma</i>	カヤツリグサ	VU		VU
78	オタルスゲ	<i>Carex otaruensis</i>	カヤツリグサ	VU	VU	
79	ツルミヤマカンスゲ	<i>Carex shikokiana</i>	カヤツリグサ	VU		
80	トサノハマスゲ	<i>Cyperus rotundus</i> var. <i>yoshinagae</i>	カヤツリグサ	CR	CR	EN
81	ヌマハリイ	<i>Eleocharis mamillata</i> var. <i>cyclocarpa</i>	カヤツリグサ	EN	EN	
82	マシカクイ	<i>Eleocharis tetraquetra</i>	カヤツリグサ	EN	EN	
83	シオカゼテンツキ	<i>Fimbristylis cymosa</i>	カヤツリグサ	VU	VU	
84	イソテンツキ	<i>Fimbristylis pacifica</i>	カヤツリグサ	VU	VU	
85	ヒメホタルイ	<i>Schoenoplectiella lineolata</i>	カヤツリグサ	VU	VU	
86	エゾアブラガヤ	<i>Scirpus asiaticus</i>	カヤツリグサ	EN	EN	
87	ミヤマヌカボ	<i>Agrostis flaccida</i>	イネ	VU		
88	アオウシノケグサ	<i>Festuca ovina</i> var. <i>coreana</i>	イネ	VU	VU	
89	トキワススキ	<i>Miscanthus floridulus</i>	イネ	EN		
90	オオネズミガヤ	<i>Muhlenbergia longistolon</i>	イネ	VU		
91	ムカゴツツリ	<i>Poa tuberifera</i>	イネ	VU	EN	
92	オニシバ	<i>Zoysia macrostachya</i>	イネ	VU		
93	ルイヨウボタン	<i>Caulophyllum robustum</i>	メギ	VU	VU	
94	ルイヨウショウマ	<i>Actaea asiatica</i>	キンボウゲ	VU		
95	ニリンソウ	<i>Anemone flaccida</i> var. <i>flaccida</i>	キンボウゲ	VU		
96	シコクバイカオウレン	<i>Coptis quinquefolia</i> var. <i>shikokumontana</i>	キンボウゲ			
97	コキンボウゲ	<i>Ranunculus japonicus</i> var. <i>rostratus</i>	キンボウゲ	DD		
98	タマカラマツ	<i>Thalictrum watanabei</i>	キンボウゲ	EN	EN	VU
99	フッキソウ	<i>Pachysandra terminalis</i>	ツゲ	VU	VU	
100	キリシマミズキ	<i>Corylopsis glabrescens</i>	マンサク	VU	VU	NT

No.	和名	学名	科名	高知県 RL2010	高知県 RDB2000	環境省 RL2020
101	ヤシヤビシヤク	<i>Ribes ambiguum</i>	スグリ	EN	CR	NT
102	シコクドリアシショウマ	<i>Astilbe thunbergii</i> var. <i>shikokiana</i>	ユキノシタ	VU		
103	チャボツメレンゲ	<i>Meterostachys sikokianus</i>	ベンケイソウ	VU	VU	VU
104	トキリマメ	<i>Rhynchosia acuminatifolia</i>	マメ	VU		
105	ツルフジバカマ	<i>Vicia amoena</i>	マメ	VU	VU	
106	ヒナノキンチャク	<i>Polygala tatarinowii</i>	ヒメハギ	CR	CR	EN
107	ヒナノカンザシ	<i>Salomonina ciliata</i>	ヒメハギ	CR	CR	
108	チョウセンキンミズヒキ	<i>Agrimonia coreana</i>	バラ	VU		VU
109	アズキナシ	<i>Aria alnifolia</i>	バラ	VU	VU	
110	イシツチザクラ	<i>Cerasus shikokuensis</i>	バラ	VU	NT	
111	テリハキンバイ	<i>Potentilla riparia</i>	バラ	VU	CR	
112	マルバアキグミ	<i>Elaeagnus umbellata</i> var. <i>rotundifolia</i>	グミ	VU		
113	クロカンバ	<i>Rhamnus costata</i>	クロウメモドキ	VU	VU	
114	キビノクロウメモドキ	<i>Rhamnus yoshinoi</i>	クロウメモドキ	VU	NT	VU
115	ヒカゲミズ (タチゲヒカゲミズを含む)	<i>Parietaria micrantha</i>	イラクサ			VU
116	シラヒゲソウ	<i>Parnassia foliosa</i> var. <i>foliosa</i>	ニシキギ	EN		
117	トモエソウ	<i>Hypericum ascyron</i> var. <i>ascyron</i>	オトギリソウ	VU	EN	
118	アケボノスミレ	<i>Viola rossii</i>	スミレ	EN	DD	
119	ミヤマスミレ	<i>Viola selkirkii</i>	スミレ	VU		
120	ヒナスミレ	<i>Viola tokubuchiana</i> var. <i>takedana</i>	スミレ	EN		
121	ヒメフウロ	<i>Geranium robertianum</i>	フウロソウ	VU	VU	
122	ケナシエゾミソハギ	<i>Lythrum salicaria</i> f. <i>glabrum</i>	ミソハギ	VU		
123	ケミヤマタニタデ	<i>Circaea alpina</i> subsp. <i>caulescens</i>	アカバナ	VU		
124	トダイアカバナ	<i>Epilobium platystigmatosum</i>	アカバナ	VU	VU	VU
125	ヒメノボタン	<i>Osbeckia chinensis</i>	ノボタン	EN	EN	VU
126	メグスリノキ	<i>Acer maximowiczianum</i>	ムクロジ	VU		
127	チョウセンナニワズ	<i>Daphne pseudomezereum</i> var. <i>koreana</i>	ジンチョウゲ	VU	VU	VU
128	オニシバリ	<i>Daphne pseudomezereum</i> var. <i>pseudomezerum</i>	ジンチョウゲ	VU		
129	ハクサンハタザオ	<i>Arabidopsis halleri</i> subsp. <i>gemmaifera</i> var. <i>senanensis</i>	アブラナ	CR		
130	スズシロソウ	<i>Arabis flagellosa</i> var. <i>flagellosa</i>	アブラナ	NT		
131	ミツバコンロンソウ	<i>Cardamine anemonoides</i>	アブラナ	VU		
132	コイヌガラシ	<i>Rorippa cantoniensis</i>	アブラナ	VU	EX	NT
133	キイレツチトリモチ	<i>Balanophora tobiracola</i>	ツチトリモチ			
134	ツクバネ	<i>Buckleya lanceolata</i>	ビャクダン	VU		
135	ハマサジ	<i>Limonium tetragonum</i>	イソマツ	VU	NT	NT
136	ホソバノウナギツカミ	<i>Persicaria praetermissa</i>	タデ	VU	NT	
137	ヌカボタデ	<i>Persicaria taquetii</i>	タデ	EN	NT	VU
138	アキノミチヤナギ	<i>Polygonum polyneuron</i>	タデ	VU	CR	
139	オオヤマフスマ	<i>Arenaria lateriflora</i>	ナデシコ	VU	VU	
140	フシグロセンノウ	<i>Silene miqueliana</i>	ナデシコ	VU	VU	
141	ホソバノハマアカザ	<i>Atriplex patens</i>	ヒユ	EN		
142	ハママツナ	<i>Suaeda maritima</i> subsp. <i>asiatica</i>	ヒユ	VU	VU	
143	キレンゲショウマ	<i>Kirengeshoma palmata</i>	アジサイ	VU	VU	VU
144	イワザクラ	<i>Primula tosaensis</i> var. <i>tosaensis</i>	サクラソウ	EN	EN	NT
145	ヒロハノミズバイ	<i>Symplocos tanakae</i>	ハイノキ	VU	VU	
146	イワカガミ	<i>Schizocodon soldanelloides</i> var. <i>soldanelloides</i>	イワウメ	EN	EN	
147	コアブラツツジ	<i>Enkianthus nudipes</i>	ツツジ	VU	VU	
148	アカモノ	<i>Gaultheria adenothrix</i>	ツツジ	VU	VU	
149	マルバノイチヤクソウ	<i>Pyrola nephrophylla</i>	ツツジ	VU		
150	ツクシアケボノツツジ	<i>Rhododendron pentaphyllum</i> var. <i>pentaphyllum</i>	ツツジ	VU		NT

No.	和名	学名	科名	高知県 RL2010	高知県 RDB2000	環境省 RL2020
151	バイカツツジ	<i>Rhododendron semibarbatum</i>	ツツジ	VU	VU	
152	エゾノヨツバムグラ	<i>Galium kamtschaticum</i> var. <i>kamtschaticum</i>	アカネ	VU		
153	キクムグラ	<i>Galium kikumugura</i>	アカネ	VU	VU	
154	イヌセンブリ	<i>Swertia tosaensis</i>	リンドウ	VU	EN	VU
155	イケマ	<i>Cynanchum caudatum</i>	キョウチクトウ	VU	VU	
156	インダテクサタチバナ	<i>Vincetoxicum calcareum</i>	キョウチクトウ	EN	EN	VU
157	タチカモメヅル	<i>Vincetoxicum glabrum</i>	キョウチクトウ	NT	NT	
158	クサナギオゴケ	<i>Vincetoxicum katoi</i>	キョウチクトウ	DD	EN	VU
159	ホタルカズラ	<i>Aegonychon zollingeri</i>	ムラサキ	VU	VU	
160	チシャノキ	<i>Ehretia acuminata</i> var. <i>obovata</i>	ムラサキ	VU	CR	
161	サイコクイボタ	<i>Ligustrum ibota</i>	モクセイ	VU	VU	
162	イワギリソウ	<i>Opithandra primuloides</i>	イワタバコ	EN	EN	VU
163	キクガラクサ	<i>Ellisiophyllum pinnatum</i>	オオバコ	EN	EN	NT
164	イヌノフグリ	<i>Veronica polita</i>	オオバコ	VU	NT	VU
165	オオヒナノウスツボ	<i>Scrophularia kakudensis</i>	ゴマノハグサ	VU	EN	
166	シソバウリクサ	<i>Vandellia setulosa</i>	アゼナ	CR	CR	
167	スズムシバナ	<i>Strobilanthes oligantha</i>	キツネノマゴ	VU	EN	
168	ラショウモンカズラ	<i>Meehania urticifolia</i>	シソ	VU	VU	
169	コナミキ	<i>Scutellaria guilielmii</i>	シソ	CR	CR	VU
170	ミヤマナミキ	<i>Scutellaria shikokiana</i> var. <i>shikokiana</i>	シソ	VU		
171	オオナンバンギセル	<i>Aeginetia sinensis</i>	ハマウツボ	VU		
172	ゴマクサ	<i>Centranthera cochinchinensis</i> var. <i>lutea</i>	ハマウツボ	CR	CR	VU
173	ハマウツボ	<i>Orobanche coerulescens</i>	ハマウツボ	VU	EX	VU
174	ツゲモチ	<i>Ilex goshiensis</i>	モチノキ	VU	VU	
175	ツルツゲ	<i>Ilex rugosa</i> var. <i>rugosa</i>	モチノキ	VU		
176	ソバナ	<i>Adenophora remotiflora</i>	キキョウ	VU	VU	
177	ヤハズハハコ	<i>Anaphalis sinica</i> var. <i>sinica</i>	キク	NT		
178	ヤナギノギク	<i>Aster hispidus</i> var. <i>leptocladus</i>	キク	NT	NT	VU
179	シコクシロギク	<i>Aster yoshinaganus</i>	キク	VU	VU	
180	コバナガンクビソウ	<i>Carpesium faberi</i>	キク	VU	VU	VU
181	イワギク	<i>Chrysanthemum zawadskii</i>	キク	CR	CR	VU
182	マルバダケブキ	<i>Ligularia dentata</i>	キク	CR	CR	
183	ミヤマコウモリソウ	<i>Parasenecio farfarifolius</i> var. <i>acerinus</i>	キク			EN
184	ヒメコウモリソウ	<i>Parasenecio shikokianus</i>	キク	VU	VU	VU
185	コウシュウヒゴタイ	<i>Saussurea amabilis</i>	キク	VU	VU	
186	ホクチアザミ	<i>Saussurea gracilis</i>	キク	DD	CR	
187	ミヤマトウヒレン	<i>Saussurea pennata</i>	キク	EN	EN	
188	キビシロタンポポ	<i>Taraxacum hideoi</i>	キク			
189	カンサイタンポポ	<i>Taraxacum japonicum</i>	キク	CR	CR	
190	クシバタンポポ	<i>Taraxacum pectinatum</i>	キク	CR	CR	
191	ウラギク	<i>Tripolium pannonicum</i>	キク	VU	NT	NT
192	キダチニンドウ	<i>Lonicera hypoglauca</i>	スイカズラ	VU		
193	コウグイスカグラ	<i>Lonicera ramosissima</i> var. <i>ramosissima</i>	スイカズラ	VU	VU	
194	ウラジロウコギ	<i>Eleutherococcus hypoleucus</i>	ウコギ	VU		
195	ヤマウコギ	<i>Eleutherococcus spinosus</i> var. <i>spinosus</i>	ウコギ	VU		
196	ホソバチクセツニンジン	<i>Panax japonicus</i> var. <i>angustatus</i>	ウコギ	VU		
197	ミヤマノダケ	<i>Angelica cryptotaeniifolia</i>	セリ			CR
198	ヒュウガセンキュウ	<i>Angelica minamitanii</i>	セリ			CR
199	イシツチボウフウ	<i>Angelica saxicola</i>	セリ	EN	EN	CR
200	トサボウフウ	<i>Angelica yoshinagae</i>	セリ	VU	VU	VU
201	イブキボウフウ	<i>Libanotis coreana</i> var. <i>coreana</i>	セリ	VU	VU	

準絶滅危惧：NT（93種類）

No.	和名	学名	科名	高知県 RL2010	高知県 RDB2000	環境省 RL2020
1	シチトウハナワラビ	<i>Botrychium atrovirens</i>	ハナヤスリ	NT		
2	ヒロハハナヤスリ	<i>Ophioglossum vulgatum</i>	ハナヤスリ	NT		
3	リュウビンタイ	<i>Angiopteris lygodiiifolia</i>	リュウビンタイ	CR	CR	
4	ヤマドリゼンマイ	<i>Osmundastrum cinnamomeum</i> var. <i>fokiense</i>	ゼンマイ	NT	NT	
5	アカウキクサ	<i>Azolla pinnata</i> subsp. <i>asiatica</i>	サンショウモ	NT	EN	EN
6	エビガラシダ	<i>Cheilanthes chusana</i>	イノモトソウ	NT	NT	VU
7	ハチジョウシダモドキ	<i>Pteris oshimensis</i>	イノモトソウ	NT	VU	
8	コガネシダ	<i>Woodsia macrochlaena</i>	イワデンダ	NT		
9	イワデンダ	<i>Woodsia polystichoides</i>	イワデンダ	NT		
10	ハコネシケチシダ	<i>Athyrium christensenianum</i>	メシダ	NT		
11	サトメシダ	<i>Athyrium deltoidofrons</i>	メシダ	NT		
12	アミシダ	<i>Thelypteris griffithii</i> var. <i>wilfordii</i>	ヒメシダ	VU	EN	
13	ギフベニシダ	<i>Dryopteris kinkiensis</i>	オシダ	NT		
14	オリヅルシダ	<i>Polystichum lepidocaulon</i>	オシダ	VU		
15	ホテイシダ	<i>Lepisorus annuifrons</i>	ウラボシ	NT		
16	カラクサシダ	<i>Pleurosoriopsis makinoi</i>	ウラボシ	NT		
17	トサノアオイ	<i>Asarum costatum</i>	ウmanosズクサ	VU	VU	NT
18	クロフネサイシン	<i>Asarum dimidiatum</i>	ウmanosズクサ	VU	VU	NT
19	サンヨウアオイ	<i>Asarum hexalobum</i> var. <i>hexalobum</i>	ウmanosズクサ	NT	NT	
20	コウキクサ	<i>Lemna minor</i>	サトイモ	NT		
21	シロバナエンレイソウ	<i>Trillium tschonoskii</i>	シュロソウ	NT	NT	
22	マルバサンキライ	<i>Smilax stans</i>	サルトリイバラ	NT		
23	マメツタラン	<i>Bulbophyllum drymoglossum</i>	ラン	NT	NT	NT
24	クロヤツシロラン	<i>Gastrodia pubilabiata</i>	ラン	NT	CR	
25	ウスキムヨウラン	<i>Lecanorchis kiusiana</i>	ラン	NT	EN	
26	クロムヨウラン	<i>Lecanorchis nigricans</i> var. <i>nigricans</i>	ラン	NT	VU	
27	ムカゴサイシン	<i>Nervilia nipponica</i>	ラン	EN	CR	EN
28	フウラン	<i>Vanda falcata</i>	ラン	VU	VU	VU
29	コバギボウシ	<i>Hosta sieboldii</i>	クサスギカズラ	NT		
30	クロホシクサ	<i>Eriocaulon parvum</i>	ホシクサ	NT	NT	VU
31	ホソイ	<i>Juncus setchuensis</i>	イグサ	NT	DD	
32	クジュウスゲ	<i>Carex alterniflora</i> var. <i>elongatula</i>	カヤツリグサ	CR	CR	
33	サナギスゲ	<i>Carex grallatoria</i> var. <i>heteroclita</i>	カヤツリグサ	NT	NT	
34	タカネマスクサ	<i>Carex planata</i> var. <i>planata</i>	カヤツリグサ	EN	EN	
35	チャボイ	<i>Eleocharis parvula</i>	カヤツリグサ	NT		VU
36	ナガボテンツキ	<i>Fimbristylis longispica</i>	カヤツリグサ	NT		
37	ピロードテンツキ	<i>Fimbristylis sericea</i>	カヤツリグサ	EN	EN	
38	イガクサ	<i>Rhynchospora rubra</i>	カヤツリグサ	NT	VU	
39	コシンジュガヤ	<i>Scleria parvula</i>	カヤツリグサ	NT		
40	ヒメコヌカグサ	<i>Agrostis valvata</i>	イネ	NT	EN	NT
41	ウンヌケモドキ	<i>Eulalia quadrinervis</i>	イネ	NT	EN	NT
42	チイサンウシノケグサ	<i>Festuca ovina</i> var. <i>chiisanensis</i>	イネ	VU	VU	VU
43	コバノウシノシツペイ	<i>Hemarthria compressa</i>	イネ	NT		
44	アシカキ	<i>Leersia japonica</i>	イネ	NT		
45	ハイキビ	<i>Panicum repens</i>	イネ	EN	EN	
46	アイアシ	<i>Phacelurus latifolius</i>	イネ	NT	EN	
47	ナガミノオニシバ	<i>Zoysia sinica</i> var. <i>nipponica</i>	イネ	NT	NT	
48	バイカイカリソウ	<i>Epimedium diphylum</i>	メギ	NT	NT	
49	ヤチマタイカリソウ	<i>Epimedium grandiflorum</i> var. <i>grandiflorum</i>	メギ	NT	NT	NT
50	ヒメイカリソウ	<i>Epimedium trifoliatobinatum</i>	メギ	NT		

No.	和名	学名	科名	高知県 RL2010	高知県 RDB2000	環境省 RL2020
51	ヒメイチゲ	<i>Anemone debilis</i>	キンボウゲ	EN	EN	
52	トリガタハンショウヅル	<i>Clematis tosaensis</i>	キンボウゲ	NT		
53	コセリバオウレン	<i>Coptis japonica</i> var. <i>japonica</i>	キンボウゲ	EN	EN	
54	センダイソウ	<i>Saxifraga sendaica</i>	ユキノシタ	VU	VU	NT
55	ツメレンゲ	<i>Orostachys japonica</i>	ベンケイソウ	NT	NT	NT
56	ヤハズマンネングサ	<i>Sedum tosaense</i>	ベンケイソウ	NT	EN	VU
57	タコノアシ	<i>Penthorum chinense</i>	タコノアシ	NT	NT	NT
58	シコクエビラフジ	<i>Vicia venosa</i> subsp. <i>yamanakae</i>	マメ	VU		
59	ツルキンバイ	<i>Potentilla rosulifera</i>	バラ	CR		
60	コウヤグミ	<i>Elaeagnus numajiriana</i>	グミ	NT	EN	
61	ヨコグラノキ	<i>Berchemiella berchemiifolia</i>	クロウメモドキ	NT	VU	
62	キバナノコマノツメ	<i>Viola biflora</i> var. <i>biflora</i>	スミレ	VU	VU	
63	オノエヤナギ	<i>Salix udensis</i>	ヤナギ	NT	EN	
64	ミズマツバ	<i>Rotala mexicana</i>	ミソハギ	NT	VU	VU
65	ミズキカシグサ	<i>Rotala rosea</i>	ミソハギ	NT	CR	VU
66	ウシタキシソウ	<i>Circaea cordata</i>	アカバナ	NT		
67	ナガバノウナギツカミ	<i>Persicaria hastatosagittata</i>	タデ	NT		NT
68	オオネバリタデ	<i>Persicaria viscofera</i> var. <i>robusta</i>	タデ	NT	EN	
69	コギシギシ	<i>Rumex dentatus</i> subsp. <i>klotzschianus</i>	タデ	NT	VU	VU
70	コモウセンゴケ	<i>Drosera spatulata</i>	モウセンゴケ	NT	NT	
71	マルミノヤマゴボウ	<i>Phytolacca japonica</i>	ヤマゴボウ	NT	EN	
72	ユキワリソウ	<i>Primula modesta</i> var. <i>modesta</i>	サクラソウ	EN	EN	
73	ドウダンツツジ	<i>Enkianthus perulatus</i>	ツツジ	NT	EN	
74	スズサイコ	<i>Vincetoxicum pycnostelma</i>	キョウチクトウ	NT	EN	NT
75	マルバノサワトウガラシ	<i>Deinostema adenocaulum</i>	オオバコ	NT	CR	VU
76	トラノオスズカケ	<i>Veronicastrum axillare</i>	オオバコ	NT	VU	
77	ミミカキグサ	<i>Utricularia bifida</i>	タヌキモ	NT	EN	
78	ミヤマヒキオコシ	<i>Isodon shikokianus</i> var. <i>shikokianus</i>	シソ	VU	VU	
79	コシロネ	<i>Lycopus cavaleriei</i>	シソ			
80	ミズネコノオ	<i>Pogostemon stellatus</i>	シソ	NT	NT	NT
81	ミゾコウジュ	<i>Salvia plebeia</i>	シソ	NT	VU	NT
82	スズメハコベ	<i>Microcarpaea minima</i>	ハエドクソウ	NT	CR	VU
83	シュンジュギク	<i>Aster savatieri</i> var. <i>pygmaeus</i>	キク	NT	VU	
84	ミヤマヤブタバコ	<i>Carpesium triste</i>	キク	NT		
85	トゲアザミ	<i>Cirsium japonicum</i> var. <i>horridum</i>	キク	NT	NT	
86	ヤマヒヨドリ	<i>Eupatorium variable</i>	キク	VU	EN	
87	ヒメヒゴタイ	<i>Saussurea pulchella</i>	キク	NT	VU	VU
88	オオトウヒレン	<i>Saussurea sikokiana</i>	キク	VU	VU	
89	クマノギク	<i>Sphagneticola calendulacea</i>	キク	NT	NT	
90	イワツクバネウツギ	<i>Zabelia integrifolia</i>	スイカズラ	NT	NT	VU
91	イヌトウキ	<i>Angelica shikokiana</i>	セリ	NT	NT	VU
92	シャク	<i>Anthriscus sylvestris</i>	セリ	EN	CR	
93	ハマゼリ	<i>Cnidium japonicum</i>	セリ	NT	NT	

情報不足：DD (49 種類)

No.	和名	学名	科名	高知県 RL2010	高知県 RDB2000	環境省 RL2020
1	エゾノヒメクラマゴケ	<i>Selaginella helvetica</i>	イワヒバ	DD	CR	
2	タチクラマゴケ	<i>Selaginella nipponica</i>	イワヒバ	DD	DD	
3	アカハナワラビ	<i>Botrychium nipponicum</i>	ハナヤスリ			
4	アイノコホラシノブ	<i>Odontosoria intermedia</i>	ホングウシダ	DD		
5	セイタカイワヒメワラビ	<i>Hypolepis alpina</i>	コバノイシカグマ	DD		
6	アオチャセンシダ	<i>Asplenium viride</i>	チャセンシダ	DD	CR	
7	ヒメシケシダ	<i>Deparia petersenii</i> var. <i>yakusimensis</i>	メシダ	DD		
8	クロミノイタチシダ	<i>Dryopteris melanocarpa</i>	オシダ			
9	ヒツジグサ	<i>Nymphaea tetragona</i>	スイレン	DD	CR	
10	クロモジ	<i>Lindera umbellata</i>	クスノキ	DD		
11	ヤマコンニャク	<i>Amorphophallus kiusianus</i>	サトイモ	DD	EX	VU
12	トチカガミ	<i>Hydrocharis dubia</i>	トチカガミ	DD	DD	NT
13	ツツイトモ	<i>Potamogeton pusillus</i>	ヒルムシロ	DD		VU
14	タチコウガイゼキショウ	<i>Juncus krameri</i>	イグサ	DD	DD	
15	アリマイトスゲ	<i>Carex alterniflora</i> var. <i>arimaensis</i>	カヤツリグサ			
16	ピロードスゲ	<i>Carex miyabei</i>	カヤツリグサ	DD	CR	
17	シロガヤツリ	<i>Cyperus pacificus</i>	カヤツリグサ	DD		
18	エゾハリイ	<i>Eleocharis maximowiczii</i>	カヤツリグサ	DD	CR	
19	イトイヌノハナヒゲ	<i>Rhynchospora faberi</i>	カヤツリグサ	DD	EX	
20	ヒメタイヌビエ	<i>Echinochloa crus-galli</i> var. <i>formosensis</i>	イネ	DD		
21	ヒロハノオオウシノケグサ	<i>Festuca rubra</i> var. <i>pacifica</i>	イネ	DD	EX	
22	カモノハシ	<i>Ischaemum aristatum</i> var. <i>crassipes</i>	イネ	DD		
23	キタササガヤ	<i>Leptatherum japonicum</i> var. <i>boreale</i>	イネ	DD		
24	コウシュンシバ	<i>Zoysia matrella</i>	イネ	DD		
25	ウンゼンザサ	<i>Sasa gracillima</i>	イネ	DD		
26	タンナトリカブト	<i>Aconitum japonicum</i> subsp. <i>napiforme</i>	キンポウゲ	DD	NT	
27	フジセンニンソウ	<i>Clematis fujisanensis</i>	キンポウゲ	DD		
28	ショウドシマベンケイソウ	<i>Hylotelephium verticillatum</i> var. <i>lithophilos</i>	ベンケイソウ	DD		
29	キリンソウ	<i>Phedimus aizoon</i> var. <i>floribundus</i>	ベンケイソウ	CR	CR	
30	タチネコハギ	<i>Lespedeza pilosa</i> var. <i>erecta</i>	マメ	DD		
31	クサフジ	<i>Vicia cracca</i>	マメ	DD		
32	ツクシヤマザクラ	<i>Cerasus jamasakura</i> var. <i>chikusiensis</i>	バラ	DD		
33	カスミザクラ	<i>Cerasus leveilleana</i>	バラ	DD		
34	ハルニレ	<i>Ulmus davidiana</i> var. <i>japonica</i>	ニレ	DD	CR	
35	ツルコウゾ	<i>Broussonetia kaempferi</i>	クワ	DD		
36	トガリバヤブマオ	<i>Boehmeria japonica</i> var. <i>japonica</i>	イラクサ	DD		
37	ミゾハコベ	<i>Elatine triandra</i>	ミゾハコベ	DD	DD	
38	ヒメナツトウダイ	<i>Euphorbia tsukamotoi</i>	トウダイグサ	DD		
39	オニビシ	<i>Trapa natans</i> var. <i>quadrispinosa</i>	ミソハギ	DD		
40	ミヤマシキミ	<i>Skimmia japonica</i> var. <i>japonica</i>	ミカン	DD		
41	コカラスザンショウ	<i>Zanthoxylum fauriei</i>	ミカン	DD		
42	ヤマハコベ	<i>Stellaria uchiyamana</i>	ナデシコ	DD	EN	
43	ハチジョウウイノコヅチ	<i>Achyranthes bidentata</i> var. <i>hachijoensis</i>	ヒユ	DD		
44	ムラサキミミカキグサ	<i>Utricularia uliginosa</i>	タヌキモ	DD	EX	NT
45	セトエゴマ	<i>Perilla setoyensis</i>	シソ	DD		
46	アソノコギリソウ	<i>Achillea alpina</i> subsp. <i>subcartilaginea</i>	キク	DD		NT
47	ヒメアザミ	<i>Cirsium buergeri</i>	キク	DD		
48	ハクサンボク	<i>Viburnum japonicum</i>	ガマズミ	DD		
49	ハコネウツギ	<i>Weigela coraeensis</i>	スイカズラ	DD		

RED DATA BOOK

選定種の解説



EX 1	ヒメシダ科	オオバショリマ <i>Thelypteris quelpaertensis</i>	高知県 RL2010: EX
			高知県 RDB2000: —
			環境省 RL2020: —

【選定の理由】

冷温帯性のシダ植物で愛媛県では石鎚山系に分布する。県内では和田豊州 1957 年採集の長岡郡大豊村（現大豊町と香美市の一部を含む）産の標本が確認されている県内唯一の記録である。そのほかに手箱山での非常に古い記録（吉永 1887）もあるが、標本は確認できていない。

分布	北海道・本州・四国・屋久島、ロシア（極東）・朝鮮半島・中国（吉林省）・北米（アラスカ・カナダ）
県内分布	大豊町

EX 2	オシダ科	イヌタマシダ <i>Dryopteris hayatae</i>	高知県 RL2010: CR
			高知県 RDB2000: CR
			環境省 RL2020: —

【選定の理由】

常緑性のシダ植物で、林内の岩上や溪流近くに生える。谷本隆司 1966 年採集の土佐清水市産の標本が県内唯一の記録であり、これまで絶滅危惧 I A 類：CR とされてきたが、採集された地域の環境も変化し、現存が確認できないため絶滅とした。

分布	伊豆諸島（八丈島）・四国・九州（南部）・琉球、済州島
県内分布	土佐清水市

EX 3	オシダ科	アスカイノデ <i>Polystichum fibrillosopaleaceum</i>	高知県 RL2010: EX
			高知県 RDB2000: EX
			環境省 RL2020: —

【選定の理由】

常緑性のシダ植物で、海岸近くの林内などに生える。伊藤洋 1928 年採集の高知市潮江山産の標本が県内唯一の記録である。

分布	本州（近畿地方以東）・四国（高知県）
県内分布	高知市

EX 4	ウラボシ科	クラガリシダ <i>Lepisorus miyoshianus</i>	高知県 RL2010: EX
			高知県 RDB2000: CR
			環境省 RL2020: EN

【選定の理由】

常緑性のシダ植物で、樹幹や岩上に着生する。葉は狭線形で長さ 30～50cm にもなる。吉永虎馬が 1911 年に採集した大豊町の標本がある。同じ地域で 1978 年の記録があるが標本が確認できていない。

分布	本州（中部地方以西）・四国（愛媛県・高知県）・九州（大分県）、台湾・中国・インド（北東部）
県内分布	大豊町

EX 5	ウラボシ科	ヒロハヒメウラボシ <i>Oreogrammitis nipponica</i>	高知県 RL2010: CR
			高知県 RDB2000: DD
			環境省 RL2020: CR

【選定の理由】

常緑性で、葉が長さ 5cm 弱の小型のシダ植物であるが、全面に毛があるのが特徴。空中湿度の高い明るい林内の岩上などにコケと一緒に生える。確認されている県内最後の記録は、谷本隆司が土佐清水市で採集した 1966 年の標本である。最後の記録から 50 年を経過したため絶滅とした。

分布	本州（伊豆諸島・伊豆半島以西）・四国（徳島県・高知県）・九州・屋久島
県内分布	四万十町、土佐清水市

EX 6	オモダカ科	マルバオモダカ <i>Caldesia parnassifolia</i>	高知県 RL2010: EX
			高知県 RDB2000: EX
			環境省 RL2020: VU

【選定の理由】

池や水田、水路などに生える一年生の水生植物。1892 年に牧野富太郎が土佐市で採集した標本が県内唯一の記録である。

分布	北海道（南部）・本州・四国・九州、ユーラシア・アフリカ・オーストラリアの温帯～熱帯
県内分布	土佐市

EX 7	トチカガミ科	高知県 RL2010: EX
	イバラモ <i>Najas marina</i>	高知県 RDB2000: DD 環境省 RL2020: —

【選定の理由】

淡水や汽水の池などに生える一年生の水生植物。牧野富太郎 1892 年に「高知」（現高知市の市街地に当たると考えられる）で採集した標本が県内唯一の記録である。

分布	北海道・本州・四国・九州・琉球, 世界の温帯～熱帯
県内分布	高知市

EX 8	ラン科	高知県 RL2010: EX
	サギソウ <i>Pecteilis radiata</i>	高知県 RDB2000: EX 環境省 RL2020: NT

【選定の理由】

湿地に生える多年生草本。1957 年に赤澤時之が県中部で採集した標本が確認されている最後の記録である。

分布	北海道・本州・四国・九州, 朝鮮半島・ロシア（極東）・中国（東部）
県内分布	高知市, 佐川町, 四万十町

EX 9	ヒガンバナ科	高知県 RL2010: EX
	ショウキスイセン <i>Lycoris traubii</i>	高知県 RDB2000: EX 環境省 RL2020: —

【選定の理由】

暖地の湿った場所に生える多年生草本。県内では沖の島で記録（牧野 1891）があるが、近年は確認できない。

分布	四国・九州・琉球, 台湾
県内分布	宿毛市

EX 10	ミズアオイ科	高知県 RL2010: EX
	ミズアオイ <i>Monochoria korsakowii</i>	高知県 RDB2000: — 環境省 RL2020: NT

【選定の理由】

沼や水田, 水路などに生える一年生草本。牧野富太郎が 1892 年に「高知」（現高知市の市街地に当たると考えられる）で採集した標本が県内唯一の記録である。

分布	北海道・本州・四国・九州, 東アジア
県内分布	高知市

EX 11	イグサ科	高知県 RL2010: EX
	ヒロハノコウガイゼキショウ <i>Juncus diastrophanthus</i>	高知県 RDB2000: DD 環境省 RL2020: —

【選定の理由】

湿地に生える多年生草本。確認されている県内最後の記録は, 1904 年に平田竹弥が佐川町斗賀野で採集した標本である。山中（1978）による土佐町の記録については, 標本が確認できていない。

分布	北海道・本州・四国・九州, 朝鮮半島・中国
県内分布	佐川町

EX 12	カヤツリグサ科	高知県 RL2010: EX
	クロカワズスゲ <i>Carex arenicola</i>	高知県 RDB2000: EX 環境省 RL2020: —

【選定の理由】

砂質の湿地や海岸に生える多年生草本。1947 年山脇哲臣採集の東洋町産の標本が最後の記録である。山中二男（1978）による高知市の記録は, 標本が確認できていない。土佐清水市の記録（岡本 1970）は, 標本の採集が 8 月であること, 現在標本が確認できないことなどから疑問である。

分布	北海道・本州・四国・九州, 朝鮮半島・ロシア（極東）
県内分布	東洋町

EX 13	カヤツリグサ科	高知県 RL2010: EX
	ケヒエスゲ <i>Carex mayebarana</i>	高知県 RDB2000: EN 環境省 RL2020: —

【選定の理由】

山地の林床や林縁に生える多年生草本。1935年に吉永虎馬が高知市と土佐町の境で採集した標本が県内唯一の記録である。

分布	四国（高知県）・九州
県内分布	高知市と土佐町の境

EX 14	カヤツリグサ科	高知県 RL2010: EX
	アワボスゲ <i>Carex nipposinica</i>	高知県 RDB2000: EX 環境省 RL2020: —

【選定の理由】

平地から低山地の湿った草地や林縁に生える多年生草本。1889年に牧野富太郎が佐川町で採集した標本が県内唯一の記録である。

分布	北海道・本州・四国・九州, 東アジア
県内分布	佐川町

EX 15	カヤツリグサ科	高知県 RL2010: EX
	ホウキガヤツリ <i>Cyperus distans</i>	高知県 RDB2000: EX 環境省 RL2020: CR

【選定の理由】

大型の多年生草本。1936年に吉永虎馬が高知市で採集した標本が県内唯一の記録である。

分布	四国（高知県）・九州（種子島）・琉球, 台湾・世界の熱帯
県内分布	高知市

EX 16	カヤツリグサ科	高知県 RL2010: EX
	オノエテンツキ <i>Fimbristylis fusca</i>	高知県 RDB2000: EX 環境省 RL2020: VU

【選定の理由】

海岸付近の日当たりの良い草地に生える多年生草本。牧野富太郎が土佐清水市下益野と大月町周防形で採集した標本がある。

分布	四国・九州, 中国・インド・インドネシア
県内分布	土佐清水市, 大月町

EX 17	カヤツリグサ科	高知県 RL2010: EX
	メアゼテンツキ <i>Fimbristylis velata</i>	高知県 RDB2000: DD 環境省 RL2020: —

【選定の理由】

水田の畦や休耕田などに生える一年生草本。1887年に須崎で採集された標本が確認されている最後の記録であった。2017年に四万十市で標本が採集されたが、毛のない個体と同所的に生育していた。詳細な調査が必要であったが、除草剤が散布されたためか翌年以降確認できない。

分布	本州～九州, 朝鮮半島・中国（東北）・ロシア（極東）・インドネシア・オーストラリア
県内分布	須崎市

EX 18	イネ科	高知県 RL2010: EX
	ヒナザサ <i>Coelachne japonica</i>	高知県 RDB2000: EX 環境省 RL2020: NT

【選定の理由】

山野の水辺や湿地に生える小型の一年生草本。1892年に吉永悦郷が佐川町カス谷で採集した標本が確認されている最後の記録である。

分布	北海道・本州・四国・九州
県内分布	佐川町

EX 19	イネ科	ヒゲシバ <i>Sporobolus japonicus</i>	高知県 RL2010: EX
			高知県 RDB2000: EN
			環境省 RL2020: —

【選定の理由】
湿った裸地に生える小型の一年生草本。1960年に山脇哲臣が仁淀川町で採集した標本が確認されている最後の記録である。

分布	本州・四国・九州, 朝鮮半島・中国
県内分布	仁淀川町, 越知町, 四万十町

EX 20	キンボウゲ科	ヒキノカサ <i>Ranunculus ternatus</i>	高知県 RL2010: EX
			高知県 RDB2000: —
			環境省 RL2020: VU

【選定の理由】
日当たりの良い湿った草地に生える多年生草本。根が紡錘状にふくらむのが特徴。1905年に山本一が越知町横倉山で採集した標本が県内唯一の記録である。

分布	本州（関東地方以西）・四国・九州, 済州島・台湾・中国（南部）
県内分布	越知町

EX 21	ブドウ科	ヨコグラブドウ <i>Vitis saccharifera</i> var. <i>yokogurana</i>	高知県 RL2010: EX
			高知県 RDB2000: EX
			環境省 RL2020: —

【選定の理由】
つる性の多年生草本。アマヅルとサンカクヅルの雑種と考える意見もある。1913年牧野富太郎採集の横倉山産の標本が最後である。

分布	四国（高知県）
県内分布	越知町

EX 22	バラ科	カワラサイコ <i>Potentilla chinensis</i>	高知県 RL2010: EX
			高知県 RDB2000: CR
			環境省 RL2020: —

【選定の理由】
日当たりの良い砂地などに生育する多年生草本。1937年に山脇哲臣が高知市長浜で採集した標本が確認されている最後の記録である。

分布	本州・四国・九州, ロシア（極東）・朝鮮半島・台湾・中国
県内分布	安芸市, 高知市

EX 23	ミソハギ科	ヒメキカシグサ <i>Rotala elatinomorpha</i>	高知県 RL2010: EX
			高知県 RDB2000: EX
			環境省 RL2020: CR

【選定の理由】
水田や湿地に生える小型の一年生草本。1941年に山脇哲臣が高知市鴨田で採集した標本が確認されている最後の記録である。

分布	本州（関東以西）・四国
県内分布	高知市, 日高村

EX 24	アオイ科	ボンテンカ <i>Urena lobata</i> subsp. <i>sinuata</i>	高知県 RL2010: EX
			高知県 RDB2000: EX
			環境省 RL2020: —

【選定の理由】
低木状の多年生草本。採集者、採集年不明の高知市一宮で採集された標本がある。高知県レッドデータブック 2000 では宿毛市沖の島の記録をあげているが、確認できない。

分布	四国・九州（中南部以南）・琉球, 台湾から熱帯
県内分布	高知市

EX 25	タデ科	高知県 RL2010: EX 高知県 RDB2000: — 環境省 RL2020: VU
	ヤナギヌカボ <i>Persicaria foliosa</i> var. <i>paludicola</i>	

【選定の理由】

水湿地に生える一年生草本。1892年に牧野富太郎がいの町枝川で採集した標本が県内唯一の記録である。

分布	北海道・本州・四国・九州, 朝鮮半島・中国(東北部)
県内分布	いの町

EX 26	ナデシコ科	高知県 RL2010: EX 高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: —
	ヒゲネワチガイソウ <i>Pseudostellaria palibiniana</i>	

【選定の理由】

丘陵地や山地の落葉樹林の林内や林縁に生える多年生草本。1932年に和田豊州が旧本川村で採集した標本が県内唯一の記録である。

分布	本州(東北地方～中部地方)・四国(徳島県・愛媛県・高知県), 朝鮮半島
県内分布	いの町

EX 27	エゴノキ科	高知県 RL2010: EX 高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: —
	ハクウンボク <i>Styrax obassia</i>	

【選定の理由】

山地に生える落葉性の小高木。1892年牧野富太郎採集の標本があるが、ラベルに「佐川」としかなく、旧佐川村(現佐川町の一部)に自生があったかどうかは不明である。山中(1978)による香美市の記録については、標本が確認できていない。愛媛県、徳島県には採集記録がある。

分布	北海道・本州・四国・九州, 朝鮮半島・中国
県内分布	佐川町

EX 28	アカネ科	高知県 RL2010: EX 高知県 RDB2000: — 環境省 RL2020: —
	オオバノヨツバムグラ <i>Galium kamtschaticum</i> var. <i>acutifolium</i>	

【選定の理由】

亜高山の針葉樹林中に生える多年生草本。1938年に山脇哲臣が旧本川村で採集した標本が県内唯一の記録である。

分布	北海道・本州・四国, ロシア(極東)
県内分布	いの町

EX 29	ヒルガオ科	高知県 RL2010: EX 高知県 RDB2000: VU 環境省 RL2020: CR
	マメダオシ <i>Cuscuta australis</i>	

【選定の理由】

日当たりのよい草地などに生えるつる性の寄生植物。1927年に田代善太郎が佐川町で採集した標本が確認されている最後の記録である。

分布	北海道・本州・四国・九州・琉球, 朝鮮半島・中国・東南アジア・オーストラリア
県内分布	南国市, 高知市, 佐川町, 須崎市

EX 30	タヌキモ科	高知県 RL2010: EX 高知県 RDB2000: EX 環境省 RL2020: VU
	ノタヌキモ <i>Utricularia aurea</i>	

【選定の理由】

ため池や湖沼に生える浮遊性の一年生草本。1892年に高知市で牧野富太郎が採集した標本が確認されている最後の記録である。

分布	本州・四国・九州・琉球, アジア中南部～オーストラリア
県内分布	高知市

EX 31	シソ科	ヒメシロネ <i>Lycopus maackianus</i>	高知県 RL2010: EX
			高知県 RDB2000: —
			環境省 RL2020: —

【選定の理由】
山地の湿地に生える多年生草本。1904年に山田嘉麿が高知市潮江で採集した標本が確認されている最後の記録である。山中（1978）による香美市と四万十市の記録については、標本が確認できていない。

分布	北海道・本州・四国・九州, 朝鮮半島・中国(東北部)・ロシア(極東)
県内分布	高知市

EX 32	シソ科	ヒメキセフタ <i>Matsumurella tuberifera</i>	高知県 RL2010: EX
			高知県 RDB2000: EX
			環境省 RL2020: VU

【選定の理由】
林縁の草地に生える多年生草本。山中（1978）による土佐清水市の記録については、標本が確認できていない。

分布	四国・九州(中南部)・琉球, 台湾・中国(東南部)
県内分布	土佐清水市

EX 33	シソ科	ナミキソウ <i>Scutellaria strigillosa</i>	高知県 RL2010: EX
			高知県 RDB2000: EX
			環境省 RL2020: —

【選定の理由】
海岸の砂地に生える多年生草本。1977年赤澤時之採集の土佐清水市竜串産の標本が確認されている最後の記録である。50年を経過していないが、竜串海岸に生育環境は残っていないため、絶滅のままとした。

分布	北海道・本州・四国・九州(五島列島福江島以北), 朝鮮半島・中国(東北部~東部)・ロシア(極東)
県内分布	土佐清水市

EX 34	ハマウツボ科	トサノコゴメグサ <i>Euphrasia insignis</i> subsp. <i>insignis</i> var. <i>makinoi</i>	高知県 RL2010: CR
			高知県 RDB2000: CR
			環境省 RL2020: —

【選定の理由】
山地の草地に生える一年生草本。1961年に山中二男が香美市物部町の山地で採集した標本が確認されている最後の記録である。その記録から50年を経過したため絶滅とした。

分布	四国
県内分布	香美市

EX 35	ハマウツボ科	ママコナ <i>Melampyrum roseum</i> var. <i>japonicum</i>	高知県 RL2010: EX
			高知県 RDB2000: —
			環境省 RL2020: —

【選定の理由】
山地の林縁や草地などに生える半寄生の一年生草本で、県内ではいずれも石灰岩地で確認されている可能性がある。1957年に和田豊州が高知市で採集した標本が確認されている最後の記録である。山中（1978）による香美市の記録については、標本が確認できていない。

分布	北海道(西南部)・本州・四国・九州, 朝鮮半島(南部)
県内分布	南国市, 高知市, 佐川町

EX 36	キク科	ヒメシオン <i>Aster fastigiatus</i>	高知県 RL2010: EX
			高知県 RDB2000: CR
			環境省 RL2020: —

【選定の理由】
湿った草地や小川の縁に生える多年生草本。1940年に山脇哲臣が香美市で採集した標本が確認されている最後の記録である。山中（1978）による四万十町と四万十市の記録については、標本が確認できていない。

分布	本州・四国・九州, 朝鮮半島・中国・ロシア(東部)
県内分布	香美市, 佐川町

EX 37	キク科	モリアザミ <i>Cirsium dipsacolepis</i>	高知県 RL2010: EX
			高知県 RDB2000: CR
			環境省 RL2020: —

【選定の理由】

山地の草原や林間の草地に生える多年生草本。1941年に山脇哲臣が大豊町で採集した標本が県内唯一の記録である。

分布	本州（岩手県・秋田県以南）・四国・九州
県内分布	大豊町

EX 38	キク科	ブクリョウサイ <i>Dichrocephala integrifolia</i>	高知県 RL2010: EX
			高知県 RDB2000: EX
			環境省 RL2020: —

【選定の理由】

林縁などに生える一年生草本。1958年に赤澤時之が宿毛市沖の島で採集した標本が確認されている最後の記録である。

分布	八丈島・四国・九州・琉球、台湾・中国（南部）・東南アジア～南アジア・マレーシア地域・アフリカ
県内分布	宿毛市

EX 39	キク科	タカサゴソウ <i>Ixeris chinensis</i> subsp. <i>strigosa</i>	高知県 RL2010: CR
			高知県 RDB2000: CR
			環境省 RL2020: VU

【選定の理由】

路傍や乾いた草地などに生える多年生草本。1935年に吉永虎馬が日高村で採集した標本が確認されている最後の記録である。その記録から50年を経過したため絶滅とした。山中（1978）による四万十町の記録については、標本が確認できていない。

分布	本州・四国・九州、朝鮮半島・済州島
県内分布	高知市、日高村、佐川町、越知町

EX 40	キク科	オナモミ <i>Xanthium strumarium</i> subsp. <i>sibiricum</i>	高知県 RL2010: EX
			高知県 RDB2000: —
			環境省 RL2020: VU

【選定の理由】

草地や路傍などに生える一年生草本。果実が灰褐色、とげの長さは鉤を含め1～2cmで、オオオナモミよりもやや短く細い。1972年赤澤時之の採集の須崎市産の標本が確認されている最後の記録である。

分布	北海道・本州・四国・九州・琉球、世界の温帯（正確な分布は不明）
県内分布	高知市、須崎市

EX 41	セリ科	ホタルサイコ <i>Bupleurum longiradiatum</i> var. <i>elatus</i>	高知県 RL2010: EX
			高知県 RDB2000: CR
			環境省 RL2020: —

【選定の理由】

山野の日当たりのよい所や林下に生える多年生草本。1960年に赤澤時之が香美市で採集した標本が確認されている最後の記録である。近年にも視認の報告があるため、過去の確認地点での詳細な調査が必要である。

分布	北海道・本州・四国・九州、ロシア（極東）
県内分布	香美市

EX 42	セリ科	ヒロハヌマゼリ <i>Sium suave</i> var. <i>ovatum</i>	高知県 RL2010: EX
			高知県 RDB2000: —
			環境省 RL2020: —

【選定の理由】

湿地に生える多年生草本。1913年に田代善太郎が高知市大津で採集した標本がある。採集記録の情報もあり、標本調査および現地調査が必要である。

分布	本州・四国
県内分布	高知市

EX
43

セリ科

カノツメソウ

Spuriopimpinella calycina

高知県 RL2010: EX

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: —

【選定の理由】

山林下に生える多年生草本。1939年に田川基二が津野町で採集した標本が確認されている最後の記録である。

分 布 北海道・本州・四国・九州

県内分布 高知市, 須崎市, 津野町

絶
滅
EX

EW
1

チャセンシダ科
オオタニワタリ
Asplenium antiquum

高知県 RL2010: EW
高知県 RDB2000: EW
環境省 RL2020: VU

【選定の理由】

山林中の樹幹や岩上に着生する常緑性のシダ植物。宿毛市沖の島産のものといわれる個体が地元の寺で栽培保存されている。黒潮町の堤防近くにある個体は海外から持ち込まれた栽培株からの逸出である。そのほかにも県内で生育地点があるが、自生かどうか不明である。

分布 本州（伊豆諸島・紀伊半島）・四国（徳島県・高知県）
・九州・琉球（沖縄島・久米島以北）、済州島・台湾・中国

県内分布 宿毛市

EW
2

オトギリソウ科
ツキヌキオトギリ
Hypericum sampsonii

高知県 RL2010: EX
高知県 RDB2000: EX
環境省 RL2020: EN

【選定の理由】

山地の湿り気のあるところに生える多年生草本。標本としては1943年に山脇哲臣が高知市で採集したものが県内唯一の記録である。栽培していた株を譲り受けて牧野植物園で栽培保存している。近年にも視認の報告があるが、証拠となる標本がなく詳細な調査が必要である。

分布 四国（高知県）・九州（喜界島・奄美大島を含む）、台湾・中国（中南部）・ベトナム（北部）・ミャンマー（東部）・インド（東北部）

県内分布 高知市

CR 1	ヒカゲノカズラ科 <h2 style="margin: 0;">ナンカクラン</h2> <i>Phlegmariurus hamiltonii</i>	高知県 RL2010: CR 高知県 RDB2000: EN 環境省 RL2020: -
----------------	--	--

【生育状況と選定の理由】
 50年ほど前は確認されていた地点は多かったが、現存は限られている。調査で確認できたのは2か所のみ。

【危機要因と保護保全対策】
 主な危機要因は園芸採取であるが、長期的には人工林化や森林伐採、ニホンジカの食害による森林の乾燥化なども影響していると推測される。本種の保全には、生育地点情報の公開や拡散を防ぐことと、生育する地域の森林環境の保全が重要である。

分布	本州（伊豆諸島・伊豆半島・紀伊半島）・四国・九州・琉球・小笠原諸島、台湾・中国・タイ・インドシナ半島・南アジア
県内分布	東部、中部、西部
生育環境と特性	林内や林縁の空中湿度が高く乾燥しない岩上やコケのついた樹幹に着生し、まれに地表に生える。常緑性のシダ植物。

CR 2	ヒカゲノカズラ科 <h2 style="margin: 0;">ヒモラン</h2> <i>Phlegmariurus sieboldii</i>	高知県 RL2010: CR 高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: EN
----------------	---	---

【生育状況と選定の理由】
 県内では神社の大径木などでみられ、確認地点では1～2本の大きな木に多数の個体が着生していることが多い。倒木や枝の落下を防ぐために伐採される可能性があり、伐採や着生木の枯死などが個体群に与える影響が大きい。

【危機要因と保護保全対策】
 森林伐採や園芸採取が主な危機要因である。社寺林内の着生木については、着生木の周辺の樹林も併せて保護することが望ましい。また、管理者に保存について注意を促すとともに、生育地点情報の公開や拡散を防ぐ必要がある。

分布	本州（伊豆半島以西）・四国・九州・琉球、済州島・台湾
県内分布	東部、中部、西部
生育環境と特性	林内の樹幹または岩上に着生する。常緑性のシダ植物。

CR 3	ミズニラ科 <h2 style="margin: 0;">ミズニラ</h2> <i>Isoetes japonica</i>	高知県 RL2010: CR 高知県 RDB2000: - 環境省 RL2020: NT
----------------	---	--

【生育状況と選定の理由】
 過去に確認されていた2つのため池で現存が確認できなかった。そのうちの1か所はため池の土手が決壊し、長期にわたって水がない状態であった。

【危機要因と保護保全対策】
 県内全域の分布調査が不足しており、同定可能な標本を採取できる適期の調査と長期的な消長の観察が必要である。本種の保全には、ため池の維持と管理が不可欠であり、生育地周辺での農薬の使用には注意が必要である。

分布	本州・四国、朝鮮半島
県内分布	四万十町
生育環境と特性	県内ではため池や川の底に生える。夏緑性の水生シダ。

CR 4	イワヒバ科 <h2 style="margin: 0;">オニクラマゴケ</h2> <i>Selaginella doederleinii</i>	□絵 1	高知県 RL2010: CR 高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: -
----------------	--	------	--

【生育状況と選定の理由】
 生育が確認されているのは1地域のみである。2005年には数十株が確認されていたが、その後大雨で斜面が崩落して消滅し、以降同所では復活していない。2018年に同地域の別の谷で現存が確認された。

【危機要因と保護保全対策】
 産地局限と遷移進行が主な危機要因である。地表を這うように生育しており、豪雨などによる斜面の崩落で容易に消滅するおそれがある。生育地は自然公園区域には含まれていないため、具体的な保護策を検討する必要がある。

分布	本州（伊豆諸島）・四国・九州・琉球、台湾・中国・インドシナ半島
県内分布	室戸市
生育環境と特性	県内では海岸近くの常緑広葉樹林内の谷沿いに生える。常緑性のシダ植物。

CR 5	イワヒバ科	ヤマクラマゴケ <i>Selaginella tamamontana</i>	高知県 RL2010: CR
			高知県 RDB2000: -
			環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

全国的には関東地方、紀伊半島と本県のみで確認されている。県内でも確認できている生育地は1か所のみであり、個体数も少ない。

【危機要因と保護保全対策】

園芸採取が主な危機要因である。希少種であるため採取されることがある。本種の保全には、生育地点情報の公開や拡散を防ぐことと、生育地である森林の環境保全が重要である。

分布	本州（関東地方・紀伊半島）・四国、台湾
県内分布	いの町
生育環境と特性	県内では山地林内の湿った岩上に生える。常緑性のシダ植物。

CR 6	ハナヤスリ科	エゾフユノハナワラビ <i>Botrychium multifidum</i> var. <i>robustum</i>	高知県 RL2010: -
			高知県 RDB2000: -
			環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

北海道から中部地方にかけて多く生育する植物で、西日本では生育地が限られる。本県では2017年に発見され、2地点で1個体ずつ確認された。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は産地局限と遷移進行による生育環境の変化である。生育地である森林の環境保全が重要で、定期的に個体群の状況を把握し、保全方法を検討する必要がある。

分布	北海道・本州・四国、ロシア（極東）・朝鮮半島・中国・ネパール
県内分布	いの町
生育環境と特性	高標高域の樹林内の林床植生の少ないところに生える。冬緑性のシダ植物。

CR 7	ハナヤスリ科	ナガホノツノハナワラビ <i>Botrychium strictum</i>	高知県 RL2010: CR
			高知県 RDB2000: CR
			環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内では7地点で確認され、記録されている。各地点とも確認される個体数は1個体のことが多く、極めて数が少ない。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は森林伐採、道路工事、遷移進行による生育環境の変化である。定期的に個体の出現状況などを調査し、必要に応じて生育地である森林の環境保全のための対策を講じる必要がある。

分布	北海道・本州・四国・九州、ロシア（極東）・朝鮮半島・中国
県内分布	土佐町、越知町、仁淀川町、梶原町
生育環境と特性	山地の林床に生える。夏緑性のシダ植物。

CR 8	ハナヤスリ科	ハマハナヤスリ <i>Ophioglossum thermale</i>	高知県 RL2010: CR
			高知県 RDB2000: CR
			環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

生育地ではやや減少傾向にある。コヒロハハナヤスリに類似した個体があり区別が難しいことがあるため、ここでは同定の確実な個体群のみを選定した。

【危機要因と保護保全対策】

遷移進行が主な危機要因であり、他の草本類が侵入すると、日当たりが良い場所でも衰退する。群落の維持には、競合する植物を根ごと除去する必要がある。

分布	北海道・本州・四国・九州・琉球、ロシア（極東）・朝鮮半島・台湾・中国
県内分布	高知市、仁淀川町、四万十町、土佐清水市、宿毛市
生育環境と特性	和名の通り海岸付近の日当たりの良いやや湿った草地や裸地に生育し、根茎が匍匐し群落を形成することがある。夏緑性のシダ植物。

絶滅危惧IA CR

CR 9	コケシノブ科	高知県 RL2010: EN 高知県 RDB2000: EN 環境省 RL2020: -
	チチブホラゴケ <i>Crepidomanes schmidtianum</i> var. <i>schmidtianum</i>	

【生育状況と選定の理由】

現存が確認されたのは2町のみであった。数か所で採集記録があるが、いくつかの地点では生育環境の悪化により個体数が減少している。

【危機要因と保護保全対策】

ニホンジカの食害による森林の乾燥化といった生育環境の変化が主な危機要因である。シカの頭数管理を行うなど、良好な森林環境の保全が必要である。

分布	本州（関東地方以西）・四国・九州、台湾・中国～ヒマラヤ
県内分布	大豊町、いの町
生育環境と特性	林内の岩上に着生する。常緑性のシダ植物。

CR 10	コケシノブ科	□絵 1	高知県 RL2010: EX 高知県 RDB2000: EX 環境省 RL2020: -
	リュウキュウコケシノブ <i>Hymenophyllum riukiense</i>		

【生育状況と選定の理由】

県内で最初に確認された地点では長い間確認できず、絶滅（EX）となっていたが、東洋町の小さな溪流で2019年に再発見された。現在確認されているのは1河川のみ。

【危機要因と保護保全対策】

小さな溪流内の石に着生しているため、台風や豪雨災害などで流失するおそれがある。気候変動による洪水の強度と頻度の上昇により消失が危惧されるため、域外保全や増殖方法などを検討しておく必要がある。

分布	本州・四国・九州・琉球、中国・タイ
県内分布	東洋町
生育環境と特性	県内では溪流内の水しぶきがかかるような石の表面にマット状に生育する。常緑性のシダ植物。

CR 11	サンショウモ科	高知県 RL2010: CR 高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: VU
	サンショウモ <i>Salvinia natans</i>	

【生育状況と選定の理由】

平野部の水田やため池に生育する種であるが、県内ではもともと多くなかった。除草剤の使用や生育地の改変などにより減少した。県内では1982年に高知市、2000年に南国市で採集されて以来確認されていない。

【危機要因と保護保全対策】

除草剤の使用や水田の改修、耕作サイクルの変化が主な危機要因である。採集記録のある地点とその周辺で再調査が必要である。

【特記事項】

牧野植物園で南国市由来の個体が域外保全されている。県内では帰化種のオオサンショウモ *S. molesta* が北川村と高知市春野町で採集されている。

分布	本州・四国・九州、ロシア・朝鮮半島・台湾・中国・インド・東南アジア・ヨーロッパ
県内分布	南国市、高知市
生育環境と特性	池沼や水路、水田などに生育する。一年生の水生シダ。3枚輪生する葉の2枚が浮葉となり、残りの1枚が水中で細裂して根の役割を果たし、養分を吸収する。秋に水中葉の基部に球形の胞子囊群を形成する。

CR 12	デンジソウ科	□絵 1	高知県 RL2010: CR 高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: VU
	デンジソウ <i>Marsilea quadrifolia</i>		

【生育状況と選定の理由】

多数の採集記録があるが、2000年以降は四万十市川登地区でしか確認されていない。過去に確認されていた2地点では現在確認できず、2019年に近隣の谷で生育が確認された。この場所では過去に移植が試みられているが、確認された個体が移植由来かどうかはわからない。

【危機要因と保護保全対策】

湿地開発や管理放棄、遷移進行が危機要因である。ヒメガマなどの高茎草本が繁茂して生育環境が悪化している地点がある。過去に道路工事で湿地内植物が掘り返された際、個体の増加が確認されており、沼地の掘り返しといった強度の攪乱を加えることも検討する必要がある。

【特記事項】高知県希少野生動植物保護条例指定種。

分布	本州・四国・九州・奄美大島、東アジア～インド北部・ヨーロッパ
県内分布	南国市、高知市、四万十市；田野町（1964）、土佐市（1890）
生育環境と特性	県内では河川の氾濫がある地域で、耕作放棄された水田と沼、谷部の湿地に生育する。夏緑性の水生シダ

絶滅危惧 I A CR

CR **ヘゴ科**
13 **ヘゴ**
Cyathea spinulosa

口絵 1

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: EX
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

過去に3市町の各1地点で採集記録があるが、現在どの地点でも確認できない。確認された個体はどれも1m程度で成熟個体ではなく、南方からの胞子の飛来により侵入と消失を繰り返している可能性がある。

【危機要因と保護保全対策】

確認されていたのは未熟個体ではあるが、今後温暖化の進行により、成熟個体まで成長する個体が出てくる可能性がある。また、新たな確認個体が増えることなども考慮して絶滅危惧種に含めた。

分布	本州(伊豆諸島(八丈島)・伊豆半島・紀伊半島)・四国・九州・琉球・小笠原諸島, 台湾・中国・インドシナ半島・南アジア
県内分布	東洋町, 室戸市, 土佐清水市
生育環境と特性	低地の湿度の高い常緑樹林内に生育するが、県内では常緑広葉樹二次林とスギ人工林で確認されている。常緑性の木生シダ。

CR **ホングウシダ科**
14 **シンエダウチホングウシダ**
Lindsaea orbiculata var. commixta

高知県 RL2010: EN
高知県 RDB2000: EN
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

過去の確認地点数は少なく、県内の生育地ではいずれも減少傾向にある。調査では3市町で現存を確認したが、大月町については未確認である。

【危機要因と保護保全対策】

遷移進行と動物による食害・攪乱が主な危機要因である。定期的に個体群の状況を把握し、森林の管理不足により林床が暗くならないよう植生管理を行うとともに、動物の被害に対しては防護柵の設置を検討する必要がある。

分布	本州(伊豆諸島・和歌山県)・四国・九州・琉球, 台湾・中国・東南アジア・南アジア
県内分布	室戸市, 中土佐町, 土佐清水市, 大月町
生育環境と特性	乾いた常緑樹林やスギ人工林の林床に生育する。常緑性のシダ植物。

CR **ホングウシダ科**
15 **サイゴクホングウシダ**
Osmolindsaea japonica

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: EN
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県西部の2か所で現存が確認されたが、生育面積はわずかである。1か所は生育する露岩の上で野焼きが行われた上に豪雨災害による土石流で危機的状態にある。ほかの1か所では生育面積が激減しているのが確認された。

【危機要因と保護保全対策】

渓流の水際に生育しており、水害による影響を受けやすい。長期間の栽培は非常に困難であり、生育地内での保全が不可欠である。生育地が維持されるよう、地域と協力して管理を行うことも求められる。

分布	本州(伊豆諸島・伊豆半島以西)・四国・九州・琉球, 朝鮮半島・台湾・中国
県内分布	西部
生育環境と特性	県内では渓流のコケがつくような花崗岩の岩上に生える。常緑性のシダ植物。

CR **ホングウシダ科**
16 **ホングウシダ**
Osmolindsaea odorata

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: -
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

過去に1地域で確認され、その後現状が不明であったが、調査で同地域において再確認された。個体数は少ない。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は森林伐採や遷移進行による生育環境の変化である。生育地である森林の環境保全が重要であるため、管理者などと生育情報を共有し、連携して保全対策を講じる必要がある。

分布	本州(伊豆諸島・紀伊半島)・四国・九州・屋久島, 旧世界の暖温帯~亜熱帯
県内分布	宿毛市
生育環境と特性	山地林内の流水辺など湿ったところに生える。常緑性のシダ植物。

CR 17	コバノイシカグマ科	口絵 2	高知県 RL2010: CR
	ユノミネシダ <i>Histiopteris incisa</i>		高知県 RDB2000: - 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

熱帯を中心に分布するシダ植物で高知県でも温暖な場所に生育地が限定される。調査では東洋町の採集記録のある2か所で確認できず、新規の1か所で現存を確認できたが、個体数は10未満であった。

【危機要因と保護保全対策】

人工林の成長や遷移の進行で隣接する樹林が発達して林内が暗くなること、樹林が伐開されて生育地が乾燥し、先駆性植物が繁茂することで消失する危険性がある。各生育地の環境に大きな変化がないかモニタリング調査を行い、必要に応じて保全対策を講じる必要がある。

分布	本州（伊豆諸島・伊豆半島・紀伊半島）・四国・九州・琉球・小笠原諸島、世界の熱帯・亜熱帯と南半球の温帯
県内分布	東洋町、室戸市
生育環境と特性	県内では日当たりの良いやや湿った林縁などに生える。常緑性のシダ植物。

CR 18	コバノイシカグマ科	口絵 2	高知県 RL2010: CR
	ウスバイシカグマ <i>Microlepia substrigosa</i>		高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: NT

【生育状況と選定の理由】

県内で確認されているのは土佐清水市の1地域で、個体数も多くない。

【危機要因と保護保全対策】

土壌流失などの自然攪乱が主な危機要因である。溪流沿いに生育するため、豪雨災害で流出のおそれがある。周辺の森林を一体的に保全するための維持・管理が必要である。

分布	伊豆諸島（三宅島）・四国・九州・琉球、台湾
県内分布	土佐清水市
生育環境と特性	県内では溪流沿いの湿ったところに生える。常緑性のシダ植物。

CR 19	コバノイシカグマ科	口絵 2	高知県 RL2010: CR
	ヒメムカゴシダ <i>Monachosorum</i> × <i>arakii</i>		高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: EN

【生育状況と選定の理由】

東部と西部に採集記録があるが生育地点は限定的である。東洋町、北川村、三原村で現存が確認された。三原村の生育地では、ニホンジカによる食害で一時激減したが、2009年に県森林環境税で防鹿柵が設置され、個体群は回復した。

【危機要因と保護保全対策】

ニホンジカによる食害と食害を原因とする森林の荒廃が危機要因である。定期的な調査により、防鹿柵の設置などの対策を検討する必要がある。本種はオオフジシダ *M. nipponicum* とムカゴシダ *M. henryi* の雑種であるが、ムカゴシダは現在日本に分布しないため、各生育地が消失しないよう保護する必要がある。

分布	本州（中部地方以西）・四国・九州
県内分布	東洋町、北川村、土佐清水市
生育環境と特性	やや明るい林床や林内の湿った岩場に群生する。常緑性のシダ植物。

CR 20	イノモトソウ科	口絵 2	高知県 RL2010: CR
	キドイノモトソウ <i>Pteris kidoi</i>		高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

石灰岩に生育し3地点で確認されたが、各地点での個体数は50未満。以前から確認されていた地点では、石灰岩が崩壊するなど生育環境の悪化のため減少傾向にある。

【危機要因と保護保全対策】

石灰岩の急斜面に生えることが多く、生育地の崩壊による消滅が危惧される。車道沿いの生育地では、崖の法面工事によって消滅することも考えられる。道路改修工事などが避けられない場合には、管理者や地権者などと生育情報を共有し、保全対策を検討の上、適正な工法を用いる必要がある。

分布	本州・四国・九州、台湾・中国
県内分布	高知市、佐川町、津野町
生育環境と特性	石灰岩地帯の岩上や岩隙に生える。常緑性のシダ植物。

絶滅危惧IA CR

CR 21	イノモトソウ科	ヒカゲアマクサシダ <i>Pteris tokioi</i>	高知県 RL2010: CR
			高知県 RDB2000: -
			環境省 RL2020: EN

【生育状況と選定の理由】

東部の2地点と西部の1地点に現存が確認されており、各地点の個体数はあまり多くない。

【危機要因と保護保全対策】

森林伐採が主な危機要因である。東部の2地点はスギ人工林内にあったが、そのうち1地点でスギが皆伐されて個体群消失の危機にあり、早急な保全措置を検討・実行する必要がある。西部の生育地は保護林内にあるため森林伐採されるおそれはないが、遷移進行などによる環境変化の影響を受けることも考えられる。各地点の個体群の状況を定期的に調査し、対策を講じる必要がある。

分布	本州・四国・九州・屋久島・種子島、台湾・中国
県内分布	東洋町、土佐清水市
生育環境と特性	県内では常緑広葉樹林内とスギ人工林内に生える。常緑性のシダ植物。

CR 22	ナヨシダ科	ウスヒメワラビモドキ <i>Acystopteris taiwaniana</i>	高知県 RL2010: -
			高知県 RDB2000: -
			環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内では石鎚山系の高標高域の落葉樹林内の1地域で採集記録があることがわかり、調査で現存が確認された。生育地点は限定的で、確認されている個体数も少ない。

【危機要因と保護保全対策】

自然公園内であるため、森林伐採などの危機はないが、ニホンジカによる食害で減少する可能性が高い。周辺の植生への食害の進行状況を把握し、防鹿柵の設置といった対策を講じる必要がある。

分布	本州（秋田県以南）・四国、台湾
県内分布	いの町
生育環境と特性	明るい落葉樹林の林床や登山道沿いに生育する。夏緑性のシダ植物。

CR 23	ナヨシダ科	イワウサギシダ <i>Gymnocarpium robertianum</i>	高知県 RL2010: CR
			高知県 RDB2000: EN
			環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

確認地点は香美市の石灰岩地と、近年の調査で新たに確認された香南市の計2か所で、生育範囲はごく限られている。県森林環境税で防鹿柵が設置されている。連続的な減少は確認されていないが、個体数は100未満と低いレベルで推移している。

【危機要因と保護保全対策】

遷移進行やニホンジカによる食害が主な危機要因である。香美市の確認地点では近傍に防鹿柵が設置されており、石灰岩の崖地にあるためシカの食害や遷移の進行によって減少する危険性は低い。個体数は少ないながらも安定しているが、定期的な調査で状況を把握しておくことが望まれる。

分布	北海道・本州（奈良県以東）・四国、ロシア・朝鮮半島・中国・南アジア・ヨーロッパ
県内分布	香美市、香南市
生育環境と特性	蛇紋岩地や石灰岩地帯の山地林下や岩地に生える。夏緑性のシダ植物。

CR 24	チャセンシダ科	カミガモシダ <i>Asplenium oligophlebium</i> var. <i>oligophlebium</i>	高知県 RL2010: CR
			高知県 RDB2000: CR
			環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

現存するのは1か所のみで、個体数は100未満。10年程度前には森林の発達による被陰のため一時個体数が減少したが、森林の一部が伐採されたことにより、現在は回復した。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は遷移進行によって森林が暗くなること、森林伐採による乾燥化などの生育環境の変化である。現在の良好な生育環境が保たれるように、定期的に適度な樹木の伐採を行う必要があるが、過度な伐採には注意が必要である。

分布	本州（伊豆半島以西）・四国・九州・屋久島
県内分布	南国市
生育環境と特性	県内ではチャートの巨岩の岩隙に生育する。常緑性のシダ植物。

CR 25	チャセンシダ科	高知県 RL2010: EN
	コタニワタリ <i>Asplenium scolopendrium</i>	高知県 RDB2000: EN 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】
県内5か所で記録されているものの、現存が確認されたのは2か所で、生育地点および成熟個体数は少なく、連続して減少している。

【危機要因と保護保全対策】
主な危機要因は主に山地の荒廃と園芸採取であるが、冷温帯性の種であり、温暖化による影響を受ける可能性もある。県内の生育個体数はほとんど少なく、消滅する可能性が高い。今後生育域外での増殖など保全対策を講じる必要がある。

分布	北海道・本州・四国・九州, ロシア・朝鮮半島・台湾・中国・ヨーロッパ・北米
県内分布	中部
生育環境と特性	落葉広葉樹林および人工林内の谷の林床に生育する。常緑性のシダ植物。国内では日本海側に多く、西日本の太平洋側には少ない。

CR 26	チャセンシダ科	高知県 RL2010: CR
	クロガネシダモドキ <i>Asplenium × tosaense</i>	高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】
過去に高知市で標本が採集されているが、同地点における調査で生育は確認されなかった。クロガネシダとクモノスシダの生える環境は微妙に異なっており、両種が近接して生育している場所は限られことから、本雑種の個体数は極めて少ないと考えられる。

【危機要因と保護保全対策】
産地局限が主な危機要因である。過去確認されていた生育地点は改変されていないため、周辺を含めて今後の詳細な調査によって現状を明らかにする必要がある。

【特記事項】 クモノスシダ *A. ruprechtii* とクロガネシダ *A. coenobiale* の雑種。クロガネシダの既知の分布は県内のみである。

分布	四国
県内分布	高知市
生育環境と特性	石灰岩上に生える。

CR 27	メシダ科	高知県 RL2010: CR
	シイバサトメシダ <i>Athyrium neglectum</i> subsp. <i>australe</i>	高知県 RDB2000: - 環境省 RL2020: CR

【生育状況と選定の理由】
確認されている生育地点が少ないものの、近年も比較的小規模な群落が新たに発見されている。

【危機要因と保護保全対策】
ニホンジカによる食害と遷移進行が主な危機要因である。周辺植生へのシカの食害の進行を把握し、必要に応じて防鹿柵の設置などを検討するとともに、ササ群落の密生を防ぐなどの対策が必要である。

分布	四国・九州
県内分布	香美市, いの町
生育環境と特性	冷温帯域の落葉樹林下の林床や丈の低いササ群落でまれに生育する。

CR 28	メシダ科	高知県 RL2010: CR
	イワイヌワラビ <i>Athyrium nikkoense</i>	高知県 RDB2000: DD 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】
標高の高い落葉樹林下とその周辺で少数の生育が確認されている。1986年以降の標本はなかったが、調査では2町村で現存が確認された。

【危機要因と保護保全対策】
遷移進行と土砂災害による生育地そのものの消失が危機要因である。林床に生育する種ではないことから、動物の食害や遷移の影響は比較的受けにくい。定期的な生育地の状態の確認が必要である。

分布	北海道・本州（京都府以東）・四国・九州
県内分布	土佐町, 大川村, いの町, 仁淀川町; 高知市 (1930)
生育環境と特性	直射日光の当たらない岩壁や斜面に生育し、林床にはみられない。夏緑性のシダ。同定に際し、ヘビノネゴザの幼個体と紛らわしいことがある。

絶滅危惧 IA CR

CR
29

メシダ科

サカバサトメシダ

Athyrium palustre

口絵 3

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

土佐清水市山中の谷沿いで生育を確認した。全体的にサイズは小さく、個体数、生育状態は良好であるが、確認場所は1か所のみである。

【危機要因と保護保全対策】

産地局限と洪水などによる生育地の消失が危機要因である。生育環境が限定されているため、水害などで一度数が減少すると回復に時間がかかると考えられる。継続的に観察していく必要がある。

分布	本州・四国・九州・屋久島, 台湾
県内分布	土佐清水市
生育環境と特性	県内では溪流沿いのやや明るいコケのついた岩上やその周辺に生育する。夏緑性のシダ植物。

CR
30

メシダ科

トゲカラクサイヌワラビ

Athyrium setuligerum

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

深山の林道沿いで少数確認されているのみである。生育環境・群落規模ともに発見時より大きな変化はない。

【危機要因と保護保全対策】

森林伐採や遷移進行による生育環境の悪化およびニホンジカの食害による植生の荒廃が危機要因である。雑種を形成することから、近縁種との交雑による減少も推測される。周辺植生へのシカの食害の状況と個体群について定期的に調査を行い、必要に応じて防鹿柵の設置を検討する。

分布	本州（愛知県以西）・四国・九州
県内分布	いの町
生育環境と特性	比較的温暖な落葉樹林の明るい林縁や林道沿いの水が滴る斜面に生える。夏緑性のシダ植物。近縁種と雑種を形成することもあり、同定には注意が必要である。

CR
31

メシダ科

シマイヌワラビ

Athyrium tozanense

口絵 3

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: CR

【生育状況と選定の理由】

南国市で現存が確認され、四万十市では確認できなかった。県中部の生育地は、低山でありながら冷涼な伏流水が常時流れ出る切土の法面にあり、群生するリョウメンシダなどに覆われている。

【危機要因と保護保全対策】

生育の条件が限定される植物であり、ニホンジカによる食害の影響も受けている。既知の生育地では生育環境に変化を及ぼさないことが重要であり、関係者間での生育情報の周知を徹底するとともに、モニタリング調査が必要である。また、孢子からの増殖など域外保全についても検討すべきであるが、本種の栽培は難しく今後の研究が必要である。

分布	本州（福井県～岐阜県以西）・四国・九州・屋久島, 台湾
県内分布	南国市, 四万十市
生育環境と特性	暗く湿った林内に生育する小型の夏緑性のシダ植物。年間を通して温度変化の少ない湿潤な環境が維持されることが本種の生育に重要であると推測され、生育環境が非常に限定的である。

CR
32

メシダ科

コウライヌワラビ

Deparia coreana

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

県内では過去、愛媛県との県境付近で確認されている。愛媛県側は牧草地化されており、高知県側のササ草原は以前と変化はないが、2000年以降の採集記録はない。生育地が確認されているのは梶原町のみである。

【危機要因と保護保全対策】

産地局限と遷移進行が主な危機要因である。生育地は自然公園内にあるため、現在の生育環境が維持されるように関係者間での情報を共有するとともに、定期的な調査によって個体群の状況を把握することが必要である。

分布	北海道・本州（新潟県以東）・四国・九州, 朝鮮半島・中国
県内分布	梶原町
生育環境と特性	北方系のシダ植物。夏緑性で根茎は短く横走する。やや陰湿な林内に生える。県内では石灰岩地のササ草原内の岩陰に生育する。

CR
33

メシダ科

ミドリワラビ

Deparia viridifrons

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

同定の見直しを行い産地が減少した。県内の生育地は、種の記載に用いられた基準標本産地を含むが、現在確認できる成熟個体は数個体のみで、個体群や個体サイズが衰退している。2019年に県森林環境税で防鹿柵が設置された生育地がある。

【危機要因と保護保全対策】

森林伐採とニホンジカによる食害が主な危機要因である。食害対策として設置された防鹿柵では、今後、継続的に柵の効果の検証や生育状況がモニタリング調査される予定である。

分布	本州（太平洋側）・四国・九州，朝鮮半島・中国
県内分布	香美市，本山町，越知町，梶原町
生育環境と特性	県内では石灰岩地帯の冷涼な林床でまれにみられる。ただし本種自体は好石灰岩性ではない。常緑～落葉樹林の林床に1～少数個体で生育し，群生はまれである。

CR
34

メシダ科

ヒロハノコギリシダ

Diplazium dilatatum var. *dilatatum*

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

5市町5か所で現存を確認したが，各地点とも10個体以下であった。そのほか採集記録のある1地点では確認できず，消失したと考えられる。

【危機要因と保護保全対策】

産地局限，森林伐採および遷移進行が主な危機要因である。現存が確認されている生育地で定期的に調査を行うとともに，域外保全を検討することが望ましい。

分布	本州（伊豆諸島（八丈島）・神奈川以西）・四国・九州・琉球，台湾・中国・東南アジア・オーストラリア・南太平洋
県内分布	東洋町，室戸市，安芸市，土佐清水市
生育環境と特性	県内では主にスギ人工林の林床に生える。葉身が1mを超えることもある常緑性のシダ植物。

CR
35

メシダ科

ニセヒロハノコギリシダ

Diplazium dilatatum var. *heterolepis*

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: -

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内では数か所で確認されている。土砂災害で環境が変化した場所もある。新たな確認地点はあるが，個体のサイズが小さくなっている。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は森林伐採や遷移進行，ニホンジカによる食害および土砂災害である。防鹿柵の設置を検討するとともに，適切な植生管理を行う必要がある。

分布	本州・四国・九州・種子島・屋久島，台湾
県内分布	安芸市，三原村，土佐清水市
生育環境と特性	温暖湿潤な常緑樹林下の斜面や林道，溪流沿いに生育する大型の常緑性のシダ植物。

CR
36

メシダ科

イヨクジャク

Diplazium okudairae

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: EN

【生育状況と選定の理由】

梶原町で現存が確認された。四万十町の生育地は古い作業道跡の平坦地で，過去の土地利用から大型シダ植物などとの競合が少ない場所であるが，現存は確認できなかった。

【危機要因と保護保全対策】

森林伐採，遷移進行が主な危機要因である。人工林の成長に伴う林内環境の変化などに注視したモニタリング調査と皆伐などの森林施業によって生育地が失われることがないように，森林所有者への周知が必要である。また，人工増殖などの域外保全を行うことが望ましい。

分布	本州（伊豆半島以西）・四国・九州，济州島・台湾・中国
県内分布	大川村，梶原町，四万十町
生育環境と特性	山地の溪流沿いの樹林下などに生育する夏緑性のシダ植物で，県西部の生育地は溪谷に近いスギ人工林の林床である。

CR ヒメシダ科
37 タチヒメワラビ
Phegopteris bukoensis

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内では近年確認されていない。石灰岩地帯の明るい牧草地周辺で採集記録があるが、現在その付近はササ類と灌木が繁茂し、生育地へ向かう歩道自体が消滅している。

【危機要因と保護保全対策】

遷移進行が主な危機要因である。主な生育地である草地の草刈りと利用が、本種の生育環境維持に有効である。

分布	本州（中部地方以北）・四国・九州
県内分布	津野町，栲原町
生育環境と特性	冷涼でやや明るい林床や林縁に生育することが多い。亜高山帯を中心に分布する夏緑性のシダ植物。

CR ヒメシダ科
38 オオハシゴシダ
Thelypteris angulariloba

□絵 4

高知県 RL2010: -
高知県 RDB2000: -
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内では 2011 年に発見された。現在確認されている生育地点は 1 か所のみである。ニホンジカおよびカモシカによる食害の影響で、個体が矮小化し、生育環境も悪化している。

【危機要因と保護保全対策】

ニホンジカあるいはカモシカによる食害，森林伐採，遷移進行が危機要因である。直接的な食害から保護するため防鹿柵の設置が必要である。また，林内低木層の発達により被陰される場合には，枝を切るなどの管理が必要となる。

分布	本州（紀伊半島）・四国・琉球，中国（南部）・台湾
県内分布	室戸市
生育環境と特性	常緑樹林およびスギ林内のやや明るい林床に生える。常緑性のシダ植物。

CR キンモウワラビ科
39 キンモウワラビ
Hypodematium crenatum subsp. *fauriei*

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

既知の生育地は 1 か所のみで，現存を確認した。周囲は樹木が伐採されて公園化されており，乾燥によって生育に影響を受ける可能性がある。発見されれば採取される可能性もある。

【危機要因と保護保全対策】

遷移進行と園芸採取が主な危機要因である。定期的に調査を行い，関係者間で情報を共有し，消失しないよう監視する必要がある。その際，生育地点情報の管理と拡散に注意が必要である。

分布	本州（関東地方・中部地方）・四国・九州
県内分布	中部
生育環境と特性	夏緑性で，根茎は匍匐し，石灰岩岩壁の割れ目に生育する。

CR オシダ科
40 オトコシダ
Arachniodes yoshinagae

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内では東部から西部まで点々と生育地点があるが，2 市 3 地点で現存を確認し，1 地点でみつけられなかった。確認できた各地点の個体数は 10 未満であった。

【危機要因と保護保全対策】

遷移進行とニホンジカによる食害が主な危機要因である。調査では全ての採集記録のある地域では調査できていない。シカの食害が進行している地域では，影響について調査が必要である。

分布	本州（神奈川県以西）・四国・九州，中国
県内分布	東洋町，室戸市，北川村，大豊町，仁淀川町，須崎市，中土佐町，四万十町，土佐清水市，三原村，宿毛市
生育環境と特性	県内では低山の明るい林内で空中湿度が高い斜面下部などに生える。人工林内にわずかに残る常緑広葉樹林の部分に生育するところもある。常緑性のシダ植物。

CR
41
オシダ科
サツマシダ
Ctenitis sinii

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: -
環境省 RL2020: EN

【生育状況と選定の理由】

現存が確認されているのは東部の1地点のみである。スギ人工林の斜面に生育していたが、2021年に皆伐された。周辺の同環境では確認できない。

【危機要因と保護保全対策】

森林伐採による生育環境の変化、園芸採取が主な危機要因である。生育地のスギ人工林は皆伐されたため、全滅する可能性が非常に高い。管理者や所有者と協議の上、生育域内および生育域外での保全対策が必須である。オークションなどで売買されることがあるため、生育地点情報の漏洩や拡散を防ぐ必要がある。

【特記事項】 牧野植物園で自生地由来の個体が栽培されている。

分布	本州・四国・九州, 中国
県内分布	東洋町
生育環境と特性	温暖な地域に分布する常緑性のシダ植物で、県内ではスギ人工林の林床に生える。

CR
42
オシダ科
ツクシオオクジャク
Dryopteris handelliana

高知県 RL2010: EN
高知県 RDB2000: EN
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

2か所で採集記録があるが、香美市土佐山田町では消滅し、現存するのは越知町の1か所のみである。生育地が少ないうえにニホンジカの食害の影響により個体数が減少している。越知町の生育地では県森林環境税で防鹿柵が設置された。

【危機要因と保護保全対策】

遷移進行とニホンジカによる食害が主な危機要因で、そのほか森林伐採、産地局限がある。越知町の生育地は防鹿柵によって保護が図られており、必要に応じて柵の増設を検討する必要がある。シカの生息域にある香美市の生育地では、調査によって防鹿柵の設置を検討する必要がある。

分布	本州・四国・九州, 中国
県内分布	香美市, 越知町
生育環境と特性	落葉広葉樹林のやや湿った林内に生える常緑性のシダ植物。

CR
43
オシダ科
ミヤマベニシダ
Dryopteris monticola

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: -
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

いの町の標高の高い範囲で採集記録があるが、記録自体が非常に少なく、調査でも確認することができなかった。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因としては、森林伐採、河川や道路の改修などの開発、ニホンジカによる食害が考えられる。長い間現存が確認できておらず、採集記録のある地点ではシカの食害が顕著になりつつあるため、防鹿柵の設置を視野に入れ、広範囲での早急な調査が必要である。

分布	北海道・本州・四国・九州, ロシア・朝鮮半島・中国
県内分布	いの町
生育環境と特性	積雪地帯では林床の湿潤で肥沃な土壤に群生するが、県内では積雪のある高標高域に限られる。夏緑性のシダ植物。

CR
44
オシダ科
アツギノヌカイトチシダマガイ
Dryopteris paomowanensis

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: -
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県中部の生育地は、市街化された平野部に隣接する場所にあり、将来、開発によって生育地が失われる危険性が極めて高い。高知市、南国市では過去に点々と確認されているが、現存する個体数は少ない。

【危機要因と保護保全対策】

森林伐採、道路工事による生育地の破壊や開発が主な危機要因である。開発に対しては生育地情報を有効活用して適切な保全措置を行えるように注意しておくこと、さらに人工増殖などの生育域外の保全を行っておく必要がある。

【特記事項】

類似種との区別や、学名と分類学上の位置づけについては検討を要する。

分布	本州(中部地方以西)・四国・九州, 朝鮮半島・中国
県内分布	南国市, 高知市
生育環境と特性	常緑樹林内のチャートなどの岩場にみられ、乾いた日陰に点々と生育する。常緑性のシダ植物。

CR
45

オシダ科

ムラサキベニシダ

Dryopteris purpurella

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: CR

【生育状況と選定の理由】

多くの生育地は少数が確認されるのみであるが、ヌカイタチシダモドキなどの近縁種との見分けが難しく、実数は不明である。

【危機要因と保護保全対策】

人工林化とその後の管理放棄およびニホンジカによる食害が主な危機要因である。全国的にも希少な種で、人為的攪乱の少ない常緑広葉樹林内に生育している。保護対策としては、生育地での定期的な調査と、孢子からの人工増殖などの域外保全が必要である。なお本種の栽培や人工増殖は比較的容易である。

分布 本州（紀伊半島・広島県）・四国・九州・琉球

県内分布 日高村，四万十町，三原村

生育環境と特性 県内では低山の谷頭部で落葉樹と常緑樹が混交する疎林の林床に生える。常緑性のシダ植物。主に流水辺や岩壁に生育している。

CR
46

オシダ科

ヨゴレイタチシダ

Dryopteris sordidipes

□絵 4

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: EN

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

土佐清水市の2か所で確認されているが、生育範囲が極めて限られ、個体数が少ない。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は森林伐採であるが、生育地はいずれも社叢林内であるため、森林が改変されない限りは維持されるものと考えられる。既知の地点以外に周辺の山林には生育する可能性があるが、メガソーラー設置計画があり、調査を進めたうえで対策を講じる必要がある。生育地点は、足摺宇和海国立公園地域には含まれておらず特に保護はされていない。

分布 四国・九州・琉球，台湾

県内分布 土佐清水市

生育環境と特性 常緑広葉樹林の林床に生育する。常緑性のシダ植物。

CR
47

オシダ科

マルバナカイタチシダモドキ

Dryopteris tsugiiwoi

□絵 4

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: CR

【生育状況と選定の理由】

既知の生育地は3か所のみである。高知市で現存が確認された。本地点は社叢で、森林の伐採や倒木がない限り消失の危険性は少ないと考えられる。佐川町の生育地も社叢だが、管理で刈取られる時期によっては確認できないことがある。日高村の産地は最近の確認例がない。

【危機要因と保護保全対策】

産地局限，森林伐採が主な危機要因である。各生育地での保護対策は特にとられていない。定期的に個体群の状況を把握し，保全方法を検討する必要がある。

分布 本州（紀伊半島）・四国・九州

県内分布 高知市，日高村，佐川町

生育環境と特性 低山の常緑広葉樹林内に生育する。常緑性のシダ植物。

CR
48

オシダ科

アツイタ

Elaphoglossum yoshinagae

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

県内では東部から西部まで点々と生育地点があるが，3地点で現存を確認した。各地点の個体数は多くない。

【危機要因と保護保全対策】

園芸採取，遷移進行が主な危機要因である。生育地点情報の公開や拡散を防ぎ，定期的に個体群の状況を把握し，保全方法を検討する必要がある。

分布 本州（伊豆諸島・紀伊半島）・四国・九州・琉球（徳之島以北），台湾・中国・インドシナ半島

県内分布 東部，中部，西部

生育環境と特性 県内では空中湿度の高い林内の岩上に生育する。常緑性のシダ植物。

CR
49

オシダ科
オニイノデ
Polystichum rigens

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

主に中国地方と関東で確認されている常緑性のイノデ類で、県内では津野町の石灰岩地の上に隔離して分布していることが知られていたが、2000年以降に採集記録がなく、調査でも確認できなかった。

【危機要因と保護保全対策】

ニホンジカによる食害、未間伐の暗い人工林の拡大などが主な危機要因と考えられる。県内では極めてまれな種であり、調査を継続して新たな生育地を確認する必要がある。確認された際にはモニタリング調査で個体群の状況を把握し、生育環境の改善を図り、同時に孢子栽培などの域外保全を検討する必要がある。

分布	本州（関東地方以西）・四国、中国
県内分布	津野町
生育環境と特性	山地林内に生育する硬い革質の葉をつける常緑性のシダ植物。

CR
50

ウラボシ科
ミョウギシダ
Goniophlebium someyae

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: -
環境省 RL2020: EN

【生育状況と選定の理由】

生育地が限定され、個体数も少ない。2地域で現存が確認された。

【危機要因と保護保全対策】

産地局限、遷移進行、園芸採取、ニホンジカによる食害が主な危機要因である。定期的に個体群の状況を調査し、シカの食害の影響が明らかになった際には防鹿柵の設置などを検討する必要がある。採取が後を絶たないため、生育地点情報の公開や拡散を防ぐ必要がある。

分布	本州（関東地方・中部地方）・四国
県内分布	中部
生育環境と特性	山地の溪流辺の林内で、石灰岩を含む岩上に生える。夏緑性のシダ植物。

CR
51

ウラボシ科
ヤクシマウラボシ
Selliguea yakuinsularis

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: EN

【生育状況と選定の理由】

香美市と南国市で現存が確認され、馬路村は未調査である。個体数が極めて少ない。

【危機要因と保護保全対策】

産地局限と遷移進行が危機要因で、そのほかに園芸採取も考えられる。定期的に個体群の状況を確認し、保全方法を検討する必要がある。生育地点情報の公開や拡散を防ぐ必要がある。

分布	本州（紀伊半島）・四国・屋久島
県内分布	馬路村、香美市、南国市
生育環境と特性	コケに覆われた樹幹や岩上に着生する。夏緑性のシダ植物。

CR
52

マツ科
シコクシラベ
Abies veitchii var. *reflexa*

□絵 5

高知県 RL2010: VU
高知県 RDB2000: VU
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

生育地は石鎚山系笹ヶ峰の1か所のみである。ちち山との鞍部から笹ヶ峰の東斜面に数百個体が生育しているが、大半は愛媛県側にあり、高知県側に生育するのは数十個体ほどである。生育地ではニホンジカの生息密度が高まりつつある。

【危機要因と保護保全対策】

長期的な危機要因として、地球温暖化による冷温帯性樹種との競合の激化があるが、この要因への対応は困難である。最近増加しているニホンジカによる樹皮剥ぎも大きな危機要因であり、シカの頭数管理とともに樹木ガードなどで食害を防止する必要がある。

分布	四国
県内分布	いの町
生育環境と特性	石鎚山系と剣山系の標高約1700m以上の亜高山帯に生育する常緑高木で、気候的極相林の主要樹種である。樹高は20mに達する個体もあるが、多くはそれよりも低い。ササ類が密生する場所では世代交代が難しく、表土の攪乱やササの一斉枯死で稚樹の侵入・定着が促進される。

CR 53	スイレン科	□絵 5	高知県 RL2010: CR
	ベニオグラコウホネ <i>Nuphar oguraensis</i> var. <i>akiensis</i>		高知県 RDB2000: - 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内では中部の河川で見られ、生育地は2か所と、工事による移植先の1か所のみである。遊離炭酸の豊富な湧水の噴出点周辺にしか生えないため生育環境が限定されており、連続的減少が危惧される。

【危機要因と保護保全対策】

河川改修などの公共工事と遷移進行が主な危機要因である。生育地のうちの1か所では、工事によって水深が浅くなったところにツルヨシなどが侵入し水面を覆っているため、除草などの管理が必要である。もう1か所は住宅街の中にあり、定期的に浚渫や工事が行われるため、土木事務所などとの情報共有ならびに周辺住民への周知が必要である。栽培が難しい種類のため生育地の保護に注力しなければならない。

分布	本州・四国・九州, 朝鮮半島
県内分布	高知市(神田川), いの町(奥田川, 八田の水路)
生育環境と特性	河川の湧水のあるところに限定して生える, 地下茎の発達した沈水・浮葉性の多年生草本。県内ではいずれも流水中に生える。

CR 54	スイレン科	□絵 5	高知県 RL2010: -
	オグラコウホネ <i>Nuphar oguraensis</i> var. <i>oguraensis</i>		高知県 RDB2000: - 環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

2013年に四万十市の一級河川沿いの池において、県内唯一となる新産地が発見されたが、その後、河川の氾濫による土砂流入などが原因と推測される池の湿地化が進み、現存は確認できていない。

【危機要因と保護保全対策】

池周囲からの大型抽水植物の侵入および隣接地の湿地環境再生工事による生育地への影響も危惧される。環境の変化に脆弱で、栽培が難しい種類であるため、池とその周辺の環境が維持されるような管理が必要である。行政や周辺住民の協力が不可欠である。

分布	本州(中部地方以西)・四国・九州, 朝鮮半島
県内分布	四万十市
生育環境と特性	河川沿いの池の中に生える沈水・浮葉性の多年生草本。

CR 55	スイレン科	□絵 5	高知県 RL2010: CR
	サイコクヒメコウホネ <i>Nuphar saikokuensis</i>		高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

高知県 RL2010 でヒメコウホネ (CR) とヒメコウホネ (広義) (CR) としていたものを本種に変更した。ランクの変更はない。調査では南国市の4か所、四万十市の1か所で確認できず、確認できたのは宿毛市の1か所のみ。生育地点および個体数が限られており、連続的に減少している。河岸工事で消失した所がある。

【危機要因と保護保全対策】

河川改修が主な危機要因であるほか、湧水の枯渇を含む水質や流量の変化、農薬の散布・流入などがある。地下茎で栄養的に繁殖するため、個体数の評価が過大になりがちな点にも注意が必要である。確認できなくなった水系では範囲を広げて調査を継続する必要がある。

分布	本州(中部地方以西)・四国
県内分布	南国市, 高知市, いの町, 日高村, 四万十市
生育環境と特性	県内では主に湧水の影響を受けた河川・水路に生育する沈水・浮葉・抽水性の多年生草本。雑種起源の種であるため形態的な変異が大きい。

CR 56	クスノキ科	□絵 5	高知県 RL2010: -
	スナヅル <i>Cassytha filiformis</i>		高知県 RDB2000: - 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

室戸市羽根町で2016年に発見された。その生育地は、2018年9月に2回連続して襲来した台風で消失した。その後、2019年に大月町柏島でも確認され、県内で現存するのはこの1か所のみ。

【危機要因と保護保全対策】

海岸の開発などの公共工事が主な危機要因であるが、現在の生育地は海水浴で利用されている砂浜の隅で、草刈りや清掃などにより除去されることも考えられるため、地元住民への周知と協力体制を整える必要がある。

分布	四国・九州・琉球・小笠原諸島, 世界の熱帯
県内分布	室戸市, 大月町
生育環境と特性	県内では海浜の砂地で主にハマゴウに寄生するつる植物。

CR 57	サトイモ科	高知県 RL2010: CR 高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: EN
	ツルギテンナンショウ <i>Arisaema abei</i>	

【生育状況と選定の理由】

調査では採集記録のある4市町村で現存が確認された。生育地が限定され個体数が少ないことに加え、剣山山系ではニホンジカの食害によって生育地の環境が激変しており、連続的な減少が予測される。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は園芸採取やニホンジカの食害による生育環境の変化、遷移進行である。種の保存法による国内希少野生動植物種に指定され、保全が図られている。シカの食害に対しては、生育地を含めた広範囲でのシカの頭数管理が必要である。

分布	四国
県内分布	中部
生育環境と特性	冷温帯の林床に生育する多年生草本。

CR 58	サトイモ科	□絵6	高知県 RL2010: CR 高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: CR
	イシヅチテンナンショウ <i>Arisaema ishizuchiense</i>		

【生育状況と選定の理由】

調査では採集記録のある4市町村のうち2市町村で現存が確認された。2市町村は未調査である。生育地が限定され個体数が少ないことに加え、剣山山系ではニホンジカの食害によって生育地の環境が激変しており、連続的な減少が予測される。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は園芸採取、ニホンジカの食害による生育環境の変化、遷移進行である。種の保存法による特定第一種国内希少野生動植物種に指定され、保全が図られている。シカの食害に対しては、生育地を含めた広範囲でのシカの頭数管理が必要である。

分布	四国
県内分布	中部
生育環境と特性	冷温帯の林床やササ原に生育する多年生草本。

CR 59	サトイモ科	高知県 RL2010: CR 高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: EN
	シコクヒロハテンナンショウ <i>Arisaema longipedunculatum</i>	

【生育状況と選定の理由】

調査では採集記録のある市町村の全てで現存が確認された。生育地が標高の高い地域に限定され個体数が少ないことに加え、剣山山系ではニホンジカの食害によって生育地の環境が激変しており、連続的な減少が予測される。

【危機要因と保護保全対策】

園芸採取、ニホンジカの食害による生育環境の変化が主な危機要因である。本県における生育地の多くは自然公園内の特別地域であり、採取が規制されている。シカの食害に対しては、生育地を含めた広範囲での頭数管理が必要である。

分布	本州・四国・九州
県内分布	中部
生育環境と特性	冷温帯の林床やササ原に生える多年生草本。

CR 60	チシマゼキショウ科	高知県 RL2010: CR 高知県 RDB2000: - 環境省 RL2020: -
	ハコネハナゼキショウ <i>Tofieldia coccinea</i> var. <i>gracilis</i>	

【生育状況と選定の理由】

香美市で現存が確認され、いの町は未調査である。生育環境はニホンジカの食害により変化していると考えられるが、連続的な減少があるかどうかは不明である。

【危機要因と保護保全対策】

遷移進行や人の踏みつけ、園芸採取が危機要因と考えられる。確認された個体はわずかであるため、広域的に調査を行って分布状況を把握するとともに、モニタリング調査で個体群の状況を把握し、保全方法を検討する必要がある。

分布	本州・四国・九州
県内分布	香美市、いの町
生育環境と特性	やや低い山地に生育する多年生草本。県内では局所的で、高標高の明るい岩場に生育する。種子と脇芽で増える。

絶滅危惧 I A CR

CR 61	トチカガミ科	高知県 RL2010: CR 高知県 RDB2000: EX 環境省 RL2020: VU
	マルミスブタ <i>Blyxa aubertii</i>	

【生育状況と選定の理由】

室戸市では1970年以降確認されておらず、高知市の山腹にある棚田の水路では標本が採集された当時とは環境が大きく異なっており、消失した可能性が高い。生育地、個体数とも極めて少なく、連続的な減少が確認されている。

【危機要因と保護保全対策】

管理放棄が危機要因である。水田やその周辺、ため池などの草刈りなどの管理作業の継続が必要である。モニタリング調査で個体群の状況を把握し、保全対策を講じる必要がある。

分布	本州・四国・九州・琉球, アジア・マダガスカル
県内分布	高知市; 室戸市 (1970), 土佐清水市 (1943)
生育環境と特性	ため池や水田, 水路, 溝に生える一年生草本。

CR 62	トチカガミ科	□絵7	高知県 RL2010: - 高知県 RDB2000: - 環境省 RL2020: EN
	ムサシモ <i>Najas ancistrocarpa</i>		

【生育状況と選定の理由】

県内では2016年に高知市の十市川で確認された新産種であり(梶ら2016), 確認されている生育地が1水系に限定される。全国的にも報告は散発的である。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は河川改修, 水質汚濁や外来植物との競合による生育環境の悪化である。流域に住宅地を含む1水系でのみ知られており, 一年生草本であるため個体数の変動が激しく, 定期的に調査を行って個体群の出現状況を把握しておく必要がある。

分布	本州・四国
県内分布	高知市 (十市川)
生育環境と特性	池および水路の浅所に生育する一年生の沈水植物。県内では同所的に生育するトリゲモに比べ植物体が小型で, ややホッソモに似るが, 果実が湾曲する。

CR 63	トチカガミ科	高知県 RL2010: CR 高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: VU
	サガミトリゲモ <i>Najas chinensis</i>	

【生育状況と選定の理由】

生育地点数が局限されており, 現存が確認されている産地も極めて少ない。

【危機要因と保護保全対策】

農薬汚染や管理放棄が危機要因である。県内では水田やその周辺水路, 休耕地などに生育していることが多く, 人為的管理の変化の影響を受けやすい。水田に生育する他のトリゲモ亜属植物と同様, 分布状況の把握が不十分であり, 今後さらに広範囲にわたる調査を行う必要がある。既知の生育地では, モニタリング調査で個体群の状況を把握し, 保全方法を検討する必要がある。

分布	本州・四国・九州・琉球, 東アジア
県内分布	日高村, 佐川町
生育環境と特性	ため池や水田に生育する一年生の沈水植物。日本産トリゲモ亜属の中では葉幅が広く, 種子表面には粗い網目模様がある。

CR 64	トチカガミ科	高知県 RL2010: CR 高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: NT
	イトリゲモ <i>Najas gracillima</i>	

【生育状況と選定の理由】

採集記録のある地点数が限られていることに加え, 現存が確認されている生育地は少ない。また, 現状が明らかでない生育地点が多い。耕作放棄などの環境変化が進行しつつあり, 今後の減少が危惧される。

【危機要因と保護保全対策】

農薬汚染や棚田の管理放棄が危機要因である。県内での主要な生育地である棚田の耕作放棄の原因は, 中山間地での人口減少であり, 生育地での保全が困難である。一方で, 本種の生育期間である湛水中の調査が不足しているため, 実体の把握が十分ではない。さらに調査を行ったうえで, 域外保全についても検討する必要がある。

分布	本州・四国・九州, 東アジア・北アメリカ
県内分布	室戸市, いの町, 黒潮町
生育環境と特性	貧栄養のため池や水田, 特に棚田に生育する一年生の沈水植物。

CR 65	ヒルムシロ科	口絵 7	高知県 RL2010: CR
	オヒルムシロ <i>Potamogeton natans</i>		高知県 RDB2000: - 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内での分布は高知市と南国市の境周辺の1地域で、湧水地帯にある少数の河川・水路に限られている。調査で現存が確認された。人為的な影響を受けやすい平野部であるため、生育範囲および個体数の継続的な減少が予測される。

【危機要因と保護保全対策】

現存個体数は多いが、河川改修や湧水の枯渇などが生じた場合には急速に減少するおそれがある。涵養源を含めた湧水そのものの保全が必要である。

分布	北海道・本州・四国・九州, 北半球の冷温帯
県内分布	南国市, 高知市
生育環境と特性	湖沼, ため池, 河川, 水路に生える多年生の水生植物。北方系の種であり, 西日本ではしばしば湧水環境に生育する。沈水葉は葉身を欠き葉柄状で線形, 厚みがある点特徴である。浮葉はヒルムシロに比べ大型で基部がやや心形となることが多い。

CR 66	ヒルムシロ科	口絵 7	高知県 RL2010: CR
	ヒロハノエビモ <i>Potamogeton perfoliatus</i>		高知県 RDB2000: DD 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内では四万十川下流域でのみ記録があり、2000年以降に報告があった産地は1地点のみである。調査では確認できなかった。

【危機要因と保護保全対策】

四国で知られている生育地は、本県と愛媛県の1か所のみであり、地域個体群として重要である。県内では四万十川水系の汽水域で2008年に現存が確認されたが、2013年を最後に確認されていない。生育量の年変動が大きく、個体群のサイズが小さい場合には消失する危険性が高いため、域外保全を検討する必要がある。

分布	北海道・本州・四国・九州, 世界の温帯～亜熱帯
県内分布	四万十市
生育環境と特性	沈水性の多年生草本で, 水中茎の長さは数メートルに達する。葉形の形態は変化が大きいが無柄で基部が茎を半周以上抱く点で識別できる。水位変動の少ない湖沼が主要な生育地であり, ときに汽水湖や河川にも生える。

CR 67	ホンゴウソウ科	口絵 7	高知県 RL2010: -
	タカクマソウ <i>Sciaphila tenella</i>		高知県 RDB2000: - 環境省 RL2020: EN

【生育状況と選定の理由】

県西部で2018年に初めて確認された。確認されているのは非常に狭い範囲で、およそ50個体が生育する。

【危機要因と保護保全対策】

森林伐採、遷移進行や動物による食害で環境条件が変化することが危機要因である。自然公園内であるため、消失の危険性は低いが、管理上の枝払いや災害による倒木で生育環境が変われば消失のおそれがある。ほかにも生育していないか周辺一帯の詳細な探査が必要である。

【特記事項】

分布東限・北限の生育地がある。

分布	四国・九州・琉球, 台湾・中国・インドネシア・スリランカ
県内分布	西部
生育環境と特性	発達した常緑広葉樹林の林床に生える菌従属栄養植物。

CR 68	シュロソウ科	口絵 7	高知県 RL2010: CR
	クマバツクバネソウ <i>Paris verticillata</i>		高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

確認地点は香美市の石灰岩地と石鎚山系の計3か所であったが、近年は県森林環境税で防鹿柵が設置されている1か所でのみ継続して確認されている。しかし、生育範囲はごく限られ、確認個体数も10～20程度であるため存続が危ぶまれる。

【危機要因と保護保全対策】

遷移進行とニホンジカによる食害が主な危機要因である。香美市の確認地点は、防鹿柵により保護されているが、柵内では他の植物の繁茂により消失する可能性があるため、モニタリング調査を行って個体群の状況を把握し、適切な対策を検討する必要がある。

分布	北海道・本州・四国・九州, ロシア(極東)・朝鮮半島・中国
県内分布	香美市, いの町, 仁淀川町
生育環境と特性	高標高の山地の林下に生える多年生草本。

絶滅危惧IA CR

CR
69

サルトリイバラ科

タチシオデ

Smilax nipponica

口絵 7

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

生育地が限定されており、特に高知市の生育地が公共工事により危機的な状況にある。梶原町では広範囲に点在する。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は管理放棄による遷移進行で、そのほか土地の造成などの開発行為やニホンジカによる食害もある。県内では蛇紋岩地に多くみられ、特に高知市一宮の逢坂山には多産するが、開発により絶滅の危機にある。やや湿った明るい環境が保たれるように、植生管理の継続が必要である。

分布	本州・四国・九州，朝鮮半島・中国
県内分布	高知市，土佐町，仁淀川町，梶原町
生育環境と特性	山地の林縁や明るい草原に生育する多年生草本。群生することはない。本州では山菜として利用するところもあるが，県内での利用はない。

CR
70

ユリ科

カタクリ

Erythronium japonicum

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

過去には数か所で確認されていたが、人工林化やそのほかの生育環境の悪化などでほとんど消失した。現存が確認されるのは1地点のみ。梶原町で近年確認されていた地点でも見つからない。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は園芸採取，遷移進行，森林伐採である。盗掘のおそれがあるため，生育地点情報の公開や拡散を防ぐ必要がある。生育地近くまでニホンジカの生息域が拡大してきているため，食害の状況について定期的な確認を要する。また，過去の確認地点での再調査も必要である。

【特記事項】

いの町本川越裏門の「カタクリ」はいの町指定天然記念物（1982）。

分布	北海道・本州・四国・九州，ロシア（極東）・朝鮮半島・中国
県内分布	中部
生育環境と特性	山地の落葉樹林内の明るい林床に生育する多年生草本。春植物。

CR
71

ユリ科

キバナノアマナ

Gagea nakaiana

口絵 8

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

いの町と梶原町で現存が確認され，各地点の開花個体数は10未満であった。減少傾向にあるかは不明である。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は遷移進行，産地局限，ニホンジカによる食害である。開花期に明るく湿った環境になることが必要である。定期的な調査で個体群の状況を把握しつつ，人工増殖などの域外保全を検討する必要がある。

分布	北海道・本州・四国・九州，ロシア・朝鮮半島・中国・ヒマラヤ
県内分布	いの町，梶原町
生育環境と特性	県内では春遅くまで残雪が残る高標高域で，芽を出す時期に明るく湿った環境になる斜面に生育する。多年生草本。主に種子で増える。

CR
72

ユリ科

ヒメユリ

Lilium concolor

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: EN

【生育状況と選定の理由】

県内では特に中西部の採草地に多くみられたが，牧草地化や草地の管理放棄による低木林化，さらには園芸採取により激減している。近年確認できない市町村もある。現存していても，耕作放棄される予定の生育地もあり，そこではイノシシによる根の食害も受けている。

【危機要因と保護保全対策】

草地の管理放棄による樹林化が主な危機要因で，そのほか園芸採取と動物による食害がある。山焼きによる維持管理作業が行われている生育地では，その継続が必須である。

分布	本州・四国・九州，ロシア（極東）・朝鮮半島・中国
県内分布	中部，西部
生育環境と特性	日当たりの良い山地の草原に生える多年生草本。

CR ラン科
73 **イワチドリ**
Amitostigma keiskei

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: EN

【生育状況と選定の理由】

生育を確認できる地点数が激減している。調査で確認された開花個体は10未満で、県全体で現存する個体数も極めて少ないと推測される。

【危機要因と保護保全対策】

園芸採取と遷移進行、河川改修が主な危機要因である。これまでに園芸的な採取で個体数が激減したため、生育地情報の公開と拡散には特別な注意が必要である。河川改修によって生育地が破壊される場合には、状況に応じた保全対策を講じる必要がある。

分布	本州（伊豆諸島・中部地方・近畿地方）・四国
県内分布	東部、中部
生育環境と特性	県内では河川沿いの大きな岩場の明るい環境にイネ科やカツリグサ科、コケ類とともに生える多年生草本。種子繁殖のほかに、地下部に新しい球根をつくり増える。

CR ラン科
74 **キシマエビネ**
Calanthe aristulifera

高知県 RL2010: EX
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: EN

【生育状況と選定の理由】

高知県 RL2010 では絶滅（EX）となっていたが、その後再発見された。確認されている生育地点と個体数が極めて少ない。ニホンジカの食害による影響で生育環境が変化し、連続的減少が予測される。

【危機要因と保護保全対策】

園芸採取、森林伐採や管理放棄などの生育環境の変化が主な危機要因である。盗掘のおそれがあるため、生育地点情報の漏洩と拡散を防ぐ必要がある。近年はニホンジカの食害によって生育環境が急激に変化しており、防鹿柵の設置も含めた生育地での保全対策と人工増殖などの域外保全を検討する必要がある。

分布	本州（近畿地方南部以西）・四国・九州、朝鮮半島・台湾・中国
県内分布	西部
生育環境と特性	県内では常緑広葉樹林の林床に生育する常緑の多年生草本。新しいバルブにより栄養繁殖するほか、環境が良いと種子繁殖もみられる。

CR ラン科
75 **キンセイラン**
Calanthe nipponica

高知県 RL2010: EN
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

山地に点々と生育地が確認されているが、県全体での個体数は極めて少ない。ニホンジカの食害による影響がある地域では、県森林環境税で防鹿柵が設置された生育地がある。生育環境の変化で連続的減少が予測される。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は遷移進行と森林伐採、園芸採取で、そのほかニホンジカによる食害もある。特に園芸採取は深刻な個体数減少につながるため、生育地点情報の公開と拡散には特に注意が必要である。シカによる食害が増加している生育地では防鹿柵の設置を検討する必要がある。

分布	北海道・本州・四国・九州、チベット
県内分布	中部、西部
生育環境と特性	県内ではやや標高の高い山地の林床に、点々と生える常緑の多年生草本。晩秋に休眠し、新しいバルブにより栄養繁殖するほか、環境が良いと種子繁殖もみられる。

CR ラン科
76 **サルメンエビネ**
Calanthe tricarinata

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

山地に点々と生育地が確認されているが、県全体での個体数は少ない。ニホンジカの食害による影響がある地域では、県森林環境税で防鹿柵が設置された生育地がある。生育環境の変化で連続的減少が予測される。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は園芸採取と森林伐採、ニホンジカによる食害である。かつては群生もみられたが、園芸ブームで大量に盗掘された。栽培は難しく、継続的な採取は深刻な個体数減少につながるため、生育地点情報の漏洩と拡散を防ぐ必要がある。シカによる食害が進行している生育地では防鹿柵の設置を検討する必要がある。

分布	北海道・本州・四国・九州、朝鮮半島・台湾・中国・ヒマラヤ
県内分布	中部、西部
生育環境と特性	県内ではやや標高の高い山地の落葉樹林や人工林などの林床に点々と生える常緑の多年生草本。新しいバルブで少しずつ栄養繁殖するほか、環境が良いと種子でも繁殖する。

CR
77

ラン科

ササバギンラン

Cephalanthera longibracteata

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

2000年以降2か所で採集記録があるが、最近では確認されていない。そのほかの4か所は、80年以上前の記録である。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は森林伐採、遷移進行、園芸採取、ニホンジカによる食害である。特に園芸採取は深刻な個体数減少につながるため、生育地情報の公開と拡散を防ぐ必要がある。シカの食害が増加している生育地では防鹿柵の設置を検討する必要がある。光環境の改善によって再生を図るため、過去の確認地点で、被陰している植物の除去作業を試みるなど、環境の改善を図ることも必要である。

分布	北海道・本州・四国・九州，ロシア（極東）・朝鮮半島・中国
県内分布	中部，西部
生育環境と特性	県内ではやや明るい林床に生える多年生草本。晩秋に地上部が枯れ，地下部に新芽をつくるが栄養繁殖ではほとんど増えない。環境が良いと種子でも繁殖する。

CR
78

ラン科

ユウシュンラン

Cephalanthera subaphylla

高知県 RL2010: EN

高知県 RDB2000: EN

環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

数地点で現存が確認されたが、消失した生育地がある。各地点の確認個体数が少なく、県全体での個体数は少ない。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は遷移進行、園芸採取、道路工事、ニホンジカによる食害である。共生菌に依存する割合が高い植物と考えられるため、周辺も含めた生育環境の保全が必要である。シカの食害が増加している生育地では防鹿柵の設置を検討する必要がある。

分布	北海道・本州・四国・九州，朝鮮半島
県内分布	中部，西部
生育環境と特性	県内では常緑樹林の林床に点々と生える多年生草本。葉が小さく退化して菌への依存が高いと考えられる。地下の新芽と種子で繁殖する。

CR
79

ラン科

モイワラン（トクシマサイハイランを含む）

Cremastra aphylla

高知県 RL2010: -

高知県 RDB2000: -

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

高知県植物誌で「トクシマサイハイラン（仮称）」とされていた種類。近年の確認地点は1か所で、推定個体数は50未満である。菌従属栄養植物であるため開花個体しか確認できない。過去に確認された場所でも生育環境が変化し、確認できなくなった地点がある。

【危機要因と保護保全対策】

森林伐採、遷移進行、園芸採取が主な危機要因である。特に園芸採取は深刻な個体数減少につながるため、生育地点情報の公開や拡散を防ぐ必要がある。共生菌による倒木の腐朽が終わると生育に必要な養分を得られなくなることから本種も衰退する。生育地内での保全と併せて人工増殖方法の検討を行う必要がある。

分布	北海道・本州・四国・九州，ロシア（極東）・朝鮮半島（南部）・台湾・中国～ヒマラヤ
県内分布	中部
生育環境と特性	県内では冷涼な林内の林床の倒木周辺に生える多年生草本。倒木などを分解する菌類を利用する菌従属栄養植物である。地下茎が肥大して花茎数を増やすが、種子で繁殖する。

CR
80

ラン科

トケンラン

Cremastra unguiculata

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

県内で確認されている地点は1か所。開花個体数は非常に少なく、生育範囲も極めて狭いことから、連続的減少が予測される。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は森林伐採、遷移進行の増加である。現時点で採取による減少は確認されていないが、深刻な個体数減少につながるため、生育地情報の公開と拡散を防ぐ必要がある。生育地内での保全と併せて人工増殖の方法を検討する必要がある。

分布	北海道・本州・四国・九州，濟州島・中国
県内分布	中部
生育環境と特性	落葉樹林のやや湿った林床にまとまって生える多年生草本。新しいバルブにより少しずつ栄養繁殖するほか、環境が良いと種子でも繁殖する。

CR
81

ラン科

アキザキナギラン

Cymbidium aspidistrifolium

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: EN

【生育状況と選定の理由】

県内では1地域に限られており、生育地は極めて局所的で、開花株はみられない。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は園芸採取、遷移進行の増加、森林伐採である。特に園芸採取は深刻な個体数減少につながるため、生育地情報の公開と拡散を防ぐ必要がある。生育地内での保全と併せて人工増殖の方法を検討する必要がある。

分布	本州（紀伊半島）・四国・九州・琉球、済州島・台湾
県内分布	東部
生育環境と特性	常緑広葉樹林内のやや乾いた林床に生える常緑の多年生草本。種子で繁殖するほか、茎の下の方に新芽を複数つくり栄養繁殖することもある。

CR
82

ラン科

カンラン

Cymbidium kanran

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: EN

【生育状況と選定の理由】

県内で広く生育が確認されているが、見つかるのと採取されるうえ、過去の園芸目的の採取が原因で、開花個体はほとんどない。最近各地で、栽培家による人為的な播種や栽培個体の野生への植え戻しが行われており、遺伝子攪乱が起きている。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は園芸採取、森林伐採、遷移進行の増加である。特に園芸採取は深刻な個体数減少につながっており、生育地情報の公開と拡散を防ぐ必要がある。生育地ではイノシシの掘り返しによる個体数の減少も認められ、生育地内での保全と併せて系統保存を検討する必要がある。

【特記事項】 宿毛市橋上町の自生地は宿毛市指定天然記念物（1960）。

分布	本州（東海地方以西）・四国・九州・琉球、済州島・台湾・中国
県内分布	東部、中部、西部
生育環境と特性	常緑広葉樹林の林床に生える常緑の多年生草本。茎の下の方に新芽を複数つくり栄養繁殖で増殖することもある。種子でも繁殖する。

CR
83

ラン科

コアツモリソウ

Cypripedium debile

口絵 8

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: NT

【生育状況と選定の理由】

3市町村で採集記録があるが、調査で現存が確認されたのはそのうち1地域である。確認されている個体数は少ない。

【危機要因と保護保全対策】

現存する生育範囲ではニホンジカによる食害が顕著であり、2地点で防鹿柵を設置し保護している。生育地周辺も含めたシカの頭数管理が必要である。過去に採集記録があるが、現在は生育が確認できない地域での調査を継続していく必要がある。

分布	北海道・本州（中部地方以北）・四国・九州、台湾・中国
県内分布	中部
生育環境と特性	常緑針葉樹林の林床に生える多年生草本。地下部に新芽をつくり栄養繁殖するが、環境がよいと種子でも繁殖する。

CR
84

ラン科

アオチドリ

Dactylorhiza viridis

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: EN

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内で確認できる地点は非常に限られており、推定個体数は50未満。生育環境の変化で連続的減少が予測される。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は遷移進行による生育環境の変化、園芸採取、道路工事である。特に園芸採取は深刻な個体数減少につながるため、生育地点情報の公開と拡散を防ぐ必要がある。生育地内での保全と併せて域外保全として人工増殖方法の検討を行う必要がある。

分布	北海道・本州（中部地方以北）・四国、ロシア（極東）・朝鮮半島・中国・ヒマラヤ・ヨーロッパ・アラスカ
県内分布	中部
生育環境と特性	明るい林縁などに生える多年生草本。種子で繁殖するほか、条件がよいと地下部に新芽をつくり栄養繁殖することもある。

ラン科
CR 85
イチヨウラン
Dactyloctenium aegyptium

□絵 8

高知県 RL2010: EN
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

2000年以降6市町村で採集記録があったが、調査で確認できない地点があった。推定個体数は250未満である。ニホンジカの食害による森林の荒廃など、生育環境の変化で連続的減少がみられる。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は森林伐採、遷移進行による生育環境の変化、園芸採取、ニホンジカによる食害である。特に園芸採取は深刻な個体数減少につながるため、生育地点情報の公開や拡散を防ぐ必要がある。シカによる食害が進行し生育環境が悪化している生育地では防鹿柵の設置を検討する必要がある。

分布	北海道・本州・四国・九州，ロシア（極東）
県内分布	東部，中部，西部
生育環境と特性	山地の林床に生える多年生草本。生育は土壌の水分条件に影響を受ける。晩秋に新葉と入れ替わりそのまま越冬して初夏に開花する。地下部に新芽をつくり栄養繁殖する。

ラン科
CR 86
コイチヨウラン
Ephippianthus schmidtii

□絵 9

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内で確認されているのは1か所で、極めて局所的である。ニホンジカの食害などによる生育環境の変化で連続的減少が予測される。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は産地局限と遷移進行、森林伐採、園芸採取である。特に園芸採取は深刻な個体数減少につながるため、生育地点情報の拡散に注意を要する。生育地はニホンジカによる食害拡大地域であり、防鹿柵の設置を検討するとともに、生育地を含めた広域でのシカの頭数管理が必要である。

分布	北海道・本州・四国，ロシア（極東）
県内分布	中部
生育環境と特性	常緑針葉樹林の林床に生える多年生草本。種子で繁殖するほか、地下茎の先端に新芽をつくり栄養繁殖する。

ラン科
CR 87
エソズラン
Epipactis helleborine

高知県 RL2010: EN
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

2000年以降3市町村で採集記録があり、点々と生育が確認されていたが、各地点の個体数は1～4個体とわずかである。ニホンジカの食害による影響で生育環境が変化し、個体数が減少している地点があった。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は遷移進行と園芸採取、ニホンジカによる食害である。特に園芸採取は深刻な個体数減少につながるため、生育地点情報の公開と拡散を防ぐ必要がある。シカの食害が拡大している地域では、防鹿柵の設置とともに生育地を含めた広範囲でシカの頭数管理が必要である。地上部が出現しない年もあるため、継続した調査が必要である。

分布	北海道・本州・四国・九州，ユーラシア大陸の冷温帯～亜寒帯域・アフリカ北部
県内分布	中部，西部
生育環境と特性	落葉樹林や針葉樹林などの林床に生える多年生草本。県内では隔年で出現する個体がある。種子で繁殖するほか、地下茎の先端に新芽をつくり栄養繁殖することもある。

ラン科
CR 88
オサラン
Eria japonica

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

中部から西部にかけて、点々と確認されている。限られた大径木や岩上にしか着生していない。連続的に減少しているかどうかは不明である。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は産地局限、遷移進行、森林伐採、園芸採取である。特に園芸採取は深刻な個体数減少につながるため、生育地点情報の漏洩と拡散を防ぐ必要がある。大径木に着生することが多いため、着生木を含めた周辺一帯の環境の保全が重要である。

分布	本州（伊豆諸島・紀伊半島）・四国・九州・琉球，台湾・中国
県内分布	中部，西部
生育環境と特性	空中湿度が高く、常緑樹林内の明るい樹幹または岩上に着生する多年生草本。新しいバルブで栄養繁殖するほか、環境が良いと種子でも繁殖する。

ラン科
CR 89 **イモネヤガラ**
Eulophia zollingeri

口絵 9

高知県 RL2010: -
高知県 RDB2000: -
環境省 RL2020: EN

【生育状況と選定の理由】

2008年に結実した個体が認識されていたものの本種と確認できていなかった。2018年に開花個体が初めて確認され、本種と同定された。森林の伐開など、大きく生育環境が変化することで出現数が変動する。土佐清水市でのみ確認されており、生育範囲は極めて局所的である。開花しないと個体の確認が難しいため、潜在的な個体も多数あると思われる。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は森林伐採、遷移進行、土地造成である。地中には花茎を出さない根茎があるため、生育地への踏み込みなどに注意が必要である。生育する範囲が正確にわからないため、生育地周辺も含めて広範囲での森林環境の保全が重要である。

分布	四国・九州・琉球, 熱帯アジア～オーストラリア
県内分布	土佐清水市
生育環境と特性	常緑樹林の林床や林縁に生える多年生草本。倒木などを分解する菌類を利用する菌従属栄養植物である。種子で繁殖するほか、地下茎が分枝して栄養繁殖する。

ラン科
CR 90 **カモメラン**
Galearis cyclochila

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: NT

【生育状況と選定の理由】

県内の既知の生育地では近年確認できない。絶滅した可能性がある。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は園芸採取、ニホンジカの食害による影響である。園芸目的で乱獲されたという情報があり、深刻な個体群の縮小が起こったと考えられる。生育地点情報の漏洩と拡散を防ぐ必要がある。さらに、近年のシカの踏み荒らしと食害による影響も大きい。今後継続して調査を行い、生存が確認された場合、防鹿柵の設置を検討し、生育地内での保全と併せて人工増殖での保全を検討する必要がある。

分布	北海道・本州(中国地方以北)・四国, ロシア(極東)・朝鮮半島
県内分布	中部
生育環境と特性	湿った林床に生える多年生草本。種子で繁殖するほか、地下部に新芽をつくり栄養繁殖する。

ラン科
CR 91 **モミラン**
Gastrochilus toramanus

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: EN
環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

最近に1か所しか確認されていない。着生木の生存に依存するため、推定個体数は50未満とした。

【危機要因と保護保全対策】

園芸採取、森林伐採が主な危機要因である。着生する樹木個体は限られている。着生木が枯死すると多くの個体が消失するため、着生木を含めた森林環境の保全が重要である。人工増殖も検討する必要がある。

分布	本州(宮城県以南)・四国・九州
県内分布	東部, 中部
生育環境と特性	県内では空中湿度が高く、明るい樹幹に着生する常緑の多年生草本。種子で繁殖するほか、環境が良ければ脇芽をつくり栄養繁殖する。

ラン科
CR 92 **オニノヤガラ**
Gastrodia elata var. elata

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

過去に3市町村で確認され、そのうち1地域で現存を確認し、新たに2地域で確認した。成長段階で共生菌を変えることが知られている菌従属栄養植物で、生育する森林の環境の変化により出現に変動がある。

【危機要因と保護保全対策】

遷移進行、森林伐採、土地造成などによる生育環境の変化が危機要因である。共生菌の分解源となる倒木を林床に供給するなど、生育地周辺も含めた生育環境の保全が重要である。

分布	北海道・本州・四国・九州, ロシア(極東)・朝鮮半島・台湾・中国～ヒマラヤ
県内分布	中部, 西部
生育環境と特性	山地の林内に生える多年生草本。倒木などを分解する菌類を利用する菌従属栄養植物である。成長するとナラタケと共生する。種子で繁殖するほか、地下茎が分枝して栄養繁殖する。

CR
93

ラン科

シロテンマ

*Gastrodia elata var. pallens*高知県 RL2010: -
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: CR

【生育状況と選定の理由】

過去に1か所で確認されているが、調査では確認できなかった。高知県植物誌ではオニノヤガラ の品種とされていたもので、高知県 RL2010 ではオニノヤガラ (CR) に含めて評価されていたが、今回変種として別途評価した。

【危機要因と保護保全対策】

森林伐採、土地造成、遷移進行の増加が主な危機要因である。共生菌の分解源となる倒木などを林床に供給するなど、生育地周辺も含めた生育環境の保全が重要である。採集記録のある地点で定期的に個体の出現を調査するほか、周辺の同様の環境を調査する必要がある。

分布 北海道・本州・四国・九州, ロシア (極東)・朝鮮半島・台湾・中国〜ヒマラヤ

県内分布 西部

生育環境と特性 山地の林内に生える多年生草本。倒木などを分解する菌類を利用する菌従属栄養植物である。成長するとナラタケと共生する。種子で繁殖するほか、地下茎が分枝して栄養繁殖する。

CR
94

ラン科

ナヨテンマ

*Gastrodia gracilis*高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: EN

【生育状況と選定の理由】

過去に1か所で確認されているが、調査では確認できなかった。2021年、新たに1か所生育地が確認された。

【危機要因と保護保全対策】

森林伐採、土地造成、遷移進行の増加が主な危機要因である。共生菌の分解源となる落葉落枝などを堆積させるなど、生育地周辺も含めて森林の環境を保全することで、再生を図る必要がある。採集記録のある地点で定期的に個体の出現を調査するほか、周辺の同様の環境を調査する必要がある。

分布 本州 (千葉県以西)・四国・九州, 台湾

県内分布 中部

生育環境と特性 林内に生える多年生草本。倒木などを分解する菌類を利用する菌従属栄養植物である。種子で繁殖するほか、地下茎が分枝して栄養繁殖する。

CR
95

ラン科

ツリシュスラン

*Goodyera pendula*高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

過去に6市町村で確認されているが、調査で現存が確認されたのは2か所のみ。大径木の樹幹の上の方に着生するため確認が難しい。

【危機要因と保護保全対策】

園芸採取、森林伐採が主な危機要因である。着生する樹木個体が限られており、着生木が枯死すると多くの個体が消失するため、着生木が生育する森林を保全することが重要である。人工増殖による保全も検討する必要がある。

分布 北海道・本州・四国・九州, 台湾

県内分布 東部, 中部, 西部

生育環境と特性 空中湿度が高い樹幹に着生する多年生草本。種子で繁殖するほか、環境が良ければ脇芽をつくり栄養繁殖する。

CR
96

ラン科

ダイサギソウ

*Habenaria dentata*高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: EN

【生育状況と選定の理由】

県内では広くみられたが、ほとんどの地点で減少している。高知県希少野生動植物保護条例の指定種であるが、園芸採取による減少は続いている。

【危機要因と保護保全対策】

管理放棄や遷移進行、園芸採取が主な危機要因である。明るい草地に生育する植物であるため、遷移の進行で消滅する可能性が高く、花が咲くと目立つため園芸採取の対象となる。個体数が少ないと条例での抑止効果が低いため、継続的に生育環境を整備して個体数を増やし、公開して守るのも一つの手段として有効である。

【特記事項】高知県希少野生動植物保護条例指定種。

分布 本州 (千葉県以西)・四国・九州・琉球, 朝鮮半島・台湾・中国・インドシナ・ヒマラヤ・マレー半島・フィリピン

県内分布 東部, 中部, 西部

生育環境と特性 日当たりの良いやや湿った草地などに生える多年生草本。

ラン科
CR 97 **ムカゴソウ**
Herminium lanceum

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: EN

【生育状況と選定の理由】

過去に東部から中部にかけて点々と標本が採集されているが、その全てで確認できなかった。調査によって記録のなかった中部の1か所で、偶然現存が確認されたが、その場所でも数個体しか見つかっていない。西部の1か所では管理放棄のため生育環境が変化して、確認できなくなっている。

【危機要因と保護保全対策】

遷移進行とニホンジカによる食害が主な危機要因である。良好な生育環境を維持するために、周辺も含めて草刈りなどを行うとともに、シカの食害の影響を調査する必要がある。県内で確認されている個体数は極めて少ないため、人工増殖などの域外保全を検討する必要がある。

分布	北海道・本州・四国・九州・琉球、亜寒帯～熱帯アジア・ニューギニア
県内分布	中部、西部
生育環境と特性	県内では明るい湿地に生育する多年生草本。種子で繁殖するほか、地下部に新しい球根をつくり栄養繁殖する。

ラン科
CR 98 **トサノクロムヨウラン**
Lecanorchis nigricans var. *patipetala*

高知県 RL2010: DD
高知県 RDB2000: DD
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

採集記録は2か所にあるが、近年は1か所のみで確認されている。生育環境である常緑樹林は、県内に広く存在するため、推定個体数は250未満とした。形態形質が似ているクロムヨウランと近接していることもあり、適正な開花期および開花時間に確認しないと判別は難しい。

【危機要因と保護保全対策】

森林伐採が主な危機要因である。今後さらに広範囲にわたる調査を行う必要がある。既知の生育地では、モニタリング調査で個体群の状況を把握し、保全方法を検討する必要がある。

分布	四国
県内分布	中部
生育環境と特性	常緑樹林の林床に生える多年生草本。樹木の根に菌根をつくる菌類を利用する菌従属栄養植物。種子で繁殖するほか、茎の下の方に新芽を複数つくり増えることもある。

ラン科
CR 99 **ムロトヨウラン**
Lecanorchis taiwaniana

□絵9

高知県 RL2010: DD
高知県 RDB2000: -
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

室戸市でのみ確認されている。推定個体数は50未満。生育する森林の環境の変化により出現に変動があると推測される。

【危機要因と保護保全対策】

動物による食害の影響と森林伐採が主な危機要因である。既知の生育地では、ニホンジカやカモシカの生息が確認されており、状況によっては防鹿柵の設置を検討する必要がある。

【特記事項】

2006年に新種記載されていたが、2016年に*L. taiwaniana*と同一とされた(Suetsugu et al. 2016)。

分布	四国
県内分布	室戸市
生育環境と特性	常緑樹林の林床に生える多年生草本。樹木の根に菌根をつくる菌類を利用する菌従属栄養植物。種子で繁殖するほか、茎の下の方に新芽を複数つくり増えることもある。

ラン科
CR 100 **ギボウシラン**
Liparis auriculata

□絵9

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: EN
環境省 RL2020: EN

【生育状況と選定の理由】

中部の3か所で現存が確認された。西部では確認できなくなった所がある。中部ではニホンジカの食害の影響を受けて荒廃していた生育地があったが、2016年に県森林環境税で防鹿柵が設置され、保護されている。東部は未調査である。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は遷移進行と園芸採取である。他の植物に被陰されると急速に衰退するため、生育地の周囲も含め明るく湿った環境が維持されるように保全する必要がある。ほかの生育地でもニホンジカの食害による生育環境の変化を把握し、対策を検討する必要がある。

分布	北海道・本州・四国・九州・屋久島、濟州島
県内分布	東部、中部、西部
生育環境と特性	県内では林縁や林内の明るいところで湿った環境に生える多年生草本。地下部に新しいバルブをつくり更新するが、ほとんどが種子で増える。

CR
101

ラン科

アキタスズムシソウ

Liparis longiracemosa

口絵 10

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: EN

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

本種は、セイタカスズムシソウ *L. makinoana* から 2019 年に分けられ、新種記載された (Tsutsumi et al. 2019)。高知県 RL2010 でセイタカスズムシソウ (VU) とされていたものを本種に変更する。最近では 6 か所しか確認されていない。推定個体数は 250 未満。生育環境の変化で連続的減少が予測される。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は園芸採取で、そのほか森林伐採、遷移進行である。生育地とその周辺も含めた生育環境の保全が必要である。定期的に個体群の状況を把握し、対策を講じるとともに、生育地点情報の公開と拡散を防ぐ必要がある。

分布 北海道・本州・四国・九州, ロシア (極東)・朝鮮半島・中国

県内分布 東部, 中部, 西部

生育環境と特性 県内では涼しく湿った林床に点々と生える多年生草本。地下部に新しいバルブをつくり更新するが、ほとんどが種子で増える。

CR
102

ラン科

ササバラン

Liparis odorata

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: EN

環境省 RL2020: EN

【生育状況と選定の理由】

近年は同じ場所でも確認例がなく、西部では 80 年以上情報が無い。推定個体数は 50 未満である。ここ数年間でも個体数の急激な減少傾向がみられる。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は遷移進行で、そのほか園芸採取と草地の開発である。被陰されると急速に衰退するため、定期的な調査で個体群の状況を把握し、必要に応じて生育地を保全するための対策と、人工増殖による保全を検討する必要がある。

分布 本州 (栃木県以南)・四国・九州・琉球, 台湾・中国~ヒマラヤ・インド・スリランカ・ミクロネシア

県内分布 中部

生育環境と特性 県内では明るく湿った草地に生える多年生草本。地下部に新しいバルブをつくり更新するが、ほとんどが種子で増える。

CR
103

ラン科

シテクモキリ

Liparis purpureovittata

口絵 10

高知県 RL2010: -

高知県 RDB2000: -

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

2013 年に県内で発見され、発見地周辺の 2 か所で現存が確認された。日本では広く分布することがわかってきているため、今後県内の生育地点数が増える可能性もあるが、採取圧と生育環境の変化で連続的減少が予測される。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は園芸採取と草地の開発、遷移進行である。被陰されると急速に衰退するため、定期的に個体群の状況を把握し、必要に応じて生育地を保全するための対策を講じる必要がある。また、人工増殖による域外保全を検討する必要がある。

分布 北海道・本州・四国

県内分布 中部

生育環境と特性 県内では山地のやや湿った林縁に生える多年生草本。主に種子で増えるが、地下部に新しいバルブをつくり更新する。

CR
104

ラン科

スズムシソウ

Liparis suzumushi

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: EN

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

確認できる生育地は急激に減少しており、残っている個体数は非常に少ない。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は園芸採取で、そのほか遷移進行と森林伐採である。定期的に個体群の状況を把握し、必要に応じて生育地を保全するための対策と、人工増殖による域外保全を行う必要がある。盗掘や山採り個体の販売が後を絶たないため、生育地点情報の拡散を防ぐとともに、法律や条例による保護が求められる。

分布 北海道・本州・四国・九州, 朝鮮半島

県内分布 中部, 西部

生育環境と特性 湿った樹林下やその岩上に生える多年生草本。地下部に新しいバルブをつくり更新するが、ほとんどが種子で増える。

CR
105

ラン科
ボウラン
Luisia teres

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: EN
環境省 RL2020: NT

【生育状況と選定の理由】

室戸市吉良川御田八幡宮で現存を確認した。室戸市では過去には海岸の岩にもみられたというが、現在はみられない。宿毛市（中澤、山中 1982、山脇 1982）と安芸市（広松ら 1978）に記録はあるが現状不明である。

【危機要因と保護保全対策】

園芸採取や遷移進行、着生木の枯損による消失のおそれがある。現存する室戸市の生育地では、着生木周辺は駐車場や通路として利用されており、土壌の踏みつけが着生木に悪影響を与える可能性があるため、車や人が近づけないような対策を講じる必要がある。

【特記事項】

室戸市吉良川の「吉良川ボウラン自生地」は県指定天然記念物（1954）。

分布	本州（近畿地方南部）・四国・九州・琉球、台湾・中国
県内分布	室戸市
生育環境と特性	明るい樹幹および岩上に着生する多年生草本。

CR
106

ラン科
ホザキイチヨウラン
Malaxis monophyllas

高知県 RL2010: EN
高知県 RDB2000: EN
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

3市町村で採集記録がある。調査では2地域で現存が確認された。推定個体数は50未満。生育環境の変化で連続的減少が予測される。

【危機要因と保護保全対策】

遷移進行と道路工事が危機要因である。生育地周辺を含めた生育環境の保全が重要である。定期的に個体群の状況を把握し、生育地を保全するための対策を講じる必要がある。

分布	北海道・本州（東北地方～近畿地方）・四国、ロシア（極東）・朝鮮半島・台湾・中国・フィリピン・ヒマラヤ・ヨーロッパ・北アメリカ
県内分布	中部
生育環境と特性	高標高域の林縁に生える多年生草本。地下部に新しいバルブをつくり更新するが、ほとんどが種子で増える。

CR
107

ラン科
ヒネチドリ
Neolindleya camtschatica

高知県 RL2010: EN
高知県 RDB2000: EN
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

5市町村で採集記録がある。調査では2地域で現存が確認された。推定個体数は250未満。確認できる生育地や個体数ともに急激に減少している。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は道路工事と遷移進行による生育環境の変化、園芸採取である。生育地点情報の公開と拡散を防ぐ必要がある。ニホンジカの食害による影響がみられる生育地もあり、防鹿柵の設置を検討する必要がある。

分布	北海道・本州・四国・九州、ロシア（極東）・朝鮮半島
県内分布	中部、西部
生育環境と特性	高標高の明るく涼しいやや湿った林縁に生える多年生草本。地下部に新芽をつくり栄養繁殖する。

CR
108

ラン科
コフタバラン
Neottia cordata

高知県 RL2010: EN
高知県 RDB2000: EN
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

7市町村で採集記録がある。調査では1地域で現存が確認された。推定個体数は250未満。生育環境の変化で連続的減少が予測される。

【危機要因と保護保全対策】

遷移進行およびニホンジカによる食害などによる生育環境の変化が危機要因である。近年はシカ食害による森林の乾燥化など、環境変化が急激に進んでおり、定期的な調査で個体群の状況を把握し、生育地を保全するための対策を講じる必要がある。シカによる食害が進行し生育環境が悪化するようならば防鹿柵の設置を検討する必要がある。

分布	北海道・本州・四国・九州、周北極
県内分布	東部、中部、西部
生育環境と特性	高標高の針葉樹林の林床に生える多年生草本。地下茎を伸ばして栄養繁殖するほか、環境条件が良いと種子で増える。

CR
109

ラン科

オオバヨウラクラン

Oberonia makinoi

口絵 10

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: CR

【生育状況と選定の理由】

採集記録があるのは4市町村で、そのうち3市町村で現存が確認された。推定個体数は250未満とした。

【危機要因と保護保全対策】

園芸採取、遷移進行による生育環境の変化が主な危機要因である。着生木は限定されているため、着生木の枯死により多くの個体が一度に失われるおそれがある。着生木のある森林全体を保全する必要がある。

分布	四国・九州・琉球
県内分布	東部、中部、西部
生育環境と特性	野生状態では大径木の上部の枝や幹に着生するが、人里付近では人家のカキノキなどに着生することもある。7月下旬から8月に開花する。種子で繁殖するほか、環境が良ければ脇芽で増殖する。

CR
110

ラン科

ダケトンボ

Peristylus hatuimanus

口絵 11

高知県 RL2010: -

高知県 RDB2000: -

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

2016年に生育地が発見された。その後ほかにも2地域で採集記録が発見されたため調査を行ったが、それらの地域では確認できなかった。現存するのは2016年に発見された1地点のみである。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は森林伐採と園芸採取である。生育する森林の環境保全が不可欠であるが、生育地は不安定な環境にある。個体群動態の調査を実施して、生育地での保全方法を検討するとともに、域外保全が急務である。生育地点情報の公開と拡散を防ぐ必要がある。

【特記事項】ここでは便宜的にダケトンボとしたが、ヒゲナガトンボ *P. calcuratus* との混乱があり、分類学的な検討が必要である。

分布	四国・九州・種子島、台湾・中国・ベトナム
県内分布	東部、中部
生育環境と特性	低山のやや湿った林床に生育する。種子繁殖のほか、地下部に新芽をつくり栄養繁殖する。

CR
111

ラン科

ジンバイソウ

Platanthera florentii

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

過去4市町村で採集記録があるが、3市町村は80年ほど前のものである。2000年以降確認されているのは1地域のみで、調査でも現存を確認した。

【危機要因と保護保全対策】

森林伐採と遷移進行が主な危機要因である。森林環境の変化による空中湿度の低下で悪影響を受けるため、生育地周辺を含めた環境保全が必要である。

分布	北海道・本州・四国・九州
県内分布	東部、中部
生育環境と特性	湿ったやや暗い林床にまとまって生育する多年生草本。種子で繁殖するほか、地下部に新芽をつくり栄養繁殖する。

CR
112

ラン科

イヌマムカゴ

Platanthera iinumae

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: EN

【生育状況と選定の理由】

過去4市町村に採集記録があり、そのうちの2地域で現存が確認され、ほかの2地域は未調査である。推定個体数は50未満で、生育環境の変化で連続的減少が予測される。ニホンジカの生息域が拡大しつつある地域では、県森林環境税で防鹿柵が設置された生育地がある。

【危機要因と保護保全対策】

遷移進行による生育環境の変化および森林伐採が主な危機要因で、そのほかニホンジカによる食害と園芸採取がある。現存が確認されている個体数が極めて少ないため、採集記録のある地域で再調査を行い、人工増殖による域外保全を検討する必要がある。シカの食害が確認される地域では、防鹿柵の設置を検討する。

分布	北海道・本州・四国・九州
県内分布	中部
生育環境と特性	山地のやや湿った林縁や林内に生える多年生草本。種子で繁殖するほか、地下部に新芽をつくり栄養繁殖する。

CR
113

ラン科

ツレサギソウ

Platanthera japonica

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

2000年以降に5市町村で採集記録があり、そのうち2地域と2000年以前に標本が採集されていた別の2地域、合計4地域で現存が確認された。確認できなくなっている地点も多く、連続的減少がみられる。

【危機要因と保護保全対策】

遷移進行、管理放棄による生育環境の変化と園芸採取が危機要因である。生育には明るい環境の維持が不可欠で、生育地を含めた周辺環境を保全する必要がある。生育地点情報の公開と拡散を防ぐ必要がある。

分布	北海道・本州・四国・九州, 朝鮮半島・中国
県内分布	中部, 西部
生育環境と特性	やや湿った明るい林縁や草地に、局所的に生育する多年生草本。種子で繁殖するほか、地下部に新芽をつくり栄養繁殖する。

CR
114

ラン科

ハシナガヤマサギソウ

Platanthera mandarinorum subsp. *mandarinorum* var. *mandarinorum*

口絵 11

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内での生育地は1か所のみで、現存を確認した。生育地は現在地元保護団体による個体数の変動の把握、草刈り、野焼きによる維持管理がされている。

【危機要因と保護保全対策】

遷移進行や管理放棄による生育環境の変化と園芸採取が危機要因である。草刈り頻度が低下すると個体数が減少する可能性があり、作業継続のための体制を構築する必要がある。地上部がある時期の草刈りや野焼きは避ける必要がある。

【特記事項】

高知県希少野生動物植物保護条例指定種。

分布	本州(西部)・四国・九州, 朝鮮半島・中国
県内分布	四万十町
生育環境と特性	日当たりの良い草原やササ原内の明るいところに生える多年生草本。4月に地上部が現れ、夏には姿を消す。ヤマサギソウ var. <i>oreades</i> などと比べると開花時期が早い。

CR
115

ラン科

キノチドリ(広義)

Platanthera ophrydioides

高知県 RL2010: DD

高知県 RDB2000: EN

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

採集記録のある5市町村のうち、3市町村で現存が確認された。各地点の個体数は10未満で、推定個体数は250未満である。生育環境の変化で連続的減少が予測される。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は森林伐採、遷移進行による生育環境の変化、道路工事およびニホンジカによる食害である。定期的に個体群の状況を把握し、防鹿柵を広く設置するなど、生育地も含め周辺の森林環境も保全する必要がある。

【特記事項】

ナガバキノチドリ *P. ophrydioides* var. *australis* (高知県 RL2010: CR) を含む。

分布	北海道・本州・四国・九州, ロシア(極東)
県内分布	中部
生育環境と特性	明るい林床やギャップなどに生える多年生草本。地下部に新芽をつくり増殖する。

CR
116

ラン科

トキシソウ

Pogonia japonica

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: NT

【生育状況と選定の理由】

2000年以降2地域で採集記録があったが、1地点で現存が確認できず、1地点は未調査である。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は遷移進行、管理放棄による生育環境の変化と湿地開発と考えられる。明るい環境を好むため、高茎草本から被陰されないように、適切な時期に草刈りなどの定期的な管理を継続する必要がある。

分布	北海道・本州・四国・九州, ロシア(極東)・朝鮮半島・中国
県内分布	西部; 高知市(1908)
生育環境と特性	日当たりの良い湿地に生える多年生草本。種子で繁殖するほか、地下部に新芽をつくり栄養繁殖する。

CR ラン科
117 ヒナチドリ
Ponerorchis chidori

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

最近では2地点しか確認できず、極めて局地的に生育している。推定個体数は250未満で、生育環境の変化で連続的減少が予測される。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は園芸採取、遷移進行による生育環境の変化、産地局限、森林伐採である。定期的に個体群の状況を把握し、保全対策を講じるとともに、生育地点情報の公開と拡散を防ぐ必要がある。

分布	北海道・本州・四国
県内分布	中部
生育環境と特性	高標高域の湿った山中の樹幹に着生する多年生草本。種子で繁殖するほか、地下部で球根を増やして栄養繁殖する。

CR ラン科
118 ナゴラン
Sedirea japonica

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: EN

【生育状況と選定の理由】

採集記録のある2地域で現存が確認された。そのほか過去の情報をもとに調査が行われ、別の地域でも現存が確認された。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は園芸採取、森林伐採、遷移進行による生育環境の変化である。着生木は限定されており、着生木の倒伏により減少するおそれがある。着生木のある森林環境を保全するとともに、生育地点情報の漏洩と拡散を防ぐ必要がある。域外保全として人工増殖を検討する必要がある。

分布	本州・四国・九州・琉球、济州島・中国
県内分布	東部、西部
生育環境と特性	樹幹の明るいところに着生する多年生草本。株から増殖するのはまれで、主に種子で増殖する。

CR ラン科
119 ヒメトケンラン
Tainia laxiflora

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: EX
環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

採集記録や文献などの情報から数地点で調査を行ったが、現存は確認できていない。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は遷移進行と園芸採取が考えられる。現時点で生育状況が不明で、採集記録のある地域などで再調査が必要である。確認された場合には、管理者や地権者などと生育情報を共有し、連携して保全対策を講じるとともに、生育地点情報の拡散を防ぐ必要がある。

分布	伊豆諸島・四国・九州・琉球
県内分布	西部
生育環境と特性	常緑広葉樹林の林床に生える常緑の多年生草本。環境が良いと種子で繁殖するほか、バルブで栄養繁殖する。

CR ラン科
120 ヤクシマネツタイラン
Tropidia nipponica var. *nipponica*

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: EN

【生育状況と選定の理由】

東部および西部地域の温暖で極相に近い林にのみ生育し、個体数、生育範囲ともに狭い範囲に限られている。

【危機要因と保護保全対策】

イノシシによる掘り起こしや遷移進行、ニホンジカや写真撮影者の踏み荒らしによって個体数の減少、個体の矮小化がおこっている。本種は地上部がなくなっても、地下部で生き残っている可能性があるため、個体群の回復のためには10年以上踏み荒らされないための対策と生育地情報の拡散の防止が必要である。カシノナガキクイムシによるナラ枯れの進行に伴う、森林環境の変化に注意が必要である。

【特記事項】分布東限の生育地がある。

分布	四国・九州・琉球、台湾
県内分布	東部、西部
生育環境と特性	常緑樹林内に生える多年生草本。成長が遅く、基本的に1年に1枚の葉しか出さない。

CR
121

ラン科

キバナショウキラン

Yuania amagiensis

口絵 11

高知県 RL2010: EN

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: EN

【生育状況と選定の理由】

1地点で現存を確認したが、1地点では確認できなかった。ショウキランよりもやや低い標高で見つかる傾向にある。ショウキランと同様、県内の分布の全体像は把握できていない。

【危機要因と保護保全対策】

森林伐採とニホンジカによる食害、人の踏みつけが危機要因である。シカの食害によって林床植生が消失して乾燥化が進み、生育状況の悪化がみられる。菌従属栄養植物である本種は共生菌に必要な朽木などがなくなると一緒に消失するため、生育地の環境を良好に保つ必要がある。

分布	本州（関東地方～紀伊半島）・四国・九州
県内分布	東部、中部
生育環境と特性	スギ人工林や落葉樹林内の林床に生える菌従属栄養植物。

CR
122

ラン科

ショウキラン

Yuania japonica

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

2地点で現存を確認し、1地点で確認できなかった。本県では標高330mから1600mの間で点々と確認されているが、県内の分布の全体像は把握できていない。過去に数百個体が出現した地点では、近年全く確認できない。県森林環境税により防鹿柵が設置された生育地がある。

【危機要因と保護保全対策】

遷移進行とニホンジカによる食害、人の踏みつけが危機要因である。シカの食害によって林床植生が消失し生育地の乾燥化が進み、環境が悪化している地点がある。菌従属栄養植物である本種は共生菌に必要な朽木などがなくなると一緒に消失するため、生育地の環境を良好に保つ必要がある。

分布	北海道・本州・四国・九州・屋久島、台湾・中国・インド
県内分布	中部
生育環境と特性	林内の朽木や落枝のそばなどに生える菌従属栄養植物。

CR
123

ラン科

キヌラン

Zeuxine strateumatica

口絵 11

高知県 RL2010: -

高知県 RDB2000: -

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

2018年に県内で新たに発見された種で、確認されている生育地は1か所のみ。発見後毎年50～60個体の開花が確認されている。未舗装の道路の緑や轍などといった明るい草地に生育するが、毎年出現する場所が異なり、未舗装道路の水たまり周辺に集中して生える傾向があるため、草刈りなどの維持が行われなければ消滅する可能性が高い。

【危機要因と保護保全対策】

人や車両による踏みつけ、遷移進行が危機要因である。生育地は未舗装の道路であるため、車で踏まないように目印をして注意を促している。適切な時期に道路の草刈りを行うとともに、周辺の樹木の成長によって被陰されないよう管理を継続していく必要がある。

分布	九州・琉球、熱帯アジア
県内分布	東部
生育環境と特性	やや湿った草地に生育する一～二年生草本。県内では4月初旬～5月中旬に開花、5月末には結実し、6月に地上部は姿を消す。

CR
124

アヤメ科

ノハナショウブ

Iris ensata var. spontanea

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

現存する3か所のうち1か所は植栽の可能性があり、1か所は休耕田で遷移の進行により減少傾向にある。

【危機要因と保護保全対策】

湿地開発、管理放棄や遷移進行による生育環境の変化が主な危機要因である。高知市内では園芸採取もあった。生育地の1か所は県立自然公園内にあるが、特に保全対策はとられていない。草刈りなどの管理作業の継続が必要である。

分布	北海道・本州・四国・九州、ロシア（極東）・朝鮮半島・中国
県内分布	大豊町、高知市、土佐町、梶原町；安芸市（1892）
生育環境と特性	県内では山地の草原や湿地、平地の湿地などに生える。多年生草本。

CR
125

クサスギカズラ科

サイコクイワギボウシ

Hosta longipes var. *caduca*

口絵 12

高知県 RL2010: EN

高知県 RDB2000: -

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内では 1970 年以降標本が採集されていなかったが、調査で 2 か所の生育地が確認された。いずれも県西部の山間部の石灰岩地である。2 か所を合計しても個体数は 100 未満で、絶滅の危険性が高い。

【危機要因と保護保全対策】

遷移進行による生育環境の変化、産地局限および園芸採取が危機要因である。生育地点は限られ、すでにいくつかは消失していると考えられる。定期的に個体群の状況を把握し、生育地の光環境を維持するために周辺の樹木の伐採や枝打ちなど、対策を講じる必要がある。

分布	四国・九州, 朝鮮半島
県内分布	中部
生育環境と特性	山中の湿った岩上に生える多年生草本。

CR
126

クサスギカズラ科

ミスギボウシ

Hosta longissima

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内では湿地や水田を中心に局所的に分布していたものの、継続的に減少し、生育地の消失が確認されている。現存する生育地は他の植物による被陰が進んで開花数が年々減少しており、株自体の縮小もみられることから、消失寸前の危機的な状態である。

【危機要因と保護保全対策】

開発による湿地の消失、水田耕作放棄による遷移進行、産地局限が危機要因である。他の植物が繁茂して被陰されると急激に減少する。周辺の草刈りを含む水田の維持が求められるが、現実的には困難である。早急に域外保全を行う必要がある。

分布	本州（愛知県以西）・四国・九州, 朝鮮半島
県内分布	高知市, 佐川町, 三原村
生育環境と特性	湿地や水田に生える多年生草本。

CR
127

クサスギカズラ科

オオバギボウシ

Hosta sieboldiana

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

生育地が高知市の 1 地域しかなく、個体数も多くない。生育範囲内では鉱山採掘と土地の造成により消失した地点と、新しく現存が確認された地点がある。

【危機要因と保護保全対策】

産地局限と土地造成が危機要因である。県内唯一の産地は高知市内の鉱山（2010 年閉鉱）にあったが、2013 年より県・市共同の事業で産業団地として造成されてきており、計画段階で生育域内保全が検討されなかった。生育地のほとんど全部が消失するため、個体の移植が検討されている。牧野植物園では生育地由来の株が系統保存されている。

分布	北海道西南部・本州・四国・九州
県内分布	高知市
生育環境と特性	山地の草原や林縁に生える多年生草本。四国ではややまれで、高知県ではごくまれである。

CR
128

ガマ科

ヒメミクリ

Sparganium subglobosum

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: -

環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

採集記録のある地点およびその周辺は遷移の進行が著しく、その後の調査で確認されていない。

【危機要因と保護保全対策】

水田の耕作放棄および二次林の管理放棄と遷移進行により生育環境が悪化した。そのほかに動物による食害も考えられる。昔から行われていた植生管理によって里山環境を保全するための体制を構築する必要がある。

分布	北海道・本州・四国・九州・琉球, 朝鮮半島・中国
県内分布	土佐市, 三原村
生育環境と特性	水位の浅い池や湿地に生える多年生草本。

CR 129	ホシクサ科	高知県 RL2010: CR
	オオホシクサ <i>Eriocaulon buergerianum</i>	高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

現存が確認できたのは香美市と三原村、大月町で、いの町、大月町、三原村の一部の生育地では生育が確認できなかった。古い記録である高知市の生育地は消失した可能性が高く、佐川町、四万十市については未調査である。生育地、個体数とも少ないことに加え、圃場整備などにより生育環境が改変され、減少が著しい。

【危機要因と保護保全対策】

長期的には圃場整備などの水田環境の変化が危機要因である。最近では、水田の管理放棄、遷移進行、動物による踏み荒らしなどが要因として挙げられる。水田での耕作の継続、ため池や湿地などの管理を継続していくための体制の構築が必要である。

分布	本州・四国・九州・琉球、朝鮮半島・台湾・中国
県内分布	香美市、いの町、四万十町、三原村、大月町；高知市（1904）、佐川町（1892）、四万十市（1913）
生育環境と特性	ため池や水田などの湿地に生える一年生草本。

CR 130	イグサ科	高知県 RL2010: CR
	アオコウガイゼキショウ <i>Juncus papillosus</i>	高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

2000年以降に採集記録のある5市町村のうち、北川村、高知市、四万十町で現存が確認された。生育地は点在し、各地点の場所での個体数は多くない。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は管理放棄、遷移進行による生育環境の変化、湿地開発および外来植物との競合である。適度な攪乱のある環境に生育する種のため、生育地の持続的な維持管理は難しいが、北川村と四万十町の生育地はこれまでどおり草刈りや野焼き、外来植物の除去などの管理作業を続けていくことが望ましい。

分布	北海道・本州・四国・九州、ロシア（極東）・朝鮮半島・中国
県内分布	北川村、安芸市、高知市、仁淀川町、四万十町；佐川町（1892）
生育環境と特性	耕作が毎年行われている水田などにはみられず、耕作されていない湿地で確認される。多年生草本。生育地ではまばらに叢生し、伸長した花茎が倒伏すると節から発根する。秋には地下茎を出して先に越冬芽をつけ、冬に地上部は枯死する。

絶滅危惧 I A CR

CR 131	カヤツリグサ科	口絵 12	高知県 RL2010: EN
	ウキヤガラ <i>Bolboschoenus fluviatilis</i> subsp. <i>yagara</i>		高知県 RDB2000: - 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

現在確認されている個体群は四万十市安並1か所のみである。県下には条件の類似する水辺は多くあるが、本種の生育地は極端にまれである。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は農薬や生活排水による汚染、河川整備である。四万十市の生育地点はごく短い河川ではあるが、洪水による氾濫を起こすため、防災の観点から川底の堆積土と本種を含む水生植物が浚渫により除去されてきた。現在、管理者の協力と理解により定期的かつ計画的に生育環境の維持が図られつつある。同時に本種の希少性の認識を地域に広める必要がある。

分布	北海道・本州・四国・九州、ロシア（極東）・朝鮮半島（南部）・台湾・中国・アジア中央部～ヨーロッパ中部
県内分布	四万十市
生育環境と特性	群生する大型の多年生草本。県内では河川の堆積土や、河底のコンクリート上の堆積土に生える。

CR 132	カヤツリグサ科	高知県 RL2010: VU
	オオナキリスゲ <i>Carex autumnalis</i>	高知県 RDB2000: VU 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

調査では香美市物部町、越知町で現存が確認されたが、香美市土佐山田町では確認されなかった。生育地、個体数とも少なく、個体数の連続的な減少が予測される。

【危機要因と保護保全対策】

産地局限、ニホンジカによる食害、外来植物との競合が危機要因である。一部の生育地では林道開設に伴って侵入した外来植物（ペラペラヨメナ）との競合にさらされている。林道の法面の生育地では、草刈りの時期に配慮することや競合する外来植物の除去が必要である。

分布	本州（近畿地方以西）・四国・九州（対馬）、中国
県内分布	香美市土佐山田町・物部町、越知町
生育環境と特性	生育地の多くは林縁の岩崖地で、越知町以外は石灰岩地に生える。多年生草本。

CR 133	カヤツリグサ科	口絵 12	高知県 RL2010:	CR
	ウマスゲ		高知県 RDB2000:	EX
	<i>Carex idzuroei</i>		環境省 RL2020:	-

【生育状況と選定の理由】

調査では日高村で現存が確認され、高知市の久万川では確認されなかった。新たに確認された高知市神田の個体は、公園内の造成地に生えていることから、今回の評価から除外した。生育地、個体数とも極めて少なく、生育地では個体数の減少がみられる。

【危機要因と保護保全対策】

産地局限と河川改修が危機要因である。河川改修の工事計画に当たっては生育地を避けることが第一であるが、避けられない場合には管理者などと生育情報を共有し、連携して保全対策を講じる必要がある。

分布	本州（関東地方以西）・四国・九州，中国
県内分布	高知市，日高村
生育環境と特性	河川の氾濫原や平地の湿地に生える多年生草本。

CR 134	カヤツリグサ科	口絵 13	高知県 RL2010:	EX
	サワヒメスゲ		高知県 RDB2000:	EX
	<i>Carex mira</i>		環境省 RL2020:	-

【生育状況と選定の理由】

採集記録のあった地点では長い間確認できず、絶滅（EX）となっていたが、調査で再発見された。県内の既知の生育地は、超塩基性岩地帯にあり、周辺にはミシマサイコ（EN）などの貴重種が数多く生育し、地元の方々によって保護されている地域である。調査では、長年にわたって定期的な草刈りが行われてきた水田の畦に少数個体が生育しているのを確認した。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は土地造成，人による踏みつけおよび遷移進行による生育環境の変化である。観賞性や有用性の高い植物ではないため採取される可能性は低い。保全に当たって地元の関係者と管理方法の協議が必要である。加えて種子保存や人工増殖，植え戻しなどの検討を進める必要がある。

分布	本州（静岡県以西）・四国・九州，朝鮮半島
県内分布	香美市
生育環境と特性	県内の生育地は超塩基性岩地帯のみで、長年にわたって定期的な草刈りが行われてきた水田の畦の一部に生える。多年生草本。

CR 135	カヤツリグサ科	口絵 14	高知県 RL2010:	CR
	ササノハスゲ		高知県 RDB2000:	CR
	<i>Carex pachygyne</i>		環境省 RL2020:	-

【生育状況と選定の理由】

調査では梶原町，津野町で現存が確認された。生育地，個体数とも極めて少なく，連続的な減少が予測される。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は遷移進行による生育環境の変化および産地局限である。本県は分布の南端に当たる（すげの会 2018）。定期的に個体群の状況を把握し，生育地を保全するための方法について検討する必要がある。

分布	本州（近畿地方以西）・四国
県内分布	梶原町，津野町
生育環境と特性	山地の樹林内や林縁に生える多年生草本。

CR 136	カヤツリグサ科	口絵 15	高知県 RL2010:	CR
	クサスゲ		高知県 RDB2000:	CR
	<i>Carex rugata</i>		環境省 RL2020:	-

【生育状況と選定の理由】

調査では高知市，いの町で現存が確認された。個体数が少ないことに加え，生育環境の不安定さから連続的な減少が予測される。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は遷移進行，管理放棄による生育環境の変化である。生育地の多くが人為自然環境であり，植生の適切で持続的な管理を行っていくための体制の構築が必要である。

分布	北海道・本州・四国・九州，中国
県内分布	高知市，いの町
生育環境と特性	県内では，低山の山腹で浸出水がみられる湿った棚田の土手や斜面に生える多年生草本。

絶滅危惧 I A CR

CR 137	カヤツリグサ科	高知県 RL2010: CR
	アゼスゲ <i>Carex thunbergii</i> var. <i>thunbergii</i>	高知県 RDB2000: EN 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

南国市の2地域で採集記録がある。平野部の水田の畦と湿地にあった2か所の生育地は、大規模な土地改良事業などによって消失した。ビオトープに移植された個体は、管理不足によりほとんど残っていない。調査では過去に事業が行われていない範囲の休耕田脇で新たに確認された。

【危機要因と保護保全対策】

農業汚染、土地造成、遷移進行や管理放棄が危機要因である。県内では古くから畦の定期的な草刈りなどで維持されてきたと考えられる。人と自然の共生を理解する上で大切な植物と考えられることから、地域で保護すると同時に環境学習などへの活用が望ましい。栽培は比較的容易であり、種子による生育地の再生・拡大を検討する必要がある。

分布	北海道・本州・四国・九州，ロシア（極東）
県内分布	南国市
生育環境と特性	県内では水田の畔や農道の縁など湿ったところに生える多年生草本。

CR 138	カヤツリグサ科	高知県 RL2010: CR
	ムギガラガヤツリ <i>Cyperus uniolooides</i>	高知県 RDB2000: EX 環境省 RL2020: CR

【生育状況と選定の理由】

県内では三原村の1か所の湿地で確認されていたが、私有地のため現存については未確認である。ほかに大月町頭集で1892年に牧野富太郎が採集した標本がある。

【危機要因と保護保全対策】

産地局限、遷移進行による生育環境の変化（湿地の乾燥化）が危機要因と考えられる。近年確認ができていないことから、個体群の状況を把握することが必須である。他の植物に被陰されると衰退するため、草刈りなどの植生管理を検討する必要がある。

分布	本州・四国・九州，オーストラリア
県内分布	三原村；大月町（1892）
生育環境と特性	湿地に生える多年生草本。

CR 139	カヤツリグサ科	高知県 RL2010: CR
	ヤリハリイ <i>Eleocharis congesta</i> var. <i>subvivipara</i>	高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

土佐市で現存が確認され、室戸市は未調査である。小穂が細く長いなどの点でハリイと区別されるが、その識別は難しく小穂が確認できる期間も2週間程度と短いため、県全域の生育地の実態は把握できていない。

【危機要因と保護保全対策】

耕作放棄後初期の段階に生育する小型の湿性植物で、生育地が確認されても遷移の進行によって数年で消失する可能性がある。現存が確認された生育地は、湿性植物の観察のために保全されているが、周辺はカサズゲなどの高茎の多年生草本が優占し、生育面積はわずかである。識別が困難であることから県下での調査を継続することが重要である。種子の保存や生育地の管理方法の再検討などが必要である。

分布	本州・四国・九州，台湾・インド
県内分布	室戸市，土佐市
生育環境と特性	県内では海岸に近い休耕田に生え、セリ、チゴザサ、コウガイゼキショウ類などの低茎の湿性植物に混生して生育していた。多年生草本。

CR 140	カヤツリグサ科	高知県 RL2010: CR
	イヌクログワイ <i>Eleocharis dulcis</i>	高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

土佐市の既知の生育地は海岸近くの水田放棄地であるが、調査では確認することができなかった。宿毛市は未調査である。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は管理放棄や遷移進行による生育環境の変化である。水田放棄起源の湿地は外来植物の過繁茂や放棄後の植生遷移によって陸地化が進行することが多く、生育環境の保全のためには競合する他種の刈取りや土砂の除去などの管理の継続が必要である。水田などに群生する本種のような植物の保全には、除草剤の不使用はもとより、耕作と休耕を繰り返す環境型農業への転換が重要である。

分布	本州・九州・南西諸島，台湾・中国・インドシナ・マレーシア・ミクロネシア・ポリネシア
県内分布	土佐市，宿毛市；南国市（1892），高知市（1892）
生育環境と特性	水田などの湿地に群生する大型の多年生草本。

絶滅危惧IA CR

CR 141	カヤツリグサ科	□絵 13	高知県 RL2010: CR
	スジヌマハリイ <i>Eleocharis equisetiformis</i>		高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

調査ではいの町で現存が確認された。南国市は管理放棄に伴う遷移の進行で消失したと考えられる。個体数が極めて少ないことに加え、連続的な減少が予測される。

【危機要因と保護保全対策】

水路や水田の管理放棄に伴う植生の変化が危機要因である。現存する生育地は小河川の土手といった人為自然環境であり、競合する植物の除去といった管理を継続することが必要である。

【特記事項】

高知県植物誌でコツブヌマハリイ *E. parvinux* (高知県 RL2010: CR) とされていたもの。

分布	北海道・本州・九州, ロシア(極東)・朝鮮半島(南部)・中国(東北部)
県内分布	南国市, いの町
生育環境と特性	県内では湧水がある小河川の土手や水田の畔に生える多年生草本。

CR 142	カヤツリグサ科	□絵 13	高知県 RL2010: EX
	ノハラテンツキ <i>Fimbristylis pierotii</i>		高知県 RDB2000: - 環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

高知県 RL2010 では絶滅(EX)となっていたが、2017年に高知市幸崎で再発見され、調査でも現存が確認された。確認された生育地が現存する唯一の生育地である。生育範囲も狭く、連続的な減少が予測される。

【危機要因と保護保全対策】

産地局限と遷移進行が危機要因である。定期的に個体群の状況を把握し、本種を保全するための対策を講じる必要がある。

分布	本州(伊豆半島・近畿地方以西)・四国・九州, 朝鮮半島(南部)・中国・フィリピン・インド
県内分布	高知市
生育環境と特性	風化したチャートの小礫, 中礫が多く, 土壌が浅く乾燥しやすい斜面に生える多年生草本。

CR 143	カヤツリグサ科	□絵 13	高知県 RL2010: DD
	ハタケテンツキ <i>Fimbristylis stauntonii</i> var. <i>stauntonii</i>		高知県 RDB2000: - 環境省 RL2020: EN

【生育状況と選定の理由】

高知市の1か所で採集記録があり、調査でも現存が確認された。非常に限られた範囲にしか生育しておらず、消失の危険性が高い。

【危機要因と保護保全対策】

除草剤の散布が危機要因である。現存する生育地は水田の畔などであり、除草剤の影響を大きく受けているため、除草剤の使用を控えてもらうよう農家への協力依頼が必要である。

分布	本州(関東地方)・四国・九州, 朝鮮半島・中国
県内分布	高知市
生育環境と特性	水田の縁, 畔などに生える多年生草本。

CR 144	カヤツリグサ科	□絵 13	高知県 RL2010: CR
	クロタマガヤツリ <i>Fuirena ciliaris</i>		高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内では東部は東洋町, 西部では点々と生育地点が確認されている。1地点の出現個体数は多くても、限られた水田にしかみられないため、管理方法の変更や耕作放棄で短い間に全滅するおそれがある。

【危機要因と保護保全対策】

管理放棄, 遷移進行による生育環境の変化と農業汚染が危機要因である。20年以上継続して個体群が確認されている水田もあるが、これまでどおりの管理方法で耕作が継続されることが必須であるため、確実な保全のためには生育域外での保全方法を検討する必要がある。

分布	本州(千葉県以西)・四国・九州・南西諸島, 朝鮮半島(南部)・台湾・中国・インドネシア・インド・マレーシア
県内分布	東洋町, 四万十町, 黒潮町, 四万十市, 土佐清水市, 宿毛市, 大月町
生育環境と特性	県内では耕作後の水田にみられる多年生草本。

CR 145	カヤツリグサ科	高知県 RL2010: CR
	イヌノハナヒゲ <i>Rhynchospora japonica</i>	高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

北川村、四万十町、三原村で現存が確認された。生育地は点在し、生育地では群生するので個体数は多い。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は管理放棄や遷移進行による生育環境の変化、湿地開発、外来植物との競合である。県内の生育地はいずれも湧水の滲み出す緩斜面の湿地であり、斜面上部の森林や湿地の状況変化に注意する必要がある。

分布	本州（伊豆半島を含む静岡県以西）・四国・九州・南西諸島、朝鮮半島（南部）・台湾・中国・インドシナ・インド・マレーシア
県内分布	北川村、田野町、佐川町、四万十町、三原村；高知市（1938）、いの町（1967）、四万十市（1908）
生育環境と特性	県内の生育地は全て日当たりの良い湿地で、ため池畔では確認できない。群生するが茎は匍匐せず、短く叢生する。多年生草本。コイヌノハナヒゲやトラノハナヒゲと混生することもあるが、それらよりは個体数は少ない。

CR 146	カヤツリグサ科	高知県 RL2010: VU
	ツクシカンガレイ <i>Schoenoplectiella multiseta</i>	高知県 RDB2000: - 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

土佐市で現存が確認された。生育地は1か所のみで、個体数も少なく、連続的な減少が予測される。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は遷移進行による生育環境の変化および産地局限である。生育地ではカサスゲが繁茂しており、本種のみならず他の植物の生育も脅かされている。池全体の多様性を保全するため、繁殖力の強い植物を除去するなど植生の管理が必要である。

分布	本州・四国・九州・南西諸島
県内分布	土佐市
生育環境と特性	日当たりの良い池沼でカサスゲと混生する多年生草本。

CR 147	イネ科	高知県 RL2010: EN
	シコクノガリヤス <i>Calamagrostis tashiroi</i> subsp. <i>sikokiana</i>	高知県 RDB2000: - 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内で確認地点は1か所であるが、2000年に確認されて以降、継続して調査が行われているものの確認されていない。四国固有種で、別名はイシヅチノガリヤスという。隣接する愛媛県と徳島県にも生育地はあるが、石鎚山や剣山などの高標高域に限られており個体数は少ない。両県とも絶滅危惧I類に指定されている。

【危機要因と保護保全対策】

近年の確認情報がないため危機要因がわからない。本種の四国における分布状況から、本県の確認地点は分布の辺縁部にあると考えられ、今後偶発的に確認される可能性がある。採集記録のある地点を含め、石鎚山系や剣山系においてさらに調査する必要がある。

分布	四国
県内分布	いの町
生育環境と特性	高標高域の林内岩上に生える多年生草本。

CR 148	イネ科	高知県 RL2010: CR
	ミノボロ <i>Koeleria macrantha</i>	高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

高知市と土佐市で採集記録があり、両市で現存が確認された。土佐市の生育地は堤防法面で移入の可能性が高いため、評価の対象から外した。自生と考えられる生育地は1か所で個体数も少なく、連続的な減少が予測される。

【危機要因と保護保全対策】

管理放棄と遷移進行による生育環境の変化が危機要因である。生育地は人為的な管理で維持されている草地であり、管理が継続される必要がある。個体群の状況を把握するとともに、明るい草地環境を維持するための植生管理方法についても検討する必要がある。

分布	北海道・本州・四国・九州、北半球の温帯
県内分布	南国市、高知市、土佐市（移入）
生育環境と特性	県内では蛇紋岩地の墓地周辺の小規模な草地に生える多年生草本。

絶滅危惧IA CR

CR
149

イネ科

カリヤスモドキ

Miscanthus oligostachyus

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内では香美市の石灰岩地で確認されているが、記録は少ない。分布は限定的である。2018年の調査では、個体数の減少傾向ならびに個体サイズの小型化が確認されている。現状の個体数は250未満と推定される。

【危機要因と保護保全対策】

ニホンジカによる食害と遷移進行による生育環境の変化が危機要因である。防鹿柵の設置を検討するとともに、確認記録が少ないため、さらに調査を行って生育状況を明らかにする必要がある。

分布	本州・四国・九州
県内分布	香美市
生育環境と特性	県内では山地の明るい林内に生える。多年生草本。

CR
150

イネ科

ヌマガヤ

Moliniopsis japonica

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: EX

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

高知市近郊の丘陵地で3か所の記録があったが、1か所は造成により消滅し、残り2か所は、遷移の進行により周囲の樹林に被圧され、1985年以降確認できていない。1985年当時も2か所の合計で10個体未満であった。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因として、遷移進行、土地造成と産地局限が考えられる。近年は確認情報がないため、過去に確認されていた地点での個体群復活を期待して、環境条件を整えるため、継続的に草刈りや樹木の伐採を行うことが必要である。

分布	北海道・本州・四国・九州、ロシア（極東）・朝鮮半島
県内分布	高知市
生育環境と特性	県内では高知市近郊の丘陵地の小湿地に生える。多年生草本。短い根茎と太い根を持ち、高地と低地とでは形態の差異が大きい。四国ではまれで、香川県と高知県に生育する。

CR
151

イネ科

タキキビ

Phaenosperma globosum

□絵 14

高知県 RL2010: DD

高知県 RDB2000: DD

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

高知市で2013年に標本が採集され、調査でも現存が確認された。生育地は1か所で個体数も極めて少ない。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は産地局限と路傍の草刈りなどの人為的攪乱である。道路法面に生育する個体群の維持のために、地元で協力を要請し、草刈りの際に誤って刈取らないよう作業者への周知が必要である。

分布	本州（中部地方以西）・四国・九州、朝鮮半島（南部）・台湾・中国・インド北部
県内分布	高知市
生育環境と特性	県内では石灰岩地の崖（道路法面）と崖裾の草地に生える。多年生草本。

CR
152

ケシ科

ホンバヤマブキノウ

Hylomecon japonica f. lanceolata

□絵 14

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: -

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内では1地域にのみ確認されている。愛媛県側にはまとまった生育地があったようであるが林道開設によってほぼ消滅した。高知県側では2007年頃自生が確認されたが、個体数は少ない。私有林であることから将来的には皆伐などによって生育できなくなるおそれがある。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は園芸採取、産地局限、人による踏みつけである。人工林の皆伐による環境の変化で消失するおそれがあるため、生育地の状況について定期的に確認する必要がある。種子保存などの域外保全も行う必要がある。

分布	本州・四国・九州、ロシア（極東）・朝鮮半島・中国
県内分布	西部
生育環境と特性	明るい林内に生育する多年生草本。根生葉には、細葉タイプ、より細い柳葉タイプに大きな鋸歯があるもの、広葉タイプ、菊葉タイプ、裂け葉タイプなどがあり、変異が多い。

CR 153	ツツラフジ科	高知県 RL2010: CR 高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: -
	イソヤマアオキ <i>Cocculus laurifolius</i>	

【生育状況と選定の理由】

須崎市の離島でのみ確認されている。島嶼の西向き凹形斜面上部の1か所に大小30本の生育を確認した。高知市内の情報もあるが、植栽である。

【危機要因と保護保全対策】

自然性の高い照葉樹林の林床に自生しており、比較的安定した生育環境であると考えられるが、急斜面であるため斜面の崩壊や台風などによる倒木がもたらす光環境の変化などにより、悪影響を受ける可能性がある。定期的に個体群を調査するとともに、人工増殖による域外保全を行うことが望ましい。

分布	四国・九州・琉球, 台湾・中国・インドシナ半島・インドネシア・フィリピン・インド・ネパール・ブータン
県内分布	須崎市
生育環境と特性	南方系の植物で、県内の生育地は北限に近い。薄暗い照葉樹林の林内に生える、雌雄異株の常緑低木。最大の個体は樹高3m。

CR 154	メギ科	口絵 14	高知県 RL2010: NT 高知県 RDB2000: - 環境省 RL2020: NT
	シオミイカリソウ <i>Epimedium trifoliatobinatum</i> subsp. <i>maritimum</i>		

【生育状況と選定の理由】

現存が確認されたのは3か所である。離島の生育地ではまとまって生えている所は限られており、個体数は激減し、消失した生育地もある。黒潮町の生育地は、個体数は多いが、近い将来管理放棄により生育できなくなる可能性がある。

【危機要因と保護保全対策】

耕作放棄や管理放棄による遷移進行が危機要因である。樹林化によって生育環境が悪化し、生育地点も減少している。調査によって保全方法を検討し、管理で生育適地を増やす必要がある。絶滅寸前の生育地もあるため、地点ごとに系統保存することが望ましい。

分布	四国・九州
県内分布	黒潮町, 宿毛市, 大月町
生育環境と特性	県内では海岸付近にある林内の明るいやや湿ったところや石垣などに生育する。多年生草本。

CR 155	キンボウゲ科	口絵 15	高知県 RL2010: - 高知県 RDB2000: - 環境省 RL2020: NT
	ミスミンソウ <i>Hepatica nobilis</i> var. <i>japonica</i>		

【生育状況と選定の理由】

県内では2018年に発見された。現在生育地は1か所しか確認されておらず、生育範囲も極めて局所的である。個体数は50未満。生育環境の変化で連続的減少が予測される。

【危機要因と保護保全対策】

森林伐採と遷移進行が危機要因と考えられる。周辺ではニホンジカによる食害が深刻であることから、林床の乾燥化などで生育に悪影響を受けている可能性がある。防鹿柵の設置なども検討する必要がある。

分布	本州（関東地方以西）・四国・九州（福岡県）
県内分布	中部
生育環境と特性	県内では山地の尾根付近のスギ人工林内に点々と生える多年生草本。種子で繁殖するほか、脇芽が増えて栄養繁殖する。

CR 156	キンボウゲ科	高知県 RL2010: CR 高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: VU
	オキナグサ <i>Pulsatilla cernua</i>	

【生育状況と選定の理由】

もともと県内の生育地は少なく、個体数も多くない。現存が確認されたのは1か所1個体のみ。中部地域では大規模な新エネルギー開発事業によって消滅した所があり、地元が植栽地を設けているが、もともとの自生株かどうかは不明である。県西部の生育地では、園芸採取と自然災害により激減した。

【危機要因と保護保全対策】

園芸採取、管理放棄や遷移進行による生育環境の変化が危機要因である。明るい環境を好み、他の植物による被陰に弱く、生育地周辺の植生管理が必要である。山野草としての人気が高いため、生育地点情報の公開と拡散を防ぐ必要がある。

分布	本州・四国・九州, ロシア・朝鮮半島・中国
県内分布	中部, 西部
生育環境と特性	草地および川岸など、年間を通じて他の植物に被陰されない環境に生える。多年生草本。

絶滅危惧IA CR

CR キンボウゲ科
157 **コゴメカラマツ**
Thalictrum microspermum

口絵 15

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

分布域が非常に狭く、大豊町のみで確認されている。既知の生育地点の全てで現存が確認されたが、2地点は生育個体数が少なかった。

【危機要因と保護保全対策】

森林伐採が危機要因である。2か所の生育地はスギ人工林の林縁にあり、皆伐による影響が懸念される。滝の岩壁に着生している個体は、水流過多による流失の危険性があるものの、人為的な破壊の危険性は低いと考えられる。

分布	四国・九州
県内分布	大豊町
生育環境と特性	暖温带林の林縁の水滴が滴るようなやや明るいまたは半陰地の岩壁に生え、匍枝を出して群生する。多年生草本。花期は4～5月でカラマツソウ属の中では最も早い。

CR キンボウゲ科
158 **モミジカラマツ**
Trautvetteria carolinensis var. *japonica*

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内ではいの町の高標高域の1か所で確認されている。

【危機要因と保護保全対策】

ニホンジカによる食害が危機要因である。生育地の周囲ではシカの生息が確認されつつあり、食害の影響を受ける前に防鹿柵の設置といった対策を講じる必要がある。

分布	本州(近畿地方以北)・四国・九州, ロシア(極東)
県内分布	いの町
生育環境と特性	高山の谷頭の湿ったところに生える多年生草本。

CR ボタン科
159 **ベニバナヤマシャクヤク**
Paeonia obovata

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

調査では2地域で現存が確認された。1地域ではスギの人工林中にも生育が確認できたが植栽の可能性はある。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は園芸採取、森林伐採、遷移進行による生育環境の変化である。観賞価値が高い植物で、山野草として流通しており、人目につけば採取される危険性が高い。生育地の保護とともに、人工増殖も試みながら植生管理による生育範囲の拡大を図ることが望ましい。

分布	北海道・本州・四国・九州, ロシア(極東)・朝鮮半島・中国
県内分布	中部, 西部
生育環境と特性	県中部では低山の北向き斜面で、近くに沢の流れる適潤な落葉広葉樹林の林床に生える。多年生草本。

CR スグリ科
160 **ヤブサンザシ**
Ribes fasciculatum

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

2000年以降に採集記録のある4市町のうち、1地点で現存を確認し、1地点で確認できなかった。確認されている地点が非常に少なく、個体数も少ない。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は森林伐採、遷移進行による生育環境の変化である。主に人里近くや里山だったところなどで確認されており、生育地とその周辺の植生管理を行うことが重要である。香美市ではニホンジカの食害により減少する可能性があるため、食害の影響を注視し、必要であれば防鹿柵の設置を検討する。

分布	本州・四国・九州, 朝鮮半島・中国
県内分布	香美市, 高知市, 大豊町, 本山町, 仁淀川町
生育環境と特性	やや湿った山地の林縁や落葉樹林内で岩の多いところに生える落葉低木。石灰岩地でも確認されている。

CR スグリ科
161 **ザリコミ**
Ribes maximowiczianum

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

生育地は仁淀川町の1か所のみで、個体数も少ない。生育地は大規模な石灰石鉱山で、現在も採掘が行われている。鉱山内で過去に確認されていた生育地と保全のために移植された場所では全て消失した。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は石灰岩採掘と生育環境の変化が考えられる。生育地は常に崩落がある場所で、植生の変化により上層木が疎開もしくは逆に密生して被陰されると減少あるいは消失する危険性がある。定期的に個体群の状況を把握し、適切な対策を講じる必要がある。

分布	本州・四国, 朝鮮半島・中国
県内分布	仁淀川町
生育環境と特性	落葉広葉樹林内の石灰岩上に生える雌雄異株の落葉低木。

CR マメ科
162 **イヌハギ**
Lespedeza tomentosa

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

2000年以降採集記録があるのは3市町で、現存が確認できたのは香南市のみ。生育個体数も少ない。香美市、四万十市の記録は未確認である。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は管理放棄、遷移進行による生育環境の変化である。個体群の状況を定期的に把握し、時期を選んだ草刈りなどの植生管理を行う必要がある。

【特記事項】

愛媛県 RDB2014 では、法面緑化からの逸出個体がある、としている。

分布	本州・四国・九州・琉球, ロシア(極東)・朝鮮半島・中国・インド・ヒマラヤ
県内分布	香南市, 高知市, 黒潮町; 佐川町(1891), 津野町(1941)
生育環境と特性	草原性の植物で、定期的に草刈りをしている耕作地、河原や海岸近くの砂地、石灰岩地に生育する半低木。

CR マメ科
163 **マキエハギ**
Lespedeza virgata

口絵 16

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内での産地はもともと少なく、現存が確認できたのは高知市と津野町で、個体数も少ない。津野町では石灰岩地帯に確認されている。香南市、仁淀川町の記録は未確認である。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は管理放棄、遷移進行による生育環境の変化および道路の改変である。丈の低い繊細な小低木であるため、他の植物との競合には弱い。高知市の産地は牧野植物園内であり、生育していた1株から種子を採取して増殖を図っている。

分布	本州・四国・九州・琉球, 朝鮮半島・台湾・中国
県内分布	香美市, 高知市, 津野町; 東洋町(1963), 南国市(1934)
生育環境と特性	丘陵地や低山の日当たりの良い乾いた路傍や岩地などの草原に生える。丈の低い繊細な小低木。総状花序に2~5個の花をつけ、葉腋に数個の閉鎖花を束生する。

CR マメ科
164 **ハカマカズラ**
Phanera japonica

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

宿毛市沖の島で現存を確認した。過去に記録のある姫島では近年確認できていない。土佐清水市足摺岬の亜熱帯植物園内にある個体は植栽である。

【危機要因と保護保全対策】

遷移進行による生育環境の変化が危機要因である。現存する生育地の環境は、森林の状態から近年ほとんど変化がないと推測される。地元との協力を得ながら、定期的に個体の状況を把握していく必要がある。

【特記事項】

沖の島の「母島のハカマカズラ」は宿毛市指定天然記念物(1969)。

分布	本州(紀伊半島)・四国・九州・琉球
県内分布	宿毛市
生育環境と特性	常緑のつる性の木本で、海岸近くの常緑広葉樹林に生える。

CR マメ科
165 シバネム
Smithia ciliata

□絵 16

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: EX
環境省 RL2020: DD

【生育状況と選定の理由】

2000年以降に採集記録があるのは黒潮町と四万十町のみである。両生育地とも現存は確認できなかった。そのほかは古い記録しかなく現状は不明である。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は管理放棄や遷移進行による生育環境の変化である。背の低い一年生草本で他の植物との競合に弱いため、明るく適潤な環境が継続的に維持される必要がある。新たな生育地が確認された場合には、種子を冷凍保存するなどの保全措置が必要である。

分布	本州(近畿地方以西)・四国・九州, 台湾・中国・東南アジア・インド・ヒマラヤ
県内分布	四万十町, 黒潮町; 高知市(1887), 仁淀川町(不明), 津野町(1885), 四万十市(不明), 土佐清水市(不明), 宿毛市(1914)
生育環境と特性	県内では棚田の法面や人工林の横を流れる川岸の明るい裸地に生育していた。一年生草本。

CR マメ科
166 ハマアズキ
Vigna marina

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: -
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内で確認されていたのは室戸市佐喜浜付近の海岸のみであったが、災害復旧工事により消失し、その後確認できない。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は工事などの人為的攪乱であるが、波浪などの自然攪乱で消失する可能性もある。県内唯一の生育地では消失後に再確認できない。将来的に県内いずれかの地点で、漂着した種子から再定着する可能性があるため、継続的な調査と情報収集が必要である。

分布	四国・屋久島・琉球諸島・小笠原諸島, 世界の熱帯
県内分布	室戸市
生育環境と特性	海岸の砂浜に生えるつる性の多年生草本。

CR マメ科
167 スナジマメ
Zornia cantoniensis

□絵 16

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: CR

【生育状況と選定の理由】

国内では高知県のみ分布し、90年ほど前には高知市内の海岸でも多数採集されていた。2004年以降の採集記録はなく、最後に確認されたのは、古い墓地横の砂地の草地であった。1995年頃には地元の園芸高校で保護増殖が図られていたが、現在は行われておらず、栽培下の個体もない。

【危機要因と保護保全対策】

防潮堤や道路建設、松林の減少、桑畑からビニールハウスへの転換、海岸砂地の墓地の改修などにより生育環境が失われた。砂浜の縮小や外来植物との競合も大きな要因と考えられる。海岸の疎林と砂浜の間には現在道路があり、生育に適した環境がなく、新たな生育地の発見は困難と思われる。

分布	四国, 台湾・中国・東南アジア
県内分布	高知市; 安芸市(1931), 南国市(1915)
生育環境と特性	海岸の松林や裸地などの砂地に生える。地上部が匍匐する小型の多年生草本で、よく枝分かれをして広がる。花は6月から10月頃まで次々に咲き、1.2~2cmのとげのある豆果をつける。

CR バラ科
168 オオヤマザクラ
Cerasus sargentii var. *sargentii*

□絵 17

高知県 RL2010: DD
高知県 RDB2000: -
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

2016年に開花個体が確認された。県内での分布は1地域に局限され、個体数も限られる。香美市で採集されていた標本は、カスミザクラ(高知県 RL2010: DD)に同定変更された。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は森林伐採、更新に適した明るい林床の減少とニホンジカによる食害である。いの町の生育地は国有林内にあり、人工林と隣接する生育地もあるため、森林が伐採されない限り保全される。しかし、林冠が鬱閉した暗い森林の林床には稚樹がほとんどなく、更新には林冠ギャップを必要とすると考えられる。後継樹の生育が可能な植生管理と、必要に応じて防鹿柵の設置を検討する必要がある。

分布	北海道・本州・四国, ロシア(極東)・朝鮮半島・中国
県内分布	いの町
生育環境と特性	山地の疎林や林縁などに生える落葉高木。県内では、標高1000~1300mのブナ・ミズナラ・ミズメ林内に点在する。

CR 169	バラ科	□絵 17	高知県 RL2010: CR
	オオウラジロノキ <i>Malus tschonoskii</i>		高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内では香美市にのみ分布し、現存が確認された。優占林分を形成することではなく、個体数は少ない。林床はニホンジカの食害を受けており、後継樹が育っていない。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因はニホンジカによる食害である。主な生育範囲は保護林内にあるため、森林伐採のおそれはないが、分布域ではシカの密度が高く、林床植生は壊滅的な食害を受けている。後継樹の育成が重要であり、実生の確保と防鹿柵による保護が必要である。種子を採取して実生・稚樹を増やし、生育地に戻すといった保全方法も検討する必要がある。

分布	本州・四国・九州
県内分布	香美市
生育環境と特性	乾燥した尾根筋などを好み、県内では石灰岩地の落葉広葉樹林に生育する落葉高木。岩屑が堆積した崖錐地形の上に分布していることが多い。

CR 170	バラ科	□絵 17	高知県 RL2010: CR
	ミツモトソウ <i>Potentilla cryptotaeniae</i>		高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

過去にはいの町本川の多数の地点で採集記録があるが、最近確認されていたのは1か所のみであった。その地点では、林道の補修工事が行われた形跡があり、調査で現存は確認できなかった。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は産地局限、遷移進行である。過去の確認地点では現存が確認できておらず、広域での詳細な調査が必要である。最近自生が確認されていた場所で、適期に再調査を行い、自生が確認できれば、管理者と情報共有し、保全対策を検討する必要がある。

分布	北海道・本州・九州、ロシア(極東)・朝鮮半島・中国
県内分布	いの町
生育環境と特性	山地の林縁の湿った場所に生える多年生草本。

CR 171	バラ科	□絵 17	高知県 RL2010: CR
	ゴショイチゴ <i>Rubus chingii</i>		高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: EN

【生育状況と選定の理由】

早明浦ダム周辺に多いが、確認された生育個体は限られている。本種は伐採跡地や林縁を好んで生育するため、生育地周辺の同様の環境にも生育している可能性がある。粗放的な刈取りが行われると生育環境が維持されるが、遷移の進行とともに消失しやすい。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は遷移進行や管理放棄による生育環境の変化である。生育地では、継続した草刈りといった管理や人工林の伐採による好陽地の形成が必要である。種子の寿命が長い可能性があるため、生育が確認された地点の詳細な情報を残しておくことが重要である。

分布	本州・四国・九州、中国
県内分布	高知市、本山町、土佐町、大川村
生育環境と特性	林縁や伐採地などの明るい環境に生育する小低木。茎は二年生で、1年目に茎を伸長させ、2年目に花芽をつける。成熟した果実の種子は休眠性が強い。

CR 172	バラ科	□絵 17	高知県 RL2010: CR
	ヒロドイチゴ <i>Rubus corchorifolius</i>		高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

近年の確認は東洋町の2か所のみである。うち1か所で確認できず、現存するのは1か所だけであった。個体数が少なく、雑種と思われる特徴の個体もみられた。須崎市の生育地は公園化による刈取りと斜面崩落による復旧工事が実施されており生育は確認できなかった。1988年に撮影された写真(中澤2014)の場所でも確認できていない。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は産地局限、遷移進行による生育環境の変化、工事や不適切な刈取りなどの人為的攪乱やニホンジカによる食害が考えられる。調査によって個体群の状況を把握し、保全方法の検討が必要である。

分布	本州(岐阜県以西)・四国・九州、朝鮮半島(南部)・台湾・中国
県内分布	東洋町、いの町、須崎市
生育環境と特性	山地の二次林に生える落葉小低木。

絶滅危惧IA CR

CR
173
バラ科
サナギイチゴ
Rubus pungens

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

県内では仁淀川町の石灰岩地にのみ確認されている。生育地では、十数個体を含む個体群が数か所で確認されているが、個体群全体の分布は狭い範囲に限られている。

【危機要因と保護保全対策】

森林伐採と産地局限が危機要因である。生育地は、森林植物公園で植物採取が禁止されているものの、生育する範囲は限られている。自然災害などの攪乱によって個体数が減少する可能性がある。定期的に個体群の状況を把握し、保全方法を検討し、必要に応じて対策を講じる必要がある。

分布	本州・四国・九州, 台湾・朝鮮半島・中国・ヒマラヤ
県内分布	仁淀川町
生育環境と特性	明るい林縁や石灰岩の露出する崖地のような好陽地に生育する。つる状小低木。茎は細くて匍匐し、葉は羽状複葉で5~7枚の小葉からなる。

CR
174
グミ科
クヤマグミ
Elaeagnus eptiricha

口絵 17

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: CR

【生育状況と選定の理由】

生育地は点在し、個体数も少なくまた開花結実数が少ないことから後継株の出現もあまり期待できない。かつての生育地は人工林に変えられて生育できなくなり、人工林に適さなかった蛇紋岩地のアカマツやミズナラの中にみられる。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は管理放棄、遷移進行による生育環境の変化である。本種に配慮した植生管理を行う必要がある。そのほか、種子の保存、実生の栽培による個体の増殖など、域外保全を検討する必要がある。

分布	四国・九州
県内分布	香美市, 仁淀川町, 梶原町
生育環境と特性	山地の明るい林内や林縁に生える小低木。

CR
175
クロウメモドキ科
ハマナツメ
Paliurus ramosissimus

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

過去確認されていた全ての市と町で現存が確認されたが、消失した地点もあった。土佐市宇佐の湾内の州浜には移植された個体が生える。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は河川や海岸の開発である。種子が海流によって運ばれる漂流散布型の植物で、自然護岸の入り江といった環境が生育に適した条件であり、防潮堤建設などで生育地が失われる危険性がある。種子の発芽率は高く、栽培も比較的容易であり、県中部の新川川の河川拡幅工事で造成した護岸に種子から育成した個体を植栽して群落を再生させた事例がある。

分布	本州(東海地方以西)・四国・九州・琉球, 朝鮮半島・台湾・中国・インドシナ
県内分布	東洋町, 安芸市, 高知市, 土佐市, 須崎市, 土佐清水市
生育環境と特性	県中部の生育地は河口域の増水時に水没する自然護岸であり、東部の自生地は海岸砂丘の後背地である。落葉低木。いずれの立地も適潤な砂質土で海水の影響を強く受けて海岸林が発達できないような環境で、ハマボウなどと共に生育している所もある。

CR
176
クロウメモドキ科
ネコノチチ
Rhamnella franguloides var. *franguloides*

口絵 17

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

2000年以降の採集記録は仁淀川町椿山のみで、同地域では1885年の永沼小一郎の標本以来120年ぶりの記録であった。調査で確認されたのは仁淀川町の別地点であることから、調査不足と見落としの可能性が高い。

【危機要因と保護保全対策】

森林伐採や河川改修、道路工事などの人為的攪乱が危機要因であると考えられる。現存を確認できた地点が少なく、生育状況を把握するため広範囲での調査が必要である。

分布	本州(岐阜県以西)・四国・九州, 朝鮮半島(南部)
県内分布	香美市, 仁淀川町, 越知町; 須崎市(1938)
生育環境と特性	県内では川付近の林縁部に生える落葉小高木。

CR 177	クロウメモドキ科	□絵 18	高知県 RL2010: CR
	クロイゲ <i>Sageretia thea</i>		高知県 RDB2000: EX 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

採集記録があるのは香美市のみで、現存が確認された。個体数は極めて少ない。

【危機要因と保護保全対策】

遷移進行が危機要因である。唯一の生育地は国道の落石防止フェンス沿いであり、植生管理が必要であるが、草刈りの際に誤って刈取らないよう管理者に配慮を求める必要がある。

分 布	四国・九州・琉球, 台湾・中国・インド
県 内 分 布	香美市
生 育 環 境 と 特 性	県内では道路に接する崖地(林縁)に生える。落葉~常緑の低木。一見複数の稚樹が生育しているようにみえるが、いずれも横走する不定根から生じたものである。

CR 178	アサ科	□絵 18	高知県 RL2010: CR
	カラハナソウ <i>Humulus lupulus var. cordifolius</i>		高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内では津野町の石灰岩地にのみ確認されている。本種は林縁を好んで生育するため、生育地周辺の同様の環境にも生育している可能性があるものの、遷移の進行による被陰で消失しやすい。これまでに確認された個体数は10以下と限られている。

【危機要因と保護保全対策】

遷移進行と管理放棄による生育環境の変化が危機要因である。生育地は県立自然公園内にあって保護されているものの、森林の発達により林縁的な環境が減少すると、個体数が減少する可能性がある。保護のためには、草刈りなどの継続的な植生管理が必要である。

分 布	北海道・本州・四国, ロシア(極東)・中国
県 内 分 布	津野町
生 育 環 境 と 特 性	明るい林縁に生えるつる性の多年生草本。茎には下向きの刺毛がある。花期は8~9月で、苞片が球状に丸まった花をつける。

CR 179	クワ科	□絵 18	高知県 RL2010: CR
	カカツガユ <i>Maclura cochinchinensis</i>		高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

温暖な県西部で点々と確認されているが、個体数は少ない。調査では土佐清水市と宿毛市の合計5か所で現存が確認された。

【危機要因と保護保全対策】

森林伐採や道路工事などの人為的攪乱および自然災害による斜面の崩落などが危機要因である。無人島や保護されている林でも確認されているが、人里近い山林の個体については伐採されないように地域の関係者への注意喚起が必要である。

【特記事項】

「大岐のカカツガユ」は土佐清水市指定天然記念物(1959), 土佐清水市貝ノ川の「貝ノ川のカカツガユ自生地」は県指定天然記念物(1949)。

分 布	本州・四国・九州・琉球, 台湾・中国(南部)・インドシナ・マレーシア・インド・東アフリカ・オーストラリア
県 内 分 布	高知市, 土佐清水市, 宿毛市, 大月町
生 育 環 境 と 特 性	温暖な海岸林の林内や林縁などに生える, 雌雄異株のつる性木本。雌株は11月頃オレンジ色の果実をつける。

CR 180	イラクサ科	□絵 18	高知県 RL2010: EN
	コバノイラクサ <i>Urtica laetevirens</i>		高知県 RDB2000: - 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

採集記録があるのは香美市のみで、現存が確認された。ニホンジカの食害を原因とする植生の変化により連続的な減少が予測される。

【危機要因と保護保全対策】

産地局限, ニホンジカによる食害とそれに伴う植生の変化が危機要因である。生育地を含めた広範囲におけるシカの頭数管理が必要である。個体群の分布と生育状況を把握し, 保全方法を検討する必要がある。

分 布	北海道・本州・四国・九州, 朝鮮半島・中国
県 内 分 布	香美市
生 育 環 境 と 特 性	標高1000m以上の山地の林床や林縁に生える多年生草本。

絶滅危惧IA CR

CR
181

ウリ科

オオカラスウリ

Trichosanthes laceribractea

□絵 18

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: DD

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

黒潮町と土佐清水市の合計3か所で確認されており、そのうち2か所で現存が確認された。それぞれの地点に生育する個体数は少ない。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は道路工事や森林伐採などの人為的攪乱である。生育が確認されているのは道路横の林縁や崩落防止フェンスの中であるため、木の伐採や道路工事の際に消失するおそれがある。地域の関係者への注意喚起が必要である。牧野植物園では県内産の種子から育てた個体を園地に植栽し、域外保全のため保存している。

分布

四国・九州・琉球, 台湾・中国・ベトナム

県内分布

黒潮町, 土佐清水市

生育環境と特性

暖地の林縁などに絡まる。つる性の多年生草本。開花期には8時頃まで白い大きな花が残るため、みつけやすい。

CR
182

オトギリソウ科

トサオトギリ

Hypericum tosaense

□絵 18

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: CR

【生育状況と選定の理由】

既知の全ての生育地点で1998年(写真での記録)以降確認できていない。標本としては1994年に南国市で採集されたものが最後である。香美市の生育地はゴルフ場の開発、南国市および高知市一宮・円行寺の生育地は鉱山の採掘とその後の産業団地の造成などにより完全に破壊され、現在野生で確認できる個体はない。

【危機要因と保護保全対策】

土地造成や開発などの人為的攪乱が危機要因である。植生が回復途上である高知市円行寺の廃鉱において、わずかながらも再発見の期待がもてる。再確認されれば、種子からの増殖など、域外保全の方法を早急に検討する必要がある。

分布

本州・四国

県内分布

香美市, 南国市, 高知市; 佐川町 (1934)

生育環境と特性

高知市および近郊の蛇紋岩丘陵地の日の良く当たるところに生える多年生草本。

CR
183

スミレ科

ヒトツバエゾスミレ

Viola eizanensis var. *simplicifolia*

高知県 RL2010: DD

高知県 RDB2000: -

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

現在高知県で確認されている生育地は1か所のみ。開花個体はなく、閉鎖花で結実した種子からの個体とみられる。生育地点は暗くて日当たりが悪いため、開花個体が確認できないと考えられる。

【危機要因と保護保全対策】

遷移進行による生育環境の変化と園芸採取が危機要因である。現在の生育環境では暗いと考えられ、適切な光環境にするための植生管理が必要である。園芸採取の対象となるため、生育地点情報の拡散を防ぐ必要がある。

分布

本州(中部)・四国

県内分布

土佐町

生育環境と特性

山地の木陰に生える多年生草本。

CR
184

スミレ科

サクラスミレ

Viola hirtipes

□絵 19

高知県 RL2010: EN

高知県 RDB2000: EN

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内の生育地は限定的である。高標高域の草地に生育するが、樹木が侵入し被陰されている地点では確認できなかった。草原の管理が不十分なため、減少傾向にある。

【危機要因と保護保全対策】

管理放棄と遷移進行による生育環境の変化および園芸採取が危機要因である。火入れや草刈りなどの植生管理を継続的に行い、明るい草原環境を維持するとともに、生育地点情報の公開と拡散を防ぐ必要がある。スミレの仲間の中では最も大きな花を咲かせるため、園芸採取による減少も危惧され、生育地点情報の公開と拡散に注意が必要である。

分布

北海道・本州・四国・九州, 朝鮮半島・中国

県内分布

西部

生育環境と特性

山地の草原に生える多年生草本。

CR スミレ科
185 **キスミレ**
Viola orientalis

高知県 RL2010: EN
高知県 RDB2000: EN
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内の生育地は1か所のみで、明らかな減少傾向がある。黄色のスマシレは珍しいため、特に園芸採取の被害を受けている。ササ類の密度が高くなり生育環境も悪化している。

【危機要因と保護保全対策】

管理放棄と遷移進行による生育環境の変化および園芸採取が危機要因である。火入れや草刈りなどの植生管理を定期的に行い、適度な明るさの草原環境を維持するとともに、法律や条例による保護が求められる。

分布	本州(山梨県以西)・四国・九州, ロシア(極東)・朝鮮半島・中国
県内分布	中部
生育環境と特性	日当たりの良い山地の草地や、林道の崩れた斜面に生える。多年生草本。

CR ヤナギ科
186 **ノヤナギ**
Salix subopposita

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

過去に確認された生育地は1か所のみである。1969年に採集された標本と1990年に撮影された写真(中澤2014)があるが、それ以降は確認されていない。すでに絶滅した可能性もある。

【危機要因と保護保全対策】

明るい草原を好むため、草原の管理放棄などで遷移が進行すると衰退する。今後、再発見された場合には、保護柵の設置や草刈りなどの植生管理を行う必要がある。

分布	本州(中国地方)・四国・九州, 朝鮮半島
県内分布	梶原町
生育環境と特性	山地や丘陵地の日当たりの良い草原に生育する樹高1m以下の落葉性の小低木。

CR トウダイグサ科
187 **タカトウダイ**
Euphorbia lasiocaula var. *lasiocaula*

□絵 19

高知県 RL2010: NT
高知県 RDB2000: -
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

近年標本が採集された地点は香美市、南国市、高知市で、そのうち県内最大の生育地であった高知市一宮・布師田では産業団地造成のため激減する可能性が高い。芸西村、仁淀川町の記録地点は未確認である。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は土地造成などの人為的攪乱および管理放棄、遷移進行による生育環境の変化である。高知市一宮では産業団地造成地および隣接する私有地に生育する。私有地では植林が行われ、下草刈りによる減少がみられるうえ、将来的には上層木の被陰による衰退が考えられる。南国市岡豊山では、定期的な草刈りが行われているため良好な状態が維持されており、管理の継続が望まれる。

分布	本州・四国・九州, 中国・朝鮮半島
県内分布	香美市, 南国市, 高知市
生育環境と特性	丘陵地, 山地の草地, しばしば石灰岩地および超塩基性岩地帯に生える。夏緑性の多年生草本。

CR ミソハギ科
188 **ヒメビシ**
Trapa incisa

高知県 RL2010: EN
高知県 RDB2000: EN
環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

日高村の過去に確認記録がある地点の底泥中から果実の殻だけが発見されているが、県内での現存は確認されていない。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は不明であるが、他のヒシ属植物が湖沼の富栄養化とともに増加しているのに対し、本種は全国的に減少している。採集記録のある地点などで、残存個体群が発見された場合には、域外保全を含む積極的な保護対策が必要である。

分布	北海道・本州・四国・九州, ロシア(極東)・中国・朝鮮半島
県内分布	日高村; 高知市(1892), 土佐市(1892), 四万十市(1889)
生育環境と特性	池や沼などの止水域に生育する浮葉性の一年生草本。果実の刺は4本で細く、刺を含む全幅が約2cmと日本産ヒシ属の中で最も小さい。

CR 189	ミツバウツギ科	高知県 RL2010: CR 高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: -
	ショウベンノキ <i>Turpinia ternata</i>	

【生育状況と選定の理由】

宿毛市沖の島弘瀬の荒倉神社社叢のみに確認されている。天然記念物として保護されているが、現存する範囲が非常に狭い。

【危機要因と保護保全対策】

生育地は天然記念物として保護されているため、森林伐採などの危険はないが、天然記念物登録以降の生育状況は把握されていない。個体群動態について調査を行い、地元の協力を得ながら、適切な管理を実施する必要がある。

【特記事項】

宿毛市沖の島の「弘瀬の荒倉神社々叢」は宿毛市指定天然記念物（1969）。

分布	四国・九州・琉球, 台湾
県内分布	宿毛市
生育環境と特性	亜熱帯性の常緑樹林内に生える小高木。

CR 190	アブラナ科	□絵 20	高知県 RL2010: CR 高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: EN
	タチスズシロソウ <i>Arabidopsis kamchatica</i> subsp. <i>kawasakiana</i>		

【生育状況と選定の理由】

県内の生育地は高知市の1か所のみで、個体数は100程度しかない。三重県のものと同系統という報告がある（Higashi et al. 2012）。

【危機要因と保護保全対策】

管理放棄や遷移進行による生育環境の変化、津波などの自然災害が危機要因である。現存個体群は植生管理によって維持されているが、方法が最適かは検証されていない。管理方法が変更されれば消失する可能性がある。生育地は沿岸域で津波の浸水が予測されており、種子保存などによる生育域外の系統保全を、個体群の維持に影響しないよう注意して行っていく必要がある。

分布	本州（東海地方・近畿地方）・四国
県内分布	高知市
生育環境と特性	県内ではクロマツ疎林内の墓地の裸地に生育する。越年生草本。

CR 191	ツチトリモチ科	高知県 RL2010: CR 高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: VU
	ミヤマツチトリモチ <i>Balanophora nipponica</i>	

【生育状況と選定の理由】

調査では、香美市、大豊町、いの町で現存が確認された。高知市では確認できず、四万十市と仁淀川町は未調査である。ニホンジカの生息域では林床が荒廃し、連続的な減少が予測される。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因はニホンジカによる食害とそれに伴う林床植生の変化である。香美市と大豊町では防鹿柵の設置による保護が図られており、今後、他の生育地でも状況に応じて防鹿柵の設置を検討する必要がある。生育地を含めた広範囲におけるシカの頭数管理が必要である。

分布	本州・四国・九州
県内分布	香美市, 大豊町, 高知市, いの町, 仁淀川町, 四万十市
生育環境と特性	主に冷温帯の広葉樹林の林床でカエデ類の根に寄生する。

CR 192	タデ科	高知県 RL2010: CR 高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: VU
	ヒメタデ <i>Persicaria erectominor</i>	

【生育状況と選定の理由】

県中部から東部の多数の地点で採集記録があるが、1982年以降の確認はなく、調査でも確認できなかった。

【危機要因と保護保全対策】

湿地の開発、管理放棄と遷移進行が危機要因と考えられる。過去には多数生育している地点も確認されており、今回は見落としや調査不足の可能性が高い。管理が放棄された生育地では個体群の状況を把握し、適切な植生管理対策を講じる必要がある。

分布	北海道・本州・四国・九州, 朝鮮半島, 中国
県内分布	田野町, 安芸市; 芸西村 (1930), 高知市 (1886)
生育環境と特性	県内では水田や収穫後の湿った畑地などに生える一年生草本。

絶滅危惧IA CR

CR タデ科
193 **マダイオウ**
Rumex madaio

口絵 21

高知県 RL2010: DD
高知県 RDB2000: DD
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県中部から中西部にかけて採集記録があり、香美市、本山町、いの町、梶原町で現存が確認された。生育環境が限定されるため個体数は多くない。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は道路工事、管理放棄および外来植物との競合である。路傍などに生育するため、草刈りなどが個体群の維持に悪影響を与えないよう、各地点での管理の適期を管理者と共有する必要がある。

分布	本州・四国・九州
県内分布	香美市、本山町、大川村、いの町、津野町、梶原町；大豊町（1892）、仁淀川町（1889）、佐川町（1892）
生育環境と特性	林縁や道路脇のやや明るい環境で、浅くゆるやかな流水のあるところなどに生育する多年生草本。根茎が太く、中が黄色くなるのが特徴。

CR ナデシコ科
194 **タチハコベ**
Arenaria trinervia

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

仁淀川町と梶原町の2か所で2014年以降に標本が採集されているが、調査されていない。花期以外では識別が難しく、しかも花は小さく目立たないため、見過ごされている可能性もある。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因としては、産地局限、道路工事、ニホンジカによる食害、遷移進行が考えられる。シカの生息域では採集記録のある地点で再調査を行い、防鹿柵の設置などを検討する必要がある。

分布	北海道・本州・四国・九州、北半球の温帯
県内分布	仁淀川町、梶原町；高知市（1936）、香美市（1940）、大豊町（1893）、越知町（1905）
生育環境と特性	山地の林内や林縁に生える一年または越年生草本。ハコベ属に似るがノミノツヅリ（オオヤマフスマ）属で、花期以外では識別が難しく、花は小さく目立たない。

CR ヒユ科
195 **ヤナギイノコヅチ**
Achyranthes longifolia

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

調査では安芸市、高知市、四万十市で現存が確認された。生育地が限られており、各地点での個体数も少ない。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は管理放棄や遷移進行による生育環境の変化、産地局限および土地造成などの人為的攪乱である。粗放的に管理されている場所に生育していることが多く、植生の継続的な管理が必要である。

分布	本州（関東地方以西）・四国・九州、台湾・中国
県内分布	安芸市、高知市、四万十市
生育環境と特性	平地から山地にかけてのやや湿った林縁や木陰、路傍に生える多年生草本。

CR ツツジ科
196 **ツガザクラ**
Phyllodoce nipponica

口絵 22

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: -
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

大川村の1地点、本山町の2地点で現存が確認された。本山町では一部の個体が、樹林の発達により被陰され、減少傾向にある。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は遷移進行と道路工事である。本山町の生育地は被陰により数個体の枯死が確認されており、本種の保全には明るい生育環境を維持するような植生管理が必要である。管理に当たっては、生育地が乾燥しないように注意する必要がある。

【特記事項】

分布南限の生育地がある。

分布	本州（東北地方以南～中国地方）・四国
県内分布	本山町、大川村
生育環境と特性	県内では古い林道や作業道の切土の岩壁に着生する。常緑小低木。

CR 197	ツツジ科	□絵 22	高知県 RL2010: CR
	サクラツツジ <i>Rhododendron tashiroi</i>		高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内では西部の小河川沿いの非常に限られた範囲にのみ自生する。かつては流域周辺に広く分布していたが、集落の減少による遷移の進行や獣害により減少した。個体数が少ないが、地元住民の保護により現在連続的減少はみられない。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は森林伐採、遷移進行や管理放棄による生育環境の変化、ニホンジカによる食害および園芸採取である。他の植物に被陰され、生育状態が悪化した個体が増えつつあるため、支障木を伐採するなどの植生管理を行うとともに、防鹿柵の設置についても検討する必要がある。保護体制の維持が課題である。

【特記事項】 分布北限・東限の生育地がある。

分布	四国・九州・琉球（沖縄島以北）
県内分布	西部
生育環境と特性	川岸の林縁に生える常緑低木。

CR 198	アカネ科	□絵 22	高知県 RL2010: CR
	コバムグラ <i>Exallage chrysotricha</i>		高知県 RDB2000: - 環境省 RL2020: EN

【生育状況と選定の理由】

県内で確認されているのは宿毛市の1か所のみで、個体数も少なく全国的にも分布は限られている。

【危機要因と保護保全対策】

道路周辺の維持管理作業の際、不用意に刈取られることがあるため、管理者に生育情報を提供し、適切な時期に刈取りを行うように依頼する必要がある。道路の維持管理の範囲外では遷移が進み、外来植物の侵入も多いため、継続的な植生管理が必要である。園芸採取されるおそれもあり、生育地点情報の漏洩と拡散を防ぐ必要がある。

分布	四国・九州，朝鮮半島・中国
県内分布	宿毛市
生育環境と特性	岩が一部露出した道路の法面と路肩に張りつくように生える多年生草本。

CR 199	リンドウ科	□絵 22	高知県 RL2010: CR
	ハナイカリ <i>Halenia corniculata</i>		高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内で確認されているのはいの町の高標高域1か所のみで、個体数は100個体程度である。

【危機要因と保護保全対策】

遷移進行による生育環境の変化と道路工事などの人為的攪乱が危機要因である。現存する個体群は植生管理によって維持されているが、その方法が最適かは検証されていない。管理方法の変更により消失する可能性がある。管理者と生育情報を共有し、継続的で適切な管理が必要である。

分布	北海道・本州・四国・九州，ロシア（極東）・朝鮮半島・中国・モンゴル・ヨーロッパ東部
県内分布	いの町
生育環境と特性	県内では日当たりの良い斜面の草地に生える、一年～越年生草本。

CR 200	キョウチクトウ科	□絵 22	高知県 RL2010: EN
	アオカモメヅル <i>Vincetoxicum ambiguum</i>		高知県 RDB2000: EN 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

2000年以降は、香南市，南国市，四万十市で採集記録があり，調査では南国市と四万十市で現存を確認した。個体数の減少が確認された生育地があった。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は管理放棄，遷移進行による生育環境の変化，河川改修および農薬汚染である。湿地や耕作地に隣接して生育する個体群の保全には，適切な時期の草刈りと除草剤を使用しない植生管理を，地元の協力を得ながら進める必要がある。

分布	本州（紀伊半島）・四国・九州
県内分布	香南市，南国市，日高村，四万十市
生育環境と特性	山麓の草地や林の縁に生える，つる性の多年生草本。

CR 201	ムラサキ科	高知県 RL2010: CR 高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: -
	マルバチシャノキ <i>Ehretia dicksonii</i>	

【生育状況と選定の理由】

3市8か所で採集記録がある。調査では室戸市と土佐清水市の合計4か所で現存を確認した。推定個体数は50未満である。高知市と黒潮町では植栽されている所がある。

【危機要因と保護保全対策】

道路工事、土地造成、森林伐採などの人為的攪乱が危機要因である。海岸沿いのものは台風などによる塩害で葉を落として枝先が枯死することもあるが、後にほぼ回復する。毎年大量に結実するが、林内ではほとんど稚樹がみられない。台風などによってできる林冠ギャップに落ちた種子から更新すると推察されるため、高木層の適度な伐採など、更新を促すような植生管理計画を検討する必要がある。

分布	本州・四国・九州・琉球, 台湾・中国・ベトナム
県内分布	室戸市, 高知市, 黒潮町(植栽), 土佐清水市
生育環境と特性	海岸に近い山地の林縁などに生育する落葉小高木。

CR 202	ムラサキ科	□絵 23	高知県 RL2010: CR 高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: EN
	ムラサキ <i>Lithospermum murasaki</i>		

【生育状況と選定の理由】

県西部の2地域で採集記録があり、20年ほど前まで現存していた地点では確認できなかった。現存が確認されたのはそのほかの1地域のみである。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は草原の管理放棄と遷移進行による生育環境の変化である。現存する生育地では、ここ10年ほど現状が維持されているが、定期的に個体群の状況を把握しておく必要がある。消失した生育地由来の個体は、牧野植物園で系統保存されている。

分布	北海道・本州・四国・九州, ロシア(極東)・朝鮮半島・中国
県内分布	西部
生育環境と特性	県内では草原に生える多年生草本。

CR 203	ナス科	高知県 RL2010: CR 高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: EN
	ヤマホオズキ <i>Archiphysalis chamaesarachoides</i>	

【生育状況と選定の理由】

2000年以降は3町村で採集記録があるが、梶原町では河川の増水により消失した地点がある。調査で現存が確認できたのは越知町1か所2個体のみ。四万十市では確認できなかった。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因はニホンジカによる食害、自然災害である。四万十市の山域ではシカの食害が深刻で、梶原町では川の増水により流失した。越知町でも最近シカの生息域が拡大しており、影響が懸念されている。長期間安定して同じ場所で確認できないため、保全が難しい。

分布	本州・四国・九州, 台湾・中国
県内分布	北川村, 越知町, 梶原町, 四万十市
生育環境と特性	山地のやや湿った林下にまれにみられる多年生草本。

CR 204	ナス科	高知県 RL2010: CR 高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: VU
	アオホオズキ <i>Physaliastrum japonicum</i>	

【生育状況と選定の理由】

県内の確認地点は4地域8か所で、個体数は減少傾向にある。個体数はいずれの確認地点とも50未満と推定される。仁淀川町の生育地では、県森林環境税により防鹿柵が2014年に設置された。それ以降、毎年現存が確認されているが、個体数、生育位置ともに流動的である。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は遷移進行による生育環境の変化およびニホンジカによる食害である。仁淀川町の防鹿柵を設置した生育地では、他の植物との競合によって光環境条件が変化し、個体数や生育位置が大きく変わり安定しない。定期的に個体の状況を把握し、必要に応じて適切な植生管理や防鹿柵の設置などの対策を講じる必要がある。

分布	本州(関東以西)・四国・九州
県内分布	香美市, 本山町, いの町, 仁淀川町, 津野町
生育環境と特性	山地の谷沿いで、やや湿り気のある林中に生える。多年生草本。

絶滅危惧IA CR

CR 205	オオバコ科	口絵 24	高知県 RL2010:	CR
	カミガモンウ <i>Gratiola fluviatilis</i>		高知県 RDB2000:	-
			環境省 RL2020:	EN

【生育状況と選定の理由】

室戸市の山中の池に現存する。県内ではほかには確認されていない。ニホンジカによる直接的な食害とイノシシの掘り返しなどを受けて大きな個体はみられなくなっていたが、2019年に県森林環境税で防鹿柵が設置され、現在は動物による影響がほとんどない状態になっている。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因はニホンジカによる食害、イノシシの掘り返しによる生育地の攪乱および遷移進行による生育環境の変化である。柵の効果の検証のために行われているモニタリング調査で、柵設置による遷移進行の影響についても確認していく必要がある。

【特記事項】 高知県希少野生動植物保護条例指定種。

分 布	本州・四国・九州
県 内 分 布	室戸市
生 育 環 境 と 特 性	県内では池の縁の湿ったところで、水位変動が大きく増水時には一時的に沈水するところに生える、一年生草本。

CR 206	オオバコ科	口絵 24	高知県 RL2010:	CR
	オオアブノメ <i>Gratiola japonica</i>		高知県 RDB2000:	DD
			環境省 RL2020:	VU

【生育状況と選定の理由】

イグサの栽培圃場でのみ生育が確認されていた。以前は、生育範囲は限られていたものの、個体数が多かったが、最近ではイグサ農家の減少に伴い栽培面積が減少して、本種の個体数も激減している。隣接する水稲圃場では確認できないため、イグサ以外の作物の栽培環境では生育できないと考えられる。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は農薬汚染と管理放棄による生育環境の変化である。本種はイグサの栽培圃場でのみ確認されていることから、イグサ栽培の有無が生残に大きく関与しており、栽培がされなくなると同時に消失する危険性が高い。イグサ栽培の継続が本種の保全に不可欠である。

分 布	北海道・本州（岩手県以南）・四国・九州、ロシア（極東）・朝鮮半島・中国
県 内 分 布	土佐市
生 育 環 境 と 特 性	県内ではイグサの栽培圃場に特異的に生える一年生草本。

CR 207	オオバコ科	口絵 24	高知県 RL2010:	CR
	ハマクワガタ <i>Veronica javanica</i>		高知県 RDB2000:	DD
			環境省 RL2020:	VU

【生育状況と選定の理由】

高知市に現存するが1地点のみで、1994年から約2年半の定期的な植物調査で偶然発見された場所である。近隣の山腹の断面には蛇紋岩の地層があり、高知市子ども科学図書館元館長故前田卓氏によれば、生育地のある里山は、1950年代にはミシマサイコをはじめ多様な植物が自生していたという。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は管理放棄と遷移進行による生育環境の変化である。農耕地の雑草として除草される一方で、耕作をやめれば隣接する竹林からの竹の侵入などで消滅する可能性もある。定期的に個体群の状況を把握して管理方法を検討し、域外保全を実施する必要がある。

分 布	本州・四国・九州・琉球・小笠原諸島、台湾・中国・東南アジア・ミャンマー・ヒマラヤ・インド・アフリカ
県 内 分 布	高知市；東洋町（1943）、佐川町（1936）
生 育 環 境 と 特 性	県内では農地の路傍に生える越年生草本。

CR 208	オオバコ科	口絵 24	高知県 RL2010:	EN
	ホソバヒメトラノオ <i>Veronica linariifolia</i> var. <i>linariifolia</i>		高知県 RDB2000:	EN
			環境省 RL2020:	EN

【生育状況と選定の理由】

生育が確認された地点は1か所のみで、土壌が浅く、ネザサの優占度の低い場所に数十個体が散在していた。ネザサの優占度が上昇した場所では個体数の減少が激しい。半自然草原の管理放棄によって植生遷移が進行し、確認された生育地数、個体数ともに急激に減少している。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は遷移進行による半自然草原の消失と園芸採取である。定期的な刈取りや火入れを行って草原を維持することが必要である。実生の定着を促進させるために、種子や実生を表土が動きにくいチャートの隙間へ播種することも有効であると考えられる。

分 布	本州・四国・九州、ロシア（極東）・朝鮮半島・台湾・中国・モンゴル
県 内 分 布	香美市、高知市、佐川町、土佐市
生 育 環 境 と 特 性	明るく草丈の低い半自然草原に生える多年生草本。草丈の高いスキ群落や密生したネザサ群落の下層では衰退する。実生は小さく、表土が動く場所での定着は困難で、チャートなどの礫や基岩の間隙で生き残ることが多い。

CR 209	オオハコ科	口絵 24	高知県 RL2010: CR
	ヒメトラノオ <i>Veronica rotunda var. petiolata</i>		高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

現存する生育地は1か所のみ。生育場所は狭い範囲の放棄湿田である。環境の悪化とともに、ここ数年はイノシシの被害を受けて個体数が減少している。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は湿地である生育地の乾燥化と遷移進行、イノシシの掘り起しによる攪乱である。周辺の水田の耕作放棄により外来植物などが侵入し、生育場所の乾燥化が進む可能性が高く、定期的に個体群の状況を把握して適切な植生管理などの対策を検討する必要がある。また、野生動物の侵入を防ぐための柵を早急に設置する必要がある。

分布	本州（関東以西）・四国・九州，朝鮮半島・中国
県内分布	高知市，いの町
生育環境と特性	林縁や草地に生える多年生草本。

CR 210	クマツヅラ科	口絵 25	高知県 RL2010: CR
	イワダレソウ <i>Phyla nodiflora</i>		高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

土佐清水市大岐で1999年に海岸に流れ込む小河川沿いの岩上で確認されていたが、2015年には生育していた岩そのものが無くなっていた。三崎，以布利では60年以上前の採集記録がある。

【危機要因と保護保全対策】

産地局限が危機要因である。世界の熱帯，亜熱帯に広く分布し，砂漠の緑化にも利用されるほど強靱な植物であるため，海岸沿いに残っている可能性がある。生育している可能性が高い範囲で，詳細な調査が必要である。

分布	本州（関東南部以西）・四国・九州・琉球，世界中の熱帯～亜熱帯
県内分布	土佐清水市；高知市（1926）
生育環境と特性	日当たりの良い海岸に生える多年生草本。

CR 211	シソ科	口絵 25	高知県 RL2010: CR
	カワミドリ <i>Agastache rugosa</i>		高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

調査では大豊町で現存が確認され，梶原町，津野町は未調査である。生育地，個体数とも少なく，生育環境として明るい草地や林縁を好むことから，環境の変化により，個体数の連続的な減少が予測される。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は遷移進行による生育環境の変化である。定期的に個体群の状況を把握し，適切な植生管理などの対策を講じる必要がある。大豊町の生育地は道路の法面であり，管理者との情報共有が必要で，草刈りなどの管理に当たって適切な時期に行うなど配慮が望まれる。

分布	北海道・本州・四国・九州，ロシア（極東）・朝鮮半島・中国
県内分布	大豊町，梶原町，津野町；いの町（1938）
生育環境と特性	山地の林縁や草地に生える多年生草本。

CR 212	シソ科	口絵 25	高知県 RL2010: -
	ヤクシマトウバナ <i>Clinopodium multicaule var. yakusimense</i>		高知県 RDB2000: - 環境省 RL2020: NT

【生育状況と選定の理由】

高知県 RL2010 ではコケトウバナ（DD）とされていたもの。種の変更ではなく，和名とランクを変更した。県内で確認されているのは土佐清水市の1水系のみで，調査で現存が確認された。水位変動が少ない河川で，点々と生育が確認され，生育環境は安定している。

【危機要因と保護保全対策】

水際のコケの中に生育するため，上流域での森林伐採によって長期的な渇水が起こるおそれや，集中豪雨や台風での流失も考えられる。生育地の付近では風力発電施設の建設計画があり，施設の排水などによる水位変動で悪影響を受ける可能性がある。種子採取・保存などの域外保全も検討しておく必要がある。

分布	四国・屋久島
県内分布	土佐清水市
生育環境と特性	県内では溪流岸のコケの生えた湿った岩上などで，明るい環境に生育する。多年生草本。

絶滅危惧 I A CR

CR
213

シソ科

フトボナギナタコウジュ

Elsholtzia nipponica

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

2000年以降に香南市と大豊町で採集記録があるが、調査では現存が確認できなかった。谷沿いの林道脇などが生育地であるため、今後継続して調査する必要がある。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は産地局限、遷移進行による生育環境と考えられる。調査では生育が確認できていないため、採集記録のある地点を集中的に調査する必要がある。確認された際には、定期的に個体群の状況を把握し、種子の保存や個体の増殖などの域外保全を検討する必要がある。

分布 本州（宮城県以南）・四国・九州

県内分布 香南市、大豊町

生育環境と特性 山地の路傍に生える一年生草本。

CR
214

シソ科

キセワタ

Leonurus macranthus

□絵 25

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

採集記録のある地点は5か所のみである。県内では個体数も少なく、園芸採取による絶滅の可能性がある。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は産地局限、管理放棄と遷移進行による生育環境の変化、園芸採取である。生育地点情報の漏洩や拡散に注意しながら、適切に植生管理を行うなど生育環境の改善が必要である。種子による栽培・繁殖が容易であるため、域外保全を行って生育個体数を確保しておくことが有効である。

分布 北海道・本州・四国・九州、ロシア（極東）・朝鮮半島・中国

県内分布 中部、西部

生育環境と特性 石灰岩地の草地に生える多年生草本。

CR
215

シソ科

ナツノタムラソウ

Salvia lutescens var. intermedia

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: -

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

生育地は土佐町の1地域のみで、調査で現存が確認された。連続的な減少が予測される。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は遷移進行による生育環境の変化である。現在の主要な生育地は間伐されて本種の生育に適した環境になっているが、間伐されていない他の地点では衰退している。森林の管理者や地権者と本種の生育情報を共有し、適期に間伐するなどの対策を講じることが必要である。

【特記事項】

近畿地方と高知県に分布するナツノタムラソウについては、新変種ニシノタムラソウ var. *occidentalis* が提唱・記載（Takano 2020）されている。

分布 本州（神奈川県以西～近畿地方の太平洋側）・四国

県内分布 土佐町

生育環境と特性 山地のやや明るい林床、林縁に生える多年生草本。

CR
216

シソ科

ミツデコトジソウ

Salvia nipponica var. trisecta

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

2000年以降採集記録があるのは大豊町のみであったが、調査で、大豊町のほか仁淀川町、梶原町でも現存が確認された。推定個体数1,000未満。連続的減少があるかどうかは不明である。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は森林伐採、遷移進行による生育環境の変化、ニホンジカによる食害である。土壌水分条件の悪化に影響を受けることを考慮し、植生管理を検討する必要がある。シカの生息域では、食害の被害状況によっては防鹿柵の設置を検討する必要がある。

分布 本州（西部）・四国・九州

県内分布 香美市、大豊町、仁淀川町、梶原町；高知市（1951）、日高村（1953）、佐川町（1892）

生育環境と特性 県内での生育環境は湿ったガレ場などの変化しやすい林床のため不安定である。

CR 217	シソ科	口絵 26	高知県 RL2010:	CR
	オカタツナミノウ <i>Scutellaria brachyspica</i>		高知県 RDB2000:	CR
			環境省 RL2020:	-

【生育状況と選定の理由】

過去に大豊町でのみ採集記録があり、調査でも現存が確認された。生育地点数が少ないうえ、個体数が極めて少ない。加えて、ニホンジカの食害により連続的な減少が予測される。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は遷移進行による生育環境の変化とニホンジカによる食害である。定期的に個体群の状況を把握し、必要に応じて草刈りなどの植生管理を検討するとともに、生育地を含めた広範囲におけるシカの頭数管理が必要である。

分布	本州（宮城県以南）・四国
県内分布	大豊町
生育環境と特性	低山の林縁の草地に生える多年生草本。

CR 218	シソ科	口絵 26	高知県 RL2010:	CR
	ハナタツナミノウ <i>Scutellaria iyoensis</i>		高知県 RDB2000:	-
			環境省 RL2020:	-

【生育状況と選定の理由】

四万十市の愛媛県との県境付近で標本が採集されているが、ニホンジカの食害が深刻な地域で、現存しないと考えられる。四万十町の生育地は愛媛県との県境で、愛媛県側に多く、高知県側にはわずかしかない。両地点とも未調査である。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は遷移進行による生育環境の変化、ニホンジカによる食害と考えられる。県内の生育地は分布の辺縁にあたりと考えられ、現在のところ県境付近以外で確認されていない。最近採集記録のある地点は、シカの食害がある地域にあるため、再調査で現存を確認し、状況によっては防鹿柵の設置や域外保全を検討する必要がある。

分布	本州（中国地方西部）・四国
県内分布	中土佐町、四万十町；四万十市（1924）
生育環境と特性	主な分布地は中国地方や四国の瀬戸内海側で、山地の明るい落葉広葉樹林下や林縁、草地に生える多年生草本。

CR 219	シソ科	口絵 26	高知県 RL2010:	EX
	ヤマタツナミノウ <i>Scutellaria pekinensis</i> var. <i>transitra</i>		高知県 RDB2000:	CR
			環境省 RL2020:	-

【生育状況と選定の理由】

高知県 RL2010 では絶滅（EX）となっていたが、2011年と2015年に香美市で、2018年に高知市で再発見された。香美市の生育地は、再発見以降ニホンジカの食害や除草剤の散布により個体数は激減しており、調査ではいずれも数個体しか確認されなかった。生育地点数、個体数ともに少ない。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は遷移進行による生育環境の変化、ニホンジカによる食害および除草剤の散布である。個体群の存続には道路路肩への除草剤散布を行わないこと、シカの食害に対しては、生育地を含めた広範囲での頭数管理が必要である。

分布	北海道（南部）・本州・四国・九州、朝鮮半島・中国
県内分布	香美市、高知市、佐川町；大豊町（1941）
生育環境と特性	低山のやや明るい林縁、林道や道路の法面に生える多年生草本。

CR 220	シソ科	口絵 26	高知県 RL2010:	CR
	イヌゴマ <i>Stachys aspera</i> var. <i>hispidula</i>		高知県 RDB2000:	CR
			環境省 RL2020:	-

【生育状況と選定の理由】

1998年以降3町で採集記録がある。2011年に東洋町で標本が採集されて以降、現存は確認されていない。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は水田や用水路の圃場整備、湿地開発、除草剤の散布、乾燥化と遷移進行による生育環境の変化である。採集記録のある地点で再調査が必要である。確認された際には、種子の保存や個体の増殖などの域外保全を検討する必要がある。

分布	北海道・本州・九州、ロシア（極東）・朝鮮半島・中国
県内分布	東洋町、四万十町、黒潮町；土佐市（1959）
生育環境と特性	耕田や畦の溝など富栄養な湿地に生え、細長い地下茎をひく多年生草本。種子による繁殖は旺盛だが、夏場の水切れには弱く、常に湿って日当たりの良い場所を好む。

絶滅危惧 I A CR

CR キキョウ科
221 **バアソブ**
Codonopsis ussuriensis

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

高知市と四万十市で現存が確認された。草刈りが行われなくなった地点では、木本やササ類が茂ってきたため減少している。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は管理放棄、遷移進行による湿田や湿地の荒廃と除草剤の散布である。地域の農地管理を将来にわたって継続することが重要である。定期的に調査を行って個体群の状況を把握し、種子採取・保存などの域外保全も検討する必要がある。

分布	北海道・本州・四国・九州, ロシア(極東)・朝鮮半島・中国
県内分布	香美市, 高知市, 越知町, 四万十市; いの町(1938)
生育環境と特性	県内では水田横のやぶや谷地の水路沿いなどでみられる。つる性の多年生草本。

CR キキョウ科
222 **サワギキョウ**
Lobelia sessilifolia

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

高知市で現存が確認された。現存する生育地は1か所で個体数も極めて少なく、消失する危険性が高い。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は産地局限および遷移進行による生育環境の変化である。現存する生育地は狭く、徐々にではあるが遷移も進行している。生育環境を維持・拡大するためには、適切な植生管理の継続が必要である。

分布	北海道・本州・四国・九州, ロシア(極東)・朝鮮半島・中国
県内分布	高知市
生育環境と特性	低山の日当たりの良い湿地に生える, 多年生草本。

CR ミツガシワ科
223 **ガガブタ**
Nymphoides indica

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: NT

【生育状況と選定の理由】

県中部では高知市と南国市に記録があるが、埋め立てや改修工事、水質汚濁や侵略的外来水生植物の繁茂によって消滅した可能性があり、現在県内での生育は確認できていない。全国的にも個体数の減少が著しい種である。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因として、湿地や河川の改修、土地造成が考えられる。生育が確認され次第、増殖・系統保存などの域外保全が必要である。

分布	本州・四国・九州, 朝鮮半島・中国・東南アジア・アフリカ・オーストラリア
県内分布	南国市, 高知市; 四万十市(1934)
生育環境と特性	平野の湖沼, ため池に生える多年生の水生植物。

CR キク科
224 **マルバテイショウソウ**
Ainsliaea fragrans

口絵 27

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

県内では1地域にのみ分布する。災害による土砂崩れなどで消失したと考えられていたが、2014年に近隣で250個体程度が確認された。しかし、開花個体は10未満と少なく、生育環境の変化によりやや減少しつつある。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は遷移進行による生育環境の変化、産地局限である。2015年から2019年まで環境省野生復帰事業によって、地権者や地元集落の協力のもと同地点由来の増殖株の植え戻しが行われた。現在も地元自治体・集落の協力により保護が進められている。

【特記事項】

分布東限の生育地がある。高知県希少野生動植物保護条例指定種。

分布	四国・九州, 台湾・中国
県内分布	土佐清水市
生育環境と特性	県内では急斜面にできる段差の下や落葉樹林の林下とギャップなど、比較的明るい環境に生える。多年生草本。

CR
225

キク科

カワラハハコ

Anaphalis margaritacea var. *yedoensis*

口絵 27

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: -

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内では1地点でのみ現存が確認され、個体数も50未満で、かつ連続的な減少が観察された。比較的狭い範囲にしか生育しておらず、出水のない年には開花個体数の増加が確認された。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は河川改修、遷移進行による生育環境の変化、洪水による生育地の消失である。大規模な洪水などで個体が流失するおそれもあるため、定期的な調査による現状把握に加え、域外保全を検討する必要がある。

分布	北海道・本州・四国・九州
県内分布	四万十町；東洋町（1963）、南国市（1956）、高知市（1892）
生育環境と特性	県内では河川の砂礫地に生える多年生草本。

CR
226

キク科

ワタヨモギ

Artemisia gilvescens

高知県 RL2010: DD

高知県 RDB2000: -

環境省 RL2020: EN

【生育状況と選定の理由】

1974年に採集記録があるが、それ以降の記録はない。採集記録に基づいて評価を行った。過去の生育地点は不明であり、現存は確認できていない。

【危機要因と保護保全対策】

国内帰化・移入の可能性も示唆されるため、実体の把握と再調査が必要である。

分布	本州（山口県）・四国・琉球、中国
県内分布	高知市
生育環境と特性	荒地に生える多年生草本。

CR
227

キク科

ヒロハヤマヨモギ

Artemisia stolonifera

高知県 RL2010: DD

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: NT

【生育状況と選定の理由】

2003年に採集記録があるが、それ以降の記録はない。採集記録に基づいて評価を行った。現存は確認できていない。

【危機要因と保護保全対策】

国内帰化・移入の可能性も示唆されるため、実体の把握と再調査が必要である。

分布	本州（中国地方）・九州、ロシア（極東）・朝鮮半島・中国
県内分布	いの町、梶原町
生育環境と特性	山中の草原に生える多年生草本。

CR
228

キク科

コモノギク

Aster komonoensis

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内では1地点でのみ現存が確認され、個体数は250未満と推定される。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は大規模な自然災害による岩壁の崩落および園芸採取である。現存が確認されているのは1地点のみで個体数も限られているため、周辺の同様の立地環境でさらに調査を進めるとともに、域外保全の必要がある。

分布	本州（近畿地方）・四国
県内分布	大川村
生育環境と特性	山地の落葉樹林林縁、南向き岩壁のわずかに砂礫が堆積しているところに生える多年生草本。

CR キク科
229 オケラ
Atractylodes ovata

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県中部の蛇紋岩地の2地点で現存が確認された。推定個体数は250未満であり、減少している。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は管理放棄と遷移進行による生育環境の変化、園芸採取および土地造成である。定期的に調査を行って個体群の状況を把握し、適切な植生管理などの対策を講じる必要がある。牧野植物園では生育地由来の株が系統保存されている。

分布	本州・四国・九州, ロシア(極東)・朝鮮半島・中国(東北部)
県内分布	中部
生育環境と特性	林縁や草原に生える多年生草本。

CR キク科
230 ヤナギアザミ
Cirsium lineare

口絵 27

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

現存を確認できたのは四万十町の1地点のみで、極めて生育範囲が限られている。地域住民により維持管理されている場所であるが、ノウサギによる食害で個体数が減少している。個体数は50未満である。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は管理放棄、遷移進行による生育環境の変化および動物による食害である。現存地点では地元住民の管理作業によって自然環境が維持されているものの、ノウサギなどの小動物による食害によって個体数が減少しており、防護柵の設置などの対策を急ぐ必要がある。

分布	本州(山口県)・四国・九州, 朝鮮半島・台湾・中国・ベトナム・タイ
県内分布	梶原町, 四万十町; 仁淀川町(1961), 津野町(1896), 宿毛市(1913)
生育環境と特性	草原に生える多年生草本。

CR キク科
231 ヤナギタンポポ
Hieracium umbellatum

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

梶原町1地域のみで確認され、推定個体数は50未満。連続的な減少が観察されている。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は茅場の管理放棄による遷移の進行および産地局限である。冷温帯の石灰岩地にわずかに残存するのみであるため、定期的に個体群の状況を把握し、生育環境を維持するための保全対策を検討する必要がある。

分布	北海道・本州・四国, 北半球
県内分布	梶原町
生育環境と特性	山地の湿地に生える多年生草本。

CR キク科
232 カセンソウ
Inula salicina var. *asiatica*

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

1997年に行われた高知県第一次レッドリスト調査時に津野町で確認されているが、近年標本は採集されておらず、調査でも現存は確認されなかった。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は草地環境の消失、遷移進行などが考えられる。採集記録のある地域で再調査が必要である。

分布	北海道・本州・四国・九州, ロシア(極東)・朝鮮半島・中国
県内分布	大豊町(1941), 佐川町(1966), 梶原町(1962), 四万十町(年不明)
生育環境と特性	日当たりの良い湿地に生える多年生草本。

CR
233

キク科

アキノハハコグサ

Pseudognaphalium hypoleucum

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: EN

【生育状況と選定の理由】

調査で確認できたのは本山町1か所、大川村2か所と梶原町2か所のみで、合計個体数は30前後である。いずれも道路の草刈りにより危険な状態におかれている。特にいの町の生育地では法面を削るような草刈りが行われており確認できなかった。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は道路工事および路傍の草刈りなどの人為的攪乱、管理放棄である。現存する生育地では、草刈りにより明るい環境は保たれているものの、施行時期によっては種子を残せない可能性がある。一方で生育には攪乱が必要で、草刈りが行われなくなると低木の侵入などにより衰退するおそれがある。管理者と情報共有し、保全を進めていく必要がある。

分布 本州・四国・九州、朝鮮半島・台湾・中国・フィリピン・東南アジア・ヒマラヤ・インド・西アジア

県内分布 香美市、本山町、大川村、いの町、梶原町；仁淀川町（1892）

生育環境と特性 やや乾いた山地に生える一年生草本。現存する自生地はいずれも道路の法面。

CR
234

キク科

ミヤコアザミ

Saussurea maximowiczii

□絵 28

高知県 RL2010: EX

高知県 RDB2000: EX

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

1957年に高知市で標本が採集されて以来確認されず、絶滅（EX）となっていた。2013年に高知市で再発見され、調査でも現存が確認された。生育地は1か所で、個体数も極めて少ない。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は産地局限、遷移進行による生育環境の変化である。現存する生育地は棚田の土手にあり、古くから人の手で維持されてきた環境である。保全のためには、草刈りといった植生管理の継続が必要である。

分布 本州（岩手県以南）・四国・九州、ロシア（極東）・朝鮮半島・中国

県内分布 高知市

生育環境と特性 県内では放棄された棚田の土手に生える、多年生草本。

CR
235

キク科

ヤブレガサモドキ

Syneilesis tagawae

□絵 28

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: EN

【生育状況と選定の理由】

6市村で採集記録があるが、現存するのは室戸市と香南市のみである。生育地点が限られており、個体数も多くない。2014年に県森林環境税で防鹿柵が設置された生育地では、開花個体数は増加傾向にある。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は遷移進行による生育環境の変化とニホンジカによる食害である。開花すると地下茎は二分岐してクローンで増殖するため、狭い範囲に群生する場合、集団の遺伝的な多様性は低い可能性がある。自家不適合性があるため、個々の集団が消失しないよう保全し、可能な限り多くの個体を残す必要がある。

【特記事項】高知県希少野生動物植物保護条例指定種。

分布 本州（兵庫県）・四国

県内分布 室戸市、北川村、安芸市、芸西村、香南市、高知市

生育環境と特性 明るい林縁や草地に生育する多年生草本。

CR
236

キク科

キクバヤマボクチ

Synurus palmatopinnatifidus var. *palmatopinnatifidus*

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

2008年の大豊町での採集記録が最後の確認である。同地点で調査を行ったが、現存は確認できなかった。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は遷移進行による生育環境の変化とニホンジカによる食害である。2008年には車道横の明るい斜面で確認されており、周辺の広域にわたる調査が必要と考えられる。確認された地点は、シカの食害が深刻な地域であるため、再確認されれば防鹿柵の設置を検討する必要がある。

分布 本州（滋賀県以西）・四国・九州

県内分布 大豊町；津野町（1962）

生育環境と特性 山地の日当たりの良い草原や林縁に生える多年生草本。

CR キク科
237 **オヤマボクチ**
Synurus pungens var. *pungens*

口絵 28

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

香美市の1地域で現存が確認され、仁淀川町は未調査である。確認地点での開花個体数はいずれも10以下でかつ連続的な減少が観察されている。香美市にある生育地では2018年に県森林環境税で防鹿柵が設置されている。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は遷移進行による生育環境の変化とニホンジカによる食害である。防鹿柵を設置した生育地では柵の効果が得られており、他の生育地でも優先順位をつけて防鹿柵の設置を検討する必要がある。遷移進行で影響を受けている生育地では、適切な植生管理などを検討する必要がある。

分布	北海道・本州（青森県～岐阜県）・四国・九州
県内分布	香美市, 仁淀川町, 梶原町; 佐川町 (1892)
生育環境と特性	山地の明るい疎林下や草地に生える多年生草本。

CR キク科
238 **ツクシタンポポ**
Taraxacum kiushianum

口絵 29

高知県 RL2010: EN
高知県 RDB2000: EN
環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

2010年から5年ごとにタンポポ調査が行われ、分布状況とその推移が観察されている。梶原町、津野町の愛媛県境に近い山地で現存が確認された。生育地点と個体数が少なく連続的な減少が予測される。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は産地局限、管理放棄と遷移進行による生育環境の変化である。日当たりの良い草地が維持されるよう、適切な植生管理を検討する必要がある。

分布	四国・九州
県内分布	津野町, 梶原町
生育環境と特性	県内では主に日当たりの良い刈取り草地（茅場）に生える。多年生草本。

CR スイカズラ科
239 **オニツクバネウツギ**
Abelia serrata var. *tomentosa*

口絵 30

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: CR

【生育状況と選定の理由】

県西部の1地域で確認されており、2か所に現存を確認した。開花個体数は50程度しかないと推定される。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因はニホンジカによる食害と森林伐採である。シカの頭数が多い地域では、防鹿柵の設置を急ぐ必要がある。本種は樹高が低く、明るい林縁などでは他の植物との競合に弱いと考えられるため、必要に応じて刈取りなどの植生管理が必要である。

分布	四国
県内分布	西部
生育環境と特性	低山の林縁やアカマツ疎林内などの明るい所に生育する。オニツクバネウツギと同所的に生育する場所もあるが、植物体に白い開出毛が多く、明確に区別できる。

CR スイカズラ科
240 **タカネマツムシソウ**
Scabiosa japonica var. *alpina*

口絵 30

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: EN
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

採集記録のあるのは2か所で、両方で現存を確認した。限られた範囲にのみ生育しており、個体数は両地点とも50未満と推定される。県森林環境税で防鹿柵が設置されている生育地がある。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は遷移進行による生育環境の変化、園芸採取、ニホンジカによる食害である。防鹿柵内では、植生の回復に伴って他の植物に被陰されると衰退する可能性がある。柵の効果の検証のため、モニタリング調査が行われてきているが、個体群の状況を把握するため今後も継続する必要がある。

分布	本州・四国
県内分布	中部
生育環境と特性	高標高域の草地に生える多年生草本。

CR 241	スイカズラ科	□絵 30	高知県 RL2010: CR
	マツムシソウ <i>Scabiosa japonica var. japonica</i>		高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

本来は山地の草原に生育するが、県内では蛇紋岩地などに多い。近年では開花個体が激減している。

【危機要因と保護保全対策】

最大の危機要因は園芸採取で、そのほか蛇紋岩地の開発と周囲の棚田の耕作放棄による生育環境の変化である。草刈りなどの管理作業を必要に応じて行い、生育環境である蛇紋岩地そのものを保全することが最優先課題である。最近では生育地点情報が拡散し、県内外からの観光客による採取が後を絶たないため、見回りや法律や条例による保護が求められる。

分布	北海道・本州・四国・九州
県内分布	中部
生育環境と特性	山地の草原や蛇紋岩地の草地に生える。越年生草本。

CR 242	スイカズラ科	□絵 30	高知県 RL2010: EN
	カノコソウ <i>Valeriana fauriei</i>		高知県 RDB2000: - 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

過去に県内3地域で確認されていたが、現存が確認されているのは1地域で、個体数は50未満と推定される。現在生育が確認されている地点では、県森林環境税で防鹿柵が設置され、ニホンジカによる食害から保護されている。急傾斜の場所では防鹿柵の外側にも生育している。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は遷移進行による生育環境の変化とニホンジカによる食害である。現存する生育地では防鹿柵が設置されているが、落石などでしばしば破損するためシカの侵入頻度が高く、完全に保護できていない。柵の効果を検証するためのモニタリング調査を継続し、個体群の状況を把握しておく必要がある。

分布	北海道・本州・四国・九州、ロシア（極東）・朝鮮半島・台湾・中国
県内分布	香美市、いの町；越知町（1957）
生育環境と特性	県内では明るい山地の草地に生える多年生草本。

CR 243	セリ科	□絵 30	高知県 RL2010: CR
	トウキ <i>Angelica acutiloba</i>		高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

採集記録のある生育地は3か所のみである。いの町の生育地は自生と思われるが、近年の確認例がない。ほかの2か所は人家に近く逸出の可能性がある。調査では確認できていない。

【危機要因と保護保全対策】

産地局限と薬用採取が主な危機要因である。薬用に栽培され人家近くに逸出することがあり、自生かどうか不明な産地がある。いの町の記録のある地域で再調査が必要である。

分布	本州（中北部）・四国
県内分布	香美市、四万十市；いの町（1938, 1964）
生育環境と特性	山地の岩石地に生える多年生草本。

CR 244	セリ科	□絵 30	高知県 RL2010: CR
	フキヤミツバ <i>Sanicula tuberculata</i>		高知県 RDB2000: EX 環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

仁淀川町の石灰岩地にのみ分布する。記録のある地域で複数回調査されたが、現存を確認することはできなかった。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は産地局限である。生育地は森林植物公園として保護されているものの、生育する面積が限られている。斜面崩壊などといった自然災害によって個体数が減少する可能性があるため、定期的に調査を行って個体群の状況を把握し、状況に応じた適切な対策を検討する必要がある。

分布	本州・四国・九州、朝鮮半島
県内分布	仁淀川町
生育環境と特性	石灰岩の崖地に生育する小型の多年生草本。根生葉は長い柄があり3全裂し、花茎には2～3深裂した総苞片が2枚対生する。

絶滅危惧 I A CR

CR
245

セリ科

ヌマゼリ

Sium suave var. *nipponicum*

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

高知平野の水路沿いや水田の周辺で、大型の湿生植物が少ない場所に生育していたが、圃場整備や河川改修で減少し、かつての生育地の多くで絶滅した。最近の確認例が極めて少ないが、一部の小河川で生育情報がある。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は圃場整備と河川改修および棚田などの放棄による遷移進行である。低地は開発される危険性が高いため、事前の調査を綿密に行うなど、不用意な開発が進まないように行政機関などへ注意を喚起し、情報共有する必要がある。

分布	北海道・本州・四国・九州，朝鮮半島・中国
県内分布	南国市，高知市
生育環境と特性	池沼や河川沿いの湿地や水田の周囲にある素掘りの水路などに生える多年生草本。明るい環境を好むので，大型の抽水植物や湿生植物の優占度が高い場所ではあまり生えない。

EN 1	ヒカゲノカズラ科	高知県 RL2010: VU 高知県 RDB2000: EN 環境省 RL2020: VU
	スギラン <i>Phlegmariurus cryptomerinus</i>	

【生育状況と選定の理由】
山中の樹上などで広範囲に確認されており、5市町村7地点で現存が確認された。連続的な減少があるかどうか不明であるが、現存が確認されていた1地点では2020年になって着生木が幹折れし、着生個体の全てが落下しているのが確認された。

【危機要因と保護保全対策】
危機要因は森林伐採と園芸採取である。主に自然性の高い森林に生育する種であり、生育環境の維持には広範囲での森林の保全が必要である。生育地点情報の拡散を防ぐ必要がある。

分布	北海道（南部）・本州・四国・九州・屋久島、ロシア（極東）・済州島・台湾・中国
県内分布	東部、中部、西部
生育環境と特性	県内では山林中の樹上や岩上に着生する。常緑性のシダ植物。樹上に着生している個体は、着生木の展葉期には確認が難しい。

EN 2	ミズニラ科	□絵 1	高知県 RL2010: EN 高知県 RDB2000: - 環境省 RL2020: EN
	オオバシナミズニラ <i>Isoetes sinensis var. coreana</i>		

【生育状況と選定の理由】
確認されている生育地点が少ない。3か所の湿地のうち2か所で減少が確認され、1か所は現存が確認できなかった。

【危機要因と保護保全対策】
危機要因は湿地開発、水田の管理放棄による遷移進行および農薬汚染である。管理者や地権者などと生育情報を共有し、連携して保全対策を講じる必要があるとともに、生育地周辺の植生管理を行い、樹木による被陰を防ぐ必要がある。

分布	本州（茨城県・長野県・兵庫県以西）・四国・九州、朝鮮半島
県内分布	香美市、佐川町、土佐清水市
生育環境と特性	浅い水湿地に生育する。夏緑性の水生シダ。

EN 3	コケシノブ科	高知県 RL2010: EN 高知県 RDB2000: EN 環境省 RL2020: NT
	コケホラゴケ <i>Crepidomanes makinoi</i>	

【生育状況と選定の理由】
分布域は主に中部地域であり、確認されている集団が少ない。仁淀川町の2か所で現存を確認した。

【危機要因と保護保全対策】
危機要因は道路工事、産地局限である。生育地の空中湿度が保たれるよう周辺の森林全体を保全する必要がある。

分布	本州（関東地方以西）・四国・九州（宮崎県）、台湾
県内分布	いの町、仁淀川町、越知町、土佐清水市
生育環境と特性	県内では暗く湿った溪流沿いの岩などに着生する。常緑性のシダ植物。

EN 4	コケシノブ科	高知県 RL2010: EN 高知県 RDB2000: EN 環境省 RL2020: -
	コケシノブ <i>Hymenophyllum wrightii</i>	

【生育状況と選定の理由】
いの町と本山町の吉野川水系で確認されているが、20年以上採集記録がなく、調査でも確認できなかった。過去の確認地点は自然公園内や保護林であるため、残存すると仮定して評価を据え置いた。

【危機要因と保護保全対策】
採集記録のある地点は自然公園であるため、大きく環境は変わっていないが、ニホンジカによる食害で植生の衰退と乾燥化が確認されている。長い間現存が確認できていない地域では、防鹿柵の設置を視野に入れ、広範囲での早急な調査が必要である。

分布	北海道・本州・四国・九州、ロシア（極東）・朝鮮半島・カナダ
県内分布	いの町、本山町
生育環境と特性	岩上あるいは樹幹にマット状に着生し、コケの中に生えることもある。常緑性のシダ植物。

絶滅危惧IB EN

EN
5

ホングウシダ科

ウチワホングウシダ

Lindsaea simulans nom. nud.

口絵 2

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: EN

【生育状況と選定の理由】

室戸市、高知市、四万十町、土佐清水市の7地点で現存を、2地点で消失を確認した。推定個体数は500程度であるが、各地点の生育範囲は狭く、集中して生えるため、消失の危険性が高い。また、少雨が原因の乾燥で矮小化している地点もあった。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は遷移進行と産地局限であるが、10年以上増減なく安定している個体群がある。動物による被食や林床植生の繁茂によって悪影響が予測される生育地では、定期的に調査を行って個体群の状況を把握し、対策を講じる必要がある。

分布

四国・琉球（沖縄島以北）、中国

県内分布

室戸市、高知市、中土佐町、四万十町、土佐清水市、大月町

生育環境と特性

県内では常緑広葉樹林や竹林内の崖状のところや切土法面などに生える。常緑性のシダ植物。

EN
6

イノモトソウ科

クジャクシダ

Adiantum pedatum

口絵 2

高知県 RL2010: EN

高知県 RDB2000: EN

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

仁淀川町では現存が確認されたが、大豊町では確認できなかった。津野町は未調査である。分布域でも生育する環境は限られており、個体数は多くない。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は森林伐採、道路工事、遷移進行である。林道の路傍にある生育地では配慮のない草刈りで悪影響を受けたり、消失したりする可能性があるため、管理者への注意喚起が必要である。

分布

北海道・本州・四国・九州、ロシア（極東）・朝鮮半島・中国・南アジア・北米

県内分布

大豊町、仁淀川町、津野町；香美市（1968）

生育環境と特性

山地の林縁や岩上などで、やや空中湿度の高い環境に生える。夏緑性のシダ植物。

EN
7

イノモトソウ科

タキミシダ

Antrophyum obovatum

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: EN

【生育状況と選定の理由】

6市町村11か所で現存を確認し、ほとんどの地点で個体数は10以下であった。1地点で消失を確認した。広範囲で採集記録があるが、地点あたりの個体数は少ない。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は森林伐採、遷移進行、園芸採取である。長期的な栽培は極めて難しいとされており、生育地の環境保全が重要である。栽培が困難であることが知られているにもかかわらず、園芸採取されるため、生育地点情報の漏洩と拡散を防ぐ必要がある。

分布

本州（千葉県以西）・四国・九州・屋久島、台湾・中国・インドシナ半島・南アジア

県内分布

東部、中部、西部

生育環境と特性

県内では空中湿度の高い林内の岩壁のほか、放棄された炭焼き窯の外壁の石などにも着生することがある。常緑性のシダ植物。

EN
8

イノモトソウ科

ニシノコハチジョウシダ

Pteris kiuschiensis

高知県 RL2010: EN

高知県 RDB2000: EN

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県東部と西部の限られた範囲でのみ確認されている。近縁種との区別が難しい。個体数の変化はみられない。

【危機要因と保護保全対策】

森林伐採、ニホンジカによる食害が危機要因である。森林伐採においては、生育地が消失しないよう森林の一部を残すなどの対策を講じる必要がある。必要に応じて防鹿柵の設置など、保全対策を講じる必要がある。

分布

本州（神奈川県・伊豆半島・紀伊半島）・四国・九州・屋久島、中国

県内分布

東洋町、室戸市、四万十市、土佐清水市

生育環境と特性

温暖湿潤な照葉樹林やスギ人工林に生育する。無配生殖を行う。常緑性のシダ植物。

EN
9

ナヨシダ科

エビラシダ

Gymnocarpium oyamense

口絵 2

高知県 RL2010: EN

高知県 RDB2000: EN

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

近年、県内では8地点で確認されており、主に林道沿いで確認されている。推定個体数は1,000未満である。林道工事などによる生育地の直接的な変化に加え、ニホンジカの食害で下層植生が消失し林地が乾燥化することで生育環境が悪化していると考えられる。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は森林伐採、道路工事、園芸採取である。管理者や地権者と生育情報を共有し、連携して保全対策を講じる必要がある。生育地点の公開や拡散には注意が必要である。

分布 本州（茨城県以西）・四国、台湾・中国・南アジア・東南アジア

県内分布 香美市、大豊町、本山町、土佐町、いの町、仁淀川町

生育環境と特性 県内では山地の落葉樹林内や林縁の岩壁などに生える。夏緑性のシダ植物。

EN
10

チャセンシダ科

ヒメイワトラノオ

Asplenium capillipes

高知県 RL2010: EN

高知県 RDB2000: EN

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

2000年以降標本が採集されたのは本山町のみであったが、調査では、いの町と仁淀川町で現存が確認された。個体数が減少しているかは不明であるが、調査では新産地が見つかった。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は産地局限である。そのほか森林伐採による直射日光の照射、林道改修工事、ニホンジカの食害による森林の乾燥化などの間接的影響も懸念される。管理者や地権者と生育情報を共有し、状況に応じた保全対策を講じる必要がある。

分布 北海道・本州・四国・九州、台湾・中国・南アジア

県内分布 馬路村、本山町、いの町、仁淀川町、津野町

生育環境と特性 常緑樹林や落葉樹林の林下で、暗く水の滴り落ちるような湿った岩場にみられる。しばしば群落を形成する。近縁種イワトラノオとの区別が微妙なことがある。常緑性のシダ植物。

EN
11

チャセンシダ科

オクタマシダ

Asplenium pseudowilfordii

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

県内では主に中部で標本が採集されており、調査では過去の標本採集地での現存だけでなく、新たな地点でも確認された。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は遷移進行、森林伐採である。倒木上で成熟個体が発見されることから、通常の調査方法では目の届かない高木の樹幹にも、未知の生育地があると考えられ、今後の情報の蓄積が重要である。

分布 本川（福島県以南）・四国

県内分布 安芸市、香美市、本山町、仁淀川町

生育環境と特性 県内では溪流沿いの樹幹や岩上に着生する。常緑性のシダ植物。

EN
12

チャセンシダ科

ナンゴクハウビシダ

Hymenasplenium murakami-hatanakae

高知県 RL2010: EN

高知県 RDB2000: -

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

土佐清水市の2か所で現存を確認したが、消失した地点もあった。生育環境が非常に限定的で、個体数も多くない。

【危機要因と保護保全対策】

洪水などの自然災害による流失が危機要因である。20年ほど前と比較して森林の乾燥化が進んでいるとの情報もあり、定期的に調査を行い、環境変化による影響を把握する必要がある。

分布 本州（伊豆諸島・紀伊半島）・四国・九州・琉球・小笠原諸島、台湾・中国

県内分布 土佐清水市

生育環境と特性 県内では常緑樹林内の溪流沿いの湿った岩壁などに着生する。常緑性のシダ植物。

EN
13

メシダ科

サカバイヌワラビ

Athyrium reflexipinnum

口絵 3

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: EN

環境省 RL2020: EN

【生育状況と選定の理由】

いの町の高標高域にのみ生育が知られ、確認されている個体数が少ない。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は産地局限とニホンジカによる食害である。自然公園内において指定植物として保護されているが、シカの生息域の拡大により急激に消失するおそれがある。食害の影響について定期的な調査を行い、状況によっては防鹿柵を設置する必要がある。

分布	四国・屋久島、済州島・台湾
県内分布	いの町
生育環境と特性	高標高の落葉樹林下の明るい林床に生える。夏緑性のシダ植物。

EN
14

メシダ科

シマシロヤマシダ

Diplazium doederleinii

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

2000年以降に標本が採集されているのは東洋町のみで、3か所で確認されており、今のところ2か所で生育は良好である。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は森林伐採、豪雨による斜面の崩落、ニホンジカによる食害である。現在生育の良好な生育地であっても、食害で短期間に消失する可能性もあるため、定期的な観察を行い、状況によっては防鹿柵を設置する必要がある。

分布	本州（神奈川県以西）・四国・九州・琉球、台湾・中国・南アジア・インドシナ半島・フィリピン
県内分布	東洋町、北川村、三原村；宿毛市（1957）
生育環境と特性	溪流沿いのスギ人工林の林床に多くみられ、群生するところがある。常緑性のシダ植物。

EN
15

メシダ科

オキナワコクモウクジャク

Diplazium okinawaense

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: NT

【生育状況と選定の理由】

土佐清水市では一旦現存が確認されたものの、短期間の内に消失した可能性がある。土佐清水市では昔から標本が多数採集されているが、現在はほとんど確認できない。東洋町では現存が確認され、比較的生育は良好だが、生育地点はわずかである。室戸市、土佐市は40年ほど前の記録である。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は森林伐採、豪雨による斜面の崩落、ニホンジカによる食害である。現在生育の良好な生育地であっても、食害で短期間に消失する可能性もあるため、定期的な観察を行い、状況によっては防鹿柵を設置する必要がある。

分布	本州（伊豆諸島（御蔵島）・紀伊半島）・四国・九州・琉球、台湾・中国
県内分布	東洋町、室戸市、土佐市、土佐清水市
生育環境と特性	やや暗いスギの人工林内や溪流沿いに生え、群生はみられない。常緑性のシダ植物。

EN
16

メシダ科

ヒュウガシダ

Diplazium takii

高知県 RL2010: EN

高知県 RDB2000: -

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内では局所的に確認され、採集記録は全て2000年以降のものである。東洋町4か所と安田町1か所では生育は比較的良好である。土佐清水市では、斜面崩落により明るくなった所で個体数が増加したものの、土砂が堆積した所では生育面積が減少していた。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は森林伐採、豪雨による斜面の崩落、ニホンジカによる食害である。現在生育状態の良好な生育地であっても、食害で短期間に消失する可能性もあるため、定期的な観察を行い、状況によっては防鹿柵を設置する必要がある。

分布	本州（伊豆半島以西）・四国・九州・屋久島
県内分布	東洋町、安田町、土佐清水市
生育環境と特性	溪流沿いやスギ人工林の林床に生育して、群生しているところがある。

EN 17	メシダ科 ヒメノコギリシダ <i>Diplazium wichurae</i> var. <i>amabile</i>	□絵 3	高知県 RL2010: CR 高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: NT
----------	--	------	---

【生育状況と選定の理由】

現存が確認できたのは土佐清水市と三原村の合計5か所で、1か所では半分に減少していた。過去の生育地で確認できなくなった所が増えた。各地点で確認された個体数も少ない。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は斜面崩壊、川の氾濫、遷移進行による生育環境の変化である。林内の乾燥化が進んでいる生育地もあり、今後も減少していく可能性がある。生育地ごとに異なる危機要因があるため、生育地点毎に調査を実施し生育情報を収集し、それに基づいた対策を講じる必要がある。

分布	四国・九州・種子島・屋久島
県内分布	黒潮町, 三原村, 土佐清水市, 宿毛市
生育環境と特性	林内で水のしみ出すようなところに生える。常緑性のシダ植物。

EN 18	ヒメシダ科 ヒメミゾシダ <i>Thelypteris gymnocarpa</i> subsp. <i>amabilis</i>	□絵 4	高知県 RL2010: EN 高知県 RDB2000: - 環境省 RL2020: NT
----------	--	------	--

【生育状況と選定の理由】

本山町の3か所で現存を確認し、1か所で確認することができなかった。生育環境条件が非常に限定的で、確認されている地点が少ない。

【危機要因と保護保全対策】

遷移進行による生育環境の変化が危機要因である。森林の鬱閉による光環境の悪化により個体数の減少や消失のおそれがある。定期的な観察を行って個体群の状況を把握し、必要に応じて周辺樹木の間伐などの対策を講じる必要がある。仁淀川町と四万十町で追加調査が必要である。

分布	本州（西部）・四国・九州・琉球（沖縄島以北）
県内分布	大豊町, 本山町, 仁淀川町, 四万十町
生育環境と特性	県内では溪流付近の岩壁の下方で、雨が直接かからないようなところに生える。常緑性のシダ植物。

EN 19	ヒメシダ科 テツホシダ <i>Thelypteris interrupta</i>	□絵 4	高知県 RL2010: CR 高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: -
----------	--	------	--

【生育状況と選定の理由】

採集記録のある室戸市、土佐清水市、大月町における合計4地点全てで現存が確認された。各地点の個体数は多いが、生育範囲は限定される。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は管理放棄と遷移進行による生育環境の変化である。1つの生育地は墓地に隣接するため、造成による消失のおそれがある。必要な保全対策を講じるため、定期的な観察が必要である。

分布	本州（伊豆半島以西）・四国・九州・琉球、世界の熱帯・亜熱帯
県内分布	室戸市, 土佐清水市, 大月町
生育環境と特性	県内では暖地の海岸近くの湿地に生える。夏緑性のシダ植物。

EN 20	ヒメシダ科 ケホシダ <i>Thelypteris parasitica</i>		高知県 RL2010: EN 高知県 RDB2000: EN 環境省 RL2020: -
----------	---	--	--

【生育状況と選定の理由】

県内の主要な生育地は海岸沿いの草地で、多数の個体がみられる。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は遷移進行による生育環境の変化である。植生管理などの対策を講じるため、定期的に個体群の状況を把握する必要がある。

【特記事項】

誤って雑種を保護することのないよう、胞子の発達具合を確認し、丁寧な同定が必要である。

分布	本州（神奈川県）・四国・九州・琉球・小笠原諸島（硫黄島以北）、朝鮮半島・台湾・中国・南アジア・東南アジア・オーストラリア・南太平洋
県内分布	室戸市, 四万十市, 宿毛市, 大月町
生育環境と特性	ホシダと雑種を形成すると、根茎がより長く這うようになる。常緑性のシダ植物。群生地では雑種との混同に注意するべきである。雑種は胞子が異常になるので明確に区別できる。

EN キンモウワラビ科
21 **ケキンモウワラビ**
Hypodematium glandulosopilosum

高知県 RL2010: EN
高知県 RDB2000: EN
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

過去の標本採集地点は多数あり、現存も確認された。個体数は減少傾向にある。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は遷移進行による生育環境の変化である。周囲の草木が大きくなり被覆されると生育が阻害される可能性があるため、状況に応じた植生管理などの検討が必要である。

分布	本州（中国地方）・四国・九州，朝鮮半島・中国・タイ
県内分布	香美市，仁淀川町，越知町，津野町；香南市（1969）
生育環境と特性	石灰岩地帯の急峻な岩場に少数で生育するのがふつうで，群生はまれである。夏緑性のシダ植物。

EN オシダ科
22 **イヌヤブソテツ**
Cyrtomium atropunctatum

高知県 RL2010: EN
高知県 RDB2000: -
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

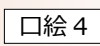
いの町と佐川町で2000年以降標本が採集されているが、未調査である。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は森林伐採，河川や林道の改修，土砂災害およびニホンジカによる食害と考えられる。管理者や地権者などと生育情報を共有し，連携して保全対策を講じる必要がある。シカの生息域では，状況によっては防鹿柵の設置を検討する必要がある。

分布	本州（千葉県以西）・四国・九州，台湾
県内分布	いの町，佐川町
生育環境と特性	川沿いの湿った林床に生える，常緑性のシダ植物。石灰岩地帯でみられる傾向がある。ツクシヤブソテツに類似して羽片の縁に細鋸歯がみられるのが特徴である。包膜の中心部が黒いのも特徴で，同定は新葉の包膜が脱落していない初夏が適期。

EN オシダ科
23 **タニヘゴ**
Dryopteris tokyoensis



高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

梶原町と三原村の合計3か所で現存を確認した。生育環境は限られており，各地点の個体数は多くない。湿地の水環境が変化した地点や周辺の樹木が成長して被陰されている地点がある。

【危機要因と保護保全対策】

管理放棄と遷移進行による生育環境の変化が危機要因で，2000年に発行された高知県レッドデータブックでの，土地造成や道路工事という要因から大きく変化した。湿地の乾燥化や周辺の樹木の発達による被陰など，生育環境条件が変化していないかどうか，定期的に個体群の状況を把握し，植生管理などの対策を講じる必要がある。

分布	北海道・本州・四国・九州，朝鮮半島・中国
県内分布	香美市，大豊町，佐川町，梶原町，中土佐町，三原村
生育環境と特性	県内では明るい湿地や放棄された谷津田に生える。夏緑性のシダ植物。

EN オシダ科
24 **ヒロハアツイタ**
Elaphoglossum tosaense

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

2地域で現存を確認し，1地域で調査したが現存を確認することができなかった。確認できる個体数が非常に少ない。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は遷移進行による生育環境の変化，産地局限と園芸採取である。生育地点情報の公開と拡散を防ぐ必要がある。定期的に個体群の状況を把握し，対策を講じる必要がある。

分布	本州（伊豆諸島・静岡県・紀伊半島）・四国・九州・屋久島
県内分布	東部，中部
生育環境と特性	林内の暗い岩に着生する。常緑性のシダ植物。

EN 25	オシダ科	高知県 RL2010: EN
	タチデンド <i>Polystichum deltoodon</i>	高知県 RDB2000: EN 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】
県内では石灰岩地に点々と確認されており、調査で新たに発見された地点もある。調査では高知市、仁淀川町、津野町で現存が確認されたが、各地点の個体数は多くない。一部では土砂災害の影響を受けている。

【危機要因と保護保全対策】
危機要因は遷移進行である。石灰岩の採掘などの開発や土砂災害による影響を受けるおそれがあり、各地点の定期的な観察が必要である。また、新たな生育地が確認される可能性があり、採集記録のある地域での詳細な調査が必要である。

分布	本州（中国地方）・四国・九州，台湾・中国・ベトナム・フィリピン
県内分布	高知市，仁淀川町，越知町，津野町；佐川町（1905）
生育環境と特性	山地の石灰岩の岩上に生える，好石灰岩性で常緑性のシダ植物。

EN 26	オシダ科	高知県 RL2010: VU
	アイアスカイノデ <i>Polystichum longifrons</i>	高知県 RDB2000: VU 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】
過去に多数の標本が採集されているが、地点は偏っている。2000年以降は土佐町といの町のみ。調査では大豊町で確認されたが、わずか1個体を認めるのみで、生育環境も伐採地が近いため良好でない。

【危機要因と保護保全対策】
危機要因はニホンジカによる食害と森林伐採である。確認地点では防鹿柵の設置などを検討する必要がある。採集記録のある地域での詳細な調査が必要である。

分布	本州・四国・九州，朝鮮半島
県内分布	高知市，大豊町，土佐町，いの町
生育環境と特性	山地の疎林やスギ人工林の林床に生える常緑性のシダ植物。

EN 27	シノブ科	高知県 RL2010: EN
	キクシノブ <i>Davallia repens</i>	高知県 RDB2000: EN 環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】
3か所で現存を確認し、1か所で確認できなかった。空中湿度の低下により減少している地点や、道路工事で生育地が破壊された地点がある。

【危機要因と保護保全対策】
危機要因は道路の改修および園芸採取である。法面掘削で生育地の半分がなくなった生育地があり、回復状況の調査が必要である。生育地点情報の公開と拡散を防ぐ必要がある。

分布	本州（紀伊半島）・四国・九州・琉球，台湾・中国・南アジア・東南アジア・南太平洋・マダガスカル・マスカリン諸島
県内分布	東部
生育環境と特性	岩崖などに着生する。常緑性のシダ植物。

EN 28	ウラボシ科	高知県 RL2010: EN
	オオクボシダ <i>Micropolypodium okuboi</i>	高知県 RDB2000: EN 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】
調査では新産の地点を含め、数地点で現存が確認された。生育地点と範囲は非常に限定的で、小さい個体も多い。樹幹だけでなく、古い切土法面などで確認されることもあり、今後確認地点数は増える可能性がある。

【危機要因と保護保全対策】
遷移進行と道路工事、園芸採取が危機要因である。道路法面にある生育地では、改修や拡幅によって消失する可能性があるため、管理者などと生育情報を共有し、連携して保全対策を講じる必要がある。生育地点情報の公開と拡散を防ぐ必要がある。

分布	本州（秋田県以南・近畿地方以東）・四国・九州・屋久島，台湾・中国・ベトナム
県内分布	東部，中部
生育環境と特性	県内ではモミやミズメなどの樹幹に着生することが確認されており，岩上にも生える。常緑性のシダ植物。

EN 29 **ミヤマウラボシ**
Selliguea veitchii

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

確認されているのはいの町の1地域のみで、かつ非常に制限された環境にしかみられない。

【危機要因と保護保全対策】

産地局限が主な危機要因である。生育地は自然公園内であるため、急激な減少は起こらないと推測されるが、ニホンジカによる食害が拡大しつつある地域であるため、定期的な状況の把握が必要である。

分布	北海道・本州（山形県以南・奈良県以东）・四国、 济州島・中国
県内分布	いの町
生育環境と特性	県内では岩壁の下部でやや明るく乾燥しない環境に着生する。夏緑性のシダ植物。

EN 30 **サダソウ**
Peperomia japonica

□絵 5

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

熱帯を中心に分布するペペロミア属の一種で、古くから知られる須崎市と四万十町の2か所以外はいまだに確認されていない。生育地での個体は少なくないが、生育範囲は限定されている。

【危機要因と保護保全対策】

斜面崩壊などの自然攪乱が危機要因である。生育地はいずれも容易には近づけない断崖地である。生育地の一部では大規模な斜面崩壊が発生しており、現状が不明となっている生育地がある。須崎市の生育地は本種の分布北限であり、天然記念物への指定を検討すべきである。

【特記事項】

分布北限の生育地がある。

分布	四国・九州・琉球、台湾
県内分布	須崎市、四万十町
生育環境と特性	県内の生育地は離島と半島部で、トベラーウバメガシ群集などの海岸風衝低木林に覆われた露岩の多い断崖地の岩隙に生える。多肉の多年生草本。

EN 31 **ツチグリカンアオイ**
Asarum asperum var. geaster

高知県 RL2010: VU
高知県 RDB2000: VU
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県東部の山地でかつては多くみられたが、森林伐採などで林床が乾燥化し、激減した。低山の常緑樹林内やスギ人工林の林縁部には、まだ現存するが、人工林の伐採や園芸採取により、連続的な減少が予想される。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は森林伐採と園芸採取で、そのほか遷移進行である。生育地点情報の公開と拡散を防ぐ必要があるが、森林伐採が避けられない場合には、管理者や地権者などと生育情報を共有し、連携して保全対策を講じる必要がある。

分布	四国
県内分布	東部
生育環境と特性	湿気のある谷沿いや谷川筋の林縁部に生える多年生草本。5月を中心に開花する。

EN 32 **オモゴウテンナンショウ**
Arisaema iyoanum subsp. iyoanum

□絵 6

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: EN

【生育状況と選定の理由】

県中部の山地で現存が確認された。県内の分布は愛媛県境に近い山地に限られ、個体数も少ない。

【危機要因と保護保全対策】

園芸採取、遷移進行、道路工事などが危機要因である。定期的に個体群の状況を把握し、植生管理などの対策を講じる必要がある。生育地点情報の公開や拡散を防ぐ必要がある。

分布	本州・四国
県内分布	中部
生育環境と特性	暖温帯上部から推移帯（多くは推移帯）の林床や林縁に生える多年生草本。

EN
33

サトイモ科

ミミガタテンナンショウ

Arisaema limbatum

高知県 RL2010: EN

高知県 RDB2000: -

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内の分布は西部の3市町村に限られる。開花個体は比較的多い。

【危機要因と保護保全対策】

園芸採取や遷移進行による生育環境の変化が主な危機要因である。林縁などの明るい環境では他種に被覆されないような植生管理が必要である。園芸採取のおそれがあるため、生育地点情報の公開や拡散には注意を要する。

【特記事項】

オキノシマテンナンショウ（高知県 RL2010: DD）は本種に含める。

分布	本州（東北地方～中部地方東部の太平洋側・兵庫県）・四国・九州
県内分布	西部
生育環境と特性	県内では常緑樹林内の明るい林床や林縁、樹林化した放棄農地などに生える多年生草本。他のテンナンショウ属植物との中間的な形質を持つ個体が同所的に生育する。

EN
34

サトイモ科

ウラシマソウ

Arisaema thunbergii subsp. *urashima*

□絵 6

高知県 RL2010: EN

高知県 RDB2000: EN

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内では田野町以東に限られ、調査では室戸市で現存を確認した。確認した地点では未開花個体が多く、開花個体は少ない。

【危機要因と保護保全対策】

海岸開発、園芸採取、遷移進行による生育環境の変化が主な危機要因である。生育地が明るく風通しの良い環境に保たれるような植生管理を行うとともに、生育地点情報の公開や拡散には注意を要する。

分布	北海道・本州・四国・九州
県内分布	東部
生育環境と特性	林縁から日が差し込む明るい林内などに生える多年生草本。種子で繁殖するほか、地下の塊茎周囲にできるむかごで栄養繁殖する。

EN
35

トチカガミ科

スブタ

Blyxa echinosperma

高知県 RL2010: EN

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

2000年以降、5か所で確認されていた高知市の生育地のうち4か所が消失した。全体的に継続的な減少がみられる。今後の水田の耕作放棄地の拡大や、除草剤の使用などで加速度的な減少が危惧される。

【危機要因と保護保全対策】

水田の耕作放棄による遷移進行が主な危機要因で、そのほか農業汚染、外来植物との競合などである。本種の保全には、水田の耕作の継続と、他種との競合および被陰を防ぐために周辺の草刈りなどの植生管理が必要である。栽培が困難な種のため、管理者や地権者などと生育情報を共有し、連携して保全対策を講じる必要がある。

分布	本州・四国・九州・琉球、アジア・オーストラリア
県内分布	高知市、日高村、佐川町、四万十町、黒潮町、三原村、大月町
生育環境と特性	県内では主に湧水利用の棚田とその周辺の水路や溝のみでみられる。沈水性の一年生草本。

EN
36

トチカガミ科

オオウミヒルモ

Halophila major

□絵 6

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: -

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

東洋町と大月町の海岸に近い海底の砂地で現存を確認した。

【危機要因と保護保全対策】

海岸開発が主な危機要因である。大月町では豪雨災害による土砂の流入により、海底に泥がたまり消失した地点がある。泥が流されて砂地が戻れば、将来的には回復する可能性がある。土砂崩れや土壌の流出などが起こらないよう、海岸林などの保全が重要である。

【特記事項】

陸生の維管束植物と異なり、生育状態の把握が困難で、情報が限定的であることに注意が必要である。

分布	本州（紀伊半島）・四国・九州・琉球、フィリピン・ミクロネシア
県内分布	東洋町、大月町
生育環境と特性	水深の浅い海底の砂地に生える沈水性の多年生草本。コアマモと混生するところもある。

EN 37	トチカガミ科	口絵 6	高知県 RL2010:	EN
	ヤマトウミヒルモ <i>Halophila nipponica</i>		高知県 RDB2000:	-
			環境省 RL2020:	-

【生育状況と選定の理由】
既知の生育地が限定されており、出現範囲・個体数の継続的な減少が予測される。

【危機要因と保護保全対策】
海岸開発が主な危機要因である。県内では海草類の生育に適した波浪の穏やかな環境に限られている。土砂崩れや土壌の流出などが起こらないよう、海岸林の保全が重要である。主要な生育環境となりうる浅い内湾は、埋立や水質汚濁による減少の危険性がある。

【特記事項】
陸生の維管束植物と異なり、生育状態の把握が困難で、情報が限定的であることに注意が必要である。

分布	本州（陸奥湾）・四国・九州，太平洋西部の熱帯域
県内分布	東洋町，土佐市，土佐清水市
生育環境と特性	海中の砂地に生える沈水性の多年生草本。水深1m未満から20m以深まで生育し、ときに他の海草類と混生する。オオウミヒルモとは、葉身が小さく、側脈数が少ないなどの点で区別できる。

EN 38	トチカガミ科	口絵 6	高知県 RL2010:	EN
	ホッスモ <i>Najas graminea</i>		高知県 RDB2000:	EN
			環境省 RL2020:	-

【生育状況と選定の理由】
生育地点数が限られていることに加え、生育環境の変化に伴う連続的な減少が予測される。

【危機要因と保護保全対策】
危機要因は水田耕作の放棄と周辺の水路やため池の管理放棄による生育環境の変化である。地元の協力を得ながら定期的に調査を行って個体群の状況を把握し、管理計画を構築する必要がある。

【特記事項】
近年、四国の汽水域からは本種に酷似したヒロハホッスモ *N. guadalupensis* subsp. *floridana* が報告されており（角野，福岡 2016）、丁寧な同定が必要である。

分布	北海道・本州・四国・九州・琉球，アジア・オーストラリア・ヨーロッパ・アフリカの温帯～熱帯
県内分布	香美市，日高村，土佐市，須崎市，黒潮町，宿毛市，三原村；高知市（1937），佐川町（1934）
生育環境と特性	湖沼やため池，水田に生育する一年生の沈水植物。植物体はほかのイバラモ属植物に比べ柔らかくしなやかであり、葉鞘の先端が長く突出する。

EN 39	トチカガミ科	口絵 6	高知県 RL2010:	DD
	トリゲモ <i>Najas minor</i>		高知県 RDB2000:	-
			環境省 RL2020:	VU

【生育状況と選定の理由】
2000年以降2市で採集記録がある。採集記録に基づいて評価を行った。現存は確認できていない。

【危機要因と保護保全対策】
生育地のうちの1か所は、流域に住宅地を含んでおり、危機要因として水質汚濁や外来植物との競合による生育環境の悪化が挙げられる。一年生草本であるため個体数の変動が激しく、定期的な調査で個体群の状況を把握する必要がある。

分布	本州・四国・九州・琉球，アジア・北アフリカ・ヨーロッパの温帯～熱帯
県内分布	香美市，高知市（十市川），日高村
生育環境と特性	湖沼やため池に生える一年生の沈水植物。近似種のオオトリゲモとは、雄花が小さく葯室が1室であることと、葉の細胞の長さが100 μm以下と短いことが有力な識別点となる。

EN 40	ヒルムシロ科	口絵 6	高知県 RL2010:	EN
	センニンモ <i>Potamogeton maackianus</i>		高知県 RDB2000:	EN
			環境省 RL2020:	-

【生育状況と選定の理由】
県内での採集記録地点が限定されている。県内には本種とヤナギモの雑種とされるアイノコセンニンモが分布し、混同されている可能性があるため、分類学的な精査と正確な分布状況の把握が必要である。生育環境の悪化による継続的な減少のおそれがある。

【危機要因と保護保全対策】
主な危機要因は水質汚濁や河川改修であるが、類似した生活型を示すオオカナダモなどの外来植物との競合も挙げられる。定期的な調査で個体群の状況を把握する必要がある。

分布	北海道・本州・四国・九州，朝鮮半島・中国・東南アジア
県内分布	日高村，土佐市，四万十町，四万十市
生育環境と特性	淡水の湖沼，河川，水路に生える沈水性の常緑の多年生草本。

絶滅危惧IB EN

EN カワツルモ科
41 **カワツルモ**
Ruppia maritima

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: NT

【生育状況と選定の理由】

生育地点数は5か所であり、出現個体数が極端に変動する。遷移の進行や海岸開発により生育地が消失する可能性がある。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は池沼や湿地の開発、水質汚濁、遷移進行である。生育環境が特殊であり、沿岸域の開発の影響を強く受けるほか、遷移進行による水域の埋没や水質汚濁による減少が危惧される。生育量は年変動が大きく、定期的に個体群の状況を把握する必要がある。

分布	北海道・本州・四国・九州・琉球・小笠原、世界に広く分布する
県内分布	高知市、須崎市
生育環境と特性	河口や海岸近くの汽水域に生育する沈水性の多年生草本。県内の生育地の少なくとも一部では、冬季から初夏に生育し盛夏に衰退する冬型一年生草本的な生活史を示す。

EN キンコウカ科
42 **ネバリノギラン**
Aletris foliata

高知県 RL2010: EN
高知県 RDB2000: EN
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内では香美市の高標高域でのみ確認されており、調査では開花個体が1個体確認された。過去には登山道沿いやササ原で確認されている。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は人の踏みつけおよびニホンジカによる食害が考えられる。生育地は自然公園内にあるため、開発や植生改変などの危険はないが、個体数の多い場所では防鹿柵の設置を検討する必要がある。確認記録が少ないため、調査による生育状況の継続的な把握が必要である。

分布	北海道・本州・四国・九州
県内分布	香美市
生育環境と特性	高標高の山地の草原や登山道横などに生える多年生草本。

EN ヒナノシャクジョウ科
43 **キリシマシャクジョウ**
Burmanna nepalensis

□絵7

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: EX
環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

これまで確認されているのは2市町のそれぞれ1か所のみである。土佐清水市で現存が確認され、佐川町では確認できなかった。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は遷移進行による生育環境の変化、森林伐採、動物による攪乱である。土佐清水市の生育地の一部ではイノシシの掘り返し被害があり、防護柵の設置を検討する必要がある。下層植生の被覆率が高くなりすぎないように、適切な植生管理を行う必要がある。

分布	伊豆七島・四国・九州・琉球、台湾・中国・フィリピン・インドネシア・インド・ネパール
県内分布	佐川町、土佐清水市
生育環境と特性	一年生の菌従属栄養植物で、常緑樹林の植生の少ない林床に生える。

EN ホンゴウソウ科
44 **ホンゴウソウ**
Sciaphila nana

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

県内全域の低山で点々と生育が確認されており、調査では4市町で確認された。開花個体しか確認することができないため正確な個体数は不明。各集団の個体数は多くないが、近年新しい生育地点も見つかっている。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は産地局限、森林伐採、遷移進行による生育環境の悪化である。本種の保全には現在の生育環境を維持することが不可欠である。

【特記事項】

いの町神谷の「神谷のウエマツソウ・ホンゴウソウ自生地」は県指定天然記念物(1962)。

分布	本州・四国・九州・琉球、フィリピン・ベトナム・タイ・マレーシア・スマトラ・ジャワ
県内分布	東洋町、香美市、高知市、いの町、佐川町、四万十町、四万十市、宿毛市
生育環境と特性	多年生の菌従属栄養植物で林床の落葉の間に生える。本県ではモウソウチクなどの竹林内でも確認されている。

EN
45
ホンゴウソウ科
ウエマツソウ
Sciaphila secundiflora

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

県内全域の低山で点々と生育が確認されており、調査では3市町村で確認された。開花個体しか確認することができないため正確な個体数は不明。各集団の個体数は多くないが、近年新しい生育地点も見つかっている。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は産地局限、森林伐採、遷移進行による生育環境の悪化である。本種の保全には現在の生育環境を維持することが不可欠である。

【特記事項】

いの町神谷の「神谷のウエマツソウ・ホンゴウソウ自生地」は県指定天然記念物(1962)。

分布	本州（伊豆諸島・和歌山県以西）・四国・九州・琉球・小笠原諸島、台湾・香港・タイ・ニューギニア・スリランカ
県内分布	安芸市、芸西村、香美市、高知市、いの町、四万十町、土佐清水市；室戸市（1959）、香南市（1909）、大月町（1960）
生育環境と特性	多年生の菌従属栄養植物で林床の落葉の間に生える。本県ではモウソウチクなどの竹林内でも確認されている。

EN
46
ユリ科
アワコバイモ
Fritillaria muraiana

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

県中部で現存を確認した。見つけやすい場所では園芸目的の採取による減少が著しいが、新しい生育地点も確認されている。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は園芸採取、道路の改修、遷移進行による生育環境の変化である。路傍にある生育地では、道路の改修によって消失することも考えられ、管理者への注意喚起が必要である。その際、生育地点情報の漏洩と拡散には十分注意を要する。個体群の状況について定期的に調査を行い、情報を蓄積しておくことが重要である。

分布	四国
県内分布	中部
生育環境と特性	落葉樹林の林床や林縁に早春に生える多年生草本。

EN
47
ユリ科
ササユリ
Lilium japonicum

高知県 RL2010: EN
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内で広く確認されているが消失した地点も多い。調査では5市町村で現存が確認された。連続的減少があるが、推定現存個体数と生育地点数の関係でランクが下がった。各地点で未開花個体は多数あっても、開花個体は少ない。

【危機要因と保護保全対策】

過去には人工林の拡大や人為的管理下にあった林と草地の管理放棄が原因で数が減少した。現在の最大の危機要因は園芸採取で、そのほか遷移進行による生育環境の変化や森林伐採である。開花個体でなくても盗掘されるため、生育地点情報の公開と拡散を防ぐ必要がある。明るい草原を維持するための適切な植生管理を継続する必要がある。

分布	本州（中部地方以西）・四国・九州
県内分布	中部、西部
生育環境と特性	山地の林縁や明るい草原に生える多年生草本。

EN
48
ユリ科
ジョウロウホトギス
Tricyrtis macrantha

□絵8

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

石灰岩の岩崖に生える県固有種で、生育地は局所的で3か所のみである。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は遷移進行による光条件の悪化と着生している石灰岩の崩落、園芸採取である。周囲の植物の成長に伴って被陰されつつあるため、樹木の伐採など植生管理を行う必要がある。園芸的な価値が高いため、盗掘も脅威であり、生育地点情報の公開と拡散を防ぐ必要がある。

分布	四国（高知県）
県内分布	中部
生育環境と特性	山中のやや明るい湿り気のある崖に生える多年生草本。

EN 49	ラン科 ヒナラン <i>Amitostigma gracile</i>		高知県 RL2010: VU 高知県 RDB2000: EN 環境省 RL2020: EN
----------	--	--	---

【生育状況と選定の理由】
 県内では中部に確認されている地点が多く、2000年以降は8市町村で確認されていたが、調査で新たな確認地点もあり、9市町村で現存を確認した。1か所で250個体を超える所はなく、生育環境の変化で減少している所もある。

【危機要因と保護保全対策】
 危機要因は園芸採取、道路工事、遷移進行による光条件の悪化である。道路工事に際しては管理者と情報を共有し、保全対策を講じる必要があるが、採取されるおそれがあるため、生育地点情報が拡散しないよう注意を要する。法律や条例による保護を検討する必要がある。

分布	本州・四国・九州、朝鮮半島・台湾・中国
県内分布	東部、中部、西部
生育環境と特性	明るく湿った崖に生える多年生草本。種子で増殖するほか、地下部に新しい球根をつくり増える。

EN 50	ラン科 ミヤマムギラン <i>Bulbophyllum japonicum</i>		高知県 RL2010: VU 高知県 RDB2000: VU 環境省 RL2020: NT
----------	--	--	---

【生育状況と選定の理由】
 県内では全域で標本が採集されているが、現存が確認できる生育地はほとんどない。手が届かないような樹幹上部や崖の高いところなどにわずかに残っているだけである。

【危機要因と保護保全対策】
 主な危機要因は園芸採取で、そのほかに遷移進行による光条件の悪化、森林伐採などがある。空中湿度が高い環境を好み、良好な森林環境が維持される必要がある。管理者や地権者などと生育情報を共有し、保全対策を講じる必要があるが、採取されるおそれがあるため、生育地点情報が漏洩、拡散しないように特に注意を要する。

分布	本州（静岡県以西）・四国・九州、台湾・中国
県内分布	東部、中部、西部
生育環境と特性	空中湿度が高い林内の樹幹や岩に着生して群生する常緑の多年生草本。種子で繁殖するほか、生育条件が良ければ脇芽で栄養繁殖する。

EN 51	ラン科 キエビネ <i>Calanthe citrina</i>		高知県 RL2010: CR 高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: EN
----------	---	--	---

【生育状況と選定の理由】
 県内では中部から西部にかけて点々と確認されているが、個体数は少ない。同所的にエビネがあると雑種ができやすく、キエビネと区別するのが難しい個体もある。

【危機要因と保護保全対策】
 園芸採取、森林伐採、ニホンジカによる食害が主な危機要因である。森林伐採が避けられない場合には、管理者や地権者などと生育情報を共有し、保全対策を講じる必要がある。一部の生育地では防鹿柵を設置している所もあるが、ほかの場所でも柵の設置を検討する必要がある。見つかりと採取されるおそれがあるため、生育地点情報の漏洩と拡散を防ぐ必要がある。

分布	本州（静岡県以西）・四国・九州、济州島・台湾・中国
県内分布	中部、西部
生育環境と特性	県内では常緑広葉樹林やスギ人工林の林床に生える常緑の多年生草本。新しいバルブにより少しずつ栄養繁殖するほか、環境が良いと種子でも増える。

EN 52	ラン科 マヤラン <i>Cymbidium macrorhizon</i>	□絵 8	高知県 RL2010: EN 高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: VU
----------	--	------	---

【生育状況と選定の理由】
 県内では低標高域で広く標本が採集されている。生育している森林の環境変化がなくても、確認できなくなることがあり、周辺の離れた所で再確認されることもある。開花個体しか確認することができないため正確な個体数は不明である。確認できる個体数は多くない。

【危機要因と保護保全対策】
 主な危機要因は遷移進行による生育環境の変化、森林伐採である。同じ場所に継続的に出現し続けるとは限らないため、個々の個体を保全することは難しいが、共生菌との関係が保たれるよう、生育する森林の環境を保全することが重要である。

分布	本州（関東以西）・四国・九州・琉球、朝鮮半島・台湾・中国～ヒマラヤ
県内分布	東部、中部、西部
生育環境と特性	常緑広葉樹林の林床に生える多年生草本。樹木の根に菌根をつくる菌類を利用する菌従属栄養植物。種子で繁殖するほか、地下茎が分枝して栄養繁殖する。

EN
53

ラン科

キバナノセッコク

Dendrobium catenatum

高知県 RL2010: EN
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: EN

【生育状況と選定の理由】

県東部と中部で点々と標本が採集されている。調査で消失が確認された地点がある一方、新たに確認された生育地もあった。

【危機要因と保護保全対策】

最大の危機要因は園芸採取であり、生育地点情報の漏洩と拡散を防ぐ必要がある。森林伐採も大きな危機要因であるが、森林伐採が避けられない場合には、管理者や地権者などと生育情報を共有し、保全対策を講じる必要がある。現存の生育地では成熟個体もあり、個体数の回復に期待が持てる。

分布

伊豆諸島・四国・九州・琉球, 台湾・中国

県内分布

東部, 中部

生育環境と特性

県内では空中湿度が高い環境で、樹幹や擁壁、建物の瓦屋根などの人工物にも着生する。多年生草本。種子で繁殖するほか、芽が増えて栄養繁殖する。

EN
54

ラン科

タシロラン

Epipogium roseum

□絵 9

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: NT

【生育状況と選定の理由】

県内全域で点々と標本が採集されている。調査では、4市町村で現存が確認された。本種の特長上、年ごとに出現個体数が変動することがある。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は森林伐採、管理放棄と遷移進行による生育環境の変化である。生育地周辺も含めて落葉落枝がたまるような良好な林床環境を保つことが重要であり、そのような森林を維持することが本種の保全に必要である。

分布

本州（関東以西）・四国・九州・琉球, 熱帯アフリカ・熱帯～亜熱帯アジア・オセアニア

県内分布

東部, 中部, 西部

生育環境と特性

落葉落枝の厚く堆積した林床に生える多年生草本。落葉落枝を分解する菌類を利用する菌従属栄養植物。種子で繁殖するほか、地下部の球根で栄養繁殖する。

EN
55

ラン科

カシノキラン

Gastrochilus japonicus

高知県 RL2010: EN
高知県 RDB2000: EN
環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

2000年以降5市町村で標本が採集されており、調査では新たな地点も含め5市町村で確認された。高い木に着生している場合には確認するのが難いため、県全体の分布や個体数などの正確な把握はできていないと考えられる。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は園芸採取、森林伐採である。樹幹に着生するため、着生木を含めた森林環境の保全が重要である。盗掘のおそれがあるため、生育地点情報の公開と拡散を防ぐ必要がある。

分布

本州（千葉県以西）・四国・九州・琉球, 濟州島

県内分布

東部, 中部, 西部

生育環境と特性

県内では空中湿度が高く、明るい樹幹に着生する。多年生草本。種子で繁殖するほか、生育条件が良ければ脇芽で増殖する。

EN
56

ラン科

イヨトンボ

Habenaria iyoensis

高知県 RL2010: EN
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: EN

【生育状況と選定の理由】

最近では6か所しか確認されていない。推定個体数250以下。生育環境の変化で減少傾向にある。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は管理放棄による生育環境の変化、園芸採取、道路工事である。定期的な観察で個体群の状況を把握し、草刈りなどの植生管理を検討する必要がある。生育地点情報の公開と拡散を防ぐ必要がある。

分布

本州（千葉県以西）・四国・九州, 台湾

県内分布

東部, 中部, 西部

生育環境と特性

湿った草地や切土法面などに生える多年生草本。種子で繁殖するほか、地下部に新しい球根をつくり栄養繁殖する。

EN
57

ラン科

ミストンボ

Habenaria sagittifera

□絵9

高知県 RL2010: EN

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

最近では県東部と西部の局所地域でしか確認されていない。推定個体数2,500未満。以前にみられた場所でも生育環境が変化し、確認できなくなった所がある。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は管理放棄や遷移進行による生育環境の変化で、そのほか湿地開発や園芸採取、動物による食害、外来植物との競合などがある。水田周辺の湿地、休耕田に多くみられるため、水田耕作の維持と周辺の植生管理が重要である。

分布	北海道・四国・九州, 中国
県内分布	東部, 中部, 西部
生育環境と特性	日当たりの良い湿地に生える多年生草本。種子で繁殖するほか、地下部に新しい球根をつくり栄養繁殖する。

EN
58

ラン科

ヒメノヤガラ

Hetaeria sikokiana

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

2000年以降4市町村で標本が採集されており、調査では新たな地点も含め4市町村で確認された。確認地点数は増えているが、壮齢のスギ人工林も多いため、伐採により消失するおそれがある。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は森林伐採、人の踏みつけ、遷移進行、産地局限である。森林の発達に伴う土壌中の菌層の変化により、今後も確認事例が増えると推定されるが、自生環境には伐期の人工林も多く、消失する生育地も増える可能性がある。森林環境の保全が必要である。

分布	本州(岩手県以南)・四国・九州, 屋久島, 朝鮮半島(南部)・中国~ヒマラヤ
県内分布	中部, 西部
生育環境と特性	やや湿った林内の林床に生える多年生草本。樹木と共生する菌類に寄生する菌従属栄養植物。種子で繁殖するほか、地下茎が分枝して栄養繁殖する。花は赤茶系と黄色系の2つのタイプがみられる。

EN
59

ラン科

ホクリクムヨウラン

Lecanorchis japonica var. *hokurikuensis*

□絵9

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

2000年以降は4市町村で標本が採集されており、調査では2地域で現存が確認された。推定個体数は250未満である。出現個体数が極端に変動する生育地がある一方、安定的に出現する生育地もある。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は森林伐採、管理放棄と遷移進行による生育環境の変化である。樹木の外生菌根菌と共生関係にあり、森林内の本種と関係のある樹木を健全に保つ必要がある。

分布	本州・四国・九州・琉球
県内分布	中部, 西部
生育環境と特性	県内では林床にまとまって生える多年生草本。樹木の根に菌根をつくる菌類を利用する菌従属栄養植物。種子で繁殖するほか、茎の下の方に新芽を複数つくり増えることもある。

EN
60

ラン科

エンシュウムヨウラン

Lecanorchis suginoana

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: DD

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

中部で数か所が確認されており、調査では1か所で現存を確認した。確認されている生育地が非常に限定的であり、環境変化で急激に減少するおそれがある。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は森林伐採、管理放棄と遷移進行による生育環境の変化である。樹木の外生菌根菌と共生関係にあり、森林内の本種と関係のある樹木を健全に保つ必要がある。

分布	本州(関東・東海地方)・四国・九州, 台湾
県内分布	中部
生育環境と特性	県内では林床に点々と生える多年生草本。樹木の根に菌根をつくる菌類を利用する菌従属栄養植物。種子で繁殖するほか、茎の下の方に新芽を複数つくり増えることもある。

EN
61

ラン科

フガクスズムシソウ

Liparis fujisanensis

高知県 RL2010: EN

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

数か所で現存を確認した。自然公園内でも盗掘されており、採取圧とニホンジカの食害による森林の乾燥化などで生育環境は悪化しており、連続的減少が予測される。

【危機要因と保護保全対策】

園芸採取が最大の危機要因であるが、そのほかに道路工事、ニホンジカの食害による影響などがある。見つかるとうちに盗掘される可能性が高いため、法律や条例による保護も検討する必要がある。シカの生息域では、下層植生の衰退や土壌の流失などで乾燥化が進行し、生育環境が悪化するようならば防鹿柵の設置を検討する必要がある。

分布

北海道・本州・四国・九州

県内分布

中部

生育環境と特性

県内では空中湿度の高い環境で、ブナなどの樹幹に着生する多年生草本。種子で繁殖するほか、新しいバルブをつくり更新し、生育状態が良ければ古いバルブにむかごができて増殖する。

EN
62

ラン科

ヒメフタバラン

Neottia japonica

□絵 10

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: EN

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

2000年以降7市町村で標本が採集されており、調査では3市町村で現存が確認された。個体数が減少している所があった。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は森林伐採、土地造成、道路工事である。人里近い場所に生育地があり、他の植物に被陰されるような環境では減少する。生育地の周辺も含めた良好な森林環境を保全する必要がある。

分布

本州・四国・九州・琉球

県内分布

東部、中部、西部

生育環境と特性

県内では、やや湿った林床に点々と生える多年生草本。種子で繁殖するほか、地下部に新芽をつくり栄養繁殖する。

EN
63

ラン科

ミヤマモジズリ

Neottianthe cucullata

高知県 RL2010: EN

高知県 RDB2000: EN

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

2地域で現存が確認されたが、採取圧が非常に高い。生育環境が保たれて個体数が回復しても、すぐに園芸目的で採取され減少することが多い。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は園芸採取と遷移進行で、そのほかに人の踏みつけ、道路工事がある。盗掘のおそれがあるため、生育地点情報の公開や拡散を防ぐ必要がある。加えて生育地での見回りの強化や法律や条例による保護が求められる。地元の行政や土地地権者、管理者と協力した保護体制の構築が求められる。

分布

北海道・本州（中部以北）・四国、ロシア・朝鮮半島・中国～ヒマラヤ・東ヨーロッパ

県内分布

中部

生育環境と特性

夏期でも涼しく明るく湿り気のある林床や林縁に点々と生える多年生草本。種子で繁殖するほか、地下部に新しい球根をつくり栄養繁殖する。

EN
64

ラン科

ムカデラン

Pelatantheria scolopendrifolia

高知県 RL2010: EN

高知県 RDB2000: EN

環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

4市町村で標本が採集されており、調査では3市町村で現存が確認された。確認されているのは限られた大径木である。

【危機要因と保護保全対策】

園芸採取と森林伐採が主な危機要因で、そのほか遷移進行、管理放棄などがある。着生木は限られているため、枯損で失われる危険がある。着生木のある森林の環境を保全する必要があるが、森林伐採が避けられない場合には、管理者や地権者と生育情報を共有し、連携して保全対策を講じる必要がある。その際、生育地点情報の拡散を防ぐ必要がある。

【特記事項】

安芸市畑山の「畑山のムカデラン自生地」は県指定天然記念物（1962）。

分布

本州（関東以西）・四国・九州、朝鮮半島（南部）・済州島・中国

県内分布

東部、中部

生育環境と特性

県内では明るい樹幹や岩に着生する多年生草本。生育環境が良ければ、1個体が枝分かれして栄養繁殖する。

EN 65	ラン科	高知県 RL2010: EN 高知県 RDB2000: EN 環境省 RL2020: EN
	ムカゴトンボ <i>Peristylus flagellifer</i>	

【生育状況と選定の理由】
2000年以降に7市町村で標本が採集されており、調査では新たな地点も含め4市町村で確認され、2か所で確認できなかった。調査では実生個体のある生育地も確認されている。

【危機要因と保護保全対策】
道路工事、園芸採取、遷移進行による生育環境の変化が主な危機要因である。道路法面に生える場合には草刈りされることもあるため、定期的に個体群の状況を把握し、域外保全についても検討する必要がある。生育地点情報については公開や拡散しないよう普及啓発する必要がある。

分布	本州（千葉県以西）・四国・九州・琉球（徳之島以北）、济州島
県内分布	東部、中部、西部
生育環境と特性	県内では日当たりの良い道路沿いの湿った法面や草地に生える多年生草本。種子で繁殖するほか、地下部に新しい球根をつくり栄養繁殖する。

EN 66	ラン科	高知県 RL2010: CR 高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: VU
	ガンゼキラン <i>Phaius flavus</i>	

【生育状況と選定の理由】
県内の全域で確認されており、調査でも8市町村で現存を確認したが、消失した生育地もあった。スギ人工林内での確認地点も多く、皆伐による個体数の減少も予測される。

【危機要因と保護保全対策】
最大の危機要因は園芸採取で、そのほか森林伐採、道路工事などがある。特に開花期は目立ち、盗掘のおそれがあるため、生育地点情報の拡散を防ぐ必要がある。森林伐採が避けられない場合には、管理者や地権者などと生育情報を共有し、連携して保全対策を講じる必要がある。

分布	本州（伊豆諸島・静岡県・紀伊半島）・四国・九州・琉球、台湾・中国～ヒマラヤ・東南アジア・メラネシア
県内分布	東部、中部、西部
生育環境と特性	常緑樹林やスギ人工林内の林床に生える常緑の多年生草本。種子で繁殖するほか、地下部に新しいバルブをつくり栄養繁殖する。

EN 67	ラン科	高知県 RL2010: CR 高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: -
	ミスチドリ <i>Platanthera hologlottis</i>	

【生育状況と選定の理由】
数か所で現存を確認した。生育地は局所的で、乾燥化により減少している所もあるが、管理により個体数が増加している所もある。

【危機要因と保護保全対策】
危機要因は湿地の開発と乾燥化、イノシシによる掘り返し、ニホンジカによる食害、園芸採取である。生育地の乾燥化に対しては、モニタリング調査を行い、湿地再生のための対策を早急に検討する必要がある。また、動物による被害がある地域では、状況に応じて防護柵の設置を検討する。生育地点情報の公開には注意を要する。

分布	北海道・本州・四国・九州、ロシア（極東）・朝鮮半島・中国
県内分布	中部、西部
生育環境と特性	明るい湿地に生える多年生草本。種子で繁殖するほか、地下部に新芽をつくり栄養繁殖する。

EN 68	ラン科	高知県 RL2010: EN 高知県 RDB2000: EN 環境省 RL2020: -
	マイサギソウ <i>Platanthera mandarinorum</i> subsp. <i>mandarinorum</i> var. <i>macrocentron</i>	

【生育状況と選定の理由】
2000年以降は6市町村で標本が採集されており、調査では2地域で現存を確認した。各地点の個体数は数個体で、確認できなくなった所もある。

【危機要因と保護保全対策】
危機要因は草地開発、管理放棄と遷移進行による生育環境の変化である。生育地の草原環境を維持するために、適切な時期と頻度を考慮しながら草刈りなどの植生管理を行う必要がある。

分布	北海道・本州・四国・九州、朝鮮半島・中国
県内分布	東部、中部、西部
生育環境と特性	明るい草原に点々と生える多年生草本。種子で繁殖するほか、地下部に新芽をつくり増殖することもある。

EN
69

ラン科

ヤマサギソウ

Platanthera mandarinorum subsp. *mandarinorum* var. *oreades*

高知県 RL2010: EN

高知県 RDB2000: EN

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

2000年以降3市町村で標本が採集されているが、全ての地点で10年以上記録がない。未調査であるが、自然公園内では環境が変わっておらず生存している可能性が高い。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は草地開発、管理放棄と遷移進行による生育環境の変化である。生育地の草原環境を維持するために、適切な時期と頻度を考慮しながら草刈りなどの植生管理を行う必要がある。

分布	北海道・本州・四国・九州
県内分布	中部
生育環境と特性	明るい草原に点々と生える多年生草本。種子で繁殖するほか、地下部に新芽をつくり増殖することもある。

EN
70

ラン科

ヤマトキシソウ

Pogonia minor

高知県 RL2010: EN

高知県 RDB2000: EN

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

2000年以降は5市町村で標本が採集されており、調査では2地域で現存を確認した。各地点の個体数は数～50未満で、確認できなくなった所もある。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は草地開発、管理放棄と遷移進行による生育環境の変化である。生育地の草原環境を維持するために、適切な時期と頻度を考慮しながら草刈りなどの管理を継続する必要がある。10月下旬頃に種子を散布して地上部が枯れるため、草刈りを行う場合は11月から3月に行う。ニホンジカによる食害がある生育地では、乾燥化による個体の衰退がみられるため、生育地を広く囲む防鹿柵の設置を検討する必要がある。

分布	北海道・本州・四国・九州、朝鮮半島・台湾・中国
県内分布	東部、中部、西部
生育環境と特性	日当たりの良い湿った草地に生える多年生草本。種子で繁殖するほか、地下部に新芽をつくり増殖することもある。

EN
71

ラン科

ウチョウラン

Ponerorchis graminifolia

高知県 RL2010: EN

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

2000年以降は5地点で標本が採集されており、調査では7地点で現存を確認した。各地点の個体数はわずかで、2015年以前の確認地で確認できなくなった地点もある。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は園芸採取と遷移進行による生育環境の変化で、そのほかに道路工事、ニホンジカによる食害の影響などがある。盗掘される危険性が極めて高いため、生育地点情報の拡散を防ぐ必要がある。被陰されている場所では、原因となっている植物を除去するなど、周辺環境の保全も検討する必要がある。

分布	本州・四国・九州、朝鮮半島
県内分布	東部、中部
生育環境と特性	県内では明るい岩場などでイネ科やスゲ科植物などと一緒に生える多年生草本。種子で繁殖するほか、地下部に新しい球根をつくり増殖することもある。

EN
72

ラン科

カゲロウラン

Zeuxine agyokuana

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: NT

【生育状況と選定の理由】

2000年以降は4市町村で標本が採集されており、調査では2地域で現存を確認した。各地点の開花個体数は数～50未満であるが、周辺には未開花個体がそれよりも多く生育する。2016年以前に採集記録のある地点で確認できなくなった所もある。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は遷移進行や管理放棄による生育環境の変化および森林伐採である。林床が暗くなりすぎないように管理が必要である。空中湿度の低下により悪影響を受けるため、周辺も含めて生育地の空中湿度や土壌水分が保てるよう有機物を堆積させるなど、良好な生育環境を維持する必要がある。

分布	本州(関東地方以西)・四国・九州・琉球、中国・ヒマラヤ
県内分布	東部、中部、西部
生育環境と特性	常緑広葉樹林の林縁や林内に生える多年生草本。種子で繁殖するほかに、地下茎が分枝し、先端に新芽をつくり増殖する。

EN キンバイザサ科
73 **コキンバイザサ**
Hypoxis aurea

高知県 RL2010: EN
高知県 RDB2000: EN
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

香美市、高知市、津野町で現存が確認された。生育地が限られており、個体数も少ない。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は管理放棄と遷移進行による生育環境の変化である。また、管理の強さや頻度などが個体数の増減に影響している。生育地の多くが人為的な管理の行われている林縁や草原であり、定期的に個体群の状況を把握し、適切な植生管理を検討する必要がある。

分布	本州（宮城県以南）・四国・九州・琉球，台湾・中国・東南アジア・ネパール・インド・マレーシア・インドネシア・フィリピン・パプアニューギニア
県内分布	奈半利町，香美市，高知市，仁淀川町，津野町，梶原町，土佐市，中土佐町，四万十町；越知町（1889），土佐市（1913），宿毛市（1915）
生育環境と特性	丘陵地から山地にかけての明るい草原や林縁といった二次的な環境に生える多年生草本。地下に塊茎をもつ。

EN ワスレグサ科
74 **ユウスゲ**
Hemerocallis citrina var. vespertina

□絵 11

高知県 RL2010: EN
高知県 RDB2000: -
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

香美市と高知市で現存が確認された。生育地は蛇紋岩地とその周辺部で、個体数も少なく、連続的な減少が予測される。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は土地造成，管理放棄と遷移進行による生育環境の変化である。草原生の植物であり，生育地の植生管理が必要である。県内では生育地が非常に限られているうえに，高知市の生育地は公共工事による大規模な改変が予定され，消失するおそれがある。生育状況を正確に把握し，工事の影響を緩和する措置を講じる必要がある。

分布	本州・四国・九州
県内分布	香美市，高知市
生育環境と特性	県内では蛇紋岩地や周辺部の草地に生える多年生草本。

EN ヒガンバナ科
75 **ヒメニラ**
Allium monanthum

□絵 11

高知県 RL2010: EN
高知県 RDB2000: EX
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

1か所しか知られていなかったが，調査で新たな生育地が確認された。未開花個体は多数あっても開花個体はほとんどない。個体が密生すると開花せず，本種と確認するのが難しいことがある。推定個体数は1,000未満で，連続的な減少が推測される。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は森林伐採，管理放棄と遷移進行による生育環境の変化である。やや明るい立地を好むため，被陰されている場所では，植生管理などの保全対策を講じる必要がある。森林伐採が避けられない場合には，管理者や地権者などと生育情報を共有し，連携して保全対策を講じる必要がある。

分布	北海道・本州・四国・九州，ロシア（極東）・朝鮮半島・中国
県内分布	梶原町，仁淀川町，津野町
生育環境と特性	やや湿った林床や林縁にまとまって生える多年生草本。種子で繁殖するほかに，地下の球根が分球して増殖する。

EN クサスギカズラ科
76 **カンザシギボウシ**
Hosta capitata

高知県 RL2010: VU
高知県 RDB2000: -
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内での分布は中，西部に偏っており，5か所ほどの生育地が点在している。規模の大きい生育地は近年になって人による踏み荒らしが目立ち，園芸目的の盗掘も確認されている。

【危機要因と保護保全対策】

数少ない生育地はそれぞれ危機要因が異なっている。川沿いの生育地では増水や土砂崩れが，林縁の生育地では人為的な刈払いや園芸採取が危機要因となっている。加えて，周辺の樹木からの被陰を受けている。定期的に個体群の状況を把握し，対策を講じる必要がある。

分布	本州（中国地方）・四国・九州，朝鮮半島
県内分布	中部，西部
生育環境と特性	県内では主に石灰岩地の明るい林床や林縁，川沿いの岩上に生える多年生草本。

EN 77 **クサスギカズラ科**
ミドリヨウラク
Polygonatum inflatum

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

減少傾向は明らかでないが、生育地が極めて少数の地域に限定されており、確認個体数も 100 未満と少ない。

【危機要因と保護保全対策】

生育個体数が極めて少ないため、小規模の森林伐採や草地の開発などによっても絶滅する危険性がある。また、遷移進行によって密度の高い低木などに覆われて減少する可能性もある。特に直近の確認生育地は牧草地に隣接しているため、人為的攪乱が生育地に及ばないように隣接地の土地地権者に注意を喚起する必要がある。

分布	本州（広島県）・四国・九州，朝鮮半島・中国
県内分布	梶原町
生育環境と特性	山地の林床や草原に生える多年生草本。

EN 78 **クサスギカズラ科**
ミヤマナルコユリ
Polygonatum lasianthum

高知県 RL2010: EN
高知県 RDB2000: EN
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

香美市および津野町と仁淀川町の境の 2 か所で現存が確認された。仁淀川町の鳥形山は未調査である。生育地が石灰岩地帯に限られており、個体数も少ない。香美市ではニホンジカの食害による個体の矮化，個体数の減少が著しい。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因はニホンジカの食害による影響である。分布域では点在して生えるため、シカの食害に対しては、防鹿柵などの局所的な保護措置は困難である。生育地を含めた広範囲にわたるシカの頭数管理が必要である。

分布	北海道・本州・四国・九州
県内分布	香美市，仁淀川町，津野町
生育環境と特性	推移帯から冷温帯にかけての石灰岩地の林床に生える多年生草本。

EN 79 **ガマ科**
ヤマトミクリ
Sparganium fallax

口絵 12

高知県 RL2010: DD
高知県 RDB2000: -
環境省 RL2020: NT

【生育状況と選定の理由】

県内で生育が確認されているのは、非常に狭い限られた範囲のみである。生育地周囲の環境の悪化が著しく、弱々しい個体が多い。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は湿地開発，管理放棄と遷移進行による生育環境の悪化である。生育地に隣接する神社への進入路の建設の影響などにより，谷からの流入水量が減少しており，乾燥化が進むおそれがある。水量を確保する方策を検討するとともに，良好な生育環境を維持するために，湿地内に侵入してきたメダケの駆除や樹木の枝打ちなどの植生管理が必要である。

分布	本州（関東以西）・四国・九州，ミャンマー・インドの温帯～暖帯
県内分布	三原村
生育環境と特性	県内では林内の水位の浅い池に生える抽水性の多年生草本。

EN 80 **ホシクサ科**
イトイヌヒゲ
Eriocaulon decemflorum

高知県 RL2010: EN
高知県 RDB2000: DD
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

調査では高知市，三原村で現存が確認されたが，日高村，佐川町，四万十町については未調査である。生育地点，個体数が少なく連続的減少が確認されている。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は管理放棄と遷移進行による生育環境の悪化，外来植物との競合，過剰な草刈りである。人為的な管理が行われている環境で生育しており，生育環境を維持するための植生管理を検討する必要がある。

分布	北海道・本州・四国・九州，朝鮮半島・中国
県内分布	高知市，佐川町，四万十町，三原村；日高村（年不明 1955 年以前）
生育環境と特性	浸出水のある山腹湿地，水田の畔，休耕田などに生える一年生草本。

EN 81	ホシクサ科 イヌノヒゲ <i>Eriocaulon miquelianum</i>		高知県 RL2010: EN 高知県 RDB2000: EN 環境省 RL2020: -
----------	--	--	--

【生育状況と選定の理由】
2000年以降3市町村で採集記録があるが、現存は四万十町、三原村のみである。安芸市はため池改修工事で消滅した。個体数は減少傾向にある。ここではシロイヌノヒゲ *E. sikokianum* を含むこととした。

【危機要因と保護保全対策】
土地改変、水質汚濁、管理放棄による生育環境の変化が危機要因である。土地の改変や水質の悪化には脆弱であるため、定期的に個体群の状況を把握する必要がある。

分布	北海道・本州・四国・九州，朝鮮半島・中国
県内分布	安芸市，高知市，四万十町，三原村；佐川町（1887）
生育環境と特性	貧栄養の湿地に生える一年生草本。休耕田であっても自然環境の良好な攪乱されていない湿地に生育する。イヌノヒゲの頭花の毛は脱落しやすく、正確な同定のためには、開花中の新鮮な個体の花を分解する必要がある。

EN 82	ホシクサ科 ゴマシオホシクサ <i>Eriocaulon nepalense</i>		高知県 RL2010: CR 高知県 RDB2000: DD 環境省 RL2020: EN
----------	---	--	---

【生育状況と選定の理由】
土佐清水市と三原村の3地点で現存が確認された。生育地点が限定されており、不安定な環境である。125年ほど前に佐川町でも採集記録がある。

【危機要因と保護保全対策】
危機要因は草地開発、道路工事、管理放棄と遷移進行による生育環境の変化である。定期的に個体群の状況を把握するほか、種子採取・保存など域外保全を検討する必要がある。

分布	本州（静岡県・三重県）・四国・九州，中国・ヒマラヤ
県内分布	土佐清水市，三原村；佐川町（1894）
生育環境と特性	県内では水の滲み出る農地や未舗装路に生える一年生草本。

EN 83	イグサ科 イトイ <i>Juncus maximowiczii</i>		高知県 RL2010: CR 高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: -
----------	--	--	--

【生育状況と選定の理由】
採集記録があるのはいの町の1か所で、調査でも現存が確認された。個体数は少ない。生育地は自然公園の特別地域にあり、最近10年程度は個体数の変動はないと推測される。

【危機要因と保護保全対策】
危機要因は産地局限、遷移進行である。生育地周辺の植生の変化が及ぼす影響を把握するため、定期的な個体群の調査が必要である。

分布	本州（中部）・四国，朝鮮半島・台湾・中国
県内分布	いの町
生育環境と特性	冷温帯の北向きやや湿った岩壁に生える多年生草本。隔離分布と推測される。

EN 84	イグサ科 ハリコウガイゼキショウ <i>Juncus wallichianus</i>		高知県 RL2010: VU 高知県 RDB2000: - 環境省 RL2020: -
----------	--	--	---

【生育状況と選定の理由】
調査で高知市、三原村で現存が確認された。東洋町、田野町、佐川町は未調査である。生育地点数、個体数が少なく、連続的な減少が確認されている。

【危機要因と保護保全対策】
危機要因は湿地開発、管理放棄と遷移進行による生育環境の変化である。多くの生育地は規模が小さい低地の湿地であり、生育環境を維持するための管理が必要である。

分布	北海道・本州・四国・九州・琉球，ロシア（極東）・朝鮮半島・台湾・中国・ヒマラヤ
県内分布	東洋町，田野町，高知市，佐川町，三原村
生育環境と特性	山腹から低地にかけての湿地，池沼，休耕田に生える多年生草本。

EN
85
カヤツリグサ科
イトテンツキ
Bulbostylis densa var. *capitata*

高知県 RL2010: EN
高知県 RDB2000: EN
環境省 RL2020: NT

【生育状況と選定の理由】

調査で高知市、土佐清水市で現存が確認された。四万十町、三原村は未調査である。生育地が少ないことに加え、開放的な草地という環境が変化する危険性が高く、連続的な減少が予測される。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は草地開発、管理放棄と遷移進行による生育環境の変化である。定期的に個体群の状況を把握し、草地環境を維持するための植生管理などの対策を講じる必要がある。

【特記事項】

多くの生育地で基準変種のイトハナビテンツキと混生し、時に中間型がみられる。

分布	本州（福島県以西）・四国・九州・琉球、朝鮮半島（南部）・台湾・中国・インドシナ・インド
県内分布	高知市、土佐清水市、四万十町；三原村（1967）
生育環境と特性	低山から低地にかけての明るい草地に生える一年生草本。

EN
86
カヤツリグサ科
ワンドスゲ
Carex argyi

口絵 12

高知県 RL2010: -
高知県 RDB2000: -
環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

調査で日高村の日下川下流域の河岸で確認された。河川改修などにより連続的な減少が予測される。

【危機要因と保護保全対策】

河川改修工事が主な危機要因である。生育地のうちの1か所では橋の架け替え工事が行われており、適切な方法で保全する必要がある。他の生育地についても保護・維持していくための方法を関係者間で検討する必要がある。

【特記事項】

高知県植物誌ではシオクグ類似種とされていたもの。本種の国内での分布としては大阪府、熊本県に加え、3か所目となる（すげの会 2018）。

分布	本州・四国・九州、中国
県内分布	日高村
生育環境と特性	河川の流水辺、堤防法面、隣接する果樹園など多様な環境に生育する。古い株は密に叢生し、新たな株の根茎は横に長く這いまばらに生える。陸域に生えるものは地下茎を伸ばして、分布域を拡大している。県内の個体は種子ができず、雑種の可能性がある。

EN
87
カヤツリグサ科
コイワカンスゲ
Carex chrysolepis

高知県 RL2010: EN
高知県 RDB2000: -
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内ではいの町の標高 600m から 1700m の間で標本が採集されているが、未調査である。極端な減少はないと推測されるが、確認されている範囲と環境が限られている。

【危機要因と保護保全対策】

確認されているのは自然公園内であるため、現在のところ特に危機となる要因はないと考えられる。ニホンジカの生息域が拡大しつつある地域であるため、食害の影響については定期的に調査を行う必要がある。

分布	四国・九州
県内分布	いの町
生育環境と特性	県内では高標高域の林内の岩上などに生える多年生草本。

EN
88
カヤツリグサ科
ワタリスゲ
Carex conicoides

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

梶原町、津野町で現存が確認された。確認されている生育地点や個体数が少なく連続的減少が予測される。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は遷移進行による生育環境の変化である。遷移の進行による影響を把握するため、定期的に個体群の状況を把握し、対策を講じる必要がある。

分布	四国・九州
県内分布	梶原町、津野町
生育環境と特性	山地の疎林内や林縁に生える多年生草本。

EN 89	カヤツリグサ科 ヒメジュズスゲ <i>Carex filipes</i> var. <i>tremula</i>	高知県 RL2010: EN 高知県 RDB2000: EN 環境省 RL2020: -
----------	---	--

【生育状況と選定の理由】
 生育地が推移帯以上の山地の林床に限られており、個体数も少ない。東部地域ではニホンジカの食害により、連続した減少が予測される。

【危機要因と保護保全対策】
 危機要因は産地局限とニホンジカによる食害である。シカ食害に対しては生育地を含めた広範囲でのシカの頭数管理が求められる。

【特記事項】
 基準変種タマツリスゲとの形態的な変異が連続し、明確に区別ができないため、採集されていない可能性がある。

分布	四国・九州
県内分布	仁淀川町, 四万十町
生育環境と特性	本県ではブナ林の林床に生える多年生草本。

EN 90	カヤツリグサ科 オクノカンスゲ <i>Carex foliosissima</i> var. <i>foliosissima</i>	高知県 RL2010: VU 高知県 RDB2000: VU 環境省 RL2020: -
----------	---	--

【生育状況と選定の理由】
 冷涼な多雪地に生育し、調査では、いの町本川の1か所でのみ現存が確認された。確認地点はニホンジカの生息域にある。

【危機要因と保護保全対策】
 危機要因はニホンジカによる食害である。生育地は高標高域の自然林の中にあり、人為的な影響は少ないが、シカの生息域が拡大しつつある。シカの食害は急速に進むため、定期的に調査を行って、食害の影響が大きくなる前に防鹿柵の設置などの保護対策を講じる必要がある。

分布	北海道・本州・四国・九州, ロシア(極東)
県内分布	いの町
生育環境と特性	溪畔の林床などに生える多年生草本で、匍枝を伸ばして群生する。県内では、高標高域で確認されている。

EN 91	カヤツリグサ科 タイワンスゲ <i>Carex formosensis</i>	高知県 RL2010: VU 高知県 RDB2000: - 環境省 RL2020: VU
----------	--	--

【生育状況と選定の理由】
 採集記録のあった3市町に加え、新たに高知市で現存が確認された。確認されている生育地点や個体数が少なく、連続的な減少が予測される。

【危機要因と保護保全対策】
 主な危機要因は道路工事、遷移進行による生育環境の変化である。定期的に個体群の状況を把握し、植生管理などの対策を講じる必要がある。

分布	本州・四国・九州, 台湾
県内分布	高知市, 須崎市, 宿毛市, 大月町
生育環境と特性	やや乾いた明るい林内や林縁, 路傍に生える多年生草本。

EN 92	カヤツリグサ科 クロヒナスゲ <i>Carex gifuensis</i>	高知県 RL2010: VU 高知県 RDB2000: - 環境省 RL2020: -
----------	--	---

【生育状況と選定の理由】
 宿毛市篠山で確認されていたほか、2016年に大豊町杖立山で新しい生育地が確認された。両地点ともニホンジカの生息域で、1か所は防鹿柵が設置されているが、1か所は減少のおそれがある。

【危機要因と保護保全対策】
 危機要因は森林伐採、ニホンジカによる食害、土地の造成である。風力発電施設に隣接するため、土地の造成による影響が懸念され、管理者と情報を共有して対応する必要がある。シカの食害対策のために、状況に応じて防鹿柵の設置が必要である。

分布	本州・四国・九州
県内分布	大豊町, 宿毛市
生育環境と特性	山地の林内に群生する多年生草本。

EN 93	カヤツリグサ科	高知県 RL2010: DD
	ホシナシゴウソ <i>Carex maximowiczii</i> var. <i>levisaccus</i>	高知県 RDB2000: - 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

採集記録のある3市町村で現存が確認された。確認されている生育地点や個体数が少なく、生育環境から連続的な減少が予測される。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は管理放棄、遷移進行による生育環境の変化である。既知の生育地では定期的に個体群の状況を把握するほか、同様の環境において調査を継続していく必要がある。

【特記事項】

基準変種ゴウソとの区別が難しく、見逃されている可能性がある。

分布	北海道・本州・四国・九州・南西諸島
県内分布	高知市、梶原町、三原村
生育環境と特性	低地から山地にかけての湿地に生える多年生草本。

EN 94	カヤツリグサ科	高知県 RL2010: EN
	キシウナキリスゲ <i>Carex nachiana</i>	高知県 RDB2000: EN 環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

東部と西部で過去に標本が採集されている。県西部の生育地は社寺林内にあるが、林内環境の変化などにより生育面積が縮小している。

【危機要因と保護保全対策】

確認された生育地の多くは、常緑広葉樹林の林縁や、過去に草刈りなどの低密度管理が行われた適潤な林床である。樹林伐採以外に、遷移進行による林内照度の低下が原因で消失するおそれもある。道路建設によって生育地が分断された場所ではコゴメスゲやナキリスゲなどの近縁種が侵入し、生育地がさらに縮小する可能性が高い。生育地の継続的なモニタリング調査を行って個体群の状況を把握し、植生管理などを講じる必要がある。

分布	本州（静岡県以西）・四国・九州・屋久島、中国
県内分布	東洋町、田野町、四万十町、黒潮町、四万十市、宿毛市
生育環境と特性	林床の明るさが適度に保たれた人為的攪乱が少ない常緑樹林下に生える多年生草本。

EN 95	カヤツリグサ科	高知県 RL2010: EN
	ジングウスゲ <i>Carex sacrosancta</i>	高知県 RDB2000: EN 環境省 RL2020: NT

【生育状況と選定の理由】

県内では馬路村、越知町のほか、西部の低山地で点々と確認されており、2市町3地域で現存を確認した。各地点での確認個体数は少ない。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は遷移進行による生育環境の変化である。明るい林内や林縁に生育しており、他の植物による被陰で衰退する可能性があるため、適切な植生管理などを検討する必要がある。西部地域に点在しているため、全体の状況が把握できていないと考えられ、今後探査が必要な種類である。

分布	本州（伊豆諸島・伊豆半島・東海地方以西）・四国・九州、台湾
県内分布	馬路村、越知町、四万十町、黒潮町、四万十市
生育環境と特性	県内ではやや明るい林内や林縁の道路際や作業道脇などに生える多年生草本。

EN 96	カヤツリグサ科	高知県 RL2010: EN
	センダイスゲ <i>Carex sendaica</i>	高知県 RDB2000: EN 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

採集記録のある津野町で現存が確認された。現在のところ生育地は1地域にしかなく、連続的な減少が予測される。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は管理放棄と遷移進行による生育環境の変化である。二次草地に生育する個体群については、草刈りなどの管理作業の継続が望まれる。また、定期的に個体群の状況を観察し、必要に応じて対策を検討する必要がある。

分布	本州（岩手県以南）・四国・九州・南西諸島、台湾・中国・東南アジア
県内分布	津野町
生育環境と特性	山地の草地に生える多年生草本。県内の生育地は石灰岩地帯の草地。

絶滅危惧IB EN

EN 97	カヤツリグサ科	高知県 RL2010: VU
	セイタカハリイ <i>Eleocharis attenuata</i>	高知県 RDB2000: NT 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

2000年以降採集記録があるのは四万十町と四万十市で、調査では土佐町で新たに確認された。四万十市の1地点では現存が確認され、四万十町の1地点では確認できなかった。土佐町のため池以外の生育地はいずれも四万十川流域の河畔である。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は河川や湿地の開発、管理放棄による生育環境の変化、外来植物との競合である。定期的に個体群の状況を把握する必要がある。

分布	本州・四国・九州・琉球, 朝鮮半島(南部)・中国
県内分布	土佐町, 四万十町, 四万十市
生育環境と特性	ため池畔や川岸の湿地に生える多年生草本。ハリイに似るが、有花茎は高さ20~50cmと高く、小穂がやや大きくて基部近くが最も幅広く、柱基の幅が広く、刺状花被片の長さが瘦果とほぼ同長であることで区別されるが、混同されることも多い。

EN 98	カヤツリグサ科	□絵 13	高知県 RL2010: EN
	ノテンツキ <i>Fimbristylis complanata</i>		高知県 RDB2000: EN 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

調査では、高知市、香美市で現存が確認された。生育地が少なく、それぞれの生育地の個体数も少ない。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は管理放棄と遷移進行による生育環境の変化、過剰な草刈りである。人為的な管理で維持されている草地については、継続して適切に管理されることが望ましい。管理が適切に行われているか、定期的に個体群の状況を把握しておくことも必要である。

分布	本州・四国・九州, 朝鮮半島(南部)・台湾
県内分布	高知市, 香美市; 安芸市(1892), 佐川町(1889), 四万十町(1974)
生育環境と特性	平地から山地にかけてのやや湿った草地に生える多年生草本。いくつかの生育地は蛇紋岩地である。

EN 99	カヤツリグサ科	高知県 RL2010: CR
	コイヌノハナヒゲ <i>Rhynchospora fujiana</i>	高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

2000年以降、四万十町と三原村で採集記録があり、それぞれ1地点で現存が確認された。生育地の環境から、連続的減少が予測される。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は管理放棄と遷移進行による生育環境の変化である。四万十町では毎年草刈りや野焼きが行われて草原状態が保たれ、10年ほどで現在のような群生がみられるようになった。管理が放棄されると元のネザサ群落に戻る可能性があるため、継続した植生管理が必要である。

分布	本州・四国・九州, 朝鮮半島(南部)
県内分布	四万十町, 三原村; 高知市(1956)
生育環境と特性	県内では貧栄養な湿地や湧水地に生える多年生草本で、生育地では群生する。

EN 100	カヤツリグサ科	高知県 RL2010: VU
	ヒメカンガレイ <i>Schoenoplectiella mucronata</i> var. <i>mucronata</i>	高知県 RDB2000: - 環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

調査では高知市と三原村で現存が確認され、土佐清水市では確認されなかった。過去に標本が採集されている安田町の生育地は造成されて果樹園となり消失した。生育地が少なく個体数も少ないことに加え、管理放棄などにより生育環境が変化し個体数が減少している生育地がある。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は管理放棄と遷移進行による生育環境の変化、湿地開発である。定期的に個体群の状況を把握し、池や湿地の管理方法を検討する必要がある。

分布	本州(近畿地方以西)・四国・九州
県内分布	安田町, 高知市, 土佐清水市, 三原村
生育環境と特性	低地の池や河川の流水辺, 湿地に生える多年生草本。

絶滅危惧IB EN

EN 101	カヤツリグサ科	高知県 RL2010: EN 高知県 RDB2000: - 環境省 RL2020: -
	タイワンヤマイ <i>Schoenoplectiella wallichii</i>	

【生育状況と選定の理由】

調査では三原村の1地点で新たに確認された。確認されている生育地点が少ない。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は農薬汚染と管理放棄による生育環境の変化である。個体群の維持のためには、これまでどおりの管理方法で耕作が継続されることが必須であるため、確実な保全のためには域外保全の方法を検討する必要がある。

分布	本州・四国・九州，朝鮮半島（南部）・台湾・中国・インド
県内分布	高知市，日高村，四万十町，四万十市，三原村
生育環境と特性	県内では耕作後の水田や休耕地，放棄水田などに生える多年生草本。

EN 102	カヤツリグサ科	□絵 14	高知県 RL2010: EN 高知県 RDB2000: NT 環境省 RL2020: -
	マツカサススキ <i>Scirpus mitsukurianus</i>		

【生育状況と選定の理由】

調査では日高村と四万十市で現存が確認された。生育地，個体数が少なく，湿地の乾燥化と遷移により消失した生育地がある。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は管理放棄と遷移進行による生育環境の変化である。定期的に個体群の状況を把握し，池や湿地の適切な管理について検討する必要がある。

分布	本州・四国・九州
県内分布	日高村，四万十市；安芸市（1955）
生育環境と特性	平地の湿地に生える多年生草本。

EN 103	イネ科	高知県 RL2010: VU 高知県 RDB2000: VU 環境省 RL2020: -
	コウボウ <i>Anthoxanthum nitens var. sachalinense</i>	

【生育状況と選定の理由】

調査では高知市で現存が確認され，本山町，梶原町は未調査である。生育地，個体数が少なく連続的減少が確認されている。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は管理放棄と遷移進行による生育環境の変化である。定期的に個体群の状況を把握し，草刈りなどの適切な管理を検討する必要がある。

分布	北海道・本州・四国・九州，ロシア（極東）・東アジア
県内分布	高知市，本山町，梶原町
生育環境と特性	山地の草原や林縁の草地に生える多年生草本。

EN 104	イネ科	□絵 14	高知県 RL2010: DD 高知県 RDB2000: DD 環境省 RL2020: VU
	ミスタカモジグサ <i>Elymus humidus</i>		

【生育状況と選定の理由】

文献情報のみであったが，2010年以降に佐川町で発見された。土地改良事業とともに減少したと考えられ，現存は近隣の2地域に限定されている。現存個体数は多く，1地域では素掘りの水路に約200mにわたって群生している。土地改良事業が行われていない，素掘りの水路があるような水田地帯に残存している可能性がある。

【危機要因と保護保全対策】

土地改良事業，管理放棄，除草剤の使用が危機要因である。生育地についてはこれまでどおりの継続的な草刈りなどの管理が必要である。土地改良事業が実施されれば消失する可能性が極めて高く，生育環境が残されるよう，管理者や地権者などとの生育情報の共有と協議が必要である。

分布	本州・四国・九州
県内分布	佐川町
生育環境と特性	県内では素掘りの水路沿いや水路内，その近くの畔などに生える多年生草本で，田植え前に開花する。結実後に葉が枯れるとともに茎は倒伏する。10月頃に倒伏した各節から新苗を出し，葉を展開し，越冬する。

EN
105

イネ科

イワタケソウ

Hystrix duthiei subsp. *japonica*

高知県 RL2010: EN

高知県 RDB2000: EN

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内での生育地は仁淀川町の2か所のみで、個体数も少ない。

【危機要因と保護保全対策】

生育地は県立自然公園内と町の森林公園内で人の出入りが多いが、現在のところ特に危機となる要因はないと考えられる。今後、状況の変化があった場合には、改めて対策を講じる必要がある。

分布	本州（中部地方以西）・四国・九州
県内分布	仁淀川町
生育環境と特性	県内の生育地はいずれも石灰岩地の落葉広葉樹林内。群生せず、林内に点在する。多年生草本。

EN
106

イネ科

チシマカニツリ

Trisetum sibiricum

高知県 RL2010: EN

高知県 RDB2000: EN

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

調査では香美市、仁淀川町で現存が確認された。大豊町については未調査である。個体数が少なく、剣山山系ではニホンジカの食害により連続的な減少が観察されている。

【危機要因と保護保全対策】

ニホンジカによる食害と遷移進行による生育環境の変化が危機要因である。生育地を含めた広範囲でのシカの頭数管理が必要である。

分布	北海道・本州・四国・九州，ロシア・東アジア・東ヨーロッパ・アラスカ
県内分布	香美市，大豊町，仁淀川町
生育環境と特性	冷温帯の尾根筋のササ草原や林縁に生える。多年生草本。

EN
107

メギ科

オオバメギ

Berberis tschonoskyana

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: VU

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

いの町と香美市で現存を確認したが、個体数は各地点数個体であった。大豊町の生育地は徳島県との県境にあり、ニホンジカの食害で枯死した個体を確認されている。

【危機要因と保護保全対策】

遷移進行による生育環境の変化とニホンジカによる食害が危機要因である。シカ食害で影響を受けている生育地では防鹿柵の設置を急ぐとともに、採集記録のある地域で再調査が必要である。

分布	本州（関東地方以西）・四国・九州
県内分布	香美市，大豊町，いの町
生育環境と特性	高標高の林縁や林内に生える落葉低木。

EN
108

メギ科

サイコクイカリソウ

Epimedium diphyllum subsp. *kitamuranum*

高知県 RL2010: EN

高知県 RDB2000: EN

環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

県内での分布は限定的で、香美市の1地域にのみ生育する。管理・保護されている地点では現状が維持されているが、個体数は1,000未満でバイカイカリソウ、ヒメイカリソウが混生する。近縁種と混生する地点では、群落内で形態が連続的に変異し、本種の実態が十分に把握できていない。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は管理放棄と遷移進行による生育環境の変化、土地造成である。遷移が進むと被陰の影響を受けて個体群が縮小または消滅することから、継続的な植生管理の対策を講じる必要がある。

【特記事項】

「油石地区希少植物群（サイコクイカリソウ）」は香美市指定天然記念物（2014）。

分布	本州，四国
県内分布	香美市
生育環境と特性	蛇紋岩地とその周辺の暖温帯林の林縁や林内に生える多年生草本。

EN キンボウゲ科
109 **サンヨウブシ**
Aconitum sanyoense

□絵 14

高知県 RL2010: VU
高知県 RDB2000: VU
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

確認地点は大豊町内に限定的に分布している。個体数は全体で1,000未満と推定される。ニホンジカの食害などによる生育環境の悪化に伴って個体の連続的な減少が危惧されるが、2013年に県森林環境税で防鹿柵が設置され、保護されている地点がある。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は遷移進行による生育環境の変化、森林伐採、ニホンジカによる食害である。防鹿柵が設置されている地点の柵内とその周辺では個体数が安定して維持されている。柵の維持補修とモニタリング調査を継続し、状況によっては柵の拡張など、別途対策を講じる必要がある。

分布	本州・四国
県内分布	大豊町
生育環境と特性	常緑樹林縁や林内のやや明るいところに生える多年生草本。

EN キンボウゲ科
110 **ヤマハンショウヅル**
Clematis crassifolia

□絵 15

高知県 RL2010: -
高知県 RDB2000: -
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

2010年に宿毛市で最初の標本が採集されたあと、三原村、中土佐町でも生育地が確認された。成熟個体はヒノキ人工林での確認が多く、個体数は多くない。宿毛市の生育地では2013年に県森林環境税で防鹿柵が設置された。親木の近くで作業道開設などによって裸地ができると、一時的に実生が大量に発生するが、遷移に伴い減少、消失する。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は遷移進行による生育環境の変化、森林伐採、産地局限、ニホンジカによる食害である。人工林内で行われる「つる切り」で切られないよう、つる部分の形態的特徴について注意啓発する必要がある。

【特記事項】分布東限の生育地がある。

分布	四国・九州, 台湾・中国
県内分布	中土佐町, 三原村, 宿毛市
生育環境と特性	県内ではヒノキ人工林や常緑樹林の林縁や林内に生え、樹冠まで達して覆う木性のつる植物。葉柄がねじれて樹皮などに絡んでのぼる。つるはコルク質の広い翼を持ち、他のつる植物と区別できる。花期は12月から1月で、樹冠に密生して咲く白い花は遠くからでも視認できる。

EN キンボウゲ科
111 **シコクハンショウヅル**
Clematis obvallata var. *sikokiana*

□絵 15

高知県 RL2010: EN
高知県 RDB2000: EN
環境省 RL2020: EN

【生育状況と選定の理由】

2000年以降採集記録があるのは4市町村で、調査では新しい確認地点を含め香美市と仁淀川町の合計3か所で現存が確認された。香美市ではニホンジカの食害による減少が観察されている。分布は局所的で限定されており、個体数は少ない。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は産地局限、ニホンジカによる食害、森林伐採、園芸採取が考えられる。森林伐採の計画があるような地点では、地権者や管理者と情報を共有して、対策を講じる必要がある。その際、生育地点情報の漏洩と拡散には注意が必要である。シカの食害の影響がある地点では、防鹿柵の設置を検討する。

分布	四国
県内分布	北川村, 香美市, 高知市, 大豊町, 仁淀川町, 梶原町; 越知町 (1889)
生育環境と特性	林縁や林内に生える木本性のつる植物。小苞が花柄の先端か上部(花の直下)につき大型で先端部が葉状になるもの。県西部には本変種に似て小苞が小型のものがありイヨハンショウヅル var. <i>ivoensis</i> とされることがあるが、小苞の大小は連続し、同種とする見解もある。

EN キンボウゲ科
112 **カザグルマ**
Clematis patens

高知県 RL2010: EN
高知県 RDB2000: EN
環境省 RL2020: NT

【生育状況と選定の理由】

県内では蛇紋岩地帯に生育しており、3地域で現存が確認された。近年では棚田の耕作放棄が進み、環境の変化とともに連続的に減少している。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は里山の管理放棄と遷移進行による生育環境の変化、蛇紋岩地の開発、園芸採取である。開発の計画があるような地点では、事業者などと情報を共有して、保全対策を講じる必要がある。草刈りなどの植生管理を継続するとともに、保護の体制を整えることが重要である。園芸種との交雑により、純粋な野生種が失われるおそれがあるため、ほかからの持ち込みなどしないよう普及啓発が必要である。

分布	本州・四国・九州, 朝鮮半島・中国
県内分布	中部
生育環境と特性	蛇紋岩地の日当たりが良く、浸出水がみられるようなところに生える木本性のつる植物。

EN キンボウゲ科
113 **イシヅチカラマツ**
Thalictrum minus var. *yamamotoi*

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: -
環境省 RL2020: EN

【生育状況と選定の理由】

県内で確実な生育地は2地域のみである。香美市の生育地では、ニホンジカの食害により生育環境が悪化している。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因はニホンジカによる食害、遷移進行による生育環境の変化である。生育地は国定公園と森林植物公園などとして保護されている。生育地のうちの1つではシカの食害により生育環境が悪化しているため、防鹿柵による保護管理の継続が必要である。別の生育地では、生育地面積が限られているため、予期せぬ自然災害（斜面崩壊など）によって個体数が減少する可能性があり、域外保全を検討する必要がある。

分布	四国・九州
県内分布	香美市, 仁淀川町
生育環境と特性	石灰岩などの岩壁に生える多年生草本。アキカラマツに似るが、果柄と瘦果、葉の下面に腺毛または腺毛がある。

EN ツゲ科
114 **ツゲ**
Buxus microphylla var. *japonica*

高知県 RL2010: EN
高知県 RDB2000: EN
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

2000年以降に標本が採集されているのは4市町で、大豊町と高知市で現存が確認された。生育地が限られており個体数も少ない。

【危機要因と保護保全対策】

森林伐採と石灰岩採掘が主な危機要因である。管理者や地権者と生育情報を共有し、連携して保全対策を講じる必要がある。

【特記事項】

本県に生育するツゲは樹高も高くなく、ツゲとコツゲの違いについては、なお検討を要す。県内分布に挙げた市町には、栽培品の採集地が含まれる可能性がある。

分布	本州（山形県以西）・四国・九州・屋久島
県内分布	香美市, 大豊町, 南国市, 高知市, 土佐町, 佐川町; いの町 (1934)
生育環境と特性	県内の生育地の多くは石灰岩地帯または蛇紋岩地帯にある。常緑の低木。

EN ツゲ科
115 **コツゲ**
Buxus microphylla var. *riparia*

高知県 RL2010: EN
高知県 RDB2000: -
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

2000年以降2市町で標本が採集されており、調査では大豊町で現存が確認され、香美市では確認されなかった。生育地が限られ個体数が少ない。

【危機要因と保護保全対策】

河川工事、産地局限が主な危機要因である。河川工事が避けられない場合には管理者や事業者と情報を共有し、生育地を避けるなど連携して保全対策を講じる必要がある。

分布	本州（紀伊半島）・四国
県内分布	香美市, 大豊町
生育環境と特性	出水時には水をかぶるような川岸に多くみられる常緑の小低木。葉の形態については、河岸の低い位置にあるものは、葉の幅が狭く長楕円形になるが、高い位置にあるものはツゲとの差異は認められないというように、同じ集団の中で変異がある。

EN マンサク科
116 **マルバノキ**
Disanthus cercidifolius

□絵 16

高知県 RL2010: EN
高知県 RDB2000: EN
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

大豊町、本山町、土佐町で採集記録があり、全てで現存が確認された。分布は嶺北地域に限定されている。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は森林伐採、管理放棄と遷移進行による生育環境の変化である。林道脇や林縁などに生えるため、管理者などと情報共有する必要がある。定期的に個体群の状況を把握し、植生管理などの対策についても検討する必要がある。

【特記事項】

「杖立峠のマルバノキ」は大豊町指定天然記念物（1999）。

分布	本州（中部地方以西）・四国
県内分布	大豊町, 本山町, 土佐町
生育環境と特性	県内では林道横や林縁など比較的明るい場所に生育する。落葉低木。

EN ユキノシタ科
117 **チダケサシ**
Astilbe microphylla

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

2001年以降に4市町村に記録があり、調査では5市町村で確認された。ほとんどの地点で開花個体数は10未満であった。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は管理放棄や遷移進行による生育環境の変化である。生育地の多くが里山地域にあるため、地元の協力を得ながら定期的に個体群の状況を把握し、植生管理などの対策を講じる必要がある。

分布	本州・四国・九州
県内分布	中部、西部
生育環境と特性	道路法面、林縁や草地のやや湿ったところに生える多年生草本。

EN ユキノシタ科
118 **イワネコノメソウ**
Chrysosplenium echinus

高知県 RL2010: EN
高知県 RDB2000: -
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

2000年以降はいの町と四万十市で標本が採集されており、いの町の1地点の狭い範囲で現存を確認した。

【危機要因と保護保全対策】

ニホンジカによる食害が危機要因である。過去に確認されている地点は現在シカの食害の影響が顕在化している地域であり、食害による影響についてモニタリング調査を行って、防鹿柵の設置などの保全対策を講じる必要がある。

分布	本州（福島県南部～東海地方）・四国・九州
県内分布	大豊町、いの町、津野町、四万十市；高知市（1893）、仁淀川町（1961）
生育環境と特性	県内では山地の湿ったところや展葉前の落葉樹林の林縁部に生える多年生草本。

EN ユキノシタ科
119 **ネコノメソウ**
Chrysosplenium grayanum

高知県 RL2010: EN
高知県 RDB2000: -
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

土佐町と仁淀川町のそれぞれ1地点で現存を確認し、いの町の1地点は2018年に発見されて以降確認できない。生育環境が非常に限られている。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は遷移進行による生育環境の変化であり、乾燥化や林床植物の繁茂による被陰で消失するおそれがある。現存が確認されている地点では、定期的に個体群の状況を把握し、確認できなかった地点では調査を継続する必要がある。

分布	北海道・本州・九州（北部）、ロシア（極東）
県内分布	土佐町、いの町、仁淀川町；佐川町（1889）
生育環境と特性	県内では山地の落葉樹林やスギ人工林の林内・林縁の湿潤地や浅い水たまりのあるところに生える多年生草本。

EN ユキノシタ科
120 **トサノチャルメルソウ**
Mitella yoshinagae

□絵 16

高知県 RL2010: EN
高知県 RDB2000: EN
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

「トサノ」と名がつくが、徳島県に多く高知県では現存するのは馬路村のみである。調査では1地域4か所で確認できたが、川の流りに近い場所にあった集団では消失したのもあった。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は森林伐採、斜面の崩落などの自然災害である。送粉者であるキノコバエ類が息できる陰湿な環境も必要であり、森林伐採などによる乾燥化は致命的である。森林の管理者や地権者などと情報を共有し、連携して保全対策を講じる必要がある。

分布	四国・九州
県内分布	馬路村、北川村
生育環境と特性	深山の水が滴るような岩上や岩壁に生える多年生草本。太い根茎が横走り群生するため、他のチャルメルソウ属との区別が容易である。

EN 121	ユキノシタ科 ワタナベソウ <i>Peltoboykinia watanabei</i>	高知県 RL2010: VU 高知県 RDB2000: VU 環境省 RL2020: VU
-----------	---	---

【生育状況と選定の理由】

採集記録があるのは1地域のみで、調査でも現存が確認された。生育地のうちの2か所で、2014年に県森林環境税によって防鹿柵が設置された。各地点の個体数は10未満の所が多く、減少している地点もある。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は園芸採取、遷移進行による生育環境の変化、道路工事、ニホンジカによる食害などである。防鹿柵によって保護されている地点では、効果についてモニタリング調査がされている。道路脇では配慮のない草刈りが行われており、管理者と生育情報を共有し、適切な植生管理を検討する必要がある。盗掘のおそれもあるため、生育地点情報の公開と拡散には注意を要する。

分布	四国・九州
県内分布	中部
生育環境と特性	林内のやや明るいところや林道法面などに生える多年生草本。

EN 122	ベンケイソウ科 メノマンネングサ <i>Sedum japonicum</i> subsp. <i>japonicum</i> var. <i>japonicum</i>	高知県 RL2010: CR 高知県 RDB2000: DD 環境省 RL2020: -
-----------	--	--

【生育状況と選定の理由】

2000年以降に採集記録がある2町で現存が確認された。石垣や岩の露出する車道法面などで群生が確認されており、ほかの地点でも確認される可能性がある。ただし、黒潮町の生育地では、道路工事が予定されており、個体数の減少が懸念される。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は道路工事と管理放棄による生育環境の変化および産地局限である。生育地では地域住民によって定期的な草刈りが行われており、保護のためにも継続されることが望まれる。道路拡張工事が行われると個体数が減少する可能性がある。

分布	本州・四国・九州
県内分布	津野町, 黒潮町
生育環境と特性	低山の岩上, 石垣などに生育する多年生草本。花茎は長く匍匐し, 赤色を帯びた枝が多数分枝する。

EN 123	マメ科 フジキ <i>Cladrastis platycarpa</i>	高知県 RL2010: CR 高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: -
-----------	---	--

【生育状況と選定の理由】

生育地は県中部の山間地に多い。3町で現存を確認した。減少傾向は明らかでないが、推定個体数は250未満で、50個体を超える下位個体群もない。

【危機要因と保護保全対策】

現在のところは直接的な危機要因はないが、生育地が限られた山間地に局在しているため、風力発電などによる開発に注意を払う必要がある。風力発電などの計画が明らかになった場合には、情報を共有し、生育地を回避するなどの適切な保全対策を検討する必要がある。

分布	本州・四国, 中国
県内分布	仁淀川町, 越知町, 津野町, 梶原町
生育環境と特性	露岩の多い斜面下部や谷沿いに生育するが, 県内では石灰岩地にも多い。落葉高木。不安定な堆積地に適応した樹種であり, 優占林を形成することは少ない。

EN 124	マメ科 ヒメノハギ <i>Leptodesmia microphylla</i>	高知県 RL2010: CR 高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: -
-----------	---	--

【生育状況と選定の理由】

2000年以降4市町村で採集記録があり、調査では高知市、三原村、大月町で現存が確認された。四万十町は未調査である。生育地点が限られており個体数も少ないことに加え、管理放棄などにより連続的な個体数の減少がみられる。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は除草剤の散布、管理放棄と遷移進行による生育環境の変化である。生育地の多くが人為的な影響を受けており、除草剤の使用の回避や適切な草地の管理方法について検討する必要がある。

分布	本州(紀伊半島以西)・四国・九州, 台湾・中国・東南アジア・インド・オーストラリア
県内分布	高知市, 四万十町, 三原村, 大月町; 佐川町(1955), 越知町(1957), 須崎市(1886), 黒潮町(1913)
生育環境と特性	県内では日当たりの良い林縁, 水田の法面に生える半低木。

EN マメ科
125 シマエンジュ
Maackia tashiroi

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内に広く分布するが、確認されている生育地は少なく局限されている。5地点で確認され、1地点で確認できなかった。明らかに減少しており、それぞれの地点の個体数も少なく、推定個体数は100未満である。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は海岸や河川の開発、台風の波浪などの自然攪乱である。人為攪乱に加え自然攪乱の多い環境に生育しているため、突発的な災害で消滅する危険がある。種子を採取して個体の増殖を図り、近隣の生育適地への定植を検討する必要がある。

分布	本州・四国・九州・琉球
県内分布	室戸市、須崎市、黒潮町、四万十市
生育環境と特性	沿岸部の開けた場所や林縁、明るい樹林内に生育する落葉低木で、暗い林床にはみられない。

EN マメ科
126 ヨツバハギ
Vicia nipponica

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: EX
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

調査では香美市のみで現存が確認された。高知市の生育地は消失したと考えられる。生育地や個体数が少なく、連続的減少が観察されている。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は管理放棄と遷移進行による生育環境の変化である。現存する生育地はいずれも人の手が加えられた里山地域であり、地元の協力を得ながら、定期的に個体群の状況を把握し、適切な植生管理などの保全対策を講じる必要がある。

分布	北海道・本州・四国・九州、ロシア（極東）・朝鮮半島・中国
県内分布	香美市；高知市（1945）
生育環境と特性	山裾の人の手が入った草地に生える多年生草本。

EN バラ科
127 ザイフリボク
Amelanchier asiatica

高知県 RL2010: EN
高知県 RDB2000: -
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

最近確認された調査地が少なく、県全体の分布の現状は不明である。前回の評価を踏襲する。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は森林伐採である。既知の生育地の個体群は森林伐採によって消失した。小さな個体群の場合には人為的攪乱によって消失することも多いことから、現状が変更される場合には、種子を採取して個体の増殖を図り、近隣の生育適地への定植を検討する必要がある。

分布	本州（岩手県以南）・四国・九州、朝鮮半島・中国
県内分布	高知市、佐川町、本山町、土佐町；土佐市（1963）
生育環境と特性	やや乾燥した尾根筋や林縁に生育する落葉小高木であり、伐採跡などに生育することもある。液果をつけ、種子は鳥によって散布されるので、明るい林床に生育することもある。

EN バラ科
128 ハクロバイ
Dasiphora fruticosa var. *mandshurica*

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内の確認地点は香美市の石灰岩地の1か所である。生育地には県森林環境税により防鹿柵が設置されている。個体数は大小100未満と推定され、現時点で減少傾向は確認されていない。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因はニホンジカによる食害で、そのほか園芸採取、遷移進行による生育環境の変化である。シカの食害が深刻な地域では防鹿柵が設置され保護されているが、落石などで壊れることもあるため、柵の維持管理を確実に行う必要がある。岩稜に生育するため、地形的な要因によってもシカの食害が軽減されている状況にある。

分布	北海道・本州・四国
県内分布	香美市
生育環境と特性	石灰岩の岩場の日当たりの良い場所に生える小低木。

EN
129

バラ科

シコクシモツケソウ

Filipendula tsuguwoi

高知県 RL2010: EN

高知県 RDB2000: EN

環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

全体的な減少傾向は不明であるが、剣山系では防鹿柵で保護された場所以外では、ニホンジカの食害によって減少している個体群が多い。局在しており、100個体を超える個体群はない。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因はニホンジカによる食害、人の踏みつけなどの人為的攪乱である。石立山などシカの食害が深刻な地域では、部分的に防鹿柵の設置による保護が行われているが、落石などで壊れることもあるため、柵の維持管理を確実に行う必要がある。登山道沿いにある生育地では人による踏みつけを避けるために、道の付替えなどの保全措置が必要である。

分
布

四国・九州

県
内
分
布

香美市、いの町、仁淀川町

生
育
環
境
と
特
性

石灰岩地や蛇紋岩地などに多く、標高の高い稜線上、道沿いや岩上などの開けた明るい立地に生育している。雌雄異株の多年生草本であるが、草丈が低いので、低木などに被覆されると個体群を維持しにくくなる。

EN
130

バラ科

ツルキジムシロ

Potentilla stolonifera

高知県 RL2010: EN

高知県 RDB2000: EN

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

標高の高い山地の稜線近くに生育しており、産地は局限されている。登山者の踏みつけがある場所にも多く生育しているが、減少傾向は不明であり、推定個体数は250未満である。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は遷移進行（ササ群落の拡大）、ニホンジカによる食害である。稜線の開けた場所にも多くの個体が生育しており、人の踏みつけが減少の要因となる。しかし、踏みつけがササ群落の拡大を防いでおり、結果的に個体群の維持に有利に働いている。生育地のある地域では、近年シカの生息密度が上昇し、食害も危惧されるが、草丈が低くて採食に対する耐性も高いため、当面は具体的な保全措置は必要ない。

分
布

北海道・本州・四国・九州、ロシア（極東）・济州島

県
内
分
布

いの町

生
育
環
境
と
特
性

高山のコメツツジ低木林などの周辺や登山道沿いの明るい場所に生育するが、低木林内やササ群落の中にはほとんど侵入しない。多くの匍匐茎を出して栄養繁殖を行うので、カーペット状に群落を形成していることが多い。多年生草本。

EN
131

バラ科

タカネバラ

Rosa nipponensis

高知県 RL2010: EN

高知県 RDB2000: EN

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

採集記録のある地点で、近年確認されておらず、現状は不明である。前回の評価を踏襲する。

【危機要因と保護保全対策】

明るい環境を好むため、遷移の進行による被陰は消失の要因となるが、現状が不明であり、危機要因を特定できない。再調査を行い、現状確認を急ぐ必要がある。

分
布

本州・四国

県
内
分
布

仁淀川町

生
育
環
境
と
特
性

日本のほかの地域では高山に生育することが多いが、本県では石灰岩地の岩場に生育する。明るい環境を好む落葉低木であり、暗い環境になると消失する。

EN
132

バラ科

ハスノハイチゴ

Rubus peltatus

高知県 RL2010: -

高知県 RDB2000: -

環境省 RL2020: NT

【生育状況と選定の理由】

採集記録があるのは2市町で、そのうち香美市で現存が確認された。いの町は未調査。もともと生育地、個体数が少ないことに加え、剣山山系ではニホンジカの食害により激減している。

【危機要因と保護保全対策】

ニホンジカによる食害が危機要因である。定期的に個体群の状況を把握し、必要な場合には防鹿柵の設置など保全対策を講じるとともに、生育地を含めた広範囲でのシカの頭数管理が必要である。

分
布

本州（中部地方以西）・四国・九州、中国

県
内
分
布

香美市、いの町

生
育
環
境
と
特
性

冷温帯の林床に生える小低木。

EN 133	バラ科	コバナノフレモコウ <i>Sanguisorba tenuifolia</i> var. <i>tenuifolia</i>	高知県 RL2010: VU
			高知県 RDB2000: EN
			環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

中山間地の耕作放棄が進み、耕作地周辺の草刈りなどが行われなくなり、植生の繁茂によって日当たりの良い環境が減少したことで、多くの生育地が消滅している。今後、中山間地の人口減少が進むにしたがって、さらに消滅する個体群が増えると予想される。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は中山間地の棚田などの耕作地の放棄に伴う遷移進行である。保全のためには、棚田周辺などの湿性立地において継続的に草刈りを行い、明るい環境を維持することが必要である。

分布	北海道・本州・四国・九州，ロシア・朝鮮半島・中国・東ヨーロッパ
県内分布	香南市，香美市，南国市，高知市，土佐市，いの町，仁淀川町
生育環境と特性	田畑や果樹園など定期的に草刈りが行われている法面や、水路沿いおよび放棄棚田などの湿性な立地に生える、草丈1mを超える多年生草本。9～11月にかけて白～淡紅色の小さな花が集まった花穂をつける。

EN 134	バラ科	イヨノミツバイワガサ <i>Spiraea blumei</i> var. <i>pubescens</i>	高知県 RL2010: DD
			高知県 RDB2000: -
			環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

愛媛県東赤石山とその周辺のかんらん岩の露頭がある標高1200m以上の山地に多く自生するが、県内では高標高域の蛇紋岩地のみでみられる。個体数の連続的減少は確認されなかったが、生育地は1か所しかなく、推定個体数は250未満である。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は産地局限、遷移進行による生育環境の変化が考えられる。本種は明るい環境を好むが、周辺に生える樹木や草本が大きく育ち、被陰による開花数の減少が危惧される。生育地が1か所のみであるため、定期的に個体群の状況を把握する必要がある。

分布	四国
県内分布	本山町
生育環境と特性	県内では高標高域の蛇紋岩地の岩場に生える落葉低木。

EN 135	クロウメモドキ科	ケンポナシ <i>Hovenia dulcis</i>	高知県 RL2010: EN
			高知県 RDB2000: EN
			環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

減少傾向は明らかでないが、産地が局限されており、各生育地における個体数も少ない。山地周辺ではニホンジカの食害が激しく、林床植生がほとんど残っていない状況であり、後継樹が育たない可能性が高い。

【危機要因と保護保全対策】

ニホンジカによる食害が危機要因である。県内で唯一の生育地ではシカの生息密度が高く、林床植生は壊滅的な食害を受けている。個体群の存続には後継樹の育成が重要であり、実生の確保と防鹿柵による保護が必要である。種子を採取して実生・稚樹を育成し、生育地に戻すことなども検討する必要がある。

分布	北海道・本州・四国・九州，朝鮮半島・中国
県内分布	香美市
生育環境と特性	県内の主な産地は石灰岩地で、山腹斜面に単木で生育していることが多い。落葉高木。

EN 136	ニレ科	オヒョウ <i>Ulmus laciniata</i>	高知県 RL2010: VU
			高知県 RDB2000: -
			環境省 RL2020: -



【生育状況と選定の理由】

産地が局限され、連続的な減少がみられる。推定個体数は1,000未満で、250個体を超える下位個体群はない。いずれの生育地においてもニホンジカの食害が確認され、本種も樹皮剥ぎの被害が観察されている。

【危機要因と保護保全対策】

ニホンジカによる食害が危機要因である。いずれの生育地においても、シカの生息密度が高く、樹皮剥ぎや林床植生の食害がみられる。後継樹の育成が重要であり、実生の確保と防鹿柵による保護が必要である。種子を採取して実生・稚樹を育成し、生育地に戻すことなども検討する必要がある。高木個体の樹皮剥ぎ防止のための樹木ガードの取付けも重要である。

分布	北海道・本州・四国・九州，ロシア（極東）・朝鮮半島・中国
県内分布	香美市，いの町
生育環境と特性	冷温帯の山間に分布し、湿潤な斜面下部や溪谷沿いに生育する落葉高木。岩屑の堆積した崖錐や沖積錐などに多く、排水の悪い過湿地には生育しない。優占林分を形成することはない。

絶滅危惧IB EN

EN
137

アサ科

コバノチョウセンエノキ

Celtis biondii var. *biondii*

□絵 18

高知県 RL2010: EN

高知県 RDB2000: -

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

2市町で採集記録があり、主に石灰岩地に生育する。調査では新しい確認地点を含め香美市と津野町のそれぞれ1地点で現存を確認した。生育地周辺の同様の環境にも生育している可能性があるものの、分布が単木的でこれまでに確認された個体数が限られている。

【危機要因と保護保全対策】

遷移進行による生育環境の変化が危機要因である。定期的に個体群の状況を把握し、植生管理などの保全対策を講じる必要がある。

分布	本州（近畿地方以西）・四国・九州，朝鮮半島・台湾・中国
県内分布	香美市，高知市，津野町
生育環境と特性	石灰岩地に生育する落葉小高木。

EN
138

イラクサ科

アカソ

Boehmeria silvestrii

高知県 RL2010: EN

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内では低山域に生育するが、確認されている地点は限られる。コアカソとの雑種など、区別しにくい形態の個体もある。伐採跡地の遷移初期の群落内にも生えることがあり、現在確認されている地点よりも生育地点と個体数は多い可能性がある。いの町の1か所で現存を確認した。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は管理放棄と遷移進行による生育環境の変化，外来植物との競合である。ニホンジカにより食害を受けるが，セイタカアワダチソウが混生する場合，被食の順位が低いことが観察されている。草刈りによって維持されている生育地もあるものの，配慮された管理ではない。個体群の状況を把握し，適切な管理方法を検討する必要がある。

分布	北海道・本州・四国・九州，ロシア（極東）・朝鮮半島・中国
県内分布	北川村，香美市，大豊町，中土佐町，いの町，梶原町，四万十町，宿毛市
生育環境と特性	山地の林縁や路傍，斜面に生える多年生草本。

EN
139

イラクサ科

イワガネ

Oreocnide frutescens

□絵 18

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

土佐市で現存が確認された。高岡郡大桐村（現越知町）の記録もあるが（上村 1944），標本は未確認である。県西部の記録はハドノキの誤認と考えられる。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は遷移進行による生育環境の変化である。県の天然記念物に指定されているが，生育地は周辺の樹木に被陰されて生育環境が悪化している。生育地内の個体の分布と環境について調査し，適切な植生管理を管理者と協議して実施する必要がある。

【特記事項】

土佐市出間の「イワガネ自生地」は県指定天然記念物（1948）。

分布	四国・九州，中国・東南アジア大陸部・ヒマラヤ
県内分布	土佐市
生育環境と特性	谷部の林縁に生える落葉低木。

EN
140

イラクサ科

コミヤマミズ

Pilea notata

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: -

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

高知市，いの町，日高村で現存が確認された。認識されにくく，見過ごされている可能性もあるが，生育地，個体数とも少ない。主要な生育地が河川の氾濫域であることから，洪水による減少が予測される。

【危機要因と保護保全対策】

河川工事，遷移進行による生育環境の変化が主な危機要因である。河川工事に当たっては，事業者と情報を共有し，適切な保全対策を講じる必要がある。

分布	本州（近畿地方以西）・四国・九州，中国
県内分布	高知市，いの町，日高村
生育環境と特性	低地の林縁や河岸の竹林に生える多年生草本。確認されている生育地のうち，高知市春野町以外は河岸あるいは河岸に隣接する竹林内である。

EN
141

ブナ科

ハナガガシ

Quercus hondae

口絵 18

高知県 RL2010: EN

高知県 RDB2000: EN

環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

県内では4か所の社寺林で現存が確認されたほか、2018年に須崎市の山中で新たな生育地が確認された。県内で確認された生育地において個体数は概して少ない。高知市の朝倉神社では2019年の台風によって大木が枯死した。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は遷移進行と森林伐採である。周辺の環境を広域的に保護し、森林伐採を防ぐ必要がある。

【特記事項】

土佐市甲原船戸松尾八幡宮の「ハナガガシ」は土佐市指定天然記念物（1967）。

分
布

四国・九州

県
内
分
布

高知市、土佐市、須崎市、四万十町

生
育
環
境
と
特
性

低地の谷地や斜面下部に生育する常緑高木。冬芽が他のカシ類と比べ細く尖るのが特徴。樹皮は灰黒色でシイ類に似る。葉は表面が深緑色で葉柄が短く、葉身の上部にはたいてい鋭鋸歯があり、中肋は表面で隆起する。花は4月に黄褐色の穂を下げ、実は翌年の秋に熟す。

EN
142

カバノキ科

ハンノキ

Alnus japonica

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

低地の湿地や放棄水田の周辺に、小規模な個体群が残存している。増加している個体群もあるが、全体の個体数が少なく、ダム工事などで消滅した個体群もある。開発されやすい低地が主な生育地であり、今後も開発による減少が危惧される。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は、遷移進行、森林伐採、湿地開発などである。湿地の埋め立てや排水工事による乾燥化で遷移が進んでおり、ダムや道路などの建設によって生育環境が破壊されている。ハンノキが生えるような低地の湿性環境は開発される危険性が高いため、行政機関などと生育地の情報を共有し、不用意な開発が進まないように注意喚起する必要がある。

分
布

北海道・本州・四国・九州・琉球、ロシア（極東）
・朝鮮半島・台湾・中国

県
内
分
布

高知市、土佐市、須崎市、佐川町、四万十市、三原村

生
育
環
境
と
特
性

山地と水田の間の湿地や沼沢、流れの横などの過湿地に生える落葉高木。

EN
143

カバノキ科

ツノハシバミ

Corylus sieboldiana var. *sieboldiana*

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: -

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内では主に石灰岩地に生育し、減少傾向は不明である。100個体を超える下位個体群があるものの、点在しており、全個体数は少ないと考えられる。

【危機要因と保護保全対策】

現在確認されている生育地での危機要因はないが、ニホンジカの生息域が拡大してきているという情報もあるため、定期的に状況を把握し、食害が確認されたときには、防鹿柵の設置などの対策が必要である。

分
布

北海道・本州・四国・九州、朝鮮半島

県
内
分
布

香美市、仁淀川町、梶原町

生
育
環
境
と
特
性

県内では石灰岩地帯の比較的明るい林床や林縁に生える落葉低木。

EN
144

ニシキギ科

ヒロハツリバナ

Euonymus macropterus

高知県 RL2010: EN

高知県 RDB2000: EN

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

本山町のみに限られており、個体数は250程度と推定される。

【危機要因と保護保全対策】

確認されている生育地は保護林内にあり、森林伐採のおそれはないが、周辺でニホンジカの食害による影響が大きくなってきている。食害が確認されたときには、防鹿柵の設置などの対策を講じるとともに、広範囲でのシカの頭数管理が不可欠である。

分
布

北海道・本州・四国、ロシア（極東）・朝鮮半島・中国

県
内
分
布

本山町

生
育
環
境
と
特
性

県内では針広混交林内などに生える落葉小高木。

EN 145 **カタバミ科**
ミヤマカタバミ
Oxalis griffithii var. *griffithii*

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: -
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内では大豊町の1地域にのみ分布する。現存が確認された。

【危機要因と保護保全対策】

森林伐採が主な危機要因である。スギ人工林では皆伐により消失のおそれがある。個体の分布範囲や生育環境、個体数の変動を把握し、管理者や地権者などと情報を共有し、保全対策を検討しておく必要がある。

分布	本州・四国, 中国・ヒマラヤ
県内分布	大豊町
生育環境と特性	県内ではスギ人工林や常緑広葉樹林などのやや暗い林床に生える多年生草本。

EN 146 **オトギリソウ科**
アゼオトギリ
Hypericum oliganthum

高知県 RL2010: EN
高知県 RDB2000: EN
環境省 RL2020: EN

【生育状況と選定の理由】

調査では南国市, 高知市, 中村市, 土佐町で現存が確認されたが, 黒潮町では確認されなかった。北川村, 香美市, 須崎市, 四万十町は未調査である。生育地が限られており, 個体数が少なく連続的な減少が予測される。

【危機要因と保護保全対策】

管理放棄と遷移進行による生育環境の変化, 過剰な草刈りが主な危機要因で, そのほかは河川開発や土地造成である。生育地の管理に当たっては, 過剰な草刈りや除草剤の散布を避けるなどの配慮が必要である。

分布	本州 (宮城県以南)・四国・九州, 朝鮮半島
県内分布	北川村, 香美市, 南国市, 高知市, 須崎市, 土佐町, 佐川町, 四万十町, 黒潮町, 四万十市; 中土佐町 (1889)
生育環境と特性	低地の湿り気の多いところに生える。草刈りなどある程度の攪乱がある場所に生えることが多く, 攪乱の度合や時期によって消長が激しく変動し, 継続的な観察が難しい種である。多年生草本。

EN 147 **オトギリソウ科**
ミスオトギリ
Triadenum japonicum

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

2000年以降に採集記録があるのは3市である。調査で現存が確認できたのは四万十市の2地点のみで, 土佐清水市の1地点では消失が確認された。個体数は少なく, 連続的な減少が予測される。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は管理放棄と遷移進行による生育環境の変化で, そのほか湿地開発, 土地造成が考えられる。土佐清水市の生育地は公園化で環境が変化して消失した。高知市の生育地は遷移が進み被陰されてきているため, 個体群の状況を把握し, 適切な植生管理などの保全対策を講じる必要がある。

分布	北海道・本州・四国・九州, ロシア (極東)・朝鮮半島・中国
県内分布	高知市, 土佐市, 四万十市, 土佐清水市; 三原村 (1889)
生育環境と特性	沼地または湿原に生える多年生草本。花は一日花で午後2時台から4時台ほど開花し, この間にハチ目やハエ目の昆虫が訪花して受粉に関与するほか, 自家受粉の可能性も示唆されている (千葉, 尾関 2019)。

EN 148 **スミレ科**
ヒゴスミレ
Viola chaerophylloides var. *sieboldiana*

□絵 19

高知県 RL2010: EN
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

2000年以降9市町村で標本が採集されており, 6市町村で現存が確認された。県内では東部から西部まで点在するが, 生育に適した環境が少ないため各生育地の個体数は少ない。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は遷移進行による生育環境の変化である。いくつかの生育地は現在草地であるが, 樹木が植栽されており, 近い将来には光環境の悪化で本種が生存できなくなることが予測される。高知県は草地が少なく, 草原生の植物の保全が困難で, 課題である。定期的に個体群の状況を把握する必要がある。

分布	本州 (秋田県以南)・四国・九州
県内分布	東部, 中部, 西部
生育環境と特性	日当たりの良い草地や半日陰に生育する多年生草本。

絶滅危惧IB EN

EN
149

スミレ科

ホソバシロスミレ

Viola patrinii var. *angustifolia*

高知県 RL2010: EN

高知県 RDB2000: -

環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

4市町で採集記録があり、調査で大豊町と仁淀川町で現存を確認した。ササ原の拡大などで草地の環境が変化し、個体数が減少している。過去には数多く生育していたが、確認できなくなった地点があった。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は林道の拡張、二次草地の管理放棄と遷移進行である。生育地を含め周辺の草地を適正に維持管理していくことが必要である。

分 布	本州（滋賀県以西）・四国・九州
県 内 分 布	香美市, 大豊町, 仁淀川町, 梶原町
生 育 環 境 と 特 性	県内では標高 1200m 以上の日当たりの良い草地や林道脇などに生える。多年生草本。

EN
150

ヤナギ科

サイコクキツネヤナギ

Salix vulpina subsp. *alopochroa*

高知県 RL2010: EN

高知県 RDB2000: -

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

水田と二次林の間の法面に稚樹も含めて 50 個体以上が確認され、開花個体も多い。同所的に生育している他種の保護のために草刈りが行われており、本種にも配慮されている。付近の低木林内にも少数個体を確認されたが、他の樹種に被陰されて樹勢は悪い。採集記録のある複数の地点で確認できず、全体的に減少しており、個体数も少ない。

【危機要因と保護保全対策】

里地里山に生育する種で、人為的な攪乱に依存して個体群を維持していることが多く、管理放棄で遷移が進行すると消失する。明るい環境を保つための草刈りなどの植生管理が必要である。開発による生育地の破壊もあり、定期的に個体群の状況を把握する必要がある。

分 布	本州（愛知県中部以西）・四国・九州
県 内 分 布	仁淀川町, 四万十町, 三原村
生 育 環 境 と 特 性	路傍や農耕地の周辺などに多く、人為的な攪乱に依存している個体群が多い。実生の定着には裸地に近い植物のまばらな環境が必要である。落葉低木。

EN
151

トウダイグサ科

イブキタイゲキ

Euphorbia lasiocaula var. *ibukiensis*

高知県 RL2010: EN

高知県 RDB2000: -

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

産地が局限されており、2003 年以降採集記録がなく、個体数や開花状況は不明である。前回の評価を踏襲する。

【危機要因と保護保全対策】

現状が不明であり、危機要因を特定できない。現状確認を急ぐ必要がある。極めて小型の草本のため、他種との競争や遷移の進行による光環境条件の悪化が消失の要因となる可能性が高い。

分 布	本州・四国
県 内 分 布	仁淀川町
生 育 環 境 と 特 性	日当たりの良い草地や石灰岩地に生育する。夏緑性の多年生草本。

EN
152

アカバナ科

ミズキンバイ

Ludwigia peploides subsp. *stipulacea*

高知県 RL2010: EN

高知県 RDB2000: EN

環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

3か所で生育が確認された一方で、5か所では生育を確認できなかった。この他にも、室戸市内には人工的に導入されたと考えられる2か所と、特定できていない記録地点もある。土佐市での記録は、ヒレタゴボウとの誤認であると考えられる。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は耕作放棄による遷移進行、開発による生育地の消失である。潜在的には除草剤の使用も挙げられる。近年では特に耕作放棄の影響が顕著であるため、地域社会と協同した継続的な草刈りや耕作などの取組みが求められる。オオフサモなど侵略的外来水生植物が同所的に生育する地点では競争が懸念されるため、それらの駆除も必要である。

分 布	本州（関東以西）・四国・九州・琉球, 中国
県 内 分 布	室戸市, 須崎市
生 育 環 境 と 特 性	県内では放棄水田の水のたまる所や流水で他の植物が生えられないところ、U字溝、池の縁などにも生育する。多年生草本。

EN 153	ミカン科	高知県 RL2010: VU 高知県 RDB2000: EN 環境省 RL2020: NT
	タチバナ <i>Citrus tachibana</i>	

【生育状況と選定の理由】

県東部から西部の海岸にみられ、内陸の石灰岩地でナンテンやビワなどと混生して生育することがある。

【危機要因と保護保全対策】

海岸の護岸工事、石灰岩の採掘などの人為的影響に加え、石灰岩地ではハチクやモウソウチクなどの竹林の拡大によって生育地が狭められる危険性がある。土佐市の群生地では、竹類の除伐により実生が育つ一方で、表土の乾燥化や硬化により古木に枯損がみられる。個体の生育状況を把握し、管理方法が適切かどうか常に検討する必要がある。

【特記事項】

土佐市の「甲原松尾山のタチバナ群落」は国指定天然記念物（2008）。ほかにも県・市町村での天然記念物の指定が多数ある。

分布	本州（伊豆半島以西）・四国・九州・琉球、台湾
県内分布	室戸市、安田町、香美市、南国市、佐川町、越知町、土佐市、須崎市、中土佐町、四万十町、黒潮町、四万十市、土佐清水市
生育環境と特性	暖地に生育するミカン属の在来種で、県内では海岸林や低山の石灰岩地にまれに生える常緑小高木。タブノキなどが優占する海岸林の林内などでは、結実する個体は少ない。

EN 154	アオイ科	口絵 20	高知県 RL2010: EN 高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: -
	ハマボウ <i>Hibiscus hamabo</i>		

【生育状況と選定の理由】

6市町で現存が確認された。室戸市の国道沿いでは植栽された個体が多く確認できる。花の観賞価値が高く、河口の汽水域を代表する景観植物である。高知市の新川川の河口付近には自生もあるが、河道拡幅後植生復元された個体が群生する。浦戸湾に流れ込む河川の河口や下流部には点在する。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は河川や湖沼の改修、道路工事である。川岸などに生育するため、不用意に伐採されたり、除去されたりすることがある。河川や池沼の改修計画では、適切な保全対策を講じる必要がある。剪定に強いいため、木が大きくなりすぎないように管理して保全することが望ましい。

分布	本州（関東南部以西）・四国・九州・奄美大島、 济州島・中国
県内分布	室戸市、高知市、黒潮町、四万十市、土佐清水市、 宿毛市
生育環境と特性	県内では河口に近い川岸や林縁に生える落葉低木～小高木。

EN 155	ジンチョウゲ科	高知県 RL2010: EN 高知県 RDB2000: EN 環境省 RL2020: -
	シマサクラガンピ <i>Diplomorpha pauciflora</i> var. <i>yakushimensis</i>	

【生育状況と選定の理由】

香美市の石灰岩地帯に点々と分布し、調査では2か所で現存が確認された。生育地、個体数が少なく、一部の生育地では斜面崩壊が進行している。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因はニホンジカの食害による林地の荒廃である。シカの食害に対しては、生育地を含めた広範囲での頭数管理が必要である。

分布	四国・九州・屋久島
県内分布	香美市
生育環境と特性	山地の石灰岩の崖や斜面に生える。高さ2m程度の落葉低木。

EN 156	アブラナ科	高知県 RL2010: CR 高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: -
	イヌナスナ <i>Draba nemorosa</i>	

【生育状況と選定の理由】

調査では香美市と大豊町で現存が確認され、大豊町では新しい生育地が確認された。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は管理放棄と遷移進行による生育環境の変化である。畑の耕作放棄や里地に人の手が加わらなくなると消滅する危険性がある。地元の協力を得ながら、定期的に個体群の状況を把握し、耕作の継続も含めて管理計画を構築する必要がある。

分布	北海道・本州・四国・九州、北半球
県内分布	香美市、大豊町、本山町；仁淀川町（1889）、 佐川町（1889）
生育環境と特性	日当たりの良い丘陵地の畑や道端に生える越年生草本。

絶滅危惧IB EN

EN 157	オオバヤドリギ科	高知県 RL2010: EN
	オオバヤドリギ <i>Taxillus yadoriki</i>	高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

2000年以降は6市で標本が採集されており、調査では中部以東の4市で現存を確認し、芸西村で新たに確認した。1本の寄主当たりの寄生数は1～数株と少ないが、多い地点では広範囲の樹木に点々と寄生している所もある。

【危機要因と保護保全対策】

遷移進行と森林伐採が主な危機要因で、そのほかは道路工事、河川開発、園芸採取などである。森林伐採や道路工事に当たっては、事業者と情報を共有し、寄生する樹木個体の保全を検討する。

分布	本州(関東地方南部以南)・四国・九州・琉球(沖縄島まで)、済州島
県内分布	室戸市、安芸市、芸西村、香南市、須崎市、四万十市、土佐清水市
生育環境と特性	他の樹木に寄生する常緑低木で、県内ではツブラジイ、アカガシ、コナラ、スギ、クリ、ソメイヨシノ、ナワシログミ、アキグミなどに寄生する。種子で繁殖する。

EN 158	タデ科	高知県 RL2010: EN
	クリンユキフデ <i>Bistorta suffulta</i>	高知県 RDB2000: EN 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内の確認地点は香美市の1か所で、限られた範囲にのみ生育している。個体数は100未満と推定されるが、現時点で減少傾向にはない。生育地には県森林環境税により防鹿柵が設置されている。

【危機要因と保護保全対策】

遷移進行とニホンジカによる食害が危機要因である。生育地は防鹿柵により保護されているが、回復傾向にある他の種に被陰されるおそれがある。モニタリング調査で個体群の状況を把握し、植生管理などの保全対策を講じる必要がある。

分布	本州(岩手県以南の主に太平洋側)・四国・九州、済州島・中国・東ヒマラヤ
県内分布	香美市
生育環境と特性	県内では高標高の山地の林内に生える多年生草本。

EN 159	タデ科	高知県 RL2010: EN
	ヤマミゾソバ <i>Persicaria thunbergii</i> var. <i>oreophila</i>	高知県 RDB2000: - 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内の高標高地の4か所で記録されているが、2007年以降の確認例はない。生育地が限定的で、4か所のうち3か所は香美市と大豊町であるため、ニホンジカの食害の影響が懸念される。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因として、森林伐採、産地局限、ニホンジカによる食害が考えられる。確認されている生育地点数が少ないため、採集記録での再調査だけでなく、ミゾソバと誤認しないよう注意して広域で調査し、県内の分布状況を明らかにする必要がある。シカの食害の影響のある地域では防鹿柵の設置を検討するとともに、捕獲などによる頭数管理が必要である。

分布	本州(岩手県南部以南の主に太平洋側)・四国・九州
県内分布	香美市、大豊町、仁淀川町
生育環境と特性	県内では高標高地の山地林内もしくは林縁のやや湿った場所に生育する一年生草本。ミゾソバの変種であるが、独立種として扱われる場合もある。葉柄に翼がないことと、光沢のある果実を確認する必要がある。

EN 160	タデ科	□絵 21	高知県 RL2010: DD
	ニセコガネギシギシ <i>Rumex trisetifer</i>		高知県 RDB2000: - 環境省 RL2020: DD

【生育状況と選定の理由】

安田町と芸西村の限られた地点で確認されている。耕起前に発生するが生育期間中に耕されるため、確認できるのは休耕田や畦まわりに生育する個体が主である。個体数は1,000以下と推定される。

【危機要因と保護保全対策】

農地では、果実が完熟する前に耕作されてしまうため、長期的には個体数が減少する可能性が高い。保全のためには、管理を本種の生活史に合わせる配慮が必要である。また、農地の管理放棄や農地整備による生育環境の変化、除草剤の使用などにより減少する危険性があることから、果実を採取し、域外保全を行うことも必要である。

分布	本州(関東地方)・四国(高知県)、台湾・中国(中南部)・東南アジア大陸部
県内分布	安田町、芸西村
生育環境と特性	県内では海岸近くの耕作前の水田や休耕田、畑に生育する一年～越年生草本。

絶滅危惧IB EN

EN
161

ナデシコ科

テバコマンテマ

Silene yanoei

口絵 21

高知県 RL2010: EN

高知県 RDB2000: EN

環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

本県の生育地のほとんどが冷温帯の岩壁で、確認されている生育地、個体数とも少ない。香美市ではニホンジカの食害の影響も受けている。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は産地局限、ニホンジカによる食害、遷移進行による生育環境の変化である。シカの食害に対しては、防鹿柵の設置や生育地を含めた広範囲での頭数管理が必要である。定期的な調査で個体群の状況を把握する必要がある。

分布	四国，朝鮮半島（南部）
県内分布	香美市，いの町
生育環境と特性	冷温帯の明るくやや湿った岩壁や林縁に生える多年生草本。

EN
162

アジサイ科

アオコウツギ

Deutzia ogatae

高知県 RL2010: DD

高知県 RDB2000: -

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

調査では香美市で現存が確認されたが、安芸市は未調査である。愛媛県のみ分布するとされていたこともあり、本県においては十分に分布が把握されていない。確認された生育地が限られており、個体数も少ない。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因はニホンジカによる食害と遷移進行による生育環境の変化と考えられる。シカの食害に対しては生育地を含めた広域での頭数管理が必要である。

分布	四国（愛媛県・高知県）
県内分布	安芸市，香美市
生育環境と特性	山地の落葉林内や林縁に生える低木。

EN
163

サクラソウ科

カラタチバナ

Ardisia crispa var. *crispa*

高知県 RL2010: EN

高知県 RDB2000: EN

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

近年の採集記録は4市6か所で、既知の生育地点が少ない。高知市と南国市では消失した。香美市と四万十市に現存する可能性がある。

【危機要因と保護保全対策】

森林伐採、土地造成、道路工事および園芸採取が危機要因と考えられる。県内では点々と確認され、各地点で生育する個体数も少ないため、採集記録のある地点で再調査が必要である。

分布	本州（福島県以西）・四国・九州・琉球，台湾・中国
県内分布	香美市，南国市，高知市，須崎市，四万十市；佐川町（1892）
生育環境と特性	低地の林内に生える常緑の小低木。園芸植物として流通し栽培されるため、人家近くの生育地は逸出の可能性もある。

EN
164

サクラソウ科

ツマトリソウ

Lysimachia europaea var. *europaea*

高知県 RL2010: EN

高知県 RDB2000: EN

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

採集記録があるのは2市町で、いずれも現存が確認された。県内では高標高域に分布し、生育地が限られている。一部の地域ではササの衰退に伴い、個体数が増加している場所もあるが、数は少ない。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は産地局限、園芸採取、ニホンジカによる食害である。既知の生育地のほとんどは、高標高域の自然公園特別地域にあり採取が規制されている。シカの食害の影響が大きい地域では、生育地を含めた広域での頭数管理が必要である。

分布	北海道・本州・四国，北半球の亜寒帯
県内分布	香美市，いの町
生育環境と特性	亜高山帯のササ原や林縁に生える多年生草本。

EN ツツジ科
165 **シャクジョウソウ**
Hypopitys monotropa

口絵 22

高知県 RL2010: EN
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内では東部から西部までの10市町12か所で採集記録がある。調査では四万十町の1か所で現存が確認され、新たに本山町と梶原町の別の地点で発見された。いずれの生育地も個体数は少ない。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は森林伐採、道路工事、産地局限、遷移進行による生育環境の変化である。菌従属栄養植物であるため、周囲の樹木を含めた環境の維持が重要である。森林伐採や道路工事の計画があるときには地権者や事業者と情報を共有して、保全対策を講じる必要がある。

分布	北海道・本州・四国・九州, ロシア(極東)・朝鮮半島・台湾・中国・アジアから北アメリカ・ヨーロッパの温帯
県内分布	東洋町, 香美市, 大豊町, 本山町, 高知市, いの町, 越知町, 梶原町, 四万十町, 四万十市
生育環境と特性	山地の林中のやや暗いところに生える多年生の菌従属栄養植物。暖温帯下部の常緑樹林から冷温帯の落葉樹林や針葉樹林にも発生がみられる。花期は6~8月であるが, 9~10月(~1月)の果実期での発見例もある。

EN ツツジ科
166 **ツリガネツツジ**
Rhododendron benhallii

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

連続的減少があるかは不明であるが、やや増加傾向を示す生育地もある。現存は1地域2か所に局限され、確認されている個体数は100未満である。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は園芸採取、遷移進行による生育環境の変化である。湿潤でやや明るい環境を好むため、スギやヒノキ人工林や照葉樹林の林床では消失する。里山林のような適度な伐採を伴う植生管理が有効である。花が美しく採取されるおそれもあるため、生育地点情報の公開と拡散を防ぐ必要がある。

分布	本州・四国
県内分布	中部
生育環境と特性	湿潤でやや日当たりの良い林縁や明るい里山の林床などに生育する、高さ2mほどの落葉低木。

EN ヤッコソウ科
167 **ヤッコソウ**
Mitrastemon yamamotoi

口絵 22

高知県 RL2010: EN
高知県 RDB2000: EN
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内では東部と西部の温暖な地域に分布が限られており、確認されている大半が社寺林やその周辺の100年以上保たれている森林である。今後分布域の森林が維持されれば、確認される地点が増加する可能性もある。

【危機要因と保護保全対策】

森林伐採が主な危機要因であったが、ナラ枯れによる寄生木の枯死が加わった。県東部での最近のナラ枯れの広がりに伴って、2020年に寄生木の枯死が確認されている。今後、寄生木の分布とナラ枯れ被害についての調査と域外保全の方法の検討が必要である。

【特記事項】

室戸市元の「西寺のヤッコソウ自生地」は県指定天然記念物(1952)。奈半利町西の宮の「ヤッコソウ」は奈半利町指定天然記念物(1986)。

分布	四国・九州・南西諸島, パプアニューギニア・スマトラ・インド北東部を囲む地域
県内分布	東洋町, 室戸市, 奈半利町, 土佐清水市, 大月町
生育環境と特性	県内ではスダジイとツブラジイの根に寄生するのが確認されている。シイ林のなかでも寄生する木は限られ、乾燥しないところで見つかる傾向がある。大木だけでなく、胸高直径が20cmの木にも寄生する。

EN アカネ科
168 **ヒロハコンロンカ**
Mussaenda shikokiana

高知県 RL2010: EN
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

東部と西部に生育が確認されており、各地点の個体数はあまり多くない。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は遷移進行、道路工事、不適切な管理である。林縁などに生育するため、管理で伐採されることがあるほか、遷移の進行で被陰されて衰退する可能性がある。生育地点情報を管理者などと共有し、適切な植生管理方法を検討し、消失しないよう注意喚起することが必要である。

【特記事項】

北川村長山の「ヒロハコンロンカ」は北川村指定天然記念物(1995)。

分布	本州・四国・九州, 台湾・中国
県内分布	東洋町, 室戸市, 北川村, 安田町, 安芸市, 四万十市, 三原村, 土佐清水市, 宿毛市; 馬路村(1938)
生育環境と特性	林縁や川岸の林内など、明るい場所を好んで生える落葉低木。

EN 169	アカネ科	高知県 RL2010: EN
	ヘツカニガキ <i>Sinoadina racemosa</i>	高知県 RDB2000: EN 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県西部の温暖なツブラジイやタブノキの優占する海岸林の谷部のほか、四万十川中流域の沢沿いなどでも確認されている。小さい個体は比較的確認されるが、大きな個体は少ない。採集記録のある全ての地域で現存が確認された。

【危機要因と保護保全対策】

森林伐採、遷移進行、道路工事が危機要因である。生育特性などに不明な点が多く、個体群動態や生育環境などを把握するため、今後調査研究が必要である。森林伐採が避けられないような場所では、管理者などと情報を共有し、適切な保全対策を検討する必要がある。

分布	四国・九州・南西諸島, 台湾・中国・タイ・ミャンマー
県内分布	四万十町, 黒潮町, 四万十市
生育環境と特性	温暖でやや湿ったところに限定して生育する落葉高木。県内における生育特性などは不明な点が多い。

EN 170	リンドウ科	高知県 RL2010: EN
	ホソバナツルリンドウ <i>Pterygocalyx volubilis</i>	高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

2000年以降は3つの町で採集記録があり、調査では、そのうち土佐町と仁淀川町で現存を確認した。生育地は標高のやや高い場所にあり、各地の開花個体数は数～100未満である。

【危機要因と保護保全対策】

遷移進行、森林伐採、道路工事が危機要因である。共生菌に依存する割合が大きいと考えられる植物であるため、生育地周辺も含めて生育環境を保全する必要がある。

分布	北海道・本州・四国, ロシア(極東)・朝鮮半島・台湾・中国
県内分布	土佐町, 仁淀川町, 津野町
生育環境と特性	やや湿った林床や林縁, 草地に生えるつる性の一年生草本。生育に土壌中の共生菌を必要とし、種子で繁殖する。

EN 171	リンドウ科	高知県 RL2010: VU
	ムラサキセンブリ <i>Swertia pseudochinensis</i>	高知県 RDB2000: EN 環境省 RL2020: NT

【生育状況と選定の理由】

県内の生育の中心は蛇紋岩地であり、高知市周辺に高密度で生育する場所が集中している。市街地に近いため、蛇紋岩地の開発、土地利用による連続的な減少のおそれがある。

【危機要因と保護保全対策】

管理放棄、遷移進行、園芸採取、土地の造成が危機要因である。主な生育地である蛇紋岩の鉱山跡地や産業団地の大規模法面の管理においては、外来植物を除去し、蛇紋岩地の植生を回復させ、将来にわたって植生が維持される方法を検討することが必要である。

分布	北海道・四国・九州, ロシア(極東)・朝鮮半島・中国
県内分布	中部, 西部
生育環境と特性	県内では蛇紋岩地帯の裸地や草地に生える一年～越年生草本。

EN 172	リンドウ科	高知県 RL2010: EN
	シノメソウ <i>Swertia swertopsis</i>	高知県 RDB2000: EN 環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

県東部の1か所、西部の5か所で確認された。個体数は10未満から500程度まで、地点によって大きく異なる。樹冠の発達やギャップ形成による光条件の変化で個体数が増減している地点がある。県東部と西部の各1か所で県森林環境税によって防鹿柵が設置されている。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因はニホンジカによる食害、園芸採取、遷移進行である。県東部の防鹿柵設置地点では、柵設置以降安定して多数の個体が確認されているが、県西部の柵内では光環境条件の悪化などにより個体数が減少している。モニタリング調査により個体群の状況を把握し、必要に応じて適切な植生管理などの対策を講じる必要がある。

分布	本州(伊豆半島)・四国・九州
県内分布	東部, 中部, 西部
生育環境と特性	山地の林内や林縁の明るいところに生える一年～越年生草本。

絶滅危惧IB EN

EN
173

キョウチクトウ科

クサタチバナ

Vincetoxicum acuminatum

高知県 RL2010: EN

高知県 RDB2000: EN

環境省 RL2020: NT

【生育状況と選定の理由】

いの町で現存が確認された。60年前の仁淀川町の記録は鳥形山であるが採集地点は不明で、石灰採掘で大きく環境が変化したためか現存は確認できない。県内の生育範囲は非常に限定的である。

【危機要因と保護保全対策】

生育地は自然公園内にあるため、危機要因はないが、長期的には遷移進行など環境の変化により減少するおそれがある。定期的に個体群の状況を把握する必要がある。

分布	本州(福島県南部以西)・四国・九州, 朝鮮半島・中国
県内分布	いの町, 仁淀川町
生育環境と特性	尾根や斜面にある草地や林縁に生える多年生草本。

EN
174

キョウチクトウ科

フナバラソウ

Vincetoxicum atratum

高知県 RL2010: EN

高知県 RDB2000: EN

環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

2000年以降に標本が採集されたのは、4市町村6か所で、調査では10か所で現存を確認し、1か所で確認できなかった。100個体以上確認できた生育地もあるが、ほとんどの生育地でわずかな個体数しか確認できない。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は管理放棄と遷移進行、ニホンジカによる食害および園芸採取である。耕作地周辺では、除草剤の使用や人の踏みつけなどによる影響がある。シカによる食害が拡大している地域では、防鹿柵の設置を検討するとともに、モニタリング調査で個体群の状況を把握する必要がある。生育地点情報の拡散を防ぐ必要がある。

分布	本州・四国・九州, 朝鮮半島・中国
県内分布	中部, 西部
生育環境と特性	山野の草地に生える、ややまれな多年生草本。

EN
175

キョウチクトウ科

ハウヨカモメヅル

Vincetoxicum hoyoense

高知県 RL2010: EN

高知県 RDB2000: -

環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

個体数の増減は少なく、生育地点によっては増加傾向にもあるが、地震や集中豪雨などの自然災害による崩落の危険性が増大している生育地が多い。地形の変化による急激な減少のおそれがある。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は台風や波浪などの自然災害、旧道の管理放棄による遷移の進行である。崖の崩落防止策や定期的な道路法面の植生管理、保守点検が必要である。

分布	四国・九州
県内分布	土佐清水市, 宿毛市, 大月町
生育環境と特性	県内では海岸沿いの花崗岩の崖地やあまり利用されなくなった旧道の法面などに点々と生える多年生草本。

EN
176

キョウチクトウ科

ツクシガシワ

Vincetoxicum macrophyllum

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: VU

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

2000年以降2地域で標本が採集されており、調査でも2地域5か所で現存が確認された。また、宿毛市姫島にも記録があるが標本は未確認(中澤, 山中 1982)である。いずれの生育地も個体数は少ない。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は森林伐採、園芸採取、ニホンジカによる食害などである。シカの食害が深刻な地域でも確認されているが、森林の乾燥化など生育環境が悪化するおそれがある。生育地点を含む広範囲で防鹿柵の設置を検討し、生育環境が維持されるような対策が必要である。

分布	本州・四国・九州
県内分布	中部
生育環境と特性	山の木陰に生える多年生草本。茎の先端がつる状にのびる。県内では主に標高1000m前後の山地の林内に生育する。花序の柄が短く花が小さいツクシガシワの形となる地域もある。

EN 177	ヒルガオ科	□絵 23	高知県 RL2010: EN
	ハマネナシカズラ <i>Cuscuta chinensis</i>		高知県 RDB2000: - 環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

芸西村、四万十町のそれぞれ1か所で現存が確認された。高知市は40年以上前の採集記録で生育地は未確認である。生育範囲は非常に限られている。

【危機要因と保護保全対策】

海浜の植生除去や堤防の改修、外来植物との競合により減少する危険性がある。外来植物のアメリカネナシカズラ *C. campestris* と同所的に生育している生育地では、定期的なアメリカネナシカズラの駆除と個体群の状況の把握が必要である。

分布	本州（神奈川県以西の太平洋側と瀬戸内海沿岸）・四国・九州、朝鮮半島・中国・東南アジア・オーストラリア・インド
県内分布	芸西村、高知市、四万十町；室戸市（1956）、奈半利町（1962）、香南市（1931）、土佐市（1956）
生育環境と特性	海浜のハマゴウなどに寄生する。つる性の寄生植物。

EN 178	ヒルガオ科	□絵 23	高知県 RL2010: VU
	ノアサガオ <i>Ipomoea indica</i>		高知県 RDB2000: VU 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

四万十町で現存が確認されたが、一部で減少のおそれがある。室戸市の採集記録のある2地点では現状不明である。確認地点が限られている。

【危機要因と保護保全対策】

管理放棄と遷移進行が危機要因である。植生管理などの対策を講じる必要があるが、県内では各地で外来ノアサガオ類などが繁茂しているため、地域住民や管理者などと生育情報を共有し、誤認で駆除されないよう注意喚起する必要がある。また、サツマイモの害虫アリモドクソウムシの寄主として除去される場合もあるため、根茎まで完全に除去しないよう注意が必要である。

分布	本州・四国・九州・琉球・小笠原諸島、台湾・中国（南部）から世界の熱帯
県内分布	室戸市、四万十町
生育環境と特性	県内では海岸付近のガードレールや擁壁上のフェンスなどからむ。つる性の多年生草本。

EN 179	ヒルガオ科	□絵 23	高知県 RL2010: EN
	ゲンバイヒルガオ <i>Ipomoea pes-caprae</i>		高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

2000年以降6市町で採集記録があり、そのうち東洋町、室戸市で現存が確認され、四万十町興津で新たに確認された。室戸市室戸岬周辺で消失した地点があり、おそらく台風の影響であるため、回復するかどうか確認が必要である。

【危機要因と保護保全対策】

海岸の改修、管理放棄と遷移進行が危機要因である。海水浴場にも生えるため、駆除されないよう管理者へ注意喚起するとともに、適切な植生管理が必要である。災害対策など海岸の改修工事が避けられない場合には、保全対策を講じる必要がある。

分布	四国・九州南部・琉球・小笠原諸島、東南アジア・オーストラリア・太平洋諸島・アフリカ・西インド諸島・南アメリカ・熱帯～亜熱帯
県内分布	東洋町、室戸市、香南市、南国市、高知市、黒潮町
生育環境と特性	砂浜の少ない高知県にあって、海岸砂地に生えるつる性の多年生草本。大型の台風などで地上部が損傷することがある。海流散布型の亜熱帯性植物で、定着せず消失することがある。

EN 180	ナス科	□絵 23	高知県 RL2010: EN
	イガホオズキ <i>Physaliastrum echinatum</i>		高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

2000年以降に13市町村で採集記録があり、調査では香美市、高知市、土佐町、仁淀川町、越知町で現存が確認され、四万十町と四万十市で確認されなかった。各生育地点で確認される個体が少なく、ニホンジカの食害によって連続して減少している地域がある。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は遷移進行で、そのほか人の踏みつけ、森林伐採、ニホンジカによる食害である。各地点の個体数が少ないため、定期的に確認する必要がある。シカの食害に対しては、生育地を含めた広範囲での頭数管理が必要である。

分布	北海道・本州・四国・九州、朝鮮半島・中国
県内分布	香美市、大豊町、土佐町、大川村、高知市、いの町、仁淀川町、日高村、越知町、中土佐町、四万十町、四万十市、宿毛市
生育環境と特性	山地の林縁や林内に生える多年生草本。

絶滅危惧IB EN

EN
181

ナス科

ヤマホロシ

Solanum japonense var. *japonense*

□絵 23

高知県 RL2010: EN

高知県 RDB2000: EN

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

香美市と仁淀川町のほか、新たに大川村で現存が確認された。馬路村、安芸市、本山町、津野町は未調査である。少数個体が点々と確認され、確認地点数も少ない。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は管理放棄と遷移進行である。ニホンジカによる食害が深刻な地域でも、生残している個体がある。各生育地で定期的に調査を行い、シカの食害や遷移の進行の影響を把握する必要がある。

分布	北海道・本州・四国・九州, 朝鮮半島・中国
県内分布	馬路村, 安芸市, 香美市, 本山町, 大川村, 仁淀川町, 津野町; いの町 (1957)
生育環境と特性	山地の明るい林縁の他, 林道の法面, 路傍, 林内のギャップなどの攪乱された場所に生える。多年生草本。

EN
182

モクセイ科

オオバイボタ

Ligustrum ovalifolium var. *ovalifolium*

高知県 RL2010: EN

高知県 RDB2000: EN

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

大月町柏島で現存を確認したが、個体数は少ない。生育情報が不足している。

【危機要因と保護保全対策】

現在のところ伐採の危険性は少ないが、今後の土地利用の変化などに注意する必要がある。管理者など関係者間での情報共有が必要と考えられる。採集記録のある地域での詳細な調査も必要である。

分布	本州・四国・九州, 朝鮮半島
県内分布	土佐清水市, 宿毛市, 大月町
生育環境と特性	海岸近くの常緑樹林の林縁などに生える。半常緑の低木。

EN
183

イワタバコ科

シシンラン

Lysionotus pauciflorus

□絵 23

高知県 RL2010: EN

高知県 RDB2000: EN

環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

2000年以降は県内で広く標本が採集されており、調査では8市町村で現存を確認した。大径木に着生していることが多い。各地点の開花個体数は100未満である。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は園芸採取で、そのほかに森林伐採、土地造成、河川開発などがある。森林伐採などによる空中湿度の低下は生育に悪影響を与えるため、生育地周辺も含めて森林を保全することが重要である。

分布	本州・四国・九州
県内分布	東部, 中部
生育環境と特性	空中湿度の高い、苔むした樹木の樹幹などに着生する小低木。種子で増えるほか、地下茎が分枝して増殖する。

EN
184

タヌキモ科

ムシトリスミレ

Pinguicula macroceras

□絵 25

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内の生育地は1か所のみである。ニホンジカの食害による被害が深刻になりつつあった2008年、県森林環境税によって防鹿柵が設置された。設置以降、柵の効果を検証するための調査などで毎年100個体程度が確認されており、現時点では減少傾向にはない。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は遷移進行、園芸採取、ニホンジカの食害による影響である。防鹿柵の設置により個体数は安定しているものの、写真撮影を目的に、柵内に人が侵入している痕跡があり、人為的攪乱による悪影響が危惧される。人の侵入を防ぐための対策を講じるとともに、生育地点情報の公開や拡散を防ぐ必要がある。

分布	北海道・本州(近畿地方以北)・四国, 北太平洋東部, 中部, 西部
県内分布	香美市
生育環境と特性	空中湿度が保たれる岩壁に生える多年生草本。

EN 185	タヌキモ科	高知県 RL2010: CR 高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: -
	ホザキノミミカキグサ <i>Utricularia caerulea</i>	

【生育状況と選定の理由】

北川村, 高知市, 三原村で現存を確認した。三原村では, 牧野富太郎以来 130 年ぶりとなる 2019 年に再確認された。県内で現存が確認されるのは 3 か所で, 三原村および高知市の生育地は非常に狭い範囲に限られているため, 消失のおそれがある。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は管理放棄と遷移進行で, そのほか帰化競合と土地造成である。各地点で定期的に個体群の状況を把握し, 明るい湿性地という特殊な生育環境を維持するための管理方法を検討する必要がある。

分布	北海道・本州・四国・九州・琉球, アジア〜オーストラリア・マダガスカル・西太平洋の一部(グアム, パラオ)
県内分布	北川村, 高知市, 三原村; 佐川町 (1887), 土佐清水市 (1891)
生育環境と特性	県内では地面が露出した湿った法面や湿地に生える多年生草本。

EN 186	シソ科	□絵 25	高知県 RL2010: EN 高知県 RDB2000: EN 環境省 RL2020: VU
	トサムラサキ <i>Callicarpa shikokiana</i>		

【生育状況と選定の理由】

2000 年以降に 6 市町村で採集記録があり, 四万十市と三原村, 土佐清水市で現存が確認された。点々と生育が確認されており, 親木の周辺の裸地では稚樹が集中して生えているところがある。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は道路工事と遷移進行である。管理放棄された作業道上に確認されていた個体が, 利用再開により伐採されて消失した。先駆性植物として土地の改変があった場所に多数出現することがあり, 保全のためには長期的な個体群の動態を把握することが必要である。

分布	本州・四国・九州・種子島・屋久島
県内分布	須崎市, 中土佐町, 四万十町, 黒潮町, 四万十市, 土佐清水市, 三原村; 大月町 (1968)
生育環境と特性	県内では土壌が適潤で日当たりの良い林縁や伐採跡地などにまれに生える落葉小高木。

EN 187	シソ科	□絵 25	高知県 RL2010: CR 高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: -
	ヤマクルマバナ <i>Clinopodium chinense subsp. glabrescens</i>		

【生育状況と選定の理由】

2000 年以降に 8 市町村で採集記録があり, そのうち高知市, 仁淀川町, 梶原町, 宿毛市で現存が確認され, 四万十市では確認されなかった。東部から西部まで点々と生育地があるが, それぞれ局所的で, 個体数が限られている。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は草地開発, 道路工事, 人の踏みつけ, 管理放棄と遷移進行である。林道の路傍や法面にみられることが多く, 維持管理に当たっては配慮が必要である。

分布	北海道・本州・四国・九州, ロシア(極東)・朝鮮半島・中国
県内分布	馬路村, 高知市, 仁淀川町, 津野町, 梶原町, 四万十市, 宿毛市, 三原村; 越知町 (1965)
生育環境と特性	山地の林縁や路傍の草地などに生える多年生草本。

EN 188	シソ科	□絵 25	高知県 RL2010: VU 高知県 RDB2000: VU 環境省 RL2020: NT
	マネキグサ <i>Loxocalyx ambiguus</i>		

【生育状況と選定の理由】

香美市では点々と標本が採集されているが, 現存が確認されているのは三嶺さおりが原に設置された防鹿柵内とその周辺および梶原町である。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因はニホンジカによる食害である。香美市三嶺さおりが原では, シカの食害により絶滅寸前であったが, 2008 年に防鹿柵が設置され, 現在では食害を受ける前の状態まで回復した。しかし, 柵外のシカの食害は軽減しておらず, 防鹿柵の点検維持が不可欠である。梶原町では増加している生育地もみられたが, シカの生息域が拡大しつつあり, 食害の進行についてモニタリング調査が必要である。

分布	本州(栃木県以西の太平洋側)・四国・九州
県内分布	香美市, 津野町, 梶原町
生育環境と特性	山の木陰に生える多年生草本で, 地下に細い地下茎があり群生する。県内では溪谷沿いや石灰岩地の林床に生育する。

絶滅危惧 IB EN

EN シソ科
189 **エゾシロネ**
Lycopus uniflorus

高知県 RL2010: EN
高知県 RDB2000: EN
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内の生育地は1か所のみである。湿地の乾燥化による遷移の進行で、個体数の減少が危惧される。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は池沼開発、遷移進行である。生育地は県立自然公園として保護されているものの、遷移の進行で湿地が乾燥化すると、個体数が減少する可能性がある。定期的に個体群の状況と湿地の状態を把握し、適切な植生管理や湿性環境の回復などの対策を検討する必要がある。

分布	北海道・本州・四国・九州，ロシア（極東）・朝鮮半島・中国・北アメリカ
県内分布	仁淀川町
生育環境と特性	山間の湿地に生育する多年生草本で、茎は細長い地下茎から立ち上がる。

EN シソ科
190 **ヤマジソ**
Mosla japonica

高知県 RL2010: VU
高知県 RDB2000: VU
環境省 RL2020: NT

【生育状況と選定の理由】

県内では2000年以降標本が採集されているのは梶原町の1地点のみである。生育地では、200個体程度が確認されることもあるが、年により出現個体数に変動がある。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は産地局限、管理放棄と遷移進行である。現時点では、他の大型の多年生草本が繁茂する状況には至っていないものの、生育地点が限られることから遷移進行による個体数の減少には注意する必要がある。定期的に個体群の状況を把握し、植生管理などの対策を必要に応じて講じる必要がある。

分布	北海道・本州・四国・九州，朝鮮半島
県内分布	仁淀川町，梶原町，四万十町；佐川町（1938），中土佐町（1900以前）
生育環境と特性	日当たりの良い裸地に生える一年生草本。

EN シソ科
191 **ヒメナミキ**
Scutellaria dependens

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

四万十市の狭い範囲の3か所で現存が確認された。須崎市は未調査である。湿地の開発や遷移の進行で、消滅する危険性が大きい、10年以上にわたって生育が確認できる地点もある。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は湿地開発、管理放棄と遷移進行である。水田近くでは除草剤の散布の影響も考えられる。湿潤で明るい環境が保たれることが必須である。

分布	北海道・本州・九州（種子島以北），ロシア（極東）・朝鮮半島・中国・モンゴル
県内分布	須崎市，四万十市；高知市（1937）
生育環境と特性	湿地の草むらに生える多年生草本。

EN シソ科
192 **ホクリクツツナミソウ**
Scutellaria indica var. satokoae

□絵 26

高知県 RL2010: -
高知県 RDB2000: -
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

2018年に県内で初めて確認された。県内では大豊町の一地域のごく狭い範囲に生育が限られており、確認されている個体数も少ない。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は産地局限、洪水による生育地の流失である。2018年に確認されたばかりの種で、県内での分布や生育情報が把握できていない。定期的に個体群の状況を把握する必要がある。

分布	本州（富山県以西）・四国
県内分布	大豊町
生育環境と特性	溪流沿いの、ナルコスゲやアワモリショウマなどが生え、増水時には水没するようところに、パッチ状に生える。多年生草本。

EN
193

ハマウツボ科

タチコゴメグサ

Euphrasia maximowiczii var. *maximowiczii*

高知県 RL2010: EN

高知県 RDB2000: EN

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内では古い記録が多く、梶原町を除き、全て 1970 年以前のものである。調査では梶原町の 1 か所で現存が確認された。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は管理放棄と遷移進行と考えられる。県内の過去の確認地点のほとんどで現存が確認できないが、生育地には自然公園などとして保護されている所や草地在維持されている所があるため、開花時期の広域での調査が必要である。

分布

本州・四国・九州

県内分布

梶原町；香美市（1963）、仁淀川町（1969）、津野町（1970）

生育環境と特性

高標高域の草地に生える一年生草本。

EN
194

ハマウツボ科

ナヨナヨコゴメグサ

Euphrasia microphylla

□絵 26

高知県 RL2010: EN

高知県 RDB2000: EN

環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

県内の確認地点は香美市といの町で、いずれも高標高域の登山道沿いの限られた範囲で確認されている。調査では両方で現存が確認され、個体数は 1,000 未満と推定される。

【危機要因と保護保全対策】

遷移進行やニホンジカの食害による生育環境の変化が危機要因である。また、登山道沿いにある生育地では、人による踏みつけが懸念される。ササ類など周辺植生の繁茂、登山者の利用頻度により個体数が変動すると推察される。定期的に個体群の状況を把握する必要がある。

分布

四国

県内分布

香美市、いの町

生育環境と特性

県内では明るい草地の縁などに生える一年生草本。

EN
195

ハマウツボ科

ツクシコゴメグサ

Euphrasia multifolia var. *multifolia*

高知県 RL2010: EN

高知県 RDB2000: EN

環境省 RL2020: EN

【生育状況と選定の理由】

県内では、2 市町で標本が採集されているが、全て 1984 年以前であり、調査でも確認できなかった。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は管理放棄と遷移進行、ニホンジカによる食害である。自然公園などとして保護されている地域があるものの、1984 年以降は確認されていない。標本採集地点にはシカによる食害が深刻な地域も含まれている。過去に確認された地点での再調査が必要である。

分布

本州・四国・九州

県内分布

仁淀川町、四万十市

生育環境と特性

山地の草地に生える一年生草本。

EN
196

ハマウツボ科

ヤマウツボ（ケヤマウツボを含む）

Lathraea japonica

高知県 RL2010: EN

高知県 RDB2000: EN

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

2 市町で採集記録があり、調査でも現存を確認した。分布は限定的で、確認されている各地点の個体数は少ない。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は樹木の伐採と林床の乾燥化である。気候条件などの影響を受けることが考えられ、出現個体数の年変動が大きいいため、変動も考慮して定期的に個体群の状況を把握する必要がある。

【特記事項】

種内分類群ケヤマウツボ var. *miqueliana* を含める。

分布

本州（宮城県以南）・四国・九州、鬱陵島・中国

県内分布

香美市、仁淀川町

生育環境と特性

県では冷温帯の湿り気のある腐葉土が多いところに生える寄生植物。

EN
197

ハマウツボ科

キヨスミウツボ

Phacellanthus tubiflorus

高知県 RL2010: EN

高知県 RDB2000: EN

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

2000年以降に6市町村で採集記録があり、調査では香美市で現存が確認された。ほかの地点は未調査である。出現個体数は年によって大きく変動する。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は森林伐採、人為的攪乱による林床の環境の変化である。生育環境の変化に敏感と考えられ、出現個体数の変動が大きい。一部の生育地では人の立ち入りによって減少したと考えられる。樹木の根に寄生するため、生育する森林全体を保全することが必要である。

分布	北海道・本州・四国・九州，ロシア（極東）・朝鮮半島・中国
県内分布	馬路村，香美市，大豊町，本山町，越知町，四万十町；四万十市（1967）
生育環境と特性	山地の林内に生え、樹木の根に寄生する多年生草本。

EN
198

ハマウツボ科

ヒキヨモギ

Siphonostegia chinensis

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: -

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

2000年以降採集記録があるのは香美市と高知市，四万十町，宿毛市で、調査では高知市で現存が確認された。そのほか佐川町で新たに確認され、土佐清水市と黒潮町のそれぞれ1か所で消失が確認された。高知市の逢坂山周辺は最大の生育地だが、産業団地の造成工事で近い将来消失が予測される。ほかの生育地はいずれも個体数は少ない。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は草地開発，土地の造成，管理放棄と遷移進行である。半寄生の一年生草本であるため栽培は困難で，生育地での保全が不可欠で，環境である草地の維持が必要である。

分布	北海道・本州・四国・九州・琉球，ロシア（極東）・朝鮮半島・台湾・中国
県内分布	室戸市，田野町，香美市，高知市，佐川町，四万十町，黒潮町，宿毛市；三原村（1889）
生育環境と特性	山の日当たりの良い草地に生える半寄生の一年生草本。ネザサなどイネ科植物の根に寄生する。草刈り管理される比較的自然度の高い草地を好むので，高知市の逢坂峠のような蛇紋岩地ではネザサの背が低く保たれるため，ヒキヨモギの生育環境に適している。

EN
199

キキョウ科

ヒナシャジン

Adenophora maximowicziana

高知県 RL2010: EN

高知県 RDB2000: EN

環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

2000年以降採集記録のある3地域で現存が確認された。個体数の多い地点もあるが，生育地点が限定されている。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は管理放棄と遷移進行，園芸採取，ニホンジカによる食害である。草刈りなどの管理が行われる道路脇や光環境の悪化が懸念される林内などでは，定期的に個体群の状況を把握する必要がある。シカの食害の進行によっては，防鹿柵の設置を検討する必要がある。

分布	四国
県内分布	中部
生育環境と特性	石灰岩地帯の落葉樹林の明るい林床や開放地の岩上に生える。多年生草本。

EN
200

キキョウ科

ツルギキョウ

Codonopsis javanica subsp. *japonica*

高知県 RL2010: EN

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

2000年以降10市町村で標本が採集されており，調査では室戸市，高知市，四万十町，四万十市，三原村において新たな生育地も含め現存を確認したが，高知市，黒潮町，土佐清水市のそれぞれ1か所で確認できなかった。各地点で確認できる個体数が少なく，生育環境の変化により減少している。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は道路工事，除草剤散布，管理放棄と遷移進行である。除草剤の使用によって減少している生育地では，管理者と生育情報を共有し，保全対策を講じる必要がある。林縁の生育地では樹木が茂りすぎないような管理が必要である。

分布	本州（関東地方以西），四国，九州，九州，台湾・中国
県内分布	東洋町，室戸市，北川村，高知市，土佐市，須崎市，四万十町，黒潮町，四万十市，土佐清水市，三原村，宿毛市；安芸市（1892），佐川町（1962）
生育環境と特性	水気のある明るい林床や林縁，林道沿いの斜面で見られる。つる性の多年生草本。

EN 201	キキョウ科	口絵 26	高知県 RL2010:	VU
	キキョウ <i>Platycodon grandiflorus</i>		高知県 RDB2000:	NT
			環境省 RL2020:	VU

【生育状況と選定の理由】

県東部から西部まで点々と記録があるが、現存が確認されたのは6市町村である。採集記録のある所で、確認できない地点や開花サイズの個体がみられなくなった地点もあった。確認された地点の半分は、個体数が10未満であった。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は管理放棄と遷移進行、土地造成、園芸採取である。生育のためには明るい環境が維持されなければならない、植生管理が必要である。既存の生育地に、ほかの場所から持ち込んだり、園芸品種を植えたりしないよう注意が必要である。

分布	北海道・本州・四国・九州・奄美群島, ロシア(極東)・朝鮮半島・中国
県内分布	中部, 西部
生育環境と特性	明るい草地に生える多年生草本。

EN 202	キク科	口絵 26	高知県 RL2010:	EN
	テイショウソウ <i>Ainsliaea cordifolia</i> var. <i>cordifolia</i>		高知県 RDB2000:	EN
			環境省 RL2020:	-

【生育状況と選定の理由】

日高村1か所で消失、四万十町と三原村で現存が確認された。三原村では2009年に県森林環境税により防鹿柵が設置され、個体数が増加した。四万十市では最後の確認から40年以上が経過しており現存不明で、安芸市の記録地点ではニホンジカの食害の影響が危ぶまれるが未調査である。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は管理放棄と遷移進行である。本種については調査不足であるため、県内の過去の記録を再調査し現存を確認する必要がある。ニホンジカによる食害がある地域では防鹿柵の設置を検討する必要がある。

分布	本州・四国
県内分布	安芸市, 香南市, 日高村, 四万十町, 四万十市, 三原村; 中土佐町(1951)
生育環境と特性	林内のやや明るいところや林縁, 尾根などに生える多年生草本。

EN 203	キク科	口絵 26	高知県 RL2010:	CR
	ヒロハテイショウソウ <i>Ainsliaea cordifolia</i> var. <i>maruoi</i>		高知県 RDB2000:	-
			環境省 RL2020:	-

【生育状況と選定の理由】

生育地は安芸市の2か所のみで、数百から百数十個体の個体群だが、生育範囲は狭い。個体数の増減はほとんどないと推測される。なかには葉が細く表面に斑のあるテイショウソウに近い個体もある。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は管理放棄と遷移進行である。2か所の生育地のうちの1か所は水路脇の常緑広葉樹林とスギ人工林の林縁部で、もう1か所は川横の急傾斜の竹林内である。両生育地とも管理はされておらず、最近では倒木も多く環境は悪化傾向にある。定期的に個体群の状況を把握し、植生管理などの対策を講じる必要がある。

分布	本州・四国
県内分布	安芸市
生育環境と特性	薄暗い林内のやや湿ったところに生える多年生草本。地下茎は細く、節があって這い、群生する。晩秋に開花するがハナアブやヒラタアブの仲間などがよく吸蜜に訪れ、結実率は高いようである。

EN 204	キク科	口絵 26	高知県 RL2010:	EN
	ソナレノギク <i>Aster hispidus</i> var. <i>insularis</i>		高知県 RDB2000:	EN
			環境省 RL2020:	-

【生育状況と選定の理由】

大月町のみで現存が確認され、宿毛市の離島では調査時期が適切でなかったため確認できていない。大月町の生育範囲と個体数は限られており、周辺の植物の繁茂で連続的減少が予測される。

【危機要因と保護保全対策】

遷移進行や産地局限が危機要因で、そのほか津波などの大規模な自然災害による生育地の消失も考えられる。生育地点が限定されており、適切な植生管理と定期的な個体群の状況の把握が必要である。

分布	四国
県内分布	宿毛市, 大月町
生育環境と特性	海岸近くの草原に生える越年生草本。

絶滅危惧IB EN

EN
205

キク科

ツルギカンギク

Chrysanthemum indicum var. *tsurugisanense*

高知県 RL2010: EN
高知県 RDB2000: -
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

香美市の1地域にのみ生育し、産地が限定されるが、個体数は比較的多い。

【危機要因と保護保全対策】

産地局限とニホンジカによる食害が危機要因である。定期的に個体群の状況を把握し、防鹿柵の設置や植生管理などの対策を講じる必要がある。

分布	四国
県内分布	香美市
生育環境と特性	石灰岩地帯の林縁に生える多年生草本。

EN
206

キク科

イシダテアザミ

Cirsium ishidatense

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: -
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

現存は香美市および梶原町の冷温帯域で確認されている。和名の由来である石立山ではニホンジカの食害が深刻になり、著しく個体数が減少している。

【危機要因と保護保全対策】

ニホンジカによる食害が危機要因である。食害を受けていない地域では個体数は維持されているが、シカの生息域では定期的に個体群の状況を把握し、必要に応じて防鹿柵の設置などの対策を講じる必要がある。

分布	四国
県内分布	香美市, 梶原町
生育環境と特性	山地の林下に生える多年生草本。

EN
207

キク科

フジバカマ

Eupatorium japonicum

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: NT

【生育状況と選定の理由】

明らかに典型的な園芸品を除き、以前から定着している個体群については、本来の自生か、園芸品の植栽由来の個体群なのか判別が難しい。現時点で自生と考えられる地点における推定個体数は250未満で、連続的減少が予測される。

【危機要因と保護保全対策】

堤防や土手の草刈りなどの管理放棄と遷移進行が危機要因である。また、防草シートの設置により、生育面積が減少した地点もある。一部の生育地ではかなり以前から園芸品の植栽があったとの情報があり、遺伝的攪乱が危惧される。地域で聞き取り調査などによって、情報を蓄積するとともに、定期的に個体群の状況について調査する必要がある。

分布	本州・四国・九州, 朝鮮半島・中国・ベトナム
県内分布	南国市, 高知市, 本山町
生育環境と特性	堤防や法面など人里に生える多年生草本。

EN
208

キク科

スイラン

Hololeion krameri

高知県 RL2010: NT
高知県 RDB2000: -
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

現存を北川村, 香美市および高知市の3地域で確認した。環境が悪化している地域があり、連続的な減少が予測される。

【危機要因と保護保全対策】

管理放棄による湿地の乾燥地化と、湿地周辺の過剰な草刈りが危機要因である。定期的に個体群の状況を把握し、生育環境が適切であるかどうか検証しながら維持管理を行っていく必要がある。

分布	本州(中部地方以西)・四国・九州
県内分布	北川村, 香美市, 南国市, 高知市, 佐川町
生育環境と特性	湿地に生える多年生草本。

EN
209

キク科

ホソバオグルマ

Inula linariifolia

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

梶原町で現存が確認された。確認個体数は100以上で、安定して維持されている。

【危機要因と保護保全対策】

管理放棄と遷移進行が主な危機要因である。確認地点では個体数は安定して維持されているが、低木林化が進むようであれば草地の維持管理作業が必要である。定期的な個体群の状況の把握が必要である。

分布	本州・四国・九州, ロシア(極東)・朝鮮半島・中国
県内分布	津野町, 中土佐町, 四万十町, 梶原町
生育環境と特性	水田の畔や湿地に生える多年生草本。

EN
210

キク科

キダチハマグルマ

Melanthera biflora

□絵 27

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: -

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

本種は、高知県 RL2010 でオオキダチハマグルマ(EN)とされていたもの。ランクの変更はない。室戸市の海岸域の4地点で現存が確認され、2地点で消失が確認された。個体数は1地点で連続的な減少が観察され、そのほかの地点では増減はなかった。

【危機要因と保護保全対策】

台風などの自然災害による個体の流失が危機要因である。個体や生育地が消失するおそれがある生育地点から、種子採取と保存の手法の検討など、域外保全を図る必要がある。

分布	四国・九州(南部)・琉球・小笠原諸島, 台湾・中国(南部)・太平洋諸島・マレーシア・インド・オーストラリア・アフリカ
県内分布	室戸市, 須崎市
生育環境と特性	海岸近くの空き地や林縁に生えるつる性多年生草本。

EN
211

キク科

オオハマグルマ

Melanthera robusta

高知県 RL2010: EN

高知県 RDB2000: EN

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

大月町2地点で現存が確認され、そのうち1地点では群生している。

【危機要因と保護保全対策】

災害対策のための海岸開発、台風などの自然災害による個体の流失のおそれがあるが、台風で周辺植生が消失したあとに群生したこともある。生育地点が限られているため、種子採取と保存の手法の検討など、域外保全を図る必要がある。

分布	本州(紀伊半島)・四国・九州・琉球, 台湾
県内分布	室戸市, 黒潮町, 大月町
生育環境と特性	海岸の岩礫地や崖などに生える。地面を這う多年生草本。

EN
212

キク科

ヤマタイミンガサ

Parasenecio yatabei var. *yatabei*

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: -

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

近年の確認地点はいの町本川のみで、確認地点数と個体数は多くない。

【危機要因と保護保全対策】

生育地は自然公園内にあり、10年間顕著な減少は認められず、現在のところ危機要因はない。しかし、ニホンジカの生息密度が高まりつつあるため、定期的に個体群の状況を把握し、状況によっては防鹿柵の設置を検討する必要がある。

分布	本州・四国
県内分布	いの町
生育環境と特性	高標高域の山地の湿った落葉樹林下に生える。多年生草本。

EN
213

キク科

オオダイトウヒレン

Saussurea nipponica

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: VU

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

いの町と香美市2地域のみで現存が確認され、1地域ではニホンジカによる食害で連続的な個体数の減少がみられた。県森林環境税によって防鹿柵が設置された生育地がある。

【危機要因と保護保全対策】

ニホンジカによる食害が危機要因である。香美市の防鹿柵設置地点では、柵内の個体数が増加傾向を示しているなど一定の効果が得られている。いの町の石鎚山系ではこれまで食害は確認されていないが、シカの生息密度が高くなりつつあるため、定期的な個体群の状況の把握が必要である。

分布 本州（近畿地方・中国地方）・四国・九州

県内分布 香美市、いの町、津野町；大豊町（1904）

生育環境と特性 山地の林縁や路傍に生える多年生草本。

EN
214

キク科

クリシマヒゴタイ

Saussurea scaposa

□絵 28

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

梶原町の2地点で現存が確認されたが、分布域は限定されている。過去の林道工事により生育地が著しく影響を受け個体数が激減した。現状個体数は維持されているが、開花個体数は多い地点でも100未満である。

【危機要因と保護保全対策】

管理放棄と遷移進行が危機要因である。県道や散策道沿いの生育地では、道路改修や整備などによって消失する可能性があるため、県および梶原町と情報を共有し、植生管理の方法などを協議していく必要がある。定期的な調査で個体群の状況を把握することも重要である。

分布 四国・九州

県内分布 梶原町

生育環境と特性 蛇紋岩地とその周辺、アカマツ林、スギやヒノキの人工林または落葉樹林の林縁や林内に生育する。多年生草本。

EN
215

キク科

トサトウヒレン

Saussurea yoshinagae

高知県 RL2010: EN

高知県 RDB2000: EN

環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

高知市内の3地点で現存が確認されたが、分布域は限定され、連続的減少が予測される。日高村及び南国市では近年採集記録がない。

【危機要因と保護保全対策】

管理放棄と遷移進行、蛇紋岩採掘による生育地の消失が危機要因である。確認された個体数が限られており、生育環境が安定していない地点も多いため、生育域内保全に加えて、域外保全による系統保存の必要がある。

分布 四国

県内分布 南国市、高知市、日高村

生育環境と特性 低地の蛇紋岩地帯の草地または林縁斜面に生育する。多年生草本。

EN
216

キク科

キオン

Senecio nemorensis

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

採集記録のある県西部の2市で現存が確認された。土佐清水市では個体数が著しく増加し、四万十市では激減している。

【危機要因と保護保全対策】

本種はニホンジカの不嗜好性植物であり、シカの食害が深刻な地域では個体数の増加がみられる地点がある。一方、遷移の進行により衰退している地点もあるため、今後の個体数の推移について定期的な調査を行い、植生管理などの対策を検討する必要がある。

分布 北海道・本州・四国・九州、ロシア（極東）～ヨーロッパ・朝鮮半島・台湾・中国

県内分布 四万十市、土佐清水市

生育環境と特性 山地の明るい疎林や路傍に生える多年生草本。

EN 217	キク科 タムラソウ <i>Serratula coronata</i> subsp. <i>insularis</i>		高知県 RL2010: EN 高知県 RDB2000: EN 環境省 RL2020: -
-----------	--	--	--

【生育状況と選定の理由】

2000年以降は香美市と高知市で採集記録があり、調査では高知市で現存を確認した。一部の生育地では、池の改修や適正な管理がされていないため、個体数が減少している。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は管理放棄と遷移進行である。数か所の生育地では目立った減少を確認していないが、今後、棚田の耕作放棄や湿地の荒廃によって減少する可能性がある。保護対策は、定期的な草刈りなど適切な植生管理の継続である。

分布	本州・四国・九州，朝鮮半島
県内分布	香南市，高知市；南国市（1971），仁淀川町（1892）
生育環境と特性	県内では中部の蛇紋岩地のわずかな湿地や水田の畦に生育している。多年生草本。

EN 218	キク科 ヤマボクチ <i>Synurus palmatopinnatifidus</i> var. <i>indivisus</i>		高知県 RL2010: CR 高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: -
-----------	---	--	--

【生育状況と選定の理由】

県内ではいの町および梶原町のそれぞれ2地点で現存が確認された。調査で確認地点数は増加したが、各地点とも開花個体数は20株未満である。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は道路工事、遷移進行である。道路工事によって生育地が破壊されないように行政や事業者と情報を共有するとともに、定期的に個体群の状況を把握し、植生管理などの対策を講じる必要がある。

分布	本州（愛知県以西）・四国・九州，朝鮮半島（南部）
県内分布	いの町，梶原町
生育環境と特性	日がほどよく差し込む，山地の林内や林縁の岩場に生育する。多年生草本。

EN 219	キク科 ヤマザトタンポポ <i>Taraxacum denudatum</i> var. <i>arakii</i>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">口絵 29</div>	高知県 RL2010: CR 高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: NT
-----------	---	--	---

【生育状況と選定の理由】

2010年から5年ごとにタンポポ調査が行われ、分布状況とその推移が観察されている。いの町、津野町、梶原町で採集記録があり、調査でも現存が確認された。生育地点、個体数とも少なく、連続的な減少が予測される。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は管理放棄と遷移進行である。生育地は道路の法面や路傍、農地に接する草地などであり、本種や競合する植物の生活史を考慮した植生管理を検討する必要がある。

分布	本州（福井県以西～山口県）・四国（愛媛県・高知県）
県内分布	いの町，津野町，梶原町
生育環境と特性	平地から山地にかけての明るい道端や草地に生える。多年生草本。

EN 220	キク科 サワオグルマ <i>Tephrosia pierotii</i>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">口絵 29</div>	高知県 RL2010: EN 高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: -
-----------	---	--	--

【生育状況と選定の理由】

9地域10地点以上で現存が確認されたが、確認できなかった地点や個体数が著しく減少した地点もあった。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は水田の畦や土手、休耕田などの管理放棄とそれに伴う遷移進行、動物による食害である。主な生育環境が里地の湿地に限定されており、定期的に個体群の状況を把握し、各地点で保全方法を検討する必要がある。

分布	本州・四国・九州・琉球
県内分布	東洋町，室戸市，香南市，香美市，高知市，土佐町，佐川町，四万十市，土佐清水市，三原村
生育環境と特性	日当たりの良い山間や谷部の湿地に生える。多年生草本。

EN **ゴマギ**
221 *Viburnum sieboldii* var. *sieboldii*

高知県 RL2010: EN
高知県 RDB2000: -
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

四万十川水系の下流域のごく限られた範囲に分布している。川に近い低地の道路脇の低木林、林縁、高水敷の林内などで確認されており、生育地点は多くない。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は生育地点により異なり、森林伐採、河川開発、洪水、土地造成、道路工事、遷移進行など様々である。保護のためには、関係者間で分布情報を共有し、保全対策の実施が不可欠である。定期的な個体群の状況の把握も必要である。

分布	本州・四国・九州
県内分布	四万十市
生育環境と特性	標高 50 ~ 1300m の低地や丘陵地の落葉樹林下に生え、しばしば湿ったところに生える。県内では林縁、路傍、河原などでも確認されている。落葉高木。

EN **ウスバヒョウタンボク**
222 *Lonicera cerasina*

高知県 RL2010: EN
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

2000 年以降 6 市町村で標本が採集されており、調査では越知町で現存が確認された。確認地点が点在しており、県内全体の個体群の現状は不明であるが、ほとんどの確認地点が自然性の高い場所で、環境の大きな変化もないと考えられる。

【危機要因と保護保全対策】

森林伐採や石灰岩の採掘などの人為的攪乱で消失することが多いため、管理者や地権者との生育情報の共有と保全対策のための協議などが必要である。現存確認地点数が少ないため、採集記録地点などでの再調査が必要である。特に、ニホンジカによる食害が発生している地域では、状況によっては防鹿柵の設置などの対策が必要である。

分布	本州（近畿地方以西）・四国・九州
県内分布	芸西村、香美市、大豊町、仁淀川町、越知町、梶原町
生育環境と特性	山地の明るい林床や林縁に生育し、石灰岩地に多い。落葉低木。

EN **ミヤマウグイスカグラ**
223 *Lonicera gracilipes* var. *glandulosa*

高知県 RL2010: EN
高知県 RDB2000: -
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

2000 年以降 4 町で採集記録があり、越知町で現存が確認された。確認されている生育地点が限定されており、ニホンジカの食害を原因とする生育環境の悪化により個体数が減少するおそれがある。

【危機要因と保護保全対策】

遷移進行、ニホンジカによる食害、森林伐採などが危機要因である。シカの食害がある地域では、捕獲などを積極的に行って頭数管理を進めるとともに、定期的に個体群の状況を把握し、防鹿柵の設置などの対策をとる必要がある。

分布	本州（東北地方・北陸地方・山陰地方）・四国・九州
県内分布	大豊町、仁淀川町、越知町、四万十町
生育環境と特性	山地の明るい林床や林縁に生育するが、乾燥しやすいために立地には少ない。落葉低木。

EN **ヤマウグイスカグラ**
224 *Lonicera gracilipes* var. *gracilipes*

高知県 RL2010: EN
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

2000 年以降 7 市町村で確認されており、調査では香美市と佐川町で現存が確認された。馬路村や本山町、梶原町の生育地は未調査であるが、保護林や管理されている場所であるため、大きな変化はないと推測される。

【危機要因と保護保全対策】

森林伐採、遷移進行、ニホンジカによる食害が危機要因である。シカの食害がある地域では、捕獲などを積極的に行って頭数管理を進めるとともに、定期的に個体群の状況を把握し、防鹿柵の設置などの対策をとる必要がある。

分布	本州（中西部）・四国・九州
県内分布	馬路村、香美市、大豊町、本山町、日高村、佐川町、越知町、梶原町
生育環境と特性	山地の明るい林床や林縁に生育するが、乾燥しやすいために立地には少ない。落葉低木。

EN 225	スイカズラ科	高知県 RL2010: EN
	ヤマヒョウタンボク <i>Lonicera mochidzukiana</i> var. <i>nomurana</i>	高知県 RDB2000: EN 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

香美市と仁淀川町の石灰岩地に採集記録があるが、最後の記録は2005年である。過去には非石灰岩地でも記録がある。調査が不十分なため、県全体の分布状況は不明である。

【危機要因と保護保全対策】

遷移の進行とニホンジカによる食害が危機要因と考えられる。現状把握が不十分なため、特にシカの食害が深刻な地域で調査を行う必要がある。

分布	本州（東海地方以西）・四国・九州
県内分布	香美市，仁淀川町
生育環境と特性	石灰岩地の林中にみられる。落葉低木。

EN 226	セリ科	高知県 RL2010: EN
	ヒメノダケ <i>Angelica cartilaginomarginata</i> var. <i>cartilaginomarginata</i>	高知県 RDB2000: EN 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

2000年以降に採集記録があるのは香美市，南国市，高知市で，調査でも現存が確認された。生育地，個体数とも少なく連続的な減少が予測される。

【危機要因と保護保全対策】

管理放棄と遷移進行，土地造成が危機要因である。生育地は蛇紋岩地の草地であり，地権者の協力を得ながら，定期的に個体群の状況を把握し，刈取りなど植生管理を継続する必要がある。

【特記事項】

種内分類群コウライヒメノダケ var. *matsumurae* とは葉形が連続しているとの理由からここでは区別しない。

分布	本州（近畿地方）・四国・九州，朝鮮半島
県内分布	香美市，南国市，高知市
生育環境と特性	蛇紋岩地帯の草地に生える多年生草本。

EN 227	セリ科	高知県 RL2010: VU
	ミシマサイコ <i>Bupleurum falcatum</i>	高知県 RDB2000: EN 環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

2000年以降は9市町村で標本が採集されており，4市町村で現存が確認され，新たに1地域で生育地が確認された。

【危機要因と保護保全対策】

かつて主な危機要因は道路工事，薬用採取であったが，現在は管理放棄による遷移の進行に変化した。草刈りなどによる草地の維持管理作業が必要であるが，水田横の平地では本種のみを残して管理するのは難しいと考えられる。定期的に個体群の状況を把握し，持続可能な植生管理方法を検討する必要がある。

分布	本州・四国・九州，ロシア（極東）・朝鮮半島・中国・モンゴル・ヨーロッパ
県内分布	中部，西部
生育環境と特性	やや明るい草地に生える多年生草本。

EN 228	セリ科	□絵 30	高知県 RL2010: VU
	ツルギハナウド <i>Heracleum sphondylium</i> var. <i>turugisanense</i>		高知県 RDB2000: VU 環境省 RL2020: EN

【生育状況と選定の理由】

香美市といの町本川の山岳地帯の高標高域で確認されている。個体数は1,000未満と推定される。県森林環境税で防鹿柵が設置されている生育地がある。ニホンジカの食害などによる生育環境の悪化に伴う個体の連続的な減少が危惧される。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は遷移進行，ニホンジカによる食害である。香美市の生育地の一部で防鹿柵が設置されており，柵内では個体数は安定して維持されている。遷移の進行による影響については継続的な観察が必要である。シカの頭数制限には時間がかかるため，防鹿柵の維持管理を確実に継続する必要がある。

分布	四国
県内分布	香美市，いの町
生育環境と特性	谷間の岩場に生える。越年～多年生草本。

絶滅危惧IB EN

EN セリ科
229 ヤマゼリ
Ostericum sieboldii

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

現存が確認されているのは大豊町の1地域のみで、200個体未満と推定される。土砂災害で通行止めが長期間におよび、道路脇の草地が粗放的に管理されるようになったためか、一時的に確認される個体数が増加している。谷の付近では土砂の流出で埋まってしまった生育地がある。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は道路工事、管理放棄と遷移進行である。道路工事で生育地が消失しないように、管理者などと生育情報を共有する必要がある。全体として減少は確認されていない。定期的な個体群の状況把握が必要である。

分布	本州・四国・九州, 朝鮮半島・中国
県内分布	大豊町
生育環境と特性	県内では林縁や道路脇の草地などに生える一回繁殖型の多年生草本。

EN セリ科
230 ムカゴニンジン
Sium ninsi

高知県 RL2010: VU
高知県 RDB2000: VU
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

2000年以降4市町で採集記録があり、香南市を除く3市町で現存が確認された。四万十町の保護区以外では、各地点の個体数が少ない。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は管理放棄と遷移進行である。水路沿いや他の植物から被陰されるような不安定な生育環境が多く、消失するおそれがある。四万十町の生育地では植生管理によって個体数が増加傾向にある。他の生育地でも適正な植生管理などの対策を行う必要がある。

分布	北海道・本州・四国・九州, 朝鮮半島・中国
県内分布	香南市, 南国市, 高知市, 四万十町; 佐川町 (1902)
生育環境と特性	湿地や水中に生える多年生草本。

VU 1	ヒカゲノカズラ科	高知県 RL2010: EN 高知県 RDB2000: EN 環境省 RL2020: -
	ヒメスギラン <i>Huperzia miyoshiana</i>	

【生育状況と選定の理由】

県内の分布は1地域の高標高域に限られており、個体数は250～1,000と推定される。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は遷移進行で、そのほか園芸採取、産地局限などがある。生育地は自然公園内にあるため森林が伐採されるおそれはない。本種の生育範囲では、ニホンジカの生息が確認されつつあり、植生の衰退と近年の豪雨の相乗的な影響で個体が流失するおそれがあることから、防鹿柵の設置を早期に検討し、植生の保全に務める必要がある。

分布	北海道・本州・四国・九州・屋久島、ロシア（樺東）・朝鮮半島・中国・北米
県内分布	中部
生育環境と特性	県内では高標高域の岩や樹幹に着生する。小型の常緑性のシダ植物。

VU 2	ヘゴ科	□絵2	高知県 RL2010: EN 高知県 RDB2000: EN 環境省 RL2020: -
	クサマルハチ <i>Cyathea hancockii</i>		

【生育状況と選定の理由】

県内では東洋町と四万十市に限られて生育する。各地域では個体数は少なく、それぞれの地域で天然記念物に指定されている生育地がある。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は森林伐採、管理放棄や遷移進行による生育環境の変化である。歩道脇や林道法面の生育地では、配慮のない草刈りで悪影響を受けたり、消失したりする可能性があるため、管理者への注意喚起が必要である。

【特記事項】

四万十市八東の「八東のクサマルハチ自生地」は国指定天然記念物(1928)、東洋町甲浦の「クサマルハチ自生地」は東洋町指定天然記念物(1968)。

分布	本州（紀伊半島南部）・四国・九州・琉球、台湾・中国
県内分布	東洋町、四万十市
生育環境と特性	県内では常緑広葉樹の林床や林内の崖地、林道の法面に生育する。常緑性のシダ植物。

VU 3	イノモトソウ科	高知県 RL2010: VU 高知県 RDB2000: VU 環境省 RL2020: -
	ホウライシダ <i>Adiantum capillus-veneris</i>	

【生育状況と選定の理由】

安芸市と土佐清水市のそれぞれ1地点で現存を確認した。土佐清水市では10年前と比較して10分の1程度に減少しており、消失のおそれがある。

【危機要因と保護保全対策】

安芸市の伊尾木洞は国の天然記念物に指定され、個体数は安定している。土佐清水市では生育地点が減少しているが、原因がわからないため、生育環境や個体数の変動を調査して保全対策を講じる必要がある。

【特記事項】

安芸市伊尾木の「伊尾木洞のシダ群落」は国指定天然記念物(1926)。

分布	本州（関東地方以西）・四国・九州・琉球、世界の暖温帯・熱帯
県内分布	安芸市、土佐清水市
生育環境と特性	県内では海岸近くの崖の岩に着生する。常緑性のシダ植物。高知市や土佐市の市街地の側溝で確認される個体は栽培の逸出と考えられる。

VU 4	イノモトソウ科	高知県 RL2010: VU 高知県 RDB2000: VU 環境省 RL2020: -
	ナカミシシラン <i>Haplopteris fudzinoi</i>	

【生育状況と選定の理由】

県内では多数の標本が採集されており、近年の調査でも溪流沿いの樹幹や岩上に着生している場所が少数確認されている。倒木上で成熟個体が発見されることから、通常の調査方法では目の届かない高木の樹幹に着生し、未発見の個体があると考えられる。

【危機要因と保護保全対策】

森林伐採と遷移進行などが危機要因である。着生木のある森林の環境が維持されるよう、管理者などと生育情報を共有しておくことも必要である。

分布	本州（東京都以西）・四国・九州・屋久島、中国
県内分布	馬路村、北川村、大豊町、本山町、いの町、仁淀川町、須崎市、津野町、梶原町、四万十町、宿毛市
生育環境と特性	深山の樹幹や岩上に着生する。常緑性のシダ植物。

絶滅危惧II VU

VU 5	イノモトソウ科	□絵 2	高知県 RL2010: VU
	ハチジョウシダ <i>Pteris fauriei</i>		高知県 RDB2000: VU 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

東部と西部に分布に限られるが、確認地点は比較的多く 10 地点を超え、調査では東洋町と土佐清水市の合計 5 か所で現存が確認された。各地点で個体数は少ないが、全体として増減はないと思われる。推定個体数は 250 以上である。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は遷移進行である。比較的強健な種であるが、林床生であるため森林伐採で減少するおそれもある。ニホンジカによる食害は受けていないが、ナチシダやオオバノハチジョウシダのように著しく増加していないため、危機の評価の変更については慎重に行う必要がある。

分布	本州・四国・九州・琉球、朝鮮半島・台湾・中国・インドシナ半島
県内分布	東洋町、室戸市、土佐清水市、宿毛市
生育環境と特性	暖温帯～亜熱帯にみられる常緑性のシダ植物で、温暖な常緑樹林やスギ人工林を好む。

VU 6	イノモトソウ科	□絵 2	高知県 RL2010: VU
	アイコハチジョウシダ <i>Pteris laurisilvicola</i>		高知県 RDB2000: EN 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

東部に多数の生育確認地点があり、推定個体数は 1,000 未満。調査でも 100 以上の個体が確認されている。東洋町ではスギ人工林の皆伐で影響を受けている生育地があるが、全体的には連続的減少はないと推測される。

【危機要因と保護保全対策】

遷移進行と森林伐採が危機要因である。比較的強健な種であるが、林床生であるため森林伐採で減少するおそれがある。ニホンジカによる食害は受けていないが、ナチシダやオオバノハチジョウシダのように著しく増加していないため、危機の評価の変更については慎重に行う必要がある。

分布	本州（伊豆半島以西）・四国・九州・屋久島・種子島
県内分布	東洋町、北川村、室戸市、芸西村、高知市、中土佐町、四万十市、土佐清水市、三原村
生育環境と特性	林内に点々と生育する。ハチジョウシダとの区別が難しい。常緑性のシダ植物。

VU 7	イノモトソウ科	□絵 2	高知県 RL2010: EN
	ヤワラハチジョウシダ <i>Pteris natiensis</i>		高知県 RDB2000: EN 環境省 RL2020: EN

【生育状況と選定の理由】

県内の東部と西部に比較的多くみられる。近年確認されていた生育地点は 10 地点で、推定個体数は 1,000 未満であり、250 を超える個体群はないと推測される。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は森林伐採で、そのほか遷移進行などである。ニホンジカによる食害は受けていないと考えられる。

分布	本州・四国・九州・琉球（トカラ列島以北）
県内分布	東洋町、室戸市、須崎市、中土佐町、四万十市、土佐清水市、三原村
生育環境と特性	和名の通り葉質が柔らかい。温暖湿潤な照葉樹林やスギ人工林内にみられる。無配生殖を行う。常緑性のシダ植物。

VU 8	イワヤシダ科	□絵 2	高知県 RL2010: VU
	イワヤシダ <i>Diplaziopsis cavalieriana</i>		高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内では点々と生育地があるが、2000 年以降 5 市町村で採集記録があり、新しい確認地点も含め 3 市町 4 地点で現存が確認された。既知の生育地での調査が十分でなく、新しい地点も見つかっており、全体として減少したかどうかは判断できない。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は森林伐採、道路工事、遷移進行である。調査が不足しているため、採集記録地域で再調査が必要である。

分布	本州・四国・九州、中国・南アジア
県内分布	馬路村、北川村、安芸市、香美市、土佐町、大川村、いの町、須崎市、津野町、梶原町、四万十市、四万十市；中土佐町（1943）
生育環境と特性	様々な植生の林床や林縁に点々とみられ、県内では群生せず少ない個体数が点々とみつかっている。夏緑性のシダ植物。

絶滅危惧 II VU

VU 9	チャセンシダ科	□絵 3	高知県 RL2010: EN
	クログネシダ <i>Asplenium coenobiale</i>		高知県 RDB2000: EN 環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

4市町村で現存が確認された。生育環境が非常に限定されている。調査で確認個体数が増えたことにより評価が下がったが、主要生育地の環境破壊があれば、再びランクが上がる可能性がある。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は遷移進行による生育環境の変化で、そのほかに森林伐採、道路工事などがある。森林の鬱閉や伐開による乾燥化で減少している生育地もある。人工条件下での栽培が難しいことから、自生環境での保全が不可欠である。

分布	四国, 中国・ベトナム
県内分布	中部
生育環境と特性	やや明るい林内や林縁の石灰岩上に生える。常緑性のシダ植物。

VU 10	チャセンシダ科	□絵 3	高知県 RL2010: VU
	イチヨウシダ <i>Asplenium ruta-muraria</i>		高知県 RDB2000: VU 環境省 RL2020: NT

【生育状況と選定の理由】

山地の石灰岩地に点々と分布し、2000年以降4市町で採集記録がある。調査では3市町10か所で現存が確認されたが、石灰岩の岩壁の割れ目などに生育するため、確認できている地点は限られていると考えられる。

【危機要因と保護保全対策】

遷移進行と石灰採掘、森林伐採などが危機要因である。岸壁の崩壊の危険性もある。シダ植物の中でも観賞価値が高く人気があり、道路脇など手近にみられる個体は採取の対象となるため、生育地点情報の公開や拡散には注意が必要である。

分布	北海道・本州・四国・九州, ロシア・朝鮮半島・台湾・中国・南アジア・南西アジア・中央アジア・ヨーロッパ・北米(東部)
県内分布	香美市, 高知市, 仁淀川町, 越知町, 津野町, 梶原町
生育環境と特性	石灰岩地の明るい林内や石灰岩の露岩に生える。常緑性のシダ植物。

VU 11	シシガシラ科	□絵 3	高知県 RL2010: CR
	オサシダ <i>Blechnum amabile</i>		高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

本山町にのみ採集記録があり、現存も確認された。中部地方から北海道地方にかけて多く生育するが、西日本では生育地が限られる。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は産地局限と道路工事、遷移進行である。管理者などと生育情報を共有し、生育地の森林環境を保全する必要がある。

分布	本州(鳥取県以東)・四国・九州・屋久島
県内分布	本山町
生育環境と特性	山地の林下に生える。常緑性のシダ植物。

VU 12	メシダ科	□絵 3	高知県 RL2010: VU
	テバコワラビ <i>Athyrium atkinsonii</i>		高知県 RDB2000: - 環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

県内では剣山山系と石鎚山山系の高標高域のみに限られる。香美市の徳島県境の三嶺ではニホンジカの食害により現存が確認できない。石鎚山山系では瓶ヶ森林道沿いなど多地点で現存が確認されている。

【危機要因と保護保全対策】

登山道沿いの草刈りあとや道路法面などにもみられ、人の踏みつけによる影響があると考えられる。成長期には継続して展葉しており、草刈りへの耐性があると推測されることから、他の植物からの被陰で衰退しないよう継続した管理が必要である。

分布	本州(関東地方以西)・四国・九州, 台湾・中国・南アジア
県内分布	香美市, いの町, 仁淀川町
生育環境と特性	林縁や明るい林床, 草地, 道路法面に生育する。夏緑性のシダ植物。

絶滅危惧II VU

VU
13

メシダ科

キリシマヘビノネゴザ

Athyrium kirishimaense

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: -

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

過去に採集された標本は石鎚山山系と剣山山系の高知県側の高標高域の数地点のみである。

【危機要因と保護保全対策】

採集記録地点は自然公園内にあり、環境は大きく変化していないと推測される。2地域ともニホンジカの生息域が拡大しつつあり、尾根部にある登山道は移動に利用されるため、採集記録地域での適期の詳細な調査が必要である。

【特記事項】

高知県植物誌でウスバヘビノネゴザ（高知県 RL2010：VU）とされていたもの。

分布 伊豆諸島（御蔵島）・四国・九州・屋久島

県内分布 香美市（1959）、いの町（1963）

生育環境と特性 県内では高標高域の尾根付近などに限られる。夏緑性のシダ植物。

VU
14

メシダ科

ツクシイヌワラビ

Athyrium kuratae

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: -

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

採集標本は多数あるが、2000年以降の採集記録は室戸市と大豊町のみである。調査では既知の分布範囲から40個体以上が確認された。仁淀川町、四万十市、土佐清水市の記録は40年以上前のもので未調査である。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因として、過剰な草刈り、林道改修、土砂災害が考えられる。西部の生育地はニホンジカの生息域であり、過去の採集記録のある地域で詳細な調査が必要である。

【特記事項】

分子系統解析ではタニイヌワラビとは別系統に位置していることが報告されている（Adjie et al. 2008）。

分布 本州（伊豆諸島八丈島・伊豆半島以西）・四国・九州・種子島・屋久島、台湾・中国

県内分布 室戸市、大豊町、仁淀川町、四万十市、土佐清水市

生育環境と特性 温暖湿潤な常緑樹林やスギ人工林内の林道沿いの斜面に点々と生育する。常緑性のシダ植物。タニイヌワラビ *A. otophorum* に似るが、より小型で小羽片の耳片が発達せず軸に流れるのが特徴。

VU
15

メシダ科

サキモリイヌワラビ

Athyrium oblitescens

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: -

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内の確認地点は少なく、近年の確実な記録も少ない。推定個体数は1,000未満とした。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は森林伐採である。ニホンジカによる食害を受けやすい分類群であるため、シカの生息域に含まれる採集記録のある地点で再確認を急ぎ、個体群の状況を把握して対策を講じる必要がある。

【特記事項】

本種は異なる複数の遺伝子型の個体群を含むことが報告されている（Kurihara et al. 1996）。

分布 本州（秋田県以南）・四国・九州

県内分布 高知市、本山町、土佐町、越知町、中土佐町、土佐清水市

生育環境と特性 山地の林内に生える。常緑性のシダ植物。近年横倉山で再発見されたと思われた個体は、胞子が不稔で、ヒロイヌワラビとカラクサイヌワラビの雑種と推定された。同定は慎重に行う必要がある。

VU
16

メシダ科

ニセコクモウクジャク

Diplazium conterminum

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

2000年以降に採集記録があるのは7市町村で、調査では4市町村7か所で現存が確認された。生育の良好な地点もあれば、過去に多数の記録があっても河川の氾濫や森林環境の変化などにより確認できない地点もある。推定個体数は1,000未満である。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は森林伐採である。また、豪雨による斜面の崩落やニホンジカによる食害を受ける可能性がある。現在生育の良好な地点であっても、食害で短期間に消失する可能性もあるため、定期的な観察が必要である。

分布 本州（神奈川県～紀伊半島の太平洋岸）・四国・九州・琉球、台湾・中国・ベトナム・タイ

県内分布 東洋町、安田町、高知市、佐川町、中土佐町、四万十市、土佐清水市、三原村

生育環境と特性 やや暗いスギ林下や溪流沿いでみられる。常緑性のシダ植物。県内には3タイプ（①裂片が切れ込まず、鎌形で頂羽片が尾状に伸びるもの、②裂片が切れ込み、全体が三角形にみえるもの、③大型になり、三角形に近い形になるもの）がある。

VU
17

メシダ科

オオバミヤマノコギリシダ

Diplazium hayatamae

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: -

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

2000年以降に採集記録があるのは6市町で、調査では新たに確認された津野町と中土佐町を含む5市町7か所で現存が確認された。県東部では個体数が多く、安定した生育地がある。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は森林伐採で、そのほかに道路工事やニホンジカによる食害などがある。社寺林などでも確認されており、確認されている地点数が少ないが、絶滅するおそれはないと考えられる。

分布	本州（神奈川県以西）・四国・九州・種子島・屋久島、台湾
県内分布	東洋町、室戸市、安田町、高知市、津野町、中土佐町、四万十市、土佐清水市、宿毛市、大月町
生育環境と特性	スギ人工林の林床に多くみられる。常緑性のシダ植物。

VU
18

ヒメシダ科

トサノミゾシダモドキ

Thelypteris flexilis

□絵 4

高知県 RL2010: EN

高知県 RDB2000: EN

環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

現存が確認されたのは3市町の7か所で、推定個体数は1,000未満である。最初の発見地である香美市の道路沿いの生育地では減少しているが、近隣の人工林内の斜面で多数生育している所がある。いの町では消滅した生育地がある。

【危機要因と保護保全対策】

産地局限、土地造成、遷移進行が危機要因である。香美市の生育地は道路脇の斜面にあり、道路管理者などと生育情報を共有しておく必要がある。近隣の人工林下では地権者が意識的に保護しているため、安定しているが、将来的には上層木の鬱閉に注意が必要である。

分布	四国、中国
県内分布	香美市、いの町、佐川町
生育環境と特性	湿り気のある沢筋の斜面や岩壁、空中湿度の高い林縁にある法面などに生育する常緑性のシダ植物。根茎は短く匍匐する。

VU
19

ヒメシダ科

ヨコグラヒメワラビ

Thelypteris hattorii

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: -

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内の生育地点は少ないが、個体数が100を超える場所もある。推定個体数は1,000未満である。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因はニホンジカによる食害と森林伐採、遷移進行である。シカの食害による影響が認められた場合には、防鹿柵の設置を検討するとともに、生育地を含めた広範囲でのシカの頭数管理が必要である。

分布	本州（中部地方以西）・四国・九州、朝鮮半島・中国
県内分布	高知市、越知町、津野町、四万十町、四万十市；馬路村（1969）、仁淀川町（1938）
生育環境と特性	やや標高の高いスギ人工林や落葉樹林下で確認されている。夏緑性のシダ植物。

VU
20

ヒメシダ科

イワハリガネワラビ

Thelypteris musashiensis

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: -

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

本山町で2003年に採集された標本があるものの、県内の生育確認地点は少ない。調査ではいの町と大川村で現存が確認された。ただし、ハリガネワラビ類の分類自体が近年の研究で見直されてきており、本県の記録についても検討する必要がある。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は産地局限で、そのほかに森林伐採やニホンジカによる食害が考えられる。シカの食害がある地域では、個体群の状況を把握して、対策を講じる必要がある。

分布	北海道・本州・四国・九州、朝鮮半島・中国
県内分布	馬路村、本山町、土佐町、大川村、いの町
生育環境と特性	深山にややまれにみられる夏緑性のシダ植物。葉柄が緑色なだけでは類似種アオハリガネワラビと区別できず、胞子表面の模様で区別する必要がある。本種は二倍体で、ハリガネワラビ・アオハリガネワラビは四倍体である。

絶滅危惧II VU

VU
21

オシダ科

ハガクレカナワラビ

Arachniodes yasu-inouei var. *yasu-inouei*

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: -

環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

2000年以降には土佐市の1地点で標本が採集されているのみである。調査では新たにいの町の1地点で現存が確認された。推定個体数は1,000未満とした。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は森林伐採と管理放棄である。葉質が硬く動物の食害には比較的強いと思われる。調査で確認できた地点が少ないため、さらなる調査が必要である。

分布	本州（紀伊半島・山口県）・四国・九州
県内分布	安田町, 土佐市, いの町, 佐川町, 越知町
生育環境と特性	常緑広葉樹林やスギ人工林の林床で採集されている。常緑性のシダ植物。オニカナワラビより鋸歯が鋭いのが特徴であるが、区別が微妙なこともある。

VU
22

オシダ科

ハチジョウベニシダ

Dryopteris caudipinna

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: -

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内ではこれまで室戸市と中土佐町から報告されていたが（高知県2009）、これらは全てベニシダの誤同定であった。本種は、沖の島と近海の小島で確認された。個体数の増減は不明である。

【危機要因と保護保全対策】

森林伐採や開発、河川および道路の改修が本種の存続を脅かす可能性がある。また、他県では動物による食害が起きている。

分布	本州（関東地方以西）・四国・九州, 済州島・可居島
県内分布	宿毛市, 大月町
生育環境と特性	低地の林床の、土が乾燥しない程度に湿った斜面や岩場で多くみられる常緑性のシダ植物。近年の分子系統解析ではベニシダとの違いが明らかになっている。

VU
23

オシダ科

ツクシイワヘゴ

Dryopteris commixta

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: VU

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

2000年以降に採集記録があるのは9市町村10か所以上で、調査では東洋町と土佐市で現存が確認された。2000年以降も継続的に各地で確認されているが局地的で、ニホンジカによる食害の影響を受けて減少傾向にある生育地がある。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は森林伐採、ニホンジカによる食害である。シカの食害が深刻化している地域に含まれる採集記録のある地点で再確認を急ぎ、個体群の状況を把握して対策を講じる必要がある。

分布	本州・四国・九州, 朝鮮半島
県内分布	東洋町, 安芸市, 大豊町, いの町, 仁淀川町, 日高村, 土佐市, 土佐清水市, 三原村
生育環境と特性	スギ人工林床に点々とみられる常緑性のシダ植物。深山にはあまりみられず、人里近くに生育する。包膜を欠くことが特徴。形態変異が大きく様々な型がみられる。

VU
24

オシダ科

ニセヨゴレイタチシダ

Dryopteris hadanoi

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: EN

環境省 RL2020: NT

【生育状況と選定の理由】

2000年以降に採集記録があるのは10市町村で、調査では新たに確認された香美市を含め、3市町で現存が確認された。県内では多数の生育地が確認されているが、各地点の個体数は多くない。

【危機要因と保護保全対策】

森林伐採が危機要因である。これまでに約20地点から標本が採集されているが未調査地点が多く、再確認が必要である。

分布	本州（山口県）・四国・九州
県内分布	室戸市, 北川村, 安芸市, 香美市, いの町, 土佐市, 須崎市, 中土佐町, 四万十町, 黒潮町, 土佐清水市, 大月町
生育環境と特性	低地の樹林内の乾いた斜面に生える常緑性のシダ植物。各地点で数個体ずつしか確認できないことが多く、群生しない。

VU 25	オシダ科	ワカナシダ <i>Dryopteris kuratae</i>	高知県 RL2010: VU
			高知県 RDB2000: VU
			環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

多数の地点で採集されているが、近年の記録が少ない。過去の採集地点では動物による食害が拡大している。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は森林伐採とニホンジカによる食害である。食害されやすい分類群であり、シカの食害がある地域では、個体群の状況を把握して、対策を講じる必要がある。

分布	本州（関東地方以西）・四国・九州，中国
県内分布	馬路村，香美市，いの町，仁淀川町，四万十町，四万十市，三原村
生育環境と特性	湿った林床で、特に流れが緩やかな水流沿いでみられる常緑性のシダ植物。人為的な影響のある場所でも水流と明るい日陰が維持されていれば生育している可能性がある。

VU 26	オシダ科	キヨズミオオクジャク <i>Dryopteris namegatae</i>	高知県 RL2010: VU
			高知県 RDB2000: VU
			環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

2000年以降、土佐町，いの町，仁淀川町，佐川町，中土佐町で1か所ずつしか標本が採集されていない。調査では全ての地点で未調査である。ほとんどの地点でニホンジカによる食害が深刻化している。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は森林伐採とニホンジカによる食害と考えられる。シカの食害を受けやすい分類群であるため、シカの生息域に含まれる分布域で再調査を急ぎ、個体群の状況を把握して対策を講じる必要がある。

【特記事項】

近年の分子系統解析の結果では、イワヘゴと区別できず、イワヘゴの形態変異に含まれることを示しており、今後学名の取扱いを見直す必要がある（Hori et al. 2019）。

分布	本州（関東地方以西）・四国・九州，济州島・台湾・中国・インド
県内分布	香美市，本山町，土佐町，大川村，いの町，仁淀川町，佐川町，中土佐町
生育環境と特性	山地の林内に生える常緑性のシダ植物。

VU 27	オシダ科	オワセベニシダ <i>Dryopteris ryo-itoana</i>	高知県 RL2010: VU
			高知県 RDB2000: -
			環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

2000年以降に標本が採集されているのは3地点で、確認されている地点が少ない。40年前の採集地点において、わずかではあるが現存していることが確認された。個体数の増減は不明である。

【危機要因と保護保全対策】

森林伐採，開発や河川や道路の改修が本種の存続を脅かす可能性がある。調査で確認できた地点が少ないため，さらなる調査が必要である。

【特記事項】

近年の分子系統解析では，ヌカイタチシダマガイ *D. simasakii* (VU) と区別できないことを示している（Hori et al. 2018）。

分布	本州（岐阜県～愛知県以西）・四国・九州，台湾・中国
県内分布	安田町，香美市，高知市，いの町；土佐清水市（1964）
生育環境と特性	低地の林床の，斜面や岩場の多い環境で多くみられる。常緑性のシダ植物。

VU 28	オシダ科	ナガサキシダ <i>Dryopteris sieboldii</i>	高知県 RL2010: NT
			高知県 RDB2000: -
			環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内広く分布し，調査では6市町で現存が確認されたが，各地点で確認される個体数は少なく，多くの地点で減少傾向にあった。東洋町では調査期間中に確認できなくなった。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は遷移進行で，そのほかに森林伐採やニホンジカによる食害がある。現存が確認された地点の多くで減少傾向にあったため，採集記録のある地点での再確認を急ぎ，保全対策を講じる必要がある。

分布	本州（関東地方以西）・四国・九州，中国
県内分布	東洋町，北川村，高知市，いの町，日高村，須崎市，四万十町，四万十市，土佐清水市，三原村，宿毛市，大月町
生育環境と特性	温暖湿潤な常緑樹林やスギ人工林下に生育する常緑性のシダ植物。群生せず，ふつう1～少数の個体のみみられる。

絶滅危惧II VU

VU
29

オシダ科

ヌカイトチシダマガイ

Dryopteris simasakii

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: -

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内では高知市と南国市で多数の記録がある一方、ほかの地域では少ない。調査では、新しい生育地も確認され、より広範囲に点在している可能性がある。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は森林伐採とニホンジカによる食害であるが、斜面や林道の大規模な改修工事など、生育基盤の改変が行われない限り、個体群の存続は可能であると考えられる。

【特記事項】

類似種との分類学的整理の必要性が残っている。

分布	本州（中部地方・近畿地方）・四国・九州，中国
県内分布	香美市，南国市，高知市，土佐市，須崎市，仁淀川町
生育環境と特性	チャート質の岩場によくみられる常緑性のシダ植物。乾燥には比較的耐えるが、沢沿いの暗い岩場にもみられることがある。

VU
30

オシダ科

チャボイノデ

Polystichum igaense

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: VU

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内の林道沿いや林内斜面から少数の採集地点があるが、1987年以降の標本がない。

【危機要因と保護保全対策】

ニホンジカの食害による林床の荒廃と豪雨の際の土砂流出などによる生育環境の消失が危機要因と考えられる。採集記録のある地点での再調査を急ぎ、保全対策を講じる必要がある。

分布	本州（関東地方・中部地方・近畿地方）・四国・九州
県内分布	安芸市，香美市，本山町，仁淀川町，津野町
生育環境と特性	林道脇などにみられる常緑性のシダ植物。イノデモドキの幼個体と類似するが、本種はよりソーラスが辺縁につき、鱗片の突起があまり顕著でないことで区別できる。

VU
31

ウラボシ科

イワオモダカ

Pyrrhosia hastata

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: -

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内では高標高域の山林内に点々と生育が確認され、3市町で現存を確認した。確認された多くの地点が自然公園内である。樹幹に着生するのは大径木に限られるため、着生木の本数は多くない。

【危機要因と保護保全対策】

森林伐採や遷移進行が危機要因であるが、自然公園内や保護林の生育地点も多く、そのような地域では伐採のおそれはない。生育地の一部では、強風による着生木の倒木、幹や枝折れ、着生する岩の被陰などによる減少はありと考えられる。

分布	北海道・本州・四国・九州，朝鮮半島・中国
県内分布	香美市，本山町，土佐町，仁淀川町，越知町，四万十市；大豊町（1943），いの町（年不明）
生育環境と特性	高標高域の谷部の落葉樹林内の大径木や岩に着生する。常緑性のシダ植物。

VU
32

マツ科

トガサワラ

Pseudotsuga japonica

□絵 5

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: VU

環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

県内の国有林でみられる比較的大きな生育地はいずれも保護林に指定されている。保護林以外にも尾根や急傾斜地に残存個体が低密度に分布している。保護林内では比較的小さな個体は被陰によって枯死しており、世代交代はできていない。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は森林伐採による生育地の縮小と個体群の孤立化である。近年マツグミの寄生により樹勢が弱った個体が観察されている。四国森林管理局は3か所の生育地を「トガサワラ（遺伝資源）希少個体群保護林」に指定し保護を図っている。

分布	本州（紀伊半島中南部）・四国
県内分布	馬路村，安芸市
生育環境と特性	山岳地の土壌の浅い尾根や急傾斜地に生える常緑高木。陽樹であり地すべり跡や土砂崩れ跡に稚樹が生えるが、林内で稚樹をみることはまれである。結実周期が長く、6年以上結実しない場合もある。

VU 33	マツ科	高知県 RL2010: VU 高知県 RDB2000: VU 環境省 RL2020: -
	コメツガ <i>Tsuga diversifolia</i>	

【生育状況と選定の理由】

県内では3地域で確認記録があり、本山町で現存を確認した。本種の同定には若枝を観察する必要があるが、山地の急傾斜地や岩塊地に生育する高木であるため確認が難しく、ほかの地域にも生育する可能性がある。なお、安芸市で採集された標本は自生からのものかどうか検討が必要である。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は森林伐採と産地局限である。生育地の大部分は、国有林内にあり保護されているが、生育地が限られていることから、何らかの自然攪乱によって個体数が減少する可能性がある。個体群の状況を把握し、必要に応じて保護対策を講じる必要がある。

分布	本州（青森県～紀伊半島）・四国・九州
県内分布	安芸市、香美市、本山町
生育環境と特性	山地の尾根や岩塊地に生育する常緑高木で、ときに純林を形成する。葉は線形で同属のツガよりも短く、若枝には短毛が多い。

VU 34	ヒノキ科	高知県 RL2010: VU 高知県 RDB2000: VU 環境省 RL2020: -
	ミヤマビャクシン <i>Juniperus chinensis var. sargentii</i>	

【生育状況と選定の理由】

香美市、いの町、津野町で標本が採集されている。香美市の石灰岩の岩稜で現存が確認された。ここでは連続的な減少は確認されておらず、個体数は安定していると推察される。ほかの地点については調査が不十分なため現状は不明である。

【危機要因と保護保全対策】

園芸採取やニホンジカによる食害が危機要因である。現存が確認された地点においては、現時点で危機的な状況にはないと考えられるが、調査が不十分なためほかの地点での現状把握が必要である。

分布	北海道・本州・四国・九州・屋久島、ロシア（極東）・朝鮮半島
県内分布	香美市、いの町、津野町
生育環境と特性	山地の尾根部など岩地に生え、幹は曲がり、枝は斜上する。常緑の低木。

VU 35	ヒノキ科	高知県 RL2010: VU 高知県 RDB2000: VU 環境省 RL2020: -
	ネス <i>Juniperus rigida</i>	

【生育状況と選定の理由】

県内では、過去に宿毛市で確認された記録があるが、現在の生育地は香美市のみである。安田町の標本があるが自生かどうかは検討が必要である。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は森林伐採と産地局限である。生育地の大部分は、国有林内にあり保護されているが、生育地が限られていることから、何らかの自然攪乱によって個体数が減少する可能性がある。ニホンジカによる食害の影響についても調査が必要である。

分布	本州（岩手県以南）・四国・九州、朝鮮半島・中国
県内分布	安田町、香美市、宿毛市
生育環境と特性	日当たりの良い石灰岩地に生育する常緑の低木から小高木。葉は針形状で3輪生し、先は尖ってかたい。

VU 36	ヒノキ科	高知県 RL2010: VU 高知県 RDB2000: VU 環境省 RL2020: -
	クロベ <i>Thuja standishii</i>	

【生育状況と選定の理由】

県内では4市町で生育が確認されており、調査では香美市と仁淀川町で現存を確認した。ニホンジカの生息域では食害も確認されている。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は遷移進行と管理放棄である。いくつかの生育地は、国有林や自然公園内にあるものの、保護管理が行われていない生育地もある。森林伐採や石灰岩の採掘により個体数が減少する可能性がある。シカの生息域では食害も確認されていることから、今後の食害の拡大次第では防鹿柵や樹木ガードの設置などが必要である。

分布	本州・四国
県内分布	香美市、本山町、いの町、仁淀川町
生育環境と特性	冷温帯の主に石灰岩地に生育する常緑高木である。ヒノキに似るが、球果の種鱗はうろこ状で、葉裏の気孔帯も目立たない。

絶滅危惧II VU

VU スイレン科
37 **コウホネ**
Nuphar japonica

高知県 RL2010: EN
高知県 RDB2000: EN
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

減少している生育地もあるが、全体的には増加傾向にある。人里の水路などに自生しているため、自然災害による攪乱および人の管理による消失の危険性が非常に高い。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は湖沼・河川の開発・改修や浚渫、農薬汚染である。平野部が分布の中心で、各自生地は開発や浚渫、災害による悪影響を受けやすい。一方で、周辺の管理放棄による遷移の進行がみられ、被陰による消失も懸念される。地元の協力を得ながら、管理を継続することが重要である。

分布	北海道・本州・四国・九州
県内分布	南国市, 高知市, 日高村, 土佐市, 黒潮町, 四万十市, 宿毛市
生育環境と特性	人里の池沼などの止水域から小川, 水路内に生える。太い地下茎を持つ, 沈水・浮葉・抽水性の多年生草本。

VU ウマノスズクサ科
38 **ミヤコアオイ**
Asarum asperum var. asperum

高知県 RL2010: VU
高知県 RDB2000: VU
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

四国の各県に分布しているが、本県では西部に生育地が限定されている。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は園芸採取で、そのほか森林伐採、産地局限などがある。現在のところ、大きな増減はないが、生育地点が限定されているため、生育地点情報の公開や拡散には注意を要する。

分布	本州（近畿地方以西～島根県）・四国・九州
県内分布	西部
生育環境と特性	湿気のある谷沿いの林床や谷川筋の林縁部に生える多年生草本。本県では花期が早く、2月下旬頃からみられる。

VU ウマノスズクサ科
39 **ヒメカンアオイ**
Asarum fauriei var. takaoi

高知県 RL2010: VU
高知県 RDB2000: VU
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県東部に分布が限られており、森林伐採やニホンジカの食害による林床の乾燥化で減少している。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は園芸採取で、そのほか森林伐採や人の踏みつけなどがある。ニホンジカの食害による林の荒廃や林床の乾燥化も、個体数減少の大きな要因となっている。生育地を含む広範囲で、森林環境を保全する必要がある。

分布	本州・四国
県内分布	東部
生育環境と特性	湿気のある尾根筋や谷筋やスギ人工林、常緑広葉樹林内と林縁に生える多年生草本。①秋咲き型（9～11月）、②冬咲き型（1～2月）、③春咲き型（4月）がある。高知県のものは①（Takahashi et al. 2018）。

VU ウマノスズクサ科
40 **ホシザキカンアオイ**
Asarum sakawanum var. stellatum

□絵 5

高知県 RL2010: EN
高知県 RDB2000: EN
環境省 RL2020: EN

【生育状況と選定の理由】

県西部に分布し、分布の辺縁ではサカワサイシンとの中間型がある。調査で新たに多くの生育地点が見つかった。過去には園芸採取と思われる聞き取り事例もあり、極端に数を減らした生育地もみられた。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は園芸採取や森林伐採で、そのほか遷移進行、道路工事、イノシシによる掘り返しなどがある。過去には園芸採取により激減した生育地もあったが、2018年に種の保存法の特定第一種国内希少野生動植物種に指定され、採取禁止となり保護されている。

分布	四国
県内分布	西部
生育環境と特性	湿気のある林床、斜面や谷筋の林縁部に多く生える多年生草本。5月頃開花する。

VU 41	ショウブ科	高知県 RL2010: VU 高知県 RDB2000: VU 環境省 RL2020: -
	ショウブ <i>Acorus calamus</i>	

【生育状況と選定の理由】

近年確認された生育地点数は15か所であり、そのうち現存が確認できたのは四万十町1か所である。高知市の1か所では消失した。水湿地生のため、連続的減少が予想される。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は水路を含めた圃場整備などの土地造成、湿地開発、管理放棄などが考えられる。ため池や水路の改修などで消失しないよう、管理者や地権者などと生育情報を共有する必要がある。

分布	北海道・本州・四国・九州、ロシア（極東）・朝鮮半島・中国・モンゴル・マレーシア・インドシナ・インド・スリランカ・ヒマラヤ・北アメリカ
県内分布	東洋町、室戸市、北川村、安芸市、芸西村、香南市、高知市、大豊町、中土佐町、四万十町、宿毛市
生育環境と特性	湖沼やため池、水路、湿地など水辺に生育する多年生の抽水性の多年生草本。日本産は3倍体で結実しない。端午の節句の菖蒲湯などに利用されるため、植栽と思われる場所も多く、現在の産地がどこまで自然分布かはわからない。

VU 42	サトイモ科	□絵 5	高知県 RL2010: VU 高知県 RDB2000: VU 環境省 RL2020: -
	クワズイモ <i>Alocasia odora</i>		

【生育状況と選定の理由】

室戸市と土佐清水市に現存する。分布範囲は限られているが、生育地があるのは両地域とも自然公園内である。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は遷移の進行である。常緑樹林内のギャップや林縁などやや明るい場所に限って生えることから、生育環境が保たれるようにすることが個体群の維持に必要である。

【特記事項】

「足摺岬のクワズイモ群落」は土佐清水市指定天然記念物（1959）。

分布	四国・九州・琉球、台湾・中国・インドシナ・インドの暖帯～亜熱帯
県内分布	室戸市、土佐清水市
生育環境と特性	県内では暖地の常緑樹林の林縁や林内の明るいところに生える多年生草本。

VU 43	サトイモ科	□絵 5	高知県 RL2010: VU 高知県 RDB2000: EX 環境省 RL2020: VU
	マイヅルテンナンショウ <i>Arisaema heterophyllum</i>		

【生育状況と選定の理由】

東部の田野町から西部の土佐清水市まで、標高数mから約550mまで、生育地点が点在する。どの生育地点でも両性花の割合は少なく、晩秋の果実が赤くなるまで残る個体はさらに少ない。

【危機要因と保護保全対策】

管理放棄や遷移の進行により生育地が暗くなると開花個体が減少する。四万十市入田の保護地では四万十川自然再生協議会のマイヅルテンナンショウの会により年数回の草刈りが継続され、開花個体数が維持されている。ほかの生育地においても、地元の協力を得て植生管理が行えるような体制を構築する必要がある。

【特記事項】 高知県希少野生動物保護条例指定種。

分布	本州・四国・九州、朝鮮半島（南部）・台湾・中国
県内分布	田野町、香美市、高知市、仁淀川町、四万十町、四万十市、土佐清水市
生育環境と特性	県内では河川の高水敷、農地、竹林、社叢などの林縁や竹林、草地に生える多年生草本。洪水による土砂で埋まっても、その深さによっては地中で偽茎を伸ばし、中間に球茎を作って復活する。親球茎の下には出芽しない子球茎が数十個埋まっていることがある。

VU 44	サトイモ科	□絵 6	高知県 RL2010: VU 高知県 RDB2000: EN 環境省 RL2020: EN
	シコクテンナンショウ <i>Arisaema iyoanum</i> subsp. <i>nakaianum</i>		

【生育状況と選定の理由】

安定的に確認される地域もあるが、分布が限られている。一部の地域ではニホンジカの食害に伴う林床の荒廃によって個体数が減少している。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は園芸採取、森林伐採、ニホンジカによる食害、道路工事など様々である。盗掘に対しては法律や条例による保護が求められる。シカの食害の影響は、林床の荒廃に伴う間接的なもので、生育地を含めた広範囲での頭数管理が必要である。

分布	四国
県内分布	中部
生育環境と特性	標高500～1200mの山地の林内や林縁、林道の路傍に生える多年生草本。

絶滅危惧II VU

VU
45

サトイモ科

ナンゴクウラシマソウ

Arisaema thunbergii subsp. *thunbergii*

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: EN

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内の海岸近くから低山地で点々と確認され、2000年以降は13市町村で標本が採集されており、8市町村で現存が確認された。各地点の開花個体は10未満が多いが、群生する生育地もある。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は遷移進行、園芸採取、森林伐採である。園芸採取されるおそれがあるため、生育地点情報の公開と拡散には注意が必要である。近年、確認される地点数が増えており、個体群の分布状況や減少傾向の有無について情報の蓄積が必要である。

分布	本州（紀伊半島以西）・四国・九州、朝鮮半島（南部島嶼）
県内分布	東部、中部、西部
生育環境と特性	県内では林縁や林床に生える多年生草本。

VU
46

トチカガミ科

ヤナギスブタ

Blyxa japonica

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: -

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

伝統的な管理がされている自然性の高い水田に生えるが、高齢化・労働力不足による耕作放棄によって急激に環境が悪化し、連続的な減少がみられる。作業効率化による除草剤の使用も危惧される。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は耕作放棄による他の植物との競合および被陰である。栽培は困難であるため、生育地での保全が不可欠で、周辺の草刈りを含む耕作の継続が必要である。水田は一度放棄されると元に戻すのが難しいため、遷移が進行する前に維持管理作業が継続される必要がある。地元の協力を得ながら個体群の状況を把握し、管理を進めることが望ましい。

分布	本州・四国・九州・琉球、アジア
県内分布	室戸市、高知市、日高村、佐川町、土佐市、黒潮町、四万十市、大月町
生育環境と特性	県内では主に湧水利用の棚田とその周辺の水路や溝でのみみられる。沈水性の一年生草本。

VU
47

トチカガミ科

ミスオオバコ

Ottelia alismoides

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: VU

環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

環境への適応範囲が狭く、生育地が限定的である。自然による攪乱および人の管理による消失の危険性が高く、実際に消失した地点もあり、連続的な減少がみられる。

【危機要因と保護保全対策】

平野部が分布の中心となっており、各生育地は開発や浚渫、遷移や災害によって悪影響を受けやすい。一方で水田では耕作放棄による遷移が進んでおり、水面の被陰により消失するおそれがある。浚渫によって掘取り処分されている生育地もあるため、管理する自治体や周辺住民に周知し、工事や管理の際に配慮を求めるとともに、各生育地の状況を注視していく必要がある。

分布	北海道・本州・四国・九州・琉球、アジア・オーストラリア・アフリカの温帯～熱帯
県内分布	全域の平野部
生育環境と特性	県内では主に人里近くの湧水のある池沼・水田・水路に自生する。沈水性の一年～多年生草本。

VU
48

シバナ科

シバナ

Triglochin asiatica

□絵7

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: VU

環境省 RL2020: NT

【生育状況と選定の理由】

調査では土佐市、須崎市の浦ノ内湾沿岸域で現存が確認された。高知市の生育地は消失したと考えられる。黒潮町は未調査である。生育範囲が非常に限定的で、個体数も少なく、連続的な減少が予測される。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は河川や海岸、池沼の工事、開発である。生育地は河川や海岸、潮だまりの岸に近い部分が多く、これらの場所での工事が避けられない場合には、管理者や事業者と生育情報を共有し、連携して保全対策を講じる必要がある。

分布	北海道・本州・四国・九州、北半球の温帯域
県内分布	土佐市、須崎市、黒潮町；高知市（1892）
生育環境と特性	河口や干潟の縁の塩分を含む湿地に生える多年生草本。

VU 49	アマモ科	アマモ <i>Zostera marina</i>	高知県 RL2010: VU
			高知県 RDB2000: -
			環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

東洋町で現存が確認されている。県内での産地は限られているが、現時点では連続的な減少はないと推測される。

【危機要因と保護保全対策】

海岸開発が危機要因である。県内では海草類の生育に適した波浪の穏やかな環境に限られており、それらの環境の保全が望まれる。一般の維管束植物と異なり通常の調査による生育状態の把握が困難であるため、特に水深が深い領域では情報が不足していることにも注意が必要である。

分布	北海道・本州・四国・九州、北半球の寒帯～温帯
県内分布	東洋町、須崎市
生育環境と特性	内湾の水深0～10m(最大約30m)の海底の砂泥に生育する沈水性の多年生草本。内湾や分布南限では地下茎を欠き、生殖茎のみで冬型一年生草本となる個体群がある。

VU 50	ヒルムシロ科	リュウノヒゲモ <i>Stuckenia pectinata</i>	高知県 RL2010: VU
			高知県 RDB2000: VU
			環境省 RL2020: NT

【生育状況と選定の理由】

近年確認された生育地点数は9か所である。人為的な影響を受けやすい河川下流部から河口部に分布する。

【危機要因と保護保全対策】

近年、確認されている生育地は浦戸湾周辺地域に限られており、河川改修や水質悪化の影響を受けるおそれがあることから、河川管理者などと生育情報を共有しておく必要がある。また、個体数の年変動が大きく、小規模な個体群は偶発的に消失する可能性があるため、定期的な調査が必要である。

分布	北海道・本州・四国・九州・琉球、世界に広く分布
県内分布	香南市、香美市、南国市、高知市
生育環境と特性	沈水性の多年生草本。汽水の湖沼や河川、水路に生育するほか、温泉水の影響下にある淡水湖沼にもみられる。

VU 51	ヒナノシャクジョウ科	シロシャクジョウ <i>Burmanna cryptopetala</i>	高知県 RL2010: CR
			高知県 RDB2000: CR
			環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

四万十町の4か所で現存が確認された。生育地は局所的で、生育は土壌湿度の影響を受ける。推定個体数は250未満。生育環境の変化で連続的減少が予測される。

【危機要因と保護保全対策】

森林伐採、遷移進行と管理放棄による生育環境の変化が危機要因である。常緑広葉樹林の安定した林床に生育する菌従属栄養植物のため、台風などの自然災害で大径木が倒れるなど大きく環境が変わった場合、減少するおそれがある。林床が乾燥化しないように注意し、生育地周辺も含めた森林の保全が必要である。

分布	本州(近畿地方)・四国・九州・南西諸島、台湾・中国(海南島)
県内分布	東洋町、北川村、中土佐町、四万十町
生育環境と特性	腐植層の厚く堆積した常緑樹林の林床に生育する多年生草本。アーバスキュラー菌根菌を利用する、菌従属栄養植物。

VU 52	シュロソウ科	チャボシライトソウ <i>Chionographis koidzumiana</i>	高知県 RL2010: VU
			高知県 RDB2000: EN
			環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

2000年以降に採集記録があるのは5市町村で、3町村の3か所で現存が確認された。個体数が減少している生育地があり、推定個体数は250～1,000である。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は河川開発、ダム建設、遷移進行などである。空中湿度の低下に悪影響を受けるため、生育地周辺も含めた環境保全が必要である。

分布	本州(愛知県・紀伊半島)・四国・九州
県内分布	馬路村、香美市、大豊町、高知市、仁淀川町、越知町、津野町、中土佐町、四万十市
生育環境と特性	県内では溪流の近くの苔むした岩場などに生育する多年生草本。種子で繁殖するほか、脇芽で増える。

絶滅危惧II VU

VU
53

ユリ科

トサコバイモ

Fritillaria shikokiana

□絵 8

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: EN

環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

中部と西部で記録があり、現存が確認できる地点や個体数も比較的多いが、山野草として人気があり盗掘が後を絶たない。また、生育地点情報の拡散により、県外からの来訪者が増えた生育地もある。地上部のある期間が短く、年による出現個体数の変動がある。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は園芸採取であり、そのほか森林伐採、遷移進行、道路の拡張工事、人の踏みつけなど様々である。管理放棄で減少している生育地では、地元の協力を得て草刈りなどの管理が継続されるよう、体制を整える必要がある。生育地点情報の公開や拡散を防ぐ必要がある。

分 布	四国・九州
県 内 分 布	中部, 西部
生 育 環 境 と 特 性	山地のやや湿った落葉樹林や二次林などの明るい林内や林縁, 里山, 路傍などに生える多年生草本。

VU
54

ラン科

エビネ

Calanthe discolor

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: NT

【生育状況と選定の理由】

県内で広く確認されている。現在の個体数は10,000以下と推定されるが、乱獲で激減した結果である。減少速度は遅くなっているものの、継続して減少すると推測される。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は園芸採取であり、そのほか森林伐採、遷移進行などがある。一時期のブームは去ったが、いまだに盗掘のおそれがある。ニホンジカによる食害にも遭うため、シカの生息域では防鹿柵の設置も含めた保全方法の検討が必要である。

分 布	北海道・本州・四国・九州・琉球, 朝鮮半島・中国
県 内 分 布	東部, 中部, 西部
生 育 環 境 と 特 性	県内では常緑広葉樹林や落葉広葉樹林, スギ人工林など様々な林の林床に生育する, 常緑の多年生草本。新しいバルブにより少しずつ栄養繁殖するほか, 環境が良いと種子でも増える。

VU
55

ラン科

ナツエビネ

Calanthe puberula

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: VU

環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

県内で広く確認されている。まとまった数が群生する場所も数か所あり、現存する個体数は1,000以上と推定される。県森林環境税により防鹿柵が設置され、保護されている生育地がある。花の少ない夏に目立つ花が咲くため、盗掘されやすい。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は園芸採取であり、そのほかに遷移進行, 森林伐採, ニホンジカによる食害などがある。盗掘のおそれがあるため, 生育地点情報の公開や拡散には注意が必要である。シカの生息域にある生育地では, 防鹿柵の設置が必要な地点が増えていくと考えられる。

分 布	本州・四国・九州, 朝鮮半島(南部)・台湾・中国・ヒマラヤ
県 内 分 布	東部, 中部, 西部
生 育 環 境 と 特 性	落葉樹林やスギ人工林内のやや湿った林床に生育する, 常緑の多年生草本。新しいバルブにより少しずつ栄養繁殖するほか, 環境が良いと種子でも増える。

VU
56

ラン科

キンラン

Cephalanthera falcata

□絵 8

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: VU

環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

県内の広い地域で多数確認されるが, 1か所当たりで確認できる個体数が少ない。推定個体数1,000未満である。地下部のみで長期間生存できる特性をもつことから, 減少しているかどうかは判断しにくい。

【危機要因と保護保全対策】

園芸採取と遷移進行が主な危機要因で, そのほかに管理放棄や道路工事, 森林伐採, 人の踏みつけがある。明るい環境が保たれるような管理が大切で, 森林と土壌の状態が適切に維持される必要がある。生育地点情報の公開と拡散を防ぐ必要がある。

分 布	本州・四国・九州, 朝鮮半島・中国
県 内 分 布	東部, 中部, 西部
生 育 環 境 と 特 性	開花期に明るい林の林床に生える多年生草本。主にゴナラ属の樹木の外生菌根菌と共生関係にある。晩秋に地上部が枯れ, 地下部に新芽をつくるが栄養繁殖ではほとんど増えない。種子で繁殖する。

VU
57

ラン科

クマガイソウ

Cypripedium japonicum

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

県内で広く確認され、まとまって群生するところもある。個体数は10,000未満と推定されるが、生育環境の変化や園芸採取で連続的な減少が予測される。県森林環境税で防鹿柵が設置されている生育地がある。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は園芸採取、森林伐採、ニホンジカによる食害、遷移進行による生育環境の変化である。葉が特徴的で容易に識別でき、盗掘される危険性が高いため、生育地点情報の漏洩や拡散を防ぐ必要がある。シカの食害がある地域では防鹿柵の設置などの対策が必要である。食害の影響で一旦消失したものの、10年ほど後に再出現した生育地があることから、長期的な保全が必要である。

分布 北海道(西南部)・本州・四国・九州, 朝鮮半島・中国(東部)

県内分布 東部, 中部, 西部

生育環境と特性 落葉樹林, スギ人工林, 竹林内に生える多年生草本。群生することがある。種子で繁殖するほか、地下茎が分枝し栄養繁殖する。

VU
58

ラン科

ベニカヤラン

Gastrochilus matsuran

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: VU

環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

県内で広く確認されている。推定個体数は1,000未満である。森林内で限られた木にしか着生しない。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は遷移進行、園芸採取、森林伐採などである。着生木は限られているため、着生木が枯死すると消失する個体数が多い。着生木の生育地とその周辺も含めた森林の環境を保全することが望ましい。

分布 本州(岩手県以南の太平洋側)・四国・九州, 朝鮮半島(南部)

県内分布 東部, 中部, 西部

生育環境と特性 県内では空中湿度が高く、明るい樹幹に着生する常緑の多年生草本。環境が良ければ種子による繁殖のほか、脇芽で栄養繁殖する。

VU
59

ラン科

アキザキヤツシロラン

Gastrodia confusa

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

2000年以降県内広く多地点で確認されており、調査では2か所で現存が確認された。推定個体数は1,000未満である。出現個体数に変動があり、出現しなくなった生育地がある。里山のような環境に生育することから継続的な減少が予測される。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は遷移進行、森林伐採、土地造成などが考えられる。共生菌の分解源となる竹類の稈や落葉落枝を堆積させるなど、生育地の周辺も含め森林環境を保全する必要がある。

分布 本州(関東地方以西)・四国・九州, 台湾

県内分布 東部, 中部, 西部

生育環境と特性 やや湿った林床に点々と生える常緑の多年生草本。落葉落枝を分解する菌を利用する菌従属栄養植物。秋に開花する。種子で繁殖するほか、地下茎が分枝して増殖する。

VU
60

ラン科

ヤクシマアカシュスラン

Hetaeria yakusimensis

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

県内で広く確認されており、個体数は250~1,000と推定される。40~50年経過した二次林でも確認されており、同様の環境が県下で多くあるため、全体として連続的な減少があるかどうかは不明である。

【危機要因と保護保全対策】

遷移進行が主な危機要因で、そのほかに森林伐採、園芸採取、管理放棄などがある。空中湿度の低下に悪影響を受けるため、生育地の周辺も含めた森林の環境を保全する必要がある。生育地点情報の公開と拡散を防ぐ必要がある。

分布 本州(静岡県以西)・四国・九州・屋久島・種子島・琉球, 台湾・中国(南部)・ベトナム

県内分布 東部, 中部, 西部

生育環境と特性 やや湿った林床や林縁に点々と生育する常緑の多年生草本。秋に開花する。種子で繁殖するほか、地下茎が分枝し先端に新芽をつくり栄養繁殖する。

VU
61

ラン科

ヤクシマヒメアリドオシラン

Odontochilus yakushimensis

□絵 10

高知県 RL2010: -
高知県 RDB2000: -
環境省 RL2020: NT

【生育状況と選定の理由】

過去の確認地点数が10以下で、各地点では十数個体程度が確認されているのみである。調査で5市町において生育が確認され、2000年以前に採集記録のある1町が未調査である。スギやヒノキの人工林内や林道沿いで生育が確認されているため、同様の環境で見つかる可能性がある。ハクウンラン（高知県 RL2010：CR）と誤認されていた地点がある。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は遷移進行と森林伐採である。スギやヒノキ人工林内の生育地では伐採によって個体数が減少する可能性がある。樹木の成長に伴って、開花個体が減少している生育地があり、光環境を改善するため、間伐や枝おろしなどが必要である。

分布	本州（中部地方・近畿地方）・四国・九州（甕島・大隅半島）・屋久島・琉球
県内分布	本山町、佐川町、仁淀川町、中土佐町、四万十町、室戸市
生育環境と特性	暖温帯の林床に生育する小型の多年生草本。花期は6～8月で、1～4個の花をつける。ハクウンランに似るが、唇弁基部の裂片が三角形になる。

VU
62

ラン科

コオロギラン

Stigmatodactylus sikokianus

□絵 11

高知県 RL2010: VU
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

県内で広く確認されている。推定個体数は10,000未満。出現個体数の桁が変わるような極度の変動がある。伐期に近いスギの壮齢林でも多く確認されており、今後皆伐で消失する生育地が増えるおそれがある。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は森林伐採、人の踏みつけなどである。林床に他の植物が繁茂すると消失する。有名な生育地では写真撮影や観察による踏み荒らしがある。開花時期であっても生育する全ての個体の地上部が現われるわけではないため、生育地への立ち入りについて注意を促す看板を設置するなどの措置を講ずる必要がある。

分布	本州（伊豆諸島・和歌山県）・四国・九州、台湾・中国
県内分布	室戸市、香美市、大豊町、高知市、越知町、中土佐町、四万十町
生育環境と特性	常緑広葉樹林またはスギ人工林の林床に生える多年生草本。8月下旬から9月に開花し、野外では晩秋に地上部が枯れる。主に種子で繁殖する。

VU
63

ラン科

ヒトツボクロ

Tipularia japonica

高知県 RL2010: VU
高知県 RDB2000: EN
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内で広く確認されている。推定個体数は1,000未満である。多数の地点で現存を確認したが、各地点の個体数は多くない。全体として連続的に減少しているかどうかは不明である。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は遷移進行、園芸採取、道路工事などである。森林伐採に伴う搬出、道路工事などで悪影響を受けている生育地があった。森林生の植物であるため、生育地の周辺も含めて森林の環境を保全する必要がある。

分布	本州・四国・九州、朝鮮半島（南部）
県内分布	東部、中部、西部
生育環境と特性	やや湿った林の林内に生える多年生草本。初夏に開花した後地上部が枯れ、晩秋に新しい芽を出す。主に種子で繁殖する。

VU
64

キンバイザサ科

キンバイザサ

Curculigo orchioides

高知県 RL2010: VU
高知県 RDB2000: VU
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

調査では高知市、四万十町、土佐清水市、三原村で現存が確認された。明るい草地という生育環境が長期的に維持される所が少なく、確認される個体数も少ない。草地の消失に伴って、連続的な減少が予測される。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は遷移進行と管理放棄による生育環境の変化で、そのほか除草剤の散布や草地開発がある。多くの生育地が草刈りなどの人為的な管理で維持されている草地であり、継続して適切に管理されていくことが必要である。

分布	本州（紀伊半島・中国地方）・四国・九州・琉球、台湾・中国（南部）・インド・パキスタン・東南アジア・パプアニューギニア
県内分布	室戸市、安田町、安芸市、香美市、高知市、日高村、佐川町、越知町、中土佐町、四万十町、黒潮町、四万十市、土佐清水市、三原村、大月町
生育環境と特性	丘陵地から低山にかけての草地や水田横の切土の崖、歩道などに生える多年生草本。地下に塊茎をもつ。

VU 65	クサスギカズラ科	ヒメイワギボウシ <i>Hosta longipes</i> var. <i>gracillima</i>	高知県 RL2010: VU
			高知県 RDB2000: VU
			環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

連続的減少は不明だが、分布が限定的で、河川沿いや脆い石灰岩上など不安定な環境に生育する。生育地の1か所では鉱山開発が決定している。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は開発（鉱山や河川、ダム工事）と園芸採取で、そのほか遷移進行、森林伐採である。増水や崩落などの自然災害による消失も危惧される。鉱山開発で消失する地点では、早急に管理者や地権者と協議して保護区域の選定や域外保全を行う必要がある。さらに、個体変異が多く、園芸的価値が高いため、盗掘のおそれがある。生育地点情報の拡散を防ぐとともに、定期的な見回りや法律・条例による保護が求められる。

分布	四国
県内分布	中部、西部
生育環境と特性	西部の特定流域の湿った岩上に生えるものと、中部の古い石灰岩地層上の崖地や岩上に生えるもの（通称「トサヤマギボウシ」タイプ）がある。後者は亜種または変種である可能性が指摘されている。多年生草本。

VU 66	クサスギカズラ科	ユキザサ <i>Maianthemum japonicum</i>	高知県 RL2010: VU
			高知県 RDB2000: VU
			環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

過去に県内の7市町村で採集記録があるが、調査では中部の6か所で現存が確認された。各地点の確認個体数は多くて数十程度であり、推定個体数は1,000未満である。県森林環境税で防鹿柵が設置され、ほかの数種とともに保護されている地点では、個体数はやや増加傾向にある。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は遷移進行やニホンジカによる食害が挙げられる。仁淀川町の生育地では防鹿柵の設置により食害から保護されたことで個体数が増加傾向にある。防鹿柵の設置により数年間確認されなかった個体が再出現した地点もある。シカの食害が危惧される生育地では、防鹿柵の設置などの対策を速やかに講じることで保護が可能である。

分布	北海道・本州・四国・九州、ロシア（極東）・中国
県内分布	東部、中部
生育環境と特性	山地のやや明るい林床に生える多年生草本。

VU 67	ヤシ科	ビロウ <i>Livistona chinensis</i> var. <i>subglobosa</i>	高知県 RL2010: EN
			高知県 RDB2000: EN
			環境省 RL2020: -



【生育状況と選定の理由】

県西部に分布する。足摺岬周辺でみられる個体は自生以外に増殖植栽したものがあるという。姫島には全体に200個体以上生育し、ビロウ島には記録があるが、現存は確認できていない。

【危機要因と保護保全対策】

遷移の進行によって減少する可能性はあるものの、現在のところ減少傾向は認められない。分布は西部の一地域に限られているが、無人島に多数生育しており、当面絶滅のおそれはない。

【特記事項】

「足摺岬のビロウ群落」は土佐清水市指定天然記念物（1959）。

分布	四国・九州・琉球、台湾
県内分布	土佐清水市、宿毛市
生育環境と特性	暖地の海岸近くの林に生育する常緑高木。離島に生育し、成熟個体は海上からでも容易に視認できる。

VU 68	ガマ科	ミクリ <i>Sparganium erectum</i> var. <i>erectum</i>	高知県 RL2010: CR
			高知県 RDB2000: CR
			環境省 RL2020: NT

【生育状況と選定の理由】

調査で現存が確認された生育地は、香美市、日高村、四万十市の7か所で、推定個体数は1,000未満である。河川・湿地開発や遷移の進行による減少が予測される。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は遷移の進行で、そのほか河川や湿地の開発、河川管理に伴う駆除である。通水を阻害する害草となりうるため、駆除対象となる可能性が高い。水路管理と個体群の保全の両立が求められるため、管理者と生育情報を共有し、保全方法を検討する必要がある。

分布	北海道・本州・四国・九州、アジア・ヨーロッパ・北アフリカの温帯
県内分布	香美市、日高村、土佐市、四万十市
生育環境と特性	沈水～抽水性の多年生草本。地下茎を伸ばし群生する。湖沼や河川・水路の浅所に生育する。外部形態はオオミクリと類似するが、果実は小型で紡錘形となり、地下部に塊茎状の器官を形成しない。県内には、果実の形態がオオミクリとの中間的で稔実率が低い個体群がある。

絶滅危惧II VU

VU
69

ガマ科

オオミクリ

Sparganium erectum var. *macrocarpum*

口絵 12

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: -

環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

調査で確認された生育地は、日高村の日下川1水系と四万十町興津にある小さい水路のみである。土佐市で確認されていた1か所の生育地は消失した。連続的な減少が予測される。

【危機要因と保護保全対策】

遷移の進行と河川や湿地の開発、河川管理に伴う駆除が危機要因である。河川・湖沼の改修・開発によって生育環境そのものが失われるおそれがある。また、植物体が大型で群生し、通水を阻害する害草となりうるため、駆除対象となる可能性が高い。水路管理と個体群の保全の両立が求められるため、管理者と生育情報を共有し、保全方法を検討する必要がある。

分布	本州、四国（しばしばミクリと混同されるため、正確な分布は不明）
県内分布	香美市、高知市、仁淀川町、日高村、土佐市、四万十町、四万十市、宿毛市；室戸市（1960）
生育環境と特性	湖沼や河川、水路の浅所に生育する抽水性の多年生草本で、地下茎を伸ばして群生し、地下部は木質の塊茎状となる。県内では開花が確認できない個体群や、ミクリとの中間的な形質を示し果実の稔実率が低い個体群がある。

VU
70

ガマ科

ナガエミクリ

Sparganium japonicum

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: NT

【生育状況と選定の理由】

近年確認された生育地点数は10か所以上、推定個体数は10,000。主な生育環境である湧水環境そのものが環境として脆弱である。

【危機要因と保護保全対策】

河川・ため池の改修のほか、生育環境の多くが平野部であるため河川改修や浚渫、除草剤や農薬による汚染、湧水の減少を含む水質悪化が大きな危機要因となっている。個体数が多い生育地が複数あるが、それらは栄養繁殖で維持されている個体群が多いと推定される。

分布	本州・四国・九州、朝鮮半島
県内分布	南国市、高知市、いの町、土佐市、四万十町、四万十市、三原村
生育環境と特性	沈水性から抽水性の多年生草本で、地下茎を伸ばし群生する。県内では湧水の影響下にある河川で優占するほか、ため池にも生育する。

VU
71

ホシクサ科

ニッポンイヌノヒゲ

Eriocaulon taquetii

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: -

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

2000年以降に標本が採集されているのは室戸市、北川村、高知市、三原村の4市村6か所で、調査では高知市の1か所で消失が確認され、そのほかは現存が確認された。群生する生育地もあるが、水位の変動により極度の個体数の変動がある。個体数の連続的な減少が観察され、消失した生育地もある。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は管理放棄、遷移進行、外来植物との競合である。湿地に生育し競合する植物に被圧されると急速に消失する。管理者などと生育情報を共有し、連携して植生管理などの保全対策を講じる必要がある。

分布	北海道・本州・四国・九州、朝鮮半島
県内分布	室戸市、北川村、高知市、仁淀川町、佐川町、四万十町、三原村；佐川町（1892）
生育環境と特性	水田の溝や浸出水のある山腹湿地、池の縁などに生える一年生草本。

VU
72

イグサ科

クロボシソウ

Luzula plumosa subsp. *dilatata*

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: -

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県境の高標高の山岳地帯に生育する。高知県内の個体群サイズはいずれも小さい。減少傾向は明らかではないが、生育地数が少なく限定されている。

【危機要因と保護保全対策】

多くの個体群が保護林や緑の回廊などに指定されている山域に生育するため、開発などによる消滅の危険性はない。生育域ではニホンジカによる食害が確認されつつあり、捕獲などによる頭数管理とともに、状況によっては防鹿柵などの設置を検討する必要がある。

分布	本州・四国・九州
県内分布	大豊町、大川村、いの町
生育環境と特性	高標高域の落葉広葉種の林床や登山道沿いなど、やや明るい立地に生育する小型の多年生草本。母種のヌカボシソウとは異なり走出枝を出すので、パッチ状にまとまった群落を形成することが多い。

VU 73	カヤツリグサ科	高知県 RL2010: NT 高知県 RDB2000: NT 環境省 RL2020: -
	マツバスゲ <i>Carex biwensis</i>	

【生育状況と選定の理由】

高知市、四万十町、三原村で現存が確認された。香美市、佐川町については未調査である。生育環境条件が明るい湿地に限定されており確認されている生育地点が少なく、連続的な減少が予測される。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は管理放棄と遷移進行による生育環境の変化、そのほかに土地造成がある。個体群の状況を把握し、良好な光環境が保たれるような管理が必要である。

分布	北海道・本州・四国・九州，ロシア（極東）・朝鮮半島・中国
県内分布	香美市，高知市，佐川町，四万十町，三原村；越知町（1905）
生育環境と特性	平地の水田の溝や畔，浸出水のある湿地などに生える多年生草本。

VU 74	カヤツリグサ科	高知県 RL2010: VU 高知県 RDB2000: - 環境省 RL2020: -
	ミヤマジュズスゲ <i>Carex dissitiflora</i>	

【生育状況と選定の理由】

調査では梶原町、津野町の合計3か所で現存が確認された。仁淀川町は未調査である。生育地が限られており、個体数も少ない。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は遷移進行である。津野町の生育地の1つはセラピーロードとして利用されており、管理に当たっては現状を維持するよう配慮が必要である。

分布	北海道・本州・四国・九州，ロシア（極東）
県内分布	仁淀川町，梶原町，津野町
生育環境と特性	山地の湿った樹林内や林縁，草地にまとまって生える多年生草本。

VU 75	カヤツリグサ科	高知県 RL2010: VU 高知県 RDB2000: - 環境省 RL2020: -
	ミセンアオスゲ <i>Carex horikawae</i>	

【生育状況と選定の理由】

県内では過去2か所で標本が採集されており、1か所で現存が確認された。小穂が互いに離れてつく点で他のアオスゲ類との区別は比較的容易だが、識別できる期間が限られるため、確認が難しく、県内全域の状況が把握できていないと考えられる。

【危機要因と保護保全対策】

県内に広く分布する他のアオスゲ類に比べて分布が限定される小型種であり、他種との競合や繁殖力が弱いことが推測される。現在の生育地では、植生基盤を失わせる土地の改変行為を行わず、草刈りなどの法面の維持管理作業を継続することが大切である。また、種子保存など域外保全も実施すべきである。

分布	本州・四国
県内分布	仁淀川町，四万十町
生育環境と特性	県内の生育地は四万十川支流の山間部にあり、長年継続的に草刈りが行われてきた半日陰の道路の切土法面である。多年生草本。

VU 76	カヤツリグサ科	高知県 RL2010: VU 高知県 RDB2000: VU 環境省 RL2020: NT
	キノクニスゲ <i>Carex matsumurae</i>	

【生育状況と選定の理由】

離島でも確認されており、県内の生育地は黒潮の影響を受ける温暖な地域に限定される。中西部の生育地は離島にあり、有機物層が厚く堆積する緩やかな凹傾斜面の樹林下に群生している。県内でも特に温暖な南西部の離島では、海側にイソスゲが山側に本種が群生している場所がある。本県南西部の海岸林を特徴づける景観構成要素としても重要である。

【危機要因と保護保全対策】

海岸部の開発や森林伐採のほか、ニホンジカによる食害が危機要因と考えられる。大型で群生する本種の保全には、ムサシアブミータブノキ群集などの自然性の高い海岸林を残すことが大切である。主要な生育地でモニタリング調査をしていくことが必要である。

分布	伊豆諸島（利島）・本州（富山県・静岡県以西）・四国・九州，朝鮮半島
県内分布	東洋町，須崎市，黒潮町，土佐清水市，宿毛市，大月町
生育環境と特性	海岸林の林床に群生する大型の多年生草本。緩やかな斜面の樹林下では群生し、急斜面には点々と生える。

絶滅危惧II VU

VU
77

カヤツリグサ科

ミヤマイワスゲ

Carex odontostoma

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: -

環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

香美市といの町本川で確認されており、1地点で現存を確認した。瓶ヶ森周辺で点々と標本が採集されている。

【危機要因と保護保全対策】

確認されているのは自然公園内で、岩上に生えるため、危機要因は現在のところない。将来的には、ニホンジカによる食害で周辺の樹木が枯死したり、食害の影響で森林の乾燥化が進行したりすれば減少するおそれがある。

分布	本州（近畿地方）・四国・九州，台湾
県内分布	香美市，いの町
生育環境と特性	県内では高標高域の針広混交林内や林縁の岩上などに生える多年生草本。

VU
78

カヤツリグサ科

オタルスゲ

Carex otaruensis

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: VU

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

採集記録があるのは仁淀川町の間湿原のみで、調査でも現存が確認された。生育地が1か所で、生育範囲も限られている。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は遷移進行とニホンジカの食害である。生育地は貴重な中間湿原であるが、調査期間中にシカの痕跡が多くみられるようになった。モニタリング調査によって個体群の状況を把握し、必要に応じて防鹿柵の設置など食害対策を講じる必要がある。

分布	北海道・本州・四国・九州
県内分布	仁淀川町
生育環境と特性	中間湿原の湛水域に群生する多年生草本。

VU
79

カヤツリグサ科

ツルミヤマカンスゲ

Carex shikokiana

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: -

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

採集記録があるのは津野町のみで、調査でも現存が確認された。生育地が1か所で、個体数も少ない。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は産地局限である。既知の生育地は限られており、モニタリング調査により、生育地点や個体群の動態を把握し、保全対策を講じる必要がある。

分布	本州（関東地方南部～近畿地方）・四国・九州
県内分布	津野町
生育環境と特性	ブナ帯の落葉広葉樹林の林床に生える多年生草本。地上性の太い匍匐枝を伸ばし、しばしば群生する。

VU
80

カヤツリグサ科

トサノハマスゲ

Cyperus rotundus var. *yoshinagae*

□絵 13

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: EN

【生育状況と選定の理由】

調査で高知市，いの町で現存が確認された。土佐市は未調査である。県中部に分布が限られており，生育地，個体数が少なく連続的な減少が予測される。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は人の踏みつけや道路工事，除草剤の散布などである。アスファルト舗装の道路や駐車場など人の経済活動の場にも生えるため，管理者や地権者と情報を共有し，連携して管理方法を検討する必要がある。

分布	四国
県内分布	高知市，土佐市，いの町
生育環境と特性	河川の堤防，畔，路傍，駐車場など開放的な場所に生える多年生草本。

VU 81	カヤツリグサ科	高知県 RL2010: EN 高知県 RDB2000: EN 環境省 RL2020: -
	ヌマハリイ <i>Eleocharis mamillata</i> var. <i>cyclocarpa</i>	

【生育状況と選定の理由】

県内の生育地は中間湿原 1 か所のみである。本種は湿地内でも地下水位の高い場所の周辺にのみ生育することから、湿地の乾燥化と遷移の進行により個体数が減少する可能性がある。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は遷移進行である。生育地は、県立自然公園として保護されているものの、乾燥化による遷移進行で湿性環境が減少すると個体数が減少する可能性がある。保護のためには、植生管理を検討する必要がある。

分布	北海道・本州・四国・九州, ロシア (極東)・朝鮮半島・中国
県内分布	仁淀川町
生育環境と特性	山地の浅い池沼, 特に地下水位が高いところに生育する多年生草本。

VU 82	カヤツリグサ科	高知県 RL2010: EN 高知県 RDB2000: EN 環境省 RL2020: -
	マシカクイ <i>Eleocharis tetraquetra</i>	

【生育状況と選定の理由】

近年確認された地点は 10 か所で、そのうち現存が確認されたのは 5 か所である。個体数の多い生育地もあるが、各地の生育面積は狭く、いずれの生育地も遷移の進行による環境の変化が予想される。

【危機要因と保護保全対策】

植生遷移が主な危機要因で、そのほか湿地の開発, 外来植物との競合, 農薬汚染がある。ほとんどの生育地が人為自然環境にあるため、各地点のモニタリング調査が必要である。

分布	本州 (中国地方)・四国・九州・琉球, 台湾・中国・インド・スリランカ・東南アジア・オーストラリア
県内分布	東洋町, 室戸市, 奈半利町, 南国市, 土佐市, 中土佐町, 四万十町, 黒潮町, 四万十市, 三原村, 土佐清水市
生育環境と特性	平地の池沼や休耕地, 水路などに生育する多年生草本で、短い根茎を出し叢生する。

VU 83	カヤツリグサ科	高知県 RL2010: VU 高知県 RDB2000: VU 環境省 RL2020: -
	シオカゼテンツキ <i>Fimbristylis cymosa</i>	

【生育状況と選定の理由】

調査で現存が確認されたのは土佐清水市の 1 か所のみであるが、確認個体数は多い。

【危機要因と保護保全対策】

台風や津波などの自然災害によって影響を受ける海岸沿いの岩場で、通常は近づくことが困難な環境であるため、十分な調査ができていない可能性が高い。今後も継続して調査し、生育地点情報の収集が必要である。

分布	本州 (関東以西)・四国・九州・琉球, 台湾・中国・インド・インドネシア・オーストラリア
県内分布	土佐清水市, 宿毛市; 大月町 (1900 年以前)
生育環境と特性	県内では海岸の岩場で少し水がたまるようなところに生える多年生草本。

VU 84	カヤツリグサ科	高知県 RL2010: VU 高知県 RDB2000: VU 環境省 RL2020: -
	イソテンツキ <i>Fimbristylis pacifica</i>	

【生育状況と選定の理由】

調査では土佐清水市で現存が確認された。その他は未調査である。生育地点は西部のみで、限定的である。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は産地局限である。国立公園内の 1 か所で継続して確認されているが、海岸の岩礁地であるため、台風などの影響も予測される。モニタリング調査で個体群の動向を把握し、保全対策を講じる必要がある。ほかの標本採集地点などでも調査が必要である。

分布	伊豆諸島・四国・九州・琉球
県内分布	黒潮町, 土佐清水市, 宿毛市; 大月町 (1900 年以前)
生育環境と特性	海岸の岩場で水が少したまるようなところや海岸近くの山麓の湿ったところに生える多年生草本。

絶滅危惧 II VU

VU
85

カヤツリグサ科

ヒメホタルイ

Schoenoplectiella lineolata

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: VU

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内では4市町5か所で確認されているが、2004年以降採集記録がない。前回の評価を踏襲した。

【危機要因と保護保全対策】

平地のため池や水田などでは管理放棄や湿地の開発、山地では遷移による湿地の乾燥化などの危機要因が考えられる。過去の生育地点での詳細な再調査が必要である。

分布 北海道・本州・四国・九州・琉球、ロシア(極東)・朝鮮半島・台湾・中国

県内分布 香美市、仁淀川町、四万十町、宿毛市

生育環境と特性 池畔などの浅水中に生える多年生の抽水～沈水植物。細い地下茎が横走り群生する。本県では平地のため池や水田の周辺から山地の湿地にまれにみられる。

VU
86

カヤツリグサ科

エゾアブラガヤ

Scirpus asiaticus

高知県 RL2010: EN

高知県 RDB2000: EN

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内で現在生育が確認されているのは仁淀川町と梶原町のそれぞれ1か所のみである。調査では個体数は増加傾向にあるが、産地が局限しており湿地の乾燥化と遷移の進行により個体数が減少する可能性がある。土佐町では1974年以降の確認がない。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は遷移進行と管理放棄である。現存する生育地は、県立自然公園や森林公園として保護されているものの、乾燥化による遷移進行で湿性環境が減少すると個体数が減少する可能性がある。保護のためには、遷移が進行しないような管理を検討する必要がある。

分布 北海道・本州・四国・九州、朝鮮半島・中国・ロシア(南東部)

県内分布 土佐町、仁淀川町、梶原町

生育環境と特性 湿地に叢生する大型の多年生草本。アブラガヤに似るが、花序は1個のみ頂生する。

VU
87

イネ科

ミヤマヌカボ

Agrostis flaccida

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: -

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

これまで標本が採集されているのは香美市の高標高域のみである。石鎚山系の高知県側でも生育している可能性があるが、詳細な調査がなされていない。生育環境は草地や礫地で、個体数も少ない。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は産地局限と考えられる。県内の生育地が高山であることから、分布や生育状況が十分把握できていない。適期に調査を行い、実体の把握が必要である。

分布 北海道・本州・四国・九州、ロシア(極東)・朝鮮半島(南部)

県内分布 香美市

生育環境と特性 稜線部のササ原や礫地に生える多年生草本。

VU
88

イネ科

アオウシノケグサ

Festuca ovina var. coreana

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: VU

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

いの町本山川瓶ヶ森で過去に標本が採集されているが、今回は未調査である。剣山山系の徳島県三好市東祖谷の天狗塚で採集された標本があることから、天狗塚に連続する高知県側のササ原にも分布している可能性があるが詳細な調査がなされていない。生育地が限られており、個体数も少ない。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は産地局限と考えられる。県内の生育地が高山であることから、分布や生育状況が十分把握できていない。適期に調査を行い、実体の把握が必要である。

分布 本州・四国・九州

県内分布 いの町

生育環境と特性 高山のササ原に生える多年生草本。

VU 89	イネ科	高知県 RL2010: EN 高知県 RDB2000: - 環境省 RL2020: -
	トキワススキ <i>Miscanthus floridulus</i>	

【生育状況と選定の理由】

個体数は安定しているが、種子があまりできないためか分布範囲がほとんど広がらず、生育地は限られている。

【危機要因と保護保全対策】

生育地には管理放棄された水田が多く、遷移が進んでいるため、個体群の状況を把握し、適切な植生管理を検討する必要がある。そのほかに河川改修や土地改良事業、森林伐採などのおそれもあり、関係者間で生育情報を共有し、適切な保全対策を講じる必要がある。

分布	本州（関東南部以西）・四国・九州・琉球、台湾・中国（南部）・太平洋諸島
県内分布	大月町
生育環境と特性	小さな川の土手や棚田の斜面、民家の生け垣の中などに小さな集団を作って生える。多年生草本。

VU 90	イネ科	高知県 RL2010: VU 高知県 RDB2000: - 環境省 RL2020: -
	オオネスミガヤ <i>Muhlenbergia longistolon</i>	

【生育状況と選定の理由】

大川村の過去に標本が採集された地点では樹林が発達し、いの町本川ではニホンジカの食害が顕著になっており、確認できなかった。津野町は未確認である。

【危機要因と保護保全対策】

ニホンジカによる食害と遷移進行による生育環境の変化が危機要因である。過去に確認された分布範囲で、再確認できていない生育地が多く、さらなる調査が必要であるが、状況によってはシカの食害対策などの検討が必要である。

分布	北海道・本州・四国・九州，東アジア北部
県内分布	香美市，大川村，いの町，津野町
生育環境と特性	山地の明るい林内に生える。多年生草本。

VU 91	イネ科	高知県 RL2010: VU 高知県 RDB2000: EN 環境省 RL2020: -
	ムカゴツヅリ <i>Poa tuberifera</i>	

【生育状況と選定の理由】

調査では、香美市、大豊町、高知市で現存が確認された。その他は未調査である。生育地が限られており、連続的な減少が予測される。ニホンジカの食害がある所では矮小化しており、一部の生育地では食害によって徐々に減少していくと推測される。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因はニホンジカによる食害である。シカの食害に対しては、生育地を含めた広範囲でのシカの頭数管理が必要である。

分布	本州・四国・九州
県内分布	香美市，大豊町，本山町，高知市，津野町，仁淀川町
生育環境と特性	標高 700m から 1500m あたりまでの山地の林床に生える。多年生草本。谷沿いの小さな礫が堆積しているところに多くみられるが、石灰岩地では尾根部にも生える。

VU 92	イネ科	高知県 RL2010: VU 高知県 RDB2000: - 環境省 RL2020: -
	オニシバ <i>Zoysia macrostachya</i>	

【生育状況と選定の理由】

県内では温暖な南西部や東部の限られた海岸にのみ分布し、分布域が限定されている。

【危機要因と保護保全対策】

北海道から沖縄までの広域に分布する植物であり、かつては県内の海岸にも数多く生育していたと考えられるが、防潮堤の建設などによる自然海岸の消失が本種の生育に影響を与えてきたと推察される。本種の保全には防潮堤建設計画での配慮はもとより、生育地にはウミガメの産卵地などが含まれることから、自然海岸の生態系を一体として考えて保全する視点が重要である。

分布	北海道・本州・四国・九州・琉球
県内分布	東洋町，高知市，日高村，四万十町，黒潮町，四万十市，土佐清水市，大月町
生育環境と特性	海岸砂丘に生える多年生草本で、生育地では長い根茎が地中を這って群生するため、個体数の確認が難しい。

絶滅危惧II VU

VU
93

メギ科

ルイヨウボタン

Caulophyllum robustum

口絵 14

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: VU

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

大豊町、いの町、仁淀川町、梶原町で現存が確認された。新しく確認された生育地点もあり、今のところ特に目立った減少は確認されていないが、各地点で確認される個体数は少ない。

【危機要因と保護保全対策】

遷移進行が主な危機要因である。別の希少植物を保護するために設置した防鹿柵内で出現したこともあり、ニホンジカによる食害によって影響を受けている可能性が高い。シカの生息域にある生育地では防鹿柵の設置を検討する必要がある。

分布	北海道・本州・四国・九州，ロシア（極東）・朝鮮半島・中国
県内分布	大豊町，いの町，仁淀川町，津野町，梶原町
生育環境と特性	落葉広葉樹林やスギ人工林の林内に生える多年生草本。

VU
94

キンボウゲ科

ルイヨウショウマ

Actaea asiatica

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: -

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内では5市町村6か所の記録があり、うち2000年以降に確認されたのは2町村4か所である。香美市に設置された防鹿柵のうちの1か所で現存が確認された。ニホンジカの食害の影響がある地域では減少が予測される。

【危機要因と保護保全対策】

ニホンジカによる食害と遷移進行が危機要因である。有毒植物であるが、シカの食害が深刻な地域では減少していると考えられる。大豊町や大川村などシカの生息密度が高くなってきている地域では、個体群の状況を把握し、防鹿柵の設置といった保護対策を検討する必要がある。

分布	北海道・本州・四国・九州，ロシア（極東）・朝鮮半島・中国
県内分布	香美市，大豊町，大川村，仁淀川町，津野町
生育環境と特性	山地の落葉広葉樹林下に生える多年生草本。群生することはないが、石灰岩地では多く確認できるところもある。

VU
95

キンボウゲ科

ニリンソウ

Anemone flaccida var. *flaccida*

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: -

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

香美市、大豊町、土佐町、梶原町で現存が確認された。生育地点が限られており、多くの地点で確認できる個体数が少ない。ニホンジカの食害による林床の荒廃で、個体の矮小化と個体数の減少がみられる生育地がある。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は森林伐採、遷移進行、ニホンジカによる食害である。シカの食害に対しては、生育地を含めた広範囲でのシカの頭数管理が必要であり、生育地点によっては防鹿柵の設置の検討が必要である。

分布	北海道・四国・九州，ロシア（極東）・朝鮮半島・中国
県内分布	香美市，大豊町，土佐町，津野町，梶原町
生育環境と特性	主に落葉広葉樹林の林床や林縁に生える多年生草本。

VU
96

キンボウゲ科

シコクバイカオウレン

Coptis quinquefolia var. *shikokumontana*

口絵 15

高知県 RL2010: -

高知県 RDB2000: -

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

土佐町、高知市で現存が確認された。本山町は未調査である。生育地が県中部の山地に限られる。連続的減少は確認されていないが、個体数を1,000未満と推定した。

【危機要因と保護保全対策】

産地局限が危機要因である。現時点で連続的減少は観察されないが、既知の生育地は限られており、モニタリング調査により、生育地や個体群動態を把握する必要がある。

【特記事項】

Kadota (2004) では、四国に分布するものをすべて本種としていたが、坂本ほか (2018) で四国山地の中央部に分布するもののみが本種であることが明らかにされた。

分布	四国
県内分布	本山町，土佐町，高知市
生育環境と特性	標高1000m以上の山地で、主に針葉樹林の林下に生える常緑の多年生草本。匍匐する地下茎を延ばし、しばしば群生する。

VU 97	キンポウゲ科	高知県 RL2010: DD 高知県 RDB2000: - 環境省 RL2020: -
	コキンポウゲ <i>Ranunculus japonicus</i> var. <i>rostratus</i>	

【生育状況と選定の理由】

調査で香美市、仁淀川町、津野町で現存が確認された。大豊町は未調査である。高標高域の開放地で点々と確認されるが、生育地が限られている。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は遷移進行、登山者の踏みつけである。登山道の裸地に生えていることがあり、登山者の踏みつけに対しては注意喚起などの対策が望まれる。

分布	四国
県内分布	香美市、大豊町、仁淀川町、津野町
生育環境と特性	高山のササ草原の縁や林縁、登山道脇のやや湿った開放地に生える。

VU 98	キンポウゲ科	□絵 15	高知県 RL2010: EN 高知県 RDB2000: EN 環境省 RL2020: VU
	タマカラマツ <i>Thalictrum watanabei</i>		

【生育状況と選定の理由】

これまで県内の5市町村で標本が採集されているが、調査では香美市といの町の計6か所で確認された。個体数は1,000未満と推定される。香美市では、2009年に県森林環境税により防鹿柵が設置されている。

【危機要因と保護保全対策】

防鹿柵が設置されている地点では柵の外側でも安定して生育していることから、森林の荒廃や乾燥化などといった食害の間接的な影響もあるが、遷移の進行による被陰がより大きい減少の原因となっていると推察される。ニホンジカの生息域では広域的な頭数管理とともに、状況によっては防鹿柵の設置を検討する必要がある。

分布	本州（静岡県・紀伊半島以西）・四国・九州
県内分布	馬路村、香美市、いの町、仁淀川町、四万十市
生育環境と特性	落葉樹林の明るい林内や路傍に生える多年生草本。

VU 99	ツゲ科	高知県 RL2010: VU 高知県 RDB2000: VU 環境省 RL2020: -
	フッキソウ <i>Pachysandra terminalis</i>	

【生育状況と選定の理由】

4市町村6か所で現存を確認した。生育地点は限られるが、非常に多数の個体を確認できる地点がある。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は管理放棄や園芸採取、遷移進行である。水田や池の土手など人の手で環境が維持されている生育地もあり、適切な管理が望まれる。

【特記事項】

人家や神社の近くに生えるものは自生かどうか区別できない。

分布	北海道・本州・四国・九州、中国
県内分布	中部
生育環境と特性	低地から山地にかけての林内から林縁に生える常緑の垂木。そのほか、水田や池の土手などで生えるところがある。

VU 100	マンサク科	□絵 16	高知県 RL2010: VU 高知県 RDB2000: VU 環境省 RL2020: NT
	キリシマミズキ <i>Corylopsis glabrescens</i>		

【生育状況と選定の理由】

1988年以降の採集はなかったが、過去の確認地点で現存が確認された。生育状況から連続的な減少はないと思われるが、産地が非常に限られている。個体数は1,000以下と推定される。

【危機要因と保護保全対策】

確認されている生育地では、差し迫った危機要因はないものの、近隣地域にニホンジカの侵入が報告されている。今後、シカの食害の進行に注意し、被害や影響が確認された場合には、防鹿柵の設置などを検討する必要がある。

【特記事項】

コウヤミズキ（高知県 RL2010: DD）を含める。

分布	四国・九州
県内分布	仁淀川町、津野町
生育環境と特性	高さ3mほどの夏緑性の低木で、冷温帯のブナ、ウラジロモミ、サワグルミ、サワシバなどが混生する林内に生育する（山中 1985）。岩の堆積したところを好む。

絶滅危惧II VU

VU
101

スグリ科

ヤシャビシャク

Ribes ambiguum

高知県 RL2010: EN

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: NT

【生育状況と選定の理由】

県内の広範囲の高標高域でブナに着生しているのが確認されているが、個体数は多くない。

【危機要因と保護保全対策】

森林伐採や園芸採取で減少する可能性がある。ニホンジカによる食害で下層植生が消失しているところでは長期的には影響を受ける可能性がある。

分布	本州・四国・九州, 中国
県内分布	東部, 中部, 西部
生育環境と特性	県内では高標高域のやや老齡のブナに着生する。落葉性の小低木。

VU
102

ユキノシタ科

シコクトリアシショウマ

Astilbe thunbergii var. *shikokiana*

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: -

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内では東北部の徳島県と接する剣山系の高所のみみられる。全体として連続的減少があるかどうか不明だが、分布はニホンジカの食害の激しい剣山系に偏っており、個体数の減少が顕著な生育地もある。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は遷移進行とニホンジカによる食害である。シカは新芽や花芽を好むため、食害によって減少するおそれがある。シカの生息域では、シカの頭数管理とともに、防鹿柵の設置を検討する必要がある。

分布	四国
県内分布	香美市, 大豊町
生育環境と特性	標高 1000m 以上の落葉樹林の林床や林縁に生える多年生草本。

VU
103

ベンケイソウ科

チャボツメレンゲ

Meterostachys sikokianus

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: VU

環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

調査では県中部の6市町村で現存が確認された。生育地が山地の岩上に限られ、個体数も少ない。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は園芸採取で、自然公園法で採取が規制されている。そのほかの要因として遷移進行、産地局限、道路工事がある。個体数の多い生育地で道路工事が懸念される場所もあり、生育地点や周辺の状況について定期的に把握しておく必要がある。

分布	本州(紀伊半島)・四国・九州
県内分布	中部
生育環境と特性	山地の岩上に生える多年生草本。

VU
104

マメ科

トキリマメ

Rhynchosia acuminatifolia

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: -

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

2000年以降県中部の3市村3か所で採集記録があり、そのうち現存が確認されたのは香美市と日高村のそれぞれ1か所で、香南市では確認できなかった。確認されている生育地、個体数ともに少ない。果実期の確認が最も容易で、草刈り時期と重なるため確認地点が少ない可能性がある。

【危機要因と保護保全対策】

管理放棄、道路工事および不適切な草刈りが危機要因である。比較的人家近くの石垣や路傍に生育するため、草刈りなどの影響を受けやすい。草刈りにより明るい環境は保たれているものの、作業時期によっては種子を残せない可能性がある。管理者との協議や地元の協力を得ながら、適切な植生管理を模索する必要がある。

分布	本州(宮城県以西)・四国・九州, 朝鮮半島・中国
県内分布	香南市, 香美市, 日高村; 越知町(1889)
生育環境と特性	県内では主に低山地の林縁や路傍に生える、つる性の多年生草本。他のマメ科のつる植物と混生するため、果実期にならないと確認が難しい。

VU 105	マメ科	ツルフジバカマ <i>Vicia amoena</i>	高知県 RL2010: VU
			高知県 RDB2000: VU
			環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】
2市の河川堤防の草地で記録されており、高知市の仁淀川堤防1か所で現存が確認された。生育地が少なく、草刈りなどの影響を受け易い。

【危機要因と保護保全対策】
危機要因として、不適切な草刈りなどの人為的攪乱が考えられる。堤防の草地は定期的な大規模な草刈りが行われており、時期や方法によっては根絶させてしまう可能性があるため、管理者と生育地点の情報を共有し、管理手法について検討する必要がある。

分布	北海道・本州・四国・九州，ロシア（極東）・朝鮮半島・中国・モンゴル
県内分布	高知市，四万十市
生育環境と特性	山野の草原，路傍，ときに海岸の林縁にもみられるつる性の多年生草本で，長さ2mにおよぶ。本県では一級河川の堤防の草地に生育する。

VU 106	ヒメハギ科	ヒナノキンチャク <i>Polygala tatarinowii</i>	高知県 RL2010: CR
			高知県 RDB2000: CR
			環境省 RL2020: EN

【生育状況と選定の理由】
採集記録のある4市町で現存が確認され，新たに1町で発見された。調査で確認された生育地点と個体数は増えたが，いくつかの地点では減少傾向にあった。

【危機要因と保護保全対策】
遷移進行と道路工事が危機要因である。県内で確認されている生育地は道路脇が多く，管理不足による被陰や直接的な工事により消失する可能性が高い。また，石灰岩の採掘跡地にある生育地では，斜面の崩落防止などの工事が極めて広範囲で極端なものでない限り，一旦は減っても長期的には復活すると考えられる。

分布	本州・四国・九州，朝鮮半島・台湾・中国・フィリピン・東南アジア・ミャンマー・ブータン・インド
県内分布	香美市，佐川町，仁淀川町，津野町，梶原町；高知市（1943）
生育環境と特性	県内では石灰岩地の道路脇の切土法面など明るい開放地に生える一年生草本。

VU 107	ヒメハギ科	ヒナノカンザシ <i>Salomonina ciliata</i>	高知県 RL2010: CR
			高知県 RDB2000: CR
			環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】
2000年以降は梶原町と四万十町のそれぞれ1か所で確認され，現存も確認された。四万十町の生育地は町有地で，地元保護団体の活動により増加傾向にあるが，梶原町の個体数は非常に少ない。佐川町サギノスと三原村柚ノ木で牧野富太郎が標本を採集している。

【危機要因と保護保全対策】
危機要因は遷移進行，人の踏みつけ，管理放棄である。明るく湿った環境を保つことが必要であり，地元の協力を得ながら，個体群の状況を把握し，管理計画を構築する必要がある。

分布	本州・四国・九州，朝鮮半島（南部）・台湾・中国・東南アジア・ミャンマー・ネパール・インド・スリランカ・ニューギニア・オーストラリア
県内分布	梶原町，四万十町；佐川町（1881），三原村（1889）
生育環境と特性	日当たりの良い湿った裸地に生える一年生草本。植物体は9月頃から出現する。

VU 108	バラ科	チョウセンキンミスヒキ <i>Agrimonia coreana</i>	高知県 RL2010: VU
			高知県 RDB2000: -
			環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】
県内では石灰岩地に生育し，調査では梶原町で生育が確認された。生育地周辺の石灰岩地にも生育している可能性があるものの，これまでに確認された個体数が限られている。

【危機要因と保護保全対策】
危機要因は遷移進行と管理放棄による生育環境の変化である。県立自然公園・植物公園として保護されている生育地があるものの，遷移の進行により個体数が減少する可能性がある。保護のためには，継続的な管理が必要である。

分布	北海道・本州・四国・九州，ロシア（極東）・朝鮮半島・中国
県内分布	仁淀川町，梶原町
生育環境と特性	山地の明るい林内や林縁に生育する多年生草本で，高知県内では石灰岩地に生育する。

絶滅危惧II VU

VU
109

バラ科

アズキナシ

Aria alnifolia

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: VU

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

これまで確認されている県内の生育地は3市町のみである。調査では香美市といの町で現存を確認した。本種は冷温帯落葉広葉樹林に単木的に生育し、まとまった個体群が確認されていない。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因はニホンジカによる食害である。現在確認される個体のほとんどが自然公園内の国有林に生育する。保護のためには、森林が良好に維持されることが重要であるため、広域的な捕獲などのシカの頭数管理が必要である。状況によっては樹木ガードなどの設置を検討する必要がある。

分布 北海道・本州・四国・九州, ロシア(極東)・朝鮮半島・中国

県内分布 香美市, 大豊町, いの町

生育環境と特性 高さ15m以上に達する落葉高木で、若枝には皮目が目立つ。葉裏には突出する明瞭な側脈が8~10対あり、直線的に斜上して鋸歯の先端に達する。花期は5~6月で、枝先に複散房状の白い花序をつける。

VU
110

バラ科

イシヅチザクラ

Cerasus shikokuensis

口絵 17

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: NT

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

高知県における生育地は、愛媛県境の標高の高い山域であり、尾根筋に少数個体が点在するように生育している(西原, 坪田 2021)。個体数の増減は不明であるが、いずれの生育地においても現存する個体数が少ない。筒上山に古い記録があるが、未確認である。

【危機要因と保護保全対策】

生育地はいずれも保護林や緑の回廊に指定されている山域であり、開発などによる絶滅の危険性は低いが、長期的には温暖化の影響を受けて衰退する可能性がある。危機要因は最近増加傾向にあるニホンジカによる樹皮剥ぎなどの食害であり、捕獲などにより頭数の増加と生息域の拡大を抑制するとともに、樹木ガードなどで食害から保護する必要がある。

分布 四国

県内分布 いの町

生育環境と特性 県内の生育地はいずれも尾根上の岩礫地や土壌の浅い、周辺に高木の少ない明るいところである。落葉小高木。成熟個体の樹高は数メートルで、主幹は太くならず、倒伏している個体も多い。

VU
111

バラ科

テリハキンバイ

Potentilla riparia

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

調査では本山町と香美市の境で現存が確認された。その他は未調査である。分布範囲は広いものの生育地点が限られており、確認されている個体数が多くない。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は遷移進行とニホンジカによる食害が考えられる。生育地周辺の植生の変化が及ぼす影響やシカの食害の状況を把握するため、モニタリング調査を行い、その結果に基づいて保護対策を講じる必要がある。

分布 本州(愛知県以西), 四国

県内分布 香美市, 本山町, 高知市, 大川村, 津野町, 梶原町, 四万十町, 四万十市

生育環境と特性 山地の落葉林内や林縁, 林道法面の崖, 路傍, 川岸の岩場に生える多年生草本。

VU
112

グミ科

マルバアキグミ

Elaeagnus umbellata var. *rotundifolia*

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: -

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

分布は西部に限られており、島嶼でも確認され、大月町で現存する。堤内外や林縁に点在し、確認されている個体数は多くない。

【危機要因と保護保全対策】

海岸の開発や防災工事, 台風や津波などの自然災害が危機要因である。防災工事や海岸開発が避けられない場合には、管理者などと生育情報を共有し、連携して保全対策を講じる必要がある。

分布 本州(宮城県以西)・四国・九州・南西諸島

県内分布 土佐清水市, 宿毛市, 大月町

生育環境と特性 海岸近くの林縁や開放地に生える落葉低木。

VU 113	クロウメモドキ科	高知県 RL2010: VU
	クロカンバ <i>Rhamnus costata</i>	高知県 RDB2000: VU 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

2000年以降に5市町村で採集記録があり、香美市、いの町、仁淀川町で現存が確認された。本種は石灰岩地や岩石地を好んで生育するため、生育地周辺の同様の環境にも生育している可能性がある。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は遷移進行とニホンジカによる食害である。いくつかの生育地は、県立自然公園や植物公園、国有林内にあり保護されている。しかし、シカの食害の影響により個体数が減少する可能性がある。保護のためには、広域的なシカの頭数管理が必要で、状況によっては樹木ガードなどの設置を検討する必要がある。

分布	本州・四国・九州
県内分布	香美市、大豊町、大川村、いの町、仁淀川町
生育環境と特性	冷温帯の石灰岩地や岩石地に生育する落葉小高木。

VU 114	クロウメモドキ科	高知県 RL2010: VU
	キビノクロウメモドキ <i>Rhamnus yoshinoi</i>	高知県 RDB2000: NT 環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

2000年以降に3市町で採集記録があり、調査では新しい確認地点を含め、香美市、仁淀川町、梶原町の3地点で現存が確認された。連続的な減少は観察されていない。推定個体数は250～1,000である。分布域に比べ調査地点数が少なく、評価を変更するだけの情報が集まらなかったため、前回の評価を踏襲する。

【危機要因と保護保全対策】

石灰岩の採掘など人為的攪乱が危機要因である。管理者などに協力をあおぎ、石灰岩採掘地の周辺などに保護地を設けるなどして、保全していくことが望ましい。県内全体の生育状況はわかっていないため、採集記録のある地域でより詳細な調査が必要である。

分布	本州（中国地方）・四国・九州、朝鮮半島・中国
県内分布	香美市、高知市、仁淀川町、津野町、梶原町
生育環境と特性	県内の生育地は全て石灰岩地帯にあり、イワシデ林などに混生する。落葉小高木。

VU 115	イラクサ科	高知県 RL2010: -
	ヒカゲミズ（タチゲヒカゲミズを含む） <i>Parietaria micrantha</i>	高知県 RDB2000: - 環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

県内では2町村にまたがる山塊にのみ確認され、非常に限られた範囲の限られた環境にのみ生育する。調査では1か所で現存を確認した。

【危機要因と保護保全対策】

遷移が進み森林が鬱閉して被陰されると、衰退する可能性がある。確認されている生育地は数地点しかいないため、保全対策の検討には分布範囲の全域で立地環境の特性を調査する必要がある。

【特記事項】

高知県 RL2010 ではタチゲヒカゲミズ（DD）としていたが、種内分類群を含むこととして「ヒカゲミズ（タチゲヒカゲミズを含む）」と変更した。

分布	北海道（西部）・本州・四国・九州、ロシア・朝鮮半島・中国・ヒマラヤ・西アジア・東ヨーロッパ
県内分布	いの町、大川村
生育環境と特性	県内では大きな岩崖の下の落葉樹林内のやや湿った明るいところに生える。一年生草本。

VU 116	ニシキギ科	高知県 RL2010: EN
	シラヒゲソウ <i>Parnassia foliosa</i> var. <i>foliosa</i>	高知県 RDB2000: - 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

生育環境が限定され、生育範囲は1地域に限られている。個体数が多い地点もある。

【危機要因と保護保全対策】

遷移進行、道路工事、園芸採取が危機要因である。谷川沿いに生育するものは増水などによって流される危険性がある。山野草としての人気が高く、採取圧が強いため生育地点情報の公開や拡散を防ぐ必要がある。

分布	本州・四国・九州、中国・インド北部
県内分布	中部
生育環境と特性	山地の湿地に生える多年生草本。県内では水の滴る岩壁の下部や谷川沿いに生育する。

絶滅危惧II VU

VU オトギリソウ科
トモエソウ
Hypericum ascyron var. *ascyron*

高知県 RL2010: VU
 高知県 RDB2000: EN
 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内広く、山地から人里近くまで点々と生育するが、各地点の個体数は少ない。イノシシによる踏み荒らしで荒廃し、消失した地点もある。ニホンジカの不嗜好性植物であり、中部から東部にかけての山地では競合する植物がシカ食害で衰退し、本種が繁茂する現象もみられる。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は遷移進行で、そのほか道路工事や園芸採取がある。生育地周辺の植生の変化が及ぼす影響を把握するため、モニタリング調査が必要である。

分布	北海道・本州・四国・九州，ロシア・朝鮮半島・中国・ベトナム・北アメリカ東部
県内分布	室戸市，安芸市，香美市，大豊町，本山町，土佐町，大川村，いの町，日高村，四万十町，黒潮町，四万十市
生育環境と特性	冷温帯に生育するものと、低山に生育するものがある。多年生草本。明るい草地，林縁に生える。

VU スミレ科
アケボノスミレ
Viola rossii

高知県 RL2010: EN
 高知県 RDB2000: DD
 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内で現存するのは1地域のみである。個体数の多い地点もあるが、生育地点数は限られている。他のスミレ類同様、増減を繰り返しているが、全体的には減少傾向にはない。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は遷移進行や道路の拡張，開発である。現存の生育地は比較的良好な環境が保たれているため，工事などで突然生育地が壊されないよう，管理者や地権者などと生育情報を共有しておく必要がある。

分布	北海道・本州・四国・九州，朝鮮半島・中国
県内分布	津野町，梶原町
生育環境と特性	県内では冷温帯の風通しが良い，落葉広葉樹林の斜面でみられる。多年生草本。

VU スミレ科
ミヤマスミレ
Viola selkirkii

□絵 19

高知県 RL2010: VU
 高知県 RDB2000: -
 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内では嶺北地域から天狗高原までの山地で確認されており，調査では土佐町，仁淀川町，津野町で現存を確認したが，各地点での個体数は50未満である。

【危機要因と保護保全対策】

県内で確認されている生育地は少ないが，現在のところは良好な生育環境が維持されているため，特段の保全対策は必要ない。

分布	北海道・本州・四国，朝鮮半島・中国・ヨーロッパ・北アメリカなど北半球の温帯域
県内分布	本山町，土佐町，大川村，いの町，仁淀川町，津野町
生育環境と特性	高知県では標高1300mほどのコケの生えている岩場などに地下茎を伸ばして群落をつくる。多年生草本。

VU スミレ科
ヒナスミレ
Viola tokubuchiana var. *takedana*

□絵 19

高知県 RL2010: EN
 高知県 RDB2000: -
 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

中部から西部にかけて，点々と確認されている。調査では，香美市，仁淀川町，須崎市で現存を確認した。個体数が多い生育地もあり，連続的な減少はないと推定される。造成，整地したようなところでも確認されている。

【危機要因と保護保全対策】

確認されている生育地点は少ないものの，現在のところは良好な生育環境が維持されている。特段の保全対策は必要ない。今後，さらに別の生育地が発見される可能性もあり，その場合評価の検討が必要である。

分布	北海道（石狩地方以南）・本州・四国・九州，朝鮮半島・中国
県内分布	香美市，いの町，仁淀川町，須崎市，梶原町
生育環境と特性	山地のやや湿った明るい林床に群落をつくる。多年生草本。

絶滅危惧Ⅱ VU

VU 121	フウロソウ科	□絵 19	高知県 RL2010: VU
	ヒメフウロ <i>Geranium robertianum</i>		高知県 RDB2000: VU 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

確認地点は香美市の石灰岩地の2か所で、生育地はごく限られている。個体数は連続的な減少は確認されておらず、総個体数は1,000未満と推定される。近年、ヒメフウロとして売られている栽培品もあり、その逸出個体が県内数か所で確認されている。

【危機要因と保護保全対策】

遷移進行とニホンジカによる食害が危機要因である。植物体が低いためシカの食害の直接的な被害は少ないが、踏み荒らしや周辺の植生の衰退による乾燥化など間接的な影響が危惧される。現時点で個体数は安定しているが、減少の兆候を見逃さないために定期的な観察を行う必要がある。

分布	本州・四国, 北半球の温帯
県内分布	香美市
生育環境と特性	県内では高標高の石灰岩地の転石斜面に生育する。一～二年生草本。市街地で見られるのは栽培からの逸出。

VU 122	ミソハギ科	□絵 19	高知県 RL2010: VU
	ケナシエゾミソハギ <i>Lythrum salicaria f. glabrum</i>		高知県 RDB2000: - 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

2000年以降に採集記録があるのは3町に限られる。調査が不足しており、生育個体数の詳細は不明である。これまでに確認された生育地には放棄水田が含まれている。管理放棄と乾燥化による遷移の進行によって、個体数が減少する可能性がある。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は遷移進行と管理放棄、産地局限と考えられる。生育地が限られていることから、何らかの自然攪乱によって個体数が減少する可能性がある。保全のためには、生育が確認された湿地や放棄水田周辺での湿性環境の維持、管理の継続が必要である。

分布	北海道・本州・四国・九州, ユーラシア・アメリカ・北アメリカの温帯
県内分布	津野町, 梶原町, 四万十町; 中土佐町 (1939)
生育環境と特性	湿地に群生する多年生草本。エゾミソハギは、全体に多毛であるのに対し、本種は毛が少ない。ミソハギに似るが、葉の基部は切形でやや茎を抱くこと、がく裂片が直立することが異なる。

VU 123	アカバナ科	□絵 19	高知県 RL2010: VU
	ケミヤマタニタデ <i>Circaea alpina subsp. caulescens</i>		高知県 RDB2000: - 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

2000年以降に確認された生育地は3市町村に限られる。標本では開花と花序の伸長の状況がわからないため、茎や葉の毛の形質で分類すると基準亜種のミヤマタニタデと分布が重なるところがある。現地調査が不足しており、生育個体数の詳細は不明である。ニホンジカの生息域では、林床植生の衰退に伴う攪乱の影響が危惧される。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因として産地局限とニホンジカによる食害の影響が考えられる。生育地が限られていることから、何らかの自然攪乱によっても個体数が減少する可能性がある。シカの生息域では、防鹿柵の設置などによる保護が必要か検討する必要がある。

分布	本州 (関東地方以西の太平洋側)・四国, ロシア (極東)・朝鮮半島・中国・コーカサス地方
県内分布	香美市, 大川村, 津野町; 仁淀川町 (1962)
生育環境と特性	湿った林内に生える小型の多年生草本。葉は三角状広卵形で基部は心形, 短く尖る鋸歯がある。葉や茎に曲がった毛が生え, 花柄は花時から開出する (ミヤマタニタデは花時短く上を向く)。

VU 124	アカバナ科	□絵 19	高知県 RL2010: VU
	トダイアカバナ <i>Epilobium platystigmatosum</i>		高知県 RDB2000: VU 環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

大川村, いの町本川で現存が確認された。道路の法面で、樹林が発達し消失した地点があった。

【危機要因と保護保全対策】

遷移進行が危機要因である。管理者や地権者などと生育情報を共有し、定期的な林道管理や法面の樹林化の防止など、保全対策を検討する必要がある。

分布	本州 (神奈川県以西)・四国・九州, 朝鮮半島・台湾・中国・フィリピン
県内分布	馬路村, 高知市, 大川村, いの町, 仁淀川町
生育環境と特性	県内では未舗装の作業道上や路傍, 法面の明るく乾燥しないところに生える多年生草本。造成から少し経過した吹付法面で, 土壌が少したまったところなどにも生育する。

絶滅危惧II VU

VU ノボタン科
125 ヒメノボタン
Osbeckia chinensis

□絵 20

高知県 RL2010: EN
高知県 RDB2000: EN
環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

10 地点以上で確認されたが、消失した地点も多数あった。調査で最も多い個体数が確認された水田の法面に生育する集団では、耕作放棄が目立ち始めている。わずかに数株しか残っていない生育地もあった。

【危機要因と保護保全対策】

最大の危機要因は管理放棄と遷移進行による生育環境の変化で、生育地がある地域では過疎化が進み、耕作放棄も増えている。そのほかに除草剤の使用による消失や草地の開発、園芸採取、道路工事などでも減少している。本種は里山の植物で、野焼きや定期的な草刈りによって長い間人の暮らしとともに維持されてきた。本種の維持に配慮した管理と耕作の継続が必要である。

分布	本州（紀伊半島）・四国・九州・琉球、台湾・中国・東南アジア・インド・オーストラリア
県内分布	高知市、佐川町、中土佐町、梶原町、四万十町、黒潮町、四万十市、土佐清水市、三原村、大月町
生育環境と特性	日当たりが良く、水が滲み出するような水田の畦や湿地周辺、畑の草地、法面に生える多年生草本。

VU ムクロジ科
126 メグスリノキ
Acer maximowiczianum

高知県 RL2010: VU
高知県 RDB2000: -
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

優占林分を形成することはなく、大きな個体群は形成しない。減少傾向は不明であるが、産地が局限されており、成熟個体数も 1,000 以下と推定される。これまで確認されている全ての市町で現存が確認された。

【危機要因と保護保全対策】

産地が局限されており、一部の生育地ではニホンジカによる食害によって林床植生が衰退している。後継樹の育成が重要であり、実生の確保と防鹿柵による保護が必要である。種子を採取して実生・稚樹を生産し、生育地に戻すことも検討する必要がある。

分布	本州・四国・九州、中国
県内分布	香美市、仁淀川町、津野町
生育環境と特性	山間の石灰岩地に多く、水はけの良い岩屑の堆積した崖面に生育する。雌雄異株の落葉高木。

VU ジンチョウゲ科
127 チョウセンナニワズ
Daphne pseudomezereum var. koreana

□絵 20

高知県 RL2010: VU
高知県 RDB2000: VU
環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

香美市、仁淀川町、津野町で現存が確認された。一部の生育地で個体数の減少が観察されるが、全体として連続的に減少しているかどうかは不明である。推定個体数は 1,000 未満である。

【危機要因と保護保全対策】

多くの生育地でニホンジカの生息密度が高くなってきており、不嗜好性植物といわれている本種も直接的な食害や植生衰退の間接的な被害を受けている。生育地を含めた広域におけるシカの頭数管理や場所によっては防鹿柵の設置などの対策が必要である。

分布	北海道・本州（中部）・四国・九州、ロシア（極東）・朝鮮半島・中国
県内分布	香美市、高知市、仁淀川町、津野町、梶原町
生育環境と特性	山間地の落葉広葉樹林内や草原、石灰岩地などの明るいとくに多く生える落葉小低木。ニホンジカの不嗜好性植物とされるが、シカの密度の高い地域では食痕が観察される。

VU ジンチョウゲ科
128 オニシバリ
Daphne pseudomezereum var. pseudomezereum

高知県 RL2010: VU
高知県 RDB2000: -
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内では、生育個体数の詳細は不明であるが、生育地は 3 市町に限られる。香美市で現存を確認した。本種は石灰岩地での確認例が多いことから、同様の環境には生育している可能性がある。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は産地局限と遷移進行である。ニホンジカの生息域でも生育が確認されるが、森林の荒廃による影響が予測されるため、定期的な調査が必要である。生育地が限られていることから、斜面崩壊や不測の自然攪乱によって個体数が減少する可能性もある。

分布	本州（宮城県～中部地方の太平洋岸と近畿地方）・四国・九州、済州島
県内分布	香美市、高知市、梶原町
生育環境と特性	高さ 0.5～1.5m の落葉小低木。県内では落葉広葉樹林やスギ人工林の林床にややかたまって生える。葉は互生して枝端では束生状で、7～8 月頃に落葉する。花期は 12～4 月で、5～7 月頃に赤い液果をつける。

VU 129	アブラナ科	高知県 RL2010: CR 高知県 RDB2000: - 環境省 RL2020: -
	ハクサンハタザオ <i>Arabidopsis halleri</i> subsp. <i>gemmifera</i> var. <i>senanensis</i>	

【生育状況と選定の理由】

採集記録があるのは香美市の1地点で、限られた範囲にのみ生育するが、現存が確認されている。県森林環境税によって防鹿柵が設置されており、設置以降、柵の効果を検証するためのモニタリング調査や補修時の観察などで毎年500個体程度が確認されている。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は遷移進行やニホンジカによる食害が挙げられる。防鹿柵の効果の検証のためモニタリング調査によって、個体群の状況が把握されている。防鹿柵内にはテンニンソウが繁茂しているが、本種の開花期には地上部が出現しておらず、現在のところ個体数は安定している。

分布	北海道・本州・四国・九州, ロシア(極東)・朝鮮半島・台湾・中国
県内分布	香美市
生育環境と特性	県内では高標高の草地や林縁に生える多年生草本。

VU 130	アブラナ科	□絵 20	高知県 RL2010: NT 高知県 RDB2000: - 環境省 RL2020: -
	スズシロソウ <i>Arabis flagellosa</i> var. <i>flagellosa</i>		

【生育状況と選定の理由】

日高村, 越知町, 梶原町で現存が確認された。各生育地では限られた面積に高密度で生育し個体数は多いが、確認地点数は非常に少ない。現状では確認地点数及び個体数の増減はほとんどないが、減少があれば高いランクへの変更の可能性がある。

【危機要因と保護保全対策】

道路沿いの法面や石垣に生育している場所では、道路の拡張工事によって消滅する危険性が高い。道路管理者が希少植物の有無の確認を県自然保護担当課に聴取する規模でない、小規模の工事で消失する危険性があるため、生育地点についての情報の共有が必要である。

分布	本州(近畿地方以西)・四国・九州, 中国
県内分布	仁淀川町, 日高村, 越知町, 梶原町
生育環境と特性	車道沿いの岩場や石垣, 法面などにつるを伸ばして生える。多年生草本。

VU 131	アブラナ科	高知県 RL2010: VU 高知県 RDB2000: - 環境省 RL2020: -
	ミツバコンロンソウ <i>Cardamine anemonoides</i>	

【生育状況と選定の理由】

調査で香美市, 土佐町, 越知町, 仁淀川町で現存が確認された。そのほかの地点は未調査である。生育地が限られており、確認されている個体数が多くない。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は遷移進行である。生育地周辺の植生の変化が及ぼす影響を把握するため、継続した調査が必要である。

分布	本州(関東以西)・四国・九州
県内分布	香美市, 土佐町, 佐川町, 越知町, 仁淀川町, 津野町, 四万十町
生育環境と特性	山地のやや湿った林床に生える多年生草本。県内ではスギ人工林内で多く観察されている。

VU 132	アブラナ科	□絵 20	高知県 RL2010: VU 高知県 RDB2000: EX 環境省 RL2020: NT
	コイヌガラシ <i>Rorippa cantoniensis</i>		

【生育状況と選定の理由】

調査で香美市, 南国市, 高知市, 土佐市, 佐川町, 黒潮町, 四万十市で現存が確認された。個体数が少ないことに加え、生育地は常に攪乱される場所であり、連続的な減少が予測される。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は除草剤の散布, 管理放棄, 遷移進行, 外来植物との競合, 氾濫による消失, 結実前の耕耘である。攪乱の激しい場所に生育し、継続的な観察が難しい。生育地のほとんどは農地とその周辺であり、土地所有者などと情報を共有し、連携して保全を図る必要がある。

分布	本州・四国・九州, ロシア(極東)・朝鮮半島・中国・東南アジア
県内分布	香美市, 高知市, 南国市, 土佐市, 佐川町, 黒潮町, 四万十市
生育環境と特性	河川の氾濫原のほか、かつては氾濫原であったと推測される範囲にある水田や畔, 冬作物の栽培される畑の縁など、攪乱を受けるところに生える。一年生または越年生草本。

絶滅危惧II VU

VU 133	ツチトリモチ科	口絵 20	高知県 RL2010:	-
	キイレッツトリモチ <i>Balanophora tobiracola</i>		高知県 RDB2000:	-
			環境省 RL2020:	-

【生育状況と選定の理由】

2016年に四万十町興津で発見され、現存も確認されている。本域では新たな生育地点が多数発見され、個体数は増加傾向にある。

【危機要因と保護保全対策】

ほとんどの生育地は海岸近くの林内にあり、特段の危機要因はないが、人家に近い生育地では観察者の踏み荒らしで影響を受ける可能性があるため、注意喚起が必要である。天然記念物に指定された生育地は、柵により保護されている。

【特記事項】

四万十町興津の「キイレッツトリモチ」は四万十町指定天然記念物（2017）で、本域の生育地が分布の北限・東限である。

分布	四国・九州・南西諸島、台湾・中国・インドシナ半島
県内分布	四万十町
生育環境と特性	海岸近くの常緑樹林内の明るいところで、トベラやシャリンバイなどの根の先端近くに複数の花茎を出す塊茎をつける。開花しても枯死しない塊茎がある。10月頃開花する。

VU 134	ビャクダン科	口絵 20	高知県 RL2010:	VU
	ツクバネ <i>Buckleya lanceolata</i>		高知県 RDB2000:	-
			環境省 RL2020:	-

【生育状況と選定の理由】

香美市の石灰岩地での採集記録が主であるが、近年日高村でも採集されている。そのほかいの町と仁淀川町に記録があるが、標本は未確認である。香美市の主な生育地ではニホンジカの食害の影響を受け減少している。県森林環境税で設置された防鹿柵内で確認されている。

【危機要因と保護保全対策】

最大の危機要因はニホンジカによる食害である。シカの生息域では、本種と宿主である樹木を食害から保護するため、防鹿柵の設置を検討するとともに、生育地周辺で捕獲などのシカの頭数管理が必要である。

分布	本州・四国・九州、中国
県内分布	香美市、日高村
生育環境と特性	山地の林内に生える半寄生の落葉小低木。ツガ、モミ、アセビ、カエデ類、スギ、ヒノキなどに半寄生し、やせた土地や尾根筋の林内や林縁に生育する。雌雄異株であるが、雌雄は隣接して生育する。

VU 135	イソマツ科	口絵 20	高知県 RL2010:	VU
	ハマサジ <i>Limonium tetragonum</i>		高知県 RDB2000:	NT
			環境省 RL2020:	NT

【生育状況と選定の理由】

調査では室戸市、土佐市、須崎市、宿毛市で現存が確認された。室戸市の生育地点は国定公園内にあり保護されているが、浦ノ内湾、松田川の河口では、河川・海岸の工事などにより連続的減少が予測される。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は河川や海岸の工事である。生育地点の情報を河川・海岸管理者などと共有し、河川や海岸の工事に当たって保全対策が適切に講じられるような仕組みが必要である。

分布	本州（三陸海岸以南の太平洋側）・四国・九州・琉球（奄美大島）、朝鮮半島（南部）
県内分布	室戸市、土佐市、須崎市、宿毛市；土佐清水市（1889）
生育環境と特性	海岸の砂浜や岩場の砂のたまり場、河川の河口近くの泥地や砂地に生える一回繁殖型の多年生草本。

VU 136	タデ科	口絵 20	高知県 RL2010:	VU
	ホソバナウナギツカミ <i>Persicaria praetermissa</i>		高知県 RDB2000:	NT
			環境省 RL2020:	-

【生育状況と選定の理由】

2000年以降に採集記録があるのは4市町5か所で、調査では新しい確認地点を含め北川村と土佐市のそれぞれ1か所で現存が確認された。大月町では生育していた場所で造成工事が行われており、消失した可能性がある。確認されている生育地が少ない。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は土地造成、湿地や池沼の開発、外来植物との競合である。高知市内では朝倉などで記録があるが、土地造成などによりほとんど消滅したと考えられる。本種が生育する低地の湿性の荒れ地といった環境では開発が避けられないことが多いため、種子保存などの域外保全に取組んでおく必要がある。

分布	本州（関東以西）・四国・九州・琉球、朝鮮半島・台湾・中国・東南アジア・オーストラリア東部・インド東部
県内分布	北川村、田野町、土佐市、四万十市、大月町；高知市（1892）
生育環境と特性	暖地の沼やため池などの水中や水辺に生える一年生草本。

VU
137

タデ科

ヌカボタデ

Persicaria taquetii

高知県 RL2010: EN

高知県 RDB2000: NT

環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

氾濫原に生育するため状況はいつも不安定である。外来種の侵入も著しく、毎年植生が大きく変化している。定期的に草刈りが行われている河川敷では個体数の急激な増加をみたが、耕作放棄地や農業が使用される水田周辺では減少傾向の地点もある。

【危機要因と保護保全対策】

タケ、ササ類や樹木の侵入による遷移の進行、外来植物との競合が主な危機要因で、そのほかに農薬汚染がある。個体群の状況を把握し、野焼きや種的生活史に配慮した草刈りなど、適切な植生管理対策を講じる必要がある。

分布	本州・四国・九州、济州島・中国
県内分布	香美市、高知市、大豊町、仁淀川町、日高村、越知町、津野町、中土佐町、四万十市、三原村、宿毛市；土佐市（1892）
生育環境と特性	湿地や池の浅いところから水際に生える一年生草本。

VU
138

タデ科

アキノミチャナギ

Polygonum polyneuron

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

調査では、高知市、土佐市、須崎市、四万十市で現存が確認された。宿毛市は未調査である。生育地点は10か所以上確認されているが、ほとんどが狭い砂地に生える小規模な集団で、消失の危険性が高いところが多い。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は海岸開発、高波による砂浜の消失である。生育地点の情報を河川・海岸管理者などと共有し、河川や海岸の工事に当たって保全対策が適切に講じられるような仕組みが必要である。

分布	北海道・本州・四国・九州、ロシア（極東）・朝鮮半島・中国
県内分布	高知市、土佐市、須崎市、四万十市、宿毛市；安芸市（1892）、土佐清水市（1889）
生育環境と特性	砂浜海岸で、主に陸に近い方に生える一年生草本。

VU
139

ナデシコ科

オオヤマフスマ

Arenaria lateriflora

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: VU

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

香美市、仁淀川町で現存を確認した。南国市では1975年以降の記録がなく、香美市と津野町の生育地は人の利用のある森林公園である。県内の本来の生育地はおそらく仁淀川町の1地域のみと考えられる。極端な減少は観察されていない。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は管理放棄と遷移進行による生育環境の変化、道路工事である。生育地では現状の管理で維持されており、継続して管理していくための体制を整える必要がある。道路工事が不用意に行われないよう、管理者や地権者などと生育情報を共有し、保全対策を講じる必要がある。

分布	北海道・本州・四国・九州、北半球の温帯
県内分布	香美市、南国市、仁淀川町、津野町
生育環境と特性	日当たりの良い山地の草地に生える多年生草本。

VU
140

ナデシコ科

フシグロセンノウ

Silene miqueliana

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: VU

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

香美市およびいの町で現存を確認した。調査期間中に、落石防止ネットの設置と草刈り、道路脇の土砂の除去などにより確認できなくなった地点がある。各生育地点で個体数が少なく、連続的に減少するおそれがある。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因はニホンジカによる食害、管理放棄と遷移進行による生育環境の変化、園芸採取である。未調査地域での状況の把握が必要である。個体群の状況を把握し、植生管理などの対策を検討するとともに、生育地点情報の公開や拡散を防ぐ必要がある。シカの生息域では、影響を観察するとともに、シカの頭数管理を広域的に行う必要がある。

分布	本州・四国・九州
県内分布	香美市、いの町、仁淀川町、梶原町；越知町（1934）
生育環境と特性	山地の湿り気のある林床や林縁、斜面に生育する多年生草本。

絶滅
危惧
II
VU

VU
141

ヒユ科

ホソバノハマアカザ

Atriplex patens

高知県 RL2010: EN

高知県 RDB2000: -

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

土佐市から須崎市にかけての浦ノ内湾沿岸で標本が採集されており、調査でも現存が確認された。生育地が限られており個体数も少ない。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は開発工事で、そのほか漂着物による被覆がある。生育地点の情報を河川・海岸管理者などと共有し、河川や海岸の工事に当たって保全対策が適切に講じられるような仕組みが必要である。

分布	北海道・本州・四国・九州，アジア北東部
県内分布	土佐市，須崎市
生育環境と特性	浦ノ内湾の砂浜海岸で，主に陸に近い方に生える一年生草本。

VU
142

ヒユ科

ハママツナ

Suaeda maritima subsp. *asiatica*

□絵 21

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: VU

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

土佐市から須崎市にかけての浦ノ内湾沿岸で標本が採集されており、調査でも現存が確認された。生育地が限られており、やや群生する場所もあるが、全体としては個体数が少ない生育地がほとんどである。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は開発工事や高波による生育地の消失である。生育地点の情報を河川・海岸管理者などと共有し、河川や海岸の工事に当たって保全対策が適切に講じられるような仕組みが必要である。

分布	本州（宮城県以南）・四国・九州・琉球，朝鮮半島・台湾・中国
県内分布	土佐市，須崎市
生育環境と特性	海岸や河口の砂浜・塩湿地に生え，ときに群生する。

VU
143

アジサイ科

キレンゲショウマ

Kirengeshoma palmata

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: VU

環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

5市町村で採集記録があり、調査では7か所で確認され、個体数は10,000未満と推定される。確認個体数が多く安定している生育地がある一方、ニホンジカの生息域では2012年に県森林環境税で防鹿柵が設置されたものの、個体数が少なく、連続的減少が危惧される生育地もある。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は遷移進行で、そのほかニホンジカによる食害、園芸採取がある。防鹿柵が設置されている地点では柵内や溪流沿いの崖地など、シカの食害が及ばないところにのみ生育し、土砂流出などの生育地破壊のリスクも高い状況にある。柵の維持を確実にし、個体群の状況を把握するため定期的な調査が必要である。

分布	本州・四国・九州，朝鮮半島・中国
県内分布	中部
生育環境と特性	山地林内の湿った岩上または岩礫地に生える多年生草本。

VU
144

サクラソウ科

イワザクラ

Primula tosaensis var. *tosaensis*

□絵 21

高知県 RL2010: EN

高知県 RDB2000: EN

環境省 RL2020: NT

【生育状況と選定の理由】

10か所以上の記録地のうち、現存が確認されたのは6か所。斜面崩壊によってなくなった生育地がある。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は園芸採取である。そのほか遷移進行や産地局限がある。手の届くような場所がある生育地での減少は、主に盗掘と考えられるため、生育地点情報の公開や拡散を防ぐ必要がある。遷移の進行が著しい生育地では、個体群の状況を把握し、適切な植生管理なども検討する必要がある。

分布	本州（岐阜県・紀伊半島）・四国・九州
県内分布	東部，中部
生育環境と特性	山地の湿った岩石地や樹林内に生育する多年生草本。必ずしも石灰岩地に生育するとは限らない。主に溪流沿いや湿った岩壁に生育するため、個体数の計測が困難な場合がある。

VU 145	ハイノキ科	口絵 21	高知県 RL2010: VU
	ヒロハノミミズバイ <i>Symplocos tanakae</i>		高知県 RDB2000: VU 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

奈半利町から東部で点々と確認されており、調査では、室戸市と奈半利町で成熟個体は合計 50 程度確認された。馬路村, 北川村は未調査である。

【危機要因と保護保全対策】

森林伐採が危機要因である。ただし、伐採跡地などにも出現するため、各生育地の生育環境を把握し、保全方法を検討しておく必要がある。調査地点で減少傾向がみられた生育地はないが、林縁や道路脇などに生育するため、不用意に伐採される可能性が高い。管理者への注意喚起が必要である。

分布	四国・九州・種子島・屋久島・トカラ列島
県内分布	東洋町, 室戸市, 北川村, 馬路村, 奈半利町
生育環境と特性	県内では山地の常緑樹林の林縁部や伐採跡地, 人工林内などに生える。常緑小高木。

VU 146	イワウメ科	口絵 22	高知県 RL2010: EN
	イワカガミ <i>Schizocodon soldanelloides</i> var. <i>soldanelloides</i>		高知県 RDB2000: EN 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内では標高 1100m 以上の山地に分布し、調査によって現存確認地点数が増加した。生育環境が限られており、数個体しかない生育地もある。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は遷移進行による森林の鬱閉と園芸採取で、そのほか森林伐採による乾燥化、道路工事、産地局限である。生育地点情報の公開と拡散を防ぐ必要がある。

分布	北海道・本州・四国・九州
県内分布	東部, 中部
生育環境と特性	山地の明るい湿った岩場や林縁, 落葉樹林内の岩に着生する。多年生草本。

VU 147	ツツジ科	口絵 23	高知県 RL2010: VU
	コアブラツツジ <i>Enkianthus nudipes</i>		高知県 RDB2000: VU 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

2000 年以降に採集記録があるのは 3 市町で、越知町で現存が確認された。確認された個体数は多いが、生育地点は限られる。

【危機要因と保護保全対策】

現在確認される生育地は、いずれも人工林の困難な岩石地である。遷移の進行や上層木の伐採による影響で減少する可能性があるため、個体群の状況についてモニタリング調査が必要である。

分布	本州・四国
県内分布	香美市, 越知町, 津野町; 本山町 (1934)
生育環境と特性	山地の岩場, 主に珪質岩の急傾斜地に生育する落葉低木。

VU 148	ツツジ科	口絵 24	高知県 RL2010: VU
	アカモノ <i>Gaultheria adenothrix</i>		高知県 RDB2000: VU 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

いの町, 仁淀川町で現存が確認された。生育地が推移帯から冷温帯に限られており、確認されている生育地、個体数とも少ない。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は遷移進行, 人の踏みつけである。登山道沿いに生育している場所では、踏みつけによる損傷を防ぐ対策が必要である。

分布	北海道・本州・四国
県内分布	いの町, 仁淀川町
生育環境と特性	針葉樹林や低木林の林縁, ササ原に生える小低木。

絶滅危惧 II VU

VU
149

ツツジ科

マルバノイチヤクソウ

Pyrola nephrophylla

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: -

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内では標高 500 m以上の山地に生育地が点在している。調査では大豊町、土佐町、仁淀川町で現存が確認された。生育地が限られており、各地点の個体数も少なく連続的減少が予期される。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は遷移進行とニホンジカの食害である。シカの食害に対しては生育地を含めた広域での頭数管理とともに、状況によっては防鹿柵の設置を検討する必要がある。

分布	北海道・本州・四国・九州，ロシア（極東）
県内分布	香美市，大豊町，土佐町，仁淀川町，津野町，四万十町；佐川町（1889）
生育環境と特性	山地の林床に生える多年生草本。県内ではやや湿ったササ原にも生育している。

VU
150

ツツジ科

ツクシアケボノツツジ

Rhododendron pentaphyllum var. *pentaphyllum*

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: -

環境省 RL2020: NT

【生育状況と選定の理由】

県西部の2か所で確認されており，うち1か所は推定個体数 500~1,000で，最大の個体群と考えられる。本種は急峻な崖地などに生育するうえ開花個体は樹高が高いため，花糸の基部と花柄の毛の有無を確認できておらず，県内での詳細な分布地域は不明である。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因はニホンジカによる食害と遷移進行である。生育地のうちの1つでは，個体数は多いものの，叢生株の枯死や根の露出などが全体的にみられ，衰退傾向にある。宿毛市では2015年から保護再生活動が行われ，連続的減少は観察されない。ツツジ類は遷移が進むと容易に消失することもあるため，保護活動が継続できるような体制を整える必要がある。

分布	四国・九州
県内分布	津野町，宿毛市
生育環境と特性	山地の急峻な崖地などに生える落葉低木。

VU
151

ツツジ科

バイカツツジ

Rhododendron semibarbatum

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: VU

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県東部から中部の県境に近い山地内で確認されており，調査で確認されたのは2か所のみであった。まとまって生えず，点在していることが多い。樹勢が弱くか細いので，ほかの植物による被陰の影響を受け，開花できなくなっているものが多い。

【危機要因と保護保全対策】

遷移進行が危機要因である。周辺の樹木に被陰され開花株は点状のみである。陽光確保のため，周辺の支障木を伐採し，開花・種子結実を促す対策が必要である。実生株が比較的まとまって生えている場所を集中して管理し，モニタリング調査で管理が適切かどうか検証していくことが求められる。

分布	北海道（南部）・本州・四国・九州
県内分布	東部，中部
生育環境と特性	山地の林内に生える落葉低木。

VU
152

アカネ科

エゾノヨツバムグラ

Galium kamtschaticum var. *kamtschaticum*

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: -

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内ではやや標高の高い地域に採集記録があるが，確認されている生育地は多くなく，県内の全体的な生育状況が明らかではないと考えられる。いの町で現存を確認した。大川村では確認できず，森林が発達して林内環境が暗くなっており，消失した可能性が高い。

【危機要因と保護保全対策】

森林伐採や登山道脇にあるため人の踏みつけ，遷移進行などが危機要因である。登山道脇の生育地では，踏みつけされないような対策が必要である。確認されている生育地点が非常に少ないため，分布域での調査が必要である。

分布	北海道・本州（中北部）・四国，ロシア（極東）・朝鮮半島・北アメリカ
県内分布	香美市，大川村，いの町
生育環境と特性	県内では落葉樹林やスギ人工林内の歩道脇などで確認されている。多年生草本。

VU
153

アカネ科

キクムグラ

Galium kikumugura

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: VU

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県中部域で点々と確認されている。調査では香美市と土佐町のそれぞれ1か所で現存が確認されたが、県内の全体的な生育状況は明らかではなく、前回の評価を踏襲した。

【危機要因と保護保全対策】

ニホンジカによる食害が危機要因である。過去の確認地点はシカの食害の影響が大きくなりつつある地域であり、広域的な頭数管理とともに、防鹿柵の設置などの対策を講じる必要がある。

分布	北海道・本州・四国・九州
県内分布	香美市, 大豊町, 本山町, 土佐町, 仁淀川町
生育環境と特性	山地のやや明るい林内に生える多年生草本。

VU
154

リンドウ科

イヌセンブリ

Swertia tosaensis

□絵 22

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: EN

環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

2000年以降も10か所以上の標本採集地点があり、北川村、香美市、四万十町、三原村、土佐清水市で現存が確認された。四万十町奈路の保護区では増加傾向にあるものの、香美市や三原村の生育地で個体数が減少した地点がある。

【危機要因と保護保全対策】

地域の過疎化が進み、草刈りなどの管理が行われなくなっている。主な危機要因は湿田の耕作放棄と遷移の進行で、そのほかには外来植物との競合や湿田開発がある。できるだけ多くの地点から種子を採取し、域外保全を行う必要がある。

分布	本州・四国・九州, ロシア(極東)・朝鮮半島・中国
県内分布	北川村, 安田町, 四万十町, 黒潮町, 四万十市, 三原村, 土佐清水市, 宿毛市
生育環境と特性	湿地や水田, ため池の周辺の草地に生える一年～越年生草本。

VU
155

キョウチクトウ科

イケマ

Cynanchum caudatum

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: VU

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

香美市、大豊町、土佐町で現存が確認された。本種はニホンジカの不嗜好性植物であり、シカ食害によって競合する植物が増加し、局所的ではあるが増加している生育地もある。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は遷移進行である。確認された生育地が少なく、全体の個体数の増減が把握できていない。より多くの地点で調査が必要である。

分布	北海道・本州・四国・九州, ロシア(極東)
県内分布	香美市, 大豊町, 高知市, いの町, 仁淀川町, 中土佐町, 津野町, 四万十市
生育環境と特性	山地の林縁や草地に生えるつる性の多年生草本。

VU
156

キョウチクトウ科

イシダテクサタチバナ

Vincetoxicum calcareum

□絵 23

高知県 RL2010: EN

高知県 RDB2000: EN

環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

県内では香美市物部町石立山に現存し、標高1300m以上のみに生育が限られている。

【危機要因と保護保全対策】

遷移進行が危機要因である。唯一の生育地である石立山ではニホンジカの食害によって下層植生が消失し、シカの不嗜好性植物である本種の生育範囲は広がっており、個体数も増加傾向にある。こうした変化について記録を残しておく必要がある。

分布	四国
県内分布	香美市
生育環境と特性	尾根部のウラジロモミ林の明るい林床に生育する。多年生草本。

VU キョウチクトウ科
157 タチカモメヅル
Vincetoxicum glabrum

□絵 23

高知県 RL2010: NT
 高知県 RDB2000: NT
 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

調査では、高知市、仁淀川町で現存が確認され、佐川町では確認されなかった。生育地が限られており、各地点の個体数も少なく連続的減少が予期される。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は遷移進行と管理放棄で、そのほか山地の生育地では野生動物による掘起こしがある。生育地の多くは平地の湿地や休耕田などの人為自然環境であり、継続した適切な管理が必要である。仁淀川町の生育地は山地の中間湿原で、乾燥化が進行しつつあり、動向について定期的な調査が必要である。

分布	本州（近畿地方以西）・四国・九州
県内分布	高知市、佐川町、仁淀川町
生育環境と特性	平地の湿った草地や休耕田にみられるほか、仁淀川町の中間湿原にも分布する。多年生草本。

VU キョウチクトウ科
158 クサナギオゴケ
Vincetoxicum katoii

高知県 RL2010: DD
 高知県 RDB2000: EN
 環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

ヤマワキオゴケ *V. yamanakae*（高知県 RL2010: EN）は本種に含まれるものとして評価した（Yamashiro et al. 2012）。現存が確認されたのは香南市と中土佐町で、そのほかの地点は未調査である。土佐清水市の1地点で確認できなくなった。

【危機要因と保護保全対策】

森林伐採、遷移進行や管理放棄による生育環境の変化が危機要因である。薄暗い林床にも生えるが、暗くなりすぎると開花個体が減少するため、適度な明るさが保たれるような管理や攪乱が必要である。

分布	本州（関東地方～近畿地方）・四国
県内分布	安芸市、香南市、中土佐町、梶原町、四万十町、土佐清水市、三原村；須崎市（1887）
生育環境と特性	やや暗い林床や林縁に生える多年生草本。

VU ムラサキ科
159 ホタルカズラ
Aegonychon zollingeri

□絵 23

高知県 RL2010: VU
 高知県 RDB2000: VU
 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

四万十町で新たに確認されたが、国道脇のコンクリート上に生育しており、人為的な分布の可能性がある。香南市の生育地では他の植物が繁茂しており確認できなかった。高知市、佐川町、梶原町は未調査である。県内の分布は限定的である。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は遷移進行である。瑠璃色の花は目立ち、観賞価値があることから園芸採取されることもある。確認できなくなっている生育地点も多いため、過去の確認地点を含む広域での調査が必要である。

分布	北海道・本州・四国・九州・奄美諸島（喜界島）、朝鮮半島・台湾
県内分布	香南市、高知市、佐川町、梶原町、四万十町
生育環境と特性	県内では石灰岩地の林縁や草地に生える多年生草本。地上茎を伸ばして増える。

VU ムラサキ科
160 チシャノキ
Ehretia acuminata var. obovata

高知県 RL2010: VU
 高知県 RDB2000: CR
 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

東部から西部まで点々と確認されている。現存が確認されたのは室戸市、四万十市、三原村の3市村6か所で、各地の個体数は10前後で、全体としては250～1,000個体と推定され、連続的な減少は観察されない。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は森林伐採で、そのほか河川や道路の工事である。各地点の個体数は少ないため、工事や森林伐採で不用意に伐採されないよう、管理者や地権者などと生育情報を共有し、保全対策を検討する必要がある。

分布	本州（中国地方西部）・四国・九州・琉球、济州島・台湾・中国・ベトナム
県内分布	東洋町、室戸市、安芸市、南国市、高知市、いの町、須崎市、四万十町、四万十市、黒潮町、三原村、土佐清水市、宿毛市
生育環境と特性	川沿いなどの林内に生える落葉高木。神社や学校、公園、人家の庭に植えられることもあり、みかける機会が多い。

絶滅危惧II VU

VU 161	モクセイ科	高知県 RL2010: VU
	サイコクイボタ <i>Ligustrum ibota</i>	高知県 RDB2000: VU 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

香美市と仁淀川町で2000年以降に標本が採集されているが、各地点とも未調査であり、現状は不明である。

【危機要因と保護保全対策】

石灰岩地に多く、採掘やニホンジカの食害などによる植生の荒廃によって生育に影響を受ける可能性がある。生育範囲は2地域のみであるため、過去の生育地点で詳細な調査が必要である。シカの食害が進行している地域では防鹿柵の設置を検討する。

分布	本州（兵庫県以西）・四国・九州
県内分布	香美市, 仁淀川町
生育環境と特性	土壌の薄い乾燥しやすいところに生育し、石灰岩地に多い。落葉低木。

VU 162	イワタバコ科	高知県 RL2010: EN
	イワギリソウ <i>Opithandra primuloides</i>	高知県 RDB2000: EN 環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

2000年以降に4市町村で標本が採集されており、2地域で現存が確認された。個体数が多く確認できる生育地もあるが、園芸採取により連続的な減少が予測される。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は園芸採取、遷移進行などである。園芸的な目的で採取され続け、知られている生育地では簡単には届かないところのみ残る。生育地点情報の漏洩と拡散を防ぐ必要がある。

分布	本州（近畿地方以西）・四国・九州
県内分布	中部
生育環境と特性	やや明るい岩崖に生える多年生草本。

VU 163	オオバコ科	高知県 RL2010: EN
	キクガラクサ <i>Ellisiophyllum pinnatum</i>	高知県 RDB2000: EN 環境省 RL2020: NT

【生育状況と選定の理由】

梶原町と津野町で記録されている。現存が確認されたのは梶原町の1か所のみであるが、群生地は5～6か所ある。ノウサギによると思われる食痕が確認されたが、連続的な減少は観察されていない。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因として、森林の伐採による影響や土地の造成、踏みつけが考えられる。県内では生育する地域に限られ、周辺ではニホンジカの捕獲が進んでいるものの、選択的に食害されるおそれもあるため、定期的な生育状況の把握が必要である。

分布	本州・四国, 台湾・中国・ヒマラヤ・フィリピン・ニューギニアの高地
県内分布	津野町, 梶原町
生育環境と特性	やや湿り気のある林縁に生える多年生草本。細長い地下茎を伸ばし、節ごとに根と1枚の葉をつけ群生する。冬に地上部は枯れ、茎の先が円筒状にふくらんで休眠芽となって越冬する。

VU 164	オオバコ科	高知県 RL2010: VU
	イヌノフグリ <i>Veronica polita</i>	高知県 RDB2000: NT 環境省 RL2020: VU



【生育状況と選定の理由】

調査では室戸市、香美市、高知市、須崎市、津野町、黒潮町、三原村で現存が確認され、宿毛市で確認されなかった。かつての農山村の環境に適応した植物であり、県内では広く確認されていたが、農山村の生活環境の変化に伴う生育地の消失、オオイヌノフグリやフラサバソウなど競合する外来種との競合で、個体数が減少している。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は帰化種との競合であり、次に管理放棄が挙げられる。そのほか除草剤の散布、土地造成、遷移進行などもある。農地の周辺での除草剤の散布を控えるなどの対応が望まれる。

分布	本州・四国・九州・琉球, 北半球の温帯～暖帯
県内分布	室戸市, 奈半利町, 安芸市, 香南市, 香美市, 大豊町, 南国市, 高知市, 須崎市, 津野町, 中土佐町, 四万十町, 黒潮町, 四万十市, 三原村, 宿毛市
生育環境と特性	路傍や石垣の基部など、攪乱を受ける不安定な環境に生えており、消長が激しい。越年生草本。

絶滅危惧II VU

VU
165
ゴマノハグサ科
オオヒナノウスツボ
Scrophularia kakudensis

高知県 RL2010: VU
高知県 RDB2000: EN
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

2000年以降に6市町で採集記録があり、調査では3市町で現存が確認された。冷温帯に生育するヒナノウスツボに比べて低標高域で確認されている。推定個体数は10,000未満であり、減少傾向にあると推測されるが、調査が不十分である。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は管理放棄と遷移進行による生育環境の変化、森林伐採である。近年の生育情報が乏しいことから、採集記録のある地点において調査を行い、現状を把握する必要がある。

分布	北海道（南部）・本州・四国・九州，朝鮮半島
県内分布	安芸市，香美市，高知市，大豊町，土佐町，佐川町，須崎市，津野町，土佐清水市；土佐市（1959）
生育環境と特性	日当たりの良い草地や林縁に生える多年生草本。

VU
166
アゼナ科
シソバウリクサ
Vandellia setulosa

□絵 24

高知県 RL2010: CR
高知県 RDB2000: CR
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

東洋町にのみ確認されており、調査で現存が確認された。新たに確認された生育地もあったが、生育環境は不安定で、確認された地点の多くで消失のおそれがある。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は遷移進行や管理放棄による生育環境の変化で、そのほか森林伐採、園芸採取、人の踏みつけである。動物などによる自然の攪乱で明るい環境が保たれて個体群が維持されている生育地もあり、生育環境が不安定なところが多い。定期的に観察し個体群の状況を把握しておく必要がある。林道などでは草刈りなどといった管理の継続が求められる。

分布	本州（紀伊半島）・四国・奄美群島（大島・徳之島），中国
県内分布	東洋町
生育環境と特性	林内のギャップや路傍，水田の畔，川岸などのやや明るく湿ったところに生える一年生草本。

VU
167
キツネノマゴ科
スズムシバナ
Strobilanthes oligantha

□絵 25

高知県 RL2010: VU
高知県 RDB2000: EN
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

日高村と越知町で現存が確認された。高知県レッドデータブック2000の調査の際には、佐川町の多地点で確認されているが、栽培品の野生化したものの可能性が疑われており、本来の生育地は少ないと思われる。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は遷移進行である。人家の近くや、最近になって確認されるようになった地点もあり、自生か栽培かどちらか判断が難しい生育地がある。牧野富太郎が1890年代に日高村や佐川町で標本採集しており、過去の確認地と現在の生育地点の情報の整理が必要である。人為的な移動や栽培品の遺棄は避けるように啓発することも重要である。

分布	本州（近畿地方以西）・四国・九州，朝鮮半島（南部）・中国
県内分布	香美市，いの町，仁淀川町，日高村，佐川町，越知町
生育環境と特性	県内では暖温帯の谷沿いの陰地にまとまって生える多年生草本。

VU
168
シソ科
ラショウモンカズラ
Meehania urticifolia

高知県 RL2010: VU
高知県 RDB2000: VU
環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

仁淀川町，梶原町で現存が確認された。県内の分布は限定的であり，生育する範囲も狭い。

【危機要因と保護保全対策】

確認されている生育地点が少なく，遷移進行や林道の拡張による個体数の減少が確認されている。そのほか園芸採取や野生動物による被害も考えられる。県内では偏在し，ニホンジカの生息域が拡大しつつある地域もあるため，モニタリング調査を実施し，状況によっては防鹿柵の設置などの対策を講じる必要がある。

分布	本州・四国・九州，朝鮮半島・中国
県内分布	大豊町，本山町，仁淀川町，梶原町
生育環境と特性	山地の落葉広葉樹林に生える多年生草本。

VU 169	シソ科	高知県 RL2010: CR 高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: VU
	コナミキ <i>Scutellaria guillelmii</i>	

【生育状況と選定の理由】

2000年以降に採集記録のある4市町の全てにおいて、合計7か所で現存が確認された。増加している地点と激減している地点がある。

【危機要因と保護保全対策】

主な生育地である海岸砂地では、管理放棄や遷移進行による生育環境の変化、外来植物との競合、海水浴場を利用する人の踏みつけによる影響が危機要因である。定期的な草刈りといった管理や高潮などの際に漂着したゴミの撤去などが必要である。

分布	本州（太平洋側は千葉県以西、日本海側は石川県能登半島以西）・四国・九州・琉球（沖縄諸島以北）、中国
県内分布	高知市、四万十町、黒潮町、土佐清水市
生育環境と特性	海岸に近い草地や林下に生える多年生草本。地中に細長い地下茎をひく。海岸の松林中などが主な生育地であるが、ときに河川流域の竹林中などにも出現する。

VU 170	シソ科	高知県 RL2010: VU 高知県 RDB2000: - 環境省 RL2020: -
	ミヤマナミキ <i>Scutellaria shikokiana</i> var. <i>shikokiana</i>	

【生育状況と選定の理由】

調査では香美市、土佐町、南国市、仁淀川町、越知町、津野町、四万十市で現存が確認された。そのほかの市町村は未調査である。県内の山地に点々と分布するが、いずれの生育地も個体数が少ない。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は森林伐採、林道工事、遷移の進行、ニホンジカによる食害、外来植物との競合である。森林伐採や林道工事に関しては事業者や地権者と生育情報を共有し、連携して保全対策を図る必要がある。シカの食害に対しては、生育地を含めた広範囲での頭数管理が必要である。

【特記事項】

ケミヤマナミキ（高知県 RL2010: CR）を含める。

分布	本州（福島県南部以西）・四国・九州
県内分布	馬路村、安芸市、香美市、大豊町、本山町、土佐町、南国市、高知市、仁淀川町、越知町、津野町、四万十市
生育環境と特性	山地で林内や林縁、林道脇の草地などに生える多年生草本。

VU 171	ハマウツボ科	高知県 RL2010: VU 高知県 RDB2000: - 環境省 RL2020: -
	オオナンバンギセル <i>Aeginetia sinensis</i>	

【生育状況と選定の理由】

ほとんどの生育地は高標高域の半自然草原であるが、低標高域の一部でも確認されている。草原の下層に生育するので全体の個体数を把握するのは難しいが、草原そのものが減少しているため、個体数もそれに伴い減少していると推測される。津野町と梶原町で現存が確認され、南国市で確認できなかった。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は半自然草原の管理放棄とそれに伴う遷移の進行である。高標高域に残存する半自然草原を、火入れや刈取りなどの人為的な管理によって維持することが必要である。

分布	本州・四国・九州、中国
県内分布	南国市、土佐町、仁淀川町、津野町、梶原町
生育環境と特性	ススキやノガリヤスなどのイネ科植物、シバスケ、カンスゲなどのカヤツリグサ科植物の根に寄生する一年生草本で、それらの種が優占する半自然草原や林床に生育する。

VU 172	ハマウツボ科	□絵 26 高知県 RL2010: CR 高知県 RDB2000: CR 環境省 RL2020: VU
	ゴマクサ <i>Centranthera cochinchinensis</i> var. <i>lutea</i>	

【生育状況と選定の理由】

高知市、土佐清水市で現存が確認され、黒潮町で確認できなかった。水田の周囲に群生していた生育地では、除草剤を使用した形跡があり、ほとんど確認できなくなっていた。中部の蛇紋岩地帯の生育地ではネザサが繁茂して生育環境が悪化し、わずかに数株しか残っていない。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は耕作放棄と遷移進行による生育環境の変化で、そのほか草地の開発、除草剤の使用、外来植物との競合である。水田の管理が維持されることが必須であり、耕作が放棄されると短期間のうちに生育地が消滅する危険性が高い。個体数の多い生育地点で種子を採取しておくなど、域外保全を始める必要がある。

分布	本州（関東地方以西）・四国・九州・琉球、朝鮮半島（南部）・中国・インドシナ
県内分布	高知市、四万十町、黒潮町、土佐清水市、大月町；南国市（1934）、佐川町（1904）
生育環境と特性	水田の畔や草地に生える一年生草本。

絶滅危惧II VU

VU 173	ハマウツボ科	□絵 26	高知県 RL2010: VU
	ハマウツボ <i>Orobanche coerulescens</i>		高知県 RDB2000: EX 環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

香南市、香美市、南国市の物部川下流域で現存が確認された。生育地が限られており、個体数も少なく連続的減少が確認されている。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は河川工事、遷移進行である。生育地の物部川下流域は、頻りに河川改修や維持工事が行われているため、工事や管理作業によって回復不能な破壊がないよう、分布範囲などの情報を管理者と共有しておく必要がある。

【特記事項】

物部川流域に分布するハマウツボは、花序に毛がなく、オトコヨモギに寄生することから品種のオカウツボ *f. nipponica* と考えられる (坂本ら 2015)。

分布	北海道・本州・四国・九州・琉球, ロシア・朝鮮半島・台湾・中国・ヨーロッパ東部
県内分布	香南市, 香美市, 南国市
生育環境と特性	物部川の河原, 中州, 河岸の草地, 堤防法面でおトコヨモギ, カワラヨモギ, ヨモギの根に寄生する。カワラヨモギしか生えていない場所ではカワラヨモギに寄生するが, カワラヨモギとおトコヨモギが生育する場所ではおトコヨモギに寄生する。

VU 174	モチノキ科	□絵 26	高知県 RL2010: VU
	ツゲモチ <i>Ilex goshiensis</i>		高知県 RDB2000: VU 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

東部から西部まで点々と記録があり、社寺林内での確認も多い。調査では室戸市と須崎市のそれぞれ1か所で現存が確認された。

【危機要因と保護保全対策】

各地点で確認された個体数が少なく、生育環境の特性が把握できていない。本種は形態的な特徴が乏しいために林内で発見するのが難しく、見落とされている可能性が高い。保全対策を検討するためには、今後の詳細な調査が必要である。

【特記事項】

須崎市浦ノ内の「鳴無のツゲモチ」は須崎市指定天然記念物 (1969)。

分布	本州 (紀伊半島)・四国・九州・琉球, 台湾
県内分布	東洋町, 室戸市, 北川村, 高知市, いの町, 仁淀川町, 土佐市, 須崎市, 中土佐町, 四万十町, 四万十市, 黒潮町, 三原村; 宿毛市 (1959)
生育環境と特性	常緑樹林のやや林縁に近いところに生える常緑高木。

VU 175	モチノキ科	□絵 26	高知県 RL2010: VU
	ツルツゲ <i>Ilex rugosa var. rugosa</i>		高知県 RDB2000: - 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内では本山町といの町の限られた範囲でしか確認されていない。

【危機要因と保護保全対策】

生育範囲は限られているものの、保護林や自然公園内が多く、大規模な自然災害で森林が失われない限り、絶滅の危険性は低い。現在のところ特段の保全措置は必要ない。

分布	北海道・本州・四国, ロシア (極東)
県内分布	本山町, いの町
生育環境と特性	県内では常緑針葉樹林や落葉樹林の林床に生育する。常緑低木。

VU 176	キキョウ科	□絵 26	高知県 RL2010: VU
	ソバナ <i>Adenophora remotiflora</i>		高知県 RDB2000: VU 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内では5市町村で標本が採集されており、香美市といの町、仁淀川町で現存が確認された。香美市では、県森林環境税で防鹿柵が設置されている生育地がある。生育範囲は限られているが、100個体程度確認される地点もある。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は遷移進行と森林伐採、ニホンジカによる食害である。いくつかの生育地は県立自然公園や植物公園として保護されているものの、森林の発達により明るい環境が減少すると個体数も減少する可能性がある。また、シカの食害による減少も予期されることから、保護のためには防鹿柵の設置などが必要である。

分布	本州・四国・九州, 朝鮮半島・中国
県内分布	香美市, 大川村, いの町, 仁淀川町, 津野町
生育環境と特性	冷温帯の明るい林縁に生育する多年生草本。

絶滅危惧II VU

VU 177	キク科	ヤハズハハコ <i>Anaphalis sinica</i> var. <i>sinica</i>	高知県 RL2010: NT
			高知県 RDB2000: -
			環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

現存は香美市、越知町の2地域で確認した。推定個体数は1,000未満であり、生育地が石灰岩地に限定される。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は遷移進行と産地局限である。個体群の状況を把握し、保全対策を検討する必要がある。

分布	本州（関東地方以西）・四国・九州、中国
県内分布	香美市、仁淀川町、越知町、津野町
生育環境と特性	山地の岩場に生える多年生草本。

VU 178	キク科	ヤナギノギク <i>Aster hispidus</i> var. <i>leptocladus</i>	高知県 RL2010: NT
			高知県 RDB2000: NT
			環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

高知市の2か所と梶原町で現存が確認された。各地点の個体数は多いが、遷移の進行による連続的減少や大規模造成による消失が予測される。

【危機要因と保護保全対策】

土地の造成、管理放棄と遷移進行による生育環境の変化が危機要因である。蛇紋岩地では自然状態で明るい開放地が保たれるが、造成地などでは人為的な管理が継続的に必要で、適期に草刈りを継続する必要がある。

【特記事項】

分子系統解析では、愛媛県と静岡県産のものはヤマジノギクからの派生で、分類群として認めるならばヤナギノギクは現時点では県内産のみとなる（Yokoo et al. 2009）。

分布	四国
県内分布	香美市、南国市、高知市、日高村、佐川町、梶原町
生育環境と特性	県内では蛇紋岩地の草地に生える、越年生草本。

VU 179	キク科	シコクシロギク <i>Aster yoshinaganus</i>	高知県 RL2010: VU
			高知県 RDB2000: VU
			環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

馬路村と香美市で現存が確認された。安芸市は未調査である。生育地が限られており個体数が少ないことに加え、ニホンジカの食害による環境変化で個体数が減少している。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因はニホンジカによる食害と遷移進行である。シカの食害に対しては、防鹿柵の設置、生育地を含めた広範囲でのシカの頭数管理が必要である。

分布	四国
県内分布	馬路村、安芸市、香美市
生育環境と特性	山地の林内や林縁、崖、林道法面、ササ原など多様な環境に生える。多年生草本。

VU 180	キク科	コバナガンクビソウ <i>Carpesium faberi</i>	高知県 RL2010: VU
			高知県 RDB2000: VU
			環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

県内広範囲に生育するが、確認されている個体数は限られている。推定個体数が1,000未満で、連続的な減少が予測される。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は土地造成や林道の工事である。管理者・所有者などと生育情報を共有し、連携して保全対策を検討する必要がある。調査が不十分であるため、採集記録のある地域で再調査が必要である。

分布	本州（近畿地方以西）・四国・九州、台湾・中国
県内分布	馬路村、香美市、梶原町、四万十町、四万十市、宿毛市
生育環境と特性	山地の林下に生える多年生草本。

絶滅危惧II VU

VU
181

キク科

イワギク

Chrysanthemum zawadskii

□絵 27

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

採集記録のある2地域で現存が確認された。1地域で個体数が維持されている。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は産地局限、園芸採取、遷移進行である。産地が冷温帯の石灰岩地に限定されているが、未調査地点もあり、現状把握が必要である。個体群の状況を把握し、保全方法を検討するとともに、生育地情報の公開や拡散を防ぐ必要がある。

分布	本州（北部）・四国・九州，東アジア～ヨーロッパ東部
県内分布	中部，西部
生育環境と特性	山地の岩上に生える多年生草本。

VU
182

キク科

マルバダケブキ

Ligularia dentata

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

大豊町および高知市と土佐町の境付近の地域で現存を確認した。ニホンジカの嗜好性植物であり、確認される個体数は多くないものの減少傾向はない。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は土地造成や道路工事が挙げられる。ニホンジカの嗜好性植物であるため、ほかの植物が食害で減少するに伴い増加拡大傾向が観察されている。森林伐採や林道建設によって生育地が一気に消失する可能性があり、定期的な調査による個体群の状況の把握が望まれる。

分布	本州（東北地方～中部地方）・四国，中国・ベトナム・ミャンマー
県内分布	大豊町，土佐町，高知市
生育環境と特性	山地の明るい林内や草地に生える多年生草本。

VU
183

キク科

ミヤマコウモリソウ

Parasenecio farfarifolius var. *acerinus*

高知県 RL2010: -

高知県 RDB2000: -

環境省 RL2020: EN

【生育状況と選定の理由】

ニホンジカによる食害の影響を受けており、減少が予測されたため新しく追加した。県内では標高のやや高い地域で確認されており、各地点で確認されるのは数十個体で、個体数は多くない。香美市、大川村、いの町で現存を確認した。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因としてはニホンジカによる食害があるが、選択的に被食されているわけではない。確認されている地点数が多いため、今後継続的に個体の生育状況を確認する必要がある。

分布	本州（中部地方南部・近畿地方）・四国・九州
県内分布	香美市，大川村，いの町，仁淀川町，津野町
生育環境と特性	県内では山地の林内のやや湿ったところに生える多年生草本。

VU
184

キク科

ヒメコウモリソウ

Parasenecio shikokianus

□絵 27

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: VU

環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

高知市と土佐町で現存が確認された。馬路村、香美市は未調査である。土佐町の生育地では、ニホンジカの食害の影響が予測されたため、2012年に県森林環境税で防鹿柵が設置され、保護されている地点がある。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因はニホンジカによる食害と遷移進行である。馬路村や香美市では現在シカの食害被害が激しく、最近の採集記録がない地点もあるため再確認が必要である。影響が確認されれば、防鹿柵の設置などを検討する必要がある。

分布	本州（紀伊半島）・四国
県内分布	馬路村，香美市，高知市，土佐町
生育環境と特性	県内では比較的明るい林内の登山道沿いの法肩や斜面に生え、常緑樹が多い森林でもギャップなどで増える。多年生草本。

VU
185

キク科

コウシュウヒゴタイ

Saussurea amabilis

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: VU

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内4地域の記録があり、うち2地域で現存を確認し、ほか2地域は未調査で現状不明である。確認した1地域では個体数が減少している。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因はニホンジカによる食害および遷移進行が挙げられる。シカの食害対策として設置された防鹿柵内および付近（崖地など）では生育が確認されており、一定の効果が得られている。シカの生息域が拡大しつつある地域では、定期的な調査による現状把握が必要である。

分布

本州・四国

県内分布

香美市、仁淀川町、津野町、梶原町

生育環境と特性

山地の岩場に生える多年生草本。

VU
186

キク科

ホクチアザミ

Saussurea gracilis

□絵 28

高知県 RL2010: DD

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

梶原町で記録はあったものの生育地点が不明であった。新たに1地点で現存が確認されたが、いずれも開花個体数は50未満。確認した1地点は道路の維持管理のための草刈りが行われており生育環境は維持されているが、分布範囲はごく限られている。動物による食害を受けた個体が確認されている。

【危機要因と保護保全対策】

遷移進行による草原環境の喪失やニホンジカを含む動物による食害が危険要因として挙げられる。道路管理のための継続的な草刈りは必要であるが、花茎が伸長する前に行うなどの配慮が求められる。

分布

本州（長野県・愛知県以西）・四国・九州、朝鮮半島

県内分布

梶原町

生育環境と特性

採草地周辺やアカマツ疎林内、林縁に生育する多年生草本。

VU
187

キク科

ミヤマトウヒレン

Saussurea pennata

高知県 RL2010: EN

高知県 RDB2000: EN

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

いの町の2地点で確認されている。確認個体数が増加し、1地点では個体数が250以上1,000未満と推定され、現状が維持されている。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は遷移進行が挙げられる。一定の個体数が維持されているが、定期的な調査による現状把握が必要である。

分布

本州（奈良県）・四国

県内分布

いの町

生育環境と特性

山地の岩場に生える多年生草本。

VU
188

キク科

キビシロタンポポ

Taraxacum hideoi

□絵 29

高知県 RL2010: -

高知県 RDB2000: -

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

2010年から5年ごとにタンポポ調査が行われ、分布状況とその推移が観察されている。大豊町と梶原町で過去に標本が採集されており、調査でも現存が確認された。生育地が限られており、個体数が少なく連続的な減少が予測される。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は道路工事、管理放棄による被陰の増大、過剰な草刈りである。生育地のほとんどが人為自然環境にあり、地元の協力を得ながら個体群の状況を把握し、植生管理などの対策を検討する必要がある。

【特記事項】

ヤマザトタンポポ（高知県 RL2010: EN）と同じ種とする見解もあるが、今回別種として新しく追加した。

分布

本州・四国

県内分布

大豊町、梶原町

生育環境と特性

道路脇の草むらや果樹園に生える。多年生草本。

VU
189

キク科

カンサイタンポポ

Taraxacum japonicum

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

2010年から5年ごとにタンポポ調査が行われ、分布状況とその推移が観察されている。大豊町の徳島県境に近い山地に分布する集団のみ自生と考えられ、その地点の個体群のみ評価の対象とした。生育地が限られており、個体数が少なく連続的な減少が予測される。過去には東洋町でも自生と考えられる個体が確認されているが、消長があり安定して分布しているとは言いがたい。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は管理放棄と植生遷移による被陰の増大である。生育地のほとんどが人為自然環境にあり、地元の協力を得ながら個体群の状況を把握し、植生管理などの対策を検討する必要がある。

分布	本州（近畿地方・中国地方）・四国・九州
県内分布	大豊町
生育環境と特性	よく管理された草原、堤防の土手、路傍、山畑に生える。多年生草本。

VU
190

キク科

クシバタンポポ

Taraxacum pectinatum

□絵 29

高知県 RL2010: CR

高知県 RDB2000: CR

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

2010年から5年ごとにタンポポ調査が行われ、分布状況とその推移が観察されている。調査では6市町で現存が確認された。生育地が限られていることに加え、高齢化に伴う山里の荒廃、管理放棄地の増加に伴い急激に減少することが推測される。

【危機要因と保護保全対策】

最大の危機要因は管理放棄と遷移進行による生育環境の変化である。そのほかに道路工事、ニホンジカによる食害がある。山里の荒廃に伴い、適度に攪乱された生育に適した環境が失なわれつつある。生育地は人家に近い人為自然環境にあるため、保全に当たっては、地元の協力を得ながら進める必要がある。

分布	本州（紀伊半島・近畿地方・中国地方）・四国
県内分布	安芸市、香南市、香美市、大豊町、本山町、土佐町
生育環境と特性	人の生活の場の近くに生え、路傍、畑、人家の庭、空地などで多くみられる。多年生草本。

VU
191

キク科

ウラギク

Tripolium pannonicum

□絵 29

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: NT

環境省 RL2020: NT

【生育状況と選定の理由】

土佐市、須崎市、宿毛市で現存が確認された。四万十市では確認できず、自然災害で消失したと推測される。群生し個体数が多い地点もあるが、推定個体数はいずれも1,000未満で、生育環境が塩湿地に限定される。

【危機要因と保護保全対策】

危険要因は、自然災害および河川・海岸開発などによる生育地の消失が挙げられる。生育地の塩湿地は開発の圧力が高く、行政や地域と生育地に関する情報を共有し、連携して保全に努めることが望まれる。

分布	北海道・本州（関東地方以西の太平洋側）・四国・九州、ロシア・ヨーロッパ・アフリカ北部・アジア
県内分布	土佐市、須崎市、四万十市、宿毛市；高知市（1904）
生育環境と特性	海岸や河口の明るい湿地に生える。多年生草本。

VU
192

スイカズラ科

キダチニンドウ

Lonicera hypoglauca

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: -

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

全ての地点で未調査であるため、前回の評価を踏襲した。同属のハマニンドウとは葉の裏面に開出する曲がった毛や腺点が密生するなどの点で識別されるが、それ以外の外部形態はよく似ており調査が難しい植物の1つである。

【危機要因と保護保全対策】

県内の過去に採集された標本の地点から、ハマニンドウと誤認されている可能性もあり、まずは調査を継続し、分布状況の把握が必要である。

分布	本州（東海地方・瀬戸内海沿岸）・四国・九州、台湾・中国・ベトナム
県内分布	土佐市、須崎市、三原村
生育環境と特性	暖地の海岸林の林縁などに生育する半常緑のつる植物である。

VU 193	スイカズラ科	高知県 RL2010: VU
	コウグイスカグラ <i>Lonicera ramosissima</i> var. <i>ramosissima</i>	高知県 RDB2000: VU 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内では鳥形山から天狗高原の範囲に分布し、1960年以降10～15年に1回程度標本が継続的に採集され、連続的な減少は観察されていない。個体数は1,000未満と推定した。

【危機要因と保護保全対策】

森林伐採や石灰岩の採掘などの人為的攪乱で消失する可能性があるほか、遷移進行によって光環境が悪化すると消失する。生育範囲での個体の分布状況を把握し、伐採や開発の情報収集体制の強化だけでなく、必要に応じて地権者や管理者との情報の共有に努める。

分布	本州（新潟県・宮城県以南）・四国
県内分布	仁淀川町、津野町
生育環境と特性	山地の明るい林床や林縁に生育し、石灰岩地に多い。落葉低木。

VU 194	ウコギ科	高知県 RL2010: VU
	ウラジロウコギ <i>Eleutherococcus hypoleucus</i>	高知県 RDB2000: - 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

津野町と仁淀川町のそれぞれ1か所で現存を確認した。生育地はブナの優占する石灰岩地の林床で、確認された個体数は少なかった。調査が不足しており、分布域の生育個体数の詳細は不明である。

【危機要因と保護保全対策】

主な危機要因は広葉樹林の伐採、石灰岩の採掘、シカの食害である。森林伐採や石灰岩の採掘が避けられない場合には、管理者・地権者などと生育情報を共有し、連携して保全対策を検討する必要がある。種子保存と実生や挿し木による増殖などの域外保全を検討すべき種である。

分布	本州・四国・九州
県内分布	いの町、仁淀川町、津野町
生育環境と特性	山地の落葉広葉樹林下にまれに生育する落葉低木。

VU 195	ウコギ科	高知県 RL2010: VU
	ヤマウコギ <i>Eleutherococcus spinosus</i> var. <i>spinosus</i>	高知県 RDB2000: - 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

近年大豊町と本山町でしか確認されておらず、大豊町で現存を確認できたが1個体のみ。仁淀川町と佐川町は80年以上前の記録であるため、現存は不明である。

【危機要因と保護保全対策】

大豊町の個体は河岸工事後の斜面で確認されたもので、周辺にほかにも分布すると考えられるが見つかっていない。同様の環境条件の場所を広範囲で調査する必要がある。

分布	本州・四国
県内分布	大豊町、本山町、仁淀川町、佐川町
生育環境と特性	県内では山中の空中湿度の高いところに生える落葉低木。

VU 196	ウコギ科	高知県 RL2010: VU
	ホンバチクセツニンジン <i>Panax japonicus</i> var. <i>angustatus</i>	高知県 RDB2000: - 環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

調査では香美市、梶原町で現存が確認された。生育地点数と個体数が少ないことに加え、一部の地域ではシカの食害を受け連続的な減少が想定される。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は遷移進行、ニホンジカによる食害である。シカの食害に対しては、防鹿柵の設置を検討するとともに、生育地を含めた広範囲での頭数管理が必要である。

分布	本州・四国・九州
県内分布	安芸市、香美市、越知町、梶原町
生育環境と特性	山地の林床に生える多年生草本。

絶滅危惧II VU

VU
197

セリ科

ミヤマノダケ

Angelica cryptotaeniifolia

高知県 RL2010: -
高知県 RDB2000: -
環境省 RL2020: CR

【生育状況と選定の理由】

ニホンジカによる食害を受けており、減少が予測されたため新しく追加した。大川村といの町で現存が確認された。香美市では三嶺や白髪山で記録があるが、シカによる食害の影響が深刻で絶滅した可能性が高い。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因として、遷移進行とニホンジカによる食害が考えられる。現在多数確認できる生育地でもシカの食害の影響によっては数年後に全滅している可能性がある。定期的な調査により保全のタイミングを逃さないことが必要である。

分布

四国・九州

県内分布

香美市, 大川村, いの町

生育環境と特性

落葉樹林の林縁や登山道脇などのやや明るいところに点々と生える多年生草本。

VU
198

セリ科

ヒュウガセンキュウ

Angelica minamitanii

□絵 30

高知県 RL2010: -
高知県 RDB2000: -
環境省 RL2020: CR

【生育状況と選定の理由】

県内で現在確認されているのは、瓶ヶ森の南斜面のみである。40年前から標本が採集されていたが、別種として同定されていた。生育地点では個体数は多いが、分布域が限定されており、今後ニホンジカによる食害の影響を受ける可能性があるため、新しく追加された。

【危機要因と保護保全対策】

自然公園内であるため、現在のところ特に危機となる要因はないと考えられる。ただし、ニホンジカによる食害の拡大地域であるため、被害状況の継続的な把握が必要である。

分布

本州・四国・九州

県内分布

いの町

生育環境と特性

落葉樹林の明るい湿った林床や林縁に生える。大型の多年生草本。

VU
199

セリ科

イシヅチボウフウ

Angelica saxicola

□絵 30

高知県 RL2010: EN
高知県 RDB2000: EN
環境省 RL2020: CR

【生育状況と選定の理由】

県内で確認されているのはいの町の高標高域に限られるが、点々と確認できる。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は遷移進行と人の踏みつけである。草刈りなどで維持されている生育地もあり、管理方法の変化などに注意する必要がある。

分布

四国

県内分布

いの町

生育環境と特性

県内では山地の明るい岩上や崖地、道路法面の岩場などに生える。多年生草本。

VU
200

セリ科

トサボウフウ

Angelica yoshinagae

高知県 RL2010: VU
高知県 RDB2000: VU
環境省 RL2020: VU

【生育状況と選定の理由】

4市町で記録があるが、2000年以降に標本が採集されているのは高知市と津野町のみで、高知市の2か所で現存が確認された。各地点の個体数は多いが、生育環境が限定されている。

【危機要因と保護保全対策】

過去の危機要因は石灰採掘であったが、現在の生育地は採掘後に残存したところであるため、本調査では危機要因は不明であった。

分布

四国

県内分布

香美市, 高知市, 仁淀川町, 津野町

生育環境と特性

石灰岩の岩壁などに生える多年生草本。

VU
201

セリ科

イブキボウフウ

Libanotis coreana var. *coreana*

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: VU

環境省 RL2020: -

【生育状況と選定の理由】

県内では香南市と香美市の石灰岩地帯のみに分布が知られている。調査では香南市で現存が確認された。限定された範囲に生育し、個体数も少ない。

【危機要因と保護保全対策】

危機要因は道路工事、管理放棄である。道路の法面や路肩に生えている場所があり、結実期の草刈りを避けるなど、維持管理に伴う作業で生育に悪影響をおよぼさないよう配慮が必要である。

分布	北海道・本州（近畿地方以東）・四国，朝鮮半島（南部）
県内分布	香美市，香南市
生育環境と特性	石灰岩地の日当たりの良い草地に生える多年生草本。

除外種のリストと除外理由

除外種 (92 種類)

No.	和名	科名	高知県 RL2010	高知県 RDB2000	環境省 RL2020	変更の理由等
1	イヌカタヒバ	イフヒバ	DD		VU	帰化・逸出したものと判断した。
2	トクサ	トクサ	DD			帰化・逸出したものと判断した。
3	マツバラン	マツバラン	VU	EN	NT	野生個体と逸出個体の区別が困難で、確認される個体数が多い。
4	オニコケシノブ	コケシノブ	VU	VU		葉柄の翼が基部までよく発達して波打つ型をオニコケシノブとして分ける見解もあるが、ここではオオコケシノブに含めることにした。
5	スジヒトツバ	ヤブレガサウラボシ	VU	EN		確認個体数と地点数が増加した。
6	ヤマソテツ	キジノオシダ	NT			確認個体数と地点数が増加した。
7	コスギダニキジノオ	キジノオシダ	DD			根拠となっていた土佐清水市今ノ山の標本はタカサゴキジノオに同定変更された。
8	サンカクホングウシダ	ホングウシダ	CR	CR		エダウチホングウシダに同定変更された。
9	ヒノキシダ	チャセンシダ	NT	VU		確認個体数と地点数が増加した。
10	コウヤワラビ	コウヤワラビ	DD			帰化・逸出したものと判断した。
11	クサソテツ	コウヤワラビ	DD	CR		帰化・逸出したものと判断した。
12	コシケシダ	メシダ	DD			ナチシケシダからコシケシダを分けられない見解を採用した。
13	アラゲヒメワラビ	ヒメシダ	DD			ヒメワラビに同定変更された。
14	ヤブソテツ	オシダ	DD			分類学的な問題が残っているため除外した。
15	ハイイヌガヤ	イチイ	VU			石鎚山系で非常に多くの個体が確認されたため除外としたが、三嶺ではニホンジカの食害により激減したため、生育状況については継続して情報収集する必要がある。
16	ウマノスズクサ	ウマノスズクサ	VU	VU		確認個体数と地点数が増加した。
17	フタバアオイ	ウマノスズクサ	NT	NT		確認個体数と地点数が増加した。
18	ヒメウキクサ	サトイモ	DD			帰化・逸出したものと判断した。
19	コアマモ	アマモ	NT	EN		生育地点は限られるが、確認される面積が広いため除外とした。
20	ヒナノシヤクジョウ	ヒナノシヤクジョウ	VU	EN		確認されている地点の多くがスギ人工林内で、皆伐などで減少する可能性もあるため、生育状況については継続して情報収集する必要がある。
21	ウナズキツクバネソウ	シュロソウ	CR	CR		品種としてツクバネソウに含める。
22	シラン	ラン	NT	VU	NT	野生個体と逸出個体の区別が難しく、確認される個体数が多い。
23	キソエビネ	ラン	CR	CR	CR	過去に確認されていた地点は高知県ではなかったため一旦除外するが、RL2020以降に県内の別地域で採集された標本が新たに確認されており、今後調査が必要である。
24	ホソバシュンラン	ラン	EN	EN		高知県植物誌ではシュンランの変種としていたが、品種としてシュンランに含めることにした。
25	ナギラン	ラン	NT	NT	VU	確認個体数と地点数が増加した。
26	ハルザキヤツシロラン	ラン	NT	VU	VU	確認個体数と地点数が増加した。ただし、個体数の極端な変動も観察されるため、定期的に生育を確認する必要がある。
27	キイムヨウラン	ラン	DD	DD		高知県に分布する記録が確認できないため除外する。
28	アワムヨウラン	ラン	DD	DD	CR	高知県に分布する記録が確認できないため除外する。
29	ニラバラン	ラン	EN	EN		確認された個体数が非常に多く、地点数も増加したため除外とした。ただし、管理方法が変わったり、植生遷移の進行で消失するおそれがあるため、生育状況については継続して情報収集する必要がある。
30	アヤメ	アヤメ	DD			帰化・逸出したものと判断した。

No.	和名	科名	高知県	高知県	環境省	変更の理由等
			RL2010	RDB2000	RL2020	
31	バラングボウシ	クサスギカズラ	CR	CR		バラングボウシはミズギボウシと高知県に分布しないキヨスミギボウシの雑種(芹沢 2009)とされており、分類学的な問題が解決していないためバラングボウシとしては除外する。
32	オニツルボ	クサスギカズラ	VU	VU		ツルボに含める。
33	シマイボクサ	ツユクサ	VU			アレチイボクサ(外来種)に同定変更された。
34	ヒメコウガイゼキショウ	イグサ	DD	DD		高知市の記録のみで標本が確認できていなかったため情報不足(DD)としていたが、2013年に標本が採集され、確認された個体数も多かったため除外とした。
35	イセウキヤガラ	カヤツリグサ	VU	VU		確認個体数と地点数が増加した。
36	シバスケ	カヤツリグサ	VU	VU		確認個体数と地点数が増加した。
37	ミギワトダシバ	イネ	DD		VU	ミギワトダシバとされていた標本はオオボケガヤに同定変更された。
38	イブキトボシガラ	イネ	NT	VU	VU	確認個体数と地点数が増加した。三嶺山域白髪山ではニホンジカの食害でササが減少した後増加している。
39	チトセナンブスズ	イネ	DD			高知県の標本はイブキザサとスズタケの雑種であるハコネナンブスズと同定された。
40	チャボチヂミザサ	イネ	DD			チヂミザサに含める。
41	センダイザサ	イネ	DD			雑種の可能性が高く、分類学的検討を要する。
42	タンガザサ	イネ	DD			雑種の可能性が高く、分類学的検討を要する。
43	シコクザサ	イネ	DD			雑種の可能性が高く、分類学的検討を要する。
44	マキヤマザサ	イネ	DD			雑種の可能性が高く、分類学的検討を要する。
45	ミアケザサ	イネ	DD			雑種の可能性が高く、分類学的検討を要する。
46	アワノミネザサ	イネ	DD			雑種の可能性が高く、分類学的検討を要する。
47	サイゴクザサ	イネ	DD			雑種の可能性が高く、分類学的検討を要する。
48	チマキザサ	イネ	DD			帰化・逸出したものと判断した。
49	イヌクガワザサ	イネ	DD			雑種の可能性が高く、分類学的検討を要する。
50	トクガワザサ	イネ	DD			雑種の可能性が高く、分類学的検討を要する。
51	イヌアワ	イネ	NT	EN		確認個体数と地点数が増加した。
52	ハイキツネノボタン	キンポウゲ	DD			品種としてキツネノボタンに含める。
53	ヒロハカツラ	カツラ	DD			文献情報のみで、証拠となる標本が現在のところ確認できないため除外する。
54	ミツバベンケイソウ	ベンケイソウ	VU	VU		確認個体数と地点数が増加した。
55	オグラノフサモ	アリトウグサ	DD		VU	根拠となる標本は1892年に土居磯之助と牧野富太郎が土佐市で採集したもので、殖芽がなくオグラノフサモと同定できないため除外した。
56	ヒメフジ	マメ	DD			品種としてナツフジに含める。
57	ズミ	バラ	VU	VU		確認個体数と地点数が増加した。
58	アオナシ	バラ	DD	CR	VU	アオナシは本州中部に分布するもので、県内で最近採集された標本はナシとミチノクナシの雑種と推定され、移入されたものである可能性があるため除外した。
59	オキナワバライチゴ	バラ	CR			県内における外来植物調査で国内帰化と判断していたが、形態的特徴から園芸的に作出された雑種の可能性がある。
60	ササグリヤブマオ	イラクサ	DD			ササグリヤブマオはコアカソとヤブマオの雑種とされ、ここでは除外した。
61	ケナガバヤブマオ	イラクサ	DD			ケナガバヤブマオとされていた標本は、ナガバヤブマオに同定変更された。
62	リュウノヤブマオ	イラクサ	DD			ニオウヤブマオとトガリバヤブマオの雑種とされ、ここでは除外した。
63	アオナラガシワ	ブナ	DD			品種としてナラガシワに含める。
64	ジャヤナギ	ヤナギ	DD			帰化・逸出したものと判断した。
65	カワヤナギ	ヤナギ	VU	VU		帰化・逸出したものと判断した。
66	ケナシニシキソウ	トウダイグサ	DD			品種としてニシキソウに含める。
67	ミズユキノシタ	アカバナ	NT	NT		確認個体数と地点数が増加した。
68	ジャンジン	アブラナ	CR			ケジャンジンに含める。
69	ヒカゲミゾソバ	タデ	DD			ミゾソバに含める。
70	ヒメハマナデシコ	ナデシコ	DD			ハマナデシコに同定変更された。
71	ヤマゴボウ	ヤマゴボウ	DD			帰化・逸出したものと判断した。
72	モミジウリノキ	ミズキ	EN	EN		品種としてウリノキに含める。

No.	和名	科名	高知県 RL2010	高知県 RDB2000	環境省 RL2020	変更の理由等
73	クサレダマ	サクラソウ	DD	CR		西部での確認は栽培されたもので、中部にある記録の根拠が確認できなかったため除外した。
74	アクシバ	ツツジ	DD	EN		ケアクシバに同定変更された。
75	シラタマカズラ	アカネ	VU	VU		西部の島嶼では明るい林内や林縁にやや普通に出現するため除外した。
76	ケアオダモ	モクセイ	VU	VU		品種とする。アオダモが含まれるため除外した。
77	ケイワタバコ	イワタバコ	DD			イワタバコに同定変更された。
78	カワヂシャ	オオバコ	NT	NT	NT	確認される地点や個体数が多いため除外としたが、県内では特定外来種のオオカワヂシャが確認されており、雑種形成による減少について注意しておく必要がある。
79	イガタツナミ	シソ	CR	CR		シソバタツナミと区別しないこととして除外した。
80	ホナガタツナミソウ	シソ	DD	EN		シソバタツナミと区別しない。
81	アサザ	ミツガシワ	DD	CR	NT	帰化・逸出したものと判断した。
82	オオバヨメナ	キク	VU	NT		確認個体数と地点数が増加した。
83	ミヤマヨメナ	キク	NT	EN		確認個体数と地点数が増加した。
84	ヤマアザミ	キク	VU	VU		確認個体数と地点数が増加した。
85	クサノオウバノギク	キク	VU	VU	VU	確認個体数と地点数が増加した。
86	オオツワブキ	キク	DD			ツワブキに同定変更された。
87	カニコウモリ	キク	EN	EN		確認個体数と地点数が増加した。
88	ミヤマアキノキリンソウ	キク	DD			分類学的に問題があるため除外した。
89	ハリブキ	ウコギ	CR			既知の生育地点は愛媛県であることが明らかになったが、現地調査ではニホンジカの食痕や糞などがありハリブキは確認できなかった。
90	ホソバナダケ	セリ	DD			品種としてノダケに含める。
91	ウバタケニンジン	セリ	CR	CR	EN	生育するのは愛媛県側のみで高知県側では確認できないため除外した。
92	ヒナセントウソウ	セリ	VU			品種としてセントウソウに含める。

分類群、範囲の変更 (14種類)

No.	和名	科名	高知県 RL2010	高知県 RDB2000	環境省 RL2020	変更の理由等
1	ウスバヘビノネゴザ	メシダ	VU			キリシマヘビノネゴザ(VU) に同定変更された。
2	ヒメコウホネ (広義)	スイレン	CR	CR	VU	RL2010でヒメコウホネとヒメコウホネ(広義)に分けていたのは間違いで、ヒメコウホネ(広義)のみが正しい。県内に生育するヒメコウホネとされていた標本はサイコクヒメコウホネ(CR) に同定変更された。
3	ウスバサイシン	ウマノスズクサ	DD	CR		クロフネサイシン(NT) に含める。
4	オキノシマテンナンショウ	サトイモ	DD	EN		ミミガタテンナンショウ(EN) に含める。
5	セイタカスズムシソウ	ラン	VU	EN		アキタスズムシソウ(CR) に同定変更された。
6	ハクウンラン	ラン	CR	EN		ヤクシマヒメアリドオシラン(VU) に同定変更された。
7	アリドオシラン	ラン	CR	CR		ヤクシマヒメアリドオシラン(VU) に同定変更された。しかし、アリドオシランの確認情報もあり、今後調査が必要である。
8	ナガバキソチドリ	ラン	CR	CR		キソチドリ(広義)(CR) に含める。
9	コツブヌマハリイ	カヤツリグサ	CR	CR	VU	スジヌマハリイ(CR) に同定変更された。
10	コウヤミズキ	マンサク	DD			証拠とされる標本は花序がなく、キリシマミズキ(VU) と区別できないため除外する。
11	タチゲヒカゲミズ	イラクサ	DD		VU	ヒカゲミズ及び変種のタチゲヒカゲミズのそれぞれの形態的特徴を持つものが一地域に出現するため、ヒカゲミズ(タチゲヒカゲミズを含む)(VU) として評価した。
12	ヤマウキオゴケ	キョウチクトウ	EN	CR	VU	クサナギオゴケ(VU) に含める。
13	ヒメサルダヒコ	シソ	NT	NT		コシロネ(NT) に含める。
14	ケミヤマナミキ	シソ	CR		EN	ミヤマナミキ(VU) に同定変更された。

注目種への変更（10種類）

No.	和名	科名	高知県 RL2010	高知県 RDB2000	環境省 RL2020	注目種の選定理由
1	サカワサイシン	ウマノスズクサ	NT	VU	VU	②, ③
2	ユキモチソウ	サトイモ	NT	VU	VU	③
3	タキユリ	ユリ	NT	VU	VU	③
4	シコクフクジュソウ	キンポウゲ	NT		VU	③
5	オオクサボタン	キンポウゲ	VU	VU		②
6	トサミズキ	マンサク	NT	EN	NT	①, ②
7	ヒメキリンソウ	ベンケイソウ	VU	VU	EN	③
8	トサシモツケ	バラ	VU	VU		②
9	シチョウゲ	アカネ	NT	NT	NT	②
10	ピロードムラサキ	シソ	NT	NT	VU	③

※注目種の選定理由については以下のとおり。

① 本県にのみ生育している。② 本県の生育地が北限や南限などとなっている。③ 本県では普通であるが、全国的には希少である。④ 本県の生育地が他の生育地から地理的に隔離されている。

<文献一覧>

- Adjie, B., M. Takamiya, M. Ohta, T. A. Ohsawa, Y. Watano. 2008. Molecular phylogeny of the lady fern genus *Athyrium* in Japan based on chloroplast *rbcl* and *trnL-trnF* sequences. *Acta Phytotaxonomica et Geobotanica*, 59: 79–95.
- Angiosperm Phylogeny Group. 2016. An update of the Angiosperm Phylogeny Group classification for the orders and families of flowering plants: APG IV. *Botanical Journal of the Linnean Society*, 181: 1–20.
- 千葉悟志, 尾関雅章. 2019. ミズオトギリの生活史および受粉様式における一考察 – 日本産草本植物の生活史研究プロジェクト報告第10報 – 市立大町山岳博物館研究紀要, 4: 63–70.
- Christenhusz, M. J. M., J. L. Reveal, A. Farjon, M. F. Gardner, R. R. Mill and M. W. Chase. 2011. A new classification and linear sequence of extant gymnosperms. *Phytotaxa*, 19: 55–70.
- 海老原淳. 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 I. 学研, 東京.
- 海老原淳. 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 II. 学研, 東京.
- 愛媛県レッドデータブック改定委員会 (編). 2014. 愛媛県レッドデータブック 2014 – 愛媛県の絶滅のおそれのある野生生物 – 愛媛県県民環境部環境局自然保護課.
- 槐ちがや, 辻井要介, 野田智祥, 山ノ内崇志. 2016. 高知県におけるムサシモ *Najas ancistrocarpa* A. Braun ex Magnus (トチカガミ科) の初記録. *水草研究会会誌*, 104: 1–8.
- 福岡県. 2011. 「コバイラクサ」(福岡県の希少野生生物), <https://www.fihes.pref.fukuoka.jp/kankyo/rdb/rdb/s/detail/201100431> (2021年1月31日閲覧).
- Higashi, H., H. Ikeda and H. Setoguchi. 2012. Population fragmentation causes randomly fixed genotypes in populations of *Arabidopsis kamchatica* in the Japanese Archipelago. *Journal of Plant Research*, 125: 223–233.
- 広松靖一郎, 尾原友助, 千光士良行. 1978. 高知県東部のラン科植物. *高知県の植物*, 1: 72.
- Hori, K., Zhou Xi-Le, Shao wen, Yan Yue-Hong, A. Ebihara, Wang Ren-Xiang, H. Ishikawa, Y. Watano and N. Murakami. 2018. Hybridization of the *Dryopteris erythrosora* complex (Dryopteridaceae, Polypodiidae) in Japan and adjacent areas. *Hikobia*, 17: 299–313.
- Hori, K., M. Watanabe, A. Ebihara, I. Yamazumi, M. Takamiya and N. Murakami. 2019. Genome Constitution of the *Dryopteris atrata* Complex (Dryopteridaceae). *Cytologia*, 84: 135–141.
- 星野卓二, 正木智美. 2011. 日本カヤツリグサ科植物図譜. 平凡社, 東京.
- 伊藤登, 米田雅典, 加来健治, 吉村仁志. 1999. アリモドキゾウムシの野生寄主植物ノアサガオの保管調査方法について. *植物防疫所調査研究報告*, 35: 77–80.
- 岩槻邦男 (編). 1999. 日本の野生植物シダ. 平凡社, 東京.
- 角野康郎, 福岡豪. 2016. ヒロハホッソモ (新称) の新産地. *Bunrui*, 16: 203–206.
- Kadota, Y. 2004. *Coptis* sect. *Metacoptis* subsect. *Japonocoptis* (Ranunculaceae), with description of a new species and a new variety from Japan. *The Journal of Japanese Botany*, 79: 311–321.
- 上村登. 1944. 土佐の植物. 共立出版, 東京.
- 神奈川県植物誌調査会 (編). 2018. 神奈川県植物誌 2018 (上). 神奈川県植物誌調査会.
- 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室 (編). 2014. レッドデータブック 2014 – 日本の絶滅のおそれのある野生生物 – 8 植物 I. 株式会社ぎょうせい, 東京.
- 勝山輝男. 2005. ネイチャーガイド日本のスゲ. 文一総合出版, 東京.
- 高知県林業振興・環境部環境共生課. 2011. ～高知県の絶滅のおそれのある野生植物～ 高知県レッドリスト (植物編) 2010年改訂版, 高知県林業振興・環境部環境共生課.
- 高知県, 財団法人高知県牧野記念財団 (編). 2009. 高知県植物誌. 財団法人高知県牧野記念財団, 高知県.
- Kuo, J., Z. Kanamoto, H. Iizumi and H. Mukai. 2006. Seagrasses of the genus *Halophila* Thouars (Hydrocharita) from Japan. *Acta Phytotaxonomica et Geobotanica*, 57: 129–154.
- Kurihara, T., Y. Watano, M. Takamiya and T. Shimizu. 1996. Electrophoretic and cytological evidence for genetic heterogeneity and the hybrid origin of *Athyrium oblitescens*. *Journal of Plant Research*, 109: 29–36.
- 前田綾子, 田邊由紀, 稲垣典年. 2015. 四国新産キレツチトリモチ (ツチトリモチ科). *Bunrui*, 15: 185–189.
- 中澤保, 山中二男. 1982. 蒲葵島と姫島の植物. 高知県西南諸島学術調査書. 50–56. 高知県.
- 中澤保. 2014. 四国の野生を主とした樹木 [県別分布・写真編]. 高知.
- Naruhashi, N., T. Sawanomukai, T. Wakasugi and Y. Iwatsubo. 2004. A new variety of *Stellaria* (Lamiales) from Japan. *Journal of Phytogeography and Taxonomy*, 52: 127–135.
- 西原寿明, 坪田幸徳. 2021. 四国固有種イシヅチザクラの分布と遺伝的多様性、集団遺伝構造. *森林遺伝育種*, 10: 1–12.
- 岡本香. 1970. 四国産スゲ属植物. *岡山大学紀要*, 6: 155–170.
- 奥田重俊 (編). 1997. 日本野生植物館: WILD PLANTS OF JAPAN. 小学館, 東京.
- 奥山雄大. 2015. 日本産チャルメルソウ属および近縁種 (ユキノシタ科) の自然史. *Bunrui*, 15: 109–123.
- 大橋広好, 門田裕一, 邑田仁, 米倉浩司, 木原浩 (編). 2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 平凡社, 東京.
- 大橋広好, 門田裕一, 邑田仁, 米倉浩司, 木原浩 (編). 2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 平凡社, 東京.
- 大橋広好, 門田裕一, 邑田仁, 米倉浩司, 木原浩 (編). 2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 平凡社, 東京.
- 大橋広好, 門田裕一, 邑田仁, 米倉浩司, 木原浩 (編). 2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 平凡社, 東京.
- 大橋広好, 門田裕一, 邑田仁, 米倉浩司, 木原浩 (編). 2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 平凡社, 東京.
- 坂本彰, 田邊由紀, 前田綾子. 2015. 高知県物部川下流域に分布するハマウツボに関する調査結果. *高知県の植物*, 24: 27–35.
- 坂本彰, 瀬尾明弘, 藤川和美. 2018. シコクバイカオウレン (キンボウゲ科) の分類学的再検討. *植物研究雑誌*, 93: 37–53.
- 坂本彰. 2011. 香美市物部町根木屋 (ねきや) のクロイゲについて. *高知県の植物*, 22: 33–34.
- 佐竹義輔, 大井次三郎, 北村四郎, 亘理俊次, 富成忠夫 (編). 1982. 日本の野生植物 草本 I 単子葉植物. 平凡社, 東京.

- 佐竹義輔, 大井次三郎, 北村四郎, 亘理俊次, 富成忠夫 (編). 1982. 日本の野生植物 草本Ⅱ 離弁花類. 平凡社, 東京.
- 佐竹義輔, 大井次三郎, 北村四郎, 亘理俊次, 富成忠夫 (編). 1982. 日本の野生植物 草本Ⅲ 合弁花類. 平凡社, 東京.
- 佐竹義輔, 原寛, 亘理俊次, 富成忠夫 (編). 1989. 日本の野生植物 木本Ⅰ. 平凡社, 東京.
- 佐竹義輔, 原寛, 亘理俊次, 富成忠夫 (編). 1989. 日本の野生植物 木本Ⅱ. 平凡社, 東京.
- 芹沢俊介. 2009. 愛知県および岐阜県に生育するギボウシ属の3雑種. *Bunrui*, 9: 47-54.
- Shiga, T. and Y. Kadono. 2015. *Nuphar saikokuensis* (Nymphaeaceae), a new species from central to western Japan. *The Journal of Japanese Botany*, 90: 22–28.
- Suetsugu, K., T. C. Hsu, H. Fukunaga and S. Sawa. 2016. Epitypification, emendation and synonymy of *Lecanorchis taiwaniana* (Vanillaceae, Vanilloideae, (Orchidaceae)). *Phytotaxa*, 265: 157-163.
- Suetsugu, K., J. Matsubayashi, N. O. Ogawa, S. Murata, R. Sato and H. Tomimatsu. 2020. Isotopic evidence of arbuscular mycorrhizal cheating in a grassland gentian species. *Oecologia*, 192: 929–937.
- すげの会. 2018. 正木智美編. 日本産スゲ属植物分布図表. すげの会, 岡山.
- Takahashi, D., T. Teramine, S. Sakaguchi and H. Setoguchi. 2018. Relative contributions of neutral and non-neutral processes to clinal variation in calyx lobe length in the series *Sakawanum* (*Asarum*: Aristolochiaceae). *Annals of Botany*, 121: 37–46.
- Takano, A.. 2020. Taxonomic Study of *Salvia lutescens* (Lamiaceae): Lectotype designations and proposal for a new variety, var. *occidentalis*. *Acta Phytotaxonomica et Geobotanica*, 71: 45–53.
- 田邊由紀, 竹内清治, 田代松幸, 田城光子. 2015. 高知県初記録種ヤマハンショウヅル *Clematis crassifolia* Benth. (キンポウゲ科センニンソウ属) について. *高知県の植物*, 24: 51–58.
- タンポポ調査・西日本 2015 高知県事務局. 2016. タンポポ調査・西日本 2015 調査報告書.
- The Pteridophyte Phylogeny Group. 2016. A community - derived classification for extant lycophytes and ferns. *Journal of Systematics and Evolution*, 54: 563–603.
- 徳島県. 2014. 「徳島県版レッドリスト(改訂版) 8. 維管束植物」(とくしまの環境). https://www.pref.tokushima.lg.jp/kankyo/kankoubutu/red_date.html/ (2020年11月25日閲覧)
- Tsutsumi, C., T. Yukawa, and M. Kato . 2019. Taxonomic reappraisal of *Liparis japonica* and *L. makinoana* (Orchidaceae). *Bulletin of the National Museum of Nature and Science, Series B (Botany)*, 45: 107–118.
- Tsutsumi, C., T. Yukawa, and M. Kato. 2008. *Liparis purpureovittata* (Orchidaceae)—a new species from Japan. *Acta Phytotaxonomica et Geobotanica*, 59: 73–77.
- Tsutsumi, C., A. Maeda, Y. Yamashita, T. Kurosawa, A. Uchida, T. Kuhara and T. Yukawa. 2016. New records of *Liparis purpureovittata* (Orchidaceae) and identification of its mycorrhizal fungi. *Bulletin of the National Museum of Nature and Science, Series B (Botany)*, 42: 95–102.
- Tsutsumi, C., A. Maeda, A. Abe, Y. Yamashita, T. Yukawa and S. Kakishima. 2021. Genetic diversification of *Oberonia* (Orchidaceae) in Japan, with implications for the species taxonomy. *Bulletin of the National Museum of Nature and Science, Series B (Botany)*, 47: 131–141.
- Yagame, T. and M. Yamato. 2013. Mycoheterotrophic growth of *Cephalanthera falcata* (Orchidaceae) in tripartite symbioses with Thelephoraceae fungi and *Quercus serrata* (Fagaceae) in pot culture condition. *Journal of Plant Research*, 126: 215–222.
- 山中二男. 1965. ツゲの分布とチョウセンヒメツゲの新産地. *植物研究雑誌*, 21: 152.
- 山中二男. 1965. 四国のハナガガンについて. *植物研究雑誌*, 4: 329–335.
- 山中二男. 1978. 高知県の植生と植物相. 林野弘済会高知県支部, 高知.
- 山中二男. 1985. キリシマミズキとその分布. *植物研究雑誌*, 60: 285–286.
- 山中二男, 秋沢治代, 鍵本純子. 1977. 四国南部温暖帯のススキ型草原の一例. 高知大学教育学部研究報告第3部, 29: 15–20.
- Yamashiro, T., A. Yamashiro, M. Ogawa, N. Kurosaki, T. Kobayashi and M. Maki. 2012. High population genetic diversity and regional differentiation in the endemic *Vincetoxicum katoi*-*V. yamanakae* Complex (Apocynaceae; Asclepiadoideae) in Japan. *Acta Phytotaxonomica et Geobotanica*, 63: 29–40.
- 山脇哲臣. 1982. 高知県西南諸島の注目すべき植物. 高知県西南諸島学術調査書. 88–99, 高知県.
- Yokoo, T., S. Kobayashi, K. Oginuma, K. Fujikawa, Y. Mitsui, H. Ikeda and H. Setoguchi. 2009. Genetic structure among and within populations of the serpentine endemic *Heteropappus hispidus* ssp. *leptocladus* (Compositae). *Biochemical Systematics and Ecology*, 37: 275–284.
- 米倉浩司. 2019. 新維管束植物分類表. 北隆館, 東京.
- 米倉浩司, 梶田忠. 2003-. 「BG Plants 和名-学名インデックス」(YList), <http://ylist.info> (2021年1月31日閲覧).
- 吉永悦郷. 1887. 土佐国産羊歯科. *植物学雑誌*, 9: 172-176.
- 財団法人高知県牧野記念財団(編). 2000. 高知県レッドデータブック [植物編] 高知県の保護上重要な野生植物. 高知県文化環境部環境保全課.

索引 (50 音順)

ア

アイアシ	31
アイアスカイノデ	22, 113
アイコハチジョウシダ	27, 166
アイノコホラシノブ	33
アオウシノケグサ	28, 186
アオカモメヅル	口絵 22, 20, 94
アオコウガイゼキショウ	19, 77
アオコウツギ	25, 147
アオチドリ	18, 65
アオチャセンシダ	33
アオナシ	217
アオナラガシワ	217
アオホオズキ	21, 95
アカウキクサ	31
アカソ	24, 141
アカハナワラビ	33
アカモノ	29, 201
アキザキナギラン	18, 65
アキザキヤツシロラン	28, 179
アキタスズムシソウ	口絵 10, 19, 70
アキノハハコグサ	21, 103
アキノミチヤナギ	29, 199
アクシバ	218
アケボノスミレ	29, 194
アサザ	218
アシカキ	31
アスカイノデ	16, 36
アズキナシ	29, 192
アゼオトギリ	24, 143
アゼスゲ	19, 79
アソノコギリソウ	33
アツイタ	17, 56
アツギノヌカイタチシダマガイ	17, 55
アマモ	27, 177
アミシダ	31
アヤメ	216
アラゲヒメワラビ	216
アリドオシラン	218
アリマイトスゲ	33
アワコバイモ	22, 118
アワノミネザサ	217
アワボスゲ	16, 38
アワムヨウラン	216

イ

イイヌマムカゴ	19, 72
イガクサ	31
イガタツナミ	218
イガホオズキ	25, 151
イケマ	30, 203
イシダテアザミ	26, 158
イシダテクサタチバナ	口絵 23, 30, 203
イシツチカラマツ	24, 135
イシツチザクラ	口絵 17, 29, 192
イシツチテンナンショウ	口絵 6, 18, 59
イシツチボウフウ	口絵 30, 30, 214
イズヤブソテツ	22, 112
イセウキヤガラ	217
イソテンツキ	28, 185
イソヤマアオキ	20, 83
イチヨウシダ	口絵 3, 27, 167
イチヨウラン	口絵 8, 18, 66
イトイ	23, 127
イトイヌノハナヒゲ	33
イトイヌノヒゲ	23, 126

イトテンツキ	23, 128
イトトリゲモ	18, 60
イヌアワ	217
イヌカタヒバ	216
イヌクログワイ	19, 79
イヌゴマ	21, 99
イヌセンブリ	口絵 22, 30, 203
イヌタマシダ	16, 36
イヌトウキ	32
イヌトクガワザサ	217
イヌナズナ	25, 145
イヌノハナヒゲ	19, 81
イヌノヒゲ	23, 127
イヌノフグリ	口絵 24, 30, 205
イヌハギ	20, 85
イバラモ	16, 37
イブキタイゲキ	25, 144
イブキトボシガラ	217
イブキボウフウ	30, 215
イモネヤガラ	口絵 9, 18, 67
イヨクジャク	17, 53
イヨトンボ	23, 120
イヨノミツバイワガサ	24, 140
イワイヌワラビ	17, 51
イワウサギシダ	17, 50
イワオモダカ	27, 172
イワカガミ	29, 201
イワガネ	口絵 18, 24, 141
イワギク	口絵 27, 30, 210
イワギリソウ	30, 205
イワザクラ	口絵 21, 29, 200
イワタケソウ	24, 133
イワダレソウ	21, 97
イワチドリ	18, 63
イワツクバネウツギ	口絵 30, 32
イワデンダ	31
イワネコノメソウ	24, 136
イワハリガネワラビ	27, 169
イワヤシダ	27, 166

ウ

ウエマツソウ	22, 118
ウキヤガラ	口絵 12, 19, 77
ウシタキシソウ	32
ウスキムヨウラン	31
ウスバイシカグマ	17, 49
ウスバサイシン	218
ウスバヒョウタンボク	26, 162
ウスバヘビノネゴザ	218
ウスヒメワラビモドキ	口絵 2, 17, 50
ウチヨウラン	23, 124
ウチワホングウシダ	口絵 2, 22, 108
ウナズキツクバネソウ	216
ウバタケニンジン	218
ウマスゲ	口絵 12, 19, 78
ウマノスズクサ	216
ウラギク	口絵 29, 30, 212
ウラシマソウ	口絵 6, 22, 115
ウラジロウコギ	30, 213
ウンゼンザサ	33
ウンヌケモドキ	31

エ

エゾアブラガヤ	28, 186
エゾシロネ	25, 154

エゾズラン18, 66
エゾノヒメクラマゴケ33
エゾノヨツバムグラ30, 202
エゾハリイ33
エゾフユノハナワラビ 口絵 1, 17, 46
エビガラシダ31
エビネ28, 178
エビラシダ 口絵 2, 22, 109
エンシュウムヨウラン23, 121

オ

オオアブノメ 口絵 24, 21, 96
オオウミヒルモ 口絵 6, 22, 115
オオウラジロノキ 口絵 17, 20, 87
オオカラスウリ 口絵 18, 20, 90
オオクサボタン219
オオクボシダ22, 113
オオダイトウヒレン26, 160
オオタニワタリ16, 44
オオツワブキ218
オオトウヒレン32
オオナキリスゲ19, 77
オオナンバンギセル30, 207
オオネズミガヤ28, 187
オオネバリタデ32
オオバイボタ25, 152
オオバギボウシ19, 76
オオハシゴシダ 口絵 4, 17, 54
オオバシナミズニラ 口絵 1, 22, 107
オオバショリマ16, 36
オオバノヨツバムグラ16, 40
オオハマグルマ26, 159
オオバミヤマノコギリシダ27, 169
オオバメギ24, 133
オオバヤドリギ25, 146
オオバヨウラクラン 口絵 10, 19, 72
オオバヨメナ218
オオヒナノウスツボ30, 206
オオホシクサ19, 77
オオミクリ 口絵 12, 28, 182
オオヤマザクラ 口絵 17, 20, 86
オオヤマフスマ29, 199
オカタツナミソウ 口絵 26, 21, 99
オキナグサ20, 83
オキナワコクモウクジャク22, 110
オキナワバライチゴ217
オキノシマテンナンショウ218
オクタマシダ22, 109
オクノカンスゲ23, 129
オグラコウホネ18, 58
オグラノフサモ217
オケラ21, 102
オサシダ27, 167
オサラン18, 66
オタルスゲ28, 184
オトコシダ17, 54
オナモミ16, 42
オニイノデ17, 57
オニクラマゴケ 口絵 1, 17, 45
オニコケシノブ216
オニシバ28, 187
オニシバリ29, 196
オニツクバネウツギ 口絵 30, 21, 104
オニツルボ217
オニノヤガラ18, 67
オニビシ33
オノエテンツキ16, 38
オノエヤナギ32
オヒョウ 口絵 18, 24, 140
オヒルムシロ 口絵 7, 18, 61
オモゴウテンナンショウ 口絵 6, 22, 114

オヤマボクチ 口絵 28, 21, 104
オリヅルシダ31
オワセベニシダ27, 171

カ

カカツガユ 口絵 18, 20, 89
ガガブタ21, 100
カゲロウラン23, 124
カザグルマ24, 134
カシノキラン23, 120
カスミザクラ33
カセンソウ21, 102
カタクリ18, 62
カニコウモリ218
カノコソウ21, 105
カノツメソウ16, 43
カミガモシダ 口絵 3, 17, 50
カミガモソウ 口絵 24, 21, 96
カモノハシ33
カモメラン18, 67
カラクサシダ31
カラタチバナ25, 147
カラハナソウ20, 89
カリヤスモドキ19, 82
カワヂシャ218
カワツルモ22, 117
カワミドリ 口絵 25, 21, 97
カワヤナギ217
カワラサイコ16, 39
カワラハハコ 口絵 27, 21, 101
カンサイタンポポ30, 212
カンザシギボウシ23, 125
ガンゼキラン23, 123
カンラン18, 65

キ

キイムヨウラン216
キイレツチトリモチ 口絵 20, 29, 198
キエビネ23, 119
キオン26, 160
キキョウ 口絵 26, 26, 157
キクガラクサ30, 205
キクシノブ22, 113
キクバヤマボクチ21, 103
キクムグラ30, 203
キシュウナキリスゲ23, 130
キスミレ20, 91
キセフタ 口絵 25, 21, 98
キソエビネ216
キソチドリ19, 73
キタササガヤ33
キダチニンドウ30, 212
キダチハマグルマ 口絵 27, 26, 159
キドイノモトソウ17, 49
キヌラン 口絵 11, 19, 75
キノクニスゲ28, 183
キバナノアマナ 口絵 8, 18, 62
キバナノコマノツメ32
キバナノショウキラン 口絵 11, 19, 75
キバナノセッコク23, 120
キビンロタンポポ 口絵 29, 30, 211
キビノクロウメモドキ29, 193
ギフベニシダ31
ギボウシラン 口絵 9, 18, 69
キヨシミウツボ25, 156
キヨズミオオクジャク27, 171
キリシマエビネ18, 63
キリシマシャクジョウ 口絵 7, 22, 117

キリシマヒゴタイ 口絵 28, 26, 160
 キリシマヘビノネゴザ 27, 168
 キリシマミズキ 口絵 16, 28, 189
 キリンソウ 33
 キレンゲショウマ 29, 200
 キンセイラン 18, 63
 キンバイザサ 28, 180
 キンモウワラビ 17, 54
 キンラン 口絵 8, 28, 178

ク

クサスゲ 19, 78
 クサソテツ 216
 クサタチバナ 25, 150
 クサナギオゴケ 30, 204
 クサノオウバノギク 218
 クサフジ 33
 クサマルハチ 口絵 2, 27, 165
 クサレダマ 218
 クシバタンボボ 口絵 29, 30, 212
 クジャクシダ 口絵 2, 22, 108
 クジュウスゲ 31
 クマガイソウ 28, 179
 クマノギク 32
 クマヤマガミ 口絵 17, 20, 88
 クラガリシダ 16, 36
 クリンユキフデ 25, 146
 クルマバツクバネソウ 18, 61
 クロイゲ 口絵 18, 20, 89
 クロガネシダ 口絵 3, 27, 167
 クロガネシダモドキ 17, 51
 クロカワズスゲ 16, 37
 クロカンバ 29, 193
 クロタマガヤツリ 口絵 13, 19, 80
 クロヒナスゲ 23, 129
 クロフネサイシン 31
 クロベ 27, 173
 クロホシクサ 31
 クロボシソウ 28, 182
 クロミノイタチシダ 33
 クロムヨウラン 31
 クロモジ 33
 クロヤツシロラン 31
 クワズイモ 口絵 5, 27, 175
 ゲンバイヒルガオ 口絵 23, 25, 151

ケ

ケアオダモ 218
 ケイワタバコ 218
 ケキンモウワラビ 22, 112
 ケナガバヤブマオ 217
 ケナシエゾミソハギ 29, 195
 ケナシニシキソウ 217
 ケヒエスゲ 16, 38
 ケホシダ 22, 111
 ケミヤマタニタデ 29, 195
 ケミヤマナミキ 218
 ケヤマウツボ 25, 155
 ケンボナシ 24, 140

コ

コアツモリソウ 口絵 8, 18, 65
 コアブラツツジ 29, 201
 コアマモ 216
 コイチヨウラン 口絵 9, 18, 66
 コイヌガラシ 口絵 20, 29, 197

コイヌノハナヒゲ 23, 131
 コイワカンスゲ 23, 128
 コウキクサ 31
 コウグイスカグラ 30, 213
 コウシュウヒゴタイ 30, 211
 コウシュンシバ 33
 コウボウ 24, 132
 コウホネ 27, 174
 コウヤグミ 32
 コウヤミズキ 218
 コウヤワラビ 216
 コウライイヌワラビ 17, 52
 コオロギラン 口絵 11, 28, 180
 コガネシダ 31
 コカラスザンショウ 33
 コギシギシ 32
 コキンバイザサ 23, 125
 コキンボウゲ 28, 189
 コケシノブ 22, 107
 コケホラゴケ 22, 107
 コゴメカラマツ 口絵 15, 20, 84
 コシケシダ 216
 ゴシヨイチゴ 口絵 17, 20, 87
 コシロネ 32
 コシンジュガヤ 31
 コスギダニキジノオ 216
 コセリバオウレン 32
 コタニワタリ 17, 51
 コツゲ 24, 135
 コツブヌマハリイ 218
 コナミキ 30, 207
 コバギボウシ 31
 コバナガンクビソウ 30, 209
 コバナワレモコウ 24, 140
 コバノイラクサ 20, 89
 コバノウシノシッペイ 31
 コバノチョウセンエノキ 口絵 18, 24, 141
 コバンムグラ 20, 94
 コフタバラン 19, 71
 ゴマギ 26, 162
 ゴマクサ 口絵 26, 30, 207
 ゴマシオホシクサ 23, 127
 コミヤマミズ 24, 141
 コメツガ 27, 173
 コモウセンゴケ 32
 コモノギク 21, 101

サ

サイコクイカリソウ 24, 133
 サイコクイボタ 30, 205
 サイコクイワギボウシ 口絵 12, 19, 76
 サイコクキツネヤナギ 24, 144
 サイゴクザサ 217
 サイコクヒメコウホネ 18, 58
 サイゴクホングウシダ 17, 48
 ザイフリボク 24, 138
 サカバイヌワラビ 口絵 3, 22, 110
 サカバサトメシダ 口絵 3, 17, 52
 サガミトリゲモ 18, 60
 サカワサイシン 219
 サギソウ 16, 37
 サキモリイヌワラビ 27, 168
 サクラスミレ 口絵 19, 20, 90
 サクラツツジ 口絵 22, 20, 94
 ササグリヤブマオ 217
 ササノハスゲ 19, 78
 ササバギンラン 18, 64
 ササバラ 19, 70
 ササユリ 22, 118
 サダソウ 口絵 5, 22, 114
 サツマシダ 17, 55

サトメシダ31
 サナギイチゴ20, 88
 サナギスゲ31
 ザリコミ20, 85
 サルメンエビネ18, 63
 サワオグルマ 口絵 29, 26, 161
 サワギキョウ21, 100
 サワヒメスゲ19, 78
 サンカクホングウシダ216
 サンショウモ17, 47
 サンヨウアオイ31
 サンヨウブシ 口絵 14, 24, 134

シ

シイバサトメシダ17, 51
 シオカゼテンツキ28, 185
 シオミイカリソウ 口絵 14, 20, 83
 シコクエビラフジ32
 シコクザサ217
 シコクシモツケソウ24, 139
 シコクシラベ 口絵 5, 18, 57
 シコクシロギク30, 209
 シコクテンナンショウ 口絵 6, 27, 175
 シコクトリアシショウマ29, 190
 シコクノガリヤス19, 81
 シコクバイカオウレン 口絵 15, 28, 188
 シコクハンショウヅル 口絵 15, 24, 134
 シコクヒロハテンナンショウ18, 59
 シコクフクジュソウ219
 シンラン 口絵 23, 25, 152
 シソバウリクサ 口絵 24, 30, 206
 シチトウハナワラビ31
 シチョウゲ219
 シテンクモキリ 口絵 10, 19, 70
 シノノメソウ25, 149
 シバスゲ217
 シバナ 口絵 7, 27, 176
 シバナム 口絵 16, 20, 86
 シマイヌワラビ 口絵 3, 17, 52
 シマイボクサ217
 シマエンジュ24, 138
 シマサクラガンピ25, 145
 シマシロヤマシダ22, 110
 シャク32
 シャクジョウソウ 口絵 22, 25, 148
 ジャニンジン217
 ジャヤナギ217
 シュンジュギク32
 ショウキズイセン16, 37
 ショウキラン19, 75
 ショウドシマベンケイソウ33
 ショウブ27, 175
 ショウベンノキ20, 92
 ジョウロウホトトギス 口絵 8, 22, 118
 シラタマカズラ218
 シラヒゲソウ29, 193
 シラン216
 シロガヤツリ33
 シロシャクジョウ28, 177
 シロテンマ18, 68
 シロバナエンレイソウ31
 シンエダウチホングウシダ17, 48
 ジングウスゲ23, 130
 ジンバイソウ19, 72

ス

スイラン26, 158
 スギラン22, 107

スジヌマハリイ 口絵 13, 19, 80
 スジヒトツバ216
 スズサイコ 口絵 22, 32
 スズシロソウ 口絵 20, 29, 197
 スズムシソウ19, 70
 スズムシバナ 口絵 25, 30, 206
 スズメハコベ32
 スナジマメ 口絵 16, 20, 86
 スナヅル 口絵 5, 18, 58
 スプタ22, 115
 ズミ217

セ

セイトカイワヒメワラビ33
 セイタカスズムシソウ218
 セイタカハリイ23, 131
 セトエゴマ33
 センダイザサ217
 センダイスゲ23, 130
 センダイソウ32
 センニンモ22, 116

ソ

ソナレノギク26, 157
 ソバナ30, 208

タ

ダイサギソウ18, 68
 タイワンスゲ23, 129
 タイワンヤマイ24, 132
 タカクマソウ 口絵 7, 18, 61
 タカサゴソウ16, 42
 タカトウダイ 口絵 19, 20, 91
 タカネバラ24, 139
 タカネマスクサ31
 タカネマツムシソウ 口絵 30, 21, 104
 タキキビ 口絵 14, 20, 82
 タキミシダ22, 108
 タキユリ219
 タケトンボ 口絵 11, 19, 72
 タコノアシ32
 タシロラン 口絵 9, 23, 120
 タチカモメヅル 口絵 23, 30, 204
 タチクラマゴケ33
 タチゲヒカゲミズ29, 193, 218
 タチコウガイゼキショウ33
 タチコゴメグサ25, 155
 タチシオデ 口絵 7, 18, 62
 タチスズシロソウ 口絵 20, 20, 92
 タチデンド22, 113
 タチネコハギ33
 タチハコベ20, 93
 タチバナ25, 145
 タチヒメワラビ17, 54
 タニヘゴ 口絵 4, 22, 112
 タマカラマツ 口絵 15, 28, 189
 タムラソウ26, 161
 タンガザサ217
 タンナトリカブト33

チ

チイサンウシノケグサ31
 チシマカニツリ24, 133
 チシャノキ30, 204

チダケサシ24, 136
チチブホラゴケ17, 47
チトセナンブスズ217
チマキザサ217
チャボイ 口絵 13, 31
チャボイノデ27, 172
チャボシライトソウ28, 177
チャボチヂミザサ217
チャボツメレンゲ29, 190
チョウセンキンミズヒキ29, 191
チョウセンナニワズ 口絵 20, 29, 196

ツ

ツガザクラ 口絵 22, 20, 93
ツキヌキオトギリ16, 44
ツクシアケボノツツジ29, 202
ツクシイヌワラビ27, 168
ツクシイワヘゴ27, 170
ツクシオオクジャク17, 55
ツクシガシワ25, 150
ツクシカンガレイ19, 81
ツクシコゴメグサ25, 155
ツクシタンポポ 口絵 29, 21, 104
ツクシヤマザクラ33
ツクバネ29, 198
ツゲ24, 135
ツゲモチ 口絵 26, 30, 208
ツチグリカンアオイ22, 114
ツツイトモ33
ツノハシバミ24, 142
ツマトリソウ25, 147
ツメレンゲ32
ツリガネツツジ25, 148
ツリシュスラン18, 68
ツルギカンギク26, 158
ツルギキョウ25, 156
ツルギジムシロ24, 139
ツルギテンナンショウ18, 59
ツルギハナウド 口絵 30, 26, 163
ツルキンバイ32
ツルコウゾ33
ツルツゲ30, 208
ツルフジバカマ29, 191
ツルミヤマカンスゲ28, 184
ツレサギソウ19, 73

テ

テイショウソウ26, 157
テツホシダ 口絵 4, 22, 111
テバコマンテマ 口絵 21, 25, 147
テバコワラビ 口絵 3, 27, 167
テリハキンバイ29, 192
デンジソウ 口絵 1, 17, 47

ト

トウキ21, 105
ドウダンツツジ32
トガサワラ 口絵 5, 27, 172
トガリバヤブマオ33
トキシソウ19, 73
トキリマメ29, 190
トキワススキ28, 187
トクガワザサ217
トクサ216
トクシマサイハイラン18, 64
トゲアザミ32

トゲカラクサイヌワラビ17, 52
トケンラン18, 64
トサオトギリ 口絵 18, 20, 90
トサコバイモ 口絵 8, 28, 178
トサシモツケ219
トサトウヒレン26, 160
トサノアオイ31
トサノクロムヨウラン18, 69
トサノコゴメグサ16, 41
トサノチャルメルソウ 口絵 16, 24, 136
トサノハマスゲ 口絵 13, 28, 184
トサノミゾシダモドキ 口絵 4, 27, 169
トサボウフウ30, 214
トサミズキ219
トサムラサキ 口絵 25, 25, 153
トダイアカバナ 口絵 19, 29, 195
トチカガミ33
トモエソウ29, 194
トラノオズカケ32
トリガタハンショウヅル32
トリゲモ22, 116

ナ

ナガエミクリ28, 182
ナガサキシダ27, 171
ナガバキソチドリ218
ナガバノウナギツカミ32
ナガボテンツキ31
ナガホノナツノハナワラビ17, 46
ナカミシシラン27, 165
ナガミノオニシバ31
ナギラン216
ナゴラン19, 74
ナツエビネ28, 178
ナツノタムラソウ21, 98
ナミキソウ16, 41
ナヨテンマ18, 68
ナヨナヨコゴメグサ 口絵 26, 25, 155
ナンカクラン17, 45
ナンゴクウラシマソウ27, 176
ナンゴクホウビシダ22, 109

ニ

ニシノコハチジョウシダ22, 108
ニセコガネギシ 口絵 21, 25, 146
ニセコクモウクジャク27, 168
ニセヒロハノコギリシダ17, 53
ニセヨゴレイタチシダ27, 170
ニッポンイヌノヒゲ28, 182
ニラバラ216
ニリンソウ28, 188

ヌ

ヌカイタチシダマガイ27, 172
ヌカボタデ29, 199
ヌマガヤ19, 82
ヌマゼリ21, 106
ヌマハリイ28, 185

ネ

ネコノチチ 口絵 17, 20, 88
ネコノメソウ24, 136
ネズ27, 173
ネバリノギラン22, 117

ノ

ノアサガオ	25, 151
ノタヌキモ	16, 40
ノテンツキ	口絵 13, 23, 131
ノハナショウブ	19, 75
ノハラテンツキ	口絵 13, 19, 80
ノビネチドリ	19, 71
ノヤナギ	20, 91

ハ

バアソブ	21, 100
ハイイヌガヤ	216
バイカイカリソウ	口絵 14, 31
バイカツツジ	30, 202
ハイキツネノボタン	217
ハイキビ	31
ハガクレカナワラビ	27, 170
ハカマカズラ	20, 85
ハクウンボク	16, 40
ハクウンラン	218
ハクサンハタザオ	29, 197
ハクサンボク	33
ハクロバイ	24, 138
ハコネウツギ	33
ハコネシケチシダ	31
ハコネハナゼキシヨウ	18, 59
ハシナガヤマサギソウ	口絵 11, 19, 73
ハスノハイチゴ	24, 139
ハタケテンツキ	口絵 13, 19, 80
ハチジョウウイノコツチ	33
ハチジョウシダ	口絵 2, 27, 166
ハチジョウシダモドキ	31
ハチジョウベニシダ	27, 170
ハナイカリ	20, 94
ハナガガシ	口絵 18, 24, 142
ハナタツナミソウ	21, 99
ハマアズキ	20, 86
ハマウツボ	口絵 26, 30, 208
ハマクワガタ	口絵 24, 21, 96
ハマサジ	29, 198
ハマゼリ	32
ハマナツメ	20, 88
ハマネナシカズラ	口絵 23, 25, 151
ハマハナヤスリ	17, 46
ハマボウ	口絵 20, 25, 145
ハママツナ	口絵 21, 29, 200
バランギボウシ	217
ハリコウガイゼキシヨウ	23, 127
ハリブキ	218
ハルザキヤツシロラン	216
ハルニレ	33
ハンノキ	24, 142

ヒ

ヒカゲアマクサシダ	17, 50
ヒカゲミズ	29, 193
ヒカゲミゾソバ	217
ヒキノカサ	16, 39
ヒキヨモギ	25, 156
ヒゲシバ	16, 39
ヒゲネワチガイソウ	16, 40
ヒゴスミレ	口絵 19, 24, 143
ヒツジグサ	33
ヒトツバエゾスミレ	20, 90
ヒトツボクロ	28, 180
ヒナザサ	16, 38
ヒナシャジン	25, 156

ヒナスミレ	口絵 19, 29, 194
ヒナセントウソウ	218
ヒナチドリ	19, 74
ヒナノカンザシ	29, 191
ヒナノキンチャク	口絵 16, 29, 191
ヒナノシャクジョウ	216
ヒナラン	22, 119
ヒノキシダ	216
ヒメアザミ	33
ヒメイカリソウ	31
ヒメイチゲ	口絵 15, 32
ヒメイワギボウシ	28, 181
ヒメイワトラノオ	22, 109
ヒメウキクサ	216
ヒメカンアオイ	27, 174
ヒメカンガレイ	23, 131
ヒメキカシグサ	16, 39
ヒメキセワタ	16, 41
ヒメキリンソウ	219
ヒメコウガイゼキシヨウ	217
ヒメコウホネ (広義)	218
ヒメコウホネ	218
ヒメコウモリソウ	口絵 27, 30, 210
ヒメコヌカグサ	31
ヒメサルダヒコ	218
ヒメシオン	16, 41
ヒメシケシダ	33
ヒメジュズスゲ	23, 129
ヒメシロネ	16, 41
ヒメスギラン	27, 165
ヒメタイヌビエ	33
ヒメタデ	20, 92
ヒメトケンラン	19, 74
ヒメトラノオ	口絵 24, 21, 97
ヒメナツトウダイ	33
ヒメナミキ	25, 154
ヒメニラ	口絵 11, 23, 125
ヒメノコギリシダ	口絵 3, 22, 111
ヒメノダケ	26, 163
ヒメノハギ	24, 137
ヒメノボタン	口絵 20, 29, 196
ヒメノヤガラ	23, 121
ヒメハマナデシコ	217
ヒメヒゴタイ	口絵 28, 32
ヒメビシ	20, 91
ヒメフウロ	口絵 19, 29, 195
ヒメフジ	217
ヒメフタバラン	口絵 10, 23, 122
ヒメホタルイ	28, 186
ヒメミクリ	19, 76
ヒメミゾシダ	口絵 4, 22, 111
ヒメムカゴシダ	口絵 2, 17, 49
ヒメユリ	18, 62
ヒモラン	17, 45
ヒュウガシダ	22, 110
ヒュウガセンキュウ	口絵 30, 30, 214
ビロウ	口絵 12, 28, 181
ビロードイチゴ	20, 87
ビロードスゲ	33
ビロードテンツキ	31
ビロードムラサキ	219
ヒロハアツイタ	22, 112
ヒロハカツラ	217
ヒロハコンロンカ	25, 148
ヒロハツリバナ	24, 142
ヒロハテイショウソウ	26, 157
ヒロハヌマゼリ	16, 42
ヒロハノエビモ	口絵 7, 18, 61
ヒロハノオオウシノケグサ	33
ヒロハノコウガイゼキシヨウ	16, 37
ヒロハノコギリシダ	17, 53
ヒロハノミミズバイ	口絵 21, 29, 201
ヒロハハナヤスリ	口絵 1, 31

ヒロハヒメウラボシ16, 36
ヒロハヤマヨモギ21, 101

フ

フウラン31
フガクスズムシソウ23, 122
フキヤミツバ21, 105
ブクリョウサイ16, 42
フジキ24, 137
フシグロセンノウ29, 199
フジセンニンソウ33
フジバカマ26, 158
フタバアオイ216
フッキソウ28, 189
フトボナギナタコウジュ21, 98
フナバラソウ25, 150

ヘ

ヘゴ口絵 1, 17, 48
ヘツカニガキ25, 149
ベニオグラコウホネ口絵 5, 18, 58
ベニカヤラン28, 179
ベニバナヤマシャクヤク20, 84

ホ

ホウキガヤツリ16, 38
ホウヨカモメヅル25, 150
ホウライシダ27, 165
ボウラン19, 71
ホクチアザミ口絵 28, 30, 211
ホクリクタツナミソウ口絵 26, 25, 154
ホクリクムヨウラン口絵 9, 23, 121
ホザキイチヨウラン19, 71
ホザキノミミカキグサ25, 153
ホシザキカンアオイ口絵 5, 27, 174
ホシナシゴウソ23, 130
ホソイ31
ホソバオグルマ26, 159
ホソバシュンラン216
ホソバシロスマレ24, 144
ホソバチクセツニンジン30, 213
ホソバノウナギツカミ29, 198
ホソバノダケ218
ホソバノツルリンドウ25, 149
ホソバノハマアカザ29, 200
ホソバヒメトラノオ21, 96
ホソバヤマブキソウ口絵 14, 20, 82
ホタルカズラ口絵 23, 30, 204
ホタルサイコ16, 42
ホッスモ22, 116
ホテイシダ31
ホナガタツナミソウ218
ホングウシダ17, 48
ホンゴウソウ22, 117
ボンテンカ16, 39

マ

マイサギソウ23, 123
マイヅルテンナンショウ口絵 5, 27, 175
マキエハギ口絵 16, 20, 85
マキヤマザサ217
マシカクイ28, 185
マダイオウ口絵 21, 20, 93
マツカサススキ口絵 14, 24, 132
マツバスゲ28, 183
マツバラソウ216

マツムシソウ口絵 30, 21, 105
マネキグサ口絵 25, 25, 153
ママコナ16, 41
マメダオシ16, 40
マメヅタラン31
マヤラン口絵 8, 23, 119
マルバアキグミ29, 192
マルバオモダカ16, 36
マルバサンキライ31
マルバダケブキ30, 210
マルバチシャノキ21, 95
マルバテイショウソウ口絵 27, 21, 100
マルバナカイタチシダモドキ口絵 4, 17, 56
マルバノイチャクソウ29, 202
マルバノキ口絵 16, 24, 135
マルバノサワトウガラシ32
マルミスブタ18, 60
マルミノヤマゴボウ32

ミ

ミアケザサ217
ミギワトダシバ217
ミクリ28, 181
ミシマサイコ26, 163
ミズアオイ16, 37
ミズオオバコ27, 176
ミズオトギリ24, 143
ミズキカシグサ32
ミズギボウシ19, 76
ミズキンバイ25, 144
ミズタカモジグサ口絵 14, 24, 132
ミズチドリ23, 123
ミズトンボ口絵 9, 23, 121
ミズニラ17, 45
ミズネコノオ口絵 25, 32
ミズマツバ32
ミスミソウ口絵 15, 20, 83
ミズユキノシタ217
ミセンアオスゲ28, 183
ミゾコウジュ口絵 25, 32
ミゾハコベ33
ミツデコトジソウ21, 98
ミツバコンロンソウ29, 197
ミツバベンケイソウ217
ミツモトソウ口絵 17, 20, 87
ミドリヨウラク23, 126
ミドリワラビ17, 53
ミノボロ19, 81
ミミカキグサ32
ミミガタテンナンショウ22, 115
ミヤコアオイ27, 174
ミヤコアザミ口絵 28, 21, 103
ミヤマアキノキリンソウ218
ミヤマイワスゲ28, 184
ミヤマウグイスカグラ26, 162
ミヤマウラボシ22, 114
ミヤマカタバミ24, 143
ミヤマコウモリソウ30, 210
ミヤマシキミ33
ミヤマジュズスゲ28, 183
ミヤマスマレ口絵 19, 29, 194
ミヤマツチトリモチ20, 92
ミヤマトウヒレン30, 211
ミヤマナミキ30, 207
ミヤマナルコユリ23, 126
ミヤマヌカボ28, 186
ミヤマノダケ30, 214
ミヤマヒキオコシ32
ミヤマビャクシン27, 173
ミヤマベニシダ17, 55
ミヤマムギラン22, 119

ミヤマモジズリ23, 122
ミヤマヤブタバコ32
ミヤマヨメナ218
ミョウギシダ17, 57

ム

ムカゴサイシン 口絵 10, 31
ムカゴソウ18, 69
ムカゴツツリ28, 187
ムカゴトンボ23, 123
ムカゴニンジン26, 164
ムカデラン23, 122
ムギガラガヤツリ19, 79
ムサシモ 口絵 7, 18, 60
ムシトリスミレ 口絵 25, 25, 152
ムラサキ 口絵 23, 21, 95
ムラサキセンブリ25, 149
ムラサキベニシダ17, 56
ムラサキミミカキグサ33
ムロトムヨウラン 口絵 9, 18, 69

メ

メアゼテンツキ16, 38
メグスリノキ29, 196
メノマンネングサ24, 137

モ

モイワラン18, 64
モミジウリノキ217
モミジカラマツ20, 84
モミラン18, 67
モリアザミ16, 42

ヤ

ヤクシマアカシユスラン28, 179
ヤクシマウラボシ18, 57
ヤクシマトウバナ21, 97
ヤクシマネッタイル19, 74
ヤクシマヒメアリドオシラン 口絵 10, 28, 180
ヤシャビシヤク29, 190
ヤチマタイカリソウ31
ヤッコソウ 口絵 22, 25, 148
ヤナギアザミ 口絵 27, 21, 102
ヤナギイノコヅチ20, 93
ヤナギスブタ27, 176
ヤナギタンポポ21, 102
ヤナギヌカボ16, 40
ヤナギノギク30, 209
ヤハズハハコ30, 209
ヤハズマンネングサ32
ヤブサンザシ20, 84
ヤブソテツ216
ヤブレガサモドキ 口絵 28, 21, 103
ヤマアザミ218
ヤマウグイスカグラ26, 162
ヤマウコギ30, 213
ヤマウツボ25, 155
ヤマクラマゴケ17, 46
ヤマククルマバナ 口絵 25, 25, 153
ヤマゴボウ217
ヤマコンニャク33
ヤマサギソウ23, 124
ヤマザトタンポポ 口絵 29, 26, 161
ヤマジソ25, 154

ヤマゼリ26, 164
ヤマソテツ216
ヤマタイミンガサ26, 159
ヤマタツナミソウ 口絵 26, 21, 99
ヤマトウミヒルモ 口絵 6, 22, 116
ヤマトキソウ23, 124
ヤマトミクリ 口絵 12, 23, 126
ヤマドリゼンマイ31
ヤマハコベ33
ヤマハンショウヅル 口絵 15, 24, 134
ヤマヒョウタンボク26, 163
ヤマヒヨドリ32
ヤマホオズキ21, 95
ヤマボクチ26, 161
ヤマホロシ 口絵 23, 25, 152
ヤマミゾソバ25, 146
ヤマワキオゴケ218
ヤリハリイ19, 79
ヤワラハチジョウシダ27, 166

ユ

ユウシュンラン18, 64
ユウスゲ 口絵 11, 23, 125
ユキザサ28, 181
ユキモチソウ219
ユキワリソウ32
ユノミネシダ 口絵 2, 17, 49

ヨ

ヨコグラノキ 口絵 17, 32
ヨコグラヒメワラビ27, 169
ヨコグラブドウ16, 39
ヨゴレイタチシダ 口絵 4, 17, 56
ヨツバハギ24, 138

ラ

ラショウモンカズラ30, 206

リ

リュウキュウコケシノブ 口絵 1, 17, 47
リュウノヒゲモ 口絵 7, 27, 177
リュウノヤブマオ217
リュウビンタイ 口絵 1, 31

ル

ルイヨウショウマ28, 188
ルイヨウボタン 口絵 14, 28, 188

ワ

ワカナシダ27, 171
ワタナベソウ24, 137
ワタヨモギ21, 101
ワタリスゲ23, 128
ワンドスゲ 口絵 12, 23, 128

高知県レッドデータブック 2022									
植物編									
②		①							
		③	④	⑤	⑥				
⑧				⑦					
高知県注目種ガイド 2022 植物編									
⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱
高 知 県									

- ①香美市物部町三嶺
- ②ジョウロウホトトギス
- ③インヅチテンナンショウ
- ④イワザクラ
- ⑤クロガネシダ
- ⑥トサチャルメルソウ
- ⑦スナジマメ
- ⑧高知市国分川河口付近
- ⑨サカワサイシン
- ⑩ユキモチソウ
- ⑪タキユリ
- ⑫シコクフクジュソウ
- ⑬オオクサボタン
- ⑭トサミズキ
- ⑮ヒメキリンソウ
- ⑯トサシモツケ
- ⑰シチョウゲ
- ⑱ピロードムラサキ
- ⑲タイキンギク

高知県のレッドリスト・レッドデータブック更新情報はホームページで公開しています
 高知県のレッドリスト・レッドデータブックについて
<https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/030701/2016032500041.html>
 (URLは令和4年3月31日現在)

高知県 レッドデータブック	検索
---------------	----

高知県レッドデータブック 2022 植物編
 令和4(2022)年3月 発行

発 行 高知県林業振興・環境部 自然共生課
 〒780-0850 高知県高知市丸ノ内1丁目7番52号
 TEL(088) 821 - 4842

編 集 高知県レッドデータブック(植物編)改訂委員会

印 刷 弘文印刷株式会社
 〒780-0863 高知県高知市与力町5番16号
 TEL(088) 822 - 0240

高知県注目種ガイド 2022 植物編
 令和4(2022)年3月 発行

発 行 高知県林業振興・環境部 自然共生課
 〒780-0850 高知県高知市丸ノ内1丁目7番52号
 TEL(088) 821 - 4842

編 集 高知県レッドデータブック(植物編)改訂委員会

印 刷 弘文印刷株式会社
 〒780-0863 高知県高知市与力町5番16号
 TEL(088) 822 - 0240

